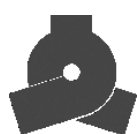


文 京 区

障 害 者 (児) 実 態 ・ 意 向 調 査 報 告 書



令和5年3月

文 京 区



目 次

序章 調査の概要	1
1 調査の目的と方法	3
第1章 在宅の方を対象にした調査	5
1 本人について	7
2 障害と健康について	13
3 相談や福祉の情報について	30
4 福祉サービスについて	45
5 日中活動や外出について	55
6 住まいについて	74
7 権利擁護・差別解消について	78
8 感染症について	90
9 災害対策について	92
10 自由意見	96
第2章 18歳未満の方を対象にした調査	101
1 本人について	103
2 障害と健康について	107
3 相談や福祉の情報について	129
4 福祉サービスについて	141
5 教育・保育について	151
6 外出や住まいについて	169
7 権利擁護・差別解消について	174
8 感染症について	182
9 災害対策について	184
10 自由意見	188
第3章 施設に入所している方を対象にした調査	193
1 本人について	195
2 障害の状況について	198
3 施設入所について	202
4 施設での生活について	206
5 今後の暮らし方について	214
6 相談や福祉の情報について	222
7 権利擁護・差別解消について	226

8	感染症について	234
9	自由意見	235
第4章 サービス事業所の方を対象にした調査		237
1	事業運営について	239
2	職員について	249
3	サービス提供について	258
4	虐待防止について	285
5	災害時の対策について	287
6	感染症対策について	289
7	権利擁護・差別解消について	291
8	自由意見	299
第5章 長期入院施設を対象にした調査		301
1	長期入院施設を対象にした調査	303
第6章 質的調査（インタビュー調査）		309
資料編 調査票		349

序 章

調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査目的

文京区では、障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文(ふみ)の京(みやこ)ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

令和5年度に次期障害者・児計画（令和6年度～令和8年度）を改定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施しました。また、区内の障害福祉サービス事業所等を対象に、事業所の概要や福祉人材の現状を把握するとともに、都内の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

(2) 調査種類と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18歳未満の方、区内障害福祉サービス等事業所及び都内長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

(3) 量的調査（アンケート調査）

①調査設計

調査の種類	対象者	調査方法
在宅の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳以上の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 (肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数) ・愛の手帳をお持ちの方(全数) ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方(全数) ・難病医療券をお持ちの方(全数)	調査票を郵送配付し、郵送及びインターネット回答で回収する方法で実施しました。
18歳未満の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳未満の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 ・愛の手帳をお持ちの方 ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 ・難病医療券をお持ちの方 ・障害児通所支援受給者証をお持ちの方	
施設に入所している方	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方	
サービス事業所の方	・文京区内の指定障害福祉サービス等事業所	
長期入院施設	・東京都内の精神科長期入院施設(医療機関)	

②調査期間

令和4年10月3日から10月31日までの期間に実施しました。

③回収結果

種類	配付数	回収数	有効回答数		有効回答率	
				内インターネット		内インターネット
在宅の方	5,087	2,003	2,000	381	39.3%	7.5%
18歳未満の方	878	351	350	138	39.9%	15.7%
施設に入所している方	143	86	85	5	59.4%	3.5%
サービス事業所	95	73	73	25	76.8%	26.3%
長期入院施設	65	53	53		81.5%	
合計	6,268	2,566	2,561	549	40.9%	

※ インターネットによる有効回答率は、配付数におけるインターネット回答の割合です。

④報告書の見方

- ア. 各設問の回答者の総数はn(Number of case)と表記しています。
- イ. 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合もあります。
- ウ. 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- エ. クロス集計表において、その表頭の設問中、「その他」、「特になし」等、「無回答」を除く最も高い割合に網掛けをしています。また、表側の回答者の総数(n)が10未満の場合、1つの回答による割合の変動が大きいため、原則コメントをしていません。
- オ. 「長期入院施設」の調査については、65か所の病院に対して、調査票を配付し、53か所の病院から回答がありました。分析では、長期入院患者がいない病院を除き、48人の長期入院患者の情報を集計しています。

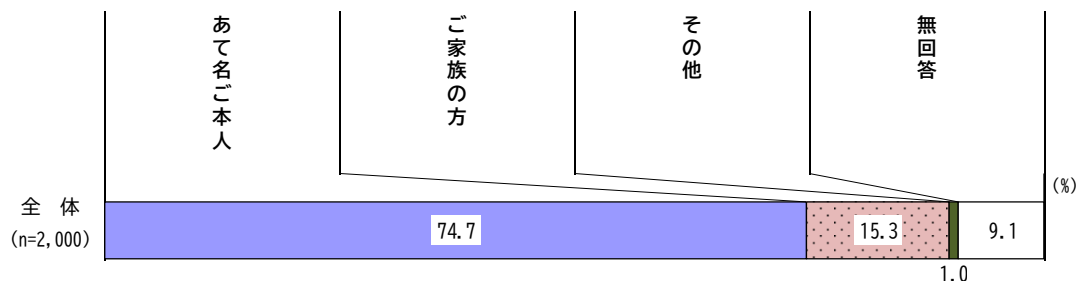
第1章

在宅の方を対象にした調査

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)



調査の回答者は、「あて名ご本人」が74.7%と7割半ばを占めており、「ご家族の方」は15.3%となっています。

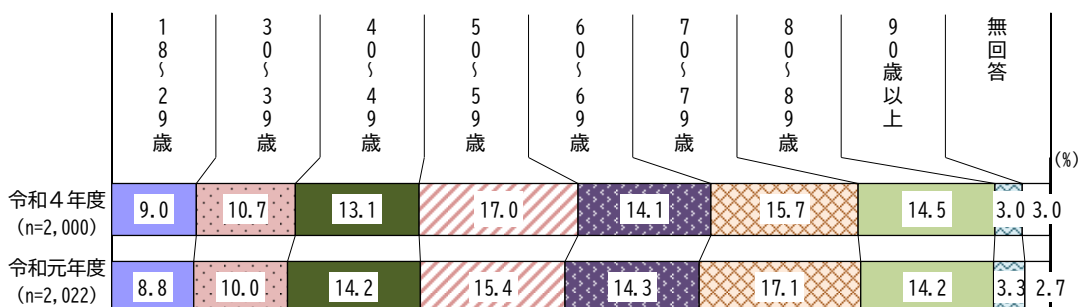
【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	2,000	74.7	15.3	1.0	9.1
肢体不自由	283	66.1	20.1	1.1	12.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	45.5	44.2	0.0	10.4
視覚障害	144	65.3	24.3	2.1	8.3
聴覚・平衡機能障害	146	69.9	19.9	0.7	9.6
内部障害	278	75.9	11.5	0.0	12.6
知的障害	231	32.5	55.0	3.9	8.7
発達障害	187	66.8	25.7	0.5	7.0
精神障害	464	80.2	9.3	0.4	10.1
高次脳機能障害	44	47.7	36.4	2.3	13.6
難病(特定疾病)	632	83.4	8.7	0.8	7.1
その他	35	77.1	17.1	2.9	2.9

障害別にみると、“知的障害”を除くいずれの障害も「あて名ご本人」が最も高くなっています。“知的障害”では「ご家族の方」が55.0%と5割半ばを占め、他の障害よりも高くなっています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の満年齢をお書きください。



障害者本人の年齢は、「50～59歳」が17.0%と最も高く、次いで「70～79歳」が15.7%、「80～89歳」が14.5%、「60～69歳」が14.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、60歳以上の割合が、1.3ポイント低下していますが、全体的な傾向については大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
全体	2,000	9.0	10.7	13.1	17.0	14.1	15.7	14.5	3.0	3.0
肢体不自由	283	2.1	4.9	6.0	12.4	12.7	26.1	26.9	6.7	2.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	9.1	1.3	3.9	14.3	14.3	28.6	23.4	1.3	3.9
視覚障害	144	6.9	6.3	13.2	10.4	16.7	17.4	20.1	6.9	2.1
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	6.2	7.5	2.7	13.7	11.6	36.3	13.7	3.4
内部障害	278	2.5	3.6	6.1	12.6	14.0	22.7	29.5	6.1	2.9
知的障害	231	36.4	21.6	14.7	14.7	4.8	3.0	1.3	0.4	3.0
発達障害	187	38.0	26.7	15.0	9.1	6.4	0.5	0.0	0.0	4.3
精神障害	464	8.2	15.7	20.9	28.7	15.3	5.6	1.9	0.0	3.7
高次脳機能障害	44	4.5	4.5	13.6	22.7	13.6	13.6	15.9	2.3	9.1
難病(特定疾病)	632	4.0	7.6	12.7	21.4	17.9	18.8	13.9	1.6	2.2
その他	35	11.4	14.3	5.7	17.1	8.6	22.9	14.3	2.9	2.9

障害別にみると、“知的障害”と“発達障害”では「18～29歳」の若年層が3割半ばを超えて最も高くなっています。

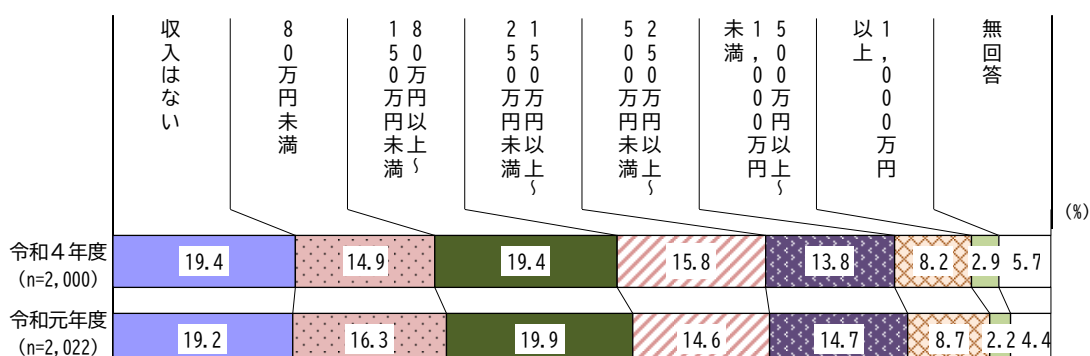
“精神障害”、“高次脳機能障害”、“難病(特定疾病)”では「50～59歳」が2割台で最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”では「70～79歳」が2割台で最も高くなっています。

それ以外の障害では「80～89歳」の年齢で最も高くなっています。

(3) 年収

問3 あなたご本人の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。
(○はひとつ)



障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」と「収入はない」がともに19.4%と最も高く、次いで「150万円以上～250万円未満」が15.8%と1割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、全体的にあまり変化はありません。

【クロス集計】年代別

	n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	19.4	14.9	19.4	15.8	13.8	8.2	2.9	5.7
年代別									
18歳以上40歳未満	393	23.9	18.8	20.4	12.5	12.2	8.7	2.0	1.5
40歳以上65歳未満	752	22.6	14.2	19.1	11.4	13.6	12.1	4.0	2.9
65歳以上75歳未満	297	17.2	12.1	23.2	20.2	14.8	5.4	3.0	4.0
75歳以上	499	14.0	15.6	18.2	24.0	15.0	4.4	2.0	6.6

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」と「40歳以上～65歳未満」では「収入はない」が、「65歳以上～75歳未満」では「80万円以上～150万円未満」が、「75歳以上」では「150万円以上～250万円未満」がそれぞれ2割台で最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	収入は ない	80万円 未満	80万円 以上～ 150万円 未満	150万円 以上～ 250万円 未満	250万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上～ 1,000万 円未満	1,000万 円以上	無回答
全体	2,000	19.4	14.9	19.4	15.8	13.8	8.2	2.9	5.7
障害別									
肢体不自由	283	15.9	11.3	20.8	18.4	14.5	7.8	3.9	7.4
音声・言語・そしゃく機能障害	77	23.4	20.8	20.8	13.0	9.1	1.3	2.6	9.1
視覚障害	144	13.2	16.0	22.9	16.0	17.4	6.9	2.1	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	11.6	13.0	19.2	24.0	16.4	6.2	2.7	6.8
内部障害	278	14.0	11.5	15.8	18.7	18.3	9.7	4.3	7.6
知的障害	231	23.8	22.5	35.5	9.5	0.9	0.9	0.0	6.9
発達障害	187	24.6	15.5	21.9	18.7	12.3	2.1	0.5	4.3
精神障害	464	26.5	20.3	20.3	13.6	9.9	4.3	0.4	4.7
高次脳機能障害	44	20.5	27.3	15.9	11.4	6.8	6.8	2.3	9.1
難病（特定疾病）	632	16.8	12.8	15.8	12.7	18.4	13.6	5.7	4.3
その他	35	25.7	11.4	25.7	11.4	17.1	2.9	0.0	5.7

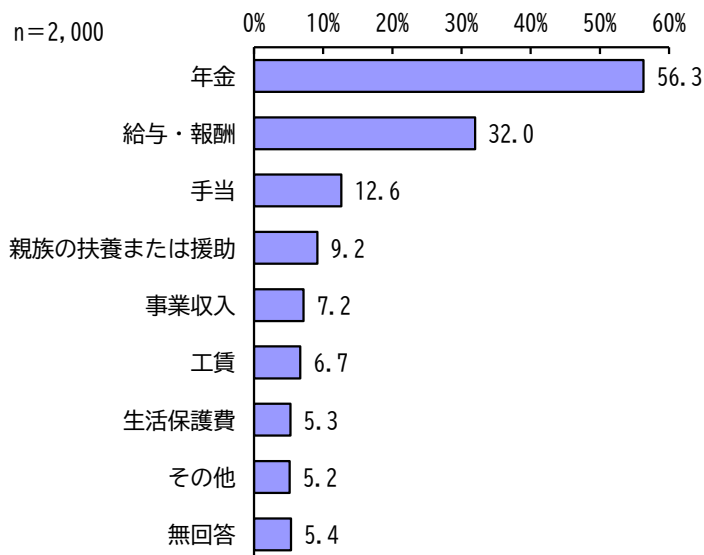
障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“発達障害”、“精神障害”では「収入はない」が2割台で最も高くなっています。

“高次脳機能障害”では「80万円未満」、「肢体不自由」、「視覚障害」、「知的障害」では「80万円以上～150万円未満」が2割を超えて最も高く、特に“知的障害”では3割半ばを占めています。

“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では「150万円以上～250万円未満」が、“難病（特定疾病）”では「250万円以上～500万円未満」が最も高くなっています。

（４）収入内訳

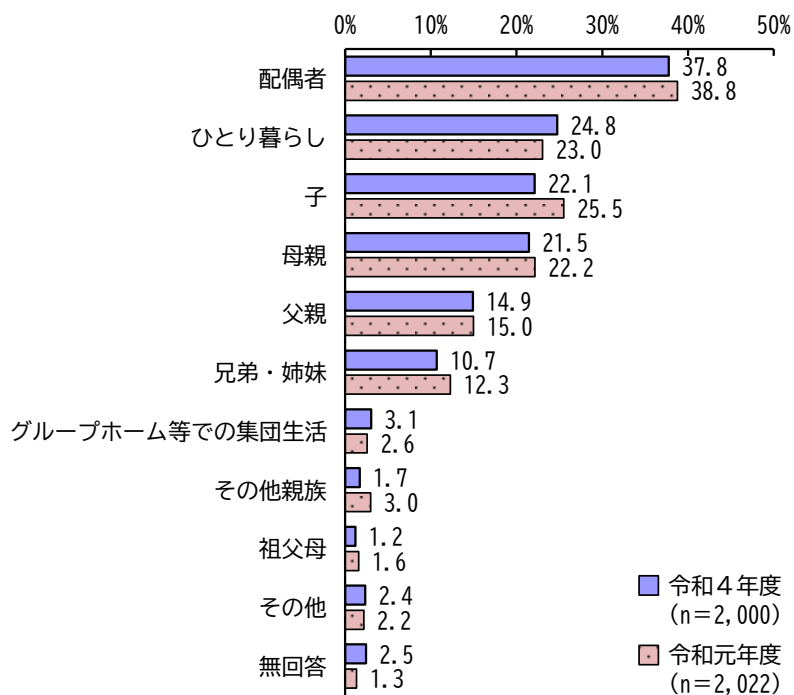
問４ あなたの主な収入の内訳をお聞きします。（あてはまるものすべてに○）



収入の内訳は、「年金」が56.3%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「給与・報酬」が32.0%、「手当」が12.6%と続いています。

(5) 同居家族

問5 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



同居している家族は、「配偶者」が 37.8%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「ひとり暮らし」が 24.8%、「子」が 22.1%、「母親」が 21.5%と2割台が続いています。

令和元年度と比較すると、前回2番目の「子」が 3.4 ポイント下がっており、前回3番目の「ひとり暮らし」と順位が入れ替わっていますが、全体の傾向に大きな変化はありません。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
全体		2,000	14.9	21.5	37.8	22.1	10.7	1.2
年代別	18歳以上40歳未満	393	48.3	59.0	14.5	7.6	30.8	5.1
	40歳以上65歳未満	752	13.6	23.9	37.6	23.4	7.8	0.5
	65歳以上75歳未満	297	0.7	4.0	51.5	19.5	6.4	0.0
	75歳以上	499	0.2	0.2	51.1	34.7	2.2	0.0
障害別	肢体不自由	283	9.9	13.1	42.8	29.0	4.9	1.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	16.9	20.8	40.3	16.9	18.2	1.3
	視覚障害	144	10.4	14.6	41.7	21.5	7.6	1.4
	聴覚・平衡機能障害	146	7.5	10.3	37.7	29.5	4.8	0.0
	内部障害	278	4.3	7.6	50.7	30.2	4.0	0.4
	知的障害	231	56.3	74.5	3.0	1.3	39.4	3.9
	発達障害	187	43.9	55.6	8.0	4.8	28.9	3.7
	精神障害	464	19.2	26.9	23.9	14.0	11.0	1.3
	高次脳機能障害	44	18.2	27.3	43.2	20.5	9.1	2.3
	難病（特定疾病）	632	6.6	11.2	53.0	28.2	6.5	0.3
	その他	35	11.4	14.3	40.0	20.0	2.9	2.9

(単位:%)		n	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
全体		2,000	1.7	24.8	3.1	2.4	2.5
年代別	18歳以上40歳未満	393	1.5	20.1	2.3	2.0	0.8
	40歳以上65歳未満	752	0.8	27.3	4.0	2.4	0.8
	65歳以上75歳未満	297	0.3	32.3	1.7	1.7	0.3
	75歳以上	499	4.2	21.4	3.2	3.2	0.6
障害別	肢体不自由	283	2.5	24.7	3.5	1.4	1.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	15.6	7.8	5.2	2.6
	視覚障害	144	1.4	27.1	3.5	4.2	1.4
	聴覚・平衡機能障害	146	6.2	27.4	2.1	2.1	2.7
	内部障害	278	2.5	24.8	1.1	2.9	2.9
	知的障害	231	1.3	3.0	14.3	1.3	2.2
	発達障害	187	1.1	23.5	3.2	3.2	4.3
	精神障害	464	1.1	33.0	2.8	2.6	3.0
	高次脳機能障害	44	2.3	15.9	0.0	4.5	6.8
	難病（特定疾病）	632	0.6	25.3	0.8	2.4	1.6
	その他	35	2.9	28.6	5.7	2.9	5.7

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では「母親」が59.0%と6割近くで最も高く、「父親」（48.3%）、「兄弟姉妹」（30.8%）といった近親者も、他の年代より高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「配偶者」が最も高くなっています。

また、いずれの年代も「ひとり暮らし」が2割以上を占めています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では74.5%で7割半ばに達し高くなっています。

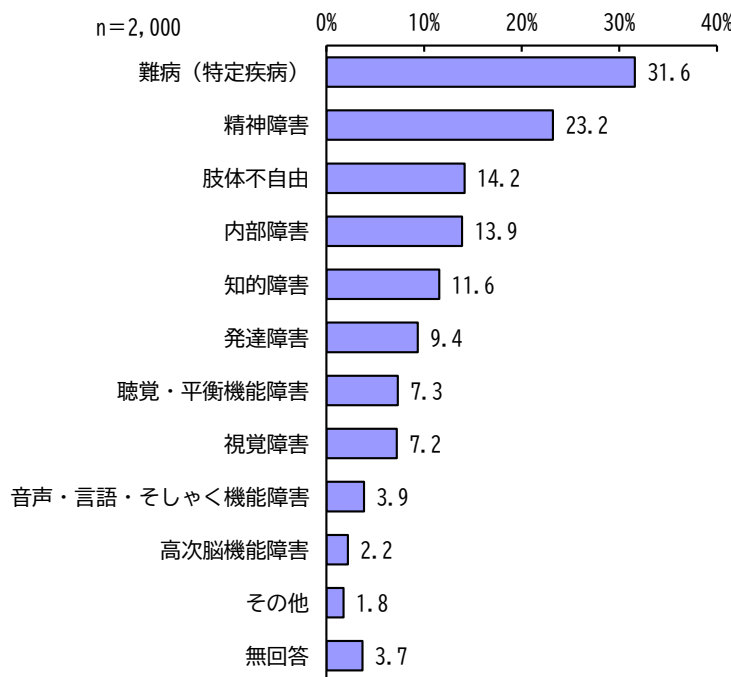
それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

また、“知的障害”は他の障害に比べ「グループホーム等での集団生活」が14.3%と高く、反対に「ひとり暮らし」は3.0%と低くなっています。

2 障害と健康について

(1) 障害の種別

問6 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

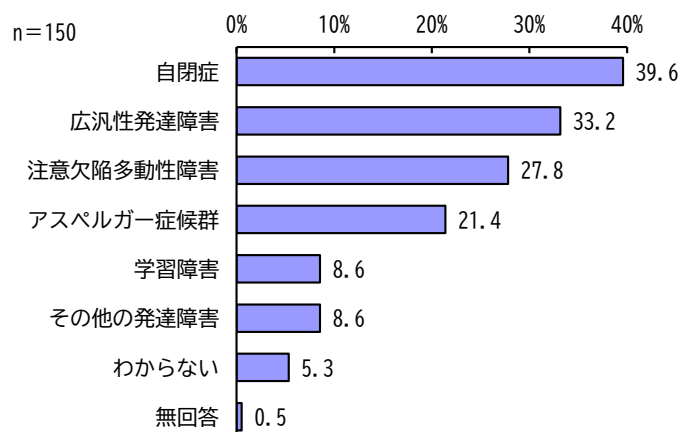


障害の種類は、「難病 (特定疾病)」が 31.6%と3割を超えて最も高く、次いで「精神障害」が 23.2%、「肢体不自由」が 14.2%、「内部障害」が 13.9%、「知的障害」が 11.6%と続いています。

(2) 発達障害診断名

問6で「発達障害 (自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きします。

問6-1 発達障害の診断名をお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)



発達障害の診断名は、「自閉症」が 39.6%と約4割で最も高く、次いで「広汎性発達障害」が 33.2%、「注意欠陥多動性障害」が 27.8%、「アスペルガー症候群」が 21.4%と2割を超えて続いています。

(3) 難病疾病名

問6で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

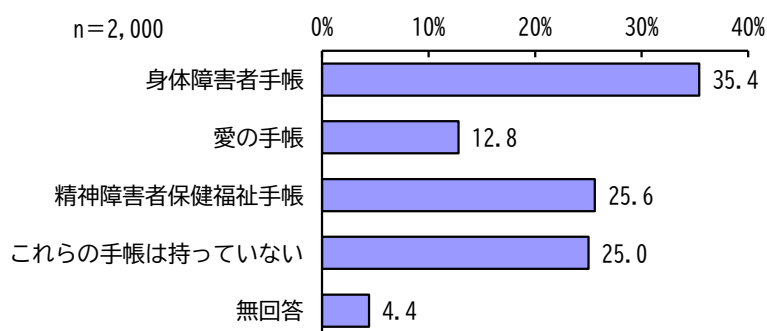
問6-2 病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は、「潰瘍性大腸炎」が73件と最も多く、次いで「パーキンソン病」が63件、「全身性エリテマトーデス」が48件と続いています。その他の件数は下表の通りです。

疾病名	件数	疾病名	件数
潰瘍性大腸炎	73	巨細胞性動脈炎	6
パーキンソン病	63	多系統委縮症	6
全身性エリテマトーデス	48	下垂体性ADH分泌異常症、下垂体性PRL分泌亢進症、下垂体前葉機能低下症	5
クローン病	33	肺高血圧症	5
網膜色素変性症	19	てんかん	5
シェーグレン症候群	17	家族性高コレステロール血症	5
原発性胆汁性胆管炎	17	特発性間質性肺炎	4
重症筋無力症	17	成人スチル病	4
多発性硬化症、視神経脊髄炎	16	もやもや病	4
強皮症	16	進行性核上性麻痺	3
多発性嚢胞腎	16	先天性血液凝固因子欠乏症	3
皮膚筋炎、多発性筋炎	15	強直性脊椎炎	3
後縦靭帯骨化症	14	慢性肺血栓栓性肺高血圧症	3
好酸球性副鼻腔炎	14	IgG4関連疾患	2
IgA腎症、慢性腎不全	12	脊髄小脳変性症	2
ベーチェット病	12	肥大型心筋症	2
特発性大腿骨頭壊死症	12	原発性硬化性胆管炎	2
混合性結合組織病	10	筋萎縮性側索硬化症	2
下垂体前葉機能低下症	10	原発性免疫不全症候群	2
サルコイドーシス	9	黄色靭帯骨化症	2
一次性ネフローゼ症候群	9	クッシング病	2
再生不良性貧血	8	結節性硬化症	2
自己免疫性肝炎	8	高安動脈炎	2
特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病	8	全身性アミロイドーシス	2
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	脊髄空洞症	2
特発性拡張型心筋症	7	シャルコー・マリー・トゥース病	2
悪性関節リウマチ	6	先天性ミオパチー	2
顕微鏡的多発血管炎	6	原発性抗リン脂質抗体症候群	2
		その他（1件のみの難病疾病）	19

(4) 手帳の種類

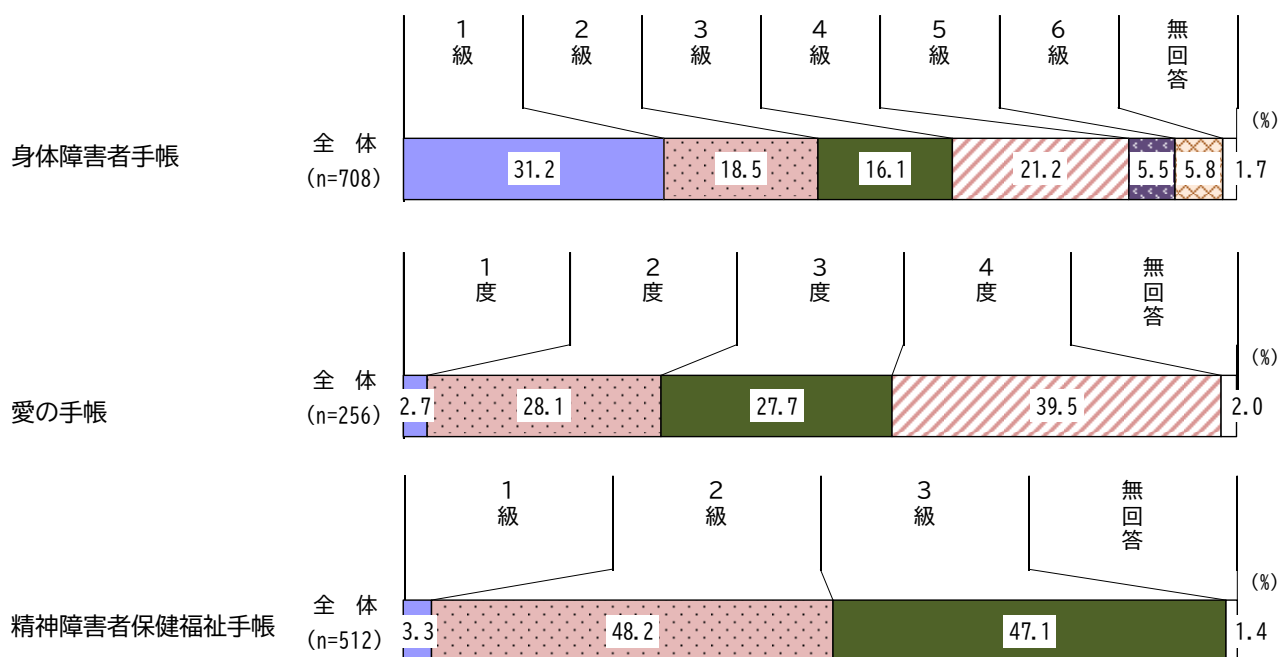
問7 あなたが持っている手帳の種類をお聞きます。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が 35.4%と3割半ばで最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が 25.6%、「愛の手帳」が 12.8%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は 25.0%と全体の4分の1を占めています。

【各等級別】



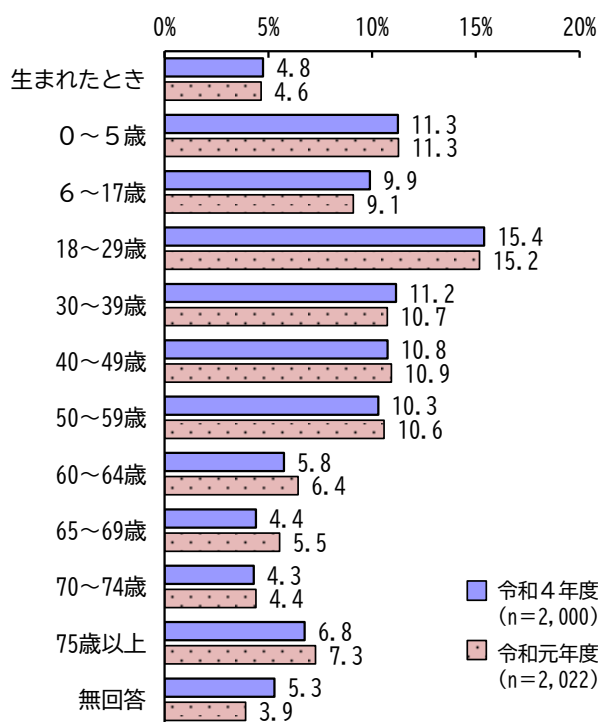
身体障害者手帳の等級は、「1級」が 31.2%と最も高く、次いで「4級」が 21.2%、「2級」が 18.5%と続いています。

愛の手帳の等級は、「4度」が 39.5%と最も高く、次いで「2度」が 28.1%、「3度」が 27.7%と続いています。

精神障害者保健福祉手帳は、「2級」が 48.2%と最も高く、次いで「3級」が 47.1%、「1級」が 3.3%と続いています。

(5) 障害に最初に気づいた時期

問8 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。(○はひとつ)



本人や家族が障害に気づいた時期は、「18～29歳」が15.4%と最も高く、次いで「0～5歳」が11.3%、「30～39歳」が11.2%、「40～49歳」が10.8%、「50～59歳」が10.3%と1割台が続いています。

令和元年度と比較すると、全体的な傾向はあまり変化がありませんが、39歳以下の若年層の割合がやや上がっており、障害や心身の不調に気づく時期が早くなっている傾向にあります。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	生まれたとき	0～5歳	6～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳
全体	2,000	4.8	11.3	9.9	15.4	11.2	10.8
障害別							
肢体不自由	283	5.7	11.7	4.9	5.3	5.3	14.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	15.6	0.0	2.6	0.0	6.5
視覚障害	144	9.7	12.5	9.7	11.8	7.6	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	4.1	17.1	11.6	8.2	6.2	6.2
内部障害	278	3.2	4.7	4.0	4.7	11.2	11.5
知的障害	231	23.4	52.8	12.6	3.9	0.9	0.9
発達障害	187	3.7	42.8	19.8	16.0	7.0	7.5
精神障害	464	0.9	4.3	16.2	36.0	17.0	12.3
高次脳機能障害	44	0.0	4.5	6.8	9.1	6.8	18.2
難病（特定疾病）	632	1.1	2.5	7.1	13.0	15.7	15.3
その他	35	8.6	8.6	14.3	2.9	5.7	8.6

(単位:%)	n	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体	2,000	10.3	5.8	4.4	4.3	6.8	5.3
障害別							
肢体不自由	283	14.1	8.1	8.1	7.4	10.2	4.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	7.8	13.0	9.1	16.9	3.9
視覚障害	144	11.8	6.9	1.4	2.1	10.4	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	9.6	4.1	4.1	4.8	20.5	3.4
内部障害	278	16.5	9.4	9.7	7.6	14.4	3.2
知的障害	231	1.7	0.0	0.4	0.4	0.4	2.6
発達障害	187	1.1	0.5	0.5	0.0	0.0	1.1
精神障害	464	6.9	2.8	1.1	0.6	1.1	0.9
高次脳機能障害	44	22.7	2.3	6.8	11.4	11.4	0.0
難病（特定疾病）	632	14.1	8.1	5.9	6.2	6.5	4.6
その他	35	20.0	8.6	8.6	2.9	8.6	2.9

障害別にみると、“視覚障害”、“知的障害”、“発達障害”、では「0～5歳」の幼年期が最も高くなっており、“知的障害”では「生まれたとき」も23.4%と2割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

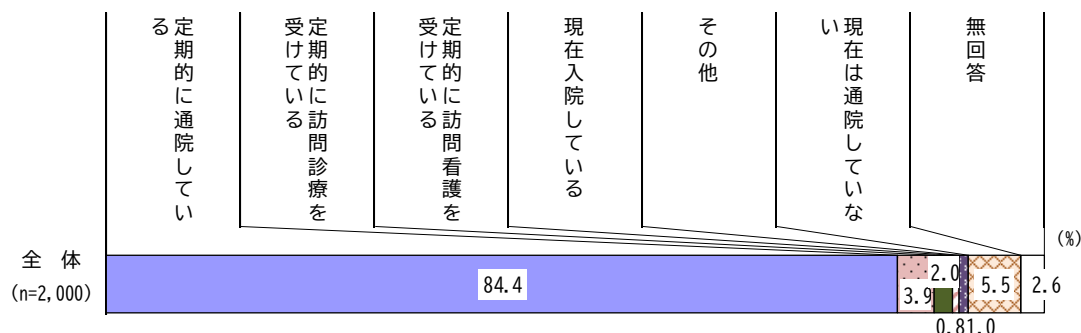
“精神障害”では「18～29歳」の青年期で3割半ばを超えて最も高くなっています。

“難病（特定疾病）”では「30～39歳」と「40～49歳」の壮年期で高くなっています。

それ以外の障害では40歳以降の割合が高く、特に「50～59歳」が高い傾向になっています。

(6) 受診状況

問9 あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きます。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が 84.4%と 8割半ば近くを占めて最も高くなっています。

一方、「現在は通院していない」が 5.5%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	定期的に通院している	定期的に訪問診療を受けている	定期的に訪問看護を受けている	現在入院している	その他	現在は通院していない	無回答
全体	2,000	84.4	3.9	2.0	0.8	1.0	5.5	2.6
障害別								
肢体不自由	283	72.4	10.2	5.3	1.1	1.1	8.8	1.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	59.7	26.0	6.5	2.6	2.6	1.3	1.3
視覚障害	144	76.4	4.2	2.8	0.7	0.7	13.2	2.1
聴覚・平衡機能障害	146	63.7	9.6	2.7	0.7	3.4	16.4	3.4
内部障害	278	89.6	4.0	2.2	0.4	0.0	2.9	1.1
知的障害	231	78.8	4.8	0.9	0.0	0.9	13.4	1.3
発達障害	187	90.4	1.1	0.5	0.0	1.1	5.3	1.6
精神障害	464	92.7	1.9	2.6	1.5	0.6	0.6	0.0
高次脳機能障害	44	72.7	13.6	6.8	4.5	0.0	2.3	0.0
難病（特定疾病）	632	90.5	2.8	2.2	0.6	0.6	1.7	1.4
その他	35	74.3	11.4	0.0	0.0	5.7	8.6	0.0

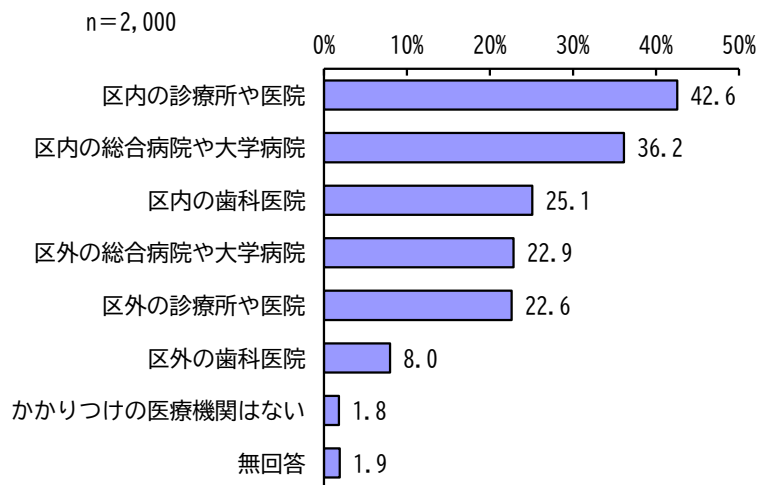
障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が5割を超えて最も高くなっています。

「定期的に訪問診療を受けている」は“音声・言語・そしゃく機能障害”で 26.0%と 2割半ばを超えて、他の障害よりも高くなっています。

「現在は通院していない」は“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”で 1割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(7) かかりつけ医療機関の有無

問 10 かかりつけの医療機関をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)

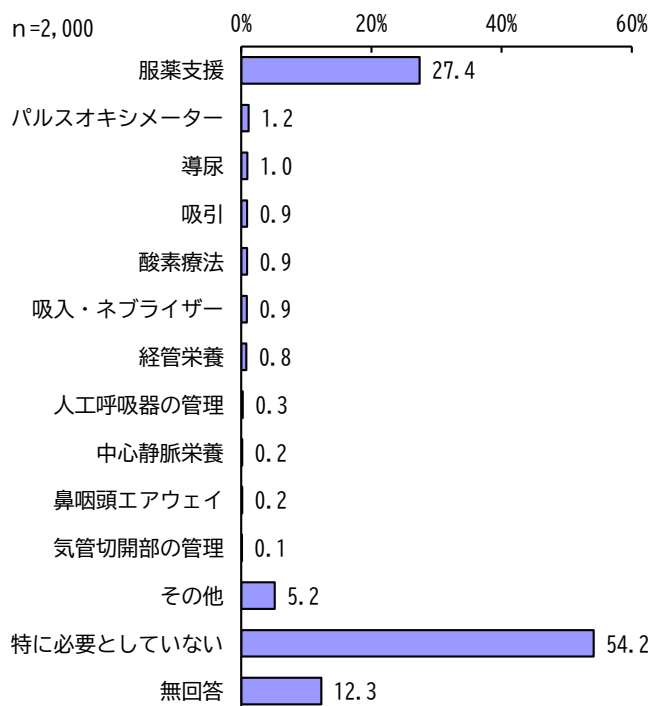


かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が 42.6%と 4 割を超えて最も高く、次いで「区内の総合病院や大学病院」が 36.2%、「区内の歯科医院」が 25.1%と続いています。

一方、「かかりつけの医療機関はない」は 1.8%となっています。

(8) 必要な医療的ケア

問11 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が27.4%と2割半ばを超えて最も高く、「パルスオキシメーター」が1.2%、「導尿」が1.0%と続いており、それ以外の項目はいずれも1%を下回っています。一方、「特に必要としていない」は54.2%と5割半ば近くを占めています。

【クロス集計】年代別

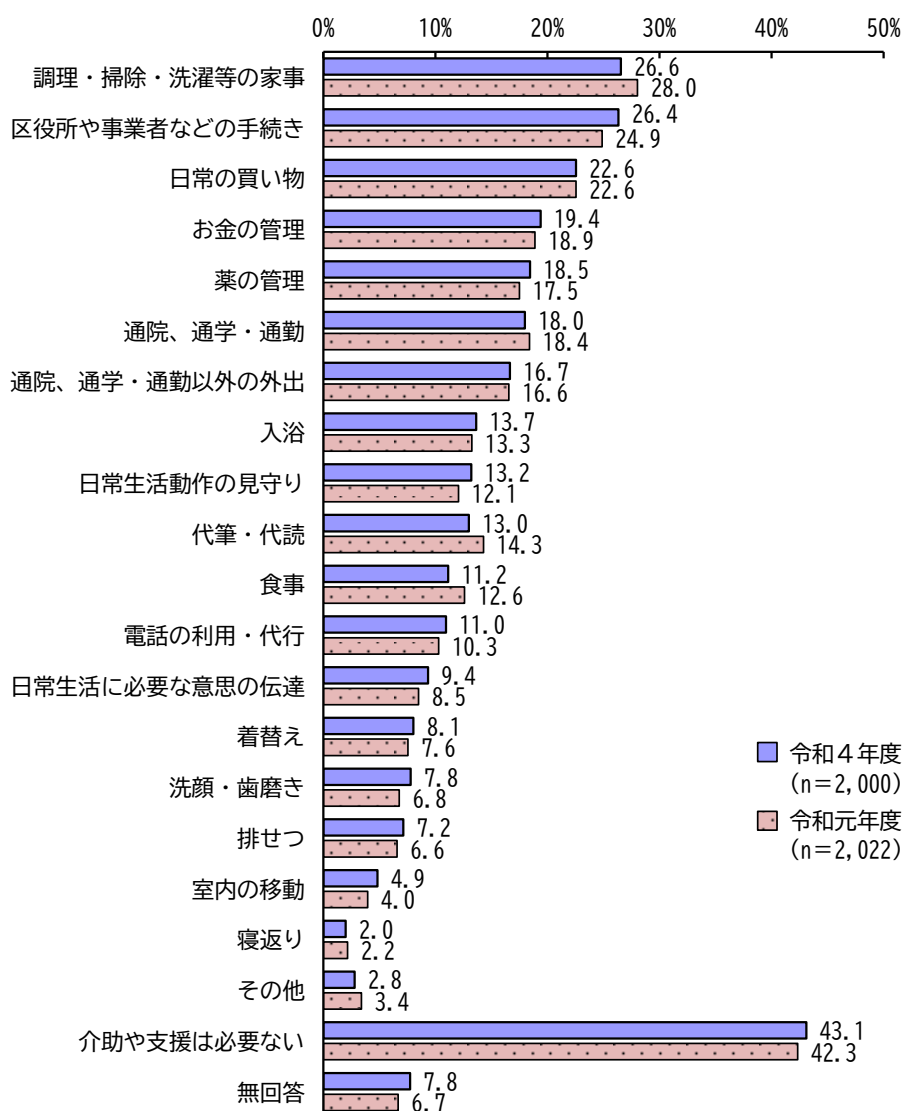
	n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
(単位:%)								
全体	2,000	27.4	0.9	0.9	0.8	0.2	1.0	0.9
年代別								
18歳以上40歳未満	393	32.6	0.3	0.8	1.0	0.0	0.3	0.5
40歳以上65歳未満	752	29.3	0.7	0.9	0.3	0.0	0.7	0.4
65歳以上75歳未満	297	23.2	0.7	0.7	1.0	0.0	0.7	2.0
75歳以上	499	23.4	2.0	0.8	1.4	0.6	2.0	1.4

	n	鼻咽頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としていない	無回答
(単位:%)								
全体	2,000	0.2	1.2	0.1	0.3	5.2	54.2	12.3
年代別								
18歳以上40歳未満	393	0.0	0.3	0.3	0.0	2.5	57.8	8.1
40歳以上65歳未満	752	0.0	0.8	0.0	0.1	5.1	57.4	8.4
65歳以上75歳未満	297	0.0	1.3	0.3	0.0	5.7	56.6	13.8
75歳以上	499	0.6	2.4	0.0	0.6	6.8	45.9	19.4

年代別にみると、いずれの年代も“特に必要としていない”を除くと“服薬支援”が高くなっています。

(9) 日常生活に必要な介助や支援

問12 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
(あてはまるものすべてに○)



日常生活に必要な介助や支援は、「調理・掃除・洗濯等の家事」が26.6%と最も高く、次いで「区役所や事業者などの手続き」が26.4%、「日常の買い物」が22.6%と2割台が続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は43.1%と4割を超えています。

令和元年度と比較すると、項目によって割合が上下しているものの、全体的な傾向については、大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動
全体	2,000	11.2	7.2	13.7	2.0	8.1	26.6	4.9
障害別								
肢体不自由	283	21.6	21.2	32.5	7.8	20.8	44.2	14.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	31.2	36.4	46.8	15.6	33.8	45.5	26.0
視覚障害	144	13.9	9.0	14.6	3.5	11.8	25.7	7.6
聴覚・平衡機能障害	146	11.0	8.2	17.8	2.7	8.9	27.4	8.9
内部障害	278	11.2	7.9	15.1	2.2	7.9	25.2	6.8
知的障害	231	28.1	21.6	31.2	2.6	20.8	60.2	6.1
発達障害	187	12.8	7.0	15.5	0.5	6.4	40.6	1.6
精神障害	464	9.9	3.7	8.4	0.4	3.7	29.1	1.7
高次脳機能障害	44	25.0	18.2	34.1	4.5	20.5	54.5	15.9
難病（特定疾病）	632	7.8	6.2	11.1	2.8	6.6	16.9	6.3
その他	35	17.1	11.4	20.0	2.9	11.4	31.4	14.3

(単位:%)	n	洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出
全体	2,000	7.8	13.0	11.0	19.4	22.6	18.0	16.7
障害別								
肢体不自由	283	13.8	18.0	14.5	22.3	38.9	30.4	29.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	33.8	41.6	45.5	42.9	44.2	40.3	37.7
視覚障害	144	7.6	42.4	13.9	22.2	38.2	29.2	29.9
聴覚・平衡機能障害	146	6.8	14.4	32.2	17.1	25.3	18.5	11.6
内部障害	278	4.0	8.6	5.8	11.2	22.3	15.1	10.8
知的障害	231	31.2	43.3	38.1	71.0	51.9	48.1	51.1
発達障害	187	14.4	19.3	18.2	44.4	29.4	22.5	28.9
精神障害	464	6.5	5.4	5.4	19.0	19.2	14.4	14.4
高次脳機能障害	44	18.2	31.8	27.3	45.5	43.2	34.1	38.6
難病（特定疾病）	632	4.9	7.8	4.6	8.9	16.3	13.1	10.4
その他	35	11.4	20.0	11.4	25.7	31.4	25.7	20.0

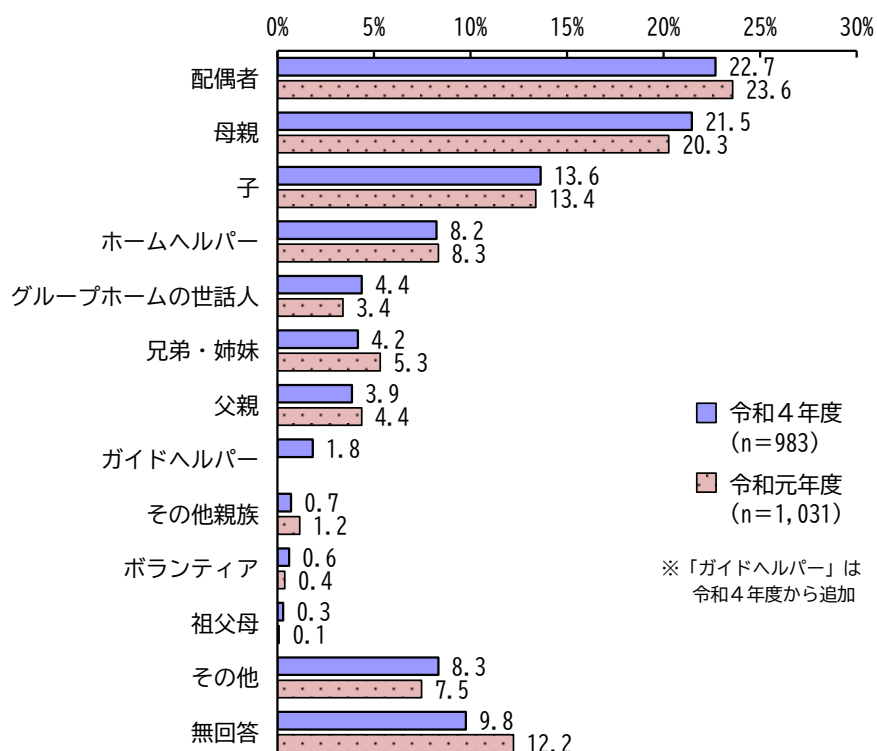
(単位:%)	n	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体	2,000	9.4	13.2	18.5	26.4	2.8	43.1	7.8
障害別								
肢体不自由	283	9.9	18.7	25.1	36.0	1.4	25.1	8.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	31.2	40.3	39.0	54.5	1.3	13.0	5.2
視覚障害	144	7.6	13.2	17.4	41.7	4.9	25.7	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	14.4	18.5	33.6	4.1	28.8	8.9
内部障害	278	4.3	12.9	14.4	20.1	2.9	47.5	9.0
知的障害	231	39.8	42.0	56.3	74.9	1.7	10.8	5.2
発達障害	187	23.5	27.3	28.9	46.5	4.3	28.9	4.3
精神障害	464	8.0	10.6	19.4	22.8	5.0	37.1	6.9
高次脳機能障害	44	27.3	36.4	34.1	61.4	2.3	13.6	2.3
難病（特定疾病）	632	2.8	8.5	11.1	15.3	1.7	62.3	7.6
その他	35	25.7	22.9	25.7	34.3	8.6	28.6	5.7

障害別では、“介助や支援は必要ない”を除くと、“肢体不自由”、“内部障害”、“精神障害”、“難病（特定疾病）”では「調理・掃除・洗濯等の家事」、「視覚障害」では「代読・代筆」が最も高く、それ以外の障害ではいずれも「区役所や事業者などの手続き」が最も高くなっています。

(10) 主な介助者・支援者

問12で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問13 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者は、「配偶者」が22.7%と2割を超えて最も高く、次いで「母親」が21.5%、「子」が13.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、全体的に差はなく、大きな変化は見られません。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母	その他親族
(単位:%)								
全体	983	3.9	21.5	22.7	13.6	4.2	0.3	0.7
年代別								
18歳以上40歳未満	215	10.7	63.3	6.0	0.0	1.4	1.4	0.0
40歳以上65歳未満	307	4.6	22.8	19.2	3.9	7.2	0.0	0.3
65歳以上75歳未満	126	0.0	0.0	37.3	9.5	5.6	0.0	0.0
75歳以上	304	0.0	0.0	32.6	34.9	2.3	0.0	1.3
障害別								
肢体不自由	188	2.7	10.1	26.6	21.8	3.7	0.0	1.6
音声・言語・そしゃく機能障害	63	3.2	15.9	33.3	14.3	3.2	0.0	0.0
視覚障害	92	2.2	9.8	31.5	15.2	1.1	0.0	1.1
聴覚・平衡機能障害	91	0.0	5.5	23.1	33.0	3.3	0.0	1.1
内部障害	121	1.7	5.8	33.1	28.9	2.5	0.0	0.0
知的障害	194	9.3	60.3	1.0	0.5	4.6	0.5	0.5
発達障害	125	9.6	53.6	4.0	1.6	4.0	0.8	0.0
精神障害	260	5.8	22.7	21.5	3.8	4.2	0.4	0.8
高次脳機能障害	37	5.4	27.0	35.1	8.1	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	190	1.1	6.8	35.3	23.2	3.7	0.0	0.5
その他	23	0.0	13.0	21.7	4.3	13.0	0.0	0.0

	n	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答
(単位:%)							
全体	983	8.2	1.8	0.6	4.4	8.3	9.8
年代別							
18歳以上40歳未満	215	0.5	1.9	0.9	3.3	6.5	4.2
40歳以上65歳未満	307	7.5	2.3	1.0	7.8	10.7	12.7
65歳以上75歳未満	126	16.7	0.8	0.0	2.4	11.1	16.7
75歳以上	304	10.9	2.0	0.3	2.6	5.9	7.2
障害別							
肢体不自由	188	17.6	1.1	0.0	2.7	5.9	6.4
音声・言語・そしゃく機能障害	63	11.1	0.0	1.6	4.8	4.8	7.9
視覚障害	92	5.4	12.0	1.1	1.1	6.5	13.0
聴覚・平衡機能障害	91	7.7	0.0	2.2	0.0	13.2	11.0
内部障害	121	9.9	0.8	0.8	1.7	7.4	7.4
知的障害	194	0.5	1.0	0.0	14.4	2.6	4.6
発達障害	125	5.6	0.8	1.6	4.0	8.8	5.6
精神障害	260	7.7	0.4	0.4	4.2	13.5	14.6
高次脳機能障害	37	5.4	2.7	0.0	0.0	10.8	5.4
難病（特定疾病）	190	11.1	0.0	0.0	1.1	8.4	8.9
その他	23	13.0	4.3	0.0	4.3	21.7	4.3

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40～65歳未満”では「母親」が最も高く、特に“18歳以上～40歳未満”では63.3%と6割を超えています。

“65歳以上～75歳未満”では「配偶者」が37.3%と最も高くなっています。

“75歳以上”では「配偶者」と「子」が3割を超えて高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では6割、“発達障害”では5割を超えています。

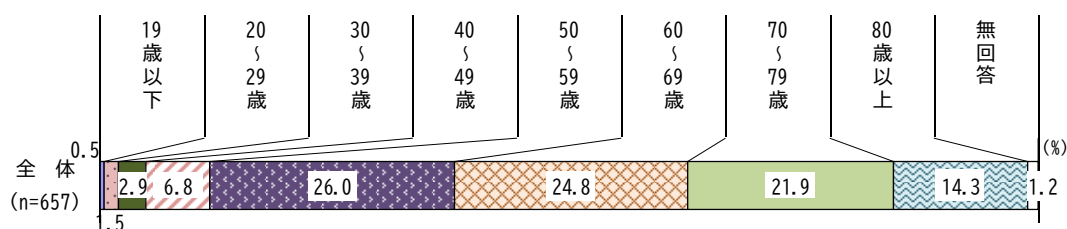
“聴覚・平衡機能障害”では「子」が33.0%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

(11) 主な介助者・支援者の年代

問 13 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 13-1 あなたを主に介助・支援している人は何歳ですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者の年代は、「50～59歳」が26.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が24.8%、「70～79歳」が21.9%と2割を超えて続いています。また、60歳以上の占める割合は61%となっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

(単位:%)	n	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	無回答	
全体	657	0.5	1.5	2.9	6.8	26.0	24.8	21.9	14.3	1.2	
介助者別	父親	38	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	34.2	28.9	23.7	2.6
	母親	211	0.0	0.5	0.9	2.4	32.2	29.4	20.9	13.3	0.5
	配偶者	223	0.0	1.8	5.4	9.0	12.6	15.7	33.2	21.5	0.9
	子	134	2.2	3.7	3.7	13.4	41.8	27.6	3.0	2.2	2.2
	兄弟・姉妹	41	0.0	0.0	0.0	2.4	29.3	31.7	22.0	12.2	2.4
	祖父母	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	その他親族	7	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	125	0.0	0.0	3.2	5.6	29.6	23.2	21.6	16.0	0.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	44	0.0	0.0	2.3	6.8	34.1	13.6	29.5	11.4	2.3
	視覚障害	56	1.8	1.8	1.8	3.6	14.3	21.4	30.4	21.4	3.6
	聴覚・平衡機能障害	60	1.7	1.7	0.0	13.3	25.0	23.3	18.3	16.7	0.0
	内部障害	87	1.1	1.1	1.1	10.3	21.8	20.7	26.4	16.1	1.1
	知的障害	149	0.0	0.7	0.7	2.7	38.3	34.9	12.1	9.4	1.3
	発達障害	92	0.0	2.2	1.1	4.3	45.7	29.3	7.6	9.8	0.0
	精神障害	154	0.0	3.2	5.8	9.1	22.7	23.4	21.4	14.3	0.0
	高次脳機能障害	28	0.0	0.0	3.6	7.1	21.4	17.9	25.0	25.0	0.0
	難病(特定疾病)	134	0.7	1.5	5.2	8.2	20.9	14.2	28.4	18.7	2.2
その他	12	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	41.7	25.0	8.3	0.0	

介助者別にみると、いずれの介助者も50歳以上の年代が最も高く、「母親」と「子」では「50～59歳」、「父親」と「兄弟・姉妹」では「60～69歳」、「配偶者」では「70～79歳」が3割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「知的障害」、「発達障害」では「50～59歳」、「精神障害」では「60～69歳」が最も高くなっています。

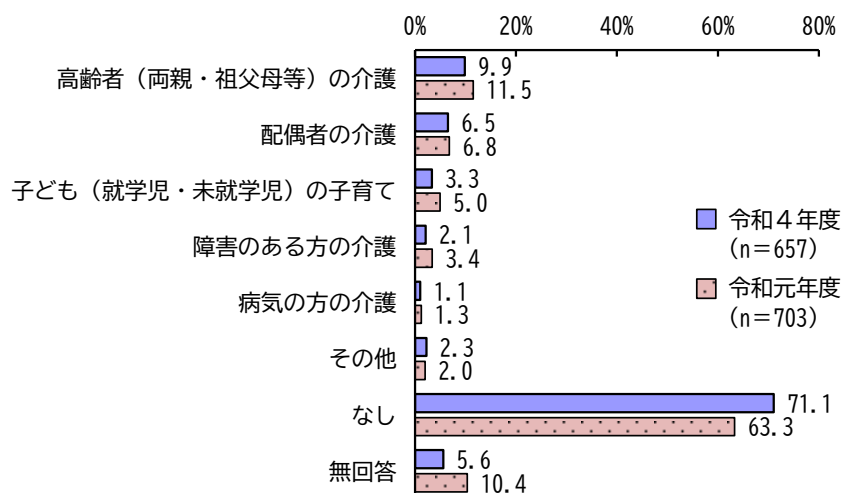
それ以外の障害では「70～79歳」の高齢者層で最も高く、「高次脳機能障害」では70歳以上で5割を占めています。

(12) 主な介助者による介護状況

問 13 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 14 主な介助者は、あなた以外の方の世話や介護をされていますか。

(あてはまるものすべてに○)



主な介助者のその他の介護状況は、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が9.9%と1割で最も高く、次いで「配偶者の介護」が6.5%、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が3.3%と続いています。一方、「なし」が71.1%と7割を超えています。

令和元年度と比較すると、介護状況に大きな差はありませんが、全体的な割合がやや下がっており、反対に「なし」は令和元年度を7.8ポイント上回っています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

	n	高齢者(両親・祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児・未就学児)の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	なし	無回答	
(単位:%)										
全体	657	9.9	6.5	3.3	1.1	2.1	2.3	71.1	5.6	
介助者別	父親	38	7.9	23.7	2.6	5.3	10.5	2.6	57.9	5.3
	母親	211	17.1	4.3	1.9	0.5	1.4	2.8	67.8	4.7
	配偶者	223	3.6	4.9	4.5	0.0	0.0	1.8	79.8	5.4
	子	134	6.7	9.0	4.5	1.5	3.7	1.5	67.9	7.5
	兄弟・姉妹	41	19.5	4.9	0.0	2.4	2.4	4.9	63.4	4.9
	祖父母	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他親族	7	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1	14.3
	その他	12	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	16.7	58.3	0.0
障害別	肢体不自由	125	8.8	4.8	1.6	0.8	2.4	0.0	78.4	5.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	44	9.1	9.1	4.5	2.3	2.3	0.0	75.0	2.3
	視覚障害	56	8.9	8.9	5.4	1.8	1.8	3.6	60.7	12.5
	聴覚・平衡機能障害	60	11.7	13.3	6.7	3.3	1.7	1.7	60.0	5.0
	内部障害	87	3.4	6.9	3.4	0.0	4.6	1.1	75.9	8.0
	知的障害	149	14.8	6.0	2.7	1.3	2.0	2.7	64.4	6.7
	発達障害	92	21.7	7.6	3.3	3.3	3.3	4.3	60.9	2.2
	精神障害	154	10.4	5.2	3.9	0.6	1.9	2.6	71.4	5.2
	高次脳機能障害	28	7.1	14.3	3.6	0.0	3.6	0.0	64.3	10.7
	難病(特定疾病)	134	8.2	4.5	4.5	2.2	2.2	2.2	76.1	2.2
	その他	12	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3	16.7	58.3	0.0

介助者別にみると、いずれの介助者も「なし」が5割以上で最も高くなっています。

「なし」以外をみると、介助者が“母親”と“兄弟・姉妹”では「高齢者(両親・祖父母等)の介護」が1割台で最も高くなっています。

“父親”、“配偶者”、“子”では「配偶者の介護」が最も高く、特に“父親”は23.7%と2割を超えて、他の介助者よりも高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害も「なし」が5割半ば以上で最も高くなっています。

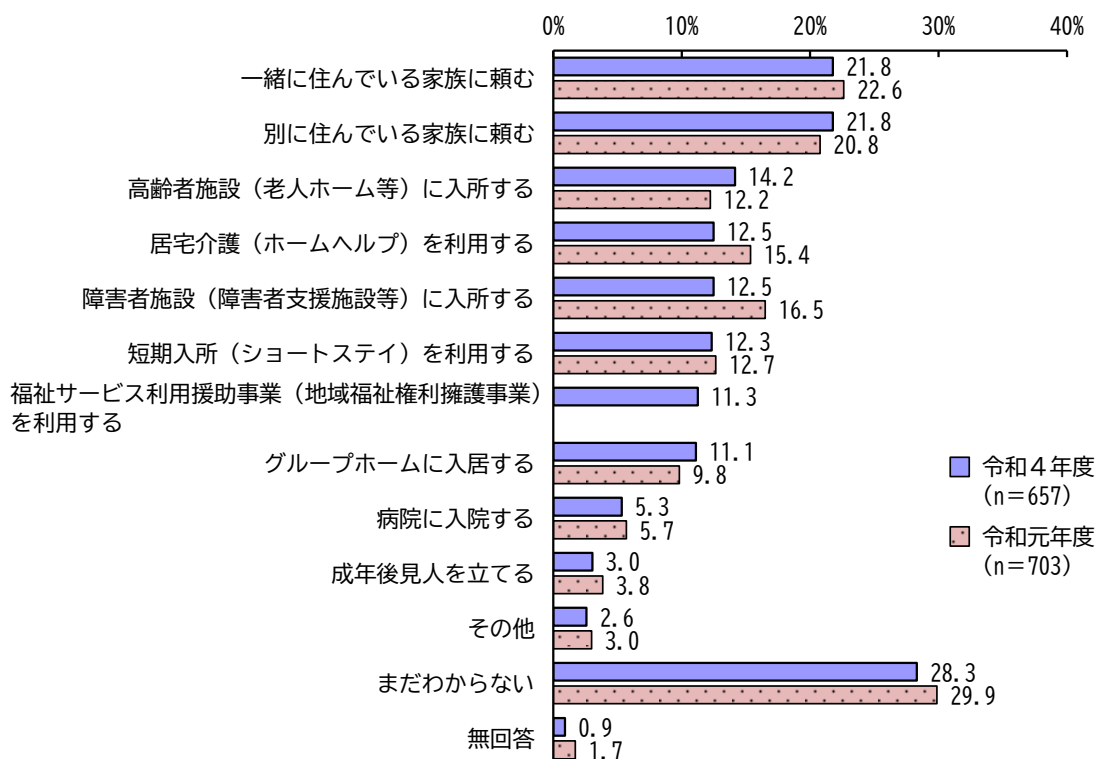
「なし」以外をみると、いずれの障害でも「高齢者(両親・祖父母等)の介護」か「配偶者の介護」が最も高く、特に“発達障害”は「高齢者(両親・祖父母等)の介護」が21.7%と2割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(13) 主な介助者が支援できなくなったときの対応

問 13 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 15 主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。

(○は3つまで)



※「福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用する」は令和4年度から追加

主な介助者が支援できなくなったときの対応は、「一緒に住んでいる家族に頼む」と「別に住んでいる家族に頼む」がともに 21.8%と 2割を超えて最も高く、次いで「高齢者施設（老人ホーム等）に入所する」が 14.2%、「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」と「障害者施設（障害者支援施設等）に入所する」が 12.5%と続いています。

一方、「まだわからない」が 28.3%と 3割近くを占めています。

令和元年度と比較すると、「障害者施設（障害者支援施設等）に入所する」が 4.0 ポイント、「居宅介護（ホームヘルプ）を利用する」が 2.9 ポイント下がっています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

	n	一緒に住んでいる家族に頼む	別に住んでいる家族に頼む	居宅介護(ホームヘルプ)を利用する	短期入所(ショートステイ)を利用する	障害者施設(障害者支援施設等)に入所する	高齢者施設(老人ホーム等)に入所する	病院に入院する
(単位:%)								
全体	657	21.8	21.8	12.5	12.3	12.5	14.2	5.3
介助者別								
父親	38	31.6	23.7	5.3	15.8	26.3	0.0	0.0
母親	211	34.6	16.6	7.1	17.1	21.8	0.5	0.5
配偶者	223	13.0	25.6	16.1	9.9	6.7	21.1	9.4
子	134	14.9	24.6	16.4	12.7	6.0	29.9	6.0
兄弟・姉妹	41	19.5	17.1	14.6	0.0	4.9	4.9	7.3
祖父母	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他親族	7	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6
障害別								
肢体不自由	125	15.2	22.4	20.0	18.4	15.2	28.8	6.4
音声・言語・そしゃく機能障害	44	6.8	22.7	13.6	20.5	15.9	22.7	6.8
視覚障害	56	25.0	26.8	16.1	8.9	10.7	14.3	5.4
聴覚・平衡機能障害	60	15.0	25.0	20.0	13.3	10.0	28.3	10.0
内部障害	87	11.5	21.8	12.6	11.5	5.7	25.3	12.6
知的障害	149	40.9	12.8	6.0	25.5	34.2	2.7	0.7
発達障害	92	37.0	14.1	7.6	15.2	18.5	0.0	0.0
精神障害	154	17.5	22.7	9.7	7.1	6.5	3.9	3.2
高次脳機能障害	28	17.9	25.0	14.3	28.6	10.7	21.4	7.1
難病(特定疾病)	134	17.2	23.9	20.9	11.9	9.0	24.6	11.2
その他	12	16.7	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	25.0

	n	グループホームに同居する	成年後見人を立てる	福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)を利用する	その他	まだわからない	無回答
(単位:%)							
全体	657	11.1	3.0	11.3	2.6	28.3	0.9
介助者別							
父親	38	15.8	10.5	15.8	2.6	23.7	2.6
母親	211	23.2	4.7	10.9	2.8	27.0	0.9
配偶者	223	2.7	1.8	11.7	3.1	30.9	0.4
子	134	2.2	0.0	10.4	1.5	24.6	1.5
兄弟・姉妹	41	17.1	4.9	12.2	2.4	36.6	0.0
祖父母	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
その他親族	7	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
障害別							
肢体不自由	125	8.8	3.2	6.4	0.0	20.0	0.8
音声・言語・そしゃく機能障害	44	9.1	6.8	6.8	0.0	29.5	2.3
視覚障害	56	3.6	0.0	10.7	0.0	23.2	3.6
聴覚・平衡機能障害	60	5.0	1.7	18.3	5.0	15.0	3.3
内部障害	87	3.4	2.3	9.2	2.3	31.0	1.1
知的障害	149	34.9	5.4	9.4	0.7	13.4	2.0
発達障害	92	25.0	12.0	14.1	1.1	28.3	0.0
精神障害	154	3.2	4.5	13.6	6.5	40.3	0.0
高次脳機能障害	28	3.6	7.1	7.1	0.0	28.6	0.0
難病(特定疾病)	134	1.5	1.5	9.7	0.7	28.4	0.0
その他	12	8.3	0.0	33.3	8.3	16.7	0.0

介助者別では、「まだわからない」を除くと、介助者が“父親”、“母親”、“兄弟・姉妹”では「一緒に住んでいる家族に頼む」、「配偶者」では「別に住んでいる家族に頼む」、「子」では「高齢者施設(老人ホーム等)に入所する」が最も高くなっています。

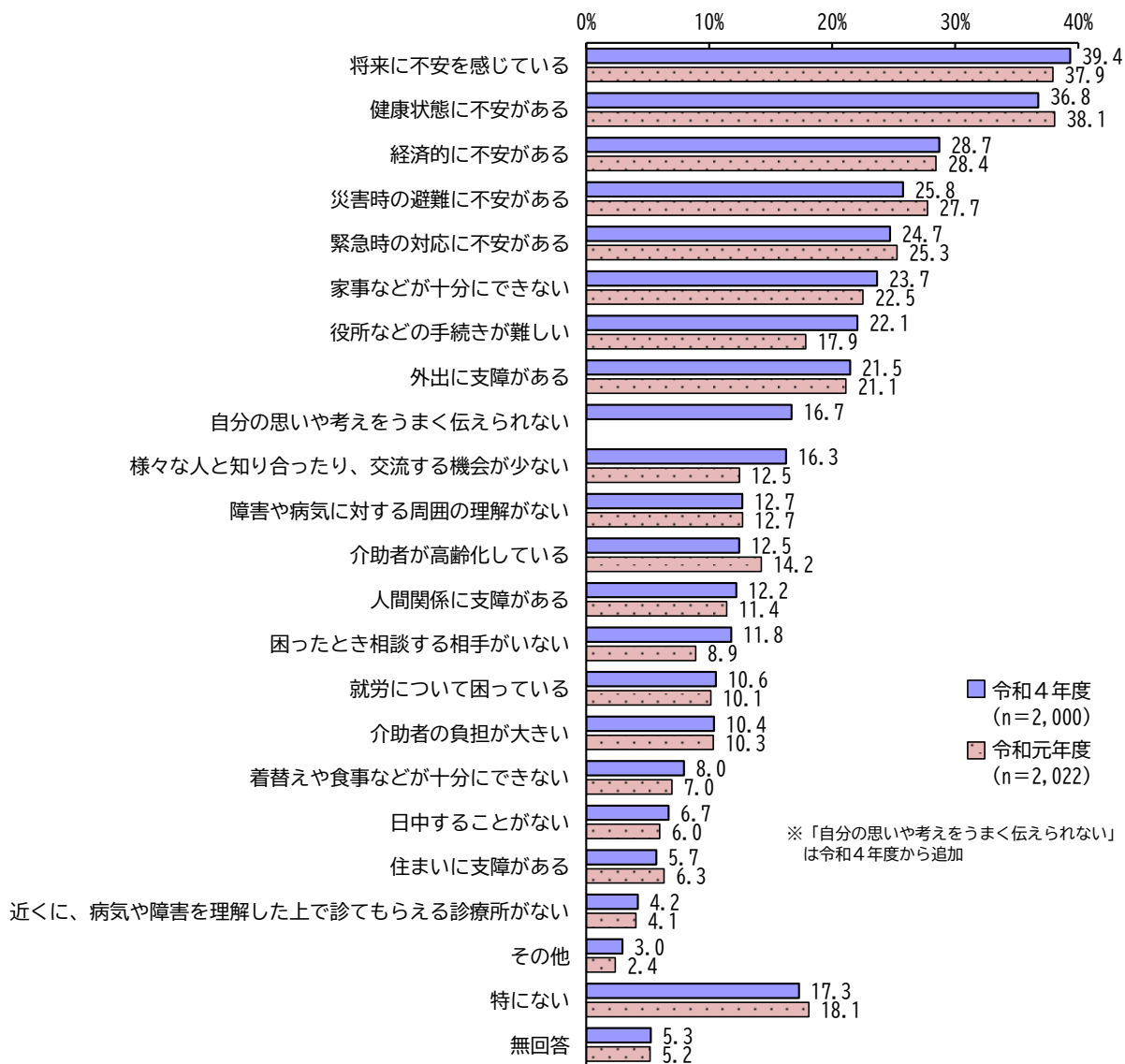
障害別では、「まだわからない」を除くと、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“精神障害”では「別に住んでいる家族に頼む」、「知的障害」、「発達障害」では「一緒に住んでいる家族に頼む」、「高次脳機能障害」では「短期入所(ショートステイ)を利用する」が最も高くなっています。

それ以外の障害は「高齢者施設(老人ホーム等)に入所する」が2割を超えて最も高くなっています。

3 相談や福祉の情報について

(1) 日常生活で困っていること

問16 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が39.4%と約4割で最も高く、次いで「健康状態に不安がある」が36.8%、「経済的に不安がある」が28.7%、「災害時の避難に不安がある」が25.8%と続いています。

令和元年度と比較すると、「将来に不安を感じている」と「健康状態に不安がある」は順位が入れ替わっていますが、ともに3割半ばを超えて上位を維持しています。

「役所などの手続きが難しい」が4.2ポイント、「様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない」が3.8ポイント、「困ったとき相談する相手がいない」が2.9ポイント、令和元年度よりも上がっています。

【クロス集計】年代別

	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている
(単位:%)									
全体	2,000	36.8	8.0	23.7	10.4	12.5	21.5	5.7	10.6
18～29歳	180	24.4	12.2	34.4	17.8	12.8	28.9	6.1	22.2
30～39歳	213	38.0	8.9	24.9	9.4	12.2	18.8	4.7	22.1
40～49歳	262	37.0	4.6	19.1	6.5	11.5	13.0	5.7	18.7
50～59歳	340	43.5	4.7	18.8	6.2	9.7	17.4	5.9	14.1
60～69歳	282	40.4	3.5	17.4	5.0	5.0	19.1	6.4	5.7
70～79歳	314	30.3	6.4	21.0	9.2	12.7	18.8	3.5	1.9
80～89歳	290	38.6	12.8	29.0	18.3	20.7	31.4	6.6	0.3
90歳以上	60	33.3	33.3	45.0	26.7	20.0	45.0	11.7	0.0

	n	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
(単位:%)									
全体	2,000	24.7	25.8	12.2	12.7	11.8	16.7	22.1	4.2
18～29歳	180	36.1	32.8	32.2	21.1	20.0	45.6	45.6	8.9
30～39歳	213	23.9	23.0	23.9	20.7	19.7	29.6	24.9	3.3
40～49歳	262	23.3	21.0	13.0	19.8	13.0	16.8	20.6	6.1
50～59歳	340	21.8	21.5	16.2	18.2	15.6	16.2	20.3	5.6
60～69歳	282	22.3	25.5	6.4	11.0	10.6	7.8	16.3	2.5
70～79歳	314	18.8	22.3	1.9	1.6	5.4	6.7	13.7	3.2
80～89歳	290	28.6	33.8	3.1	4.1	5.2	10.0	21.7	1.7
90歳以上	60	38.3	36.7	1.7	1.7	3.3	11.7	28.3	1.7

	n	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
(単位:%)								
全体	2,000	28.7	39.4	6.7	16.3	3.0	17.3	5.3
18～29歳	180	39.4	55.0	13.3	32.8	1.7	10.0	0.6
30～39歳	213	37.6	54.9	7.0	20.7	3.8	14.6	1.4
40～49歳	262	34.0	48.5	4.6	17.2	4.2	14.5	3.1
50～59歳	340	37.9	44.1	6.2	17.6	4.1	21.2	2.6
60～69歳	282	29.4	36.9	4.6	12.8	3.2	16.7	4.3
70～79歳	314	17.5	28.0	4.8	10.8	1.9	22.0	9.6
80～89歳	290	17.2	24.8	6.9	10.0	1.7	21.4	7.9
90歳以上	60	11.7	16.7	15.0	20.0	1.7	6.7	11.7

年代別にみると、「将来に不安を感じている」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、59歳以下で4割を超えて最も高く、特に39歳以下の若年層では5割半ばに達しています。また、「経済的に不安がある」も年代が下がるほど高くなっており、59歳以下の年代で3割を超えています。

30歳以上の年代では、「健康状態に不安がある」が3割を超えており、特に“50～59歳”と“60～69歳”では4割台となっています。

“18～29歳”では「自分の思いや考えをうまく伝えられない」や「役所などの手続きが難しい」が、90歳以上では「家事などが十分にできない」と「外出に支障がある」が4割半ばとなっており、他の年代よりも高くなっています。

【クロス集計】同居家族別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている
全体	2,000	36.8	8.0	23.7	10.4	12.5	21.5	5.7	10.6
同居家族別									
家族等と同居	1,368	34.9	7.7	24.1	13.2	16.2	22.6	5.0	10.2
ひとり暮らし	495	41.2	6.7	21.0	2.4	2.6	17.8	7.9	12.5
グループホーム等での集団生活	61	31.1	21.3	36.1	14.8	9.8	26.2	3.3	8.2
その他	47	44.7	10.6	17.0	8.5	10.6	12.8	4.3	10.6

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
全体	2,000	24.7	25.8	12.2	12.7	11.8	16.7	22.1	4.2
同居家族別									
家族等と同居	1,368	25.1	26.2	11.6	12.4	10.2	17.5	23.2	3.9
ひとり暮らし	495	24.2	25.5	11.3	13.7	16.8	12.5	17.6	5.3
グループホーム等での集団生活	61	21.3	23.0	23.0	8.2	8.2	34.4	34.4	4.9
その他	47	21.3	17.0	14.9	14.9	17.0	19.1	19.1	4.3

(単位:%)	n	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体	2,000	28.7	39.4	6.7	16.3	3.0	17.3	5.3
同居家族別								
家族等と同居	1,368	27.0	38.6	6.1	15.9	2.8	18.9	5.0
ひとり暮らし	495	35.8	43.0	7.3	17.2	2.8	15.4	3.6
グループホーム等での集団生活	61	16.4	24.6	9.8	18.0	3.3	3.3	11.5
その他	47	34.0	44.7	8.5	14.9	8.5	19.1	8.5

同居家族別にみると、“家族等と同居”、“ひとり暮らし”、“その他”では「将来に不安を感じている」が最も高くなっています。また、“ひとり暮らし”と“その他”では「将来に不安を感じている」とともに「健康状態に不安がある」も4割を超えています。

“グループホーム等での集団生活”では「家事などが十分できない」が36.1%と3割半ばを超えて最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある	就労について困っている
(単位:%)									
全体	2,000	36.8	8.0	23.7	10.4	12.5	21.5	5.7	10.6
障害別									
肢体不自由	283	42.0	15.5	35.0	21.2	21.9	34.3	10.6	4.6
音声・言語・そしゃく機能障害	77	42.9	22.1	37.7	26.0	23.4	37.7	9.1	9.1
視覚障害	144	31.3	11.1	29.9	13.2	18.1	38.9	3.5	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	34.9	9.6	20.5	14.4	15.1	21.9	8.2	2.7
内部障害	278	45.0	8.3	20.9	9.4	10.8	20.9	6.5	6.5
知的障害	231	19.9	16.0	42.9	22.9	26.8	32.9	6.5	9.5
発達障害	187	31.6	12.3	35.3	13.9	13.4	21.4	10.2	27.8
精神障害	464	49.1	7.8	29.3	8.2	12.7	21.6	6.7	23.3
高次脳機能障害	44	40.9	15.9	50.0	38.6	36.4	45.5	2.3	13.6
難病（特定疾病）	632	41.8	6.8	17.9	9.2	9.5	19.0	5.1	7.6
その他	35	42.9	11.4	25.7	17.1	11.4	28.6	20.0	20.0

	n	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
(単位:%)									
全体	2,000	24.7	25.8	12.2	12.7	11.8	16.7	22.1	4.2
障害別									
肢体不自由	283	32.9	39.2	3.5	6.7	8.5	11.0	23.0	4.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	42.9	51.9	6.5	11.7	13.0	41.6	33.8	10.4
視覚障害	144	31.3	37.5	4.9	9.7	9.7	11.8	29.9	3.5
聴覚・平衡機能障害	146	42.5	44.5	8.2	13.0	7.5	12.3	23.3	4.1
内部障害	278	23.7	25.5	4.0	7.9	7.2	6.5	14.4	2.2
知的障害	231	44.6	42.0	26.8	15.2	16.5	51.5	52.4	9.5
発達障害	187	35.3	29.4	39.6	33.2	27.8	52.4	39.6	8.0
精神障害	464	25.4	22.0	28.4	26.7	24.1	24.1	24.8	7.8
高次脳機能障害	44	38.6	40.9	11.4	11.4	18.2	45.5	52.3	4.5
難病（特定疾病）	632	19.3	22.5	1.7	8.2	7.1	5.2	14.7	2.8
その他	35	31.4	31.4	22.9	28.6	25.7	25.7	34.3	14.3

	n	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
(単位:%)								
全体	2,000	28.7	39.4	6.7	16.3	3.0	17.3	5.3
障害別								
肢体不自由	283	23.3	39.6	7.4	13.8	3.5	11.7	6.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	28.6	40.3	11.7	18.2	3.9	10.4	6.5
視覚障害	144	20.8	41.7	6.3	16.7	3.5	9.0	9.7
聴覚・平衡機能障害	146	23.3	32.9	8.9	17.8	2.1	14.4	8.2
内部障害	278	20.1	30.2	6.1	10.4	1.1	23.0	6.5
知的障害	231	28.6	45.5	8.2	24.7	2.2	10.0	5.6
発達障害	187	43.9	57.8	12.3	32.1	3.2	8.6	1.1
精神障害	464	53.2	58.2	12.5	28.0	4.3	6.9	2.4
高次脳機能障害	44	38.6	47.7	15.9	22.7	2.3	9.1	0.0
難病（特定疾病）	632	22.8	33.2	4.4	9.0	2.8	23.1	4.6
その他	35	42.9	54.3	14.3	20.0	8.6	17.1	5.7

障害別にみると、“肢体不自由”、“内部障害”、“難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が最も高く、また“知的障害”を除くいずれの障害でも3割を超えて高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“聴覚・平衡機能障害”では「災害時の避難に不安がある」が4割を超えて最も高くなっています。

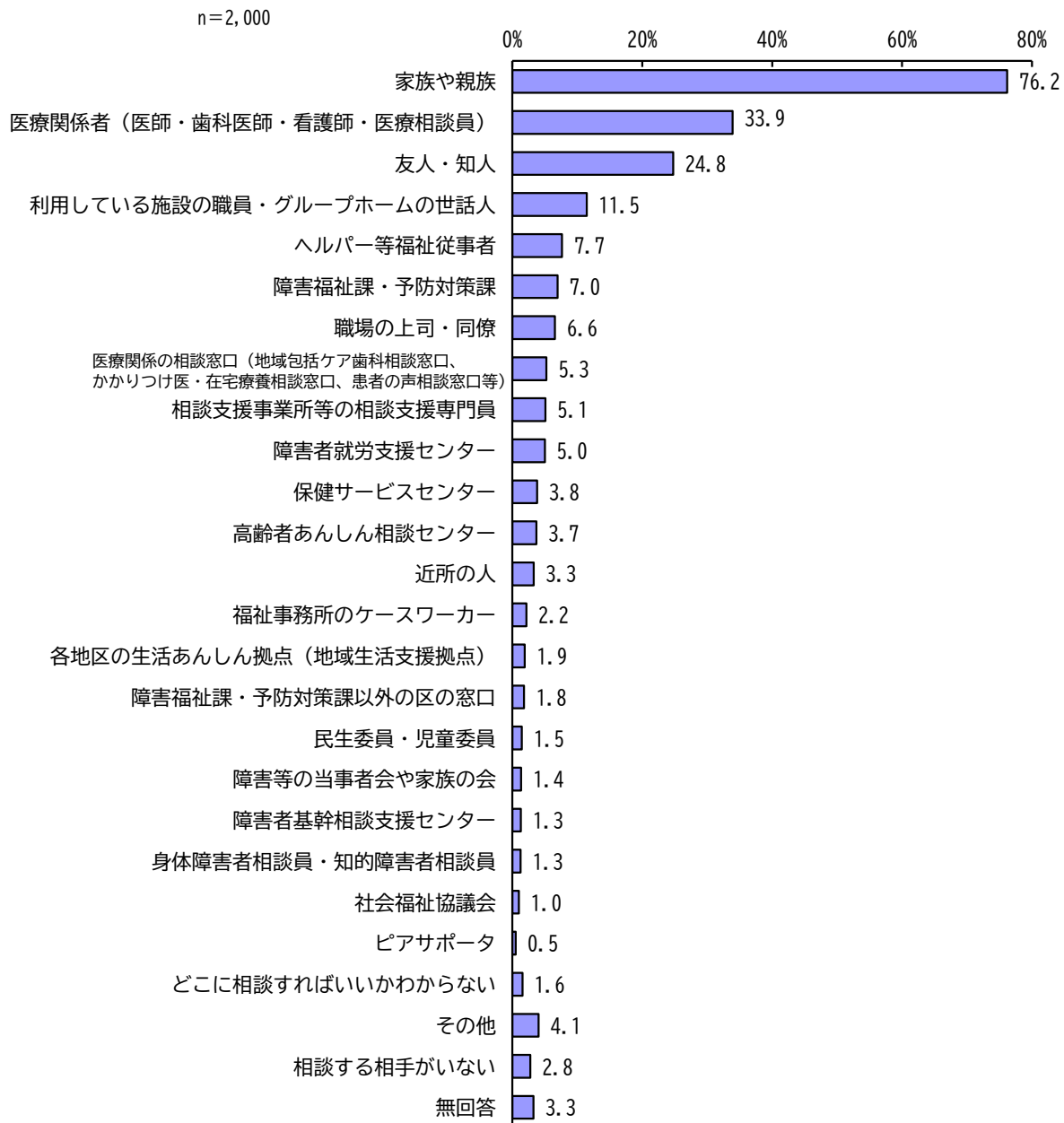
“知的障害”と“高次脳機能障害”では「役所などの手続きが難しい」が5割を超えて最も高くなっています。また、どちらも「災害時の避難に不安がある」が4割を超えて高くなっています。

“知的障害”と“発達障害”では、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が5割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“視覚障害”、“発達障害”、“精神障害”では「将来に不安を感じている」が最も高く、特に“視覚障害”以外は5割を超えています。

(2) 困ったときの相談相手

問 17 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



困ったときの相談相手は、「家族や親族」が 76.2%と7割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が 33.9%、「友人・知人」が 24.8%、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が 11.5%と続いており、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は1.6%、「相談する相手がない」は2.8%となっています。

【クロス集計】年代別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上 司・同僚	民生委 員・児童 委員	障害等 の当事者 会や家族 の会	身体障害 者相談員・ 知的障害 者相談員	ヘルパー 等福祉従 事者
(単位:%)										
全体	2,000	76.2	3.3	24.8	0.5	6.6	1.5	1.4	1.3	7.7
年代別										
18～29歳	180	86.1	0.6	23.9	0.6	15.6	0.0	1.1	1.1	2.8
30～39歳	213	81.7	1.4	29.1	0.5	13.1	0.0	3.8	2.8	1.4
40～49歳	262	76.0	3.8	30.5	0.8	13.4	1.1	2.3	0.8	2.3
50～59歳	340	71.8	1.2	25.9	0.6	7.1	0.3	1.5	0.3	5.9
60～69歳	282	69.5	5.0	30.9	0.4	3.2	1.8	1.1	1.1	8.2
70～79歳	314	73.2	3.5	22.9	0.6	0.6	1.3	0.6	0.6	10.5
80～89歳	290	79.0	6.6	15.5	0.3	0.0	3.4	0.0	2.8	16.2
90歳以上	60	90.0	5.0	3.3	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	18.3

	n	利用してい る施設の職 員・グルー プホームの 世話人	相談支援 事業所等 の相談支 援専門員	医療関係 者	医療関係 者の相談窓 口	障害福祉 課・予防 対策課	障害福祉 課・予防対 策課以外 の窓口	保健サー ビスセン ター	障害者基 幹相談支 援セン ター	各地区の生 活あんしん 拠点(地域 生活支援拠 点)
(単位:%)										
全体	2,000	11.5	5.1	33.9	5.3	7.0	1.8	3.8	1.3	1.9
年代別										
18～29歳	180	23.3	13.9	32.2	2.8	7.2	1.7	1.7	2.8	0.6
30～39歳	213	16.9	9.4	37.6	5.2	14.6	5.6	6.1	2.8	1.4
40～49歳	262	13.7	5.0	37.8	2.7	7.3	1.5	4.6	1.9	2.7
50～59歳	340	10.0	6.2	40.0	5.0	7.4	1.8	5.3	1.8	1.2
60～69歳	282	6.7	1.8	34.8	5.0	7.1	1.4	5.0	0.7	1.1
70～79歳	314	5.4	1.6	27.1	5.7	4.1	1.0	2.5	0.3	1.6
80～89歳	290	8.6	3.8	30.7	8.6	4.1	1.0	1.4	0.0	3.4
90歳以上	60	20.0	1.7	26.7	6.7	1.7	0.0	1.7	0.0	5.0

	n	福祉事務 所のケー スワー カー	障害者就 労支援セ ンター	社会福祉 協議会	高齢者あ んしん相 談セン ター	どこに相 談すれば いいかわ からない	その他	相談する 相手が ない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	2.2	5.0	1.0	3.7	1.6	4.1	2.8	3.3
年代別									
18～29歳	180	1.7	12.8	0.6	0.0	0.6	3.9	1.1	1.7
30～39歳	213	0.9	13.1	0.5	0.0	2.3	3.8	3.8	0.9
40～49歳	262	1.9	5.7	1.5	0.0	1.9	6.1	3.4	2.7
50～59歳	340	3.8	7.1	1.8	0.0	1.5	3.8	3.5	2.1
60～69歳	282	2.5	2.8	0.4	1.4	1.4	4.3	3.9	2.8
70～79歳	314	2.2	0.0	1.0	8.6	1.3	2.2	2.5	6.1
80～89歳	290	1.0	0.0	1.0	12.4	1.4	5.2	1.4	4.8
90歳以上	60	1.7	0.0	1.7	8.3	5.0	3.3	0.0	1.7

年代別にみると、いずれの年代も「家族や親族」が6割半ばを超えて最も高く、特に“18～29歳”、“30～39歳”、“90歳以上”では8割を超えています。次いで、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が2割半ばを超えています。

79歳以下の年齢では、「友人・知人」が2割を超えています。80歳以上の年齢では「ヘルパー等福祉従事者」が1割半ばを超えて、他の年代よりも高くなっています。

また、“18～29歳”と“90歳以上”では、「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が2割以上と、他の年代よりも高くなっています。

【クロス集計】障害別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上司・同僚	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者
(単位:%)										
全体	2,000	76.2	3.3	24.8	0.5	6.6	1.5	1.4	1.3	7.7
障害別										
肢体不自由	283	76.3	5.3	22.3	0.4	3.9	2.8	0.4	2.1	15.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	79.2	3.9	14.3	1.3	3.9	2.6	0.0	2.6	15.6
視覚障害	144	75.0	4.2	28.5	1.4	6.3	2.8	2.1	2.1	11.8
聴覚・平衡機能障害	146	80.8	6.2	22.6	0.0	3.4	5.5	2.7	2.1	14.4
内部障害	278	77.7	4.3	27.3	0.7	1.8	3.2	0.7	0.0	8.3
知的障害	231	83.5	1.3	10.8	0.0	13.9	0.4	2.6	3.9	4.3
発達障害	187	76.5	2.7	19.3	1.1	17.6	1.6	3.2	2.7	3.7
精神障害	464	65.1	1.1	26.7	0.9	6.7	0.9	1.9	0.2	6.9
高次脳機能障害	44	84.1	0.0	20.5	2.3	6.8	2.3	0.0	4.5	22.7
難病（特定疾病）	632	80.1	3.5	26.9	0.6	6.0	0.3	0.5	0.8	8.9
その他	35	57.1	5.7	17.1	0.0	5.7	8.6	0.0	0.0	8.6

	n	利用している施設の職員・グループホームの世話人	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者	医療関係の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）
(単位:%)										
全体	2,000	11.5	5.1	33.9	5.3	7.0	1.8	3.8	1.3	1.9
障害別										
肢体不自由	283	12.7	3.9	31.4	4.6	4.9	1.1	1.4	0.7	2.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	27.3	10.4	33.8	5.2	5.2	2.6	2.6	3.9	1.3
視覚障害	144	6.9	2.8	19.4	2.8	9.7	2.1	1.4	2.8	1.4
聴覚・平衡機能障害	146	8.9	4.8	26.7	8.9	8.9	2.7	2.1	1.4	3.4
内部障害	278	4.0	2.9	34.5	7.6	6.1	0.7	0.7	1.1	3.2
知的障害	231	48.9	14.3	16.5	4.3	12.6	4.8	1.7	6.1	3.0
発達障害	187	22.5	13.4	39.0	5.3	12.8	3.7	3.2	4.8	2.1
精神障害	464	12.3	9.3	46.3	5.6	10.1	3.2	9.9	2.4	2.8
高次脳機能障害	44	20.5	9.1	29.5	6.8	11.4	2.3	2.3	2.3	4.5
難病（特定疾病）	632	4.1	2.1	40.7	5.9	3.2	0.5	4.0	0.6	1.1
その他	35	11.4	17.1	31.4	5.7	11.4	2.9	5.7	5.7	5.7

	n	福祉事務所のカースワーカー	障害者就労支援センター	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がいない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	2.2	5.0	1.0	3.7	1.6	4.1	2.8	3.3
障害別									
肢体不自由	283	1.8	1.4	0.7	6.4	2.5	5.7	1.1	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	0.0	1.3	1.3	3.9	2.6	7.8	2.6	2.6
視覚障害	144	0.7	2.8	1.4	4.9	0.7	4.9	4.9	4.2
聴覚・平衡機能障害	146	2.1	4.8	3.4	4.8	2.7	5.5	2.7	2.7
内部障害	278	2.5	1.4	0.7	6.1	0.7	2.9	2.2	4.3
知的障害	231	0.4	10.4	1.7	0.0	1.3	3.5	0.4	1.7
発達障害	187	2.7	21.9	1.6	0.0	1.6	7.0	4.3	0.5
精神障害	464	5.2	10.6	1.7	0.9	1.9	6.3	5.2	1.9
高次脳機能障害	44	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	4.5	2.3	0.0
難病（特定疾病）	632	0.8	0.9	0.6	3.6	1.1	3.0	2.1	3.6
その他	35	5.7	8.6	2.9	14.3	0.0	11.4	5.7	8.6

障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」が5割半ばを超えて最も高くなっています。

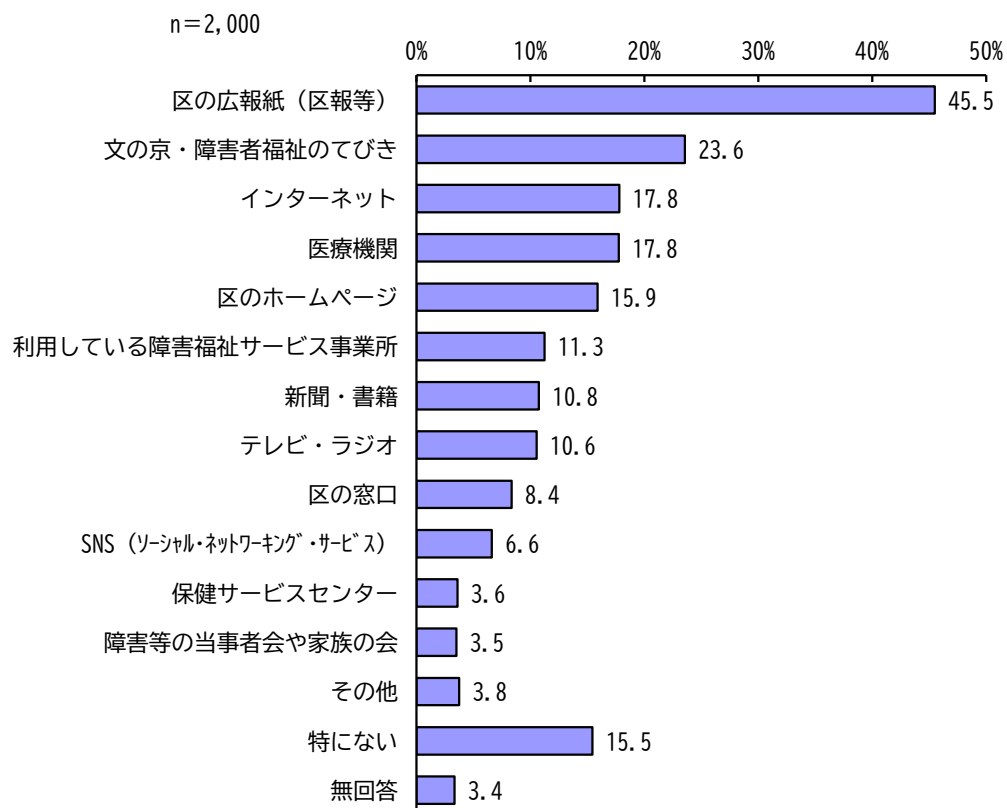
“知的障害”では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が48.9%と5割近くになっていますが、「友人・知人」や「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」は他の障害に比べ低くなっています。

“精神障害”では「家族や親族」が65.1%と他の障害に比べ低くなっていますが、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」では他の障害よりも高くなっています。

“高次脳機能障害”では「ヘルパー等福祉従事者」が22.7%と他の障害よりも高くなっています。

(3) 福祉情報の入手先

問 18 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「区の広報紙 (区報等)」が 45.5%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が 23.6%、「インターネット」と「医療機関」がともに 17.8%と続いています。

一方、「特にない」が 15.5%と 1 割半ばを占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	
(単位:%)										
全体	2,000	45.5	15.9	23.6	8.4	3.6	10.6	17.8	6.6	
年代別	18歳以上40歳未満	393	28.2	20.1	23.9	10.2	3.8	4.3	27.5	16.5
	40歳以上65歳未満	752	43.8	20.7	19.9	8.6	4.1	9.2	23.9	7.2
	65歳以上75歳未満	297	52.5	12.8	22.6	5.4	3.0	12.8	12.1	3.0
	75歳以上	499	57.3	7.0	29.9	8.6	3.2	16.2	5.0	0.4
障害別	肢体不自由	283	54.8	11.0	37.1	7.4	1.8	13.4	12.4	2.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	48.1	9.1	33.8	5.2	2.6	7.8	9.1	1.3
	視覚障害	144	36.8	9.7	25.7	6.9	2.1	14.6	18.8	5.6
	聴覚・平衡機能障害	146	52.7	12.3	34.9	5.5	0.7	14.4	13.0	8.2
	内部障害	278	53.2	15.1	34.9	7.9	2.5	14.4	15.1	7.2
	知的障害	231	39.4	9.5	37.7	10.0	1.7	6.5	9.5	2.6
	発達障害	187	35.3	18.7	24.6	11.8	3.7	7.0	25.1	13.9
	精神障害	464	36.6	15.9	17.5	7.8	6.7	8.2	25.0	11.4
	高次脳機能障害	44	34.1	6.8	25.0	11.4	2.3	11.4	18.2	4.5
	難病(特定疾病)	632	45.1	20.7	11.2	10.4	5.2	11.7	21.2	6.2
	その他	35	37.1	20.0	14.3	14.3	2.9	17.1	34.3	8.6

	n	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	利用している障害福祉サービス事業所	その他	特にない	無回答	
(単位:%)									
全体	2,000	10.8	3.5	17.8	11.3	3.8	15.5	3.4	
年代別	18歳以上40歳未満	393	4.6	7.4	19.1	15.5	5.1	20.6	0.8
	40歳以上65歳未満	752	8.9	3.6	19.5	10.6	3.6	15.8	2.3
	65歳以上75歳未満	297	12.8	2.0	17.2	7.7	3.4	13.1	5.1
	75歳以上	499	17.0	1.6	14.2	10.4	3.6	13.0	4.6
障害別	肢体不自由	283	14.5	3.2	14.5	14.8	6.0	10.2	3.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	13.0	5.2	11.7	18.2	9.1	15.6	3.9
	視覚障害	144	9.0	6.9	13.2	9.7	9.0	16.0	5.6
	聴覚・平衡機能障害	146	20.5	3.4	17.8	7.5	6.2	17.1	2.1
	内部障害	278	12.9	2.2	18.7	9.0	2.2	12.9	2.9
	知的障害	231	8.2	11.3	7.8	33.8	7.4	18.6	3.0
	発達障害	187	7.0	8.0	13.4	16.6	5.9	21.4	1.6
	精神障害	464	7.5	3.0	24.1	13.6	4.3	15.5	2.6
	高次脳機能障害	44	6.8	2.3	15.9	29.5	11.4	22.7	2.3
	難病(特定疾病)	632	10.9	1.9	24.1	5.9	2.8	15.8	3.3
	その他	35	17.1	0.0	22.9	14.3	14.3	17.1	5.7

年代別にみると、いずれの年代でも「区の広報紙(区報等)」が最も高く、特に65歳以上の年代で5割を超えています。

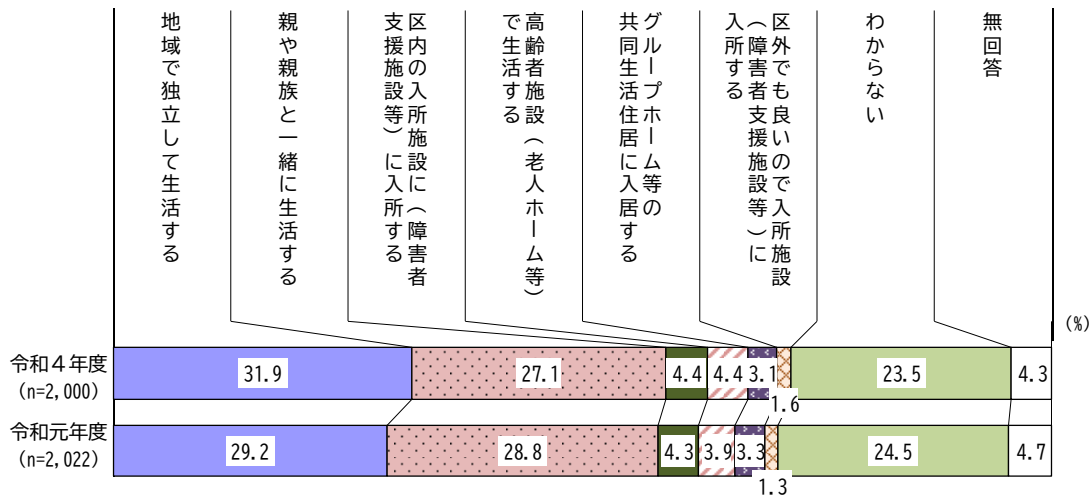
「区のホームページ」、「インターネット」、「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」は年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、反対に「テレビ・ラジオ」、「新聞・書籍」は、年代が上がるにつれて高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「区の広報紙(区報等)」が最も高く、「発達障害」、「精神障害」、「難病(特定疾病)」、「その他」以外の障害では「文の京・障害者福祉のてびき」が二番目に高くなっています。

「発達障害」と「精神障害」では「インターネット」がともに2割半ばと高くなっています。また、「知的障害」と「高次脳機能障害」では「利用している障害福祉サービス事業所」が3割前後と他の障害よりも高くなっています。

(4) 今後希望する生活

問 19 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



今後希望する生活は、「地域で独立して生活する」が 31.9%と 3割を超えて最も高く、次いで「親や親族と一緒に生活する」が 27.1%と 3割半ばを超えて続き、それ以外の項目は 1割を下回っています。

一方、「わからない」は 23.5%と 2割を超えています。

令和元年度と比較すると、「地域で独立して生活する」が 2.7ポイント上がっており、反対に「親や親族と一緒に生活する」が 1.7ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

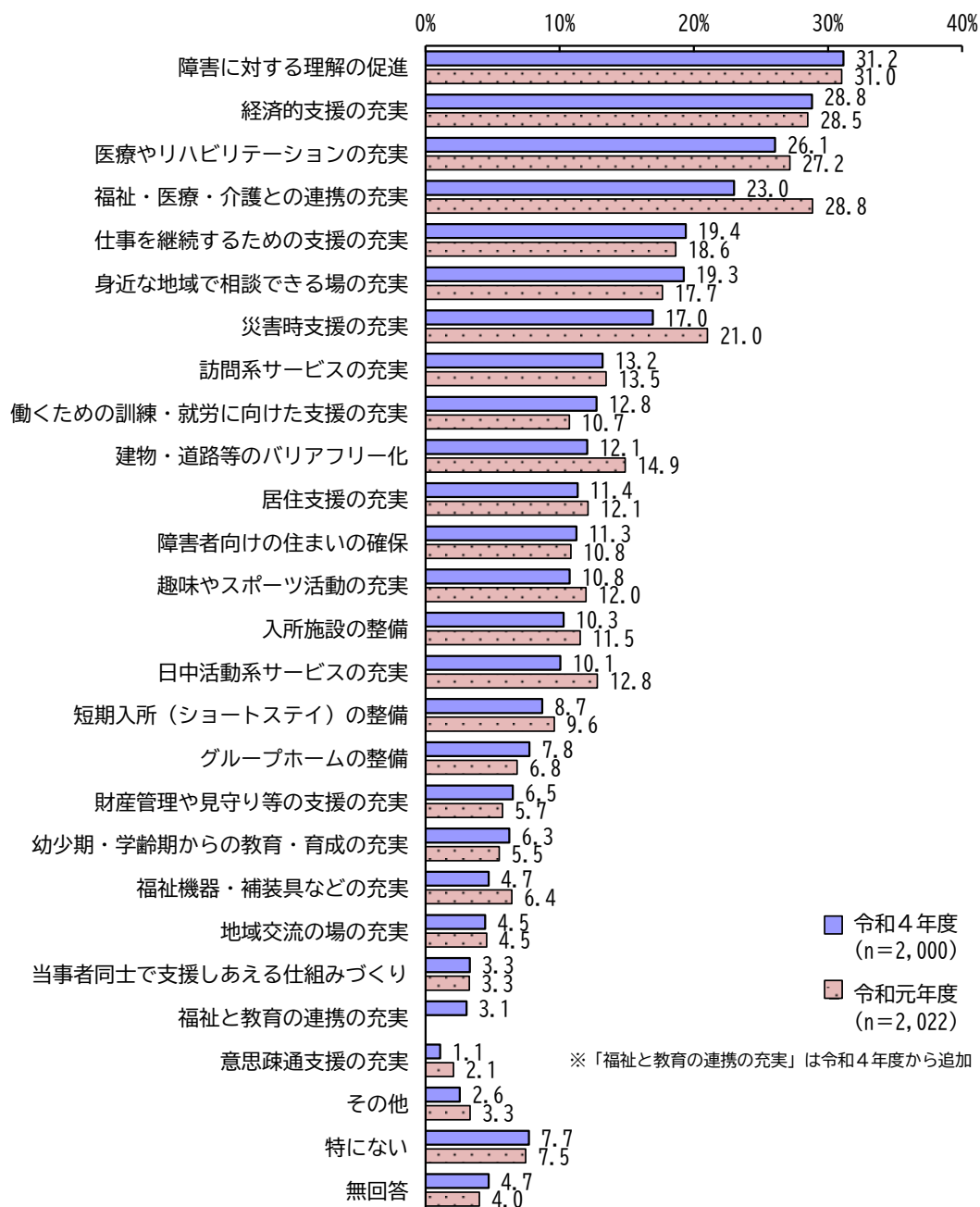
	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する	区外でも良いので入所施設（障害者支援施設等）に入所する	高齢者施設（老人ホーム等）で生活する	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	31.9	27.1	3.1	4.4	1.6	4.4	23.5	4.3
肢体不自由	283	25.4	25.1	3.2	6.7	2.5	8.1	25.1	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	19.5	19.5	6.5	6.5	2.6	7.8	31.2	6.5
視覚障害	144	38.2	22.9	0.0	5.6	0.7	5.6	22.2	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	30.1	22.6	3.4	4.1	1.4	13.7	20.5	4.1
内部障害	278	30.6	29.9	1.4	5.0	0.4	5.8	22.7	4.3
知的障害	231	7.4	28.1	17.3	16.9	5.2	2.6	18.6	3.9
発達障害	187	34.8	28.9	6.4	5.9	2.1	0.5	20.3	1.1
精神障害	464	39.4	26.5	1.5	1.5	0.4	2.4	24.8	3.4
高次脳機能障害	44	25.0	45.5	2.3	0.0	2.3	6.8	15.9	2.3
難病（特定疾病）	632	34.0	28.6	0.8	2.8	1.3	4.3	23.7	4.4
その他	35	28.6	17.1	5.7	5.7	2.9	2.9	31.4	5.7

障害別にみると、いずれの障害も「地域で独立して生活する」か「親や親族と一緒に生活する」が最も高くなっています。

“知的障害”では「地域で独立して生活する」が 7.4%と 1割を下回り他の障害よりも低くなっており、「グループホーム等の共同生活住居に入居する」や「区内の入所施設に（障害者支援施設等）に入所する」は 1割を超えて他の障害よりも高くなっています。

(5) 地域で安心して暮らすために必要な施策

問 20 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「障害に対する理解の促進」が31.2%と3割を超えて最も高く、次いで「経済的支援の充実」が28.8%、「医療やリハビリテーションの充実」が26.1%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が23.0%と2割を超えて続いています。

令和元年度と比較すると、上位4項目は同じ項目が入っていますが、「福祉・医療・介護との連携の充実」が5.8ポイント下がっています。

また、「災害時支援の充実」は令和元年度より4.0ポイント下がり、2割を下回っています。

【クロス集計】年代別

	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
(単位:%)								
全体	2,000	31.2	26.1	6.3	12.8	19.4	19.3	13.2
年代別								
18歳以上40歳未満	393	42.7	16.0	10.4	28.0	40.5	19.1	4.8
40歳以上65歳未満	752	35.4	23.5	7.2	14.8	25.7	23.9	8.0
65歳以上75歳未満	297	22.6	29.6	4.7	5.4	6.4	15.8	20.5
75歳以上	499	21.0	35.9	2.6	1.8	1.8	14.2	23.2

	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保
(単位:%)								
全体	2,000	10.1	8.7	1.1	4.7	7.8	10.3	11.3
年代別								
18歳以上40歳未満	393	16.8	10.4	1.5	2.3	19.1	11.2	19.1
40歳以上65歳未満	752	11.0	4.3	1.2	2.8	6.1	6.6	12.5
65歳以上75歳未満	297	5.7	8.1	0.0	6.1	3.0	9.8	6.7
75歳以上	499	5.6	14.6	1.4	8.8	4.2	15.4	6.4

	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
(単位:%)								
全体	2,000	11.4	12.1	3.3	10.8	6.5	28.8	17.0
年代別								
18歳以上40歳未満	393	12.7	5.3	7.1	16.3	11.5	33.1	14.5
40歳以上65歳未満	752	11.0	11.3	3.3	10.4	6.1	33.4	16.8
65歳以上75歳未満	297	13.5	14.8	1.7	11.8	6.7	23.9	18.5
75歳以上	499	9.4	17.4	1.6	6.8	2.8	21.8	18.0

	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	4.5	23.0	3.1	2.6	7.7	4.7
年代別							
18歳以上40歳未満	393	4.1	13.7	6.4	2.5	4.6	0.8
40歳以上65歳未満	752	4.0	18.8	3.1	2.8	6.3	4.0
65歳以上75歳未満	297	5.7	33.0	1.0	2.4	9.1	6.4
75歳以上	499	5.0	30.5	1.8	2.4	11.0	7.2

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40歳以上～65歳未満”では「障害に対する理解の促進」が3割半ばを超えて最も高くなっています。また、“働くための訓練・就労に向けた支援の充実”、“仕事を継続するための支援の充実”、“日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等）の充実”、“障害者向けの住まいの確保”といった就労や自立に関する項目は65歳未満で1割を超えており、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあります。

“65歳以上～75歳未満”と“75歳以上”では「福祉・医療・介護との連携の充実」と「医療やリハビリテーションの充実」が3割前後で高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
全体	2,000	31.2	26.1	6.3	12.8	19.4	19.3	13.2
障害別								
肢体不自由	283	29.3	42.4	6.0	9.2	9.2	18.0	18.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	24.7	33.8	6.5	7.8	5.2	7.8	20.8
視覚障害	144	36.1	19.4	6.3	7.6	12.5	13.2	18.1
聴覚・平衡機能障害	146	37.0	29.5	5.5	6.8	11.0	14.4	16.4
内部障害	278	24.1	30.9	2.9	6.1	10.8	15.8	16.9
知的障害	231	33.8	9.1	5.6	14.7	20.3	16.5	6.9
発達障害	187	48.7	11.8	11.8	27.3	35.8	23.5	8.6
精神障害	464	44.0	17.2	7.3	23.9	33.8	27.6	12.1
高次脳機能障害	44	34.1	45.5	2.3	18.2	13.6	18.2	25.0
難病(特定疾病)	632	20.6	34.3	5.7	8.4	17.4	18.0	14.1
その他	35	31.4	22.9	11.4	11.4	22.9	22.9	17.1

(単位:%)	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	障害者向けの住まいの確保
全体	2,000	10.1	8.7	1.1	4.7	7.8	10.3	11.3
障害別								
肢体不自由	283	9.9	15.2	0.4	11.0	6.7	15.2	13.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	11.7	20.8	3.9	1.3	14.3	28.6	18.2
視覚障害	144	9.7	6.9	2.1	6.9	4.9	11.1	11.1
聴覚・平衡機能障害	146	6.2	12.3	8.9	17.1	6.2	15.1	11.6
内部障害	278	4.3	10.4	0.4	5.4	2.2	11.5	6.8
知的障害	231	30.3	22.9	0.9	0.9	39.8	28.1	24.7
発達障害	187	18.7	10.7	1.1	2.1	19.3	8.6	23.0
精神障害	464	14.4	4.3	0.2	0.6	6.0	4.3	14.2
高次脳機能障害	44	15.9	22.7	0.0	4.5	4.5	13.6	13.6
難病(特定疾病)	632	6.3	7.9	0.3	4.6	1.7	9.7	4.7
その他	35	0.0	8.6	0.0	0.0	8.6	11.4	22.9

(単位:%)	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体	2,000	11.4	12.1	3.3	10.8	6.5	28.8	17.0
障害別								
肢体不自由	283	11.7	25.4	1.8	5.7	3.2	22.6	18.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	15.6	14.3	1.3	3.9	6.5	24.7	22.1
視覚障害	144	11.1	25.7	3.5	7.6	7.6	22.2	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	11.6	11.6	2.1	6.8	2.7	22.6	24.0
内部障害	278	10.8	15.1	0.4	8.6	4.3	25.2	21.6
知的障害	231	12.6	5.2	3.0	15.6	17.7	19.0	14.3
発達障害	187	13.4	2.1	7.0	13.4	15.0	33.7	11.8
精神障害	464	12.5	3.9	5.2	13.1	7.1	42.5	12.3
高次脳機能障害	44	15.9	20.5	4.5	2.3	4.5	29.5	20.5
難病(特定疾病)	632	11.4	14.9	2.5	10.0	4.4	32.1	19.0
その他	35	11.4	8.6	0.0	14.3	5.7	34.3	8.6

	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特になし	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	4.5	23.0	3.1	2.6	7.7	4.7
障害別							
肢体不自由	283	4.6	27.6	3.9	1.8	4.9	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	77	2.6	29.9	2.6	2.6	6.5	5.2
視覚障害	144	5.6	20.1	3.5	0.0	9.0	5.6
聴覚・平衡機能障害	146	2.1	33.6	2.7	2.1	6.8	6.8
内部障害	278	3.6	28.1	3.2	5.0	11.2	6.1
知的障害	231	4.8	16.5	3.5	0.9	6.1	3.5
発達障害	187	5.9	17.1	5.9	4.8	4.3	1.1
精神障害	464	5.2	16.6	4.1	2.6	4.3	3.2
高次脳機能障害	44	2.3	27.3	2.3	4.5	2.3	2.3
難病（特定疾病）	632	4.3	27.2	2.5	2.4	9.5	4.6
その他	35	5.7	25.7	20.0	2.9	8.6	5.7

障害別にみると、「障害に対する理解の促進」はいずれの障害でも2割を超えており、特に“発達障害”と“精神障害”では4割を超えています。

“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では「医療やリハビリテーションの充実」が3割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”では「グループホームの整備」が約4割、「日中活動系サービス（生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等）の充実」が3割を超え、他の障害よりも高くなっています。

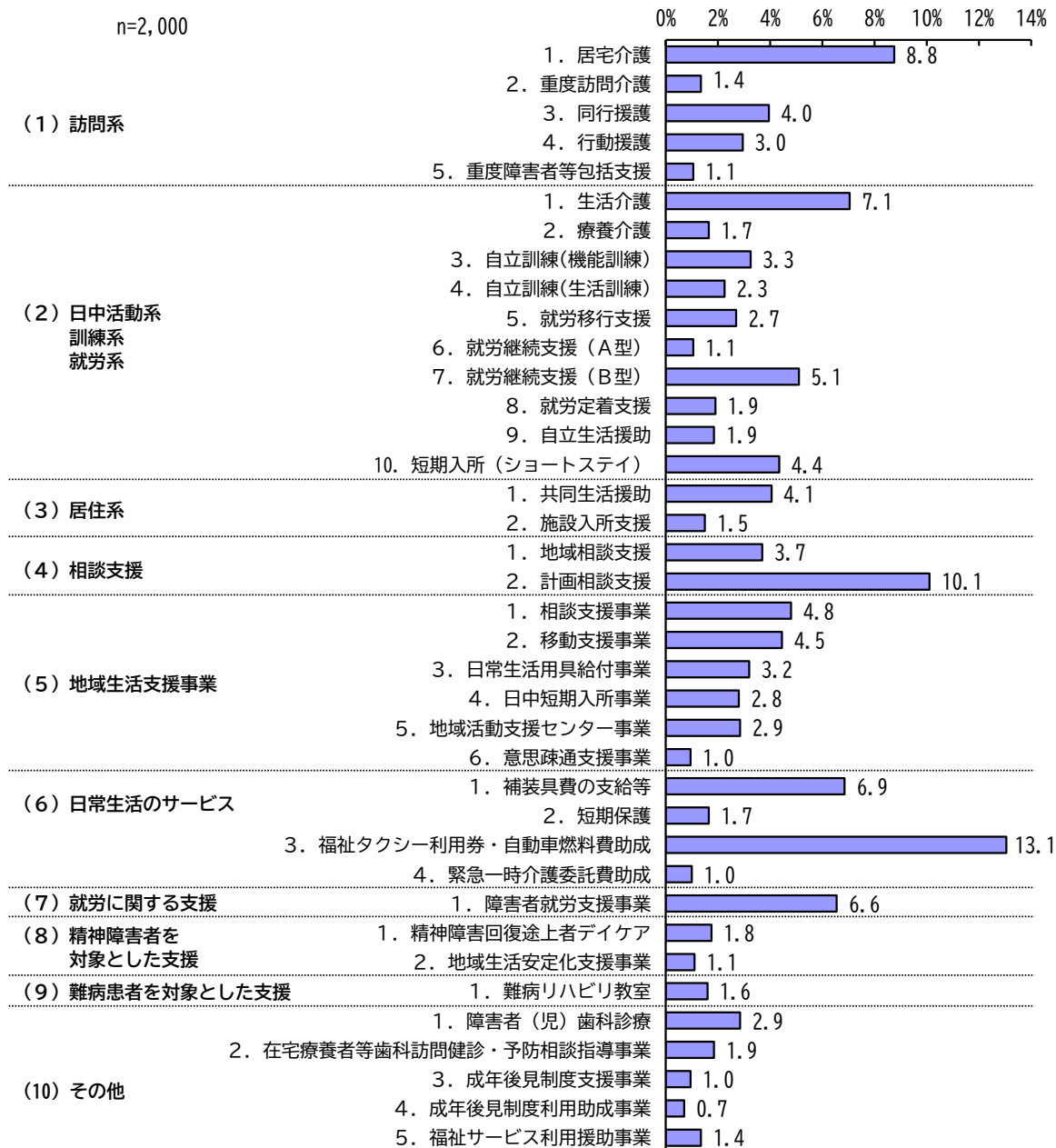
“発達障害”と“精神障害”では、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」や「仕事を継続するための支援の充実」、「身近な地域で相談できる場の充実」といった、就労や相談に関する施策が他の障害よりも高くなっています。

4 福祉サービスについて

(1) 現在利用しているサービス

問 21 障害福祉サービス等の利用状況と満足度についてお聞きします。

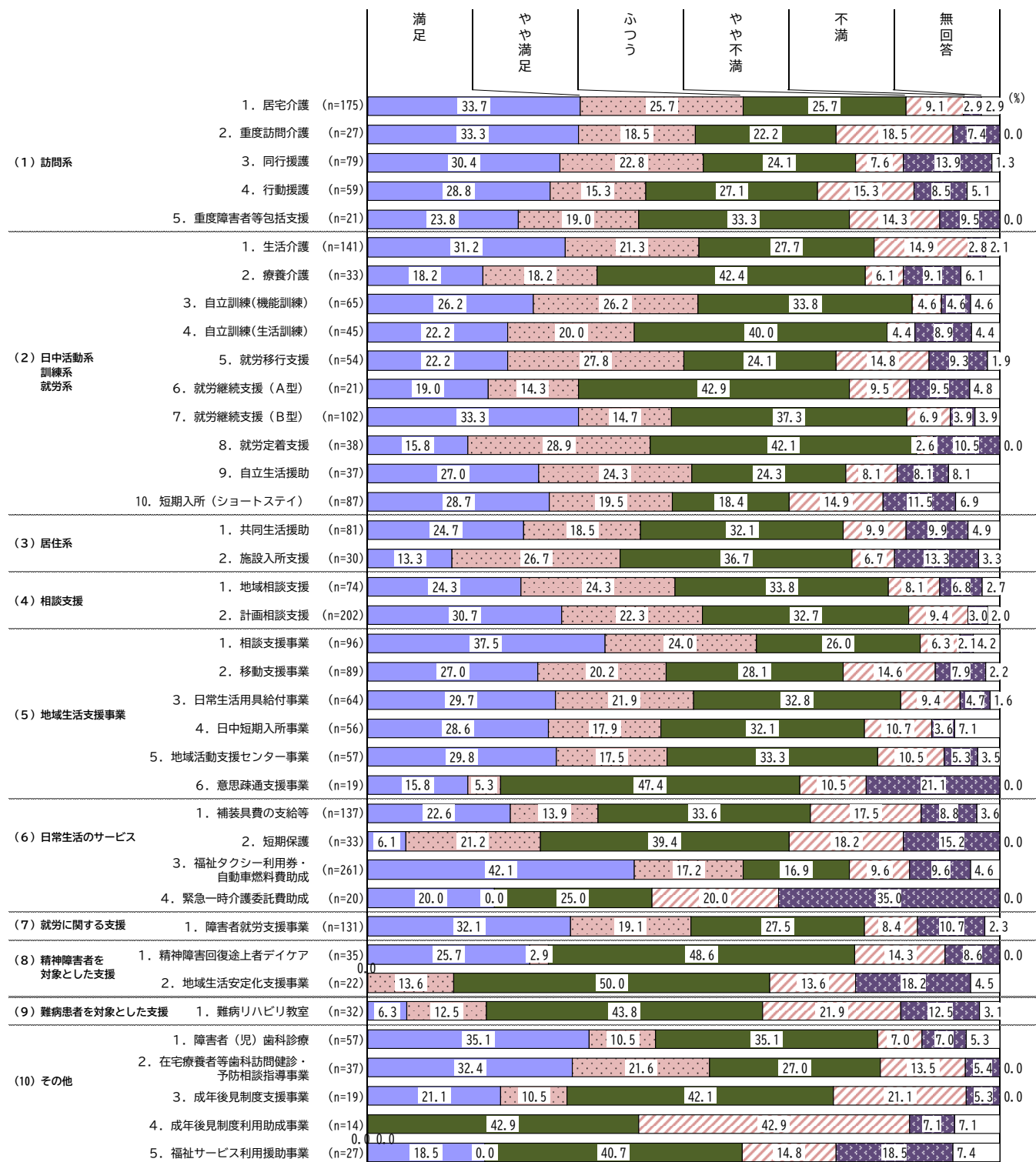
A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が 13.1%と最も高く、次いで「計画相談支援」が 10.1%、「居宅介護」が 8.8%、「生活介護」が 7.1%と続いています。

(2) サービスの満足度

B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(○はひとつ)



利用している障害福祉サービス等の「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、「相談支援事業」が61.5%、「居宅介護」が59.4%、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が59.3%と6割前後になっています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「緊急一時介護委託費助成」が55.0%、「成年後見制度利用助成事業」が50.0%と5割以上を占めています。

(3) サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方

C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)

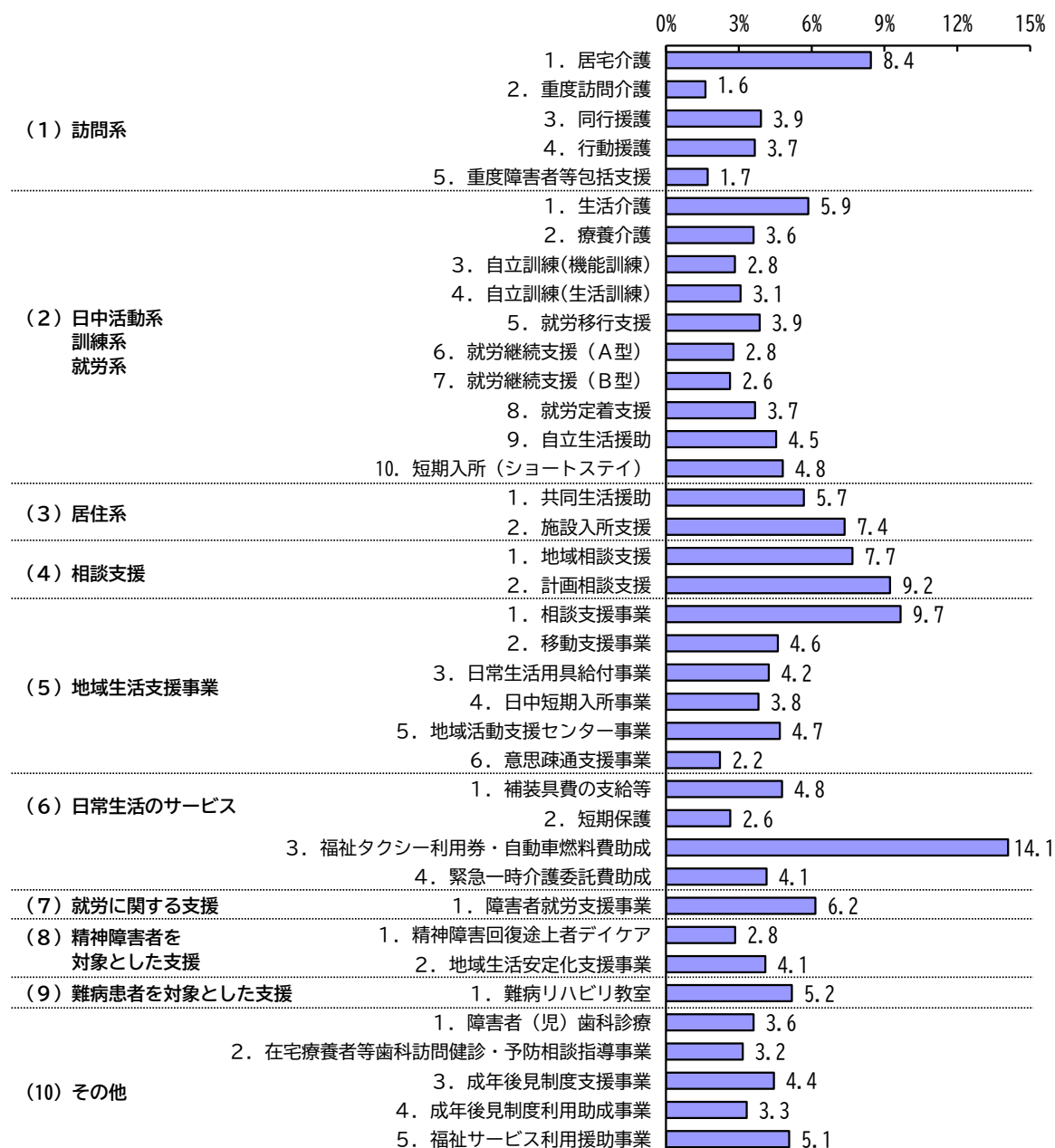
	n	利用 できる 回数 や日数 等 が少 ない	利 用 料 が 高 い	サ ー ビ ス 提 供 事 業 所 が 少 ない	利 用 日 時 が 合 わ な い	サ ー ビ ス 内 容 (質) に 不 安 を 感 じ る	サ ー ビ ス 提 供 事 業 所 の 対 応 が 良 く な い	サ ー ビ ス の 利 用 契 約 等 に 関 する 十 分 な 説 明 が な い	事 業 所 と 家 族 の 連 携 が 取 れ て い な い	医 療 的 ケ ア の 対 応 が 十 分 で な い	そ の 他	無 回 答
(単位:%)												
居宅介護	21	28.6	14.3	23.8	23.8	28.6	0.0	0.0	0.0	9.5	14.3	33.3
重度訪問介護	7	42.9	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1
同行援護	17	41.2	0.0	29.4	17.6	11.8	0.0	5.9	0.0	0.0	11.8	29.4
行動援護	14	21.4	7.1	21.4	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	50.0
重度障害者等包括支援	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
生活介護	25	24.0	12.0	8.0	4.0	36.0	0.0	0.0	0.0	8.0	12.0	28.0
療養介護	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0
自立訓練(機能訓練)	6	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0
自立訓練(生活訓練)	6	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0
就労移行支援	13	15.4	0.0	15.4	0.0	38.5	23.1	7.7	7.7	15.4	23.1	15.4
就労継続支援(A型)	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
就労継続支援(B型)	11	0.0	0.0	9.1	9.1	18.2	36.4	9.1	9.1	9.1	36.4	9.1
就労定着支援	5	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	60.0
自立生活援助	6	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3
短期入所	23	21.7	13.0	39.1	17.4	34.8	17.4	0.0	0.0	4.3	8.7	17.4
共同生活援助	16	6.3	6.3	12.5	0.0	18.8	12.5	0.0	6.3	18.8	18.8	37.5
施設入所支援	6	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
地域相談支援	11	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	63.6
計画相談支援	25	16.0	0.0	4.0	0.0	24.0	24.0	12.0	8.0	4.0	4.0	32.0
相談支援事業	8	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	37.5
移動支援事業	20	20.0	10.0	40.0	20.0	20.0	5.0	5.0	0.0	5.0	5.0	30.0
日常生活用具給付事業	9	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	44.4
日中短期入所事業	8	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	37.5
地域活動支援センター事業	9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	66.7
意思疎通支援事業	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7
補装具費の支給等	36	25.0	13.9	2.8	2.8	16.7	2.8	2.8	0.0	2.8	30.6	33.3
短期保護	11	18.2	9.1	18.2	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	27.3	27.3
福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	50	20.0	6.0	2.0	4.0	10.0	2.0	4.0	0.0	4.0	18.0	44.0
緊急一時介護委託費助成	11	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	54.5
障害者就労支援事業	25	4.0	0.0	8.0	16.0	28.0	16.0	0.0	4.0	4.0	40.0	8.0
精神障害回復途上者デイケア	8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	37.5
地域生活安定化支援事業	7	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0
難病リハビリ教室	11	27.3	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	27.3
障害者(児)歯科診療	8	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	62.5
在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	7	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6
成年後見制度支援事業	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0
成年後見制度利用助成事業	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4
福祉サービス利用援助事業	9	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	33.3	44.4

利用している障害福祉サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答数が10件以上のサービスでみると、「同行援護」では「利用できる回数や日数等が少ない」が、「移動支援事業」では「サービス提供事業所が少ない」が4割を超えています。

「生活介護」と「就労移行支援」では、「サービス内容(質)に不安を感じる」、「就労継続支援(B型)」では「サービス提供事業所の対応が良くない」、「短期入所」では「サービス提供事業所が少ない」と「サービス内容に不安を感じる」が3割を超えています。

(4) 今後利用したいサービス

D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

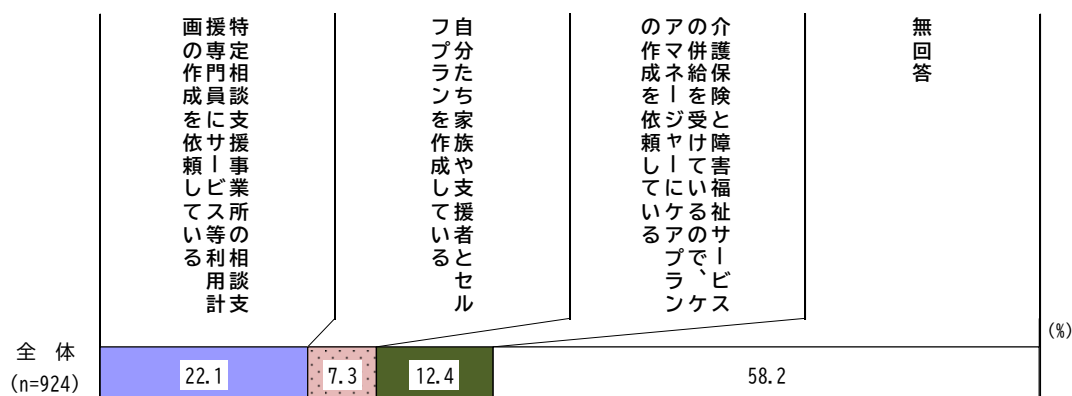


今後利用したい障害福祉サービス等は、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」が14.1%と最も高く、次いで「相談支援事業」が9.7%、「計画相談支援」が9.2%、「居宅介護」が8.4%と続いています。

(5) サービス等利用計画の作成手段

問 21 にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 22 どのようにサービス等利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)



サービス等利用計画の作成手段は、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が 22.1%と 2 割を超えて最も高く、次いで「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が 12.4%、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が 7.3%と続いています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している	無回答
全体	924	22.1	7.3	12.4	58.2
障害別					
肢体不自由	187	12.8	5.3	27.8	54.0
音声・言語・そしゃく機能障害	43	27.9	2.3	27.9	41.9
視覚障害	76	14.5	11.8	9.2	64.5
聴覚・平衡機能障害	77	16.9	2.6	16.9	63.6
内部障害	141	9.9	3.5	17.0	69.5
知的障害	189	50.3	8.5	2.1	39.2
発達障害	119	38.7	14.3	2.5	44.5
精神障害	220	28.2	9.1	7.7	55.0
高次脳機能障害	27	22.2	7.4	29.6	40.7
難病(特定疾病)	178	13.5	2.8	19.1	64.6
その他	20	20.0	10.0	25.0	45.0

障害別にみると、いずれの障害も「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」か「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」が最も高くなっています。特に“知的障害”では「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」が 5 割を占めています。

“視覚障害”と“発達障害”では「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が 1 割を超えて他の障害よりも高くなっています。

【クロス集計】障害福祉サービス等別

(単位:%)	n	特定相談支援事業所の 相談支援専門員にサー ビス等利用計画の作成 を依頼している	自分たち家族や支援 者とセルフプランを 作成している	介護保険と障害福祉サー ビスの併給を受けている ので、ケアマネージャーに ケアプランの作成を依頼 している	無回答
居宅介護	175	24.0	8.6	36.6	30.9
重度訪問介護	26	15.4	19.2	26.9	38.5
同行援護	79	25.3	15.2	15.2	44.3
行動援護	59	32.2	10.2	13.6	44.1
重度障害者等包括支援	21	19.0	14.3	19.0	47.6
生活介護	141	41.1	5.0	24.1	29.8
療養介護	33	15.2	9.1	33.3	42.4
自立訓練(機能訓練)	65	24.6	3.1	35.4	36.9
自立訓練(生活訓練)	45	24.4	11.1	13.3	51.1
就労移行支援	54	35.2	18.5	7.4	38.9
就労継続支援 (A型)	21	14.3	14.3	9.5	61.9
就労継続支援 (B型)	102	44.1	10.8	2.9	42.2
就労定着支援	38	21.1	13.2	2.6	63.2
自立生活援助	37	13.5	8.1	16.2	62.2
短期入所	87	46.0	8.0	13.8	32.2
共同生活援助	81	43.2	13.6	4.9	38.3
施設入所支援	30	13.3	13.3	16.7	56.7
地域相談支援	74	23.0	6.8	16.2	54.1
計画相談支援	202	55.4	3.5	14.4	26.7
相談支援事業	96	42.7	9.4	16.7	31.3
移動支援事業	89	52.8	11.2	7.9	28.1
日常生活用具給付事業	64	14.1	12.5	35.9	37.5
日中短期入所事業	56	41.1	7.1	17.9	33.9
地域活動支援センター事業	57	29.8	3.5	21.1	45.6
意思疎通支援事業	19	10.5	5.3	10.5	73.7

利用している障害福祉サービス等別にみると、「特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している」は 25 のサービス中 18 サービスで最も高く、特に“移動支援事業”では 5 割、“生活介護”、“就労継続支援 (B型)”、“短期入所”、“共同生活援助”、“相談支援事業”、“日中短期入所事業”では 4 割を超えています。

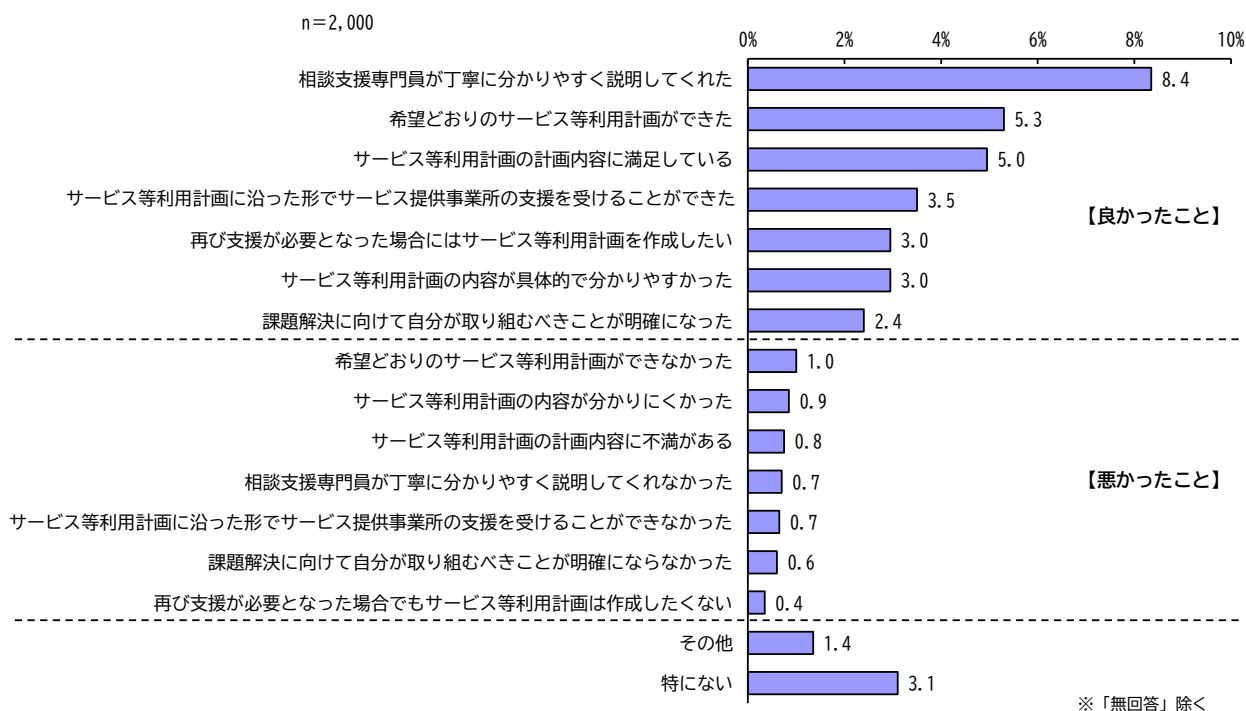
「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」はいずれのサービスでも 2 割を下回り、“重度訪問介護”で 19.2%、“就労移行支援”で 18.5%、“同行援護”で 15.2%と 1 割半ばを超えています。

「介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している」は 25 のサービス中 9 サービスで最も高く、特に“居宅介護”、“療養介護”、“自立訓練(機能訓練)”、“日常生活用具給付事業”では 3 割を超えています。

(6) サービス等利用計画の作成時に感じたこと

問 23 サービス等利用計画を作成してどのように感じましたか。

(あてはまるものすべてに○)



サービス等利用計画を作成して感じたことについて、【良かったこと】は「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が 8.4%と最も高く、次いで「希望どおりのサービス等利用計画ができた」が 5.3%、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」が 5.0%と続いています。

【悪かったこと】は、「希望どおりのサービス等利用計画ができなかった」が 1.0%と最も高く、それ以外はすべて 1%を下回っています。

一方、「特にない」は 3.1%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりのサービス等利用計画ができた	サービス等利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた	サービス等利用計画の内容が具体的で分かりやすかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった	希望どおりのサービス等利用計画ができなかった
(単位:%)										
全体	2,000	8.4	5.3	5.0	3.0	3.5	3.0	2.4	0.7	1.0
障害別										
肢体不自由	283	8.5	5.7	6.0	3.9	3.5	2.1	2.8	0.7	1.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	7.8	10.4	5.2	6.5	9.1	2.6	2.6	2.6
視覚障害	144	8.3	4.9	3.5	3.5	4.9	4.2	0.7	1.4	1.4
聴覚・平衡機能障害	146	7.5	4.1	2.7	2.7	4.1	2.7	2.7	1.4	2.1
内部障害	278	6.1	4.3	4.3	2.2	2.2	2.2	1.4	1.1	0.7
知的障害	231	26.4	15.6	14.3	5.2	10.4	9.1	3.9	0.9	2.2
発達障害	187	16.0	11.2	9.6	8.0	9.6	7.0	7.5	0.5	1.6
精神障害	464	10.1	5.4	5.8	4.3	4.7	3.7	3.9	1.3	1.3
高次脳機能障害	44	13.6	2.3	9.1	4.5	2.3	4.5	0.0	2.3	2.3
難病（特定疾病）	632	4.1	3.2	2.5	1.9	2.7	1.6	1.1	0.8	0.6
その他	35	11.4	8.6	5.7	5.7	2.9	2.9	8.6	2.9	5.7

	n	サービス等利用計画の計画内容に不満がある	再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成したくない	サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった	サービス等利用計画の内容が分かりにくかった	課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった	その他	特になし	無回答
(単位:%)									
全体	2,000	0.8	0.4	0.7	0.9	0.6	1.4	3.1	80.7
障害別									
肢体不自由	283	1.1	0.7	0.4	1.8	1.1	0.7	3.9	77.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	1.3	2.6	2.6	1.3	1.3	1.3	74.0
視覚障害	144	1.4	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.0	84.7
聴覚・平衡機能障害	146	0.7	0.0	0.7	1.4	0.7	0.7	2.1	81.5
内部障害	278	0.4	0.0	0.4	0.7	0.4	0.7	5.0	82.7
知的障害	231	1.3	0.0	2.2	0.4	1.3	1.7	3.5	52.4
発達障害	187	1.6	0.5	2.7	4.3	2.1	2.7	3.2	64.2
精神障害	464	1.1	0.9	0.9	2.2	1.3	2.4	3.7	76.3
高次脳機能障害	44	4.5	0.0	2.3	2.3	2.3	4.5	2.3	72.7
難病（特定疾病）	632	0.6	0.2	0.2	0.2	0.2	0.8	2.8	88.9
その他	35	5.7	0.0	8.6	2.9	0.0	2.9	0.0	71.4

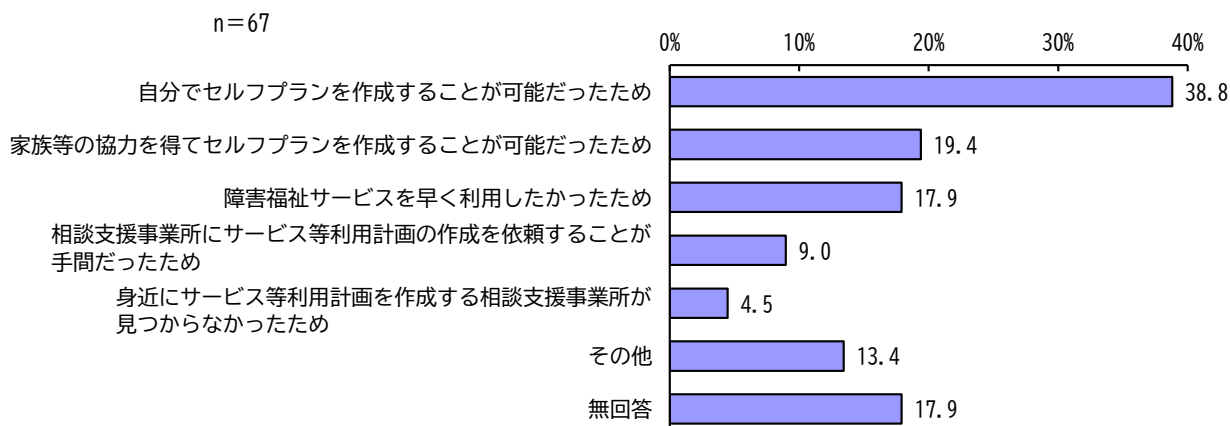
障害別にみると、いずれの障害でも「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が最も高く、特に“知的障害”では26.4%と2割半ばを超えています。

また、“知的障害”では「希望どおりのサービス等利用計画ができた」、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」、「サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた」が1割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“高次脳機能障害”では、「サービス等利用計画の計画内容に不満がある」が4.5%と、他の障害よりも高くなっています。

(7) セルフプランとした理由

問 23 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。
 問 24 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)



セルフプランを作成した理由は、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 38.8%と 4 割近くで最も高く、次いで「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が 19.4%、「障害福祉サービスを早く利用したかったため」が 17.9%と続いています。

【クロス集計】障害別

	n	相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害福祉サービスを早く利用したかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
全体	67	9.0	4.5	17.9	19.4	38.8	13.4	17.9
障害別								
肢体不自由	10	0.0	0.0	10.0	20.0	20.0	0.0	50.0
音声・言語・そしゃく機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
視覚障害	9	0.0	11.1	22.2	44.4	44.4	22.2	0.0
聴覚・平衡機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
内部障害	5	20.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0
知的障害	16	12.5	6.3	18.8	18.8	12.5	25.0	25.0
発達障害	17	17.6	11.8	17.6	23.5	35.3	5.9	17.6
精神障害	20	15.0	5.0	20.0	10.0	65.0	5.0	10.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	5	20.0	20.0	20.0	60.0	0.0	20.0	20.0
その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0

障害別にみると、「肢体不自由」では「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」と「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が最も高くなっています。

「知的障害」では、「障害福祉サービスを早く利用したかったため」と「家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため」が最も高くなっています。

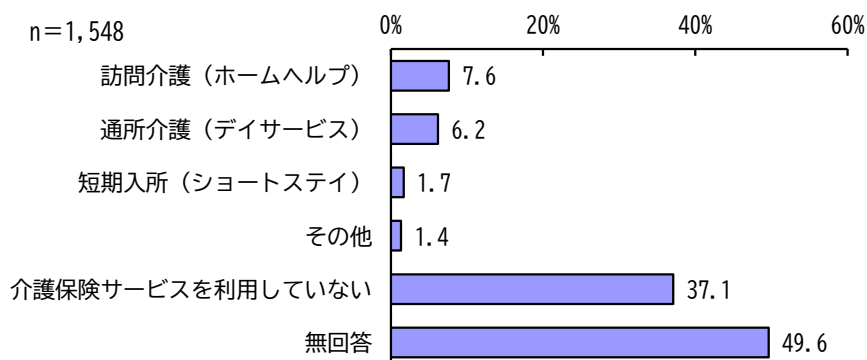
「発達障害」と「精神障害」では「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が最も高く、特に「精神障害」では6割半ばとなっています。

(8) 介護保険サービスの利用状況

40歳以上の方にお聞きします。

問 25 障害福祉サービスと併用している介護保険サービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)



40歳以上の介護保険サービスの利用状況は、「訪問介護 (ホームヘルプ)」が7.6%と最も高く、次いで「通所介護 (デイサービス)」が6.2%、「短期入所 (ショートステイ)」が1.7%と続いています。一方、「介護保険サービスを利用していない」は37.1%と3割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)	n	訪問介護 (ホームヘルプ)	通所介護 (デイサービス)	短期入所 (ショートステイ)	その他	介護保険サービスを利用していない	無回答
全体	1,548	7.6	6.2	1.7	1.4	37.1	49.6
年代別							
40歳以上65歳未満	752	4.1	1.3	0.9	1.5	50.9	42.2
65歳以上75歳未満	297	12.5	6.4	1.7	0.7	30.6	53.2
75歳以上	499	10.0	13.4	2.8	1.6	20.0	58.7
障害別							
肢体不自由	257	16.0	12.8	3.9	1.9	24.9	48.2
音声・言語・そしゃく機能障害	66	13.6	12.1	1.5	3.0	18.2	56.1
視覚障害	122	6.6	7.4	1.6	0.8	32.0	54.1
聴覚・平衡機能障害	125	9.6	8.8	3.2	1.6	33.6	48.0
内部障害	253	6.7	5.9	2.0	0.8	38.3	49.0
知的障害	90	2.2	3.3	5.6	1.1	23.3	65.6
発達障害	58	5.2	0.0	0.0	1.7	41.4	51.7
精神障害	336	10.1	4.5	2.1	0.9	44.0	42.3
高次脳機能障害	36	13.9	19.4	5.6	5.6	27.8	36.1
難病 (特定疾病)	545	7.7	6.1	1.3	0.9	40.6	47.5
その他	25	4.0	8.0	8.0	0.0	32.0	60.0

年代別にみると、“75歳以上”では「通所介護 (デイサービス)」が13.4%と最も高く、それ以外の年代では「訪問介護 (ホームヘルプ)」が最も高くなっています。

障害別にみると、“視覚障害”、“高次脳機能障害”では「通所介護 (デイサービス)」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では約2割となっています。

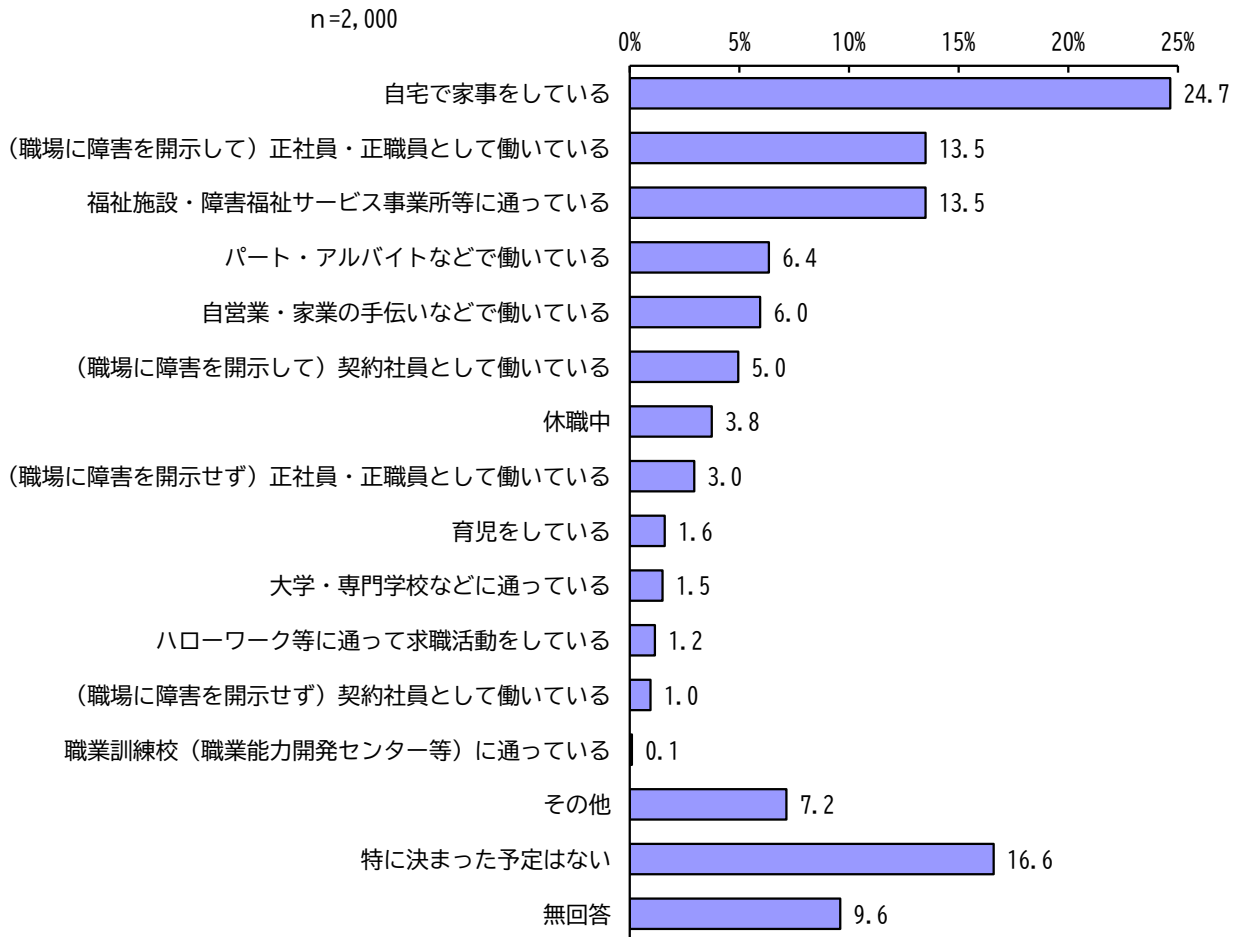
“知的障害”では「短期入所 (ショートステイ)」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「訪問介護 (ホームヘルプ)」が最も高く、特に“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“精神障害”では1割を超えています。

5 日中活動や外出について

(1) 平日の日中の過ごし方

問 26 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(○はひとつ)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」が24.7%で最も高く、次いで「(職場に障害を開示して) 正社員・正職員として働いている」と「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」がともに13.5%、「パート・アルバイトなどで働いている」が6.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は16.6%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)	n	(職場に障害を 開示して)正社員・正 職員として働 いている	(職場に障害 を開示せず)正社員・正 職員として働 いている	(職場に障 害を開示し て)契約社 員として働 いている	(職場に障 害を開示せ ず)契約社 員として働 いている	パート・ア ルバイトな どで働い ている	自営業・家 業の手伝 いなどで 働いてい る	福祉施設・ 障害福祉 サービス事 業所等に 通っている	大学・専門 学校など に通って いる
		全体	2,000	13.5	3.0	5.0	1.0	6.4	6.0
年代別									
18歳以上40歳未満	393	23.9	5.9	10.7	1.5	7.9	3.8	26.5	6.1
40歳以上65歳未満	752	20.6	4.1	6.3	1.3	9.6	6.5	13.7	0.5
65歳以上75歳未満	297	4.0	0.7	2.0	0.7	6.1	9.8	7.4	0.7
75歳以上	499	0.8	0.4	0.0	0.0	0.8	4.8	5.6	0.0
障害別									
肢体不自由	283	10.6	0.0	2.8	0.4	1.4	4.9	12.4	0.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	0.0	2.6	0.0	1.3	0.0	20.8	1.3
視覚障害	144	15.3	1.4	2.1	0.7	3.5	6.9	9.0	2.8
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	0.7	4.8	0.7	4.1	5.5	6.8	0.7
内部障害	278	10.8	2.2	2.5	0.7	5.4	8.3	5.0	1.8
知的障害	231	8.2	0.4	11.7	0.4	3.5	0.9	55.8	0.0
発達障害	187	16.0	4.3	15.0	1.1	8.6	1.6	28.9	3.2
精神障害	464	9.3	3.4	6.9	1.7	9.5	5.8	16.6	1.3
高次脳機能障害	44	11.4	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	22.7	0.0
難病(特定疾病)	632	18.7	4.3	2.5	0.9	7.3	8.4	4.1	1.4
その他	35	8.6	5.7	8.6	0.0	2.9	5.7	20.0	0.0

(単位:%)	n	職業訓練校 (職業能力 開発セン ター等)に 通っている	ハローワ ーク等に 通って求 職活動を している	自宅で家 事をして いる	育児をし ている	休職中	その他	特に決 まった予 定はない	無回答
		全体	2,000	0.1	1.2	24.7	1.6	3.8	7.2
年代別									
18歳以上40歳未満	393	0.5	1.5	9.9	2.8	3.6	6.6	5.6	2.8
40歳以上65歳未満	752	0.0	1.7	26.1	2.5	5.9	6.1	9.6	4.9
65歳以上75歳未満	297	0.0	1.0	37.7	0.7	3.7	7.4	21.2	9.1
75歳以上	499	0.0	0.2	26.3	0.0	1.0	9.4	32.9	21.8
障害別									
肢体不自由	283	0.0	0.4	23.7	0.4	3.2	8.5	26.1	12.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	0.0	0.0	18.2	0.0	2.6	16.9	23.4	15.6
視覚障害	144	0.7	0.0	18.8	2.1	1.4	11.8	25.7	11.8
聴覚・平衡機能障害	146	0.0	1.4	24.0	0.7	0.0	10.3	26.0	10.3
内部障害	278	0.0	0.7	24.8	0.4	4.0	9.0	24.5	10.8
知的障害	231	0.4	0.4	5.6	0.4	0.4	4.3	4.3	8.7
発達障害	187	0.0	3.7	10.7	0.5	4.3	6.4	8.0	4.3
精神障害	464	0.0	2.4	27.6	1.1	8.6	8.6	15.1	5.6
高次脳機能障害	44	0.0	2.3	11.4	2.3	2.3	11.4	31.8	11.4
難病(特定疾病)	632	0.0	0.6	31.0	3.5	3.0	6.2	14.6	10.3
その他	35	0.0	0.0	11.4	0.0	8.6	22.9	20.0	11.4

年代別にみると、「18歳以上40歳未満」では「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が、40歳以上の年代では「自宅で家事をしている」が2割半ばを超えて最も高くなっています。

また、65歳未満の年代では「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」が、65歳以上の年代では「特に決まった予定はない」が2割以上で高くなっています。

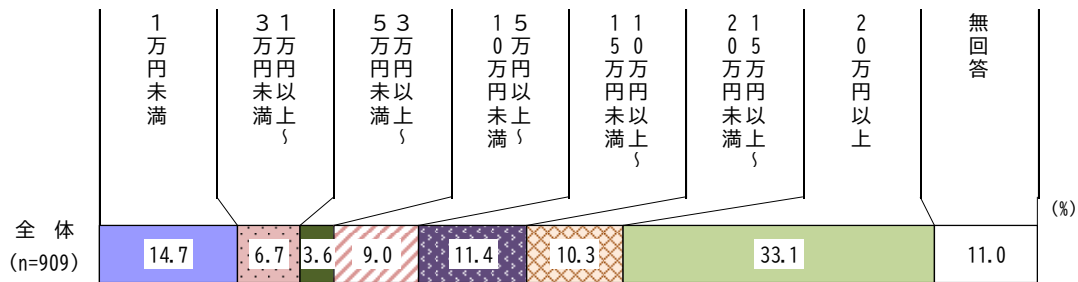
障害別にみると、「その他」と「特に決まった予定はない」を除くと、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「発達障害」、「高次脳機能障害」、「その他」では、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も高く、特に「知的障害」では55.8%と5割半ばを超えています。

それ以外の障害では「自宅で家事をしている」が最も高くなっています。

また、「精神障害」、「発達障害」又は「難病」では、職場に障害を開示せずに働いている方が3～4%台の割合を占めています。

(2) 給与・工賃

問 26 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」「福祉施設・障害福祉サービス事業所」で働いていると回答された方にお聞きします。
問 26-1 給与・工賃の月額をお答え下さい。(○はひとつ)



給与・工賃の月額は、「20万円以上」が33.1%と3割を超えて最も高く、次いで「1万円未満」が14.7%、「10万円以上～15万円未満」が11.4%、「15万円以上～20万円未満」が10.3%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	(単位:%)								
		1万円未満	1万円以上～3万円未満	3万円以上～5万円未満	5万円以上～10万円未満	10万円以上～15万円未満	15万円以上～20万円未満	20万円以上	無回答	
全体	909	14.7	6.7	3.6	9.0	11.4	10.3	33.1	11.0	
年代別	18歳以上40歳未満	300	22.7	6.3	3.3	7.0	13.7	10.0	28.3	8.7
	40歳以上65歳未満	441	11.3	5.9	4.1	10.9	11.1	10.4	40.1	6.1
	65歳以上75歳未満	82	9.8	11.0	2.4	8.5	11.0	13.4	23.2	20.7
	75歳以上	60	3.3	5.0	5.0	6.7	8.3	8.3	21.7	41.7
障害別	肢体不自由	88	13.6	3.4	0.0	8.0	8.0	3.4	40.9	22.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	38.1	4.8	0.0	4.8	4.8	4.8	38.1	
	視覚障害	52	9.6	3.8	5.8	3.8	15.4	7.7	34.6	19.2
	聴覚・平衡機能障害	48	4.2	6.3	4.2	8.3	12.5	10.4	43.8	10.4
	内部障害	91	3.3	7.7	1.1	7.7	13.2	13.2	38.5	15.4
	知的障害	181	38.1	16.0	2.2	8.3	14.9	5.0	1.7	13.8
	発達障害	133	21.8	9.8	2.3	7.5	19.5	12.8	16.5	9.8
	精神障害	227	22.0	7.9	4.8	10.6	11.0	13.7	23.3	6.6
	高次脳機能障害	16	18.8	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	31.3	25.0
	難病(特定疾病)	278	2.5	2.2	5.0	9.7	7.6	9.7	54.0	9.4
その他	17	17.6	0.0	0.0	5.9	17.6	11.8	23.5	23.5	

年代別にみると、いずれの年代でも「20万円以上」が最も高く、特に“40歳以上65歳未満”は4割を占めています。

“18歳以上～40歳未満”では、「1万円未満」が22.7%と2割を超えて、他の年代よりも高くなっています。

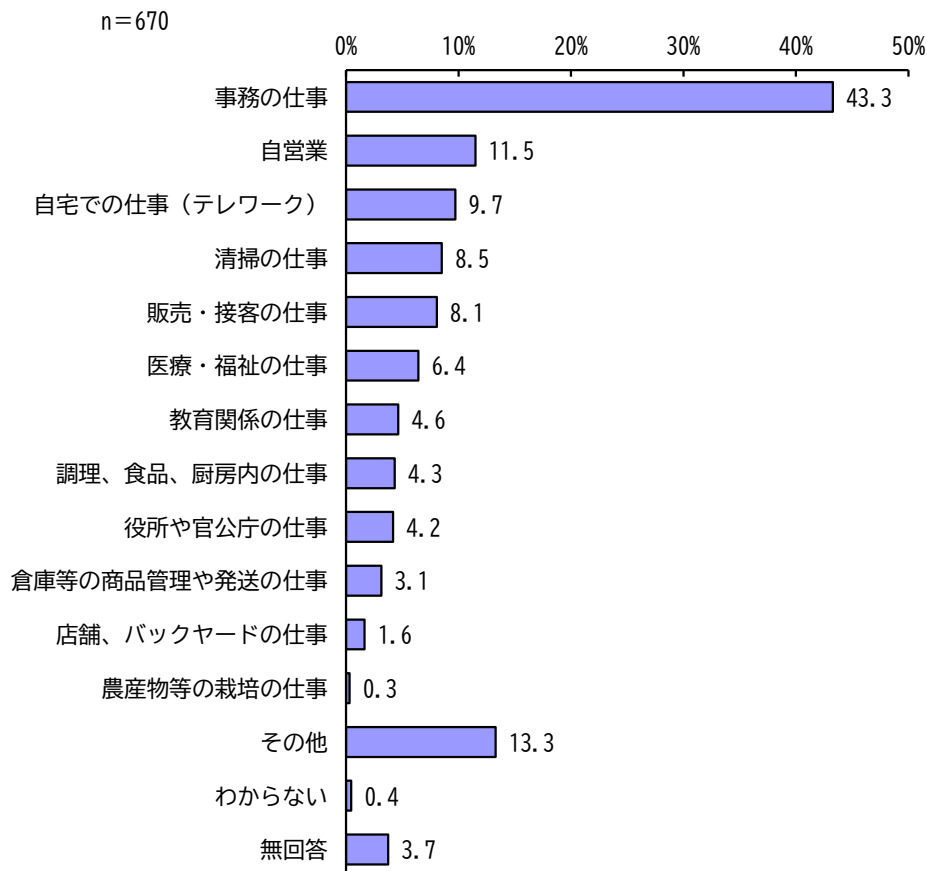
障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”では「1万円未満」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「20万円以上」が最も高くなっています。

(3) 仕事の内容

問 26 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。

問 26-2 仕事の内容をお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)



仕事の内容は、「事務の仕事」が43.3%と4割を超えて最も高く、次いで「自営業」が11.5%、「自宅での仕事 (テレワーク)」が9.7%、「清掃の仕事」が8.5%、「販売・接客の仕事」が8.1%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	事務の仕事	販売・接客の仕事	役所や官公庁の仕事	医療・福祉の仕事	教育関係の仕事	倉庫等の商品管理や発送の仕事	清掃の仕事	調理、食品、厨房内の仕事
(単位:%)									
全体	670	43.3	8.1	4.2	6.4	4.6	3.1	8.5	4.3
年代別									
18歳以上40歳未満	199	45.7	8.0	3.5	5.5	3.5	4.5	8.5	5.5
40歳以上65歳未満	357	46.5	7.6	4.2	7.6	4.8	2.8	6.7	4.2
65歳以上75歳未満	66	30.3	12.1	4.5	4.5	9.1	3.0	15.2	4.5
75歳以上	34	20.6	5.9	0.0	2.9	2.9	0.0	14.7	0.0
障害別									
肢体不自由	57	45.6	7.0	5.3	8.8	0.0	0.0	7.0	1.8
音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
視覚障害	42	33.3	2.4	9.5	11.9	7.1	2.4	4.8	4.8
聴覚・平衡機能障害	40	40.0	2.5	7.5	10.0	5.0	7.5	2.5	0.0
内部障害	80	33.8	10.0	5.0	7.5	6.3	2.5	5.0	1.3
知的障害	57	24.6	7.0	1.8	1.8	0.0	12.3	31.6	17.5
発達障害	83	50.6	3.6	2.4	2.4	3.6	9.6	10.8	8.4
精神障害	162	46.3	6.8	6.8	3.1	3.7	4.3	9.3	3.7
高次脳機能障害	9	44.4	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	256	47.3	10.9	2.3	7.8	7.4	0.4	4.3	3.1
その他	11	36.4	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

	n	店舗、バックヤードの仕事	農産物等の栽培の仕事	自宅での仕事(テレワーク)	自営業	その他	わからない	無回答
(単位:%)								
全体	670	1.6	0.3	9.7	11.5	13.3	0.4	3.7
年代別								
18歳以上40歳未満	199	2.0	0.5	13.6	3.0	15.1	1.0	4.5
40歳以上65歳未満	357	1.7	0.3	10.6	9.2	14.8	0.0	2.5
65歳以上75歳未満	66	1.5	0.0	0.0	33.3	6.1	1.5	1.5
75歳以上	34	0.0	0.0	0.0	44.1	2.9	0.0	14.7
障害別								
肢体不自由	57	1.8	0.0	5.3	14.0	7.0	0.0	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
視覚障害	42	0.0	2.4	4.8	14.3	11.9	0.0	2.4
聴覚・平衡機能障害	40	0.0	0.0	10.0	12.5	17.5	0.0	10.0
内部障害	80	2.5	0.0	8.8	20.0	11.3	0.0	5.0
知的障害	57	3.5	1.8	1.8	1.8	8.8	1.8	3.5
発達障害	83	2.4	2.4	15.7	1.2	10.8	0.0	1.2
精神障害	162	1.9	0.0	14.2	10.5	14.8	0.6	1.2
高次脳機能障害	9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0
難病（特定疾病）	256	1.2	0.4	12.1	12.9	14.8	0.4	3.1
その他	11	0.0	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0	0.0

年代別にみると、“18歳以上40歳未満”と“40歳以上65歳未満”では「事務の仕事」、「65歳以上75歳未満」と“75歳以上”では「自営業」が最も高くなっています。

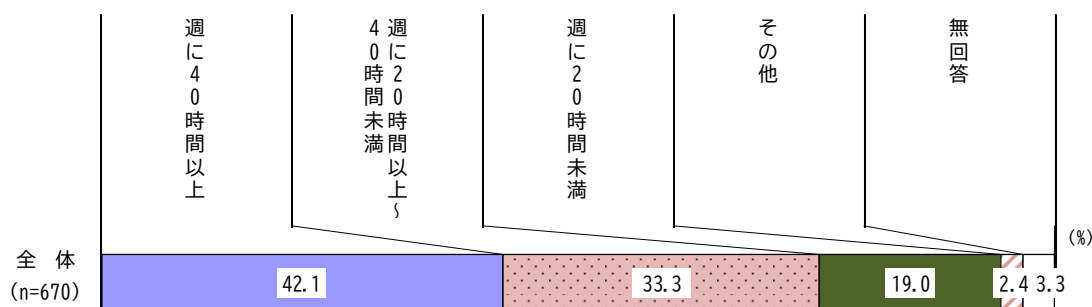
障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「自宅での仕事（テレワーク）」、「知的障害」では「清掃の仕事」が3割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

それ以外の障害では「事務の仕事」が最も高くなっています。

(4) 1週間当たりの勤務時間

問 26 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。

問 26-3 週当たりの勤務時間をお答え下さい。(○はひとつ)



1週間当たりの勤務時間は、「週に40時間以上」が42.1%と4割を超えて最も高く、次いで「週に20時間以上～40時間未満」が33.3%、「週に20時間未満」が19.0%と続いています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	週に40時間以上	週に20時間以上～40時間未満	週に20時間未満	その他	無回答
(単位:%)						
全体	670	42.1	33.3	19.0	2.4	3.3
年代別						
18歳以上40歳未満	199	43.7	39.7	11.6	1.5	3.5
40歳以上65歳未満	357	48.5	30.0	18.2	1.7	1.7
65歳以上75歳未満	66	18.2	31.8	39.4	6.1	4.5
75歳以上	34	14.7	35.3	32.4	2.9	14.7
障害別						
肢体不自由	57	40.4	36.8	14.0	3.5	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7
視覚障害	42	50.0	23.8	23.8	0.0	2.4
聴覚・平衡機能障害	40	47.5	22.5	17.5	5.0	7.5
内部障害	80	47.5	27.5	16.3	2.5	6.3
知的障害	57	15.8	64.9	12.3	3.5	3.5
発達障害	83	28.9	59.0	10.8	1.2	0.0
精神障害	162	35.2	34.6	24.1	3.7	2.5
高次脳機能障害	9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0
難病(特定疾病)	256	50.8	25.4	19.1	2.3	2.3
その他	11	18.2	63.6	18.2	0.0	0.0

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」と「40歳以上65歳未満」では「週に40時間以上」が4割を超えて最も高く、「65歳以上～75歳未満」では「週に20時間未満」、「75歳以上」では「週に20時間以上～40時間未満」が3割を超えて最も高くなっています。

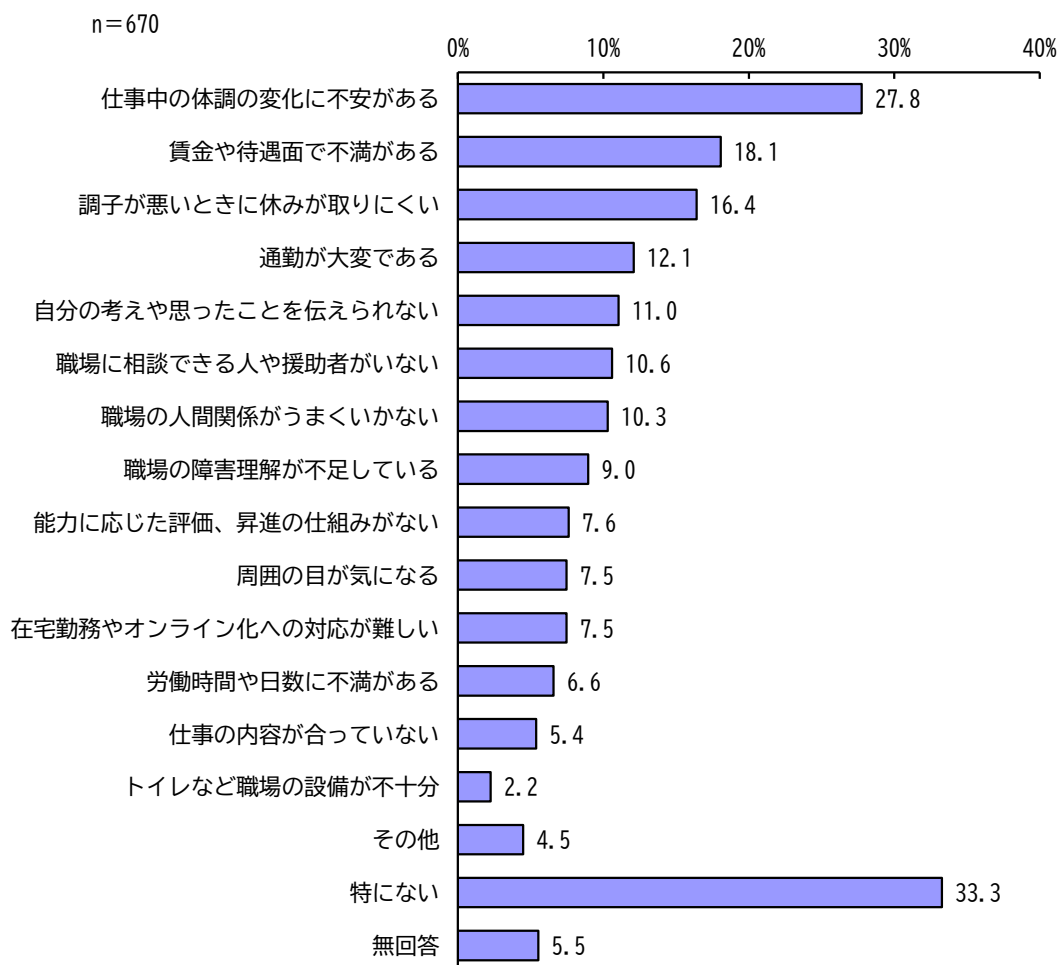
障害別にみると、「知的障害」、「発達障害」、「その他」では「週に20時間以上～40時間未満」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「週に40時間以上」が最も高くなっています。

(5) 仕事で困っていること

問 26 で「正社員・正職員」「契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・家業」で働いていると回答された方にお聞きします。

問 26-4 仕事をする上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



仕事で困っていることは、「仕事中の体調の変化に不安がある」が 27.8%と 2 割半ばを超えて最も高く、次いで「賃金や待遇面で不満がある」が 18.1%、「調子が悪いときに休みが取りにくい」が 16.4%、「通勤が大変である」が 12.1%と続いています。

一方、「特にない」は 33.3%と 3 割を超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	賃金や待遇面で不満がある	工作中的体調の変化に不安がある	調子が悪いときに休みが取りにくい	労働時間や日数に不満がある	通勤が大変である	職場の人間関係がうまくいかない	職場に相談できる人や援助者がいない	職場の障害理解が不足している	トイレなど職場の設備が不十分
年代別	全体	670	18.1	27.8	16.4	6.6	12.1	10.3	10.6	9.0	2.2
	18歳以上40歳未満	199	20.6	32.2	18.6	6.5	9.5	17.6	14.6	11.6	2.0
	40歳以上65歳未満	357	21.0	29.7	16.2	8.1	15.1	8.4	10.6	9.2	3.1
	65歳以上75歳未満	66	3.0	18.2	15.2	1.5	3.0	0.0	1.5	1.5	0.0
	75歳以上	34	2.9	5.9	8.8	0.0	5.9	0.0	2.9	0.0	0.0
障害別	肢体不自由	57	12.3	28.1	14.0	10.5	26.3	7.0	8.8	5.3	3.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
	視覚障害	42	11.9	11.9	7.1	4.8	23.8	2.4	9.5	9.5	7.1
	聴覚・平衡機能障害	40	32.5	7.5	10.0	5.0	5.0	5.0	10.0	22.5	2.5
	内部障害	80	18.8	33.8	18.8	5.0	8.8	6.3	13.8	5.0	2.5
	知的障害	57	8.8	8.8	0.0	0.0	12.3	14.0	5.3	3.5	1.8
	発達障害	83	22.9	25.3	14.5	8.4	13.3	27.7	18.1	19.3	1.2
	精神障害	162	32.1	40.1	18.5	11.1	13.6	19.8	19.1	16.7	2.5
	高次脳機能障害	9	44.4	22.2	11.1	0.0	44.4	0.0	0.0	22.2	0.0
	難病（特定疾病）	256	14.1	36.3	23.8	5.1	12.1	2.7	8.6	4.7	3.1
	その他	11	27.3	36.4	36.4	9.1	9.1	27.3	18.2	36.4	9.1

(単位:%)		n	周囲の目が気になる	自分の考えや思ったことを伝えられない	能力に応じた評価、昇進の仕組みがない	仕事の内容が合っていない	在宅勤務やオンライン化への対応が難しい	その他	特になし	無回答
年代別	全体	670	7.5	11.0	7.6	5.4	7.5	4.5	33.3	5.5
	18歳以上40歳未満	199	13.6	20.6	7.5	7.5	12.1	5.5	25.1	5.0
	40歳以上65歳未満	357	5.6	8.4	9.5	5.6	5.9	4.5	31.1	4.2
	65歳以上75歳未満	66	1.5	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0	53.0	12.1
	75歳以上	34	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	2.9	64.7	8.8
障害別	肢体不自由	57	3.5	5.3	3.5	5.3	10.5	1.8	33.3	7.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	6	0.0	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7
	視覚障害	42	11.9	9.5	2.4	2.4	7.1	2.4	42.9	7.1
	聴覚・平衡機能障害	40	2.5	7.5	10.0	2.5	12.5	2.5	35.0	7.5
	内部障害	80	2.5	5.0	5.0	3.8	3.8	2.5	41.3	7.5
	知的障害	57	12.3	22.8	3.5	3.5	8.8	1.8	45.6	5.3
	発達障害	83	18.1	39.8	7.2	15.7	18.1	7.2	25.3	1.2
	精神障害	162	10.5	17.3	16.7	9.9	9.3	6.2	21.6	6.8
	高次脳機能障害	9	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0
	難病（特定疾病）	256	4.3	3.1	3.5	3.1	6.6	3.9	32.0	3.9
	その他	11	27.3	18.2	0.0	9.1	18.2	9.1	36.4	9.1

年代別にみると、“75歳以上”を除く全ての年代では、「工作中的体調の変化に不安がある」が最も高くなっています。

また、“18歳以上～40歳未満”では「賃金や待遇面で不満がある」や「自分の考えや思ったことを伝えられない」が、“40歳以上～65歳未満”では「賃金や待遇面で不満がある」が2割を超えています。

障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”では「賃金や待遇面で不満がある」が3割を超えて最も高くなっています。

“視覚障害”では「通勤が大変である」が23.8%と最も高くなっています。

“知的障害”と“発達障害”では、「自分の考えや思ったことを伝えられない」がそれぞれ22.8%、39.8%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「工作中的体調の変化に不安がある」が最も高くなっています。

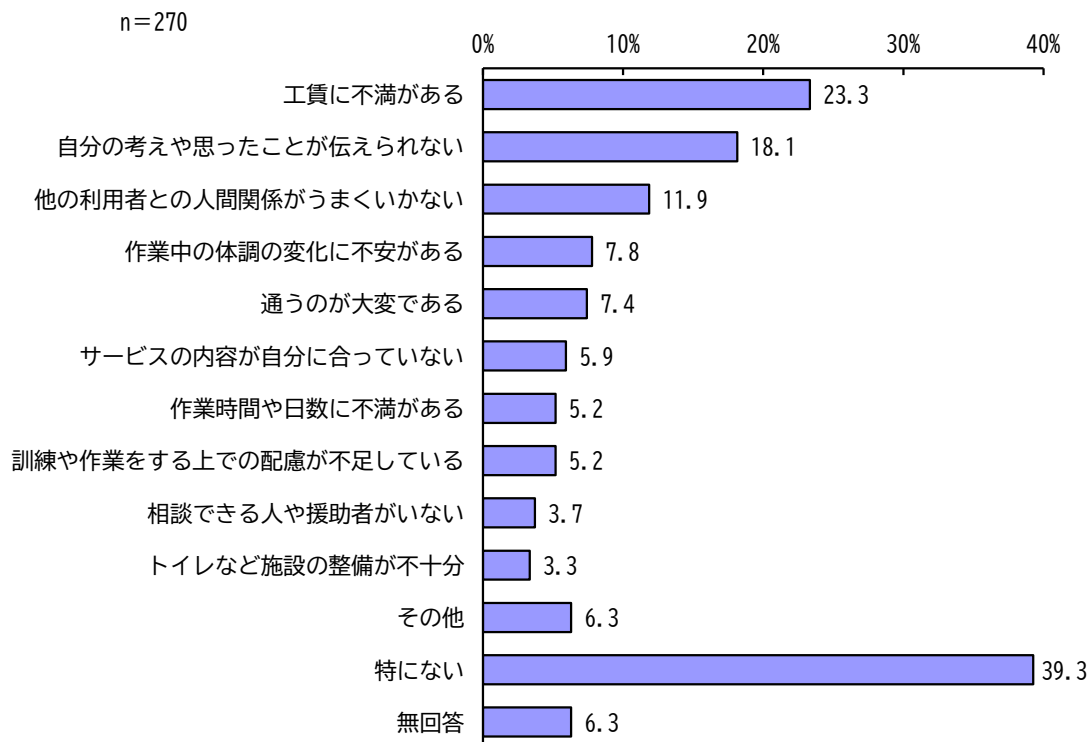
また、“聴覚・平衡機能障害”では「職場の障害理解が不足している」が、“発達障害”では「職場の人間関係がうまくいかない」が2割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(6) 福祉施設に通所する上で困っていること

問 26 で「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」と回答された方にお聞きします。

問 26-5 福祉施設に通所する上で困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)



福祉施設に通所する上で困っていることは、「工賃に不満がある」が 23.3%と2割を超えて最も高く、次いで「自分の考えや思ったことが伝えられない」が 18.1%、「他の利用者との人間関係がうまくいかない」が 11.9%と続いています。

一方、「特にない」は 39.3%と約4割を占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	サービスの 内容が自分 に合ってい ない	作業時間や 日数に不満 がある	工賃に不満 がある	訓練や作業 をする上で の配慮が不 足している	他の利用者 との人間関 係がうまく いかない	通うのが大 変である	トイレなど 施設の整備 が不十分
全体	270	5.9	5.2	23.3	5.2	11.9	7.4	3.3	
年代別	18歳以上40歳未満	104	8.7	7.7	22.1	5.8	12.5	7.7	2.9
	40歳以上65歳未満	103	4.9	3.9	33.0	4.9	14.6	7.8	3.9
	65歳以上75歳未満	22	4.5	4.5	4.5	9.1	9.1	9.1	4.5
	75歳以上	28	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0
障害別	肢体不自由	35	5.7	5.7	5.7	0.0	0.0	8.6	5.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	16	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	6.3	0.0
	視覚障害	13	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	15.4	0.0
	聴覚・平衡機能障害	10	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0
	内部障害	14	7.1	0.0	0.0	7.1	14.3	14.3	7.1
	知的障害	129	6.2	3.9	24.0	5.4	14.0	6.2	3.9
	発達障害	54	5.6	11.1	22.2	5.6	16.7	11.1	3.7
	精神障害	77	10.4	9.1	41.6	10.4	15.6	9.1	5.2
	高次脳機能障害	10	10.0	10.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	難病（特定疾病）	26	7.7	7.7	15.4	0.0	3.8	3.8	0.0
	その他	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0

(単位:%)		n	相談できる 人や援助者 がいない	作業中の体 調の変化に 不安がある	自分の考え や思ったこ とが伝えら れない	その他	特にな	無回答
全体	270	3.7	7.8	18.1	6.3	39.3	6.3	
年代別	18歳以上40歳未満	104	1.9	5.8	26.9	7.7	31.7	9.6
	40歳以上65歳未満	103	2.9	9.7	15.5	2.9	40.8	3.9
	65歳以上75歳未満	22	9.1	13.6	9.1	0.0	40.9	9.1
	75歳以上	28	10.7	3.6	7.1	7.1	64.3	0.0
障害別	肢体不自由	35	2.9	5.7	5.7	5.7	42.9	22.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	16	0.0	18.8	31.3	6.3	25.0	18.8
	視覚障害	13	15.4	0.0	0.0	0.0	38.5	7.7
	聴覚・平衡機能障害	10	20.0	10.0	30.0	0.0	30.0	0.0
	内部障害	14	0.0	0.0	7.1	21.4	42.9	0.0
	知的障害	129	0.8	9.3	27.9	7.0	33.3	7.8
	発達障害	54	1.9	11.1	22.2	11.1	29.6	5.6
	精神障害	77	5.2	11.7	13.0	6.5	32.5	1.3
	高次脳機能障害	10	0.0	10.0	30.0	10.0	40.0	0.0
	難病（特定疾病）	26	7.7	7.7	7.7	7.7	42.3	11.5
	その他	7	14.3	0.0	14.3	0.0	57.1	0.0

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」では、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が26.9%と2割半ばを超えて最も高くなっています。

「40歳以上～65歳未満」では、「工賃に不満がある」が33.0%と3割を超えて最も高くなっています。「65歳以上75歳未満」では「作業中の体調の変化に不安がある」が、「75歳以上」では「相談できる人や援助者がいない」が1割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、「肢体不自由」、「視覚障害」、「内部障害」では、「通うのが大変である」が最も高く、「視覚障害」では「工賃に不満がある」、「相談できる人や援助者がいない」、「内部障害」では「他の利用者との人間関係がうまくいかない」が最も高くなっています。

「音声・言語・そしゃく機能障害」、「聴覚・平衡機能障害」、「知的障害」、「発達障害」、「高次脳機能障害」では、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が最も高く、「発達障害」では「工賃に不満がある」が最も高くなっています。

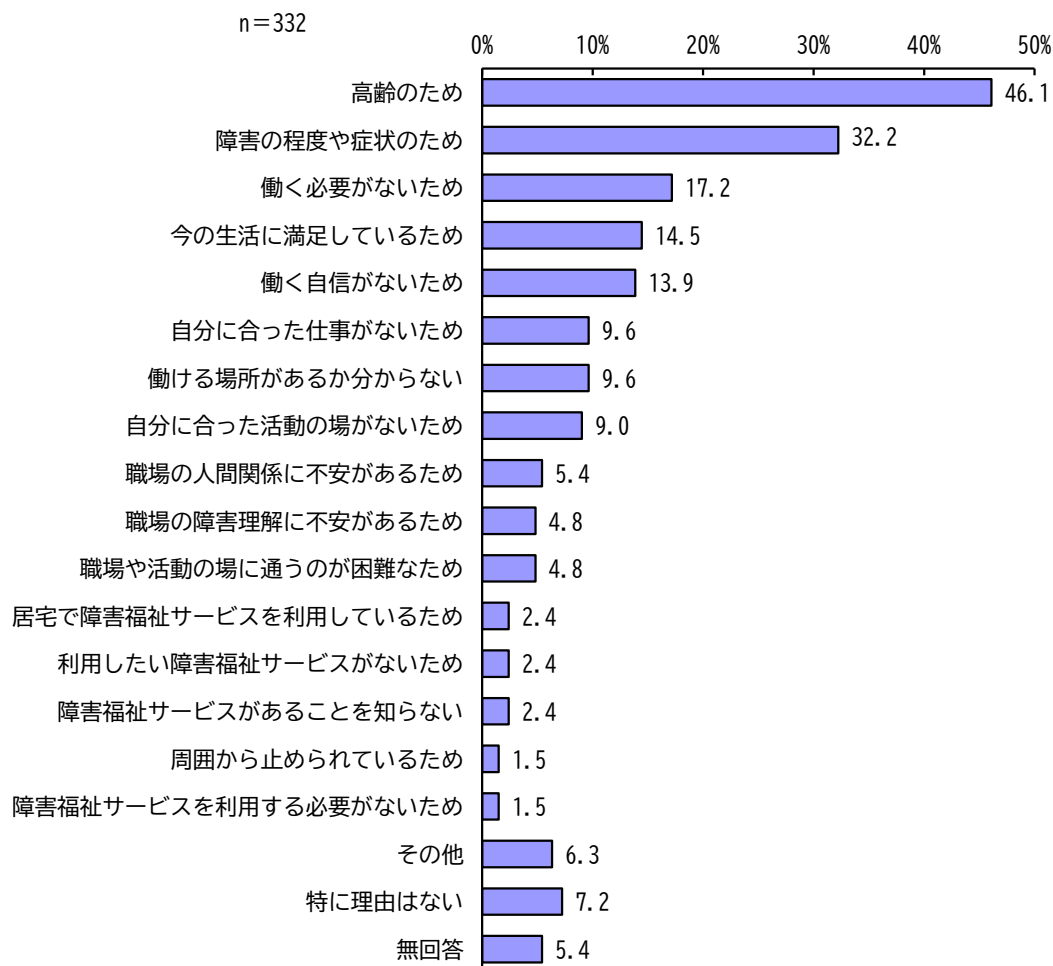
「精神障害」、「難病（特定疾病）」では、「工賃に不満がある」が最も高く、特に「精神障害」では4割を超えています。

(7) 就労や通所などをしていない理由

問 26 で「特に決まった予定はない」と回答された方にお聞きします。

問 26-6 あなたが就労や通所などをしていない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)



平日の日中に就労や通所などをしていない理由は、「高齢のため」が 46.1%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「障害の程度や症状のため」が 32.2%、「働く必要がないため」が 17.2%と続いています。

一方、「特に理由はない」は 7.2%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	障害の程度や症状のため	高齢のため	職場の人間関係に不安があるため	職場の障害理解に不安があるため	職場や活動の場に通うのが困難なため	周囲から止められているため	自分に合った仕事がないため	自分に合った活動の場がないため	働く自信がないため	働く必要がないため
(単位:%)											
全体	332	32.2	46.1	5.4	4.8	4.8	1.5	9.6	9.0	13.9	17.2
年代別											
18歳以上40歳未満	22	59.1	0.0	18.2	18.2	18.2	0.0	36.4	31.8	50.0	4.5
40歳以上65歳未満	72	56.9	5.6	18.1	16.7	15.3	2.8	22.2	15.3	27.8	4.2
65歳以上75歳未満	63	27.0	54.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9	9.5	12.7	23.8
75歳以上	164	18.9	65.9	0.6	0.0	0.6	1.2	1.2	3.0	3.7	20.1
障害別											
肢体不自由	74	37.8	52.7	1.4	0.0	0.0	2.7	4.1	5.4	5.4	18.9
音声・言語・そしゃく機能障害	18	61.1	77.8	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6	16.7
視覚障害	37	35.1	48.6	2.7	5.4	0.0	0.0	5.4	5.4	13.5	16.2
聴覚・平衡機能障害	38	23.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	2.6	5.3	15.8
内部障害	68	26.5	57.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	19.1
知的障害	10	20.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	20.0	10.0	30.0	0.0
発達障害	15	60.0	0.0	20.0	26.7	20.0	6.7	46.7	33.3	46.7	0.0
精神障害	70	54.3	17.1	18.6	14.3	18.6	2.9	21.4	20.0	30.0	4.3
高次脳機能障害	14	42.9	57.1	7.1	0.0	0.0	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1
難病（特定疾病）	92	23.9	48.9	0.0	1.1	1.1	3.3	5.4	5.4	8.7	21.7
その他	7	85.7	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	42.9	14.3	28.6

	n	働ける場所があるから分らない	居宅で障害福祉サービスを利用しているため	利用したい障害福祉サービスがないため	障害福祉サービスを利用する必要があるため	障害福祉サービスがあることを知らない	今の生活に満足しているため	その他	特に理由はない	無回答
(単位:%)										
全体	332	9.6	2.4	2.4	1.5	2.4	14.5	6.3	7.2	5.4
年代別										
18歳以上40歳未満	22	22.7	0.0	13.6	0.0	0.0	13.6	9.1	0.0	0.0
40歳以上65歳未満	72	22.2	2.8	0.0	0.0	5.6	6.9	13.9	8.3	6.9
65歳以上75歳未満	63	11.1	3.2	4.8	0.0	1.6	17.5	4.8	7.9	3.2
75歳以上	164	2.4	2.4	1.2	3.0	1.2	17.1	3.7	7.9	6.1
障害別										
肢体不自由	74	2.7	5.4	2.7	1.4	0.0	10.8	9.5	9.5	8.1
音声・言語・そしゃく機能障害	18	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6
視覚障害	37	8.1	2.7	5.4	2.7	5.4	10.8	5.4	0.0	8.1
聴覚・平衡機能障害	38	5.3	2.6	2.6	2.6	5.3	13.2	5.3	7.9	10.5
内部障害	68	2.9	1.5	0.0	1.5	0.0	19.1	2.9	11.8	4.4
知的障害	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0
発達障害	15	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0
精神障害	70	21.4	1.4	2.9	0.0	5.7	10.0	11.4	4.3	4.3
高次脳機能障害	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	14.3	7.1	7.1
難病（特定疾病）	92	10.9	4.3	2.2	1.1	2.2	21.7	7.6	7.6	1.1
その他	7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

年代別にみると、「18歳以上～40歳未満」と「40歳以上～65歳未満」では、「障害の程度や症状のため」が5割半ばを超えて最も高くなっています。

「65歳以上～75歳未満」と「75歳以上」では「高齢のため」が5割を超えて最も高くなっています。

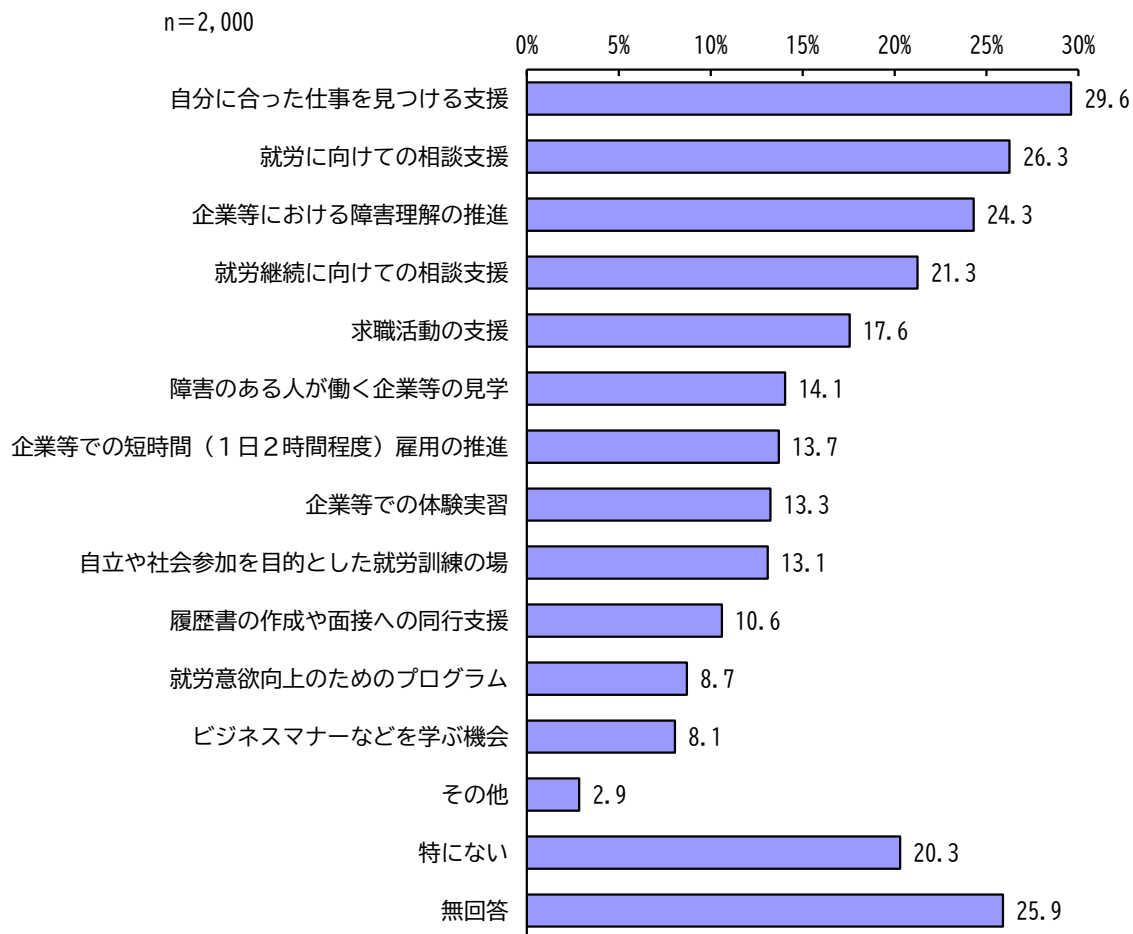
障害別にみると、「発達障害」と「精神障害」では「障害の程度や症状のため」が5割を超えて最も高く、「音声・言語・そしゃく機能障害」も6割を超えて高くなっています。

「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」では、「働く自信がないため」が他の障害よりも高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「高齢のため」が最も高くなっています。

(8) 就労のために希望する支援

問 27 障害者が一般就労するため希望する支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



一般就労のために希望する支援は、「自分に合った仕事を見つける支援」が 29.6%と約3割で最も高く、次いで「就労に向けての相談支援」が 26.3%、「企業等における障害理解の推進」が 24.3%、「就労継続に向けての相談支援」が 21.3%と2割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 20.3%と2割を占めています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)	n	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援
全体	2,000	26.3	21.3	14.1	13.3	13.1	8.7	17.6	29.6
年代別									
18歳以上40歳未満	393	42.7	40.2	30.3	28.0	22.6	14.8	28.5	46.8
40歳以上65歳未満	752	31.8	27.3	15.4	15.2	14.8	11.2	22.3	36.8
65歳以上75歳未満	297	17.8	10.1	6.7	6.1	9.4	3.4	12.8	19.5
75歳以上	499	10.4	4.0	3.6	3.4	5.2	2.8	4.6	11.8
障害別									
肢体不自由	283	21.6	15.9	9.5	7.4	11.0	3.9	12.0	20.8
音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	9.1	7.8	9.1	10.4	6.5	11.7	23.4
視覚障害	144	22.9	19.4	13.9	11.1	12.5	9.7	16.7	23.6
聴覚・平衡機能障害	146	17.8	13.7	13.7	11.6	10.3	6.8	11.0	19.9
内部障害	278	18.7	12.2	10.1	8.3	7.6	5.8	13.7	22.7
知的障害	231	32.5	33.3	22.9	26.4	20.3	13.9	19.5	41.1
発達障害	187	49.2	50.3	32.6	35.8	29.9	20.3	34.2	51.3
精神障害	464	37.9	34.1	20.3	18.1	14.9	14.2	25.4	42.7
高次脳機能障害	44	18.2	18.2	20.5	20.5	15.9	9.1	27.3	29.5
難病（特定疾病）	632	23.1	15.3	9.2	9.7	12.2	5.5	16.5	24.8
その他	35	14.3	20.0	17.1	22.9	14.3	11.4	11.4	22.9

(単位:%)	n	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間(1日2時間程度)雇用の推進	企業等における障害理解の推進	その他	特にない	無回答
全体	2,000	8.1	10.6	13.7	24.3	2.9	20.3	25.9
年代別								
18歳以上40歳未満	393	18.8	22.9	21.4	45.0	3.1	10.7	8.4
40歳以上65歳未満	752	9.0	12.6	16.5	28.9	4.3	18.2	14.5
65歳以上75歳未満	297	2.0	3.4	10.8	12.1	2.0	29.0	32.0
75歳以上	499	2.0	2.2	4.6	8.6	1.4	26.9	51.9
障害別								
肢体不自由	283	3.9	4.9	8.8	16.6	3.5	23.3	37.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	5.2	10.4	20.8	2.6	23.4	40.3
視覚障害	144	11.1	11.1	8.3	25.7	0.7	22.2	32.6
聴覚・平衡機能障害	146	2.7	4.8	11.6	19.2	1.4	20.5	38.4
内部障害	278	5.4	5.0	11.5	15.1	2.5	28.4	31.3
知的障害	231	10.0	16.0	16.5	36.8	0.9	13.9	19.0
発達障害	187	22.5	27.8	24.6	49.2	4.3	6.4	10.2
精神障害	464	12.3	19.4	21.6	34.3	6.9	14.0	13.1
高次脳機能障害	44	2.3	11.4	18.2	34.1	4.5	29.5	22.7
難病（特定疾病）	632	6.2	6.2	11.6	18.7	1.7	22.0	29.4
その他	35	17.1	11.4	11.4	28.6	2.9	37.1	20.0

年代別にみると、いずれの年代でも、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

“18歳以上40歳未満”では、「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「企業等における障害理解の推進」が4割を超えて、他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、“肢体不自由”では、「就労に向けての相談支援」が21.6%と最も高くなっています。

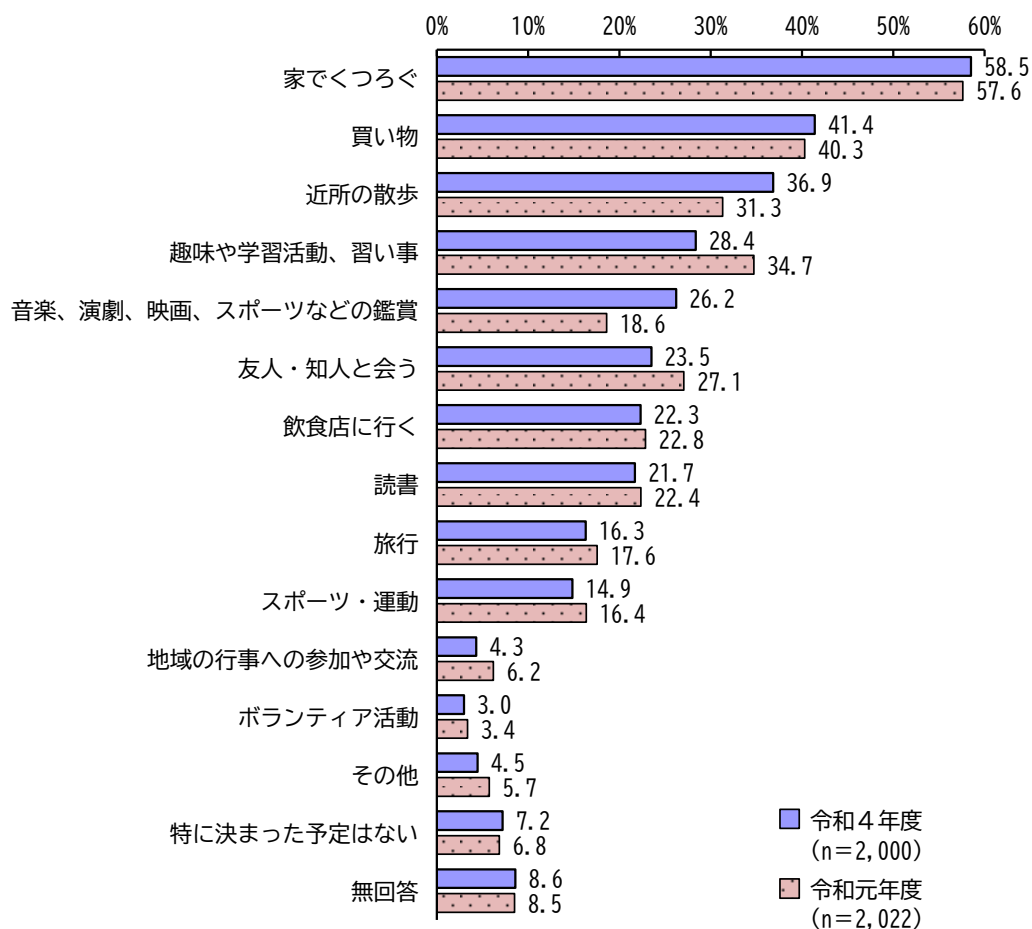
“視覚障害”と“高次脳機能障害”では、「企業等における障害理解の推進」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

また、“発達障害”はいずれの支援も希望する割合が2割を超えています。

(9) 休日の過ごし方

問 28 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 58.5%と 6 割近くで最も高く、次いで「買い物」が 41.4%、「近所の散歩」が 36.9%、「趣味や学習活動、習い事」が 28.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 7.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」が 7.6 ポイント、「近所の散歩」が 5.6 ポイント上がっており、反対に「趣味や学習活動、習い事」が 6.3 ポイント、「友人・知人と会う」が 3.6 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

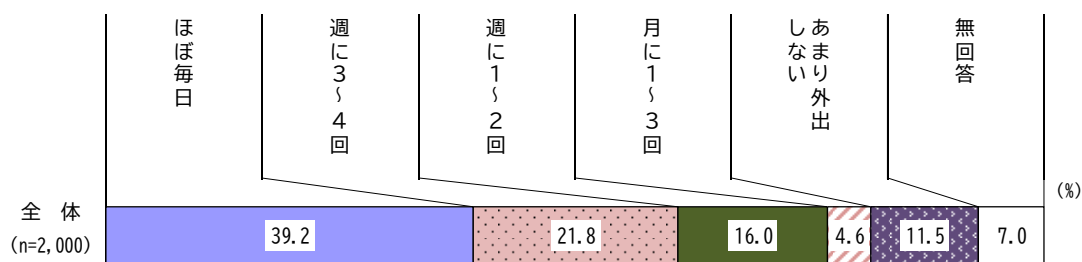
	n	趣味や学 習活動、習 い事	スポーツ・ 運動	ボランティ ア活動	友人・知人 と会う	音楽、演 劇、映画、 スポーツな どの鑑賞	買い物	飲食店に 行く	読書	
(単位:%)										
全体	2,000	28.4	14.9	3.0	23.5	26.2	41.4	22.3	21.7	
障害別	肢体不自由	283	17.3	7.4	3.2	18.7	18.7	28.3	15.5	19.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	11.7	6.5	1.3	10.4	13.0	24.7	18.2	14.3
	視覚障害	144	32.6	16.7	4.2	24.3	19.4	29.9	20.8	13.9
	聴覚・平衡機能障害	146	19.9	13.7	2.1	23.3	17.1	37.0	16.4	26.0
	内部障害	278	24.5	13.7	3.2	23.4	24.1	38.8	19.4	24.1
	知的障害	231	22.1	15.6	1.7	13.4	23.4	41.6	21.2	8.2
	発達障害	187	36.9	13.4	1.6	22.5	35.3	46.0	24.1	23.0
	精神障害	464	33.6	14.7	3.2	22.6	33.6	42.0	23.7	26.1
	高次脳機能障害	44	13.6	2.3	0.0	18.2	20.5	38.6	25.0	13.6
	難病（特定疾病）	632	31.5	17.6	2.8	29.3	26.3	45.3	28.0	24.7
	その他	35	31.4	5.7	0.0	17.1	22.9	37.1	20.0	11.4

	n	旅行	家でくつろぐ	地域の行 事への参 加や交流	近所の散 歩	その他	特に決 まった予 定はない	無回答	
(単位:%)									
全体	2,000	16.3	58.5	4.3	36.9	4.5	7.2	8.6	
障害別	肢体不自由	283	10.6	50.9	3.9	33.2	3.2	11.3	15.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	77	6.5	48.1	3.9	33.8	9.1	10.4	19.5
	視覚障害	144	15.3	47.9	6.3	29.2	4.2	7.6	14.6
	聴覚・平衡機能障害	146	15.1	53.4	6.2	28.8	4.1	10.3	13.7
	内部障害	278	13.3	53.2	4.0	36.0	3.6	11.9	10.8
	知的障害	231	13.0	72.3	6.9	36.4	7.4	1.3	5.6
	発達障害	187	16.6	69.5	5.3	39.0	6.4	5.3	2.7
	精神障害	464	13.4	61.9	3.2	36.2	6.7	5.6	5.6
	高次脳機能障害	44	13.6	63.6	2.3	31.8	4.5	4.5	15.9
	難病（特定疾病）	632	20.6	59.2	3.6	38.9	4.0	7.6	8.2
	その他	35	11.4	51.4	5.7	31.4	8.6	11.4	11.4

障害別にみると、いずれの障害も「家でくつろぐ」が最も高くなっています。また、“視覚障害”以外のいずれの障害でも、「買い物」と「近所の散歩」が上位3位以内に入っています。

(10) 外出の頻度

問 29 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が 39.2%と4割近くで最も高く、次いで「週に3~4回」が 21.8%、「週に1~2回」が 16.0%、「あまり外出しない」が 11.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

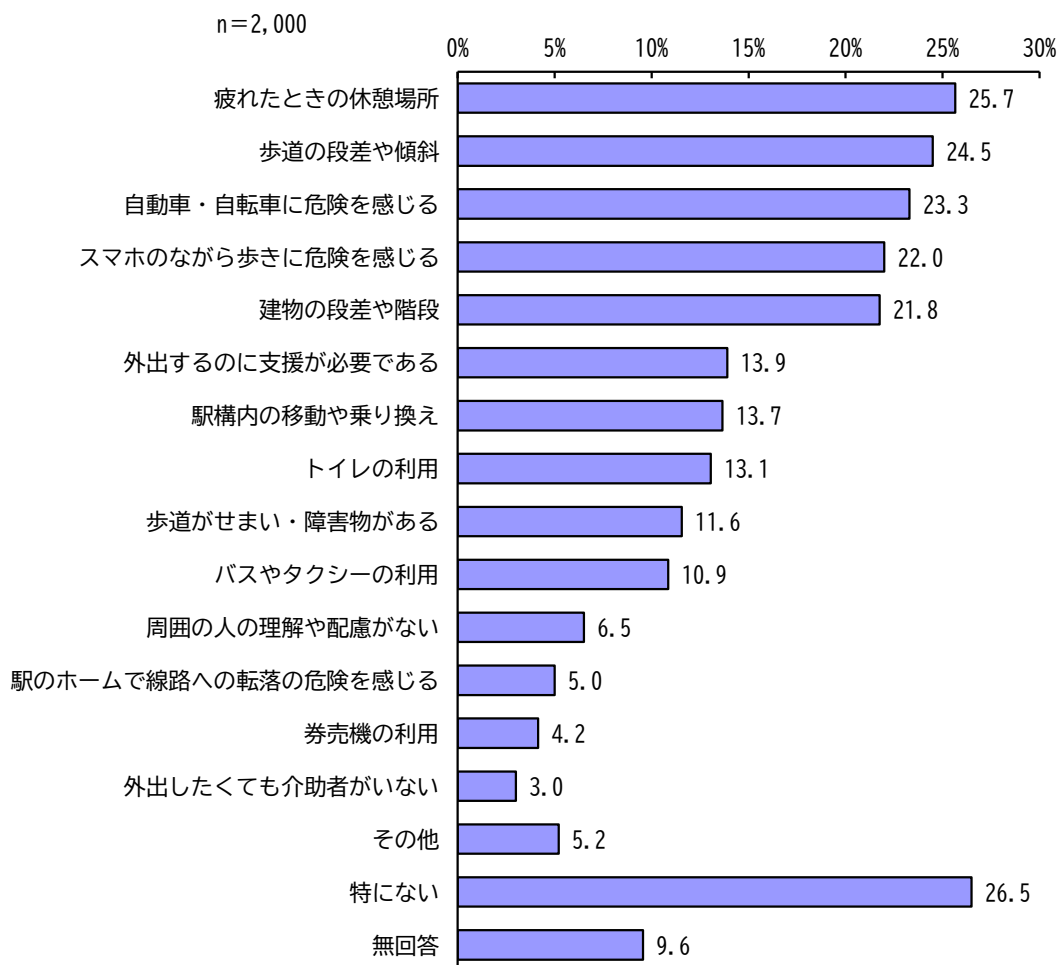
(単位:%)	n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体	2,000	39.2	21.8	16.0	4.6	11.5	7.0
障害別							
肢体不自由	283	26.5	20.8	17.7	9.2	14.1	11.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	23.4	27.3	11.7	6.5	13.0	18.2
視覚障害	144	35.4	18.1	17.4	6.3	12.5	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	32.9	21.2	19.9	3.4	13.0	9.6
内部障害	278	34.5	24.1	15.1	5.8	12.6	7.9
知的障害	231	53.7	8.2	16.9	4.8	11.3	5.2
発達障害	187	52.9	18.7	12.8	3.7	8.6	3.2
精神障害	464	39.4	21.6	15.7	4.5	14.0	4.7
高次脳機能障害	44	27.3	34.1	15.9	6.8	4.5	11.4
難病(特定疾病)	632	38.8	24.5	14.4	3.8	11.6	7.0
その他	35	28.6	20.0	14.3	11.4	17.1	8.6

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“高次脳機能障害”では、「週に3~4回」が最も高くなっています。

それ以外の障害では、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

(11) 外出時に困ること

問 30 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)



外出時に困ることは、「疲れたときの休憩場所」が 25.7%と最も高く、次いで「歩道の段差や傾斜」が 24.5%、「自動車・自転車に危険を感じる」が 23.3%、「スマホのながら歩きに危険を感じる」が 22.0%、「建物の段差や階段」が 21.8%と続いています。

一方、「特にない」は 26.5%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる
全体	2,000	24.5	21.8	10.9	13.7	4.2	13.1	11.6	25.7	23.3
障害別										
肢体不自由	283	50.5	45.9	23.0	23.7	6.4	25.8	22.3	31.4	29.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	35.1	26.0	19.5	11.7	5.2	26.0	18.2	28.6	26.0
視覚障害	144	54.9	47.2	14.6	32.6	17.4	20.8	42.4	19.4	50.7
聴覚・平衡機能障害	146	24.7	15.8	15.1	11.6	4.8	14.4	11.6	24.0	28.8
内部障害	278	29.1	29.1	11.9	14.7	2.9	17.6	11.2	33.1	19.8
知的障害	231	20.8	15.2	16.9	19.5	12.6	15.6	11.3	13.9	22.9
発達障害	187	7.5	8.6	10.7	12.8	7.0	7.5	7.0	20.3	23.0
精神障害	464	13.8	11.4	9.1	9.7	2.4	6.7	7.3	31.0	22.0
高次脳機能障害	44	43.2	40.9	13.6	25.0	9.1	20.5	22.7	43.2	45.5
難病（特定疾病）	632	25.5	22.2	8.9	11.7	1.7	15.3	10.3	26.9	20.3
その他	35	34.3	34.3	17.1	22.9	8.6	17.1	20.0	28.6	34.3

(単位:%)	n	スマホのながら歩きに危険を感じる	駅のホームで線路への転落の危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
全体	2,000	22.0	5.0	13.9	3.0	6.5	5.2	26.5	9.6
障害別									
肢体不自由	283	33.9	7.4	25.4	7.1	7.4	6.7	6.0	10.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	24.7	9.1	35.1	7.8	14.3	2.6	13.0	18.2
視覚障害	144	36.1	15.3	25.7	4.2	9.0	6.9	10.4	9.7
聴覚・平衡機能障害	146	24.0	4.8	11.6	2.1	7.5	7.5	19.2	12.3
内部障害	278	23.7	3.2	14.0	2.5	2.9	4.0	23.7	10.8
知的障害	231	20.3	8.2	39.0	8.2	16.9	4.3	23.4	10.0
発達障害	187	20.3	6.4	18.2	4.8	15.5	7.5	32.1	7.5
精神障害	464	18.3	5.4	8.4	1.9	10.1	9.3	29.5	9.5
高次脳機能障害	44	34.1	15.9	31.8	9.1	15.9	4.5	4.5	6.8
難病（特定疾病）	632	21.4	3.6	9.2	1.7	2.8	3.5	29.7	10.0
その他	35	40.0	5.7	22.9	11.4	25.7	5.7	17.1	8.6

障害別にみると、身体障害のある方では、「歩道の段差や傾斜」、「建物の段差や階段」、「自動車・自転車に危険を感じる」といった移動の際の困難が高い傾向にあり、特に“肢体不自由”では「歩道の段差や傾斜」が、“視覚障害”では「歩道の段差や傾斜」、「自動車・自転車に危険を感じる」で5割を超えています。

“内部障害”、“精神障害”、“難病（特定疾病）”では、「疲れたときの休憩場所」が最も高くなっています。また、“肢体不自由”と“高次脳機能障害”でも3割を超えています。

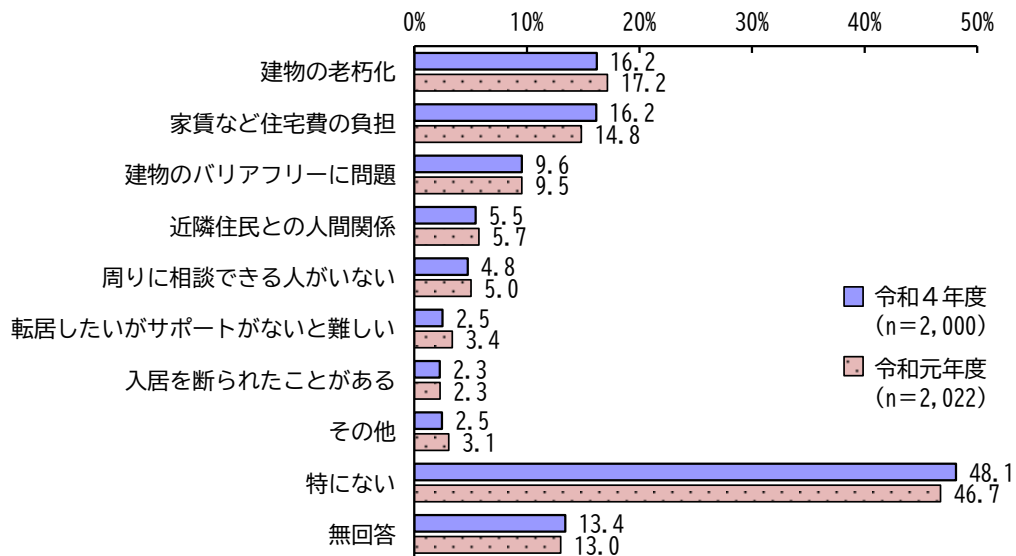
“聴覚・平衡機能障害”、“発達障害”、“高次脳機能障害”では、「自動車・自転車に危険を感じる」が最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“高次脳機能障害”では、「外出するのに支援が必要である」が3割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

6 住まいについて

(1) 住まいでの困りごと

問31 あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)



住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」がともに 16.2%で最も高く、次いで「建物のバリアフリーに問題」が9.6%と続いています。

一方、「特になし」は48.1%と4割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「建物の老朽化」が 1.0 ポイント下がり、「家賃など住宅費の負担」が 1.4 ポイント上がるなど、項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】同居家族別・障害別

(単位:%)	n	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートがないと難しい
全体	2,000	9.6	16.2	16.2	5.5	2.5
同居家族別						
家族等と同居	1,368	10.2	14.7	12.4	4.5	1.8
ひとり暮らし	495	9.3	23.0	27.7	8.1	4.0
グループホーム等での集団生活	61	3.3	1.6	3.3	3.3	0.0
その他	47	12.8	14.9	23.4	6.4	6.4
障害別						
肢体不自由	283	17.7	18.7	15.2	2.5	1.1
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	15.6	11.7	5.2	1.3
視覚障害	144	13.2	18.1	12.5	4.2	1.4
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	22.6	18.5	6.8	2.7
内部障害	278	15.1	17.6	16.2	1.4	0.7
知的障害	231	6.1	8.7	10.8	7.8	3.5
発達障害	187	4.8	17.6	19.8	16.0	9.1
精神障害	464	5.0	22.8	26.5	12.3	4.3
高次脳機能障害	44	9.1	18.2	18.2	4.5	0.0
難病（特定疾病）	632	10.8	14.7	13.0	1.9	1.3
その他	35	14.3	14.3	25.7	14.3	11.4

(単位:%)	n	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	その他	特にない	無回答
全体	2,000	4.8	2.3	2.5	48.1	13.4
同居家族別						
家族等と同居	1,368	3.3	0.9	1.8	52.4	13.8
ひとり暮らし	495	9.1	6.3	4.0	37.0	8.1
グループホーム等での集団生活	61	1.6	0.0	3.3	54.1	31.1
その他	47	6.4	2.1	2.1	34.0	19.1
障害別						
肢体不自由	283	3.9	1.4	2.5	40.6	18.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	1.3	3.9	45.5	27.3
視覚障害	144	4.2	2.8	2.1	45.8	17.4
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	2.1	2.1	38.4	16.4
内部障害	278	3.2	1.4	2.2	47.8	16.5
知的障害	231	5.6	1.7	2.6	58.4	14.7
発達障害	187	9.6	7.5	4.3	43.9	11.2
精神障害	464	9.5	4.5	4.3	36.6	8.8
高次脳機能障害	44	4.5	0.0	2.3	43.2	20.5
難病（特定疾病）	632	2.2	0.8	1.6	55.1	11.4
その他	35	17.1	2.9	5.7	28.6	25.7

同居家族別に見ると、“家族と同居”では、「建物の老朽化」が14.7%と最も高くなっています。

それ以外ではいずれも「家賃など住宅費の負担」が最も高くなっています。

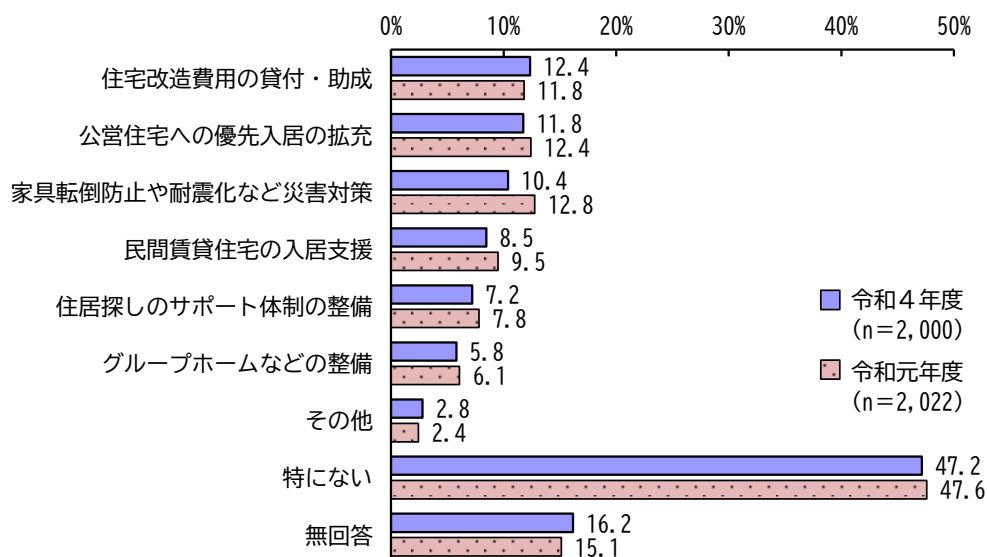
“ひとり暮らし”では、「建物の老朽化」が23.0%と他の住まいの人に比べ高くなっています。

障害別にみると、身体障害や難病（特定疾病）の方では、「建物のバリアフリーに問題」、「建物の老朽化」といった建物に対する問題が高い傾向にあり、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”では、「家賃など住宅費の負担」や「近隣住民との人間関係」といった住まいの条件に関する問題が高い傾向にあります。

“高次脳機能障害”では、「建物の老朽化」と「家賃など住宅費の負担」が最も高くなっています。

(2) 住まいに必要な支援

問 32 あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。
(あてはまるものすべてに○)



住まいに必要な支援は、「住宅改造費用の貸付・助成」が12.4%と最も高く、「公営住宅への優先入居の拡充」が11.8%、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が10.4%と1割台が続いています。

一方、「特にない」は47.2%と4割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が2.4ポイント下がっているなど、項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向はあまり変化がありません。

【クロス集計】同居家族別・障害別

(単位:%)	n	住宅改造費用の貸付・助成	家具転倒防止や耐震化など災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅の入居支援	グループホームなどの整備
全体	2,000	12.4	10.4	11.8	8.5	5.8
同居家族別						
家族等と同居	1,368	13.7	11.5	8.6	6.0	6.6
ひとり暮らし	495	10.1	8.9	21.4	14.9	2.0
グループホーム等での集団生活	61	0.0	3.3	4.9	1.6	21.3
その他	47	21.3	8.5	14.9	19.1	6.4
障害別						
肢体不自由	283	17.3	13.4	11.7	7.4	4.6
音声・言語・そしゃく機能障害	77	10.4	14.3	10.4	3.9	11.7
視覚障害	144	11.8	10.4	9.7	9.7	4.9
聴覚・平衡機能障害	146	13.0	9.6	10.3	4.1	2.7
内部障害	278	14.7	9.7	10.1	5.0	2.2
知的障害	231	6.9	7.4	11.3	6.1	29.0
発達障害	187	9.1	12.3	16.0	14.4	16.6
精神障害	464	12.3	10.3	20.9	16.8	5.4
高次脳機能障害	44	11.4	20.5	13.6	6.8	4.5
難病（特定疾病）	632	14.4	10.0	6.5	4.9	1.7
その他	35	5.7	0.0	11.4	2.9	2.9

(単位:%)	n	住居探しのサポート体制の整備	その他	特にない	無回答
全体	2,000	7.2	2.8	47.2	16.2
同居家族別					
家族等と同居	1,368	5.9	1.6	49.5	16.4
ひとり暮らし	495	11.1	6.1	42.2	11.7
グループホーム等での集団生活	61	6.6	1.6	44.3	27.9
その他	47	6.4	4.3	36.2	19.1
障害別					
肢体不自由	283	6.4	0.7	36.4	23.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	2.6	35.1	29.9
視覚障害	144	4.9	0.7	47.9	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	7.5	2.7	44.5	24.7
内部障害	278	5.0	2.9	47.1	19.1
知的障害	231	10.4	2.2	40.3	17.3
発達障害	187	18.2	8.0	39.0	11.8
精神障害	464	12.5	6.0	39.4	10.1
高次脳機能障害	44	2.3	0.0	47.7	15.9
難病（特定疾病）	632	2.5	1.7	56.0	14.4
その他	35	5.7	8.6	45.7	25.7

同居家族別に見ると、“家族と同居”では、「住宅改造費用の貸付・助成」が最も高くなっています。“ひとり暮らし”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が21.4%と2割を超えて、他の住まいの人に比べ高くなっています。

“グループホーム等での集団生活”では、「グループホームなどの整備」が21.3%と2割を超えて、他の住まいの人に比べ高くなっています。

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“高次脳機能障害”では、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が最も高くなっています。

“精神障害”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が最も高くなっています。

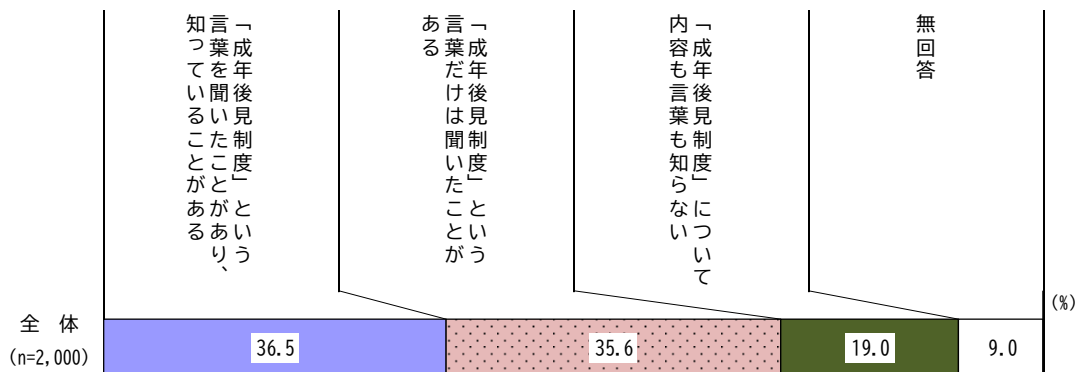
“知的障害”では「グループホームなどの整備」が、“発達障害”では「住居探しのサポート体制の整備」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「住宅改造費用の貸付・助成」が最も高くなっています。

7 権利擁護・差別解消について

(1) 成年後見制度の認知度

問 33 成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)



成年後見制度の認知度について、「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」が36.5%、「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が35.6%と3割半ばを超えており、二つ合わせた『「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある』は7割を超えています。

一方、「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」は19.0%と2割近くを占めています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある	「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある	「成年後見制度」について内容も言葉も知らない	無回答
全体	2,000	36.5	35.6	19.0	9.0
障害別					
肢体不自由	283	43.5	28.3	16.6	11.7
音声・言語・そしゃく機能障害	77	33.8	35.1	11.7	19.5
視覚障害	144	43.8	27.8	15.3	13.2
聴覚・平衡機能障害	146	37.7	31.5	20.5	10.3
内部障害	278	34.2	39.2	15.1	11.5
知的障害	231	30.3	29.0	33.3	7.4
発達障害	187	31.0	41.7	24.6	2.7
精神障害	464	33.6	39.0	22.6	4.7
高次脳機能障害	44	47.7	34.1	9.1	9.1
難病(特定疾病)	632	41.1	38.0	11.7	9.2
その他	35	37.1	22.9	22.9	17.1

障害別にみると、いずれの障害も「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」は3割を超えており、“肢体不自由”、“視覚障害”、“高次脳機能障害”、“難病(特定疾病)”では4割を超えています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“発達障害”、“精神障害”では、「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が最も高くなっています。

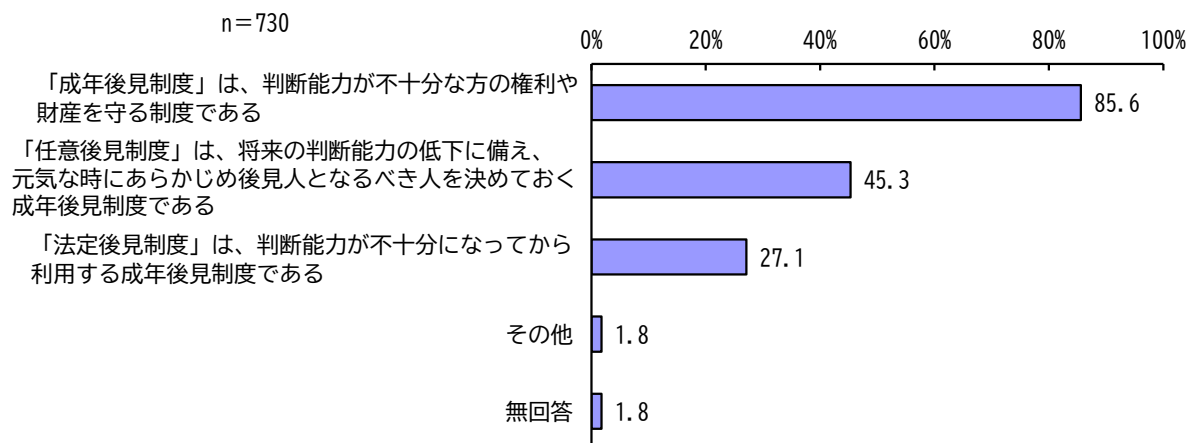
“知的障害”では「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」が33.3%と最も高くなっています。

(2) 成年後見制度について知っていること

問 33 で「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問 33-1 成年後見制度について知っていることをお答えください。

(あてはまるものすべてに○)



成年後見制度について知っていることは、「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が 85.6%と 8割半ばを超えて最も高く、次いで「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である」が 45.3%と、「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である」が 27.1%と続いています。

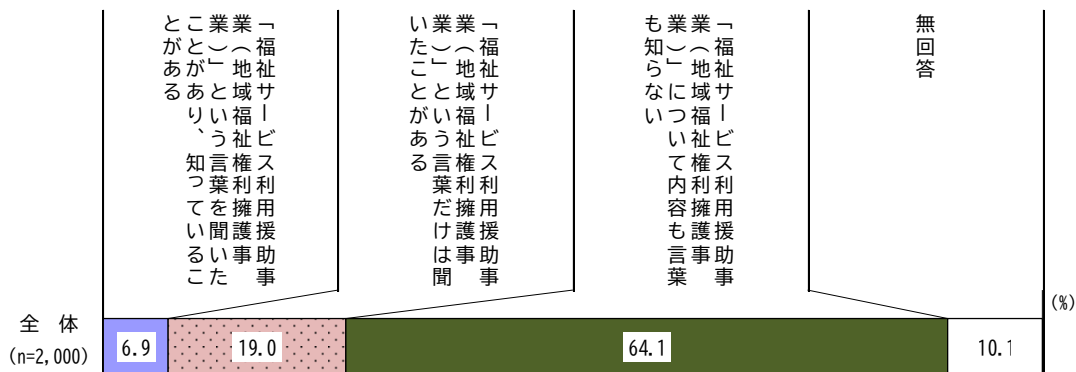
【クロス集計】障害別

	n	「成年後見制度」 は、判断能力が 不十分な方の権 利や財産を守る 制度である	「法定後見制度」 は、判断能力が 不十分になっ てから利用する 成年後見制度で ある	「任意後見制度」 は、将来の判断能 力の低下に備え、 元気な時にあらか じめ後見人となる べき人を決めてお く成年後見制度で ある	その他	無回答
(単位:%)						
全体	730	85.6	27.1	45.3	1.8	1.8
障害別						
肢体不自由	123	84.6	26.8	41.5	2.4	2.4
音声・言語・そしゃく機能障害	26	84.6	26.9	42.3	0.0	7.7
視覚障害	63	81.0	30.2	44.4	1.6	6.3
聴覚・平衡機能障害	55	89.1	34.5	49.1	0.0	0.0
内部障害	95	86.3	30.5	52.6	2.1	2.1
知的障害	70	82.9	18.6	47.1	2.9	1.4
発達障害	58	84.5	20.7	46.6	3.4	0.0
精神障害	156	83.3	25.0	47.4	1.3	1.3
高次脳機能障害	21	76.2	23.8	57.1	0.0	4.8
難病（特定疾病）	260	88.5	26.9	42.7	2.3	1.2
その他	13	46.2	0.0	23.1	15.4	15.4

障害別にみると、いずれの障害も「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が最も高く、“高次脳機能障害”と“難病（特定疾病）”を除くすべての障害で8割を超えています。

(3) 福祉サービス利用援助事業の認知度

問 34 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)の認知度について、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることあり、知っていることある」が6.9%、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけ聞いたことがある」が19.0%となっており、この二つを合わせた『福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉を知っていることある』は2割半ばを超えています。

一方、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」は64.1%と6割半ば近くを占めています。

【クロス集計】障害別

	n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることあり、知っていることある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけ聞いたことがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない	無回答
(単位:%)					
全体	2,000	6.9	19.0	64.1	10.1
障害別					
肢体不自由	283	8.5	19.1	56.9	15.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	3.9	19.5	61.0	15.6
視覚障害	144	10.4	16.7	57.6	15.3
聴覚・平衡機能障害	146	6.2	19.2	61.0	13.7
内部障害	278	9.4	24.8	54.7	11.2
知的障害	231	8.7	16.5	63.6	11.3
発達障害	187	4.3	17.6	72.7	5.3
精神障害	464	5.6	13.8	75.0	5.6
高次脳機能障害	44	9.1	22.7	56.8	11.4
難病(特定疾病)	632	5.7	20.3	63.3	10.8
その他	35	11.4	11.4	57.1	20.0

障害別にみると、いずれの障害も「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」が5割を超えて最も高くなっています。

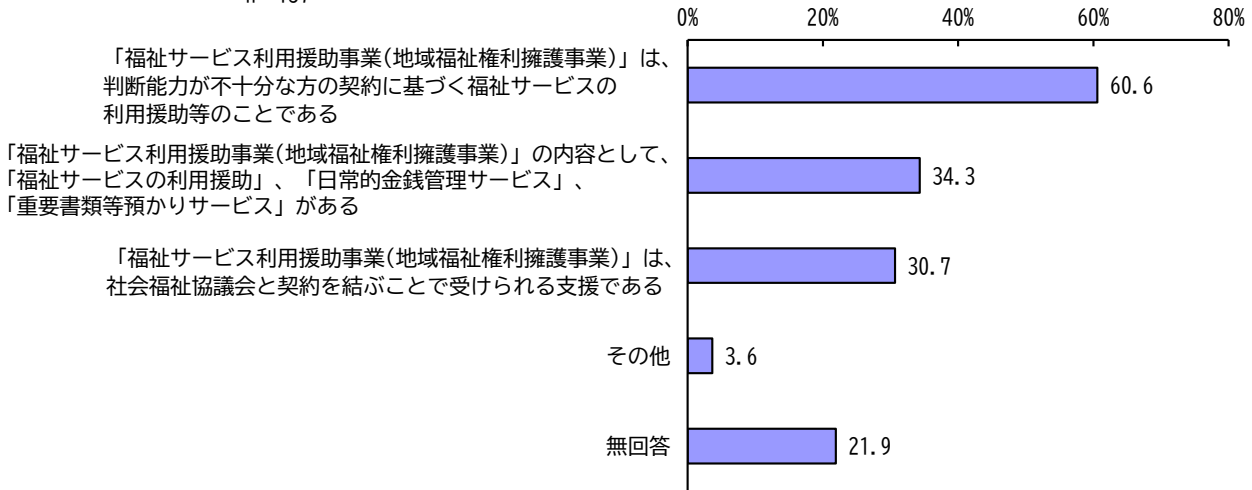
“視覚障害”では、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることあり、知っていることある」が1割を超えています。

(4) 福祉サービス利用援助事業について知っていること

問 34 で「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問 34-1 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

n=137



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることは、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」が 60.6%と6割を超えて最も高く、次いで「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある」が 34.3%と、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である」が 30.7%と続いています。

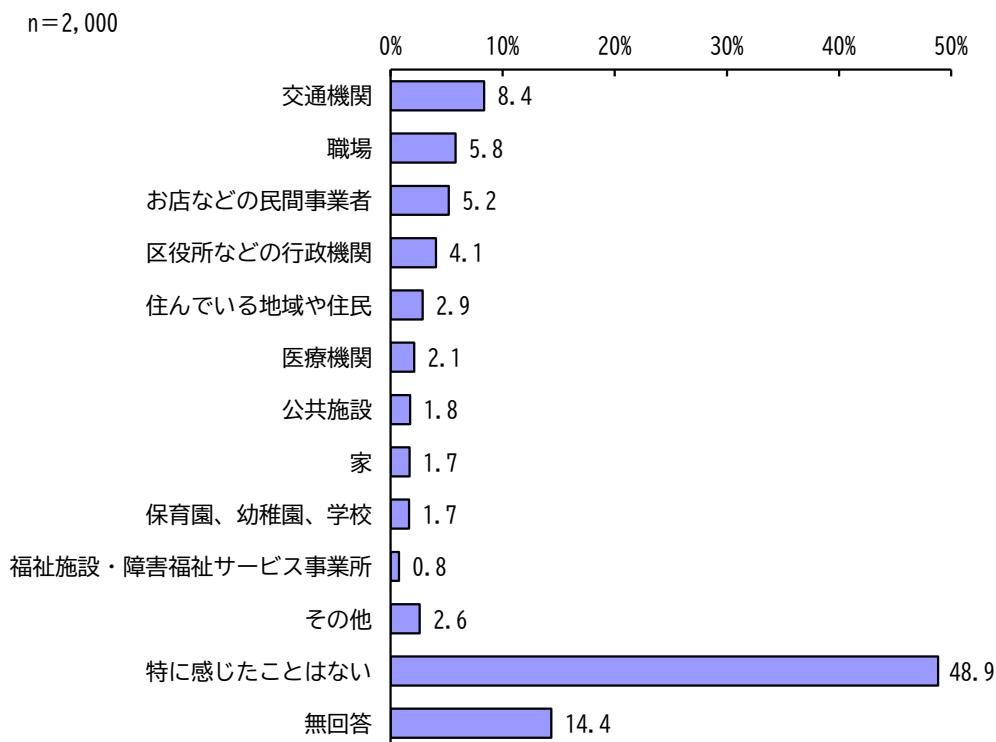
【クロス集計】 障害別

	n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である	その他	無回答
(単位:%)						
全体	137	60.6	34.3	30.7	3.6	21.9
障害別						
肢体不自由	24	66.7	29.2	25.0	8.3	16.7
音声・言語・そしゃく機能障害	3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3
視覚障害	15	66.7	53.3	60.0	6.7	13.3
聴覚・平衡機能障害	9	55.6	22.2	22.2	0.0	33.3
内部障害	26	46.2	30.8	15.4	3.8	38.5
知的障害	20	65.0	30.0	40.0	0.0	20.0
発達障害	8	87.5	50.0	25.0	0.0	0.0
精神障害	26	76.9	26.9	30.8	3.8	15.4
高次脳機能障害	4	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0
難病(特定疾病)	36	61.1	36.1	30.6	5.6	22.2
その他	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0

障害別にみると、回答数が10件以上の障害ではいずれも、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」が最も高く、「内部障害」を除くいずれの障害でも6割を超えています。

(5) 地域で差別を感じる場面

問 35 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「交通機関」が8.4%と最も高く、次いで「職場」が5.8%、「お店などの民間事業者」が5.2%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は48.9%と5割近くを占めています。

【クロス集計】障害別

	n	家	職場	福祉施設・ 障害福祉 サービス事 業所	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
(単位:%)								
全体	2,000	1.7	5.8	0.8	5.2	2.9	1.8	4.1
障害別								
肢体不自由	283	1.8	2.1	0.4	7.8	2.5	1.4	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	5.2	1.3	1.3	6.5	3.9	2.6	2.6
視覚障害	144	2.1	1.4	0.7	7.6	0.7	2.1	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	1.4	4.1	0.0	10.3	1.4	1.4	2.7
内部障害	278	1.1	3.2	0.4	4.7	2.2	1.8	2.2
知的障害	231	0.9	4.3	1.7	6.5	3.5	3.9	2.6
発達障害	187	3.2	9.6	2.7	4.8	7.0	3.7	4.8
精神障害	464	4.3	11.9	1.1	4.1	5.8	0.9	5.4
高次脳機能障害	44	0.0	9.1	2.3	11.4	2.3	2.3	2.3
難病(特定疾病)	632	1.1	4.6	0.3	5.9	0.9	2.1	4.4
その他	35	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	0.0	0.0

	n	医療機関	交通機関	保育園、幼 稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	2.1	8.4	1.7	2.6	48.9	14.4
障害別							
肢体不自由	283	0.7	11.7	1.1	2.1	44.5	20.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	7.8	2.6	1.3	40.3	23.4
視覚障害	144	0.7	7.6	1.4	3.5	44.4	21.5
聴覚・平衡機能障害	146	4.8	5.5	0.7	2.1	52.1	13.7
内部障害	278	1.8	8.3	0.4	1.8	55.0	17.3
知的障害	231	2.6	8.7	4.8	2.2	39.4	19.0
発達障害	187	3.2	9.1	3.2	4.8	35.3	8.6
精神障害	464	3.7	8.0	0.4	3.9	40.5	10.1
高次脳機能障害	44	2.3	9.1	0.0	2.3	43.2	13.6
難病(特定疾病)	632	0.8	9.5	2.1	2.2	52.4	13.8
その他	35	5.7	5.7	2.9	11.4	25.7	20.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「交通機関」が、“聴覚・平衡機能障害”と“高次脳機能障害”では「お店などの民間事業者」が、“精神障害”では「職場」がそれぞれ1割を超えています。

(6) 地域に求める合理的配慮

問 36 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

地域に求める合理的配慮についての意見は258件ありました。「障害理解・思いやり・偏見の排除」についての意見が22.5%と最も多く、次いで「交通事情・バリアフリー」が16.3%、「行政・各種手続き」が14.0%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	障害理解・思いやり・偏見の排除	交通事情・バリアフリー	行政・各種手続き	アクセシビリティ・テクノロジーの活用	情報周知・啓発	福祉サービス	雇用・就労	休憩・トイレ	経済事情・経済的支援	将来の生活	その他
合理的配慮	258	22.5	16.3	14.0	8.1	8.1	8.1	6.6	3.9	3.5	1.6	7.4

◆主な意見 (内容は要約・省略しています)

1. 障害理解・思いやり・偏見の排除 (58件)

- ・障害者を完全なる弱者と決めつけるのではなく、一部に配慮を要する人として認識して、できない部分は補いつつ、できる部分はできる部分として尊重してほしい。個人の尊厳として必要なことだと思う。
- ・より多くの人に関心をもってもらいたい。
- ・病気について理解してもらい、配慮してほしい。
- ・パニックを起こしたときに、偏見の目で見るとのをやめてほしい。

2. 交通事情・バリアフリー (42件)

- ・社会的弱者に対する地域(行政機関、民間事業者、住民等)の配慮が足りていない。視覚障害者に対する歩道の黄色のブロックや点字、聴覚障害者に対する横断歩道の音楽(チャイム)、車イスの方の公共交通機関の配慮など。
- ・飲食店等でバリアフリーになっていない所が多々ある。階段利用が不自由だが、手すりがなかったり、エレベーターもないところがある。交通機関でエレベーターを利用するには、かなり遠回りしなければならないことも多い。

3. 行政・各種手続き (36件)

- ・行政機関を利用する際、聴覚過敏があるので、周囲が気になる時は個室等静かな場所を利用させてほしい。口頭での説明は聞き取りや記憶が難しいこともあるので、そのような時は丁寧に説明してほしい。きちんとメモが取れるまで待ってほしい。
- ・難病申請や更新手続きが煩雑で病院からいただく診断書も有料(しかも高め)なので、毎年億劫です。

4. アクセシビリティ・テクノロジーの活用 (21件)

- ・行政機関で電話予約や直接の訪問が必要とされることが多いが、音声でのコミュニケーションが困難、移動のハードルが高いなどがあるので、メール文章での対応が広がってほしい。
- ・病院等への問い合わせ手段が電話しかない、非常に音質が悪いことがある。公的側面の強い機関ではテキストチャットやメール、SMSなどの代替手段を常に備えてほしい。

5. 情報周知・啓発 (21件)

- ・合理的配慮という言葉の周知。
- ・ヘルプマーク、ヘルプカードの周知、啓発を徹底してほしい。
- ・個別性が高いのはわかるが、合理的配慮の基準が分かりづらい。

6. 福祉サービス (21件)

- ・デイサービスに通っている者ですが、福祉サービスをして頂くのは大変ありがたいのですが、福祉施設で働く人たちを見ていると経営ギリギリで忙しそうです。その事も考えて頂けると良いかなと思っています。
- ・福祉関係で人手が足りないことで、支援の回数や場が制限されることが多いため、希望が通らないことが多い。

7. 雇用・就労 (17件)

- ・職場に対して、障害の程度に応じた目標管理と業務内容、残業の扱い（今は健常者と同じレベルで実施しています）。
- ・仕事（障害を公表して）に就くことへのハードルが高い。賃金も安く、障がい隠してアルバイトや派遣をした方がいい気がしてしまう。

8. 休憩・トイレ (10件)

- ・誰でもトイレに一般の人が入っていたり、誰でもトイレが無い場所や、公園だとトイレすら無い所もある。トイレは障害や病気にかかわらず、誰もが使うものなので、公共の場の整備はしてほしい。
- ・町中にちょっと休めるベンチがほしい。

9. 経済事情・経済的支援 (9件)

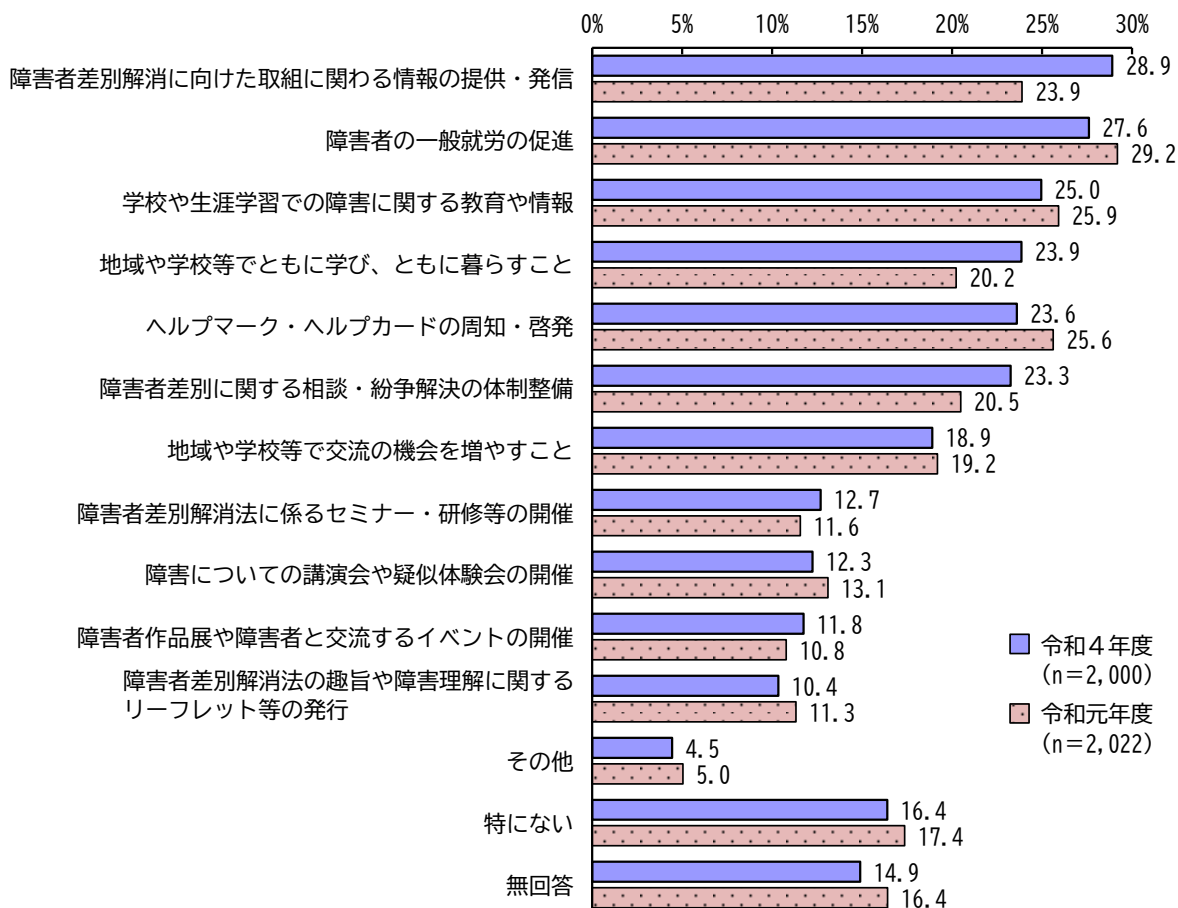
- ・特に労働者世代における年金保険料の低減。
- ・東京メトロの障害者無料サービス。タクシー料金の半額化。家賃補助給付金。

10. 将来の生活 (4件)

- ・自立するための住まい（グループホーム）を増やしてほしい。できれば作業所を続けたいので通所できる場所を希望する。（場所が変わると慣れるまでとても時間がかかるため）
- ・保護者亡き後、本人がスムーズに生活を送れるようにサポートしてくれると安心します。例えばもし両親兄弟が亡くなって1人になった時、文京区役所のここに電話すれば相続の手続きなど任せてできるシステムがあるとありがたいです。

(7) 差別解消に必要なこと

問 37 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんでしょうか。
(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が28.9%と約3割で最も高く、次いで「障害者の一般就労の促進」が27.6%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が25.0%と続いています。

一方、「特にない」は16.4%となっています。

令和元年度と比較すると、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が5.0ポイント、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が3.7ポイント、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が2.8ポイント上がっており、反対に「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が2.0ポイント、「障害者の一般就労の促進」が1.6ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信	障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
全体	2,000	23.3	28.9	12.7	10.4	11.8	18.9	23.9
障害別								
肢体不自由	283	18.7	28.6	11.7	9.9	12.4	17.3	20.8
音声・言語・そしゃく機能障害	77	27.3	32.5	13.0	10.4	11.7	16.9	26.0
視覚障害	144	27.8	31.3	16.7	16.7	15.3	22.2	25.0
聴覚・平衡機能障害	146	19.2	32.2	15.1	15.1	8.2	17.8	23.3
内部障害	278	19.4	27.7	9.4	9.0	9.4	15.5	17.6
知的障害	231	22.9	27.7	13.9	14.7	19.5	29.9	36.8
発達障害	187	36.9	42.8	23.5	16.6	17.1	29.9	34.8
精神障害	464	28.9	31.0	15.9	11.0	11.0	13.1	19.8
高次脳機能障害	44	11.4	20.5	4.5	2.3	11.4	13.6	22.7
難病（特定疾病）	632	22.9	29.1	10.8	9.2	10.3	21.5	25.6
その他	35	20.0	22.9	25.7	14.3	11.4	20.0	17.1

(単位:%)	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特にない	無回答
全体	2,000	25.0	12.3	27.6	23.6	4.5	16.4	14.9
障害別								
肢体不自由	283	21.2	13.8	21.6	21.2	4.2	13.1	24.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	26.0	13.0	16.9	18.2	3.9	7.8	22.1
視覚障害	144	29.9	16.7	27.1	23.6	4.2	17.4	17.4
聴覚・平衡機能障害	146	19.9	11.6	28.1	24.7	2.7	19.9	16.4
内部障害	278	21.6	6.5	24.5	25.9	2.9	20.9	17.3
知的障害	231	30.3	16.5	29.4	25.5	2.2	14.3	12.6
発達障害	187	40.6	18.7	43.3	28.9	9.1	12.3	4.3
精神障害	464	22.4	14.0	34.3	22.6	8.8	14.7	11.2
高次脳機能障害	44	22.7	9.1	22.7	22.7	2.3	15.9	18.2
難病（特定疾病）	632	29.3	10.8	24.5	25.3	3.6	14.1	15.2
その他	35	22.9	8.6	22.9	22.9	17.1	17.1	25.7

障害別にみると、身体障害のある方では、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が2割半ばを超えて最も高くなっています。また、「発達障害」でも4割を超えています。

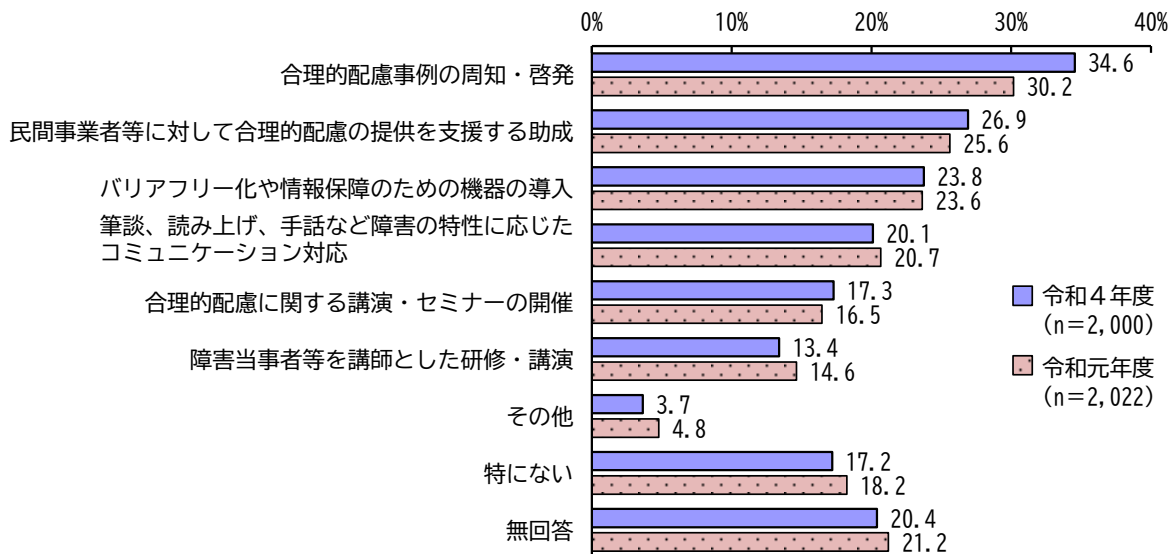
“知的障害”と“発達障害”では、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が3割半ば前後で高くなっています。

“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が最も高くなっており、“発達障害”でも4割を超えています。

“発達障害”、“精神障害”、“高次脳機能障害”では、「障害者の一般就労の促進」が最も高く、特に“発達障害”では4割を超えて他の障害よりも高くなっています。

(8) 合理的配慮に必要なこと

問 38 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われませんか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 34.6%と3割半ば近くで最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 26.9%、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が 23.8%と続いています。

一方、「特にない」は 17.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「合理的配慮事例の周知・啓発」が4.4ポイント上がっています。それ以外の項目ごとに増減はありますが、全体的な傾向については、大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体	2,000	17.3	34.6	20.1	23.8	13.4
障害別						
肢体不自由	283	14.5	25.4	16.3	31.4	10.2
音声・言語・そしゃく機能障害	77	13.0	27.3	27.3	22.1	15.6
視覚障害	144	18.1	34.0	26.4	36.1	16.7
聴覚・平衡機能障害	146	17.1	29.5	36.3	28.8	9.6
内部障害	278	13.3	32.7	17.3	26.3	8.3
知的障害	231	19.5	36.4	20.8	16.5	13.0
発達障害	187	29.4	48.1	30.5	21.9	23.0
精神障害	464	21.6	38.6	14.2	15.7	19.0
高次脳機能障害	44	13.6	18.2	18.2	29.5	9.1
難病（特定疾病）	632	14.7	38.8	22.5	28.2	10.9
その他	35	31.4	42.9	14.3	25.7	25.7

(単位:%)	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特にない	無回答
全体	2,000	26.9	3.7	17.2	20.4
障害別					
肢体不自由	283	20.5	3.2	12.7	30.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	18.2	3.9	11.7	33.8
視覚障害	144	25.0	4.2	16.7	20.8
聴覚・平衡機能障害	146	24.7	1.4	14.4	24.7
内部障害	278	23.7	1.8	18.7	24.5
知的障害	231	30.3	1.3	19.5	20.3
発達障害	187	42.8	5.3	13.9	12.3
精神障害	464	30.2	7.5	19.4	15.9
高次脳機能障害	44	11.4	2.3	11.4	36.4
難病（特定疾病）	632	30.9	3.6	13.3	18.2
その他	35	25.7	14.3	25.7	22.9

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“聴覚・平衡機能障害”では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が最も高く、“視覚障害”と“発達障害”でも2割半ばを超えて他の障害よりも高くなっています。

“肢体不自由”、“視覚障害”、“高次脳機能障害”では、「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」が最も高くなっています。

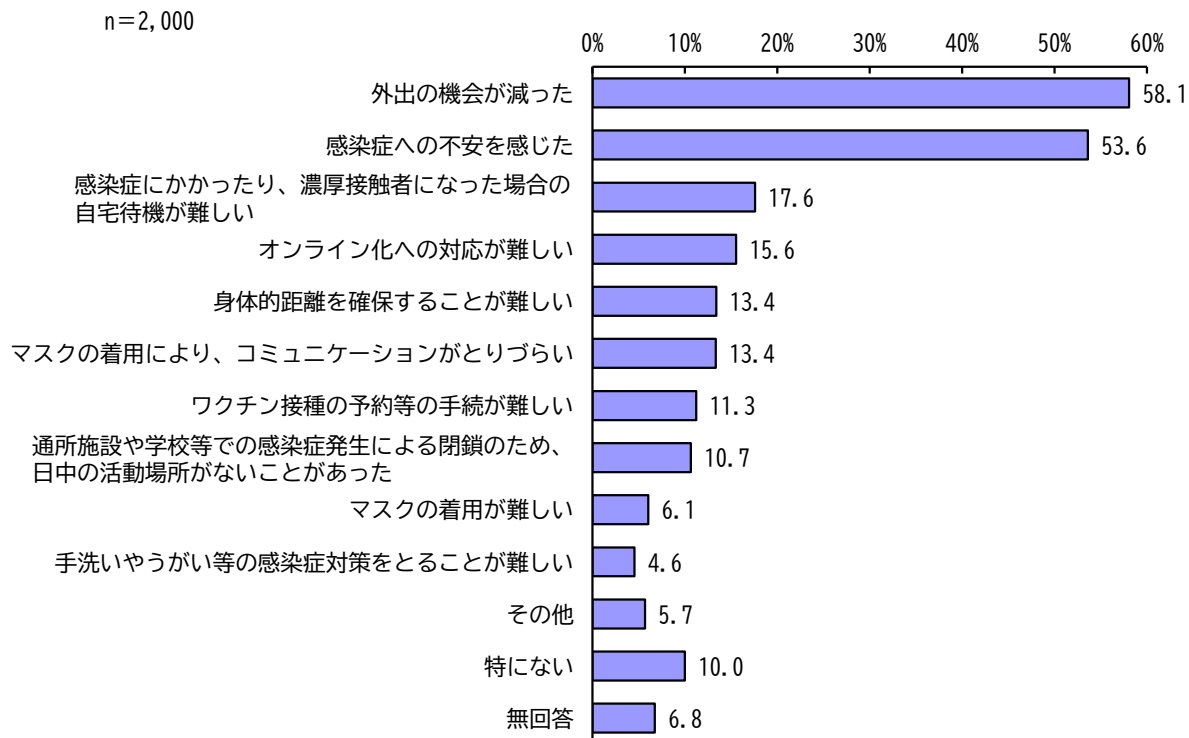
それ以外の障害では「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高くなっています。

また、“発達障害”では「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が42.8%と4割を超えており、他の障害よりも高くなっています。

8 感染症について

(1) 感染症発生時の困りごと

問 39 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が 58.1%、「感染症への不安を感じた」が 53.6%と 5 割を超え、次いで「感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい」が 17.6%、「オンライン化への対応が難しい」が 15.6%と続いています。

一方、「特にない」は 10.0%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	外出の機会が減った	身体的距離を確保することが難しい	感染症への不安を感じた	手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい	通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった	感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい	マスクの着用が難しい
(単位:%)								
全体	2,000	58.1	13.4	53.6	4.6	10.7	17.6	6.1
障害別								
肢体不自由	283	60.1	15.9	53.7	8.8	9.5	19.4	6.4
音声・言語・そしゃく機能障害	77	51.9	22.1	51.9	15.6	22.1	23.4	10.4
視覚障害	144	46.5	17.4	38.2	4.9	6.9	13.9	6.3
聴覚・平衡機能障害	146	48.6	14.4	50.0	6.2	9.6	17.1	5.5
内部障害	278	63.3	11.9	60.4	2.9	4.7	21.6	5.4
知的障害	231	65.8	21.2	46.8	13.0	35.1	25.5	14.7
発達障害	187	59.4	15.5	50.3	4.3	22.5	19.8	9.6
精神障害	464	51.3	12.7	51.7	3.7	11.6	13.8	7.3
高次脳機能障害	44	68.2	22.7	52.3	11.4	20.5	20.5	11.4
難病（特定疾病）	632	62.5	13.1	60.6	3.6	6.8	20.3	3.0
その他	35	51.4	22.9	28.6	8.6	14.3	17.1	5.7

	n	マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい	オンライン化への対応が難しい	ワクチン接種の予約等の手続きが難しい	その他	特になし	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	13.4	15.6	11.3	5.7	10.0	6.8
障害別							
肢体不自由	283	12.0	17.7	12.0	4.9	7.8	12.4
音声・言語・そしゃく機能障害	77	19.5	19.5	23.4	9.1	3.9	13.0
視覚障害	144	9.0	16.0	20.1	6.3	18.1	9.0
聴覚・平衡機能障害	146	39.7	21.2	11.6	6.8	9.6	9.6
内部障害	278	11.2	15.5	10.4	5.0	7.2	6.8
知的障害	231	10.4	22.5	16.9	5.2	10.4	5.6
発達障害	187	18.2	15.0	15.0	9.1	13.9	1.1
精神障害	464	12.3	16.6	12.7	10.3	12.1	4.1
高次脳機能障害	44	13.6	11.4	20.5	6.8	9.1	6.8
難病（特定疾病）	632	10.9	12.5	7.4	5.5	7.0	7.3
その他	35	14.3	28.6	14.3	17.1	11.4	17.1

障害別にみると、いずれの障害でも「外出の機会が減った」と「感染症への不安を感じた」が上位2項目に入って高くなっています。

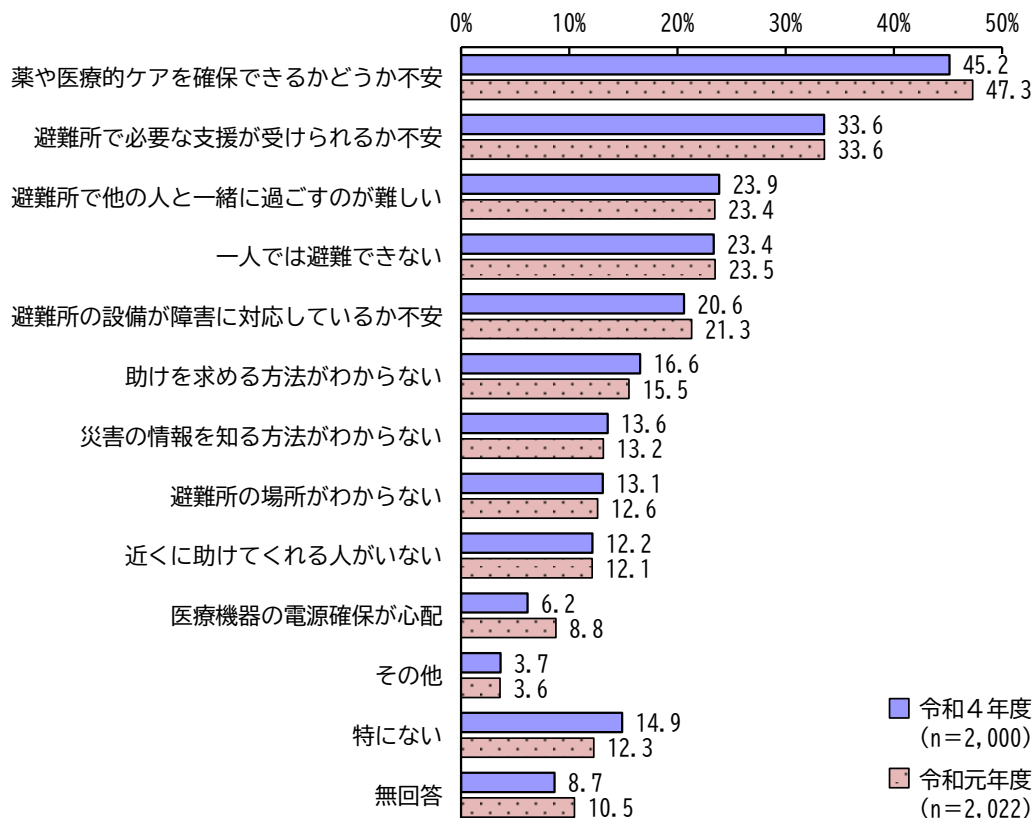
“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“発達障害”、“高次脳機能障害”では、「通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった」が2割を超えて高く、特に“知的障害”では35.1%と3割半ばで、他の障害よりも高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい」が39.7%と約4割で、他の障害よりも高くなっています。

9 災害対策について

(1) 災害発生時の困りごと

問 40 あなたが、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)



災害発生時の困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が 45.2%と 4 割半ばで最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 33.6%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が 23.9%、「一人では避難できない」が 23.4%と続いています。

一方、「特にない」は 14.9%となっています。

令和元年度と比較すると、「医療機器の電源確保が心配」が 2.6 ポイント、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が 2.1 ポイント下がっているなど、項目ごとに増減はありますが、大きな差はなく、全体的な傾向にあまり変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	災害の情報を 知る方法が わからない	助けを求め る方法がわ からない	避難所の場 所がわから ない	近くに助け てくれる人 がいない	一人では避 難できない	避難所の設 備が障害に 対応してい るか不安	避難所で必 要な支援が 受けられる か不安
全体	2,000	13.6	16.6	13.1	12.2	23.4	20.6	33.6
障害別								
肢体不自由	283	11.7	14.8	12.0	13.8	45.6	33.6	39.9
音声・言語・そしゃく機能障害	77	22.1	32.5	11.7	14.3	48.1	39.0	45.5
視覚障害	144	14.6	20.8	18.1	11.8	36.1	29.9	34.0
聴覚・平衡機能障害	146	28.1	23.3	12.3	11.0	26.7	24.7	39.0
内部障害	278	12.2	14.4	12.6	10.4	19.8	23.0	37.1
知的障害	231	29.9	35.1	21.6	12.6	56.7	31.6	41.6
発達障害	187	20.3	27.3	18.7	17.1	25.7	26.2	38.0
精神障害	464	11.9	17.5	14.2	22.0	16.6	17.9	33.8
高次脳機能障害	44	11.4	22.7	11.4	6.8	43.2	29.5	36.4
難病（特定疾病）	632	8.4	10.3	10.9	7.3	15.2	15.0	31.0
その他	35	14.3	17.1	11.4	11.4	20.0	22.9	31.4

(単位:%)	n	避難所で他 の人と一緒 に過ごすの が難しい	薬や医療的 ケアを確保 できるかど うか不安	医療機器の 電源確保が 心配	その他	特になし	無回答
全体	2,000	23.9	45.2	6.2	3.7	14.9	8.7
障害別							
肢体不自由	283	23.7	41.3	9.5	4.6	11.3	12.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	32.5	44.2	9.1	2.6	7.8	13.0
視覚障害	144	21.5	26.4	4.9	4.9	18.8	10.4
聴覚・平衡機能障害	146	17.1	32.9	10.3	3.4	15.8	11.0
内部障害	278	18.7	54.3	10.8	3.6	12.6	9.7
知的障害	231	36.4	32.0	5.2	2.2	10.0	9.5
発達障害	187	42.8	38.5	4.3	3.7	17.6	5.3
精神障害	464	37.1	52.2	3.0	4.1	14.0	5.8
高次脳機能障害	44	22.7	36.4	2.3	0.0	6.8	15.9
難病（特定疾病）	632	15.0	56.5	6.8	3.3	13.9	9.0
その他	35	11.4	40.0	8.6	11.4	14.3	17.1

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能」、「視覚障害」、「高次脳機能障害」では、「一人では避難できない」が最も高く、特に「知的障害」では56.7%と5割を超えて他の障害よりも高くなっています。

「聴覚・平衡機能障害」では、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が最も高くなっています。また、いずれの障害でも高い割合となっており、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「知的障害」では4割を超えています。

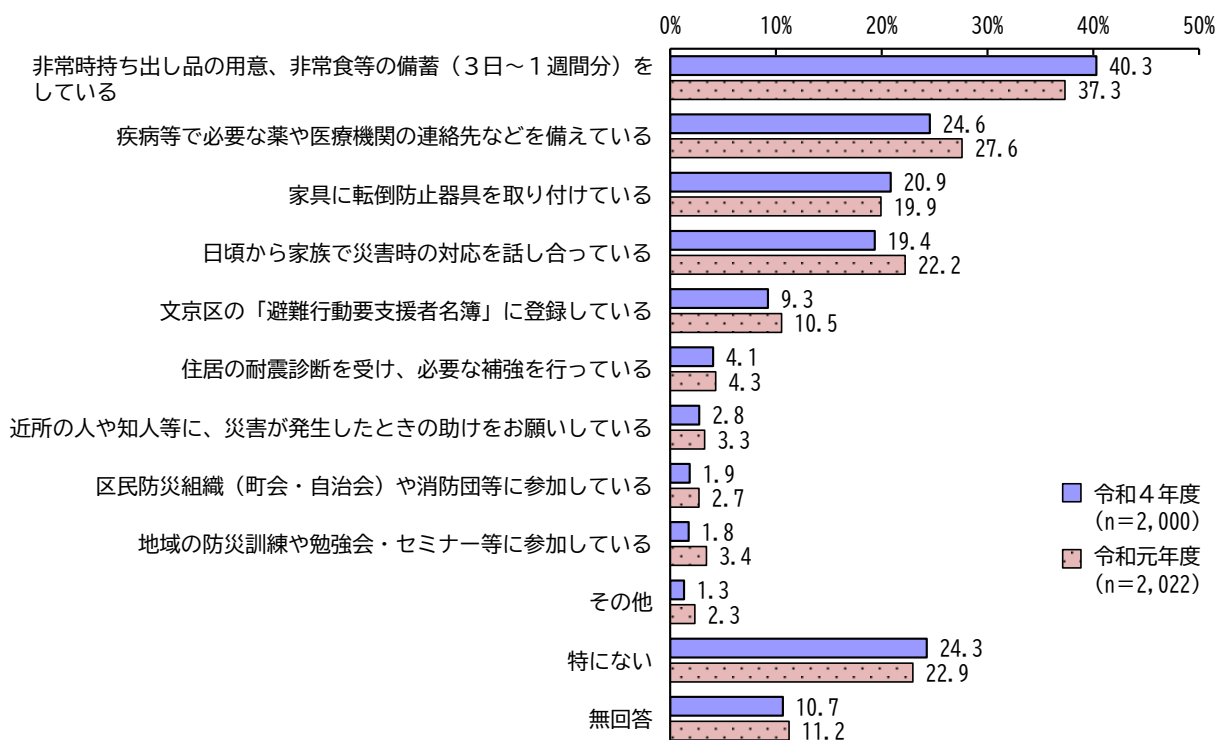
「発達障害」では、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が42.8%と最も高くなっています。また「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「精神障害」でも3割を超えています。

「内部障害」、「精神障害」、「難病（特定疾病）」では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっており、特に「内部障害」、「精神障害」、「難病（特定疾病）」では5割を超えています。

(2) 災害に対する備え

問 41 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)



災害に対する備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄 (3日～1週間分) をしている」が40.3%と4割に達し最も高く、次いで「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が24.6%、「家具に転倒防止器具を取り付けている」が20.9%と2割を超えて続いています。

一方、「特になし」は24.3%と2割を超えています。

令和元年度と比較すると、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄 (3日～1週間分) をしている」が3.0ポイント上がっており、反対に「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が3.0ポイント、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が2.8ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日~1週間分)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
(単位:%)							
全体	2,000	19.4	40.3	24.6	2.8	9.3	20.9
障害別							
肢体不自由	283	15.2	34.6	24.0	3.2	18.4	24.0
音声・言語・そしゃく機能障害	77	14.3	39.0	24.7	3.9	18.2	20.8
視覚障害	144	23.6	32.6	20.1	4.9	24.3	16.0
聴覚・平衡機能障害	146	19.9	37.0	24.7	4.1	14.4	21.9
内部障害	278	18.7	36.0	30.9	1.8	7.6	18.3
知的障害	231	22.9	42.9	19.0	3.5	28.1	22.9
発達障害	187	23.5	42.8	19.3	2.7	12.3	23.5
精神障害	464	14.7	35.1	21.1	2.2	3.2	16.8
高次脳機能障害	44	15.9	34.1	31.8	0.0	15.9	11.4
難病(特定疾病)	632	21.5	45.4	31.6	2.2	6.0	22.5
その他	35	17.1	28.6	25.7	5.7	14.3	22.9

	n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	その他	特になし	無回答
(単位:%)							
全体	2,000	4.1	1.9	1.8	1.3	24.3	10.7
障害別							
肢体不自由	283	5.3	2.1	1.1	1.4	19.8	14.5
音声・言語・そしゃく機能障害	77	1.3	1.3	2.6	1.3	23.4	15.6
視覚障害	144	4.2	1.4	2.8	1.4	26.4	13.9
聴覚・平衡機能障害	146	3.4	2.1	2.7	1.4	21.9	13.0
内部障害	278	5.0	2.5	1.1	1.1	23.0	12.9
知的障害	231	5.2	3.5	1.3	1.3	18.2	13.4
発達障害	187	3.2	1.1	2.1	1.1	26.2	7.0
精神障害	464	3.0	1.3	1.7	2.2	33.6	8.0
高次脳機能障害	44	4.5	2.3	0.0	0.0	29.5	9.1
難病(特定疾病)	632	4.7	1.7	1.4	0.8	21.5	9.5
その他	35	5.7	2.9	2.9	5.7	25.7	14.3

障害別にみると、いずれの障害でも、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間分）をしている」が最も高くなっており、特に“知的障害”、“発達障害”、“難病（特定疾病）”では4割を超えています。また、“視覚障害”、“知的障害”、“発達障害”を除くいずれの障害でも、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が2割を超えて2番目に高くなっています。

“視覚障害”と“知的障害”では、「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が2割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

10 自由意見

問 42 区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 401 件ありました。「福祉」についての意見が 26.2%と最も多く、次いで「行政」が 14.7%、「アンケート」が 10.2%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	福祉	行政	アンケート	情報・相談	障害理解	生活環境	将来	雇用・就労	保健・医療	障害・疾患	災害	その他
自由意見	401	26.2	14.7	10.2	9.7	9.0	7.2	6.2	5.7	3.7	2.5	2.2	2.5

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉（105 件）

- ・文京区はグループホームが少ないので、もっと増やしてほしいと思います。
- ・他区市等の友人たちとの会話の中で文京区はよりきめ細かいとの声があり、ありがたく思います。これらの情報が実際に役立つよう整備して頂けると良いと思います。だれもが福祉的支援のお世話になり得るとの観点から更に積極的に進めて頂ける事を願っています。
- ・医療的ケアを必要とする障がい者に対しての支援枠が充分でないと思う。入所支援を区外でも良いので、枠を整備してほしい。実際、短期入所も申し込んでも利用出来たためしがない。
- ・区のコミュニティーバス「Bーグル」の精神障害者向けの無料パスがあればいいと思っている。
- ・バスやタクシーを利用する時（鉄道のように）自己申告しなくても割引がスムーズに適用されるサービスがあると良い。
- ・居宅介護サービスのおかげで、食器を洗ったりゴミを捨てたりの清潔が保ちやすくなりました。少しでも片付けもできるようになり、以前より前向きにもなりました。ありがとうございます。
- ・現状の福祉施策を低下させて欲しくない（人事異動等により福祉サービスが後退するのはやめて欲しい）。
- ・受給者証を持っていますが、かなり大きいです。1/4 の大きさでお願いしたいです。他県は手の平サイズです。手帳も 1/4 の大きさにすれば、エコになりますし、ケースを用意する時なども、店に売っているのでカバーを付ければ痛まないです。
- ・住宅改造費用の助成などで自宅に手すりやお風呂場の改修ができました。現段階ではホームヘルパーなど必要としていませんが、今後、より身体的不自由がでた場合心配をしております。要支援で受けられるサービスなどが増えるといいと思います。また費用補助などが充実すると嬉しく思います。
- ・区の施設は全て手話通訳者を配置してほしい。自宅近くに文京区総合福祉センター、文京江戸川橋体育館があるのに、コミュニケーションが取れず、利用できない。手話ができるスタッフがおりません。

2. 行政 (59 件)

- ・手続き（特に手当申請）が平日のみで、自分が仕事の関係で行くことができない。休日開庁の日に合わせて申請できるようにしてほしい。
- ・数年前に難病を発症しましたが、区内にレベルの高い大学病院があり、助かっています。また、年に1回区役所へ伺い手続きをしますが、いつも良い対応を下さり有難いです。幼い頃から文京区に住んでいて文京区が大好きです。これからも安全、安心はもちろんのこと、区民が充実した生活ができるよう行政にも期待しています。
- ・文京区は障害者支援や福祉の面で質の高いサービスがある一方、家賃や固定費が高額になりがちで、住み続けることが難しい。今までいくつかの福祉サービスを受け、良い結果を得たが、住み続けるための金銭面の不安は大きく、区外どころか都外の近県へ転居も考えざるを得ない状況。真の意味で住みやすい文京区であってほしいと願います。
- ・手続きや問い合わせで電話や訪問をしますが、いつも丁寧に対応してくださるので、再度訪問したり電話することもなく、不安にならず助かっています。いつもありがとうございます。
- ・障がい者手帳とマイナンバーが紐づけられるように国に要望して欲しい。
- ・介護保険、難病助成の制度がばらばらに存在していて、申請の準備や区役所での手続に長時間かかるのを何とかしてください。
- ・デジタル化の推進をお願いします。デジタル庁や民間企業などからアイデアを募り、いいものは積極的に取り入れると良いと思います。デジタル技術の進歩で助かる障がい者の方は多くですし、就労のチャンスも増えると思います。
- ・役所の申請手続きでは、申請書類は長大で、提出資料が膨大で本人の負担は過大だし、窓口では、本人自署など弱視、手先麻痺には配慮が乏しい、同行介助者関与についても理解が乏しいと感じる。行政機関こそ率先垂範していただきたい。
- ・手続きなどで区役所に直接行く必要が少なくなるように、郵送、出張所などで簡単に済ませることができるようになってほしい。

3. アンケート (41 件)

- ・アンケートの結果や、アンケートがどう反映、利用されたのか知る術を作っていただきたい（広報など）。
- ・区の福祉事業といっても対象の障害者は個々で千差万別と思われる。このようなアンケート調査は統計上の資料としての必要はあろうし、あくまで参考資料でしかないと思う。調査をして福祉事業に役立てるならば、個々の対象者に直接聞きとり、調査を行う必要があろうかと思う。
- ・3年ごとに行われている「ニーズ調査」はどのように「障害者計画」に反映されているかわかりづらい、結果を知りたい。また、アンケート項目についても障害者自ら回答するのも、設問が難しく内容が理解しづらく回答しにくい
- ・この調査について。項目が多すぎる。もう少し簡潔にできないか。途中でやめてしまう、もしくは提出しない人も多いと思う。

4. 情報・相談 (39 件)

- ・なかなか自身から困難に面した時、発信できるか、他人へ信号を送れるかまだ自信がありません。他人を頼りたくない、迷惑をかけたくない、生活を干渉されたくないという気持ちが強く、受け入れる気持ちを持てるよう今後努力したいと思います。
- ・人員を拡充して、障害者が困った時にすぐ電話対応や面談ができるようにしてほしい。家族などにも障害のことを職員から分かりやすく説明してほしい。
- ・障害をもった場合、どのような福祉サービスが利用できるのか調べるのが難しかったので、自分の状態を入力すると利用できる（可能性のある）サービスとどのような順番で利用、手続きすればよいのかを教えてくれる web サービスやアプリなどがあると助かります。
- ・普段、保健サービスセンターで相談に乗ってもらっていますが、夜間や休日などに相談に乗ってもらえ、繋がりがやすいダイヤル（ナビダイヤルではなく、電話料金定額などで対応してもらえらるダイヤル）やチャットサービスなどが整備されると、今よりずいぶん安心して日常生活を送れると感じています。

5. 障害理解 (36 件)

- ・健常者への生活の安定性が保たれる状況（社会）が実現できていれば、自ずと障害者への意識（見守り、支援等）が高まるものと考えられる。
- ・障がい者への対応が分からず遠巻きにしている人が多い。障害者を紹介（地域や学校）する機会を作って、理解者を増やしてほしい。地元で障害者が働ける場（店、公共機関）を増やしてほしい。
- ・障害者という言葉が健常な方との壁を感じさせるので、自然に障害をもつ人を温かい眼で皆が見られるような、幼いころからの教育が必要だと思います。
- ・行政、民間企業に対して、障害者差別解消法を順守するように、もっと積極的に対策を進めて頂きたい。

6. 生活環境 (29 件)

- ・内部障害があり見た目は健康だが、外傷などの不慮の事故は避けたい。文京区は歩道をかなりのスピードで自転車が走っていることが多く、歩行者が車道を歩かなければならないことも多々ある、そういったところからの安全対策を希望する。
- ・文京区を住みやすい所にしてほしいと願います。林立するマンションは悪くないと思いますが、車寄せがない、ゴミの集積所が散らかっていると、歩行が困難で転倒します。また歩きタバコが多く、ポイ捨ても困ります。マンション建設時の交通安全は警察と協力して歩行者、障がい者を守ってほしい。
- ・車椅子で移動の為、外出時、段差が気になり、特に点字ブロックが困っています。歩道の道幅を広くするとか車椅子優先の歩道の確保などできないでしょうか？
- ・歩道が狭くて微妙な段差が多くど真ん中に電柱が有ったりして白杖での歩行が厳しい箇所が多い。視覚障害者には優しく無い街並みです。
- ・公共施設の情報のアクセシビリティ向上を希望します。図書館やスポーツセンターなども構造的なバリアフリーだけではなく、知的障害のある人にも分かりやすい情報の表示などをしていただければ障害者だけではなくいろんな人にも有用だと思います。よろしく願いいたします。

7. 将来 (25 件)

- ・親が死んだら障害のある子を誰が世話をするのか？親にとっては必ず来る切実な問題です。福祉施策はこの親の立場に立って計画して下さい。世話をするとは、衣食住はもちろんの他、福祉サービスの申請や更新手続き、障害者手帳等の更新手続き等も親の世話ができません。現在は、親が役所の窓口に行って手続きをしていますが、手続きをしなくてはならないことが多く煩雑感があります。申請書類によっては更新時期や、有効期限等が異なり、申請を怠ると行政サービスを受けられなくなります。親がいなくても大丈夫なようにするため、障害者が行う全ての手続きをマイナンバーカードと結びつけて、障害者の全てのデータを行政が把握して、本人に負担がかからないように必要な手続きは全て行政が主導するようにしてください。また、障害者が必要とする行政手続きは規制緩和等により延長したり、手続き期限を誕生日からとするなどの簡略化を検討して下さい。なお、希望する障害者が全員入居出来るよう障害者グループホームの充実も併せて検討して下さい。親が死んだ後も安心出来る施策をよろしく願いいたします。
- ・日中活動系施設の整備、グループホームの整備を計画通り進めてほしい。緊急時の対応に必要な短期入所の施設が不足している。感染症対策を考えて区内に増設する必要があると思う。就労している人は福祉サービスを利用していないことが多く、いざ利用しようと思っても現況がよくわからない。将来グループホームに入りたいと思っても現在あるグループホームは満室で非常に不安。

8. 雇用・就労 (23 件)

- ・仕事の工賃を上げてもらいたい。
- ・障害者と仕事の雇用側、それぞれが相手に関して抱える不安を解消するサービスをお願いしたいです。
- ・就労を希望しているので、雇用の促進を積極的にしていただきたいです。また企業との懸け橋として区の方々がかわっていただくことを望みます。
- ・働くことが幸せな人とそうでない人がいます。全員が働きたいわけではないという考えも持ったほうがいいです。その上で、働くのが幸せな人には適切な給与を保障するべきです。作業所の工賃は低すぎるし、働くと生活保護が減るのはおかしいです。障害者が金銭的に裕福にならなくていいなんておかしい話です。そのあたりは公的サービスだけでは難しいと思うので、民間のサービスとも連携してください。まだ小さなベンチャーかもしれませんが、障害者の雇用のことをどうにかしたいと考えている人・会社はたくさんあると思います。私も将来的には障害者が気持ちよく働けるシステムを作るという目標がありますが、いますぐは無理なので、いま頑張っている会社と連携してよりよい地域を作ってください。

9. 保健・医療（15件）

- ・国民健康保険料の算定において、障害者に対する減免の制度が全くない（住民税の申告時に所得控除はあるが）のは如何なものかと思う。
- ・人手不足が心配なので、医療関係者・介護スタッフの給料引き上げ等の予算を増額してほしい。
- ・医療費負担について、重度障害者は医療費が無料だが、愛の手帳4度の障害者は3割負担となっている。少ない収入では非常に負担が重く、無料とは言わないが1割負担を要望します。
- ・数年前に難病を発症しましたが、区内にレベルの高い大学病院があり、助かっています。

10. 障害・疾患（10件）

- ・進行性の病状悪化により老人ホームで介護していただいている。ほぼ寝たきり状態のため、部分的な回答となりました。

11. 災害（9件）

- ・避難行動要支援者名簿という制度を知らなかった。
- ・福祉施設を障害者とその家族の避難所として、パニックをおこしても他者にバッシングをうけずに避難できるように希望します。
- ・障害者も合同で避難訓練に参加したい。どのような障害者向け支援がされるのか、具体的に体験で学びたいです。

12. その他（10件）

- ・シビックセンターにお世話になり、職業訓練で就労移行支援を1年利用したり、日頃の障害者手帳や医療費の手続きでシビックセンターを利用しています。ギャラリーの展示をよく見ますが、シビックセンターの障害者のギャラリーの展示はもうちょっと良くできると思います。
- ・身体・知的障害児(者)だけではなく精神障害者も含めたスポーツ・文化活動があればいいのと思う。

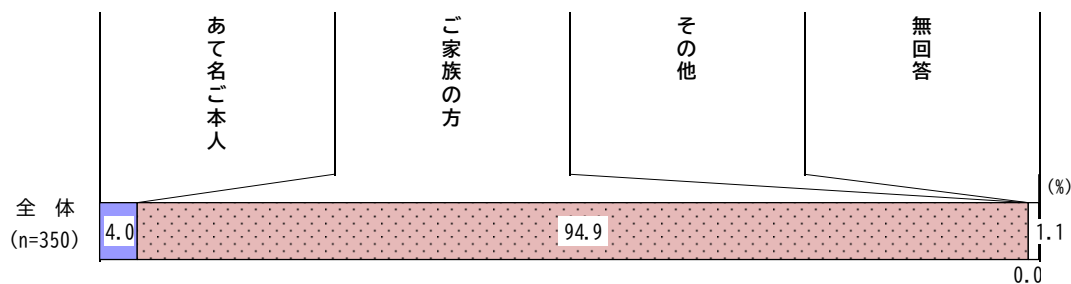
第2章

18歳未満の方を対象にした調査

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(○はひとつ)



調査の回答者は、「ご家族の方」が 94.9%と 9 割半ばを占めており、「あて名ご本人」は 4.0%となっています。

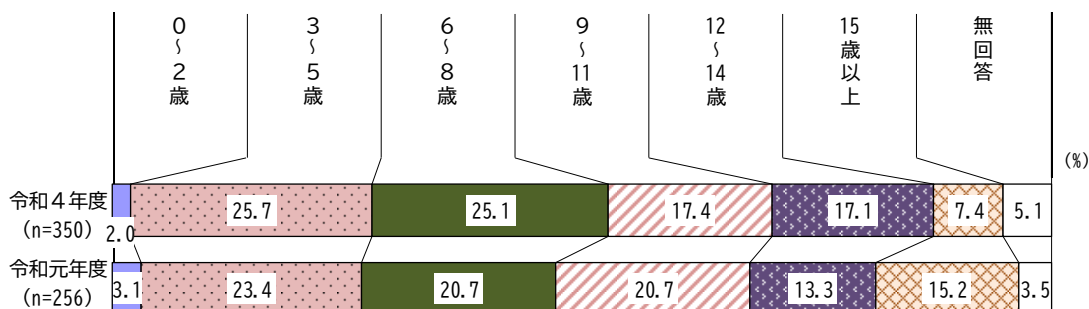
【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	その他	無回答
全体	350	4.0	94.9	0.0	1.1
肢体不自由	30	3.3	96.7	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	100.0	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	100.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	85.7	0.0	0.0
内部障害	17	5.9	94.1	0.0	0.0
知的障害	140	1.4	98.6	0.0	0.0
発達障害	213	3.8	95.3	0.0	0.9
精神障害	3	66.7	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	95.2	0.0	0.0
その他	19	0.0	100.0	0.0	0.0

障害別にみると、“精神障害”を除くいずれの障害も「ご家族の方」が 8 割半ば以上で最も高くなっています。回答数が 10 件以上の障害では、“聴覚・平衡機能障害”で「あて名ご本人」が 14.3%と 1 割を超え、他の障害に比べて高くなっています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の満年齢をお書きください。



障害者本人の年齢は、「3～5歳」が25.7%、「6～8歳」が25.1%の2つで全体の半数以上を占め、次いで「9～11歳」が17.4%、「12～14歳」が17.1%、「15歳以上」が7.4%、「0～2歳」が2.0%と続いています。

令和元年度と比較すると、「15歳以上」が7.8ポイント、「9～11歳」が3.3ポイント下がっており、また、「0～2歳」も1.1ポイントやや下がっています。それ以外の年齢はいずれも令和元年度より上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
全体	350	2.0	25.7	25.1	17.4	17.1	7.4	5.1
肢体不自由	30	6.7	20.0	16.7	16.7	23.3	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	30.8	23.1	23.1	7.7	15.4	0.0
視覚障害	12	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	21.4	35.7	7.1	21.4	7.1	7.1
内部障害	17	0.0	23.5	29.4	17.6	11.8	0.0	17.6
知的障害	140	2.9	19.3	24.3	17.9	22.1	10.0	3.6
発達障害	213	0.9	23.0	26.8	20.2	17.4	7.0	4.7
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	14.3	14.3	28.6	9.5	14.3	9.5	9.5
その他	19	0.0	68.4	21.1	10.5	0.0	0.0	0.0

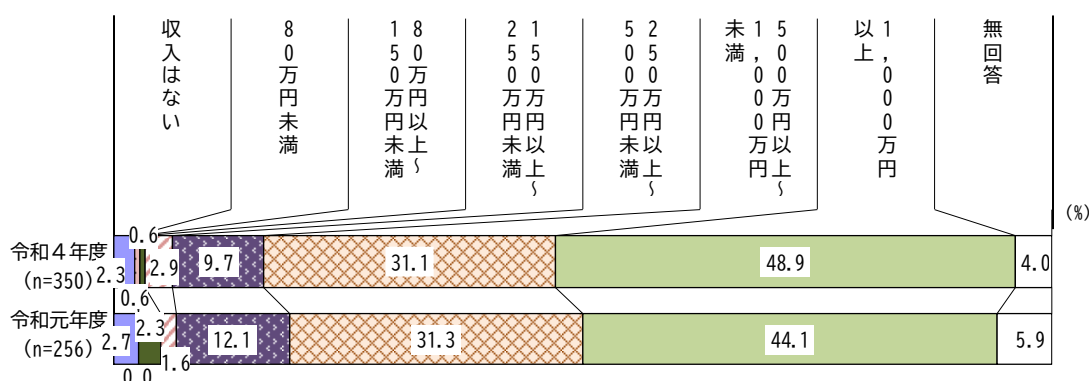
障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」では、「3～5歳」で最も高くなっています。

“肢体不自由”では、「12～14歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害はいずれも「6～8歳」が最も高くなっています。

(3) 世帯年収

問3 保護者の方にお聞きます。世帯の年収額を税金等を差し引く前の額でお答えください。(〇はひとつ)



世帯年収は、「1,000万円以上」が48.9%と最も高く、次いで「500万円以上～1,000万円未満」が31.1%と続いており、500万円以上で全体の8割を占めています。

令和元年度と比較すると、「1,000万円以上」が4.8ポイント上がっており、反対に「250万円以上～500万円未満」が2.4ポイント下がっています。

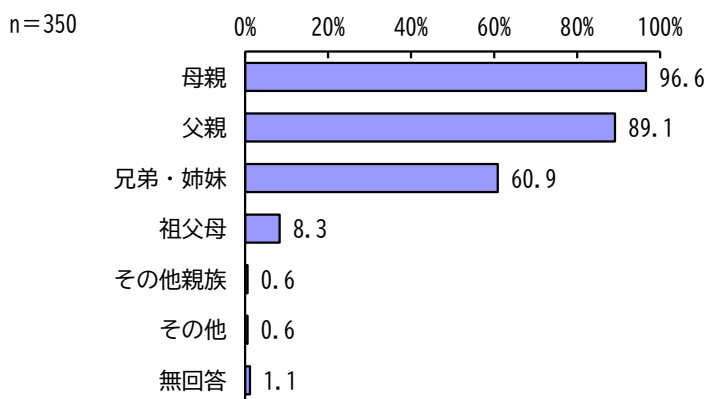
【クロス集計】障害別

	n	収入はない	80万円未満	80万円以上～150万円未満	150万円以上～250万円未満	250万円以上～500万円未満	500万円以上～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
(単位:%)									
全体	350	2.3	0.6	0.6	2.9	9.7	31.1	48.9	4.0
障害別									
肢体不自由	30	0.0	0.0	3.3	3.3	13.3	40.0	36.7	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	26.9	42.3	7.7
視覚障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	41.7	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	0.0	21.4	21.4	35.7	14.3
内部障害	17	11.8	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	64.7	0.0
知的障害	140	5.0	0.7	0.0	2.9	10.7	30.0	49.3	1.4
発達障害	213	2.3	0.5	0.9	2.8	8.5	31.0	51.2	2.8
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病(特定疾病)	21	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	57.1	4.8
その他	19	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3	36.8	47.4	0.0

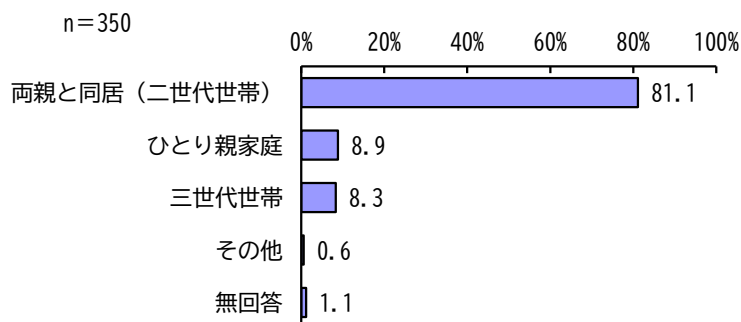
障害別にみると、“肢体不自由”では「500万円以上～1,000万円未満」が最も高く、それ以外のいづれの障害でも「1,000万円以上」が最も高くなっています。

(4) 同居家族

問4 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



同居している家族は、「母親」が96.6%と9割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が89.1%、「兄弟・姉妹」が60.9%と続いています。

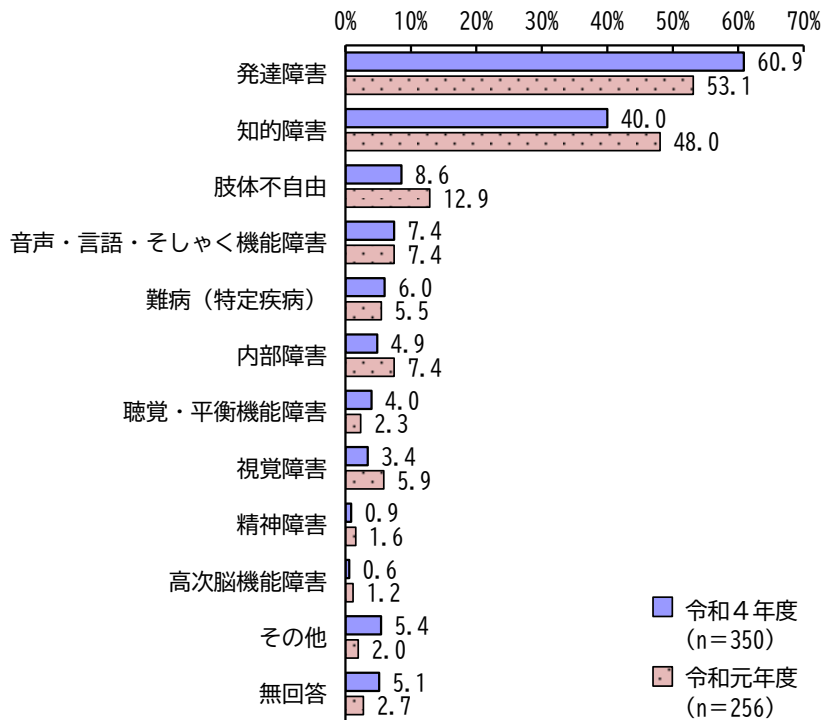


同居家族の世帯を4区分に分けてみると、「両親と同居 (二世帯世帯)」が81.1%と最も高くなっています。

2 障害と健康について

(1) 障害の種別

問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)



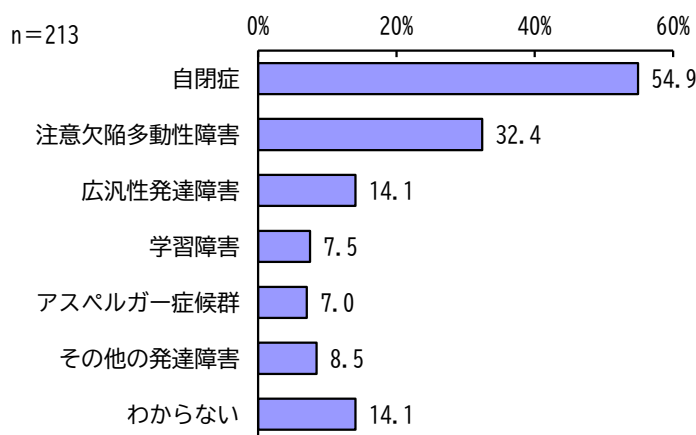
障害の種類は、「発達障害」が60.9%と最も高く、次いで「知的障害」が40.0%で続いています。それ以外の障害はいずれも1割を下回っています。

令和元年度と比較すると、「発達障害」が7.8ポイント上がっていますが、反対に「知的障害」が8.0ポイント、「肢体不自由」が4.3ポイント下がっています。

(2) 発達障害診断名

問5で「発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）」と回答された方にお聞きします。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。（あてはまるものすべてに○）



発達障害の診断名は、「自閉症」が 54.9%と最も高く、次いで「注意欠陥多動性障害」が 32.4%、「広汎性発達障害」が 14.1%と続いています。

(3) 難病疾病名

問5で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします。

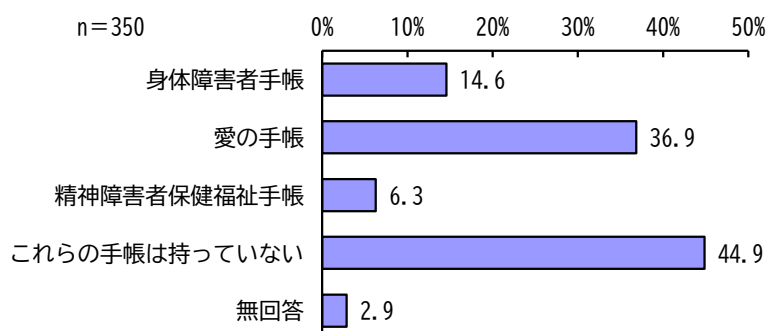
問5-2 病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数	疾病名	件数
アンジェルマン症候群	2	VATER 症候群	1
特発性拡張型心筋症	1	クルーゾン症候群	1
CFC 症候群	1	アペール症候群	1
メビウス症候群	1	コフィン・シリス症候群	1
ウエスト症候群	1	歌舞伎症候群	1
環状 20 番染色体症候群	1	プラダー・ウィリ症候群	1
レット症候群	1	メープルシロップ尿症	1
結節性硬化症	1		

(4) 手帳の種類

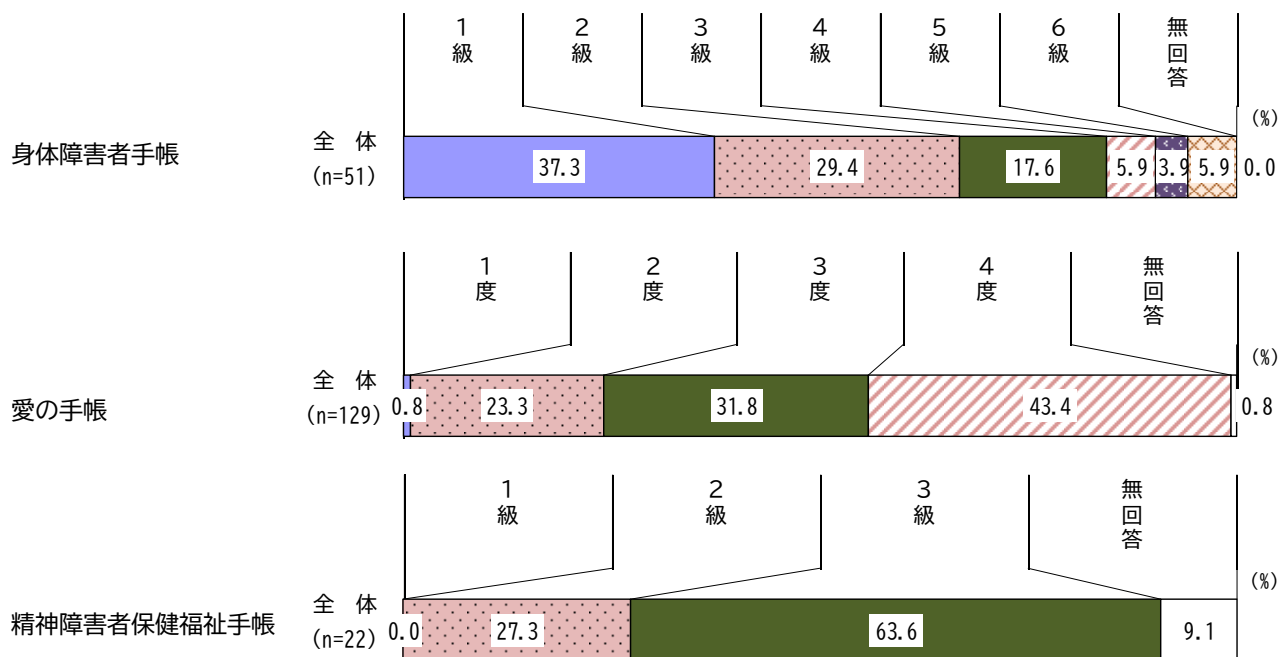
問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が36.9%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が6.3%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は44.9%と全体の4割半ばを占めています。

【各等級別】



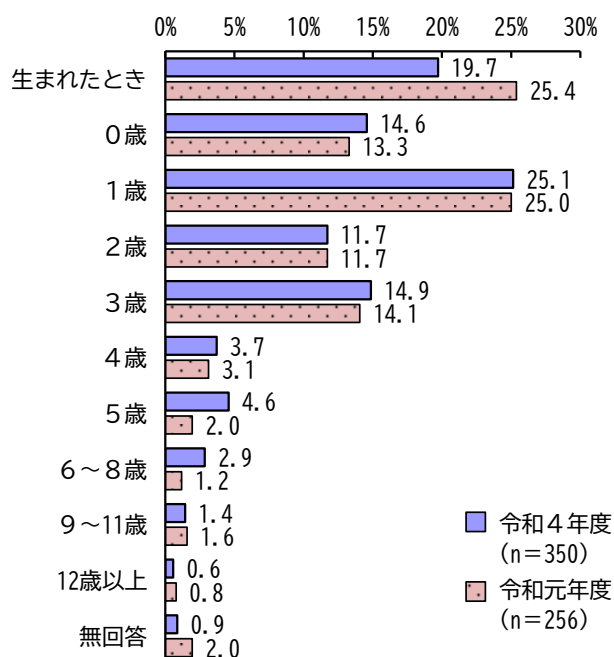
身体障害者手帳の等級は、「1級」が37.3%と最も高く、次いで「2級」が29.4%、「3級」が17.6%、「4級」と「6級」が5.9%、「5級」が3.9%と続いています。

愛の手帳の等級は、「4度」が43.4%と最も高く、次いで「3度」が31.8%、「2度」が23.3%と続いています。

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「3級」が63.6%と最も高く、次いで「2級」が27.3%と続いています。

(5) 障害に気づいた時期

問7 保護者の方にお聞きします。 お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。(○はひとつ)



保護者が障害に気づいた時期は、「1歳」が25.1%と全体の4分の1を占めて最も高く、次いで「生まれたとき」が19.7%、「3歳」が14.9%、「0歳」が14.6%、「2歳」が11.7%と1割台で続いており、出生時から3歳までで8割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「生まれたとき」で5.7ポイント下がっており、反対に「5歳」で2.6ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	生まれたとき	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	
全体	350	19.7	14.6	25.1	11.7	14.9	3.7	
障害別	肢体不自由	30	36.7	46.7	10.0	3.3	0.0	3.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	46.2	23.1	15.4	7.7	3.8	3.8
	視覚障害	12	41.7	41.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	64.3	21.4	0.0	0.0	14.3	0.0
	内部障害	17	76.5	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9
	知的障害	140	29.3	17.9	27.9	10.0	7.9	2.9
	発達障害	213	6.1	9.4	31.5	14.1	20.7	4.2
	精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	21	47.6	33.3	14.3	0.0	4.8	0.0
	その他	19	31.6	15.8	21.1	10.5	15.8	5.3

(単位:%)	n	5歳	6~8歳	9~11歳	12歳以上	無回答	
全体	350	4.6	2.9	1.4	0.6	0.9	
障害別	肢体不自由	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	視覚障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障害	17	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0
	知的障害	140	2.9	0.0	0.0	0.0	1.4
	発達障害	213	6.6	4.2	2.3	0.5	0.5
	精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、“発達障害”では、「1歳」で31.5%と最も高く、「3歳」でも20.7%と他の障害よりも高くなっています。

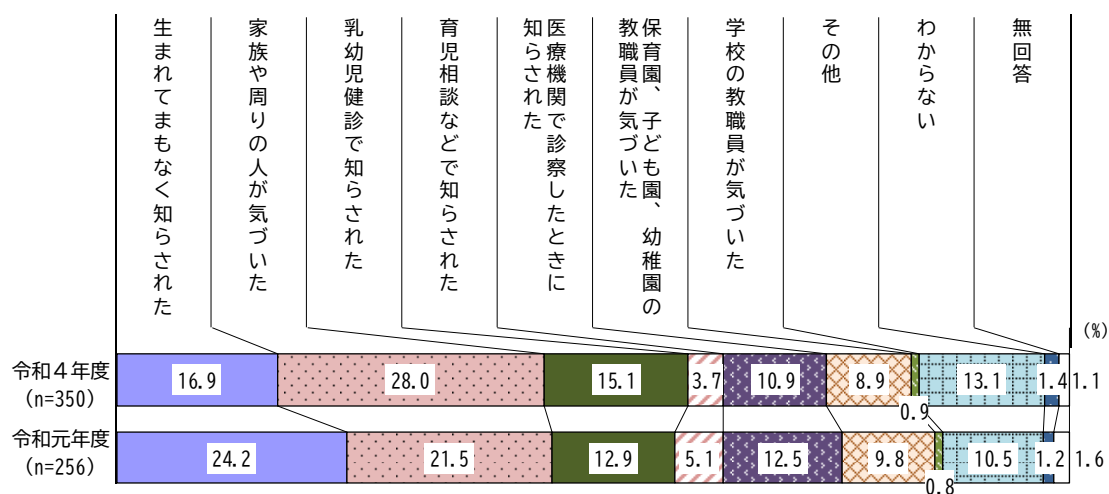
“肢体不自由”では、「0歳」が46.7%4割半ばを超えて最も高くなっています。

“視覚障害”では、「生まれたとき」と「0歳」がともに41.7%と最も高くなっています。

それ以外の障害では「生まれたとき」が最も高くなっています。

(6) 障害に気づいた状況

問8 保護者の方にお聞きします。お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(〇はひとつ)



保護者が障害に気づいた状況は、「家族や周りの人が気づいた」が 28.0%と最も高く、次いで「生まれてまもなく知らされた」が 16.9%、次いで「乳幼児健診で知らされた」が 15.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、「家族や周りの人が気づいた」が 6.5 ポイント、「乳幼児健診で知らされた」が 2.2 ポイント上がっており、反対に「生まれてまもなく知らされた」が 7.3 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	生まれてまもなく知らされた	家族や周りの人が気づいた	乳幼児健診で知らされた	育児相談などで知らされた	医療機関で診察したときに知らされた
全体	350	16.9	28.0	15.1	3.7	10.9
障害別						
肢体不自由	30	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	38.5	26.9	7.7	0.0	7.7
視覚障害	12	50.0	25.0	0.0	0.0	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	71.4	0.0	7.1	0.0	14.3
内部障害	17	41.2	0.0	5.9	0.0	23.5
知的障害	140	27.1	19.3	17.9	2.9	11.4
発達障害	213	4.7	33.8	17.4	4.7	11.3
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	21	33.3	9.5	23.8	0.0	19.0
その他	19	10.5	26.3	10.5	0.0	10.5

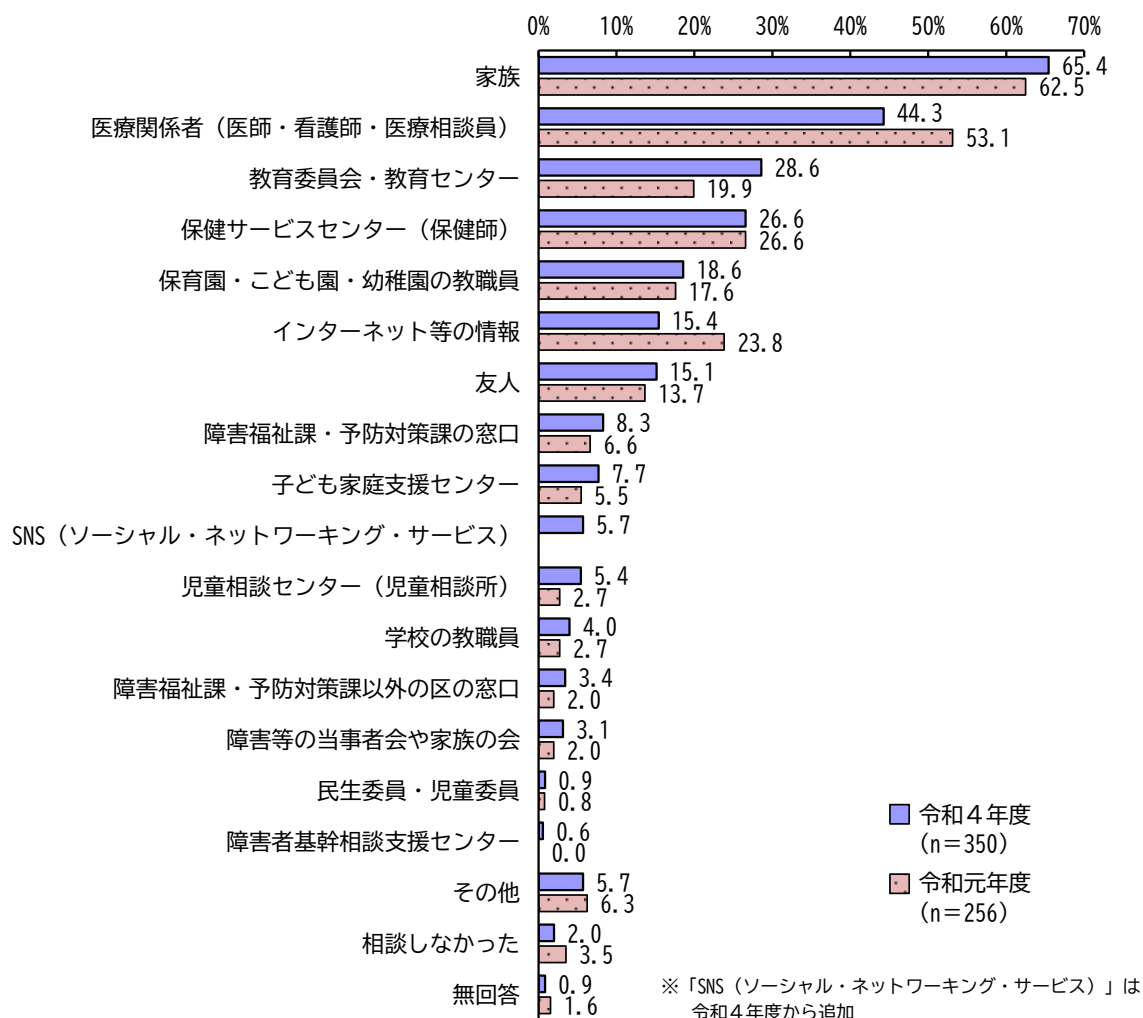
(単位:%)	n	保育園、子ども園、幼稚園の教職員が気づいた	学校の教職員が気づいた	その他	わからない	無回答
全体	350	8.9	0.9	13.1	1.4	1.1
障害別						
肢体不自由	30	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	19.2	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	29.4	0.0	0.0
知的障害	140	4.3	0.7	13.6	0.7	2.1
発達障害	213	12.2	1.4	12.7	1.4	0.5
精神障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
その他	19	10.5	0.0	31.6	0.0	0.0

障害別にみると、“発達障害”では、「家族や周りの人が気づいた」が最も高くなっています。また、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“視覚障害”も2割半ばを超えています。

それ以外の障害では「生まれてまもなく知らされた」が最も高くなっており、特に“聴覚・平衡機能障害”では71.4%、“視覚障害”では50.0%と他の障害よりも高くなっています。

(7) 障害に気づいたときの相談相手

問9 保護者の方にお聞きします。お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



障害に気づいたときの相談相手は、「家族」が 65.4%と最も高く、次いで「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が 44.3%、「教育委員会・教育センター」が 28.6%、「保健サービスセンター (保健師)」が 26.6%と続いています。

一方、「相談しなかった」は 2.0%となっています。

令和元年度と比較すると、「教育委員会・教育センター」が 8.7 ポイント、「家族」が 2.9 ポイント、「児童相談センター (児童相談所)」が 2.7 ポイント、「子ども家庭支援センター」が 2.2 ポイント上がっており、「SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」と「その他」を除く 15 項目中 12 項目で上がっています。一方、「医療関係者 (医師・看護師・医療相談員)」が 8.8 ポイント、「インターネット等の情報」が 8.4 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	家族	友人	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	医療関係者(医師・看護師・医療相談員)	障害福祉課・予防対策課の窓口	障害福祉課・予防対策以外の区の窓口	保健サービスセンター(保健師)
(単位:%)											
全体	350	65.4	15.1	4.0	18.6	0.9	3.1	44.3	8.3	3.4	26.6
障害別											
肢体不自由	30	73.3	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7	70.0	6.7	0.0	16.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	73.1	7.7	0.0	3.8	0.0	7.7	46.2	7.7	0.0	23.1
視覚障害	12	75.0	16.7	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	71.4	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	42.9	0.0	0.0	21.4
内部障害	17	64.7	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	64.7	5.9	5.9	0.0
知的障害	140	64.3	13.6	1.4	10.7	0.0	6.4	50.0	8.6	2.9	26.4
発達障害	213	62.4	15.0	6.6	24.9	0.5	0.9	41.3	10.3	5.2	29.6
精神障害	3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	81.0	9.5	4.8	4.8	0.0	4.8	66.7	19.0	4.8	19.0
その他	19	73.7	15.8	0.0	31.6	5.3	10.5	47.4	5.3	0.0	26.3

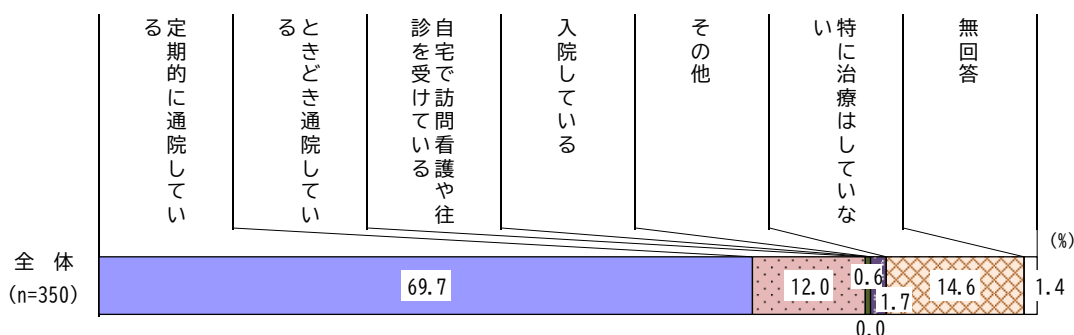
	n	障害者基幹相談支援センター	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談センター(児童相談所)	インターネット等の情報	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	その他	相談しなかった	無回答
(単位:%)										
全体	350	0.6	7.7	28.6	5.4	15.4	5.7	5.7	2.0	0.9
障害別										
肢体不自由	30	0.0	0.0	6.7	6.7	16.7	10.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	3.8	11.5	3.8	7.7	3.8	7.7	0.0	0.0
視覚障害	12	8.3	8.3	25.0	0.0	25.0	16.7	16.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	7.1	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	5.9	0.0	11.8	0.0
知的障害	140	0.0	3.6	17.1	2.1	12.1	7.1	4.3	2.9	1.4
発達障害	213	0.5	10.3	36.6	8.0	16.4	5.6	8.5	1.9	0.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	0.0	4.8	4.8	0.0	28.6	9.5	0.0	4.8	0.0
その他	19	0.0	15.8	26.3	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「家族」と「医療関係者(医師・看護師・医療相談員)」が他の項目よりも高くなっています。

“発達障害”では、「保育園・こども園・幼稚園の教職員」で24.9%、「教育委員会・教育センター」で36.6%と、他の障害よりも高くなっています。

(8) 受診状況

問10 あなたの受診状況等（歯科医療も含む）をお聞きます。（○はひとつ）



医療機関への受診状況は、「定期的に通院している」が 69.7%と最も高く、次いで「とくとき通院している」が 12.0%と続いています。

一方「特に治療はしていない」は 14.6%となっています。

【クロス集計】障害別

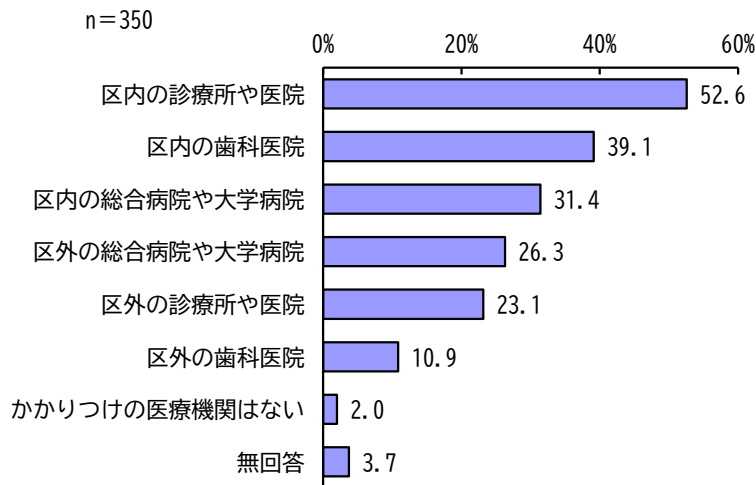
(単位:%)	n	定期的に通院している	とくとき通院している	自宅で訪問看護や往診を受けている	入院している	その他	特に治療はしていない	無回答
全体	350	69.7	12.0	0.6	0.0	1.7	14.6	1.4
障害別								
肢体不自由	30	86.7	0.0	6.7	0.0	3.3	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	84.6	7.7	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0
視覚障害	12	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	85.7	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0
内部障害	17	94.1	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	140	79.3	11.4	1.4	0.0	0.7	5.0	2.1
発達障害	213	66.2	14.1	0.0	0.0	1.9	16.9	0.9
精神障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	95.2	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	19	63.2	15.8	0.0	0.0	5.3	15.8	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも「定期的に通院している」が6割以上で最も高くなっています。“知的障害”、“発達障害”では、「とくとき通院している」は1割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“発達障害”では、「特に治療はしていない」は1割半ばを超えて、他の障害よりも高くなっています。

(9) かかりつけ医療機関の有無

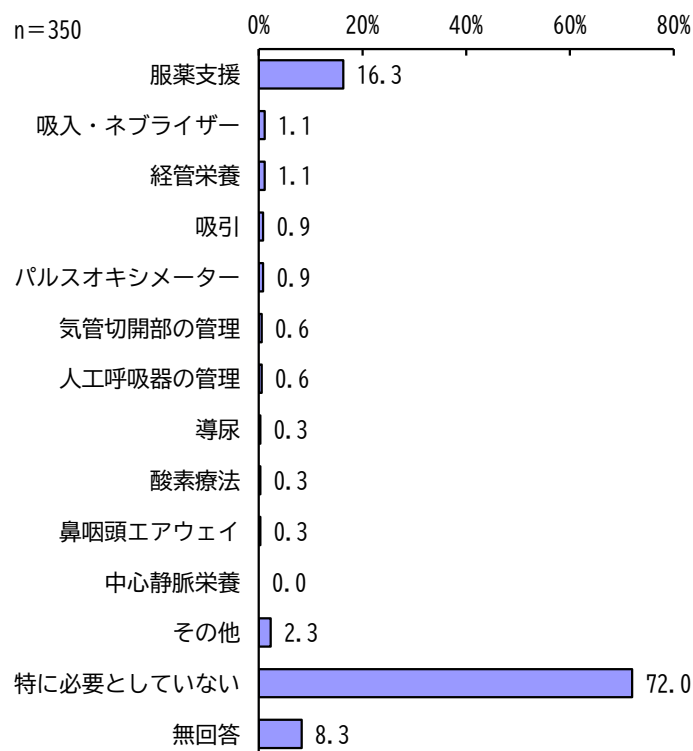
問 11 かかりつけの医療機関をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



かかりつけの医療機関は、「区内の診療所や医院」が 52.6%と最も高く、次いで「区内の歯科医院」が 39.1%、「区内の総合病院や大学病院」が 31.4%と続いています。

(10) 必要な医療的ケア

問 12 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きます。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が 16.3%と 1 割半ばを超えて最も高く、それ以外の項目では「吸入・ネブライザー」と「経管栄養」のみが 1 %を上回っています。

一方、「特に必要としていない」は 72.2%と 7 割を超えています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)		n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体		350	16.3	0.9	1.1	1.1	0.0	0.3	0.3
年代別	0～2歳	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	90	5.6	1.1	1.1	2.2	0.0	0.0	1.1
	6～8歳	88	20.5	1.1	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	9～11歳	61	18.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0
	12～14歳	60	21.7	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
	15歳以上	26	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)		n	鼻咽頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	特に必要としていない	無回答
全体		350	0.3	0.9	0.6	0.6	2.3	72.0	8.3
年代別	0～2歳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0
	3～5歳	90	0.0	1.1	1.1	1.1	1.1	88.9	3.3
	6～8歳	88	0.0	1.1	1.1	1.1	2.3	69.3	6.8
	9～11歳	61	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	67.2	8.2
	12～14歳	60	0.0	1.7	0.0	0.0	3.3	65.0	10.0
	15歳以上	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	61.5	23.1

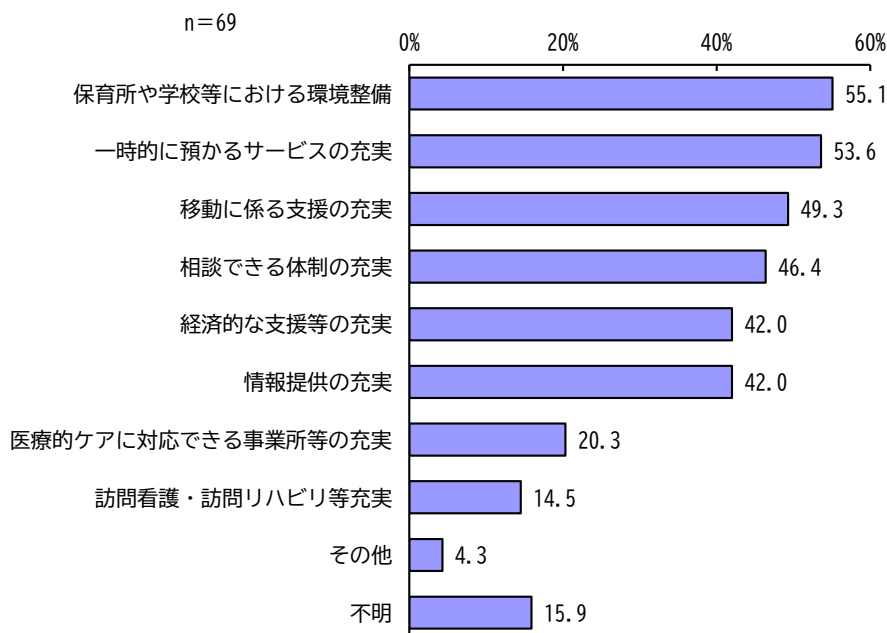
年代別にみると、いずれの年代も「特に必要としていない」を除くと、「服薬支援」が最も高くなっています。

(11) 医療的ケア児やその介助者のために必要な支援策

問 12 で「特に必要としていない」以外を回答された方にお聞きします。

問 12-1 あなたやあなたの介助者のために、どのような支援が必要ですか。

(あてはまるものすべてに○)



医療的ケア児や介助者のために必要な支援策は、「保育所や学校等における環境整備」が 55.1%、「一時的に預かるサービスの充実」が 53.6%と 5 割を超えており、次いで「移動に係る支援の充実」が 49.3%、「相談できる体制の充実」が 46.4%と続いています。

【クロス集計】年代別

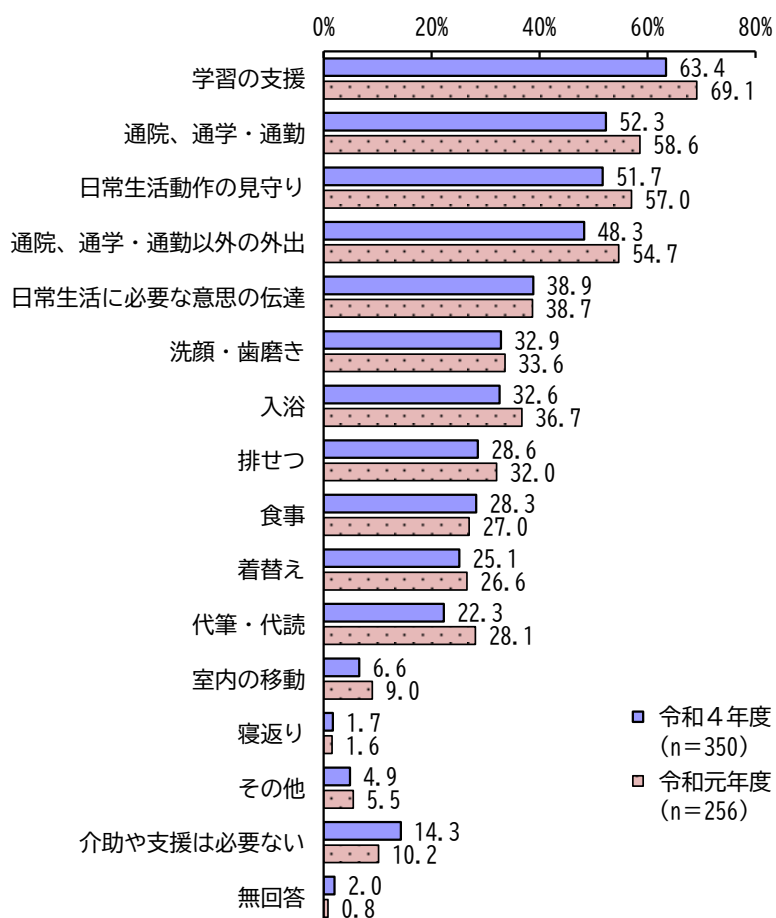
(単位:%)	n	一時的に預かるサービスの充実	移動に係る支援の充実	保育所や学校等における環境整備	経済的な支援等の充実	医療的ケアに対応できる事業所等の充実
全体	69	53.6	49.3	55.1	42.0	20.3
0～2歳	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
3～5歳	7	85.7	100.0	85.7	57.1	14.3
6～8歳	21	66.7	66.7	61.9	42.9	33.3
9～11歳	15	53.3	53.3	53.3	33.3	20.0
12～14歳	15	26.7	13.3	46.7	33.3	20.0
15歳以上	4	75.0	50.0	25.0	100.0	0.0

(単位:%)	n	訪問看護・訪問リハビリ等充実	相談できる体制の充実	情報提供の充実	その他	無回答
全体	69	14.5	46.4	42.0	4.3	15.9
0～2歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
3～5歳	7	28.6	71.4	71.4	0.0	0.0
6～8歳	21	9.5	42.9	47.6	4.8	14.3
9～11歳	15	13.3	46.7	33.3	0.0	20.0
12～14歳	15	13.3	46.7	40.0	0.0	26.7
15歳以上	4	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも、「一時的に預かるサービスの充実」と「保育所や学校等における環境整備」は高くなっています。また、3～11歳では、「移動に係る支援の充実」が、「12～14歳」では「相談できる体制の充実」が最も高くなっています。

(12) 日常生活に必要な介助や支援

問 13 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
(あてはまるものすべてに○)



日常生活に必要な介助や支援は、「学習の支援」が 63.4%と最も高く、次いで「通院、通学・通勤」が 52.3%、「日常生活動作の見守り」が 51.7%、「通院、通学・通勤以外の外出」が 48.3%と続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は 14.3%となっています。

令和元年度と比較すると、介助や支援の 13 項目中 10 項目で下がっており、特に「通院、通学・通勤以外の外出」、「通院、通学・通勤」、「代筆・代読」、「学習の支援」、「日常生活動作の見守り」で 5 ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	室内の移動	洗顔・歯磨き	代筆・代読
全体	350	28.3	28.6	32.6	1.7	25.1	6.6	32.9	22.3
障害別									
肢体不自由	30	76.7	80.0	86.7	10.0	76.7	40.0	86.7	63.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	65.4	73.1	84.6	3.8	65.4	19.2	76.9	57.7
視覚障害	12	41.7	50.0	50.0	8.3	41.7	25.0	50.0	50.0
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	35.7	50.0	0.0	42.9	7.1	42.9	14.3
内部障害	17	11.8	11.8	17.6	0.0	11.8	5.9	11.8	5.9
知的障害	140	45.0	45.7	53.6	0.7	41.4	8.6	50.7	35.7
発達障害	213	23.5	22.5	25.8	0.9	18.3	3.3	25.8	14.6
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	100.0	0.0	50.0	50.0	100.0	50.0
難病（特定疾病）	21	57.1	61.9	71.4	0.0	57.1	19.0	71.4	57.1
その他	19	36.8	21.1	47.4	0.0	31.6	0.0	42.1	10.5

(単位:%)	n	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	学習の支援	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体	350	52.3	48.3	38.9	51.7	63.4	4.9	14.3	2.0
障害別									
肢体不自由	30	90.0	80.0	73.3	80.0	73.3	0.0	3.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	88.5	84.6	84.6	88.5	84.6	0.0	0.0	0.0
視覚障害	12	91.7	91.7	50.0	66.7	83.3	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	64.3	50.0	42.9	50.0	42.9	14.3	21.4	0.0
内部障害	17	23.5	17.6	17.6	29.4	23.5	5.9	52.9	5.9
知的障害	140	76.4	75.7	63.6	70.0	87.9	2.1	2.1	1.4
発達障害	213	45.5	43.7	35.7	50.2	62.0	5.6	13.1	2.3
精神障害	3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	76.2	71.4	66.7	76.2	85.7	0.0	14.3	0.0
その他	19	52.6	31.6	42.1	63.2	78.9	10.5	10.5	0.0

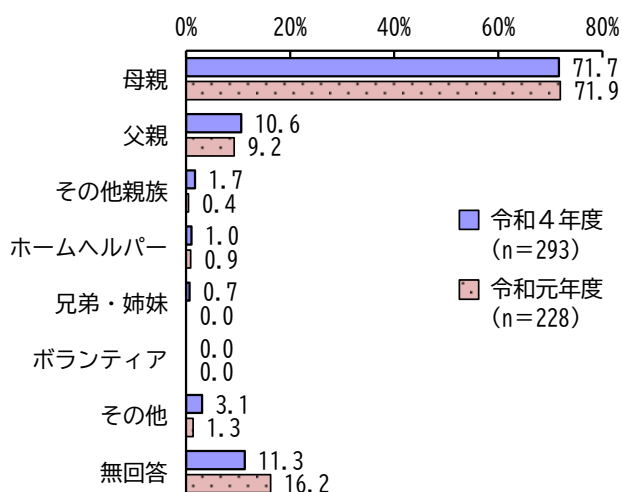
障害別にみると、“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「寝返り」と「室内の移動」を除くすべての介助や支援で5割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”といった身体障害では、「通院、通学・通勤」が最も高くなっています。また、“知的障害”と“難病（特定疾病）”でも7割半ばを超えて高くなっています。

“知的障害”、“発達障害”、“難病（特定疾病）”、“その他”では、「学習の支援」が最も高くなっています。また、“音声・言語・そしゃく機能障害”と“視覚障害”でも8割を超えて高くなっています。

(13) 主な介助者・支援者

問13で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。
 問14 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)



主な介助者・支援者は、「母親」が71.7%と7割を超えて最も高く、次いで「父親」が10.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、「父親」が1.4ポイント、「その他親族」が1.3ポイント上がっていますが、全体的に大きな変化はありません。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	父親	母親	兄弟・姉妹	その他親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体	293	10.6	71.7	0.7	1.7	1.0	0.0	3.1	11.3
障害別									
肢体不自由	28	10.7	78.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	3.6
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	84.6	0.0	0.0	3.8	0.0	7.7	0.0
視覚障害	12	8.3	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	11	18.2	72.7	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
内部障害	7	14.3	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	135	9.6	75.6	1.5	2.2	0.7	0.0	2.2	8.1
発達障害	180	7.2	70.6	0.6	1.7	1.7	0.0	3.9	14.4
精神障害	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
高次脳機能障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	18	5.6	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
その他	17	17.6	64.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8

障害別にみると、いずれの障害でも「母親」が最も高くなっています。

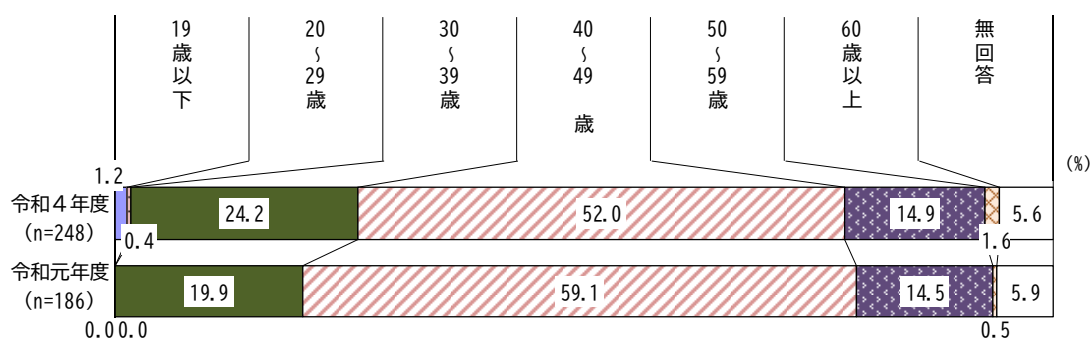
“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“その他”では、「父親」が1割を超えてやや高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”では、「ホームヘルパー」が3.8%と、他の障害よりも高くなっています。

(14) 主な介助者・支援者の年代

問 14 で家族や親族と回答された方にお聞きします。

問 14-1 あなたを主に介助・支援している人の年齢はいくつですか。(〇はひとつ)



主な介助者・支援者の年代は、「40～49歳」が52.0%と最も高く、次いで「30～39歳」が24.2%、「50～59歳」が14.9%と続いています。

令和元年度と比較すると、「30～39歳」が4.3ポイント上がっていますが、反対に「40～49歳」が7.1ポイント下がっています。

また、「19歳以下」については、令和元年度では回答がありませんでしたが、今回の調査では1.2%となっています。

【クロス集計】介助者別・障害別

(単位:%)	n	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	無回答
全体	248	1.2	0.4	24.2	52.0	14.9	1.6	5.6
介助者別								
父親	31	0.0	0.0	25.8	61.3	3.2	3.2	6.5
母親	210	1.4	0.5	24.3	51.4	16.7	0.0	5.7
兄弟・姉妹	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
その他親族	5	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0
障害別								
肢体不自由	25	0.0	0.0	12.0	60.0	12.0	0.0	16.0
音声・言語・そしゃく機能障害	23	0.0	0.0	17.4	65.2	8.7	0.0	8.7
視覚障害	10	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0
聴覚・平衡機能障害	10	0.0	0.0	40.0	50.0	0.0	0.0	10.0
内部障害	7	0.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0	0.0
知的障害	120	1.7	0.8	19.2	53.3	17.5	2.5	5.0
発達障害	144	1.4	0.0	24.3	50.7	16.0	1.4	6.3
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	17	5.9	0.0	35.3	47.1	0.0	0.0	11.8
その他	14	7.1	0.0	28.6	42.9	7.1	0.0	14.3

介助者別にみると、「父親」と「母親」とともに「40～49歳」が5割を超えて最も高く、「30～39歳」も2割半ば前後と続いています。

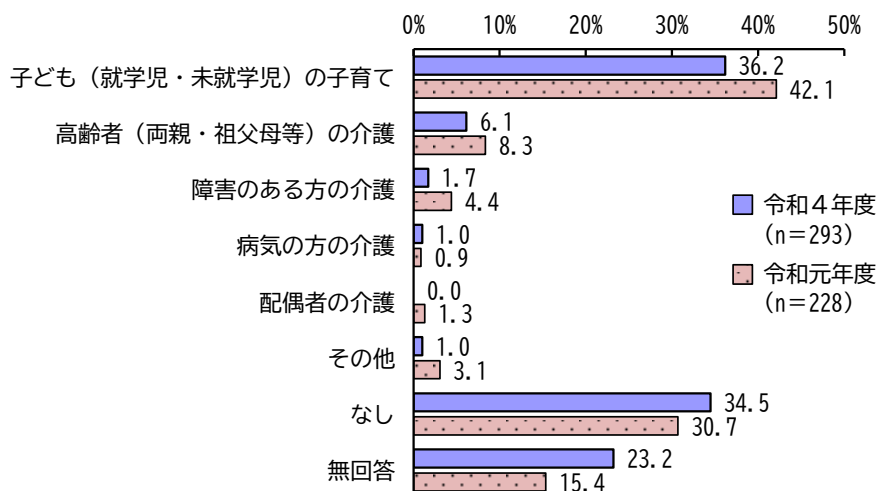
障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害も「40～49歳」が最も高くなっています。

(15) 主な介助者による介助状況

問 13 で「介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問 14-2 あなたを主に介助・支援している人は、あなた以外に介護や子育てをしていますか。

(あてはまるものすべてに○)



主な介助者によるその他の介助状況は、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が 36.2%と最も高く、次いで「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が 6.1%、「障害のある方の介護」が 1.7%と続いています。

一方、「なし」が 34.5%と3割半ば近くを占めています。

令和元年度と比較すると、「病気の方の介護」以外の介護状況は下がっており、特に「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が 5.9 ポイント下がっています。

【クロス集計】 介助者別・障害別

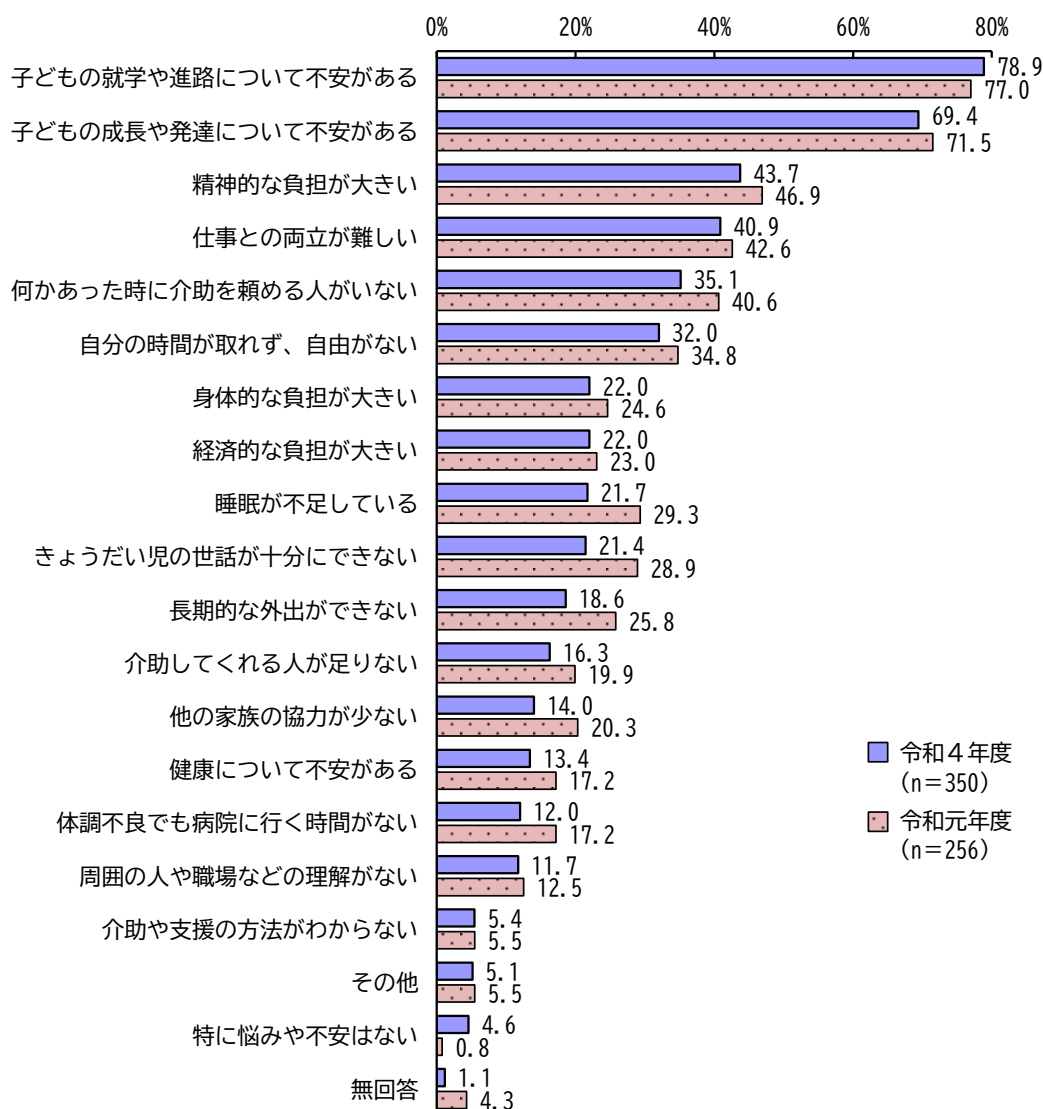
	n	高齢者(両親・祖父母等)の介護	配偶者の介護	子ども(就学児・未就学児)の子育て	病気の方の介護	障害のある方の介護	その他	なし	無回答	
(単位:%)										
全体	293	6.1	0.0	36.2	1.0	1.7	1.0	34.5	23.2	
介助者別	父親	31	9.7	0.0	38.7	0.0	0.0	0.0	35.5	22.6
	母親	210	4.8	0.0	38.1	1.4	1.9	1.0	37.1	19.0
	兄弟・姉妹	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	その他親族	5	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	ホームヘルパー	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ボランティア	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	9	33.3	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1
	障害別	肢体不自由	28	10.7	0.0	28.6	0.0	3.6	0.0	42.9
音声・言語・そしゃく機能障害		26	11.5	0.0	50.0	0.0	3.8	0.0	23.1	15.4
視覚障害		12	0.0	0.0	41.7	0.0	0.0	0.0	41.7	16.7
聴覚・平衡機能障害		11	9.1	0.0	72.7	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2
内部障害		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	71.4	14.3
知的障害		135	6.7	0.0	41.5	1.5	1.5	1.5	31.9	20.0
発達障害		180	6.1	0.0	32.8	1.1	2.2	1.1	37.8	22.8
精神障害		2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
高次脳機能障害		2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病(特定疾病)		18	5.6	0.0	50.0	0.0	5.6	0.0	27.8	16.7
その他		17	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	52.9	29.4

介助者別にみると、“父親”と“母親”ともに、「子ども(就学児・未就学児)の子育て」が3割半ばを超えて最も高くなっています。

障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害でも「子ども(就学児・未就学児)の子育て」が最も高くなっています。

(16) 保護者の悩み・不安

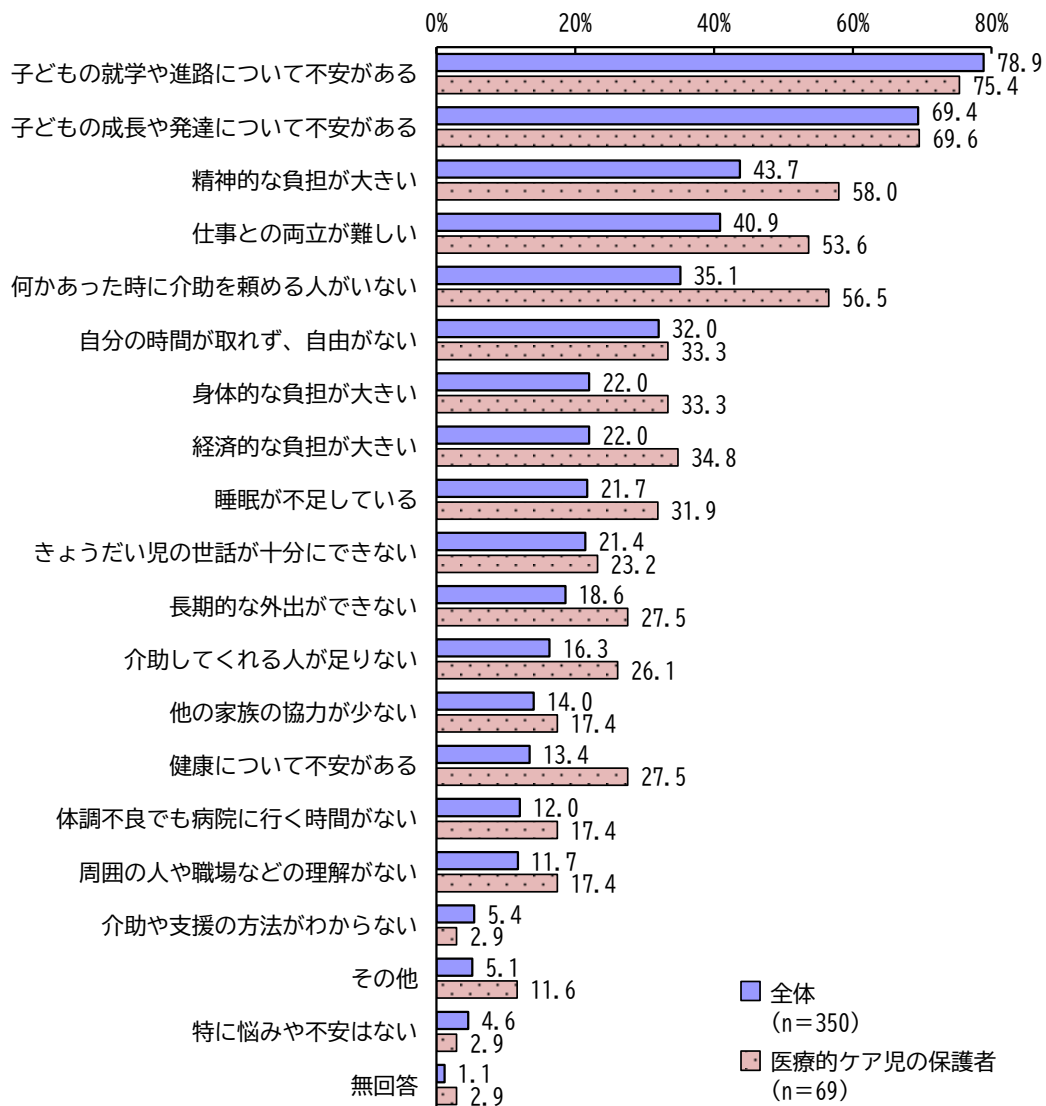
問 15 保護者の方にお聞きします。どのような悩みや不安を抱えていますか。
(あてはまるものすべてに○)



保護者の悩み・不安は、「子どもの就学や進路について不安がある」が78.9%、「子どもの成長や発達について不安がある」が69.4%と、子どもの将来についての項目が他の項目と比較して高くなっています。次いで「精神的な負担が大きい」が46.9%、「仕事との両立が難しい」が40.9%と4割台で続いています。

令和元年度と比較すると、「子どもの就学や進路について不安がある」以外の悩み・不安はすべての項目で下がっており、特に「睡眠が不足している」、「きょうだい児の世話が十分にできない」、「長期的な外出ができない」、「他の家族の協力が少ない」、「何かあった時に介助を頼める人がいない」、「体調不良でも病院に行く時間がない」は5ポイント以上下がっています。

【全体と医療的ケア児の保護者との比較】



医療的ケア児の保護者と全体を比較すると、医療的ケア児の保護者の悩み・不安の割合は、「子どもの就学や進路について不安がある」以外のいずれの項目も全体を上回っています。特に「何かあった時に介助を頼める人がいない」が20ポイント以上全体の割合を上回っています。また、「精神的な負担が大きい」、「健康について不安がある」、「仕事との両立が難しい」、「経済的な負担が大きい」、「身体的な負担が大きい」、「睡眠が不足している」でも、10ポイント以上全体を上回っています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	介助してく れる人が足 りない	何かあった時 に介助を頼め る人がいない	他の家族の 協力が少な い	仕事との両 立が難しい	長期的な外 出がでしな い	介助や支援 の方法がわ からない	自分の時間 が取れず、 自由がない
全体	350	16.3	35.1	14.0	40.9	18.6	5.4	32.0
障害別								
肢体不自由	30	30.0	70.0	16.7	63.3	30.0	10.0	46.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	46.2	65.4	11.5	42.3	23.1	3.8	42.3
視覚障害	12	16.7	41.7	16.7	66.7	25.0	8.3	50.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	35.7	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3
内部障害	17	5.9	29.4	5.9	23.5	11.8	0.0	11.8
知的障害	140	25.0	55.0	13.6	51.4	29.3	7.1	37.9
発達障害	213	16.0	33.8	16.9	40.4	17.8	6.1	33.3
精神障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	21	33.3	61.9	9.5	61.9	23.8	4.8	38.1
その他	19	15.8	36.8	26.3	52.6	21.1	5.3	36.8

(単位:%)	n	身体的な負 担が大きい	健康につい て不安があ る	体調不良で も病院に行 く時間がない	睡眠が不足 している	精神的な負 担が大きい	経済的な負 担が大きい	周囲の人や 職場などの 理解がない
全体	350	22.0	13.4	12.0	21.7	43.7	22.0	11.7
障害別								
肢体不自由	30	56.7	30.0	20.0	46.7	53.3	30.0	10.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	15.4	19.2	38.5	53.8	11.5	3.8
視覚障害	12	33.3	16.7	25.0	25.0	75.0	41.7	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	0.0	14.3	21.4	21.4	21.4	7.1
内部障害	17	5.9	23.5	11.8	17.6	35.3	29.4	5.9
知的障害	140	34.3	18.6	17.9	27.9	43.6	24.3	12.1
発達障害	213	18.8	15.0	11.3	21.1	49.3	23.9	15.5
精神障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	66.7	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	47.6	28.6	23.8	33.3	52.4	14.3	14.3
その他	19	21.1	26.3	15.8	31.6	63.2	26.3	5.3

(単位:%)	n	きょうだい児 の世話が十分 にできない	子どもの就学 や進路につい て不安がある	子どもの成長 や発達につい て不安がある	その他	特に悩みや 不安はない	無回答
全体	350	21.4	78.9	69.4	5.1	4.6	1.1
障害別							
肢体不自由	30	16.7	66.7	53.3	10.0	6.7	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	34.6	73.1	65.4	7.7	3.8	0.0
視覚障害	12	16.7	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	64.3	28.6	7.1	7.1	7.1
内部障害	17	5.9	58.8	52.9	11.8	23.5	0.0
知的障害	140	25.7	86.4	70.7	5.7	0.7	0.7
発達障害	213	23.5	81.2	74.6	6.1	2.3	0.9
精神障害	3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	23.8	76.2	57.1	9.5	4.8	0.0
その他	19	10.5	78.9	73.7	5.3	5.3	5.3

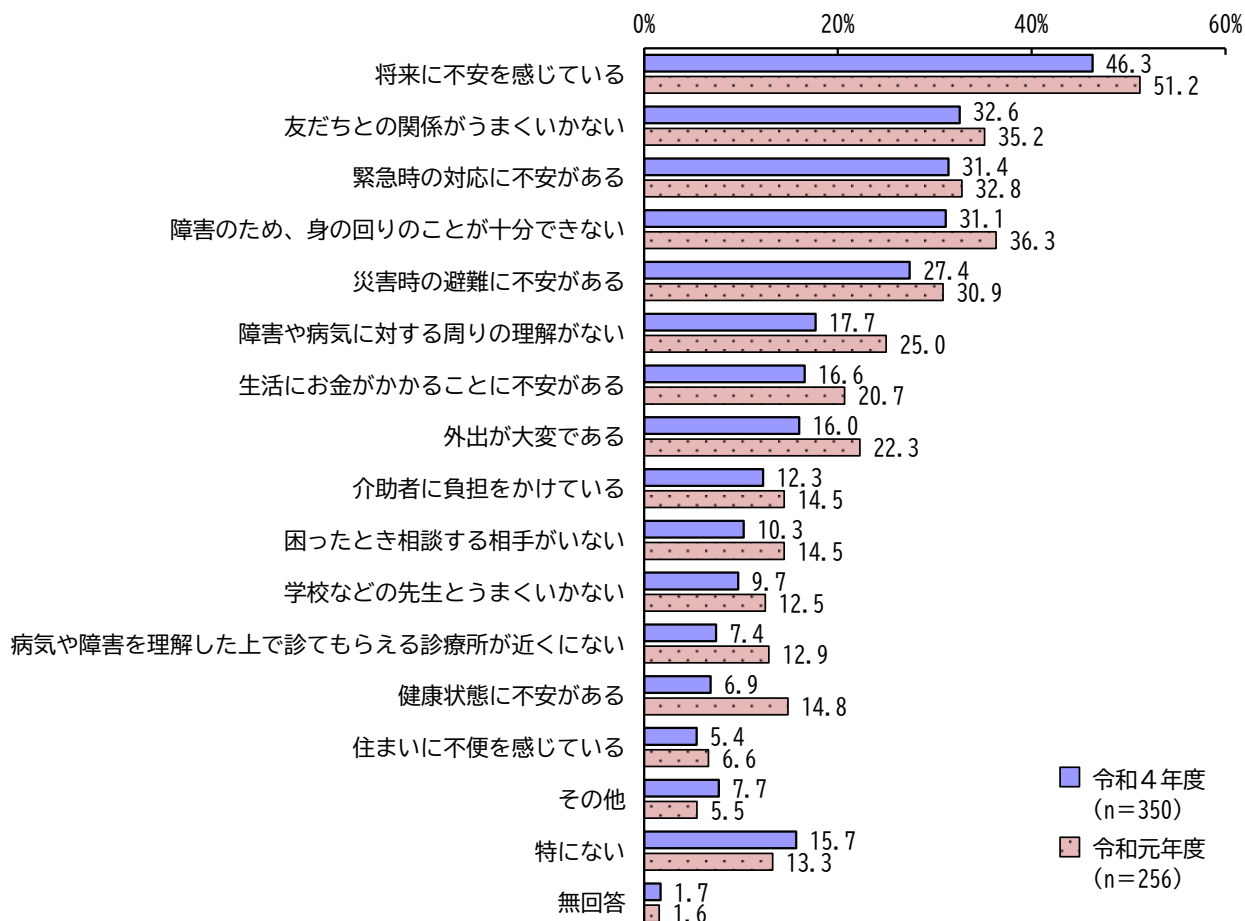
障害別にみると、“肢体不自由”では、「何かあった時に介助を頼める人がいない」、「視覚障害」では「精神的な負担が大きい」が7割以上で最も高くなっています。

それ以外のいずれの障害でも、「子どもの就学や進路について不安がある」が最も高くなっています。

3 相談や福祉の情報について

(1) 日常生活で困っていること

問 16 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)
(ご家族や支援者が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が46.3%と最も高く、次いで「友だちとの関係がうまくいかない」が32.6%、「緊急時の対応に不安がある」が31.4%、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が31.1%と続いています。

一方、「特にない」は15.7%となっています。

令和元年度と比較すると、いずれの項目も下がっており、特に「健康状態に不安がある」、「障害や病気に対する周りの理解がない」、「外出が大変である」、「病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない」、「障害のため、身の回りのことが十分できない」は5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】家族構成別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
全体	350	6.9	31.1	12.3	16.0	5.4	27.4
家族構成別							
両親と同居	284	7.0	29.2	12.0	16.2	4.9	27.5
ひとり親家庭	31	3.2	32.3	12.9	16.1	6.5	29.0
三世代	29	6.9	41.4	13.8	13.8	10.3	27.6
その他	2	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
全体	350	31.4	9.7	32.6	17.7	10.3	7.4
家族構成別							
両親と同居	284	31.3	10.2	32.0	16.9	10.6	7.4
ひとり親家庭	31	38.7	9.7	22.6	29.0	6.5	6.5
三世代	29	24.1	6.9	48.3	13.8	13.8	6.9
その他	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特になし	無回答
全体	350	16.6	46.3	7.7	15.7	1.7
家族構成別						
両親と同居	284	16.2	44.7	9.2	16.2	1.8
ひとり親家庭	31	25.8	54.8	0.0	19.4	3.2
三世代	29	13.8	51.7	3.4	10.3	0.0
その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

家族構成別にみると、“その他”以外のいずれの家族構成も「将来に不安を感じている」が最も高く、特に“ひとり親家庭”と“三世代”では5割を超えています。

“ひとり親家庭”では、「障害や病気に対する周りの理解がない」や「生活にお金がかかることに不安がある」が他の家族構成よりも高くなっています。

“三世代”では、「障害のため、身の回りのことが十分できない」、「友だちとの関係がうまくいかない」が4割を超えて、他の家族構成よりも高くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある
全体	350	6.9	31.1	12.3	16.0	5.4	27.4
障害別							
肢体不自由	30	23.3	70.0	40.0	50.0	20.0	56.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	23.1	57.7	30.8	34.6	11.5	61.5
視覚障害	12	25.0	33.3	41.7	41.7	25.0	66.7
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	35.7	7.1	7.1	7.1	42.9
内部障害	17	29.4	17.6	5.9	17.6	5.9	23.5
知的障害	140	7.9	48.6	20.0	24.3	7.1	43.6
発達障害	213	3.8	28.6	11.7	14.1	4.2	24.9
精神障害	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	21	14.3	52.4	28.6	33.3	14.3	52.4
その他	19	0.0	42.1	5.3	10.5	5.3	10.5

(単位:%)	n	緊急時の対応に不安がある	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない
全体	350	31.4	9.7	32.6	17.7	10.3	7.4
障害別							
肢体不自由	30	53.3	10.0	6.7	16.7	10.0	13.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	61.5	7.7	15.4	11.5	7.7	19.2
視覚障害	12	33.3	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0
内部障害	17	17.6	0.0	5.9	23.5	0.0	5.9
知的障害	140	50.0	9.3	27.1	18.6	16.4	12.9
発達障害	213	30.0	13.1	44.1	21.1	12.2	8.9
精神障害	3	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	21	42.9	9.5	4.8	14.3	9.5	9.5
その他	19	21.1	10.5	47.4	21.1	10.5	5.3

(単位:%)	n	生活にお金がかかることに不安がある	将来に不安を感じている	その他	特にな	無回答
全体	350	16.6	46.3	7.7	15.7	1.7
障害別						
肢体不自由	30	36.7	63.3	3.3	6.7	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	15.4	57.7	0.0	3.8	0.0
視覚障害	12	33.3	58.3	16.7	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	57.1	0.0	14.3	0.0
内部障害	17	17.6	35.3	17.6	17.6	5.9
知的障害	140	19.3	51.4	7.9	10.0	1.4
発達障害	213	15.5	49.3	8.5	14.6	1.4
精神障害	3	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	23.8	61.9	4.8	9.5	0.0
その他	19	26.3	47.4	10.5	10.5	5.3

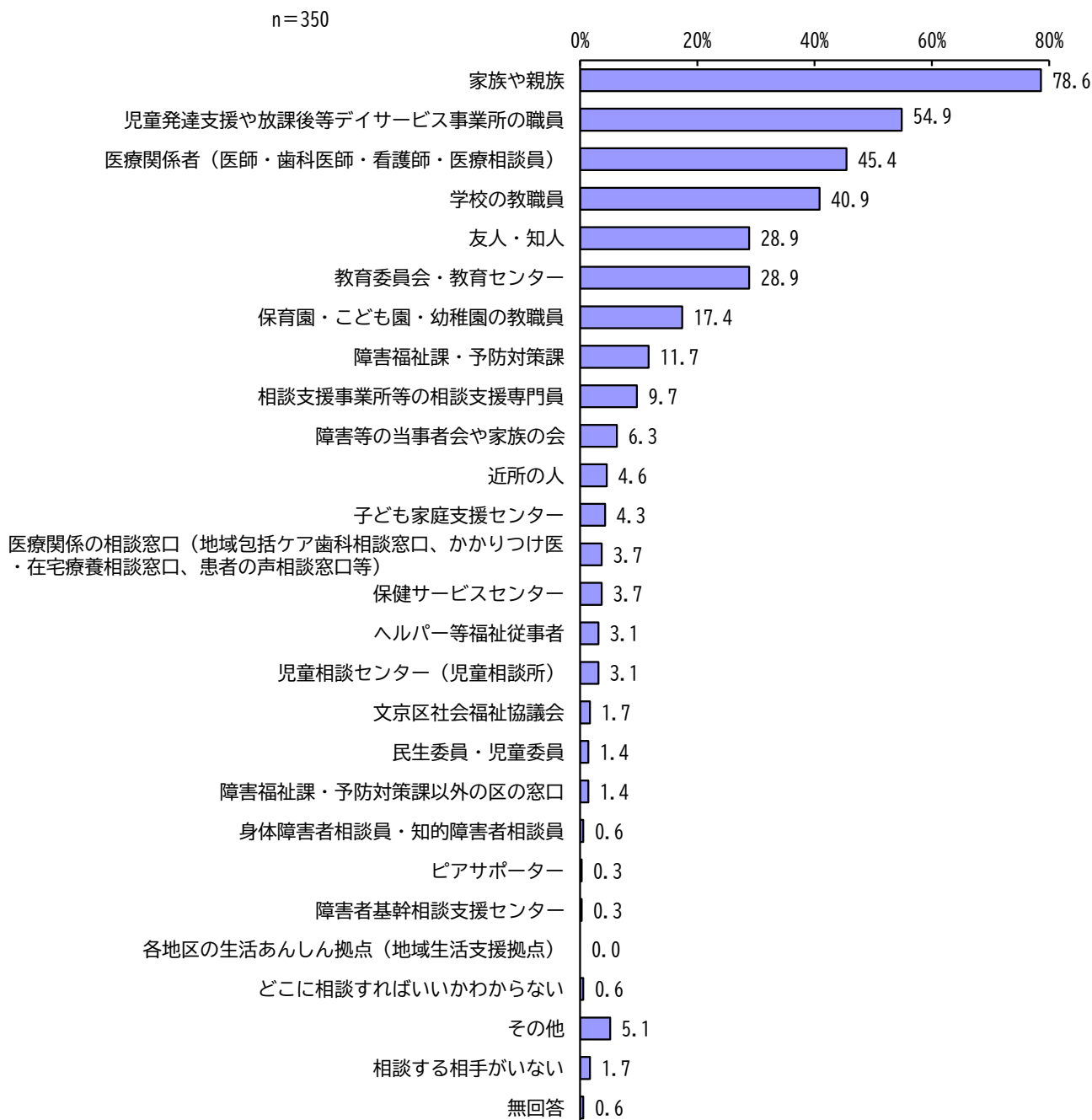
障害別にみると、“肢体不自由”では、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が7割で最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“視覚障害”では、「災害時の避難に不安がある」が6割を超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「将来に不安を感じている」が最も高くなっています。

(2) 困ったときの相談相手

問 17 あなたや保護者の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)



本人や保護者が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が 78.6%と最も高く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が 54.9%、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が 45.4%、「学校の教職員」が 40.9%と続いています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は 0.6%、「相談する相手がない」は 1.7%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・幼稚園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	身体障害者相談員・知的障害者相談員
全体	350	78.6	4.6	28.9	0.3	40.9	17.4	1.4	6.3	0.6
障害別										
肢体不自由	30	86.7	3.3	26.7	0.0	46.7	6.7	0.0	13.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	92.3	3.8	26.9	0.0	46.2	7.7	0.0	19.2	0.0
視覚障害	12	83.3	16.7	33.3	0.0	41.7	8.3	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	85.7	7.1	7.1	0.0	50.0	14.3	0.0	21.4	0.0
内部障害	17	70.6	0.0	17.6	0.0	23.5	5.9	0.0	17.6	0.0
知的障害	140	77.9	5.0	32.1	0.0	53.6	10.7	0.7	12.1	1.4
発達障害	213	75.6	4.2	25.8	0.5	45.1	15.0	2.3	2.8	0.9
精神障害	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病（特定疾病）	21	90.5	0.0	19.0	0.0	52.4	0.0	0.0	19.0	0.0
その他	19	94.7	10.5	47.4	0.0	21.1	47.4	0.0	5.3	0.0

(単位:%)	n	ヘルパー等福祉従事者	児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係者の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター
全体	350	3.1	54.9	9.7	45.4	3.7	11.7	1.4	3.7	0.3
障害別										
肢体不自由	30	16.7	33.3	10.0	60.0	6.7	26.7	3.3	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	46.2	7.7	46.2	0.0	15.4	3.8	3.8	0.0
視覚障害	12	16.7	16.7	8.3	50.0	8.3	25.0	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	7.1	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	5.9	5.9	5.9	64.7	17.6	11.8	5.9	5.9	0.0
知的障害	140	5.0	61.4	12.1	50.7	3.6	12.9	2.1	2.9	0.7
発達障害	213	1.4	63.8	11.7	42.7	2.8	10.8	1.9	3.3	0.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	4.8	42.9	9.5	76.2	0.0	23.8	0.0	0.0	0.0
その他	19	5.3	57.9	10.5	52.6	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0

(単位:%)	n	各地区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談センター（児童相談所）	文京区社会福祉協議会	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がない	無回答
全体	350	0.0	4.3	28.9	3.1	1.7	0.6	5.1	1.7	0.6
障害別										
肢体不自由	30	0.0	0.0	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	11.5	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	8.3	33.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
知的障害	140	0.0	2.1	18.6	2.1	2.1	0.7	5.7	4.3	0.7
発達障害	213	0.0	5.6	34.3	3.8	2.3	0.9	5.6	0.5	0.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	19.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
その他	19	0.0	0.0	36.8	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害でも、「家族や親族」が最も高く、「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」も4割を超えて高くなっています。

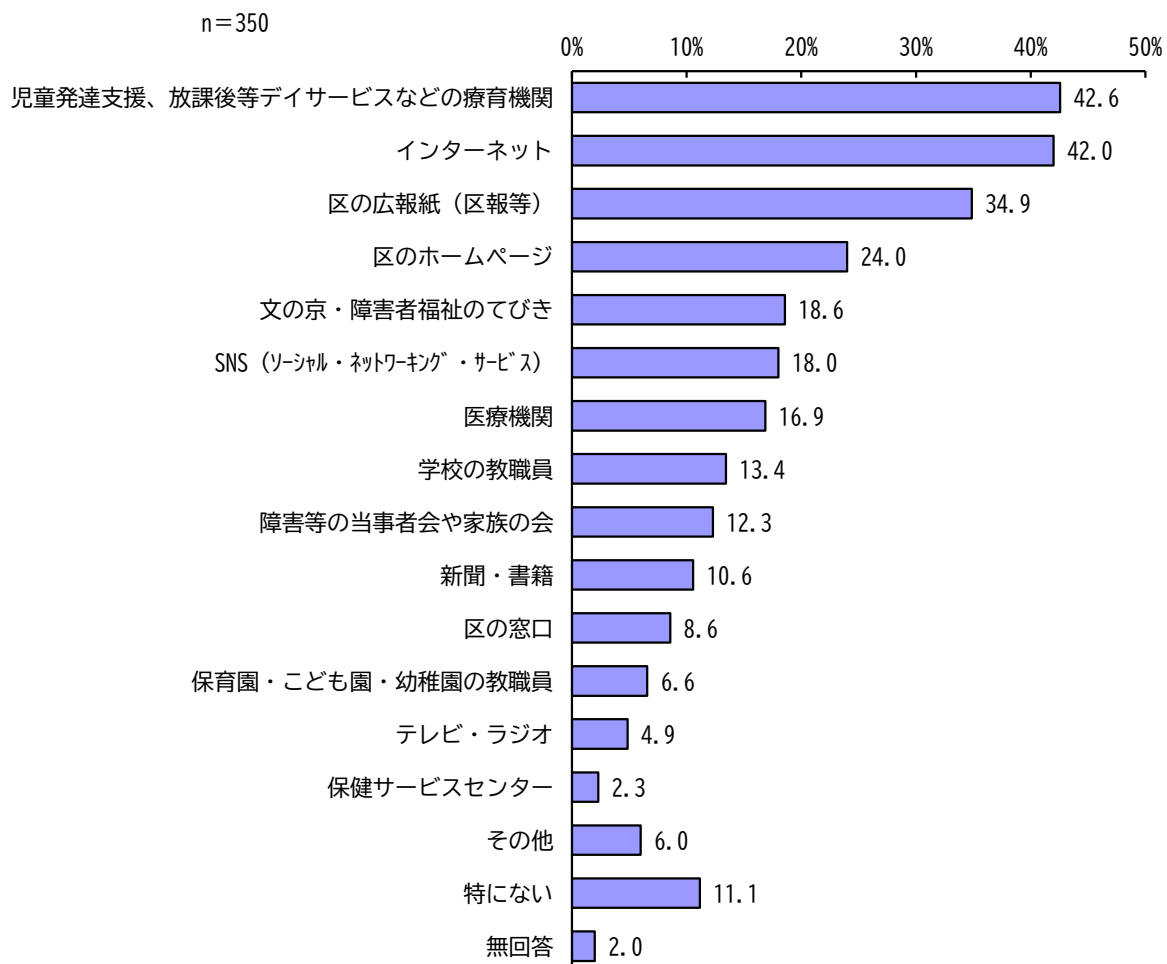
“知的障害”と“発達障害”では、「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が6割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“視覚障害”と“発達障害”では、「教育委員会・教育センター」が3割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“内部障害”では、「相談する相手がない」が11.8%と1割を超えています。

(3) 福祉情報の入手先

問 18 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が 42.6%、「インターネット」が 42.0%と 4 割台となっており、「区の広報紙（区報等）」が 34.9%、「区のホームページ」が 24.0%と続いています。

一方、「特にない」は 11.1%となっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)	新聞・書籍
(単位:%)										
全体	350	34.9	24.0	18.6	8.6	2.3	4.9	42.0	18.0	10.6
障害別										
肢体不自由	30	43.3	26.7	60.0	13.3	3.3	10.0	50.0	23.3	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	15.4	34.6	11.5	3.8	11.5	34.6	26.9	15.4
視覚障害	12	33.3	16.7	25.0	16.7	8.3	8.3	66.7	8.3	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0
内部障害	17	23.5	35.3	29.4	23.5	5.9	0.0	47.1	11.8	5.9
知的障害	140	41.4	24.3	34.3	12.1	2.1	7.9	40.0	17.1	11.4
発達障害	213	30.5	20.2	12.2	6.6	1.9	4.7	41.3	18.8	11.3
精神障害	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	57.1	33.3	52.4	19.0	0.0	9.5	42.9	14.3	14.3
その他	19	31.6	36.8	15.8	21.1	5.3	0.0	52.6	15.8	26.3

	n	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	学校の教職員	保育園・こども園・幼稚園の教職員	児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関	その他	特にない	無回答
(単位:%)									
全体	350	12.3	16.9	13.4	6.6	42.6	6.0	11.1	2.0
障害別									
肢体不自由	30	13.3	33.3	13.3	0.0	16.7	3.3	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	23.1	26.9	11.5	7.7	19.2	7.7	15.4	0.0
視覚障害	12	8.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	14.3	21.4	0.0	21.4	0.0	7.1	0.0
内部障害	17	11.8	23.5	0.0	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0
知的障害	140	24.3	18.6	17.1	2.9	40.0	8.6	10.0	1.4
発達障害	213	8.5	16.9	15.0	6.6	49.3	6.6	12.7	2.8
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病(特定疾病)	21	23.8	38.1	14.3	0.0	23.8	0.0	4.8	0.0
その他	19	15.8	10.5	5.3	21.1	52.6	5.3	0.0	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”では、「文の京・障害者福祉のてびき」が6割で最も高くなっています。

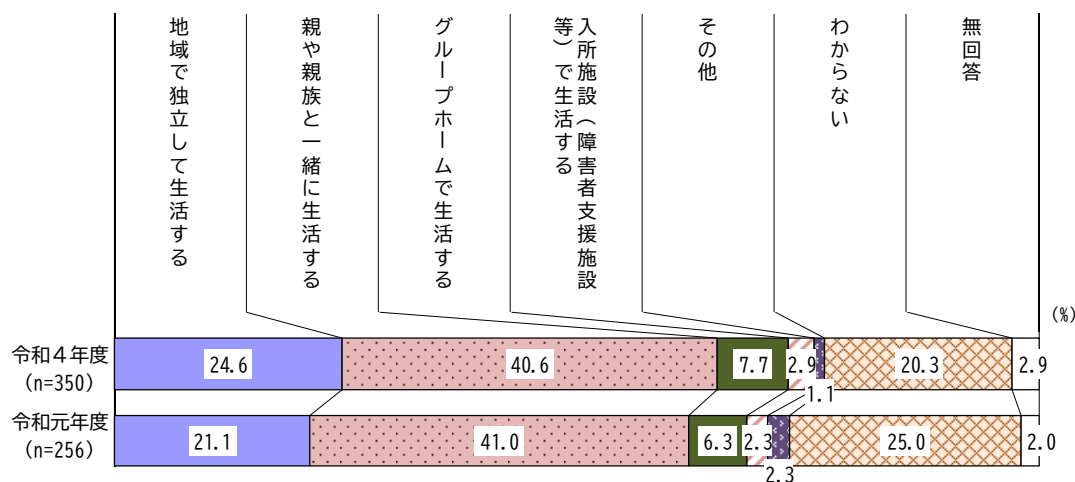
“音声・言語・そしゃく機能障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”、“難病(特定疾病)”では、「区の広報紙(区報等)」が最も高く、特に“難病(特定疾病)”では57.1%と5割半ばを超えています。

“視覚障害”、“内部障害”では、「インターネット」が最も高く、特に“視覚障害”では66.7%と6割半ばを超えています。

“発達障害”では、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が5割前後で最も高くなっており、“知的障害”も4割を占めています。

(4) 将来希望する生活

問 19 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



将来希望する生活は、「親や親族と一緒に生活する」が 40.6%と最も高く、次いで「地域で独立して生活する」が 24.6%と続いており、それ以外の項目は 1 割を下回っています。

一方、「わからない」は 20.3%となっています。

令和元年度と比較すると、「地域で独立して生活する」が 3.5 ポイント上がっており、反対に「わからない」が 4.7 ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	地域で独立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホームで生活する	入所施設(障害者支援施設等)で生活する	その他	わからない	無回答
(単位:%)								
全体	350	24.6	40.6	7.7	2.9	1.1	20.3	2.9
障害別								
肢体不自由	30	20.0	36.7	6.7	16.7	6.7	13.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	53.8	11.5	3.8	3.8	19.2	0.0
視覚障害	12	16.7	66.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	35.7	7.1	7.1	7.1	14.3	0.0
内部障害	17	29.4	35.3	0.0	0.0	5.9	29.4	0.0
知的障害	140	13.6	36.4	17.1	5.7	0.7	24.3	2.1
発達障害	213	24.4	42.7	7.0	1.4	0.5	19.7	4.2
精神障害	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	19.0	42.9	14.3	9.5	4.8	9.5	0.0
その他	19	42.1	31.6	5.3	0.0	0.0	15.8	5.3

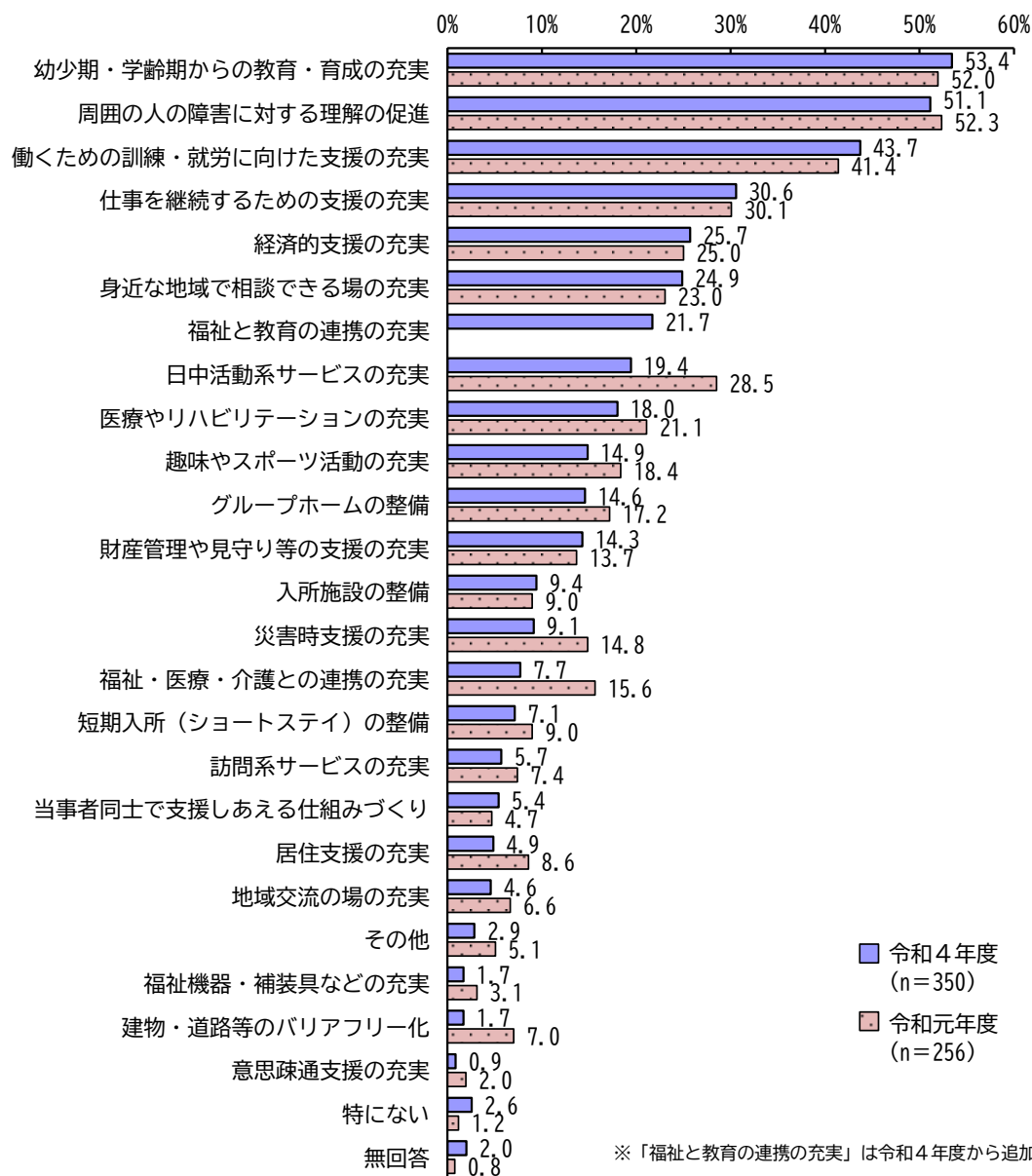
障害別にみると、いずれの障害でも「親や親族と一緒に生活する」が 3 割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”では「入所施設(障害者支援施設等)で生活する」が、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“知的障害”、“難病(特定疾病)”では「グループホームで生活する」が、1 割を超えて他の障害よりも高くなっています

“音声・言語・そしゃく機能障害”では「地域で独立して生活する」が 7.7%と唯一 1 割を下回り、他の障害よりも低くなっています。

(5) 地域で安心して暮らすために必要な施策

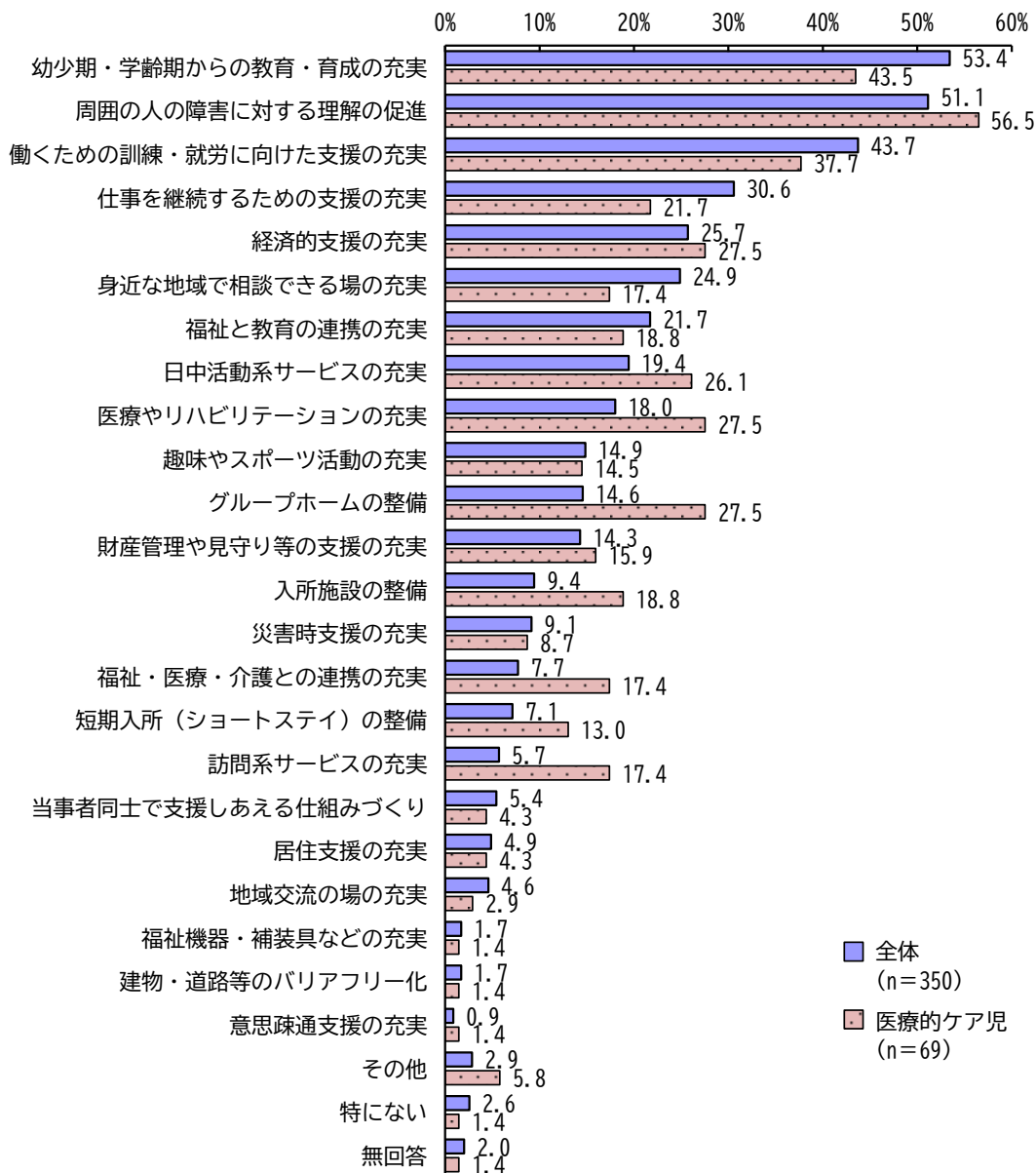
問 20 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が 53.4%、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が 51.1%と5割を超えており、次いで「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が 43.7%、「仕事を継続するための支援の充実」が 30.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、「日中活動系サービスの充実」、「福祉・医療・介護との連携の充実」、「災害時支援の充実」、「建物・道路等のバリアフリー化」が5ポイント以上下がっています。

【全体と医療的ケア児との比較】



医療的ケア児と全体を比較すると、医療的ケア児が地域で安心して暮らすために必要な施策の割合は、「グループホームの整備」が 12.9 ポイント、「訪問系サービスの充実」が 11.7 ポイントと、「福祉・医療・介護との連携の充実」が 9.7 ポイント、「医療やリハビリテーションの充実」が 9.5 ポイント、「入所施設の整備」が 9.4 ポイントと、大きく全体の割合を上回っています。

一方、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」は 9.9 ポイント、「仕事を継続するための支援の充実」は 8.9 ポイント、「身近な地域で相談できる場の充実」は 7.5 ポイント、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」は 6.0 ポイントと、5 ポイント以上全体の割合を下回っています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	短期入所の整備
全体	350	51.1	18.0	53.4	43.7	30.6	24.9	5.7	19.4	7.1
年代別										
0～2歳	7	42.9	28.6	85.7	57.1	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
3～5歳	90	56.7	20.0	70.0	38.9	22.2	22.2	3.3	13.3	5.6
6～8歳	88	51.1	13.6	69.3	47.7	28.4	26.1	9.1	20.5	5.7
9～11歳	61	52.5	14.8	47.5	49.2	31.1	31.1	4.9	18.0	8.2
12～14歳	60	48.3	18.3	23.3	46.7	46.7	25.0	1.7	21.7	8.3
15歳以上	26	34.6	15.4	7.7	34.6	34.6	19.2	15.4	30.8	15.4

(単位:%)	n	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実
全体	350	0.9	1.7	14.6	9.4	4.9	1.7	5.4	14.9	14.3
年代別										
0～2歳	7	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6
3～5歳	90	1.1	0.0	12.2	8.9	3.3	2.2	2.2	7.8	11.1
6～8歳	88	0.0	0.0	9.1	8.0	2.3	1.1	5.7	20.5	12.5
9～11歳	61	0.0	1.6	13.1	9.8	6.6	1.6	1.6	16.4	13.1
12～14歳	60	1.7	5.0	26.7	13.3	10.0	0.0	8.3	20.0	16.7
15歳以上	26	3.8	3.8	19.2	7.7	7.7	0.0	7.7	11.5	26.9

(単位:%)	n	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特になし	無回答
全体	350	25.7	9.1	4.6	7.7	21.7	2.9	2.6	2.0
年代別									
0～2歳	7	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0
3～5歳	90	25.6	5.6	2.2	6.7	23.3	2.2	3.3	2.2
6～8歳	88	20.5	12.5	6.8	5.7	27.3	1.1	2.3	0.0
9～11歳	61	29.5	3.3	3.3	3.3	19.7	1.6	3.3	1.6
12～14歳	60	33.3	15.0	5.0	10.0	11.7	3.3	3.3	3.3
15歳以上	26	23.1	11.5	7.7	19.2	3.8	3.8	0.0	7.7

年代別にみると、0～8歳までの年代では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向にあります。

9歳以上では「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。また、3～11歳の年代では5割を超えています。

また、いずれの年代でも「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が3割以上、「経済的支援の充実」が2割以上となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実	日中活動系サービスの充実	短期入所の整備
全体	350	51.1	18.0	53.4	43.7	30.6	24.9	5.7	19.4	7.1
障害別										
肢体不自由	30	36.7	46.7	26.7	30.0	16.7	13.3	23.3	43.3	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	30.8	30.8	38.5	26.9	26.9	23.1	30.8	23.1
視覚障害	12	33.3	16.7	25.0	33.3	33.3	8.3	8.3	16.7	16.7
聴覚・平衡機能障害	14	64.3	28.6	42.9	21.4	35.7	14.3	0.0	14.3	21.4
内部障害	17	47.1	35.3	23.5	29.4	29.4	5.9	11.8	5.9	5.9
知的障害	140	47.9	17.1	45.0	47.1	30.7	17.9	11.4	33.6	12.1
発達障害	213	51.2	14.1	60.6	47.9	33.3	26.8	2.8	16.9	5.2
精神障害	3	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
難病（特定疾病）	21	38.1	23.8	38.1	42.9	23.8	4.8	23.8	57.1	9.5
その他	19	36.8	10.5	68.4	47.4	15.8	47.4	0.0	10.5	10.5

(単位:%)	n	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設の整備	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実
全体	350	0.9	1.7	14.6	9.4	4.9	1.7	5.4	14.9	14.3
障害別										
肢体不自由	30	0.0	10.0	30.0	30.0	10.0	6.7	6.7	6.7	20.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	7.7	30.8	23.1	7.7	0.0	3.8	11.5	19.2
視覚障害	12	0.0	8.3	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0	25.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	21.4	7.1
内部障害	17	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	5.9	5.9	11.8	11.8
知的障害	140	0.7	1.4	33.6	18.6	7.9	1.4	6.4	20.7	23.6
発達障害	213	0.9	0.9	13.1	8.0	5.2	0.0	5.6	13.6	15.0
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	4.8	33.3	19.0	9.5	4.8	0.0	0.0	23.8
その他	19	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3	10.5	21.1	10.5

(単位:%)	n	経済的支援の充実	災害時支援の充実	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特になし	無回答
全体	350	25.7	9.1	4.6	7.7	21.7	2.9	2.6	2.0
障害別									
肢体不自由	30	30.0	10.0	6.7	23.3	3.3	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	15.4	7.7	15.4	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0
視覚障害	12	41.7	25.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	21.4	7.1	28.6	35.7	7.1	0.0	0.0
内部障害	17	29.4	11.8	0.0	11.8	23.5	0.0	11.8	0.0
知的障害	140	25.7	12.1	7.1	10.7	17.9	1.4	0.0	1.4
発達障害	213	23.0	8.0	4.2	6.1	23.9	3.8	1.9	3.3
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	33.3	14.3	4.8	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0
その他	19	26.3	5.3	10.5	5.3	31.6	5.3	0.0	0.0

障害別にみると、“肢体不自由”では「医療やリハビリテーションの充実」が46.7%と4割半ばを超えて最も高くなっています。

“視覚障害”では、「経済的支援の充実」が41.7%と4割を超えて最も高くなっています。

“発達障害”では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が6割を超えて最も高くなっています。

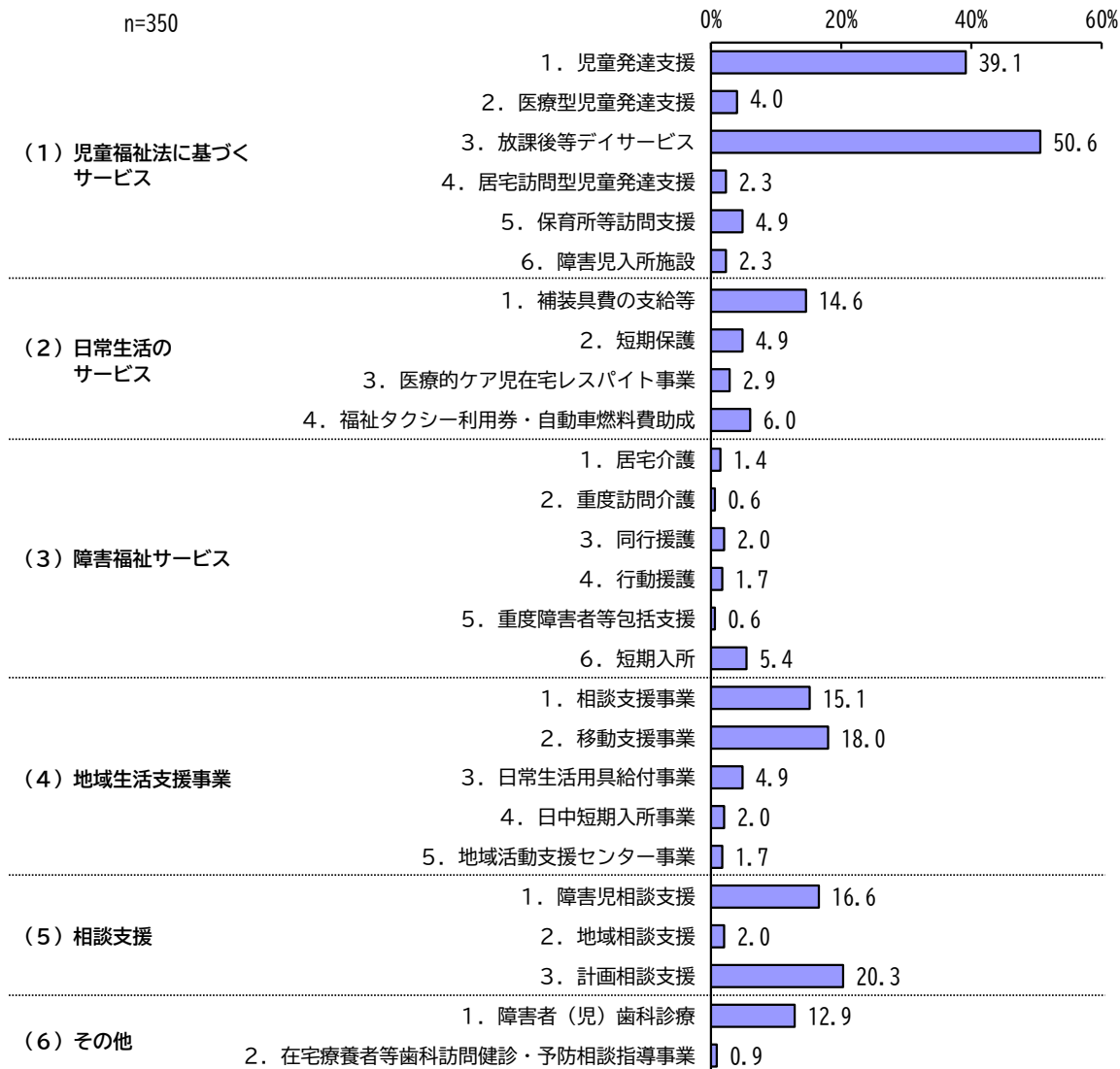
“難病（特定疾病）”では、「日中活動系サービスの充実」が57.1%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「周囲の人の障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。

4 福祉サービスについて

(1) 現在利用しているサービス

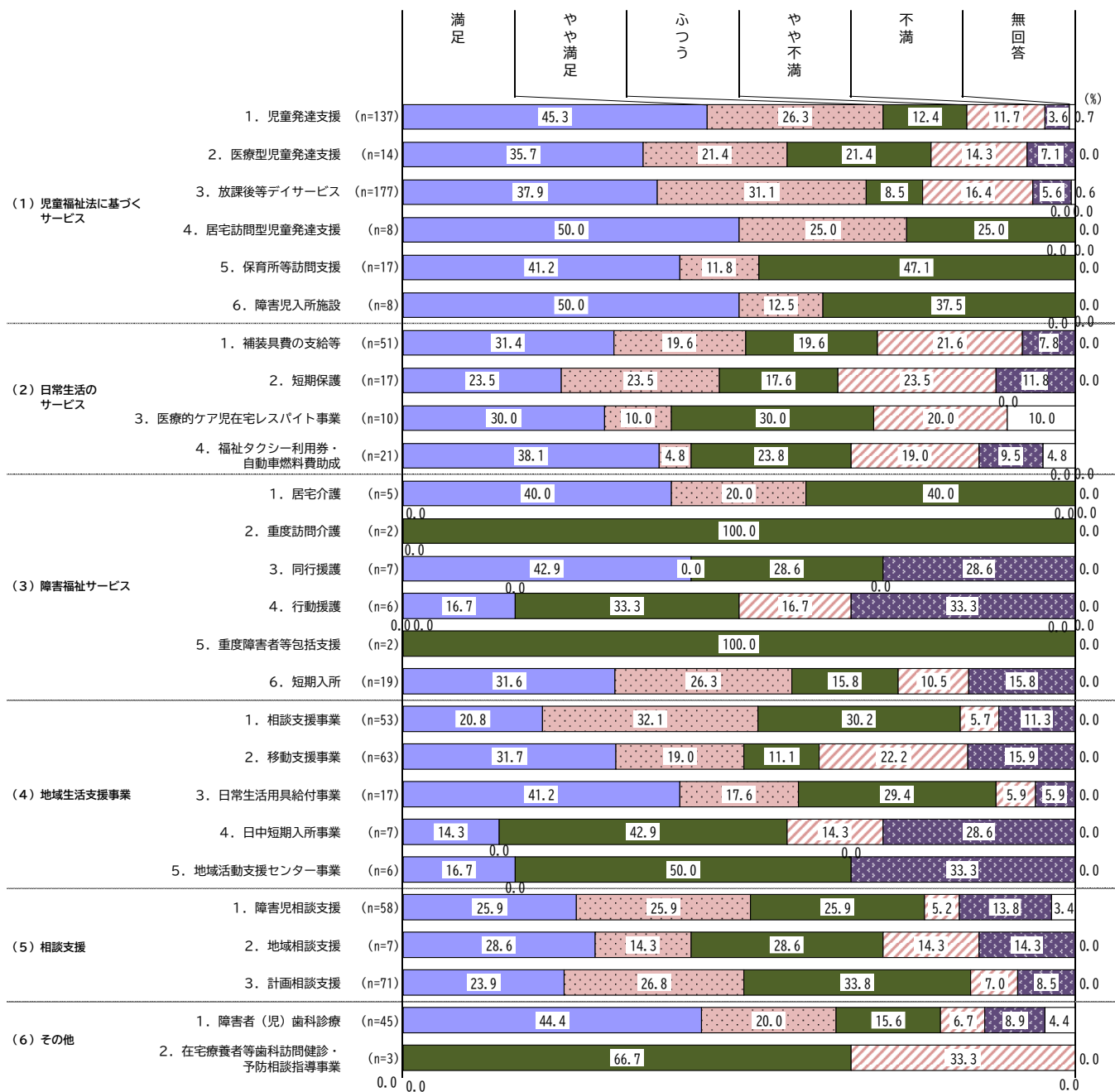
問 21 障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。
A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。



現在利用している障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が 50.6%と最も高く、次いで「児童発達支援」が 39.1%、「計画相談支援」が 20.3%と続いています。

(2) サービスの満足度

B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(〇はひとつ)



利用している障害児通所支援等のサービスの「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、回答数が10件以上のサービスでみると、「児童発達支援」が71.6%と唯一7割を超えて最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が69.0%、「障害者(児)歯科診療」が64.4%と続いています。

「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、「移動支援事業」が38.1%、「短期保護」が35.3%と3割を超えています。

(3) サービスの『不満』の理由

B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ方

C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)

	n	利用 できない 回数や 日数等 が少ない	利用 料が高い	サー ビス 提供 事業 所が 少 ない	利用 日時 が合 わな い	サー ビス 内容 (質) に不 安を 感じ る	サー ビス 提供 事業 所の 対 応が 良く ない	サー ビス の利 用契 約等 に 関す る十 分な 説明 がな い	事 業所 と家 族の 連携 が取 れて いな い	医 療的 ケア の対 応が 十分 でない	そ の他	無 回 答
(単位:%)												
児童発達支援	21	38.1	9.5	52.4	23.8	33.3	4.8	4.8	14.3	0.0	23.8	0.0
医療型児童発達支援	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
放課後等デイサービス	39	64.7	17.9	51.3	25.6	33.3	7.7	2.6	5.1	7.7	15.4	0.0
居宅訪問型児童発達支援	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保育所等訪問支援	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
障害児入所施設	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
補装具費の支給等	15	6.7	13.3	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	6.7
短期保護	6	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
医療的ケア児在宅レスパイト事業	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重度訪問介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
同行援護	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	3	66.7	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重度障害者等包括支援	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
短期入所	5	20.0	0.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
相談支援事業	9	11.1	11.1	11.1	11.1	55.6	66.7	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0
移動支援事業	24	70.8	0.0	62.5	33.3	12.5	8.3	4.2	0.0	4.2	20.8	4.2
日常生活用具給付事業	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
日中短期入所事業	3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域活動支援センター事業	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児相談支援	11	27.3	0.0	0.0	9.1	36.4	36.4	9.1	18.2	0.0	27.3	0.0
地域相談支援	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
計画相談支援	11	9.1	9.1	18.2	18.2	45.5	45.5	27.3	27.3	0.0	36.4	0.0
障害者(児) 歯科診療	7	14.3	0.0	42.9	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

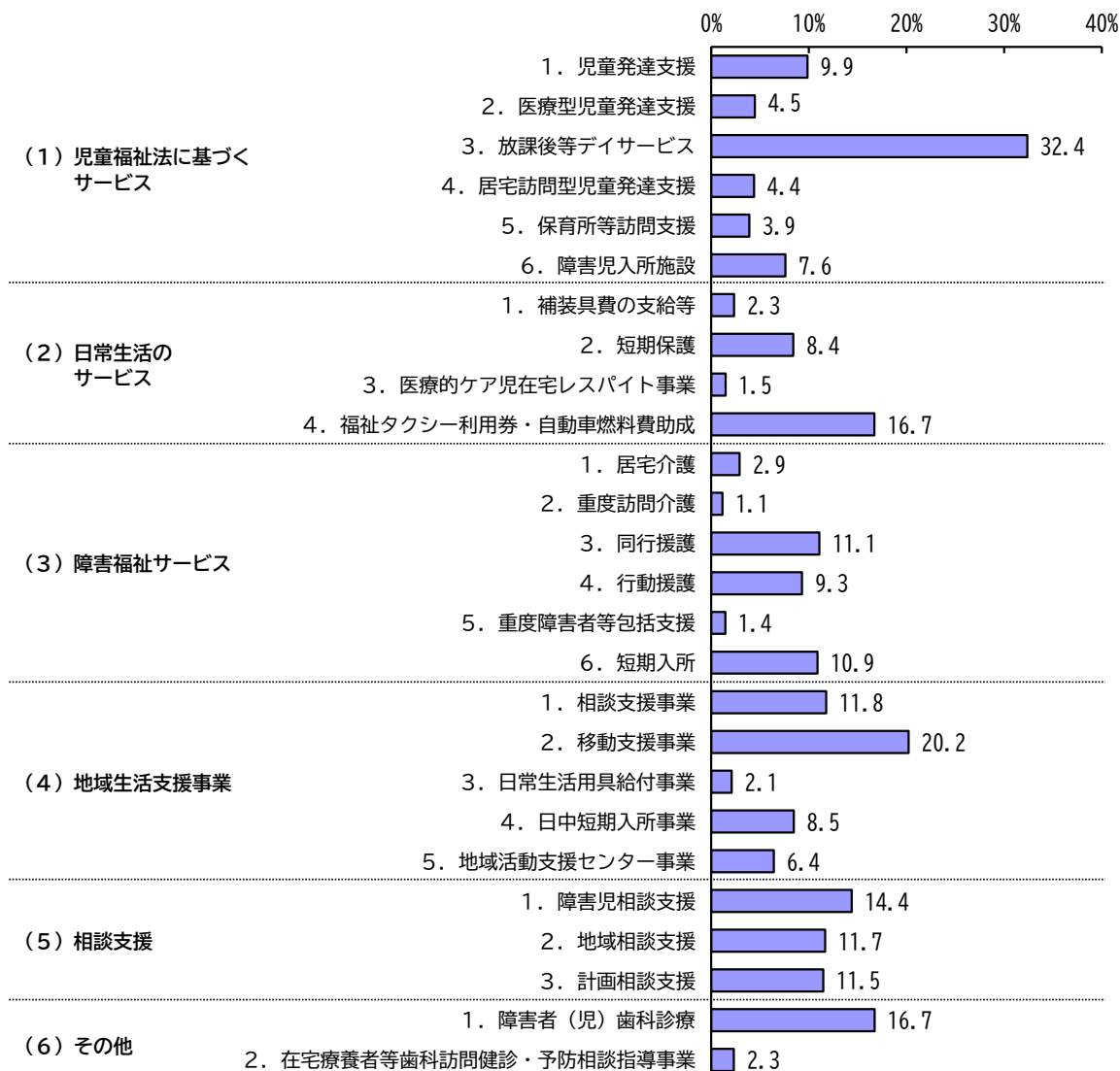
利用している障害児通所支援サービス等の『不満』の理由を、『不満』と答えた回答数が10件以上のサービスでみると、“児童発達支援”では、「サービス提供事業所が少ない」が52.4%と最も高くなっています。

“放課後等デイサービス”と“移動支援事業”では「利用できる回数や日数等が少ない」が6割を超えて最も高く、特に“移動支援事業”では7割に達しています。

“障害児相談支援”と“計画相談支援”では「サービス内容(質)に不安を感じる」と「サービス提供事業所の対応が良くない」がともに最も高くなっています。

(4) 今後利用したいサービス

D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

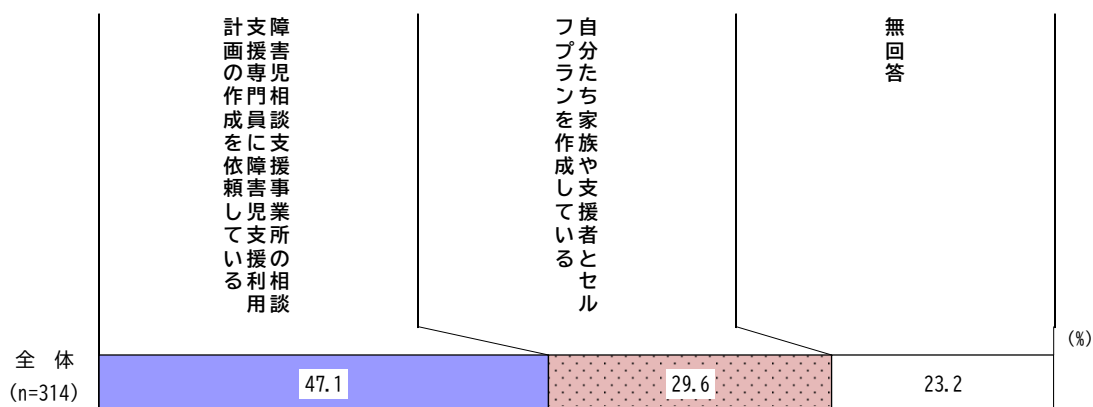


今後利用したい障害児通所支援サービス等は、「放課後等デイサービス」が 32.4%と唯一3割を超えて最も高く、次いで「移動支援事業」が 20.2%、「福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成」と「障害者(児)歯科診療」がともに 16.7%、「障害児相談支援」が 14.4%と続いています。

(5) 障害児支援利用計画の作成手段

問 21 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問 22 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)



現在障害児通所支援サービス等を利用している方が、どのように障害児支援利用計画を作成したかは、「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が47.1%、「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が29.6%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
全体	314	47.1	29.6	23.2
障害別				
肢体不自由	29	41.4	17.2	41.4
音声・言語・そしゃく機能障害	26	57.7	23.1	19.2
視覚障害	12	25.0	25.0	50.0
聴覚・平衡機能障害	12	25.0	33.3	41.7
内部障害	10	30.0	10.0	60.0
知的障害	133	54.9	25.6	19.5
発達障害	193	47.7	32.1	20.2
精神障害	2	0.0	100.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	19	52.6	26.3	21.1
その他	19	36.8	42.1	21.1

障害別にみると、「視覚障害」では「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」と「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」がともに25.0%となっています。

「聴覚・平衡機能障害」では「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」が「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」よりも高くなっています。

【クロス集計】 障害児通所支援サービス等別

(単位:%)	n	障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している	自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している	無回答
全体	314	47.1	29.6	23.2
児童発達支援	137	51.1	26.3	22.6
医療型児童発達支援	14	35.7	21.4	42.9
放課後等デイサービス	177	50.3	31.6	18.1
居宅訪問型児童発達支援	8	62.5	0.0	37.5
保育所等訪問支援	17	23.5	23.5	52.9
障害児入所施設	8	75.0	0.0	25.0
補装具費の支給等	51	41.2	15.7	43.1
短期保護	17	47.1	11.8	41.2
医療的ケア児在宅レスパイト事業	10	60.0	0.0	40.0
福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	21	57.1	4.8	38.1
居宅介護	5	60.0	20.0	20.0
重度訪問介護	2	100.0	0.0	0.0
同行援護	7	57.1	0.0	42.9
行動援護	6	50.0	16.7	33.3
重度障害者等包括支援	2	100.0	0.0	0.0
短期入所	19	68.4	10.5	21.1
相談支援事業	53	77.4	13.2	9.4
移動支援事業	63	50.8	28.6	20.6
日常生活用具給付事業	17	41.2	17.6	41.2
日中短期入所事業	7	71.4	14.3	14.3
地域活動支援センター事業	6	83.3	0.0	16.7

利用している障害児通所支援サービス等別にみると、すべてのサービス利用者で「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」が最も高くなっています。

“保育所等訪問支援”では「障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している」と「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」がともに23.5%となっています。

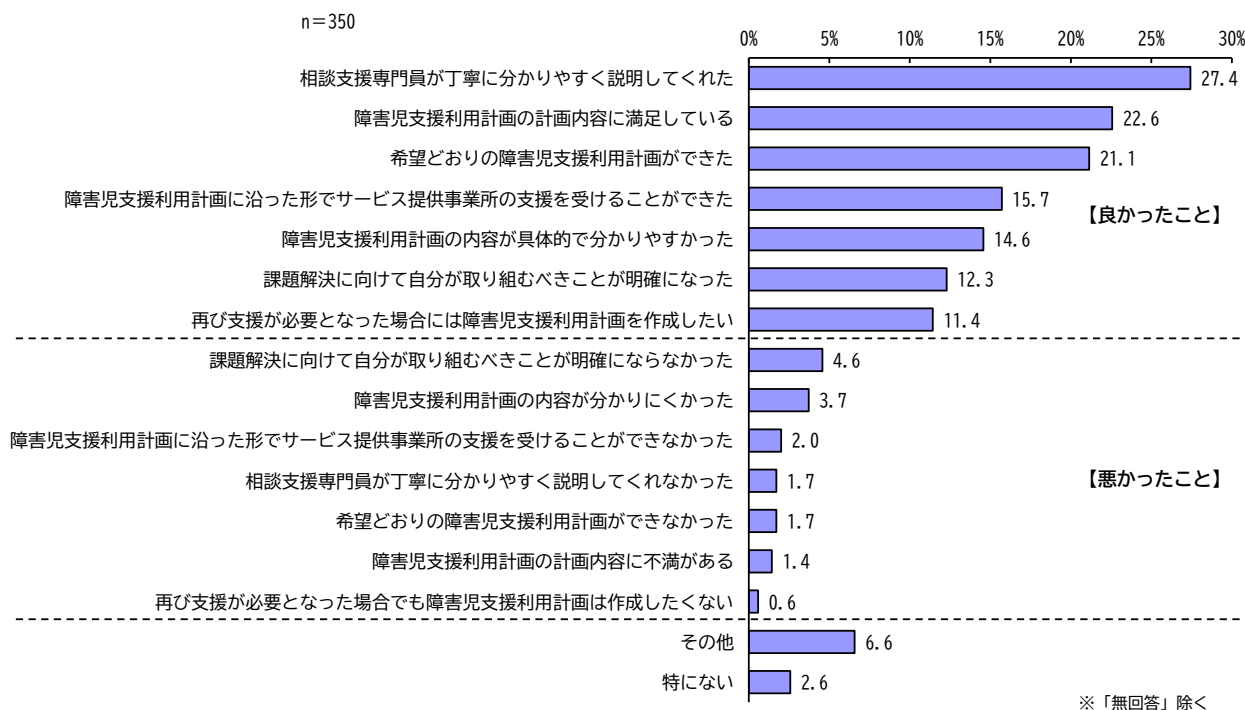
「自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している」は、“放課後等デイサービス”が31.6%、“移動支援事業”が28.6%、“児童発達支援”が26.3%と2割半ばを超えています。

(6) 障害児支援利用計画の作成時に感じたこと

障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問 23 障害児支援利用計画を作成してどのように感じましたか。

(あてはまるものすべてに○)



障害児支援利用計画を作成して感じたことについて、【良かったこと】は「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が27.4%と最も高く、次いで「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」が22.6%、「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」が21.1%と2割を超えて続いています。

【悪かったこと】は、「課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった」が4.6%と最も高く、次いで「障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった」が3.7%、「障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった」が2.0%と続いています。

一方、「特にない」は2.6%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりの障害児支援利用計画ができた	障害児支援利用計画の計画内容に満足している	再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい	障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた	障害児支援利用計画の内容が具体的で分かりやすかった	課題解決に向けて自分に取り組むべきことが明確になった	相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた	希望どおりの障害児支援利用計画ができた
(単位:%)										
全体	350	27.4	21.1	22.6	11.4	15.7	14.6	12.3	1.7	1.7
障害別										
肢体不自由	30	20.0	10.0	16.7	6.7	10.0	13.3	3.3	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	19.2	23.1	7.7	11.5	15.4	7.7	3.8	0.0
視覚障害	12	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	5.9	11.8	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0
知的障害	140	28.6	20.7	24.3	12.9	12.9	14.3	11.4	2.1	2.1
発達障害	213	30.0	25.4	23.0	11.3	17.8	16.4	14.1	2.3	2.8
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	28.6	28.6	28.6	9.5	14.3	19.0	4.8	0.0	0.0
その他	19	31.6	15.8	26.3	5.3	21.1	5.3	21.1	0.0	0.0

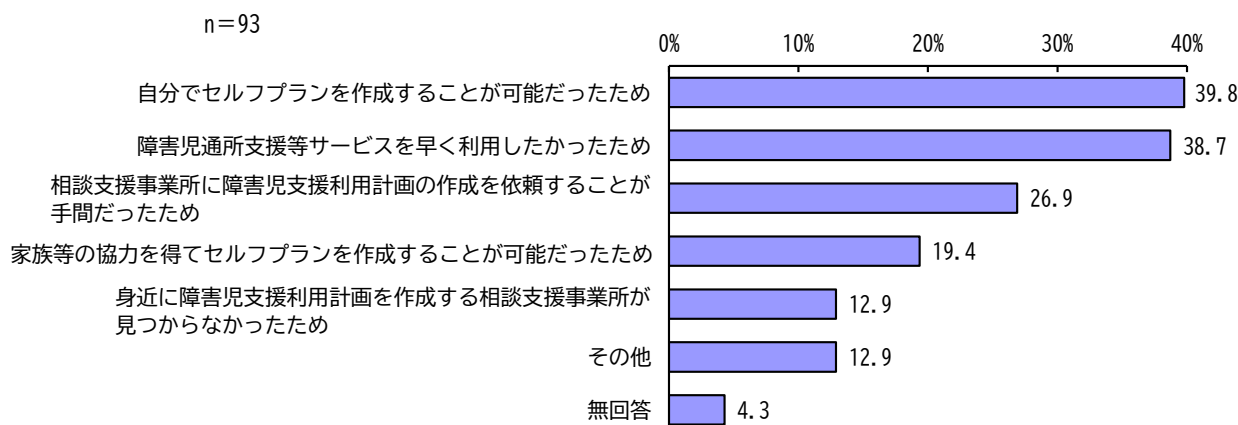
	n	障害児支援利用計画の計画内容に不満がある	再び支援が必要となった場合でも障害児支援利用計画は作成したくない	障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった	障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった	課題解決に向けて自分に取り組むべきことが明確にならなかった	その他	特になし	無回答
(単位:%)									
全体	350	1.4	0.6	2.0	3.7	4.6	6.6	2.6	42.3
障害別									
肢体不自由	30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	63.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	3.8	42.3
視覚障害	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	75.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	78.6
内部障害	17	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	70.6
知的障害	140	0.7	1.4	2.1	2.1	4.3	7.9	5.0	39.3
発達障害	213	1.9	0.9	2.8	5.2	5.6	8.9	1.9	38.5
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	42.9
その他	19	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	10.5	5.3	36.8

障害別にみると、“音声・言語・そしゃく機能障害”では「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」が42.3%4割を超えており、“発達障害”でも3割を超えています。

“知的障害”、“発達障害”、“難病（特定疾病）”では「相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた」、「サービス等利用計画の計画内容に満足している」、「希望どおりの障害児支援利用計画ができた」、「障害児支援利用計画の計画内容に満足している」がそれぞれ2割を超えています。

(7) セルフプランにした理由

問 22 で「セルフプランを作成している」と回答した方にお聞きします。
 問 24 セルフプランとした理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



セルフプランを作成した理由は、「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 39.8%、「障害児通所支援等サービスを早く利用したかったため」が 38.7%と 4 割近くになっており、次いで「相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため」が 26.9%と続いています。

【クロス集計】障害別

	n	相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため	身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため	障害児通所支援等サービスを早く利用したかったため	家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため	自分でセルフプランを作成することが可能だったため	その他	無回答
(単位:%)								
全体	93	26.9	12.9	38.7	19.4	39.8	12.9	4.3
障害別								
肢体不自由	5	40.0	0.0	20.0	20.0	40.0	40.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	6	16.7	16.7	50.0	16.7	16.7	33.3	0.0
視覚障害	3	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	4	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0
内部障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	34	38.2	23.5	52.9	17.6	26.5	14.7	0.0
発達障害	62	25.8	12.9	35.5	21.0	41.9	12.9	6.5
精神障害	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病(特定疾病)	5	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	20.0	0.0
その他	8	25.0	12.5	37.5	25.0	62.5	0.0	0.0

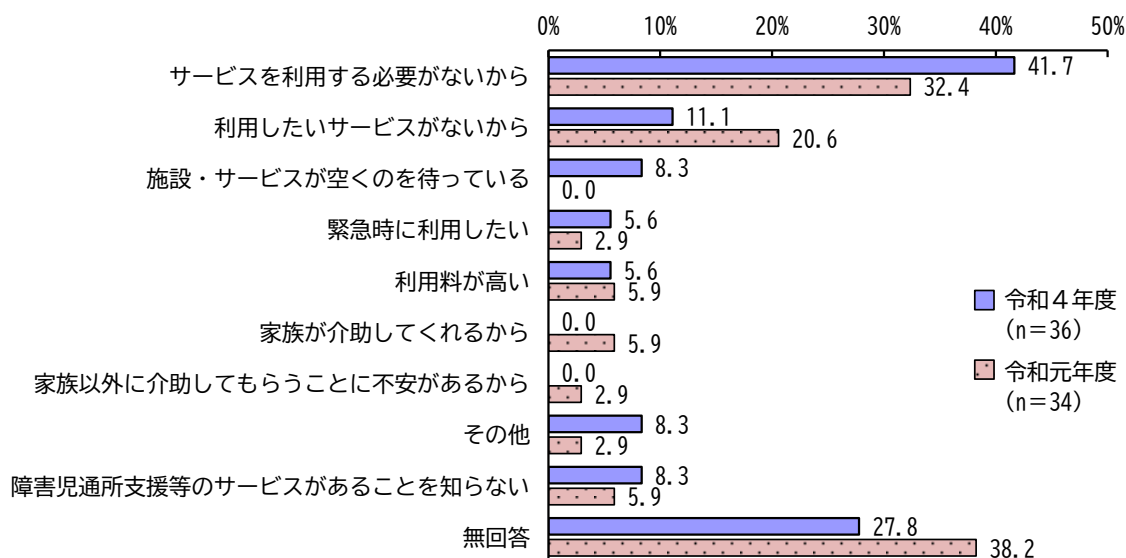
障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では「障害児通所支援等サービスを早く利用したかったため」が 52.9%、“発達障害”では「自分でセルフプランを作成することが可能だったため」が 41.9%と最も高くなっています。

(8) 障害児通所支援等サービスを利用していない理由

問 21 にあるいずれの障害児通所支援等サービスも利用していない方にお聞きします。

問 25 障害児通所支援等のサービスを利用しない理由はなんですか。

(あてはまるものすべてに○)



障害児通所支援等サービスを利用していない理由は、「サービスを利用する必要がないから」が41.7%と唯一4割を超えて最も高く、次いで「利用したいサービスがないから」が11.1%と続いています。

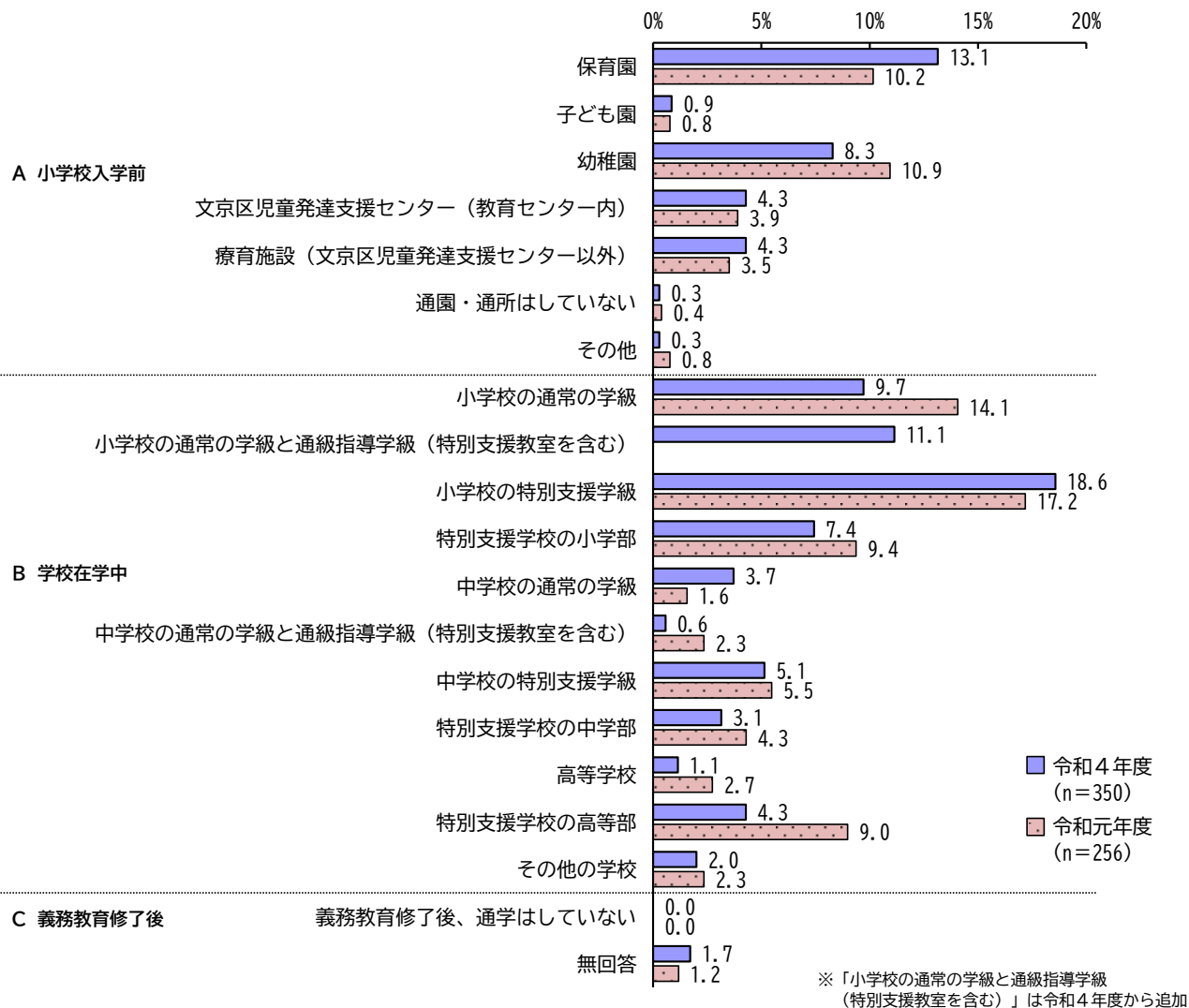
一方、「障害児通所支援等のサービスがあることを知らない」は8.3%となっています。

令和元年度と比較すると、「サービスを利用する必要がないから」が9.3ポイント上がっており、反対に「利用したいサービスがないから」が9.5ポイント下がっています。また、令和元年度に回答がなかった「施設・サービスが空くのを待っている」が8.3%となっています。

5 教育・保育について

(1) 主な通園・通学先

問 26 あなたが主に通園・通学などを行っているところをお聞きます。(〇はひとつ)



主な通園・通学先は、「小学校の特別支援学級」が18.6%と最も高く、次いで「保育園」が13.1%、「小学校の通常の学級と通級指導学級（特別支援教室を含む）」が11.1%と続いています。

また、「義務教育修了後、通学はしていない」という回答はありませんでした。

令和元年度と比較すると、小学校入学前は、「保育園」が2.9ポイント上がっており、反対に「幼稚園」が2.6ポイント下がっています。

学校在学中は、「特別支援学校の高等部」が4.7ポイント、「小学校の通常の学級」が4.4ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

【A 小学校入学前】

	n	保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター(教育センター内)	療育施設(文京区児童発達支援センター以外)	通園・通所はしていない	その他
(単位:%)								
全体	350	13.1	0.9	8.3	4.3	4.3	0.3	0.3
障害別								
肢体不自由	30	3.3	0.0	3.3	10.0	10.0	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	11.5	0.0	7.7	3.8	3.8	3.8	0.0
視覚障害	12	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1
内部障害	17	11.8	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0
知的障害	140	10.0	0.0	4.3	4.3	4.3	0.7	0.0
発達障害	213	10.8	0.5	7.5	5.2	2.3	0.5	0.0
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	4.8	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0
その他	19	52.6	0.0	15.8	0.0	5.3	0.0	0.0

【B 学校在学中】

	n	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級の小学部	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	中学校の特別支援学級
(単位:%)								
全体	350	9.7	11.1	18.6	7.4	3.7	0.6	5.1
障害別								
肢体不自由	30	6.7	0.0	10.0	16.7	3.3	0.0	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	3.8	0.0	19.2	23.1	3.8	0.0	0.0
視覚障害	12	0.0	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	41.2	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0
知的障害	140	2.1	2.1	28.6	17.1	2.9	0.0	10.0
発達障害	213	9.9	15.5	20.7	6.1	4.7	0.9	4.2
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	0.0	4.8	14.3	23.8	9.5	0.0	4.8
その他	19	0.0	10.5	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0

	n	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他の学校
(単位:%)					
全体	350	3.1	1.1	4.3	2.0
障害別					
肢体不自由	30	20.0	0.0	10.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	7.7	0.0	7.7	3.8
視覚障害	12	16.7	8.3	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	7.1	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	140	4.3	0.0	7.1	2.1
発達障害	213	1.4	0.9	3.8	2.8
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	0.0	9.5	0.0
その他	19	0.0	0.0	0.0	0.0

【A 小学校入学前】を障害別にみると、“肢体不自由”と“難病(特定疾病)”以外の、回答数が10件以上の障害はいずれも、「保育園」が最も高くなっています。

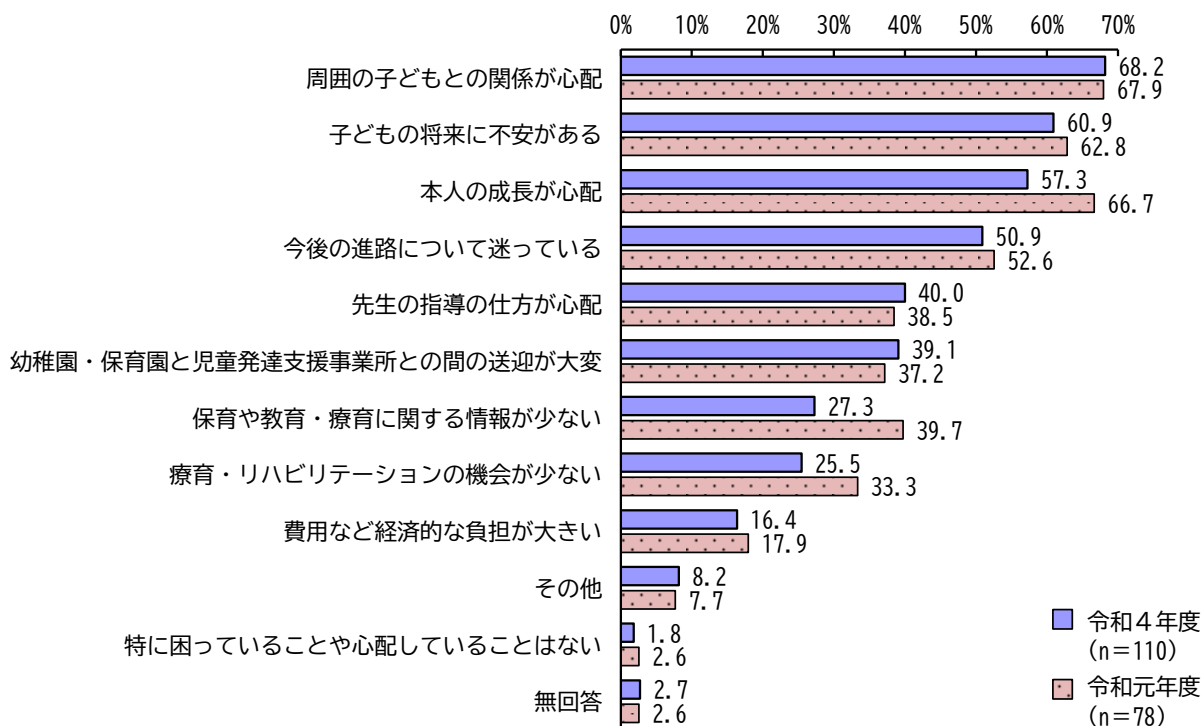
【B 学校在学中】を障害別にみると、“肢体不自由”では「特別支援学校の中学部」、「視覚障害」と“難病(特定疾病)”では「特別支援学校の小学部」、「内部障害」では「小学校の通常の学級」が最も高く、それ以外の障害はいずれも「小学校の特別支援学級」が最も高くなっています。

(2) 通園生活等の困りごと

問26で「A 小学校入学前」の中から回答した保護者の方にお聞きします。

問27 通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)



小学校入学前児童の通園生活等の困りごとは、「周囲の子どもとの関係が心配」が68.2%、「子どもの将来に不安がある」が60.9%と6割台になっており、次いで「本人の成長が心配」が57.3%、「今後の進路について迷っている」が50.9%と続いています。

令和元年度と比較すると、「保育や教育・療育に関する情報が少ない」が12.4ポイント、「本人の成長が心配」は9.4ポイント、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が7.8ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	保育や教育・療育に関する情報が少ない
全体		110	68.2	40.0	57.3	50.9	60.9	27.3
年代別	0～2歳	7	71.4	71.4	100.0	71.4	100.0	71.4
	3～5歳	89	68.5	37.1	53.9	52.8	57.3	24.7
	6～8歳	6	50.0	16.7	66.7	33.3	66.7	16.7
	肢体不自由	9	44.4	33.3	33.3	55.6	55.6	44.4
音声・言語・そしゃく機能障害	8	75.0	25.0	12.5	50.0	50.0	25.0	
視覚障害	3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	
聴覚・平衡機能障害	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
内部障害	6	83.3	16.7	50.0	16.7	83.3	16.7	
知的障害	33	60.6	42.4	48.5	60.6	69.7	42.4	
発達障害	57	75.4	49.1	59.6	59.6	68.4	33.3	
精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
難病（特定疾病）	6	66.7	50.0	83.3	50.0	83.3	50.0	
その他	14	64.3	14.3	64.3	35.7	50.0	7.1	

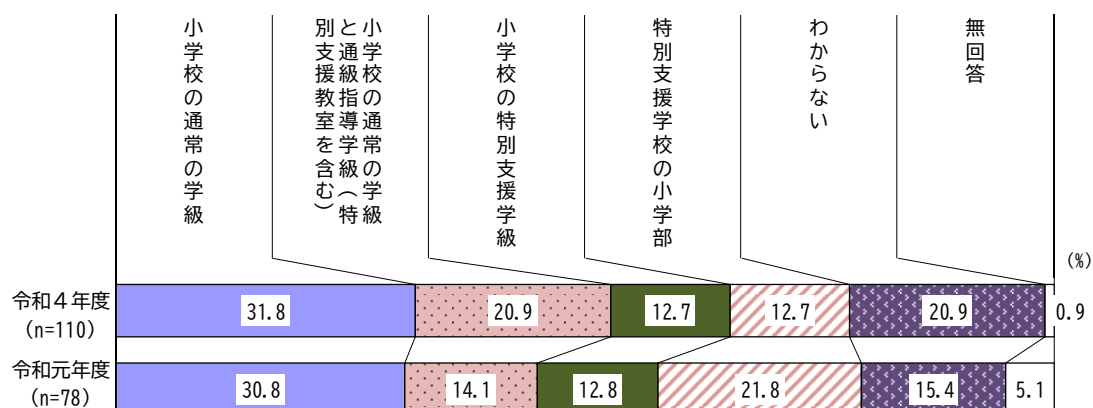
(単位:%)		n	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
全体		110	25.5	16.4	39.1	8.2	1.8	2.7
年代別	0～2歳	7	28.6	42.9	85.7	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	89	23.6	13.5	34.8	4.5	2.2	2.2
	6～8歳	6	50.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	肢体不自由	9	33.3	22.2	55.6	0.0	0.0	22.2
音声・言語・そしゃく機能障害	8	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	
視覚障害	3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	
聴覚・平衡機能障害	5	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
内部障害	6	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	
知的障害	33	24.2	15.2	42.4	6.1	0.0	3.0	
発達障害	57	35.1	19.3	40.4	8.8	0.0	3.5	
精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
難病（特定疾病）	6	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	
その他	14	14.3	0.0	42.9	14.3	7.1	0.0	

年代別にみると、“3～5歳”では、「周囲の子どもとの関係が心配」が68.5%と最も高くなっています。

障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”では、「子どもの将来に不安がある」が69.7%と約7割、“発達障害”では、「周囲の子どもとの関係が心配」が75.4%と7割半ばと最も高くなっています。

(3) 小学校入学前児童の希望の教育機関

問26で「A 小学校入学前」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
問28 小学校はどの教育機関を希望しますか。(○はひとつ)



小学校入学前児童の希望の教育機関は、「小学校の通常の学級」が31.8%と唯一3割を超えて最も高く、次いで「小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)」が20.9%、「小学校の特別支援学級」と「特別支援学校の小学部」がともに12.7%と続いています。

一方、「わからない」は20.9%となっています。

令和元年度と比較すると、「小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)」が6.8ポイント上がっており、反対に「特別支援学校の小学部」は9.1ポイント下がっています。また、「わからない」は5.5ポイント令和元年度を上回っています。

【クロス集計】年代別・障害別

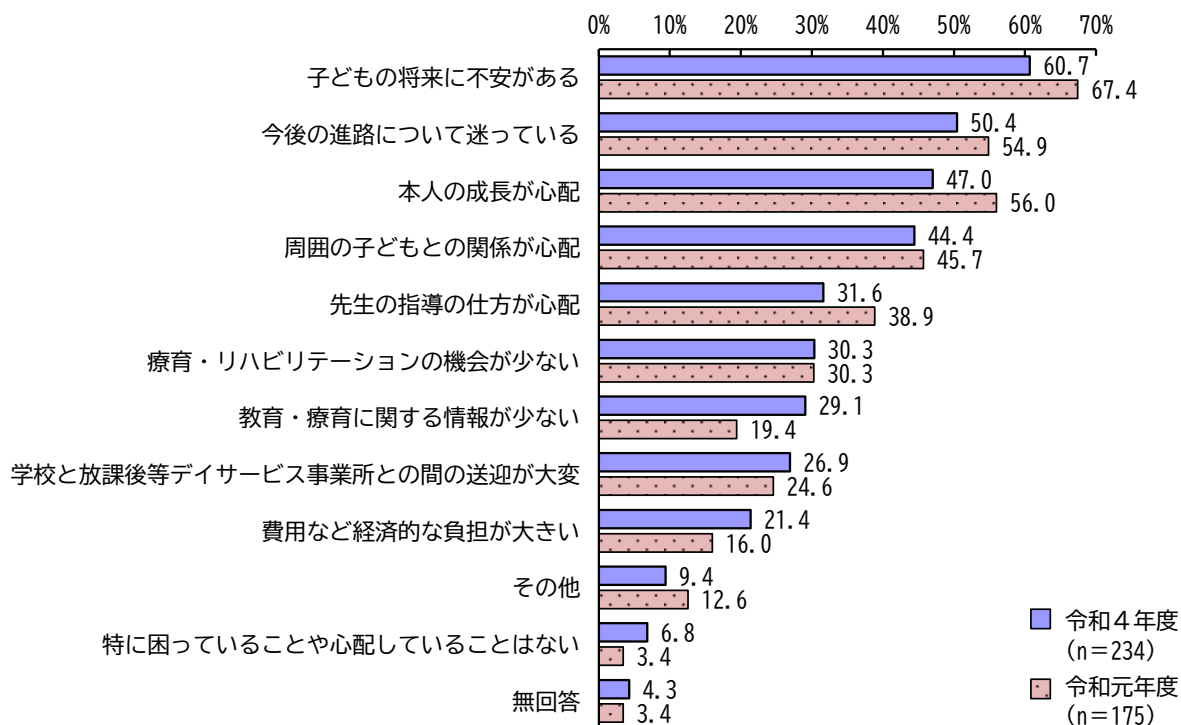
	n	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	わからない	無回答
(単位:%)							
全体	110	31.8	20.9	12.7	12.7	20.9	0.9
年代別							
0~2歳	7	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0
3~5歳	89	34.8	20.2	12.4	11.2	20.2	1.1
6~8歳	6	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0
障害別							
肢体不自由	9	11.1	0.0	0.0	55.6	33.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	8	12.5	25.0	12.5	12.5	37.5	0.0
視覚障害	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
内部障害	6	50.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
知的障害	33	6.1	15.2	18.2	24.2	36.4	0.0
発達障害	57	21.1	22.8	19.3	12.3	22.8	1.8
精神障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	6	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0
その他	14	64.3	28.6	0.0	7.1	0.0	0.0

年代別にみると、「3~5歳」では、「小学校の通常の学級」が34.8%と最も高くなっています。

障害別にみると、「知的障害」では「特別支援学校の小学部」、「発達障害」では「小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)」、「その他」では「小学校の通常の学級」が最も高くなっています。

(4) 通学生活等の困りごと

問26で「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
 問29 通学生活等で困っていることや心配していることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)



学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「子どもの将来に不安がある」が60.7%と唯一6割に達し最も高く、次いで「今後の進路について迷っている」が50.4%、「本人の成長が心配」が47.0%と続いています。

令和元年度と比較すると、「教育・療育に関する情報が少ない」が9.7ポイント、「費用など経済的な負担が大きい」が5.4ポイント上がっており、反対に「本人の成長が心配」は9.0ポイント、「先生の指導の仕方が心配」は7.3ポイント、「子どもの将来に不安がある」は6.7ポイントと5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	周囲の子どもとの関係が心配	先生の指導の仕方が心配	本人の成長が心配	今後の進路について迷っている	子どもの将来に不安がある	教育・療育に関する情報が少ない
(単位:%)							
全体	234	44.4	31.6	47.0	50.4	60.7	29.1
年代別							
6～8歳	82	53.7	34.1	54.9	46.3	56.1	32.9
9～11歳	61	50.8	34.4	41.0	55.7	67.2	29.5
12～14歳	56	33.9	28.6	46.4	44.6	60.7	26.8
15歳以上	26	26.9	26.9	38.5	61.5	61.5	23.1
障害別							
肢体不自由	21	23.8	23.8	33.3	47.6	47.6	9.5
音声・言語・そしゃく機能障害	18	33.3	33.3	33.3	55.6	66.7	38.9
視覚障害	9	11.1	11.1	22.2	55.6	55.6	11.1
聴覚・平衡機能障害	8	25.0	25.0	25.0	37.5	37.5	0.0
内部障害	11	18.2	9.1	36.4	27.3	45.5	9.1
知的障害	107	31.8	26.2	43.9	45.8	70.1	29.9
発達障害	151	55.0	37.7	51.7	54.3	69.5	34.4
精神障害	3	66.7	100.0	66.7	66.7	66.7	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	15	13.3	20.0	26.7	46.7	66.7	13.3
その他	5	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	60.0

	n	療育・リハビリテーションの機会が少ない	費用など経済的な負担が大きい	学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変	その他	特に困っていることや心配していることはない	無回答
(単位:%)							
全体	234	30.3	21.4	26.9	9.4	6.8	4.3
年代別							
6～8歳	82	42.7	23.2	40.2	11.0	4.9	3.7
9～11歳	61	23.0	23.0	27.9	13.1	6.6	1.6
12～14歳	56	26.8	17.9	17.9	3.6	7.1	8.9
15歳以上	26	15.4	23.1	3.8	11.5	7.7	3.8
障害別							
肢体不自由	21	19.0	9.5	14.3	4.8	9.5	9.5
音声・言語・そしゃく機能障害	18	33.3	16.7	33.3	11.1	11.1	0.0
視覚障害	9	0.0	0.0	22.2	22.2	22.2	0.0
聴覚・平衡機能障害	8	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5
内部障害	11	9.1	18.2	18.2	27.3	27.3	9.1
知的障害	107	37.4	19.6	29.9	10.3	2.8	4.7
発達障害	151	35.8	25.8	29.8	7.9	6.0	2.6
精神障害	3	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	15	33.3	20.0	33.3	13.3	13.3	0.0
その他	5	60.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0

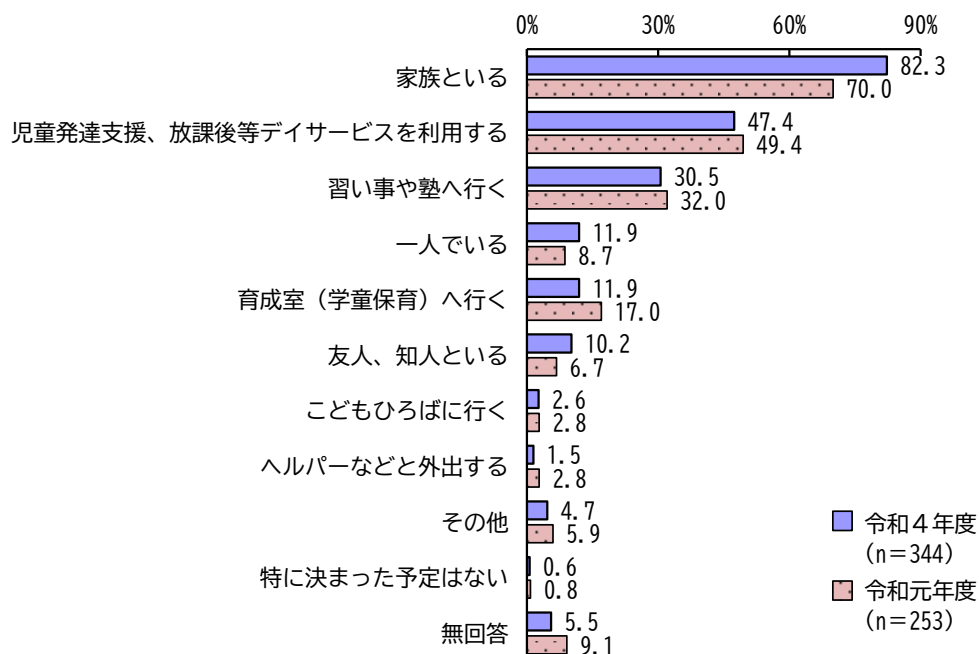
年代別にみると、いずれの年代でも「子どもの将来に不安がある」が5割を超えて最も高く、特に9歳以上の年代では6割を超えています。

また、“15歳以上”では、「今後の進路について迷っている」も6割を超えて最も高くなっています。障害別にみると、回答数が10件以上のいずれの障害も「子どもの将来に不安がある」が高く、特に“知的障害”と“発達障害”では6割前後と他の障害よりも高くなっています。

“肢体不自由”では、「今後の進路について迷っている」も47.6%で最も高くなっています。

(5) 学校等以外の過ごし方

問26で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
 問30 放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、
 どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)



幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の過ごし方は、「家族といる」が82.3%と最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が47.4%、「習い事や塾へ行く」が30.5%と続いています。

令和元年度と比較すると、「家族といる」が12.3ポイント上がっており、反対に「育成室（学童保育）へ行く」が5.1ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	家族とい る	友人、知人 とい る	一人でい る	ヘルパーなど と外出する	育成室(学童 保育)へ行く	こどもひろば に行く
(単位:%)							
全体	344	82.3	10.2	11.9	1.5	11.9	2.6
年代別	0～2歳	7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5歳	89	88.8	6.7	1.1	0.0	3.4
	6～8歳	88	81.8	11.4	4.5	0.0	27.3
	9～11歳	61	77.0	14.8	23.0	4.9	13.1
	12～14歳	56	80.4	10.7	26.8	0.0	12.5
	15歳以上	26	73.1	11.5	23.1	7.7	0.0
障害別	肢体不自由	30	70.0	6.7	3.3	0.0	16.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	73.1	3.8	11.5	3.8	19.2
	視覚障害	12	83.3	16.7	16.7	8.3	8.3
	聴覚・平衡機能障害	13	53.8	0.0	0.0	0.0	15.4
	内部障害	17	82.4	5.9	5.9	0.0	11.8
	知的障害	140	80.0	2.1	9.3	1.4	18.6
	発達障害	208	85.1	12.0	14.9	1.9	10.6
	精神障害	3	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	難病(特定疾病)	21	85.7	9.5	0.0	0.0	19.0
	その他	19	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0

	n	児童発達支援、 放課後等デイ サービスを利用 する	習い事や塾へ 行く	その他	特に決まった 予定はない	無回答
(単位:%)						
全体	344	47.4	30.5	4.7	0.6	5.5
年代別	0～2歳	7	28.6	14.3	14.3	0.0
	3～5歳	89	27.0	18.0	1.1	6.7
	6～8歳	88	62.5	40.9	3.4	0.0
	9～11歳	61	52.5	39.3	4.9	0.0
	12～14歳	56	51.8	37.5	3.6	0.0
	15歳以上	26	42.3	15.4	3.8	3.8
障害別	肢体不自由	30	40.0	13.3	3.3	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	26	34.6	11.5	0.0	3.8
	視覚障害	12	33.3	25.0	0.0	8.3
	聴覚・平衡機能障害	13	15.4	7.7	15.4	7.7
	内部障害	17	11.8	41.2	0.0	0.0
	知的障害	140	57.1	17.1	3.6	0.7
	発達障害	208	54.3	35.6	4.8	0.5
	精神障害	3	66.7	66.7	0.0	0.0
	高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	21	52.4	14.3	4.8	0.0
	その他	19	47.4	10.5	5.3	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「家族といる」が7割を超えて最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が続いています。

9歳以上の年代では、「一人でいる」が2割を超えています。また、6～14歳の年代では、「習い事や塾へ行く」が3割半ばを超えています。

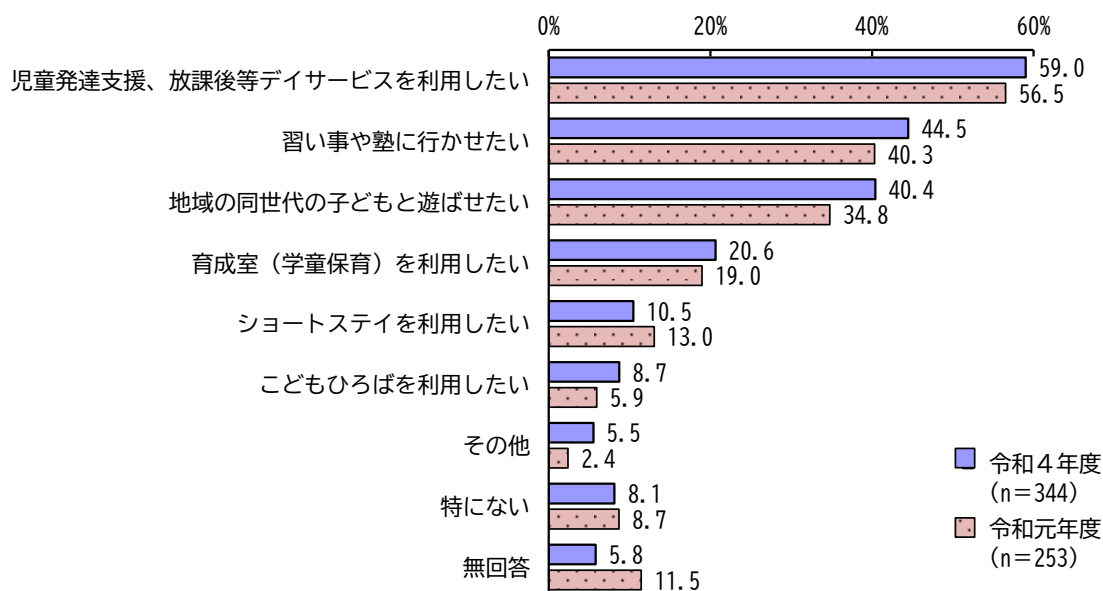
“6～8歳”では、「育成室(学童保育)へ行く」が27.3%と2割半ばを超えて、他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「家族といる」が最も高くなっています。

“知的障害”、“発達障害”、“難病(特定疾病)”では、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用する」が5割を超えています。

(6) 学校等以外の過ごし方希望

問26で「A 小学校入学前」、「B 学校在学中」の中から回答した保護者の方にお聞きします。
 問31 放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間は、
 どのように過ごすことを希望しますか。



幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいる以外の時間の希望する過ごし方は、「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が59.0%と最も高く、次いで「習い事や塾に行かせたい」が44.5%、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が40.4%と4割台が続いています。

一方、「特にない」は8.1%となっています。

令和元年度と比較すると、「ショートステイを利用したい」が2.5ポイント下がっている以外は、いずれの項目も上がっており、特に「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が5.6ポイント、「習い事や塾に行かせたい」が4.2ポイント上がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	地域の同世代の子どもと遊ばせたい	育成室(学童保育)を利用したい	こどもひろばを利用したい	習い事や塾に行かせたい	ショートステイを利用したい
(単位:%)						
全体	344	40.4	20.6	8.7	44.5	10.5
年代別						
0～2歳	7	28.6	14.3	28.6	57.1	0.0
3～5歳	89	40.4	25.8	14.6	47.2	7.9
6～8歳	88	52.3	29.5	5.7	52.3	9.1
9～11歳	61	47.5	14.8	4.9	45.9	8.2
12～14歳	56	26.8	12.5	3.6	41.1	16.1
15歳以上	26	11.5	0.0	0.0	23.1	11.5
障害別						
肢体不自由	30	13.3	23.3	3.3	16.7	20.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	26.9	23.1	3.8	23.1	26.9
視覚障害	12	16.7	8.3	0.0	41.7	25.0
聴覚・平衡機能障害	13	23.1	30.8	0.0	30.8	7.7
内部障害	17	47.1	35.3	0.0	52.9	0.0
知的障害	140	32.1	22.9	8.6	28.6	16.4
発達障害	208	42.3	17.8	10.1	47.1	11.1
精神障害	3	66.7	0.0	33.3	66.7	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	14.3	28.6	9.5	33.3	14.3
その他	19	52.6	10.5	21.1	68.4	10.5

	n	児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい	その他	特にない	無回答
(単位:%)					
全体	344	59.0	5.5	8.1	5.8
年代別					
0～2歳	7	85.7	14.3	14.3	0.0
3～5歳	89	51.7	1.1	9.0	9.0
6～8歳	88	76.1	4.5	3.4	2.3
9～11歳	61	59.0	6.6	6.6	1.6
12～14歳	56	48.2	7.1	7.1	7.1
15歳以上	26	30.8	11.5	23.1	19.2
障害別					
肢体不自由	30	56.7	3.3	10.0	10.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	53.8	3.8	11.5	3.8
視覚障害	12	33.3	16.7	16.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	13	30.8	7.7	0.0	23.1
内部障害	17	17.6	0.0	23.5	5.9
知的障害	140	69.3	7.1	6.4	5.7
発達障害	208	63.5	7.7	8.2	4.3
精神障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	76.2	4.8	14.3	0.0
その他	19	57.9	5.3	0.0	5.3

年代別にみると、いずれの年代でも「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。

3～11歳の年代では、「地域の同世代の子どもと遊ばせたい」が、14歳以下の年代では「習い事や塾に行かせたい」が4割を超えています。

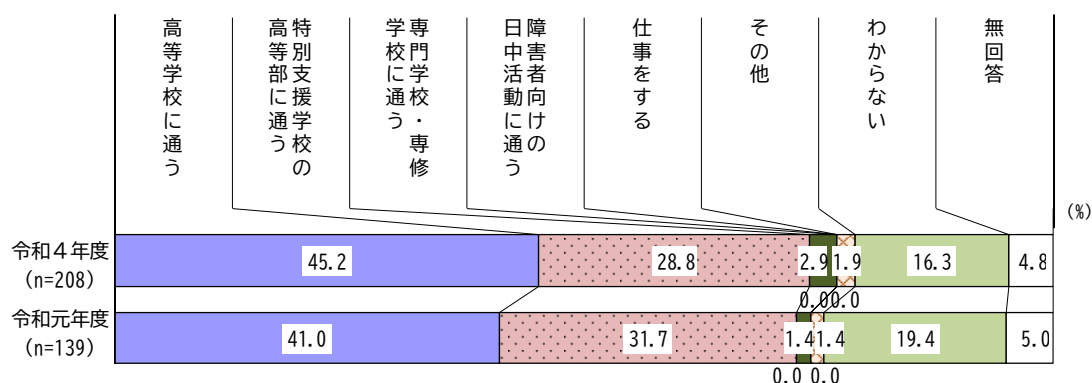
3～8歳の年代では、「育成室(学童保育)を利用したい」が2割半ばを超えて、他の年代よりも高くなっています。

障害別にみると、「視覚障害」、「内部障害」、「その他」以外のいずれの障害も「児童発達支援、放課後等デイサービスを利用したい」が最も高くなっています。

(7) 中学校卒業後の希望進路

問26で「B 学校在学中」の中から、小学校（小学部）または中学校（中学部）に通っていると回答した方の保護者の方にお聞きします。

問32 中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（○はひとつ）



中学校（中学部）卒業後の希望進路は、「高等学校に通う」が45.2%と最も高く、次いで「特別支援学校の高等部に通う」が28.8%と続いており、高等学校・高等部で7割半ば近くを占めています。一方、「わからない」は16.3%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	高等学校に通う	特別支援学校の高等部に通う	専門学校・専修学校に通う	障害者向けの日中活動に通う	仕事をする	その他	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	208	45.2	28.8	2.9	0.0	0.0	1.9	16.3	4.8
年代別									
6～8歳	82	42.7	26.8	1.2	0.0	0.0	0.0	20.7	8.5
9～11歳	60	60.0	20.0	3.3	0.0	0.0	0.0	13.3	3.3
12～14歳	54	31.5	42.6	3.7	0.0	0.0	5.6	14.8	1.9
15歳以上	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
障害別									
肢体不自由	18	22.2	61.1	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	15	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0
視覚障害	7	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
聴覚・平衡機能障害	7	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
内部障害	11	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2
知的障害	94	18.1	56.4	2.1	0.0	0.0	2.1	20.2	1.1
発達障害	135	54.8	20.0	4.4	0.0	0.0	0.7	14.8	5.2
精神障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	13	38.5	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
その他	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年代別にみると、11歳以下の年代では「高等学校に通う」が、12歳以上の年代では「特別支援学校の高等部に通う」が最も高くなっています。

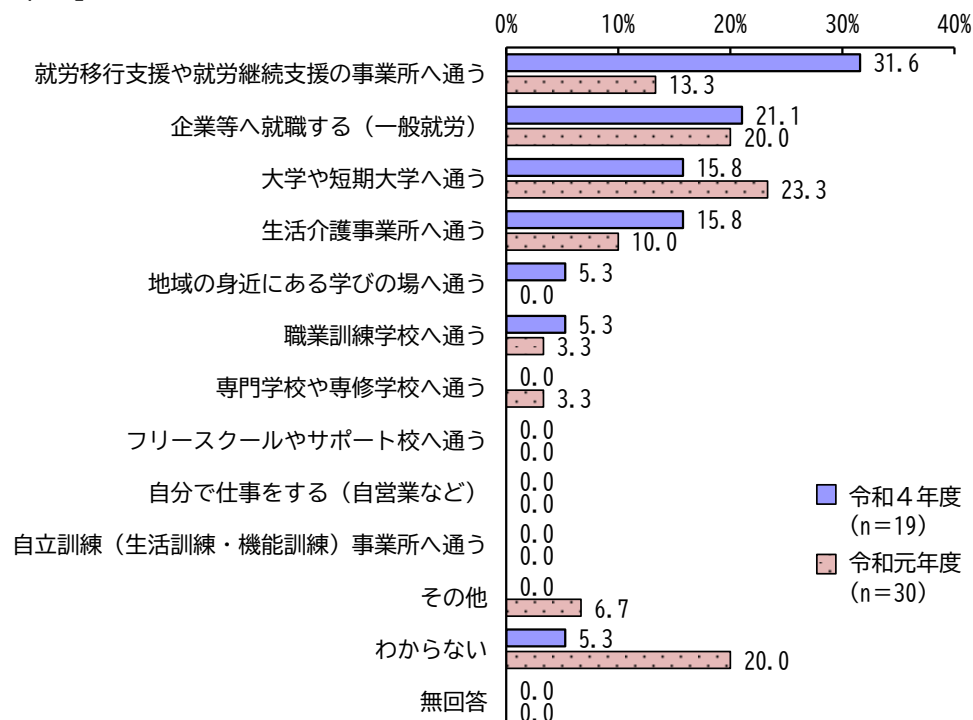
障害別にみると、いずれの障害も「高等学校に通う」か「特別支援学校の高等部に通う」が最も高くなっています。

(8) 学校卒業後希望する進路

問 26 で「学校在学中」の中から「高等学校」・「特別支援学校の高等部」、または「C 義務教育を終了後、通学はしていない」と回答した方にお聞きします。

問 33 どのような進路を希望しますか。(○はひとつ)

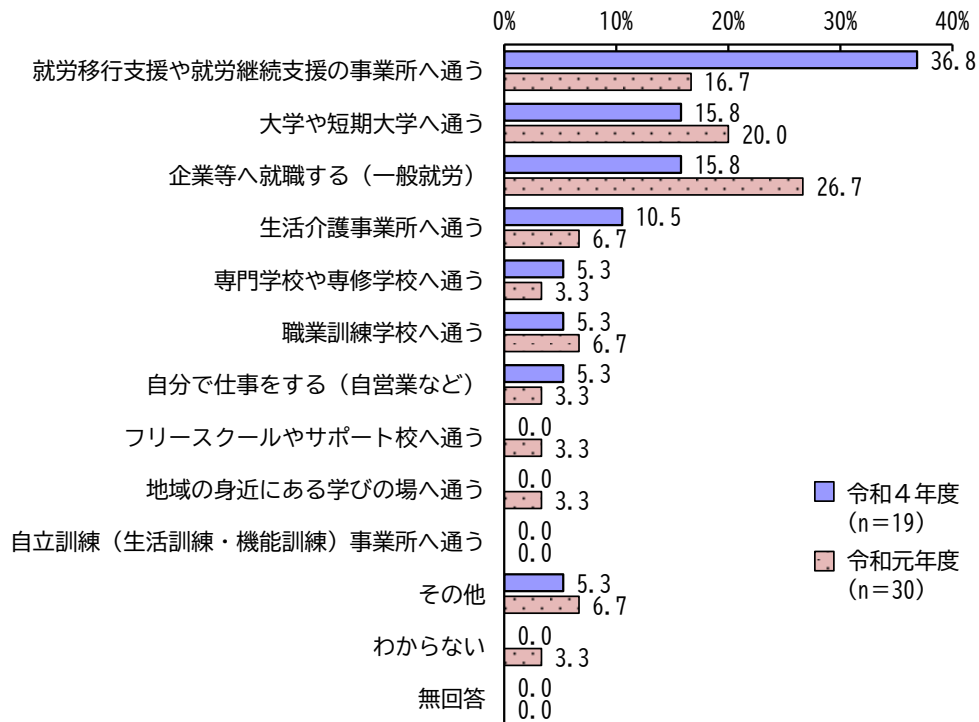
【本人の希望】



高等学校・高等部卒業後の進路について、本人の希望は、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が31.6%と最も高く、次いで「企業等へ就職する (一般就労)」が21.1%、「大学や短期大学へ通う」と「生活介護事業所へ通う」が15.8%と続いています。

一方、「わからない」は5.3%となっています。

【保護者の希望】



高等学校・高等部卒業後の進路について、保護者の希望は、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が 36.8%と最も高く、次いで「大学や短期大学へ通う」と「企業等へ就職する（一般就労）」が 15.8%、「生活介護事業所へ通う」が 10.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

【本人の希望】

(単位:%)	n	大学や短期 大学へ通う	専門学校や 専修学校へ 通う	フリース クールやサ ポート校へ 通う	地域の身近 にある学び の場へ通う	職業訓練学 校へ通う	企業等へ就 職する(一 般就労)	自分で仕事 をする(自 営業など)
全体	19	15.8	0.0	0.0	5.3	5.3	21.1	0.0
障害別								
肢体不自由	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	10	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
発達障害	10	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	30.0	0.0
精神障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	就労移行支 援や就労継 続支援の事 業所へ通う	自立訓練(生 活訓練・機能 訓練)事業所 へ通う	生活介護事 業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体	19	31.6	0.0	15.8	0.0	5.3	0.0
障害別							
肢体不自由	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	10	40.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0
発達障害	10	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【本人の希望】を障害別にみると、回答数が10件以上の“知的障害”と“発達障害”では、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が4割を占めて最も高くなっています。

【クロス集計】障害別

【保護者の希望】

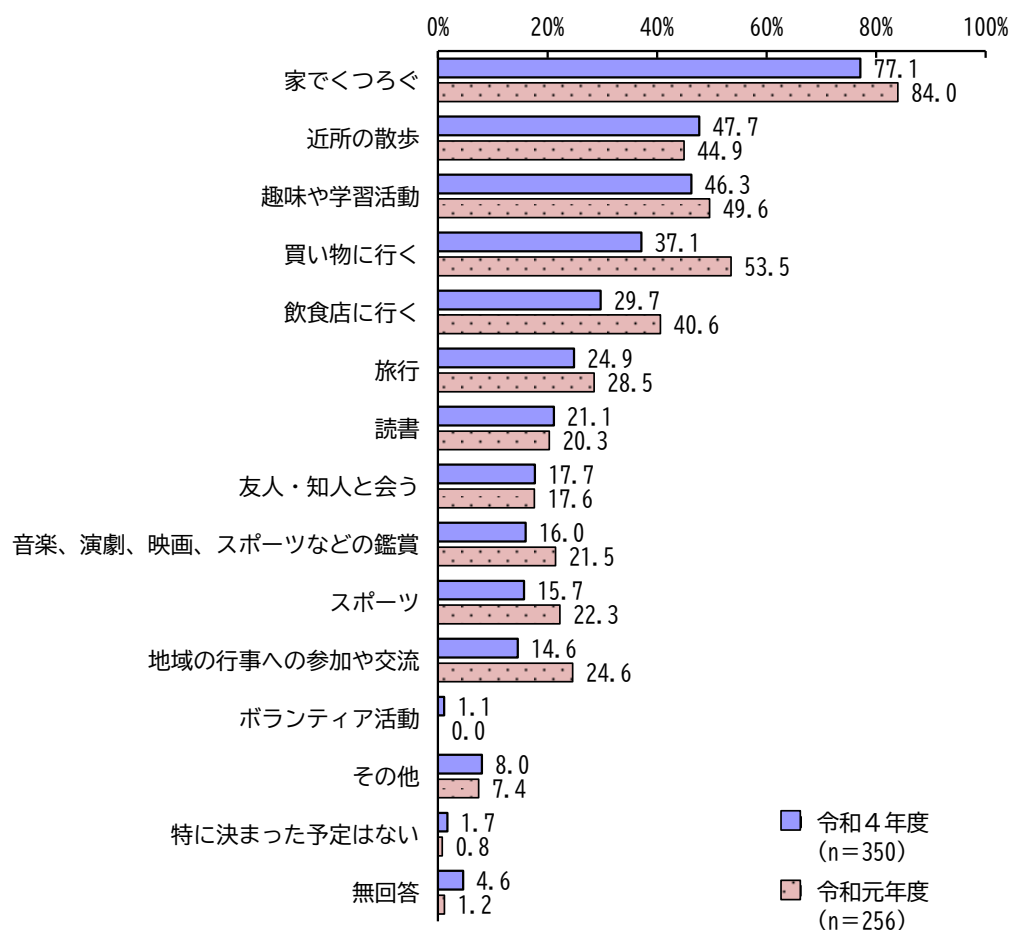
(単位:%)	n	大学や短期 大学へ通う	専門学校や 専修学校へ 通う	フリース クールやサ ポート校へ 通う	地域の身近 にある学び の場へ通う	職業訓練学 校へ通う	企業等へ就 職する(一 般就労)	自分で仕事 をする(自 営業など)
全体	19	15.8	5.3	0.0	0.0	5.3	15.8	5.3
障害別								
肢体不自由	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
音声・言語・そしゃく機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
発達障害	10	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0
精神障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	就労移行支 援や就労継 続支援の事 業所へ通う	自立訓練(生 活訓練・機能 訓練)事業所 へ通う	生活介護事 業所へ通う	その他	わからない	無回答
全体	19	36.8	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0
障害別							
肢体不自由	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
視覚障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	10	50.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0
発達障害	10	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
精神障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【保護者の希望】を障害別にみると、「就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う」が、回答数が10件以上の“知的障害”では5割、“発達障害”では4割を占めて最も高くなっています。

(9) 休日の過ごし方

問 34 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が77.1%と最も高く、次いで「近所の散歩」が47.7%、「趣味や学習活動」が46.3%、「買い物に行く」が37.1%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は1.7%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特に決まった予定はない」を除いた12項目中8項目が下がっており、特に「買い物に行く」が16.4ポイント、「飲食店に行く」が10.9ポイント、「地域の行事への参加や交流」が10.0ポイントと、10ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	趣味や学 習活動	スポーツ	ボランティ ア活動	友人・知人 と会う	音楽、演 劇、映画、 スポーツな どの鑑賞	買い物に 行く	飲食店に 行く	読書
(単位:%)									
全体	350	46.3	15.7	1.1	17.7	16.0	37.1	29.7	21.1
障害別									
肢体不自由	30	30.0	3.3	0.0	13.3	23.3	40.0	33.3	10.0
音声・言語・そしゃく機能障害	26	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	34.6	23.1	7.7
視覚障害	12	50.0	25.0	0.0	33.3	25.0	41.7	50.0	41.7
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	14.3	0.0	7.1	21.4	28.6	28.6	35.7
内部障害	17	64.7	29.4	5.9	23.5	23.5	35.3	41.2	29.4
知的障害	140	35.7	13.6	0.7	10.0	15.0	42.1	30.0	12.1
発達障害	213	48.4	15.0	0.9	17.4	14.6	35.2	26.8	22.5
精神障害	3	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0	100.0	0.0
難病（特定疾病）	21	28.6	9.5	0.0	14.3	19.0	42.9	28.6	14.3
その他	19	26.3	15.8	0.0	21.1	15.8	42.1	42.1	10.5

	n	旅行	家でくつ ろぐ	地域の行 事への参 加や交流	近所の散 歩	その他	特に決 まった予 定はない	無回答
(単位:%)								
全体	350	24.9	77.1	14.6	47.7	8.0	1.7	4.6
障害別								
肢体不自由	30	30.0	76.7	10.0	50.0	3.3	3.3	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	30.8	65.4	15.4	53.8	7.7	3.8	15.4
視覚障害	12	33.3	75.0	25.0	50.0	25.0	0.0	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	64.3	21.4	42.9	7.1	14.3	0.0
内部障害	17	17.6	76.5	17.6	52.9	0.0	0.0	17.6
知的障害	140	27.1	77.1	14.3	52.9	7.9	2.9	6.4
発達障害	213	22.5	77.5	12.2	43.7	8.0	1.9	3.8
精神障害	3	33.3	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	28.6	85.7	4.8	57.1	0.0	4.8	4.8
その他	19	26.3	63.2	21.1	57.9	10.5	5.3	10.5

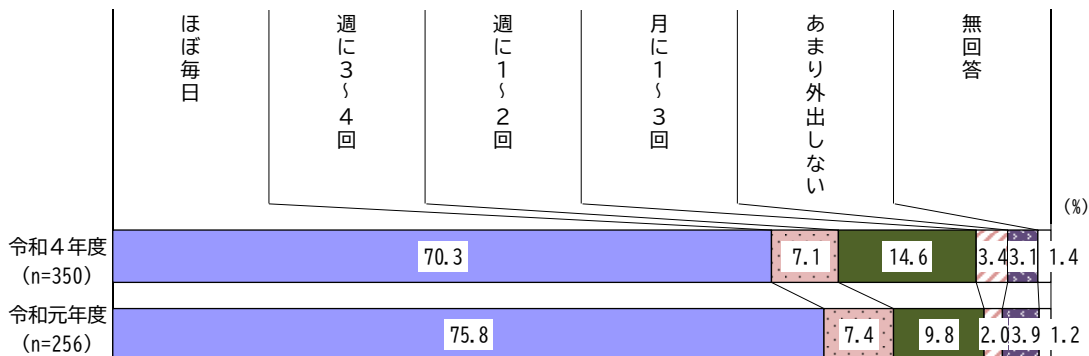
障害別にみると、いずれの障害でも「家でくつろぐ」が最も高くなっています。また、「近所の散歩」はいずれの障害でも4割以上で高くなっています。

“内部障害”では、「趣味や学習活動」が64.7%と他の障害よりも高くなっています。

6 外出や住まいについて

(1) 外出の頻度

問 35 あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。(〇はひとつ)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が70.3%と最も高く、次いで「週に1~2回」が14.6%、「週に3~4回」が7.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、「ほぼ毎日」が5.5ポイント下がっており、反対に「週に1~2回」が4.8ポイント上がっています。

【クロス集計】障害別

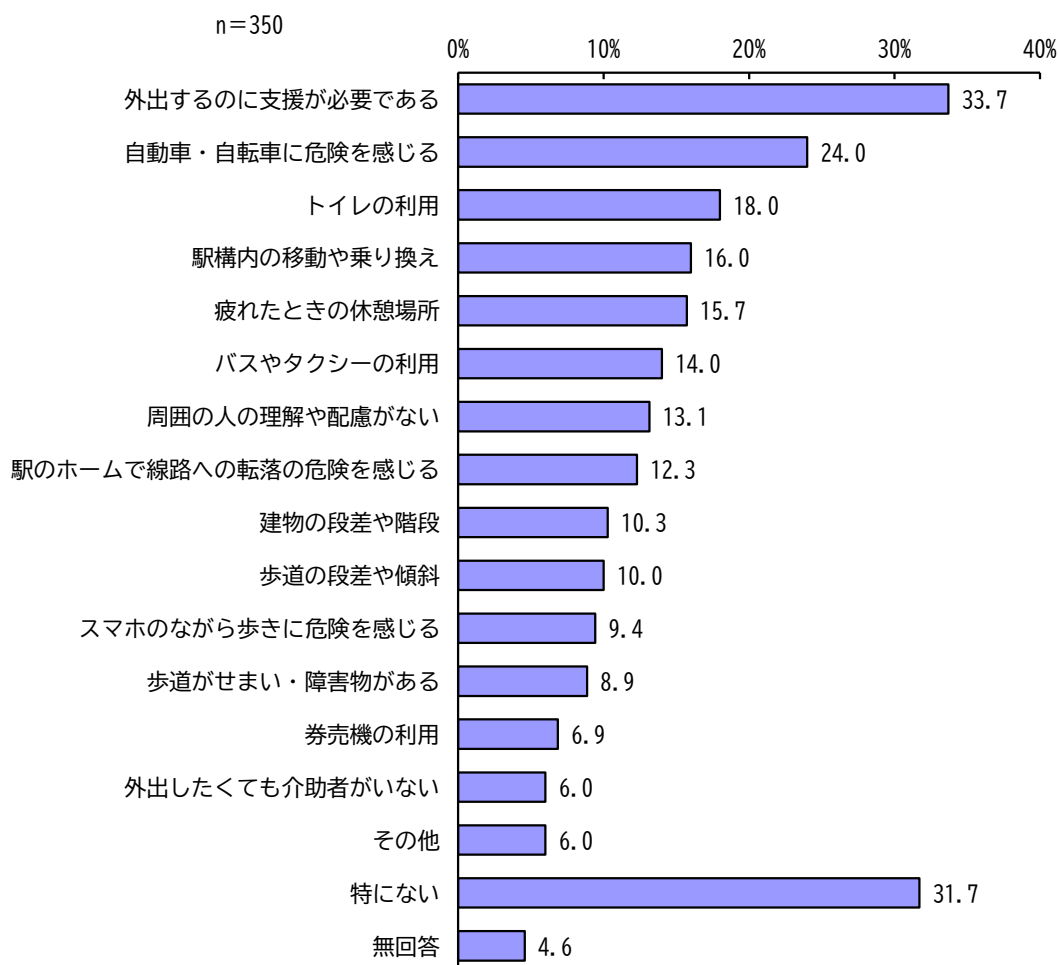
(単位:%)	n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体	350	70.3	7.1	14.6	3.4	3.1	1.4
肢体不自由	30	66.7	10.0	6.7	6.7	6.7	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	76.9	3.8	11.5	3.8	3.8	0.0
視覚障害	12	66.7	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	85.7	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	70.6	0.0	17.6	11.8	0.0	0.0
知的障害	140	72.1	5.0	15.0	3.6	2.9	1.4
発達障害	213	67.6	8.9	16.4	2.8	3.3	0.9
精神障害	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	76.2	9.5	4.8	4.8	4.8	0.0
その他	19	73.7	5.3	15.8	5.3	0.0	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも、「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

“視覚障害”では、「あまり外出しない」が16.7%と他の障害よりも高くなっています。

(2) 外出時の困りごと

問 36 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)



外出時の困りごとは、「外出するのに支援が必要である」が 33.7%と最も高く、次いで「自動車・自転車に危険を感じる」が 24.0%、「トイレの利用」が 18.0%、「駅構内の移動や乗り換え」が 16.0%と続いています。

一方、「特にない」は 31.7%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	歩道の段差や傾斜	建物の段差や階段	バスやタクシーの利用	駅構内の移動や乗り換え	券売機の利用	トイレの利用	歩道がせまい・障害物がある	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる
全体	350	10.0	10.3	14.0	16.0	6.9	18.0	8.9	15.7	24.0
障害別										
肢体不自由	30	56.7	60.0	56.7	56.7	20.0	56.7	40.0	36.7	43.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	26.9	26.9	34.6	38.5	19.2	50.0	23.1	15.4	50.0
視覚障害	12	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	25.0	25.0	8.3	50.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	28.6	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	7.1	35.7
内部障害	17	11.8	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	5.9	23.5	11.8
知的障害	140	13.6	15.0	22.1	26.4	16.4	30.0	12.9	18.6	30.7
発達障害	213	2.3	2.8	7.5	12.2	5.2	15.0	4.7	13.1	22.1
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0
難病（特定疾病）	21	42.9	42.9	33.3	42.9	23.8	28.6	28.6	28.6	47.6
その他	19	15.8	10.5	10.5	10.5	0.0	26.3	10.5	15.8	26.3

(単位:%)	n	スマホのながら歩きに危険を感じる	駅のホームで線路への転落の危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても介助者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	特にない	無回答
全体	350	9.4	12.3	33.7	6.0	13.1	6.0	31.7	4.6
障害別									
肢体不自由	30	30.0	30.0	63.3	3.3	23.3	6.7	3.3	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	19.2	73.1	15.4	15.4	0.0	3.8	3.8
視覚障害	12	25.0	33.3	66.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	14.3	35.7	7.1	0.0	14.3	14.3	0.0
内部障害	17	5.9	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0	47.1	5.9
知的障害	140	12.9	17.1	62.9	14.3	21.4	4.3	11.4	3.6
発達障害	213	7.0	9.9	28.6	6.1	16.9	7.5	34.3	5.2
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	33.3	19.0	57.1	0.0	28.6	4.8	14.3	4.8
その他	19	10.5	15.8	15.8	5.3	15.8	10.5	47.4	0.0

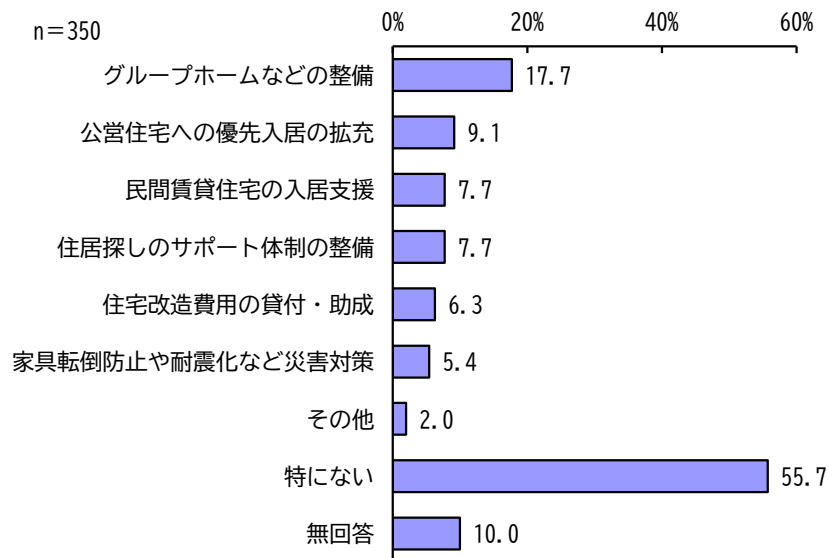
障害別にみると、“視聴覚・平衡機能障害”では、「自動車・自転車に危険を感じる」と「外出するのに支援が必要である」がともに3割半ばで最も高くなっています。

“内部障害”では、「疲れたときの休憩場所」が23.5%で最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「外出するのに支援が必要である」が最も高くなっています。

(3) 住まいに必要な支援

問 37 住まいに関してどのような支援を必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)



住まいに必要な支援は、「グループホームなどの整備」が 17.7%と 1 割半ばを超えて最も高く、それ以外の項目はいずれも 1 割を下回っています。

一方、「特にない」は 55.7%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	住宅改造費用の 貸付・助成	家具転倒防止や 耐震化など災害 対策	公営住宅への優 先入居の拡充	民間賃貸住宅の 入居支援	グループホーム などの整備
全体	350	6.3	5.4	9.1	7.7	17.7
障害別						
肢体不自由	30	16.7	10.0	13.3	13.3	33.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	7.7	7.7	3.8	38.5
視覚障害	12	0.0	0.0	25.0	16.7	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	21.4	7.1	14.3
内部障害	17	5.9	11.8	5.9	0.0	0.0
知的障害	140	7.1	5.0	9.3	9.3	35.7
発達障害	213	6.1	5.6	10.8	8.5	17.4
精神障害	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	21	9.5	14.3	19.0	14.3	33.3
その他	19	15.8	5.3	15.8	15.8	15.8

(単位:%)	n	住居探しのサ ポート体制の整 備	その他	特にない	無回答
全体	350	7.7	2.0	55.7	10.0
障害別					
肢体不自由	30	13.3	6.7	33.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	11.5	7.7	26.9	3.8
視覚障害	12	16.7	8.3	41.7	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	7.1	28.6	21.4
内部障害	17	5.9	5.9	58.8	11.8
知的障害	140	8.6	3.6	37.9	12.1
発達障害	213	7.5	2.3	59.2	8.9
精神障害	3	33.3	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	4.8	4.8	23.8	9.5
その他	19	10.5	5.3	68.4	5.3

障害別にみると、“視覚障害”と“内部障害”では、「公営住宅への優先入居の拡充」が2割を超えて最も高くなっています。

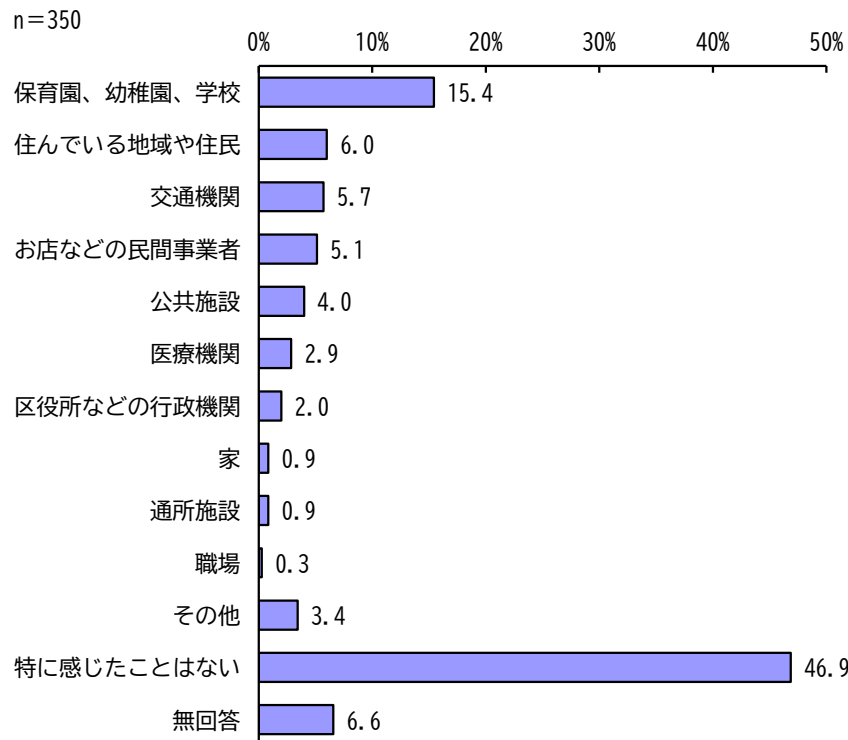
“内部障害”では、「家具転倒防止や耐震化など災害対策」が11.8%と最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「グループホームなどの整備」が最も高くなっています。

7 権利擁護・差別解消について

(1) 地域で差別を感じる場面

問 38 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「保育園、幼稚園、学校」が 15.4%と最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が 6.0%、「交通機関」が 5.7%と続いています。一方、「特に感じたことはない」は 46.9%となっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	家	職場	通所施設	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
全体	350	0.9	0.3	0.9	5.1	6.0	4.0	2.0
障害別								
肢体不自由	30	0.0	0.0	3.3	6.7	10.0	3.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8
視覚障害	12	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
内部障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	140	0.0	0.0	0.7	7.9	9.3	7.1	0.7
発達障害	213	0.9	0.5	0.9	5.2	7.5	4.7	1.9
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	0.0	0.0	9.5	9.5	4.8	0.0
その他	19	5.3	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	10.5

(単位:%)	n	医療機関	交通機関	保育園、幼 稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
全体	350	2.9	5.7	15.4	3.4	46.9	6.6
障害別							
肢体不自由	30	6.7	13.3	13.3	3.3	30.0	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	11.5	19.2	7.7	26.9	7.7
視覚障害	12	8.3	25.0	0.0	8.3	33.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	21.4	42.9	0.0	28.6	0.0
内部障害	17	5.9	5.9	5.9	0.0	76.5	5.9
知的障害	140	3.6	8.6	11.4	5.0	39.3	6.4
発達障害	213	3.3	4.2	17.4	4.2	45.1	4.2
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
難病（特定疾病）	21	0.0	14.3	9.5	4.8	42.9	4.8
その他	19	0.0	5.3	5.3	0.0	57.9	5.3

障害別にみると、“その他”を除く障害ではいずれも、「交通機関」か「保育園、幼稚園、学校」が最も高くなっており、特に“聴覚・平衡機能障害”では、「保育園、幼稚園、学校」が42.9%と4割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(2) 地域に求める合理的配慮

問 39 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

地域に求める合理的配慮についての意見は 63 件ありました。「保育・教育」についての意見が 36.5%と最も多く、次いで「障害理解・思いやり・偏見の排除」が 27.0%、「福祉サービス」が 12.7%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	保育・教育	障害理解・思いやり・偏見の排除	福祉サービス	行政・各種手続き	施設等の受け入れ	交通事情・バリアフリー	情報周知・啓発	休憩・トイレ	経済事情・経済的支援
合理的配慮	63	36.5	27.0	12.7	6.3	6.3	4.8	3.2	1.6	1.6

◆主な意見 (内容は要約・省略しています)

1. 保育・教育 (23 件)

- ・支援学校・支援級・普通級の区分けをもっとゆるやかにしてほしい。現行の制度ではボーダーラインの子はどの学校・学級に通うか判断が難しい。また成長により、適した就学先が変わることもある。転籍せずとも“おためし”を可能にするなど、より本人と保護者にとって利用しやすい制度にして欲しい。
- ・学校教育の場で、合理的配慮を受ける権利があることが、一般にまだ広く認知されていない。学級内での他の児童やその家庭に対し、説明せねばならない場面があり、負担を感じる。インクルーシブ教育についての啓蒙活動がもっと必要だと考えている。

2. 障害理解・思いやり・偏見の排除 (17 件)

- ・行政、教育機関ともに、2Eと呼ばれるギフテッド児への理解がまったくないか、ほとんどない。日本では、ギフテッド児への理解が他先進国に比べ、かなり遅れている。一方、不登校の問題の一部は、ギフテッド児の教育のあり方に原因があるとも言われており、文部科学省を中心に早急な対応を求めたい。
- ・自閉症への理解が足りない様に思えます。知的に問題がないとサポート枠が少なく自己負担がかなり大きいです。手帳が頂けるレベルではないとの事で自費でSTを週2回、学校へのアシタントを付けています。他国、英国、フランス、米国を参考に自閉症は知的だけの問題では無く、多くのサポートを幼少期からいかに早く進める事で自立へ繋がっていきます。

3. 福祉サービス（8件）

- ・児童発達支援や放課後等デイサービスの拡充を希望します。
- ・福祉サービスを受けるための仕組みが分かりにくい。介助している家族でもわかりにくいので、知的障害者なら尚更だと思ふ。こちらから申請しなくても、定期的に行政機関側から、こんな福祉サービスがあるから利用しませんか、というくらい積極的にアクションしてほしい。

4. 行政・各種手続き（4件）

- ・行政：各施設/行政/業者間でのデジタル化を進めて各家庭への負担を軽減して欲しい、情報はネット上で一括検索できるようホームページを整備していただきたいです。配布物等すべてが紙ベースのやりとりも負担です。

5. 施設等の受け入れ（4件）

- ・障害を持つ人を受け入れている、もしくは参加できるように工夫してくれている習い事やイベントが非常に少ない。習い事の障がい者クラスや、イベントにおける障がい者フレンドリーな回（例えば、舞台鑑賞で多少騒がしくしても良い回や音響効果を低減した回、内容を知的発達の遅い人でも理解しやすいように改編した回など）の工夫があっても良いのではないかと思う。

6. 交通事情・バリアフリー（3件）

- ・地下鉄のエレベーター不足（ベビーカーを持ち上げて階段を昇降する必要あり：春日駅）

7. 情報周知・啓発（2件）

- ・障がい者本人に知的障がいがあり、困っていることを自分で意思表示することができないことに不安を感じます。利用できるサービスなどの情報を分かりやすく提示していただけると助かります。

8. 休憩・トイレ（1件）

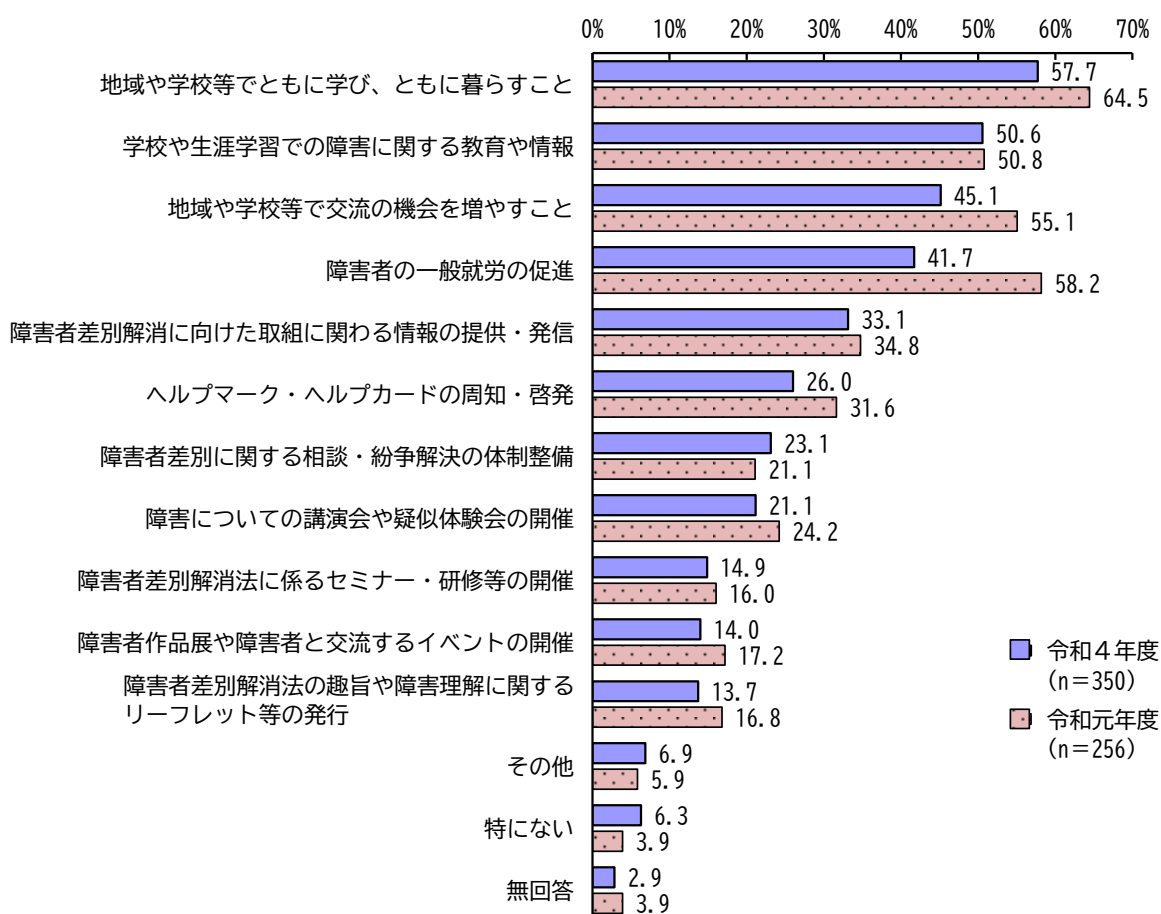
- ・区役所でおむつ替えをする際、おむつ替え台のあるトイレが見つからなく困った事があります。

9. 経済事情・経済的支援（1件）

- ・補助金、助成金の増額。

(3) 差別解消に必要なこと

問 40 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 57.7%と 5 割半ばを超えて最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 50.6%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 45.1%、「障害者の一般就労の促進」が 41.7%と 4 割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 6.3%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除いた 11 項目すべてで令和元年度を下回っており、特に「障害者の一般就労の促進」が 16.5 ポイント、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 10.0 ポイント、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が 6.8 ポイント、「ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発」が 5.6 ポイントと、5 ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備	障害者差別解消に向けた取組に関する情報の提供・発信	障害者差別解消法※3に係るセミナー・研修等の開催	障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行	障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催	地域や学校等で交流の機会を増やすこと	地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと
全体	350	23.1	33.1	14.9	13.7	14.0	45.1	57.7
障害別								
肢体不自由	30	20.0	43.3	20.0	20.0	20.0	40.0	66.7
音声・言語・そしゃく機能障害	26	38.5	50.0	26.9	15.4	19.2	57.7	57.7
視覚障害	12	33.3	41.7	8.3	16.7	8.3	50.0	58.3
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	50.0	21.4	14.3	21.4	35.7	57.1
内部障害	17	29.4	23.5	5.9	11.8	11.8	35.3	70.6
知的障害	140	25.0	36.4	18.6	15.7	18.6	52.1	62.1
発達障害	213	23.5	33.3	15.0	16.0	12.7	42.7	55.4
精神障害	3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
難病（特定疾病）	21	38.1	47.6	28.6	23.8	19.0	52.4	71.4
その他	19	26.3	36.8	10.5	5.3	15.8	52.6	89.5

(単位:%)	n	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	障害についての講演会や疑似体験会の開催	障害者の一般就労の促進	ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発	その他	特にない	無回答
全体	350	50.6	21.1	41.7	26.0	6.9	6.3	2.9
障害別								
肢体不自由	30	53.3	26.7	43.3	30.0	3.3	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	50.0	23.1	61.5	34.6	3.8	7.7	0.0
視覚障害	12	58.3	33.3	66.7	16.7	0.0	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	64.3	35.7	57.1	21.4	0.0	7.1	0.0
内部障害	17	58.8	29.4	47.1	17.6	5.9	11.8	0.0
知的障害	140	55.0	20.7	50.0	30.7	5.7	2.9	1.4
発達障害	213	50.2	23.0	41.8	27.7	8.5	7.0	2.8
精神障害	3	66.7	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	66.7	28.6	47.6	33.3	9.5	4.8	0.0
その他	19	57.9	10.5	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0

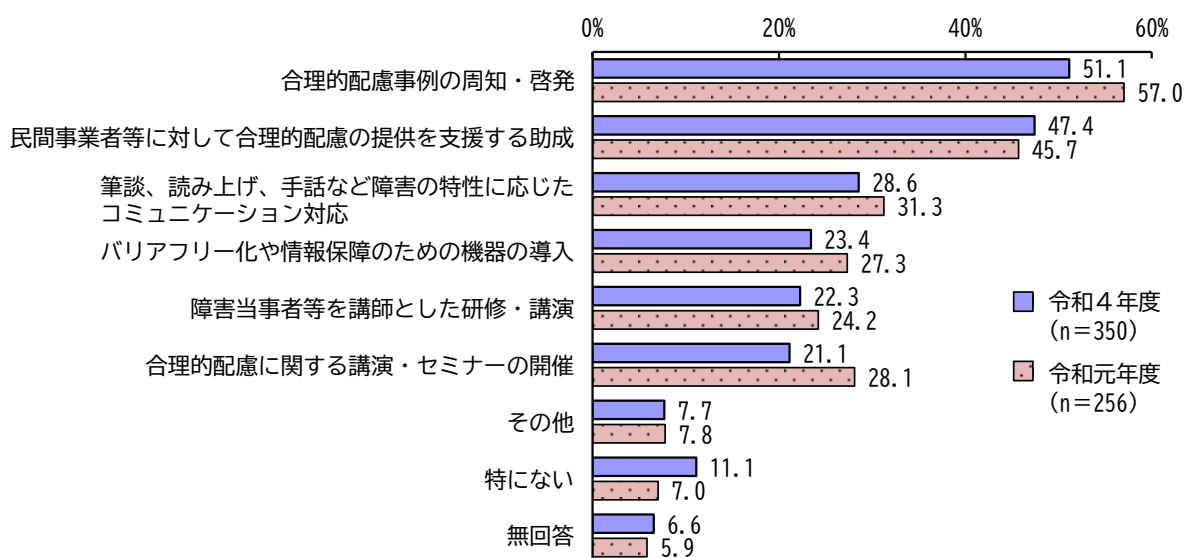
障害別にみると、いずれの障害でも「地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと」が5割を超えており、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”以外の障害でも高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”と“視覚障害”では、「障害者の一般就労の促進」が6割を超えて最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が64.3%と6割半ば近くで最も高くなっています。

(4) 合理的配慮に必要なこと

問 41 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんでしょうか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 51.1%と唯一5割を超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 47.4%と続いています。

一方、「特にない」は 11.1%となっています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除いた6項目中、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」以外の5項目すべてで令和元年度を下回っており、特に「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が 7.0ポイント、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 5.9ポイントと、5ポイント以上下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	合理的配慮に関する講演・セミナーの開催	合理的配慮事例の周知・啓発	筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応	バリアフリー化や情報保障のための機器の導入	障害当事者等を講師とした研修・講演
全体	350	21.1	51.1	28.6	23.4	22.3
障害別						
肢体不自由	30	30.0	56.7	26.7	46.7	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	19.2	50.0	34.6	23.1	19.2
視覚障害	12	41.7	41.7	16.7	16.7	33.3
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	42.9	57.1	57.1	21.4
内部障害	17	17.6	47.1	23.5	23.5	17.6
知的障害	140	17.1	52.1	24.3	20.0	23.6
発達障害	213	21.6	54.5	29.1	19.2	23.5
精神障害	3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	28.6	66.7	28.6	38.1	38.1
その他	19	5.3	42.1	31.6	31.6	10.5

(単位:%)	n	民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成	その他	特になし	無回答
全体	350	47.4	7.7	11.1	6.6
障害別					
肢体不自由	30	53.3	10.0	13.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	38.5	11.5	7.7	15.4
視覚障害	12	50.0	0.0	8.3	8.3
聴覚・平衡機能障害	14	50.0	14.3	7.1	7.1
内部障害	17	41.2	0.0	17.6	11.8
知的障害	140	52.9	7.1	4.3	7.1
発達障害	213	47.4	8.5	11.3	4.7
精神障害	3	66.7	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	52.4	0.0	4.8	4.8
その他	19	42.1	26.3	21.1	0.0

障害別にみると、“視覚障害”、“知的障害”では、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が最も高くなっています。また、“肢体不自由”、“視覚障害”、“知的障害”では5割を超えています。

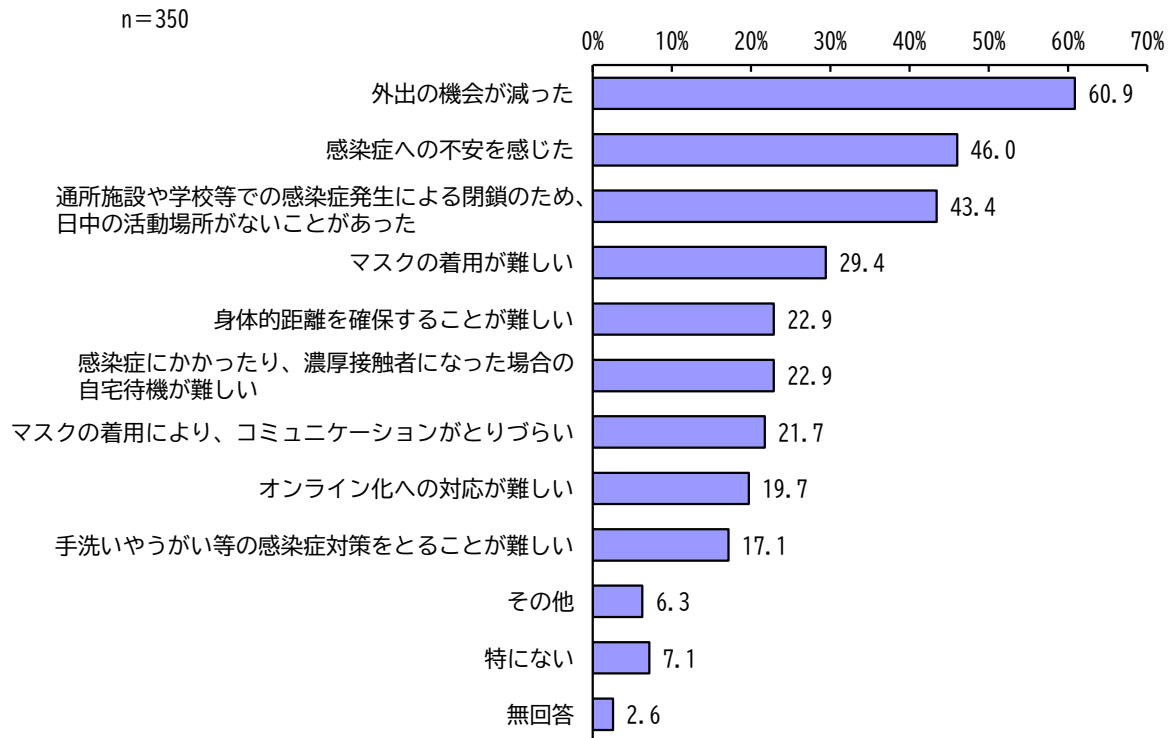
“聴覚・平衡機能障害”では、「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」と「バリアフリー化や情報保障のための機器の導入」がともに57.1%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「合理的配慮事例の周知・啓発」が最も高く、特に“難病（特定疾病）”では66.7%と6割半ばを超えて、他の障害よりも高くなっています。

8 感染症について

(1) 感染症発生時の困りごと

問 42 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が 60.9%と最も高く、次いで「感染症への不安を感じた」が 46.0%、「通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった」が 43.4%と 4 割台が続いています。

一方、「特にない」は 7.1%となっています。

【クロス集計】障害別

	n	外出の機会が減った	身体的距離を確保することが難しい	感染症への不安を感じた	手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい	通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった	感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい
(単位:%)							
全体	350	60.9	22.9	46.0	17.1	43.4	22.9
障害別							
肢体不自由	30	56.7	33.3	56.7	50.0	36.7	33.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	57.7	34.6	50.0	34.6	53.8	26.9
視覚障害	12	41.7	50.0	41.7	25.0	41.7	25.0
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	14.3	50.0	14.3	42.9	14.3
内部障害	17	58.8	5.9	52.9	5.9	29.4	23.5
知的障害	140	62.9	31.4	45.0	25.0	50.7	30.7
発達障害	213	62.4	23.0	45.5	14.1	44.6	25.4
精神障害	3	100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	21	61.9	42.9	66.7	42.9	52.4	33.3
その他	19	68.4	26.3	42.1	26.3	42.1	21.1

	n	マスクの着用が難しい	マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい	オンライン化への対応が難しい	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	350	29.4	21.7	19.7	6.3	7.1	2.6
障害別							
肢体不自由	30	46.7	23.3	20.0	16.7	10.0	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	42.3	23.1	26.9	7.7	7.7	0.0
視覚障害	12	41.7	25.0	16.7	16.7	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	64.3	21.4	14.3	7.1	0.0
内部障害	17	23.5	0.0	5.9	17.6	5.9	0.0
知的障害	140	33.6	20.7	28.6	6.4	5.7	2.9
発達障害	213	27.2	20.2	22.5	5.6	6.1	2.8
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病（特定疾病）	21	42.9	19.0	23.8	4.8	4.8	0.0
その他	19	52.6	31.6	21.1	10.5	5.3	0.0

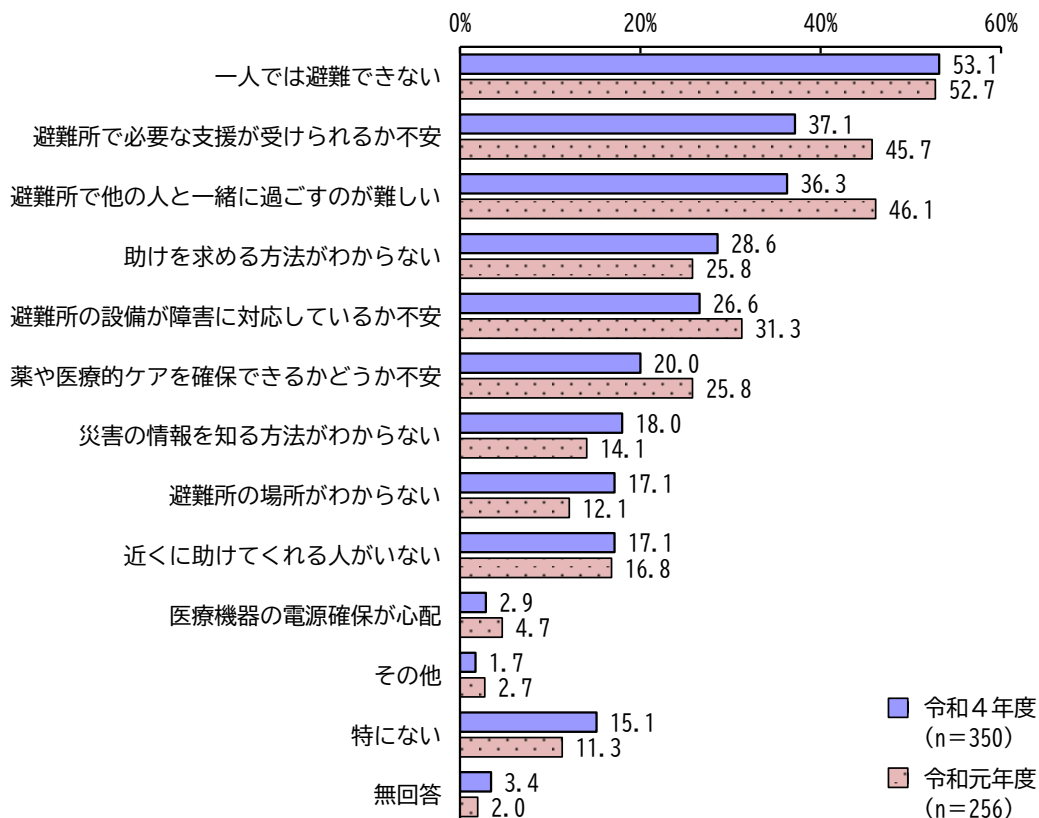
障害別にみると“視覚障害”では「身体的距離を確保することが難しい」が50.0%、“聴覚・平衡機能障害”では「マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい」が64.3%、“難病（特定疾病）”では「感染症への不安を感じた」が66.7%と他の障害よりも高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「外出の機会が減った」が5割を超えて最も高くなっています。

9 災害対策について

(1) 災害発生時の困りごと

問 43 あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



災害発生時の本人や家族の困りごとは、「一人では避難できない」が53.1%と5割を超えて最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が37.1%、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が36.3%と3割半ばを超えています。

一方、「特にない」は15.1%となっています。

令和元年度と比較すると、「避難所の場所がわからない」が5.0ポイント、「災害の情報をする方法がわからない」が3.9ポイント、「助けを求める方法がわからない」が2.8ポイント上がっています。反対に、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が9.8ポイント、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が8.6ポイント、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が5.8ポイントと5ポイント以上、令和元年度より下がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	災害の情報を 知る方法が わからない	助けを求め る方法がわ からない	避難所の場 所がわから ない	近くに助け てくれる人 がいない	一人では避 難できない	避難所の設 備が障害に 対応してい るか不安	避難所で必 要な支援が 受けられる か不安
全体	350	18.0	28.6	17.1	17.1	53.1	26.6	37.1
障害別								
肢体不自由	30	16.7	30.0	13.3	30.0	70.0	60.0	73.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	26.9	30.8	23.1	26.9	80.8	53.8	65.4
視覚障害	12	8.3	25.0	16.7	8.3	83.3	41.7	58.3
聴覚・平衡機能障害	14	35.7	28.6	21.4	7.1	42.9	57.1	42.9
内部障害	17	0.0	11.8	0.0	17.6	23.5	29.4	41.2
知的障害	140	25.7	36.4	22.9	25.0	71.4	39.3	51.4
発達障害	213	16.4	30.0	17.4	16.4	50.2	25.4	32.9
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
高次脳機能障害	2	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
難病（特定疾病）	21	19.0	38.1	14.3	33.3	61.9	42.9	52.4
その他	19	10.5	21.1	0.0	31.6	36.8	15.8	26.3

(単位:%)	n	避難所で他 の人と一緒 に過ごすの が難しい	薬や医療的 ケアを確保 できるかど うか不安	医療機器の 電源確保が 心配	その他	特になし	無回答
全体	350	36.3	20.0	2.9	1.7	15.1	3.4
障害別							
肢体不自由	30	46.7	50.0	10.0	6.7	3.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	34.6	23.1	3.8	3.8	0.0	7.7
視覚障害	12	25.0	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	28.6	14.3	7.1	7.1	0.0
内部障害	17	11.8	58.8	17.6	0.0	0.0	11.8
知的障害	140	40.7	23.6	2.9	2.1	7.9	3.6
発達障害	213	45.1	16.4	1.9	0.9	16.4	2.8
精神障害	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	21	38.1	38.1	9.5	0.0	4.8	9.5
その他	19	31.6	26.3	5.3	5.3	15.8	5.3

障害別にみると、“肢体不自由”では、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が73.3%と7割を超えて最も高くなっています。

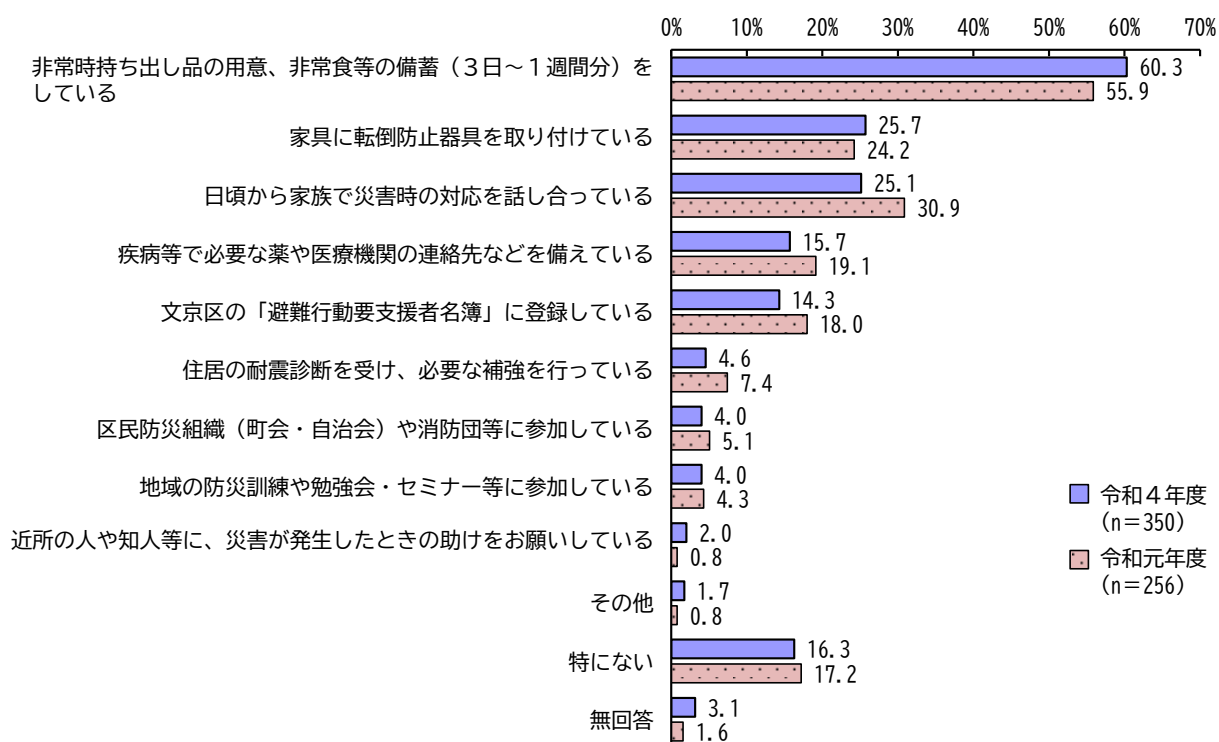
“聴覚・平衡機能障害”では、「避難所の設備が障害に対応しているか不安」が57.1%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

“内部障害”では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が58.8%と6割近くで最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも、「一人では避難できない」が最も高く、特に「音声・言語・そしゃく機能障害」と「視覚障害」は8割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(2) 災害に対する備え

問 44 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



災害に対する本人や家族の備えは、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間）をしている」が60.3%と6割に達し最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が25.7%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が25.1%と2割半ばで続いています。

一方、「特にない」は16.3%となっています。

令和元年度と比較すると、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄（3日～1週間）をしている」が4.4ポイント上がっており、反対に「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が5.8ポイント、「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が3.7ポイント、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が3.4ポイント、「住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている」が2.8ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

	n	日頃から家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日~1週間)をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている	文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
(単位:%)							
全体	350	25.1	60.3	15.7	2.0	14.3	25.7
障害別							
肢体不自由	30	16.7	66.7	23.3	0.0	53.3	23.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	11.5	53.8	11.5	3.8	34.6	19.2
視覚障害	12	33.3	83.3	16.7	0.0	41.7	41.7
聴覚・平衡機能障害	14	21.4	64.3	28.6	0.0	14.3	14.3
内部障害	17	29.4	82.4	41.2	5.9	5.9	17.6
知的障害	140	21.4	55.0	17.9	1.4	29.3	21.4
発達障害	213	27.7	61.5	14.6	1.4	8.9	28.6
精神障害	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3
高次脳機能障害	2	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0
難病(特定疾病)	21	19.0	66.7	33.3	0.0	33.3	9.5
その他	19	26.3	68.4	10.5	0.0	5.3	5.3

	n	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	350	4.6	4.0	4.0	1.7	16.3	3.1
障害別							
肢体不自由	30	3.3	6.7	0.0	0.0	3.3	3.3
音声・言語・そしゃく機能障害	26	0.0	3.8	0.0	0.0	15.4	7.7
視覚障害	12	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
内部障害	17	11.8	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0
知的障害	140	3.6	5.7	3.6	1.4	15.7	5.0
発達障害	213	4.2	4.7	5.2	2.8	16.9	2.3
精神障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	21	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8
その他	19	0.0	5.3	5.3	5.3	15.8	0.0

障害別にみると、いずれの障害でも、「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日~1週間)をしている」が最も高くなっています。

“肢体不自由”では「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」が53.3%と5割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

“視覚障害”では、「文京区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」と「家具に転倒防止器具を取り付けている」がともに41.7%と4割を超えています。

“内部障害”では、「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」が41.2%と4割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

10 自由意見

問 45 区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 164 件ありました。「福祉」についての意見が 35.4%と最も多く、次いで「教育・療育」が 18.9%、「情報・相談」が 12.8%、「行政」が 10.4%となっています。

主な意見は以下の通りです。

	総数	福祉	教育・療育	情報・相談	行政	障害理解	将来	生活環境	雇用・就労	アンケート	災害	保健・医療	障害・疾患	その他
自由意見	164	35.4	18.9	12.8	10.4	9.8	3.7	1.8	1.8	1.2	1.2	0.6	0.6	1.8

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉（58 件）

- ・学校が終わった後の放課後デイサービスの事業所の数が少ない。又、送迎不可などが多く、施設利用が満足に出来ない。取り合いのよう。なるべく居住区のデイサービスに通いたい。他の区に通わざるを得ない状況。移動支援も不足し、困っている親ばかりです。送迎を親がしなければならないことが基本となってしまうと精神的負担と身体的負担が多すぎる。どうかデイサービス事業所（送迎あり）、移動支援サービスの拡充をお願い致します。
- ・民間の児童発達支援の事業所が少なすぎます。将来働ける職場も少ないような気がします。
- ・中学校になった時の学童や放課後デイサービスの確保をおねがいします。移動支援について、家か学校を始点・終点が基本になるというのは専業主婦の親を想定しているのでしょうか。上記中学の学童もですが、定型の子供であれば 1 人で習い事へ行くことができますが、それが 1 人ではむずかしいから移動支援や預かりを依頼したいので、親が家にいなくても習い事間の送迎などにも使えるようにしていただきたいです。
- ・障害度合いが重度だったり、小さい子向けの支援はありますが、グレーゾーンや軽度障害者向けの支援は極めて少ないです。支援学級においても同様で後者の児童は放置されることが多いです。もう少し障害の度合いに合わせて学校や施設のレベルを分けていただけませんか？
- ・幼稚部の送迎により育児短時間勤務を取得するあるいは退職する人も多い。聴力が軽くても保育園や小学校で他の聴者についていくことは困難なので幼稚部に通う必要があると思う。手話ができる支援者（加配による）が少ない（いない）。
- ・保護者へのレスパイトケアの拡充。保護者への正しい発達障害を抱える子についての知識、ABA の研修の機会の提供。小学校以降の放デイ以外の S T / O T トレーニング施設の拡充。特別支援（経済的）がほしい。介護、補助用具費のため。タクシー券（公共の場であばれたりする時、緊急で帰宅するとき電車やバスだと無理なため）。
- ・少人数グループホームの増設、使いやすいヘルパー制度の創出とヘルパー派遣事業所への公的助成の充実化など。

2. 教育・療育 (31 件)

- ・全ての小学校に知的障害の支援学級を設置して欲しいです。歩いて3分の距離に小学校があるのに、知的支援学校がない為、となりのとなりの学区まで歩いて通い、近所の子どもはいないので、親子共に負担が大きいです。地域の関わりもほぼない為、災害時や困った時に頼れる所・人がない状況です。近所で助け合えるような居場所の確保の為の取り組みをお願いしたいです。又、保健師さんや教育センターの療育の訪問事業をもっと増やしてほしいです。
- ・中・高生の学校がない日に活動ができる場があって欲しい。友達がいらない子たちが休日に行ける施設があって、そこで仕事の体験が出来たり、楽器の演奏が出来たりと学校がない日にそこに行けば、何かが出来て誰かとお話ができる子供たちが安心してお出かけできる場所が区内にあると欲しいです。
- ・小学校特別支援級の補助員の数が少ないので増やしてほしい（特に男性）。支援級の先生によっては特性への理解が不足していると感じることがあり、医療や療育施設との連携を深め、研修などを通じて、理解を深めるような取組をしてほしい。（現状、小学校と上記施設との連携ができていないと感じることが多々ある。）
- ・発達障害のある子の就学に関してもっと情報がほしいです。迷惑をかけたくないという親の思いだけで支援級を選ぶ方が沢山いると思います。それでは「ともに学ぶ」というステージにもたてないのでどんな方法と一緒に学ぶことができるのか是非一緒に考えて実行してほしいと思っています。入学する時に学校の先生方としっかり話し合い、支援計画を普通級でも作ってほしいです。
- ・中学、高校、就職、地域での自立生活と、インクルージョンの理念に基づく切れ目のない支援体制の整備をお願いしたい。具体的には、必要な個別支援を受けつつ障害のない人と分けることのない中等教育および雇用機会の創出、放課後および長期学校休暇期間の居場所づくり。

3. 情報・相談 (21 件)

- ・利用の仕方、どのような事ができるのかもよくわかりません。もっと具体的にアドバイスをして下さるとよいのですが。他の区より障害児に対する施設や療育が少ないような気がします。分からない事だらけで幼少期から自己負担で高額な療育費となり負担の大ききゆえに中断しました。もっと親身になってほしいです。
- ・将来の就労等に向けたセミナーや相談ができる場所、今後の流れがわかるような機会が欲しい。
- ・小さい子を連れてひとつひとつ聞いて回るのは大変だったので、障害児の受け入れをまったく行っていない区内の幼稚園は名前を公表してほしいし、比較的柔軟に対応してくれる園についての情報などが事前に得られると良いと思う。
- ・通っている保育園や療育機関が連携を取れる体制を作って欲しい。手帳や福祉の利用など、相談先が分かりづらい。
- ・幼児期に親が感じる不安に対して有効なのは、この先どんな壁があるのか、そこにどんな支援があるのかざっと見通しが立つことかと思っています。相談した際に資料があると嬉しいです。

4. 行政（17件）

- ・所得制限を撤廃してほしいです。障害者手当、児童手当、配偶者控除、すべて受けられません。子どもにハンディがあって母親は働けない分、少しでも子どもにお金を残そうと必死に働いた結果がこれではかなしくなります。せめて子どもには所得関係なく平等にあつかってほしいです。
- ・受給者証の更新時にまた同内容を書くのが手間である。もう少し簡略化できないか。フルタイムでの子どもの支援が難しい状況なのでそこを支援してくれると有難い。
- ・一人親の場合、平日に区役所等に出向くのが困難であるため、休日や夜間対応があると有り難いです。

5. 障害理解（16件）

- ・周りの理解を得ることが難しいことも多い。やはりどうしても当事者でないと理解し難い。
- ・発達障害はあまり目に見てわからないので相手に理解してもらうのが難しいです。しかし、グレーゾーンで手帳も交付されないくらいのレベル。生活、行動などにはADHD特有のところがありませんが、普通にできることもたくさんあります。色々と難しいことがたくさんです。そういう人たちも生活、活動できる場所や職場が増えるといいと思います。
- ・日常生活、外見は健常ですが、制限（運転免許取得など）はあり、二次障害が心配です。様々な障がいへの理解啓発を望んでいます。
- ・障害児（者）施策は確立されたものではなく、まだ手探りな状況だと思うので、当事者と保護者と連携しながら、実態に合った施策を作り上げて行っていただけると嬉しいです。限られた予算の中で、今までにないものを作っていかなければならないことも多いかと思いますが、実現できる方法を一緒に考えていってもらえたらありがたいです。
- ・小学校の先生方の合理的配慮に対する教育をお願いしたいです。目に見えない障害の、配慮についての、勉強をお願いします。

6. 将来（6件）

- ・小学校卒業までは育成室の利用ができますが中学からは長期休暇などどのように対応していくか不安。
- ・学校卒業後就労できなかった場合の日中過ごせるデイサービスなどを充実してほしい。終了時間が早く親の仕事に影響がでてしまうのが心配。入所施設、グループホームなどの施設がもっと増えてほしい。とにかく卒業後が不安です。
- ・義務教育卒業後の支援が極端に少ない。知的障害者が、地域で育ち地域で自立暮らしていくために、中学卒業後の学びの場、高校や大学、専門学校のような機関ができると良い。そして地域で就労できる社会になってほしい。

7. 生活環境（3件）

- ・未就学児への児童発達支援は手厚いと思いますが、小学校へ上がると、区内で利用できる専門的な資源が少なくなる気がして不安です。障害児は、迷惑をかけるからと休日の行き場所がないので、集まれる機会や場所、スポーツのできる機会などが欲しいです。仲間を作りたいです。
- ・ペースト食も対象とした宅食サービスや外食サービスが広まるような民間事業者への補助施策などがあるといいなと思います。

8. 雇用・就労（3件）

- ・就職で障がい枠があっても精神障がい者はとても不利で雇ってくれません。精神障がい枠は別に採用してもらえる制度があると自立に向けて希望の兆しが見えると思います。
- ・就学中は放課後デイサービスが余暇活動を支援してくれますが、就労後にそのような場がないのが心配です。

9. アンケート（2件）

- ・アンケート結果だけでなく、当事者や家族からの生の声を聞いてほしい。
- ・アンケートに関して、8歳の子に代わり母親が回答しましたが、設問によって、本人に聞いての回答がマストな問いなのか、それとも親の意見で回答して良い問いなのかどうかの判断が難しかったです。

10. 災害（2件）

- ・被災時の避難所生活は、騒ぎ落ち着かない子たちに不安です。避難所体験を小4だけでなく、全学年で行っていただけたら助かります。地域の避難所体験会があると助かります。
- ・災害時の避難場所について、開設されるまでの電源確保が不安であり、駆け込める候補がいくつかあると安心です。例えばシビックセンターで電源がつかえる、など。

11. 保健・医療（1件）

- ・手帳所持者は18才以上でも医療費負担なしを希望します。毎月内服薬が多く、今後の医療費支払いに不安が残ります。

12. 障害・疾患（1件）

- ・13才で発症し現在17才まで服薬治療を継続しています。減薬を目指しましたが、厳しい状況で今後も通院・服薬が必要です。経済的助成を受けていますが、長期にわたるため不安です。

13. その他（3件）

- ・おかげさまで健やかに過ごせている。めぐり合わせとはいえ娘が文京区で暮らせていることは幸いだと思っている。
- ・毎日が大変過ぎてしっかり考える余裕がありません。

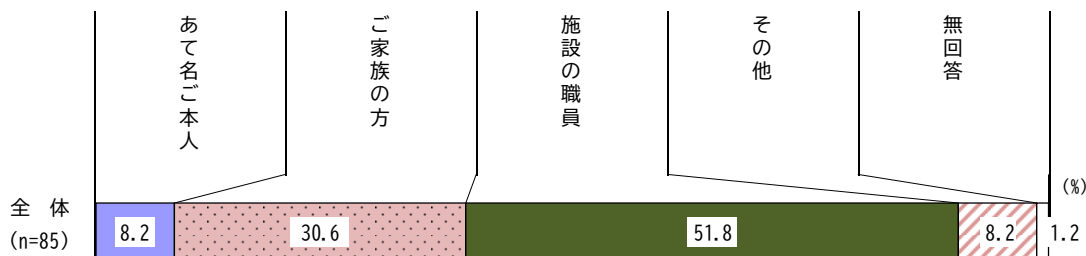
第3章

施設に入所している方を対象にした 調査

1 本人について

(1) 調査票の回答者

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(〇はひとつ)



調査の回答者は、「施設の職員」が 51.8%と 5 割を超えており、次いで「ご家族の方」が 30.6%、「あて名ご本人」が 8.2%となっています。

【クロス集計】障害別

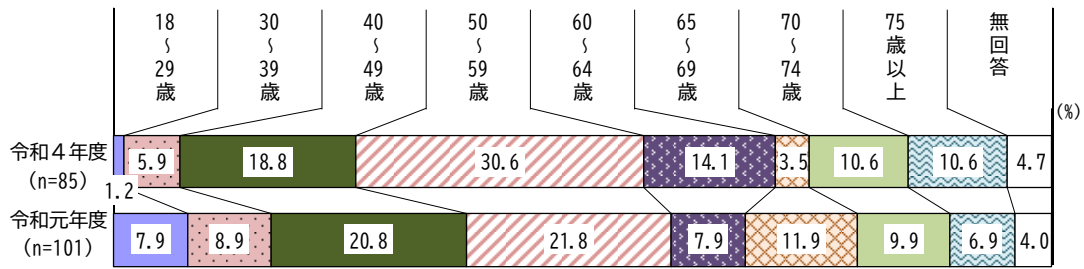
(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	施設の職員	その他	無回答
全体	85	8.2	30.6	51.8	8.2	1.2
肢体不自由	23	21.7	47.8	26.1	0.0	4.3
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	50.0	20.0	10.0	10.0
視覚障害	5	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0
聴覚・平衡機能障害	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
内部障害	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0
知的障害	69	2.9	31.9	53.6	10.1	1.4
発達障害	18	5.6	38.9	55.6	0.0	0.0
精神障害	7	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が 10 件以上の“肢体不自由”と“音声・言語・そしゃく機能障害”では「ご家族の方」、「知的障害」と“発達障害”では「施設の職員」が最も高くなっています。

また、“肢体不自由”では、「あて名ご本人」が 21.7%と 2 割を超えて、他の障害よりも高くなっています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の満年齢をお書きください。



障害者本人の年齢は、「50～59歳」が30.6%と3割を占めて最も高く、次いで「40～49歳」が18.8%、「60～64歳」が14.1%と続いています。

令和元年度と比較すると、「50～59歳」が8.8ポイント、「60～64歳」が6.2ポイント上がっており、反対に「65～69歳」が8.4ポイント、「18～29歳」が6.7ポイント下がっています。

【クロス集計】障害別

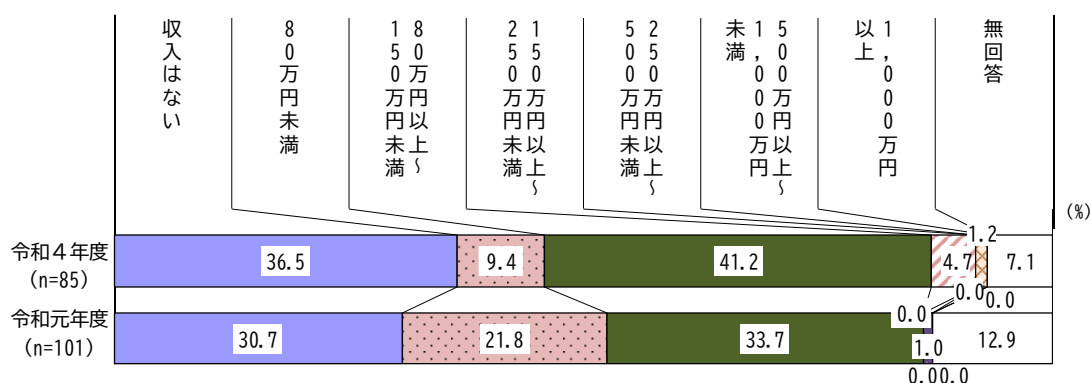
(単位:%)	n	18歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
全体	85	1.2	5.9	18.8	30.6	14.1	3.5	10.6	10.6	4.7
肢体不自由	23	0.0	0.0	39.1	17.4	8.7	8.7	8.7	8.7	8.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	0.0	10.0	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0
視覚障害	5	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
聴覚・平衡機能障害	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	5	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
知的障害	69	1.4	7.2	15.9	29.0	17.4	1.4	13.0	11.6	2.9
発達障害	18	5.6	22.2	33.3	22.2	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6
精神障害	7	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、回答数が10件以上の“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“発達障害”では、「40～49歳」が3割を超えて最も高く、特に“肢体不自由”では39.1%と4割近くになっています。

同じく回答数が10件以上の“知的障害”では「50～59歳」が29.0%と最も高くなっています。

(3) 年収

問3 あなたご本人の年収額をお聞きします。税金等を差し引く前の額でお答えください。
(○はひとつ)

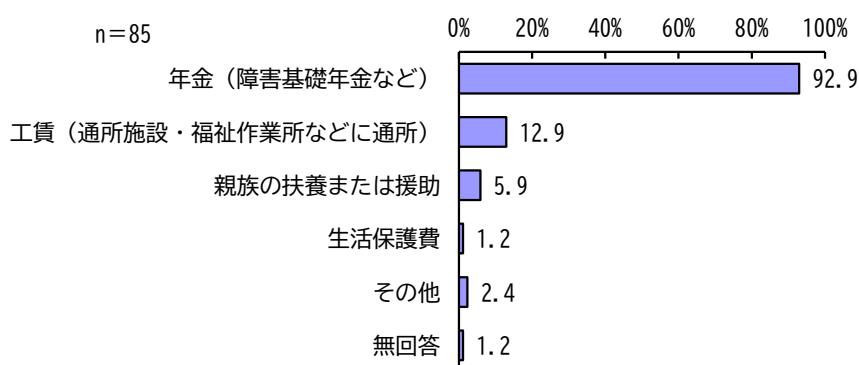


障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」が41.2%と4割を超えて最も高く、次いで「80万円未満」が9.4%となっています。一方、「収入はない」は36.5%と3割半ばを超えており、これらを合わせた『150万円未満』は8割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「80万円以上～150万円未満」が7.5ポイント、「150万円以上～250万円未満」が4.7ポイント上がっており、反対に「80万円未満」が12.4ポイント大きく下がっています。また、「収入はない」は5.8ポイントと5ポイント以上令和元年度より上がっています。

(4) 収入内訳

問4 あなたご本人の主な収入の内訳をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

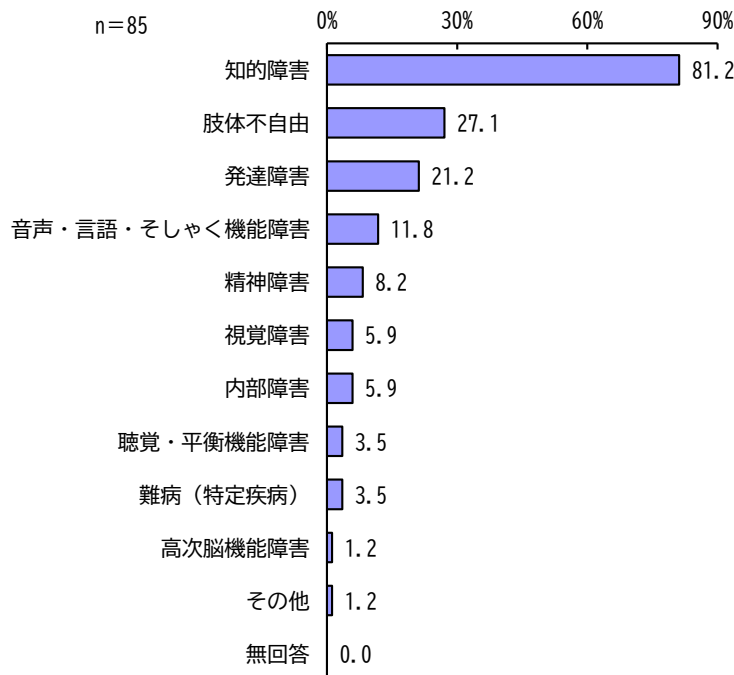


収入の内訳は、「年金 (障害基礎年金など)」が92.9%と9割を超えて最も高く、次いで「工賃 (通所施設・福祉作業所などに通所)」が12.9%、「親族の扶養または援助」が5.9%と続いています。

2 障害の状況について

(1) 障害の種別

問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

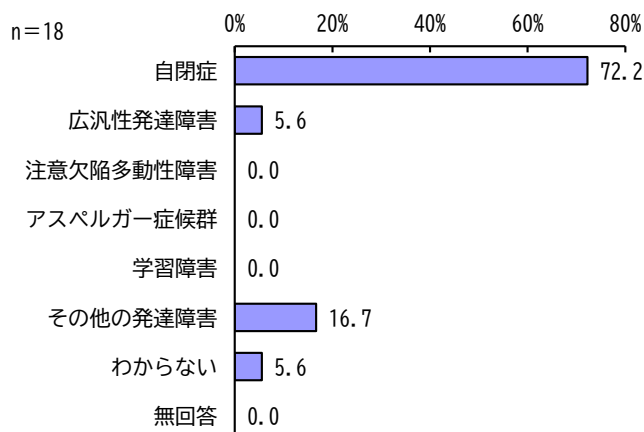


障害の種類は、「知的障害」が 81.2%と8割を超えて最も高く、次いで「肢体不自由」が 27.1%、「発達障害」が 21.2%、「音声・言語・そしゃく機能障害」が 11.8%と続いています。

(2) 発達障害診断名

問5で「発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きします。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。



発達障害の診断名は、「自閉症」が 72.2%と7割を超えており、次いで「その他の発達障害」が 16.7%、「広汎性発達障害」が 5.6%となっています。

(3) 難病疾病名

問5で「難病（特定疾病）」と回答された方にお聞きします

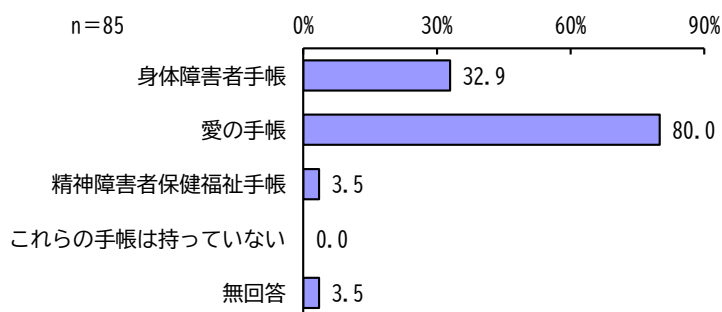
問5-2 病名（東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名）等をお答え下さい。

難病の疾病名は下表の通りです。

疾病名	件数
脊髄性筋萎縮症（SMA）	1
潰瘍性大腸炎	1
ハンチントン病	1

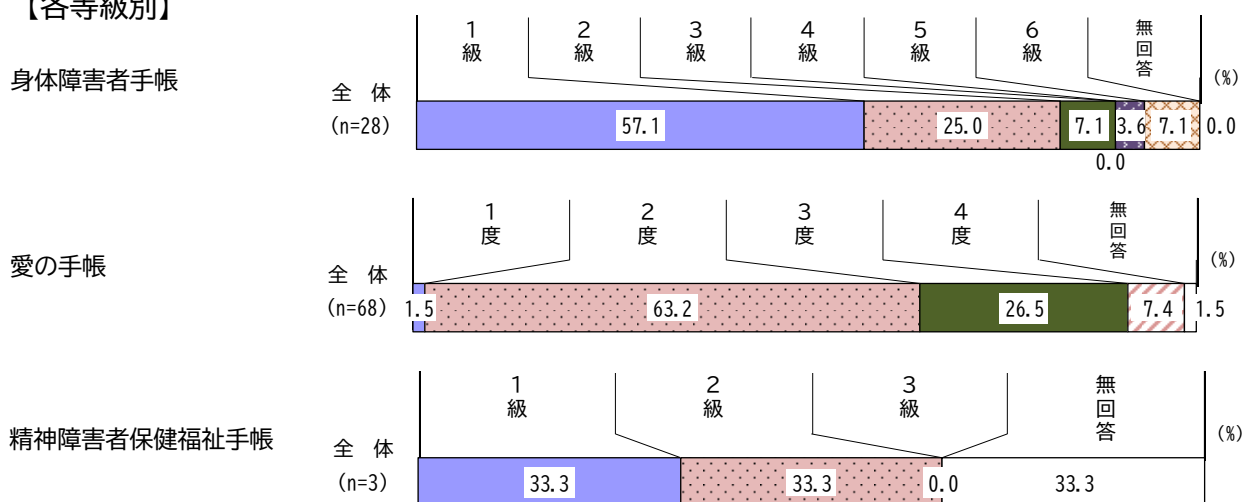
(4) 手帳の種類

問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。（あてはまるものすべてに○）



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が80.0%と約8割と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が32.9%、「精神障害者保健福祉手帳」が3.5%となっています。

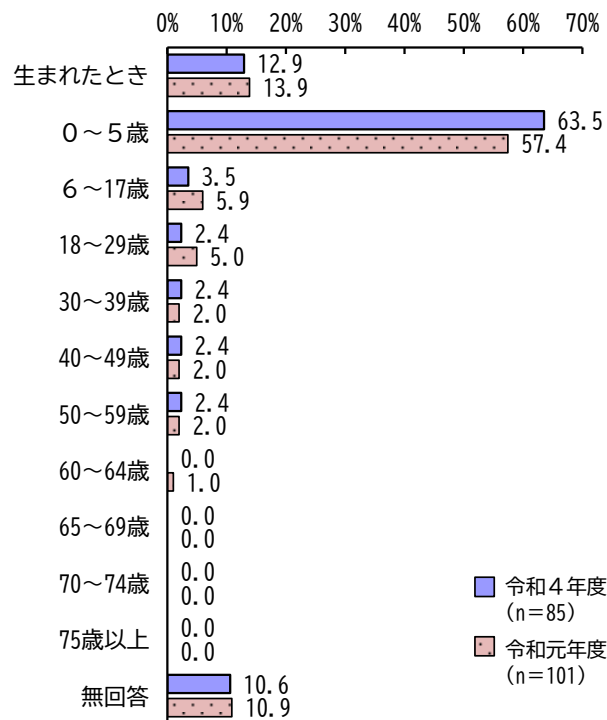
【各等級別】



身体障害者手帳の等級は、「1級」が57.1%と最も高く、次いで「2級」が25.0%と続いています。愛の手帳の等級は、「2度」が63.2%と最も高く、次いで「3度」が26.5%と続いています。精神障害者保健福祉手帳の等級は、「1級」と「2級」が1名ずつの33.3%となっています。

(5) 障害に最初に気づいた時期

問7 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。(○はひとつ)



本人や家族が障害に気づいた時期は、「0～5歳」が63.5%と6割を超えて最も高く、次いで「生まれたとき」が12.9%と、5歳までで全体の7割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「0～5歳」が6.1ポイント、令和元年度より上がっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	生まれたとき	0～5歳	6～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳
全体	85	12.9	63.5	3.5	2.4	2.4	2.4
障害別							
肢体不自由	23	8.7	47.8	4.3	4.3	8.7	8.7
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	40.0	0.0	10.0	0.0	10.0
視覚障害	5	0.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
知的障害	69	13.0	72.5	1.4	1.4	0.0	1.4
発達障害	18	11.1	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害	7	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

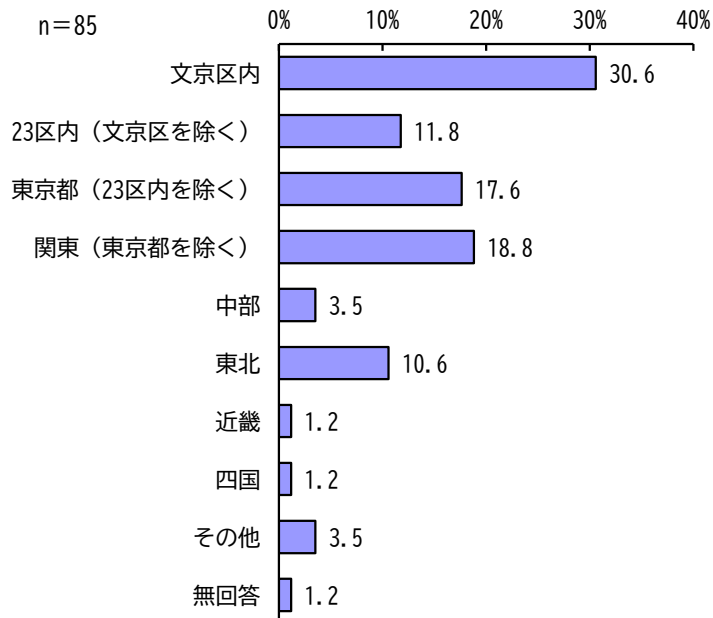
(単位:%)	n	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体	85	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6
障害別							
肢体不自由	23	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0
音声・言語・そしゃく機能障害	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
視覚障害	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
聴覚・平衡機能障害	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
内部障害	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	69	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
発達障害	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
精神障害	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

障害別にみると、“高次脳機能障害”、“難病（特定疾病）”、“その他”以外のいずれの障害でも、「0～5歳」が最も高く、特に“発達障害”は83.3%と8割を超えています。

3 施設入所について

(1) 施設の所在地域

問8 あなたが現在入所している施設のある地域をお聞きます。(○はひとつ)

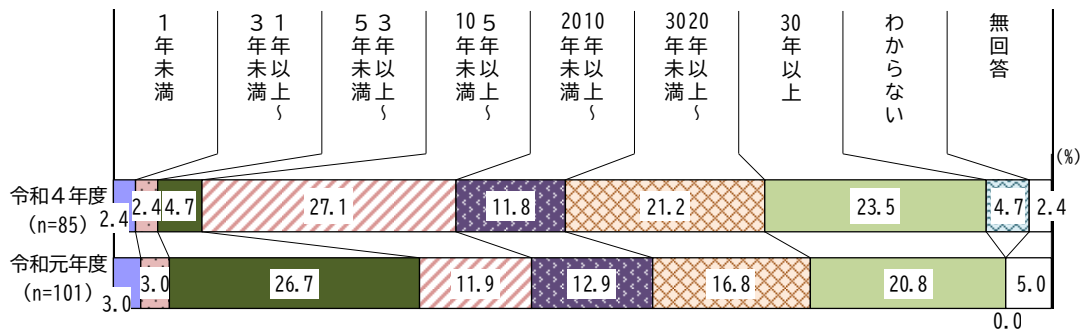


現在入所している施設のある地域は、「文京区内」が30.6%と3割を占めて最も高く、次いで「関東 (東京都を除く)」が18.8%、「東京都 (23区内を除く)」が17.6%と続いています。

関東以外の地域では「東北」が10.6%と唯一1割を超えています。

(2) 施設入所年数

問9 あなたが現在の施設に入所してからの年数をお聞きます (〇はひとつ)



施設入所年数は、「5年以上～10年未満」が27.1%と最も高く、次いで「30年以上」が23.5%、「20年以上～30年未満」が21.2%と2割台が続いています。

令和元年度と比較すると、令和元年度より「3年以上～5年未満」が22.0ポイント下がり、「5年以上～10年未満」が15.2ポイント、「20年以上～30年未満」が4.4ポイント上がっており、5年以上の入所年数の割合は、令和元年度より21.2ポイント大きく上がっています。

【クロス集計】年代別・地域別

(単位:%)		n	1年未満	1年以上 ~ 3年未満	3年以上 ~ 5年未満	5年以上 ~ 10年未満	10年以上 ~ 20年未満	20年以上 ~ 30年未満	30年以上	わからない	無回答
全体		85	2.4	2.4	4.7	27.1	11.8	21.2	23.5	4.7	2.4
年代別	18歳以上40歳未満	6	0.0	0.0	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
	40歳以上65歳未満	54	3.7	1.9	3.7	27.8	11.1	25.9	18.5	5.6	1.9
	65歳以上75歳未満	12	0.0	0.0	8.3	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3	0.0
	75歳以上	9	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2	55.6	0.0	0.0
地域別	文京区内	26	0.0	3.8	7.7	73.1	3.8	3.8	0.0	7.7	0.0
	23区内(文京区を除く)	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	10.0	20.0	10.0
	東京都(23区内を除く)	15	0.0	0.0	6.7	20.0	13.3	33.3	20.0	0.0	6.7
	関東(東京都を除く)	16	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	18.8	56.3	0.0	0.0
関東以外	17	5.9	5.9	5.9	5.9	11.8	23.5	41.2	0.0	0.0	

年代別にみると、「18歳以上40歳未満」と「40歳以上65歳未満」では「5年以上～10年未満」、「65歳以上75歳未満」と「75歳以上」では「30年以上」が最も高くなっています。

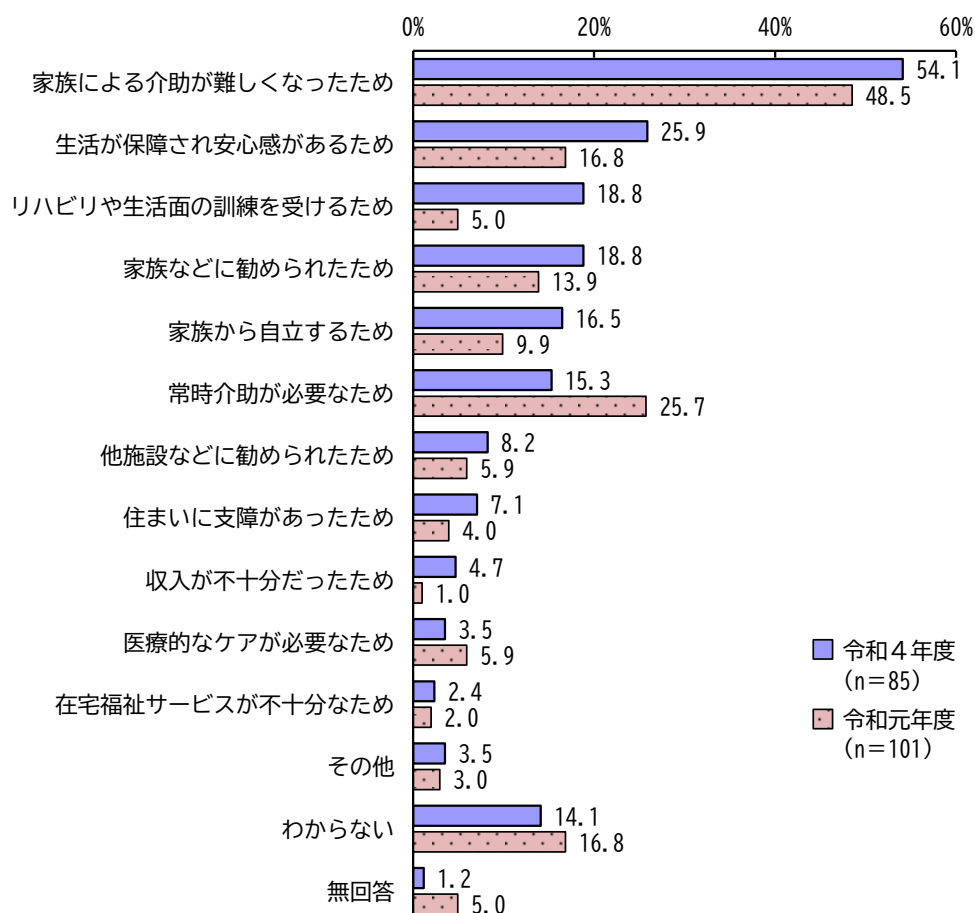
また、「40歳以上65歳未満」では「20年以上～30年未満」が、「65歳以上75歳未満」では「10年以上～20年未満」が2割半ばを超えて、2番目に高くなっています。

地域別にみると、「文京区」では、「5年以上～10年未満」が73.1%と7割を超えて、他の地域より5割以上高くなっています。

「23区内(文京区を除く)」と「東京都(23区内を除く)」では「20年以上～30年未満」、「関東(東京都を除く)」と「関東以外」では「30年以上」が最も高くなっています。

(3) 施設入所の理由

問 10 あなたが現在の施設に入所することに決めた理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)



現在の施設に入所した理由は、「家族による介助が難しくなったため」が 54.1%と 5 割半ば近くで最も高く、次いで「生活が保障され安心感があるため」が 25.9%、「リハビリや生活面の訓練を受けるため」と「家族などに勧められたため」が 18.8%、「家族から自立するため」が 16.5%と続いています。

一方、「わからない」が 14.1%と 1 割半ば近くを占めています。

令和元年度と比較すると、「常時介助が必要なため」が 10.4 ポイント下がっています。

また、「常時介助が必要なため」、「医療的なケアが必要なため」、「わからない」以外の項目はいずれも令和元年度を上回っており、特に「リハビリや生活面の訓練を受けるため」が 13.8 ポイント、「生活が保障され安心感があるため」が 9.1 ポイント上がっています。

【クロス集計】地域別

(単位:%)	n	家族から自立するため	リハビリや生活面の訓練を受けるため	生活が保障され安心感があるため	家族による介助が難しくなったため	常時介助が必要なため	医療的なケアが必要なため	住まいに支障があったため
全体	85	16.5	18.8	25.9	54.1	15.3	3.5	7.1
地域別								
文京区内	26	34.6	38.5	46.2	69.2	11.5	3.8	7.7
23区内(文京区を除く)	10	30.0	30.0	0.0	30.0	20.0	0.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	6.7	6.7	20.0	66.7	13.3	0.0	0.0
関東(東京都を除く)	16	0.0	0.0	25.0	50.0	18.8	12.5	12.5
関東以外	17	5.9	5.9	17.6	41.2	17.6	0.0	5.9

(単位:%)	n	在宅福祉サービスが不十分なため	収入が不十分だったため	家族などに勧められたため	他施設などに勧められたため	その他	わからない	無回答
全体	85	2.4	4.7	18.8	8.2	3.5	14.1	1.2
地域別								
文京区内	26	3.8	11.5	23.1	7.7	3.8	7.7	0.0
23区内(文京区を除く)	10	10.0	10.0	30.0	0.0	0.0	20.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	0.0	0.0	6.7	20.0	0.0	6.7	0.0
関東(東京都を除く)	16	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	25.0	6.3
関東以外	17	0.0	0.0	17.6	11.8	5.9	17.6	0.0

地域別にみると、いずれの地域でも「家族による介助が難しくなったため」が最も高く、特に“文京区内”と“東京都(23区内を除く)”は6割半ばを超えています。

“文京区内”と“23区内(文京区を除く)”では、「家族から自立するため」と「リハビリや生活面の訓練を受けるため」が3割以上で他の地域よりも高くなっています。

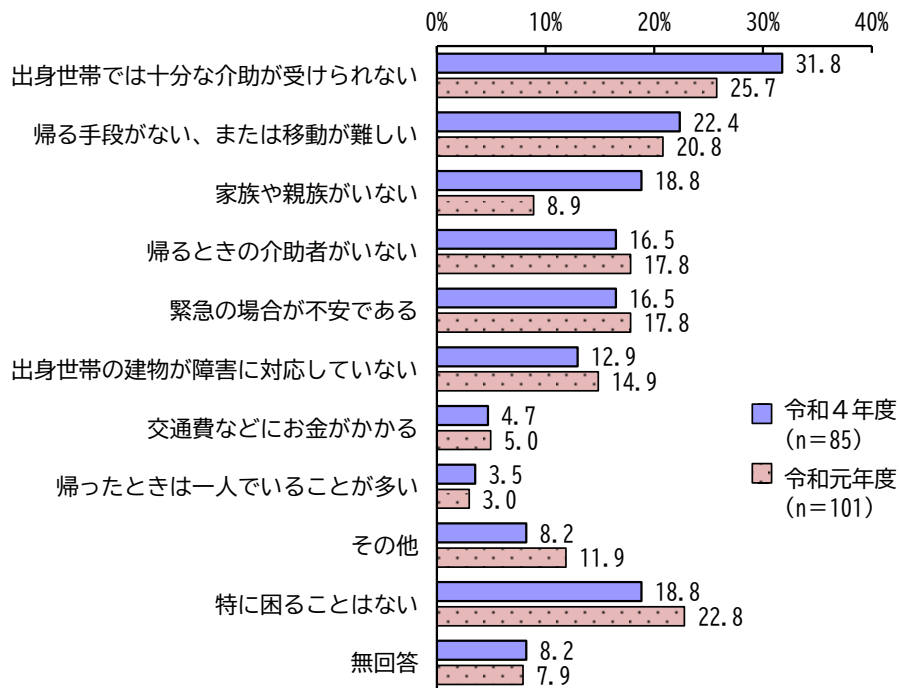
“文京区内”では、「生活が保障され安心感があるため」が46.2%と4割半ばを超えて、他の地域よりも高くなっています。

また、“東京都(23区内を除く)”では、「他施設などに勧められたため」が2割で他の地域よりも高くなっています。

4 施設での生活について

(1) 帰省時の困りごと

問11 あなたが一時、出身世帯（施設に入る前に住んでいた家）に帰るときなどに困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）



出身世帯に一時帰るときの困りごとは、「出身世帯では十分な介助が受けられない」が31.8%と3割を超えて最も高く、次いで「帰る手段がない、または移動が難しい」が22.4%、「家族や親族がいない」が18.8%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は18.8%と1割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「家族や親族がいない」が9.9ポイント、「出身世帯では十分な介助が受けられない」が6.1ポイントと、5ポイント以上令和元年度より上がっています。

【クロス集計】地域別

(単位:%)	n	帰る手段がない、または移動が難しい	帰るときの介助者がいない	交通費などにお金がかかる	出身世帯の建物が障害に対応していない	出身世帯では十分な介助が受けられない	帰ったときは一人であることが多い
全体	85	22.4	16.5	4.7	12.9	31.8	3.5
地域別							
文京区内	26	23.1	26.9	3.8	15.4	46.2	3.8
23区内(文京区を除く)	10	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	40.0	13.3	0.0	20.0	20.0	0.0
関東(東京都を除く)	16	12.5	12.5	6.3	6.3	37.5	0.0
関東以外	17	23.5	17.6	5.9	11.8	23.5	11.8

(単位:%)	n	家族や親族がいない	緊急の場合が不安である	その他	特に困ることはない	無回答
全体	85	18.8	16.5	8.2	18.8	8.2
地域別						
文京区内	26	15.4	30.8	0.0	23.1	0.0
23区内(文京区を除く)	10	10.0	0.0	40.0	20.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	26.7	13.3	6.7	13.3	13.3
関東(東京都を除く)	16	18.8	6.3	6.3	25.0	12.5
関東以外	17	23.5	17.6	5.9	11.8	17.6

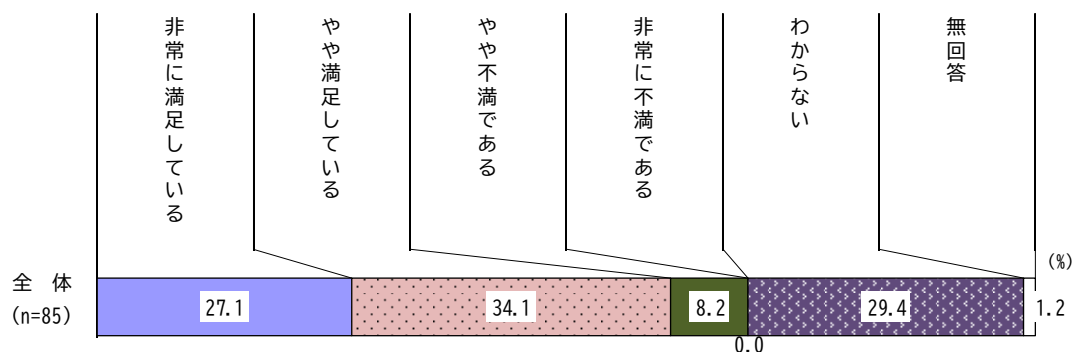
地域別にみると、“東京都（23 区内を除く）”を除くと、いずれの地域でも「出身世帯では十分な介助が受けられない」が最も高く、特に“文京区内”では46.2%と4割半ばを超えています。

“東京都（23 区内を除く）”では、「帰る手段がない、または移動が難しい」が40.0%と4割で、他の地域よりも高くなっています。

また、“関東以外”では、「帰る手段がない、または移動が難しい」、「出身世帯では十分な介助が受けられない」、「家族や親族がいない」がいずれも23.5%と、最も高くなっています。

(2) 施設生活の満足度

問 12 あなたは、施設での生活に満足していますか。(○はひとつ)



施設生活の満足度は、「非常に満足している」が27.1%、「やや満足している」が34.1%となっており、二つ合わせた『満足している』は61.2%と6割を超えています。反対に「やや不満である」は8.2%となっています。

一方、「わからない」が29.4%と約3割を占めています。

【クロス集計】年代別

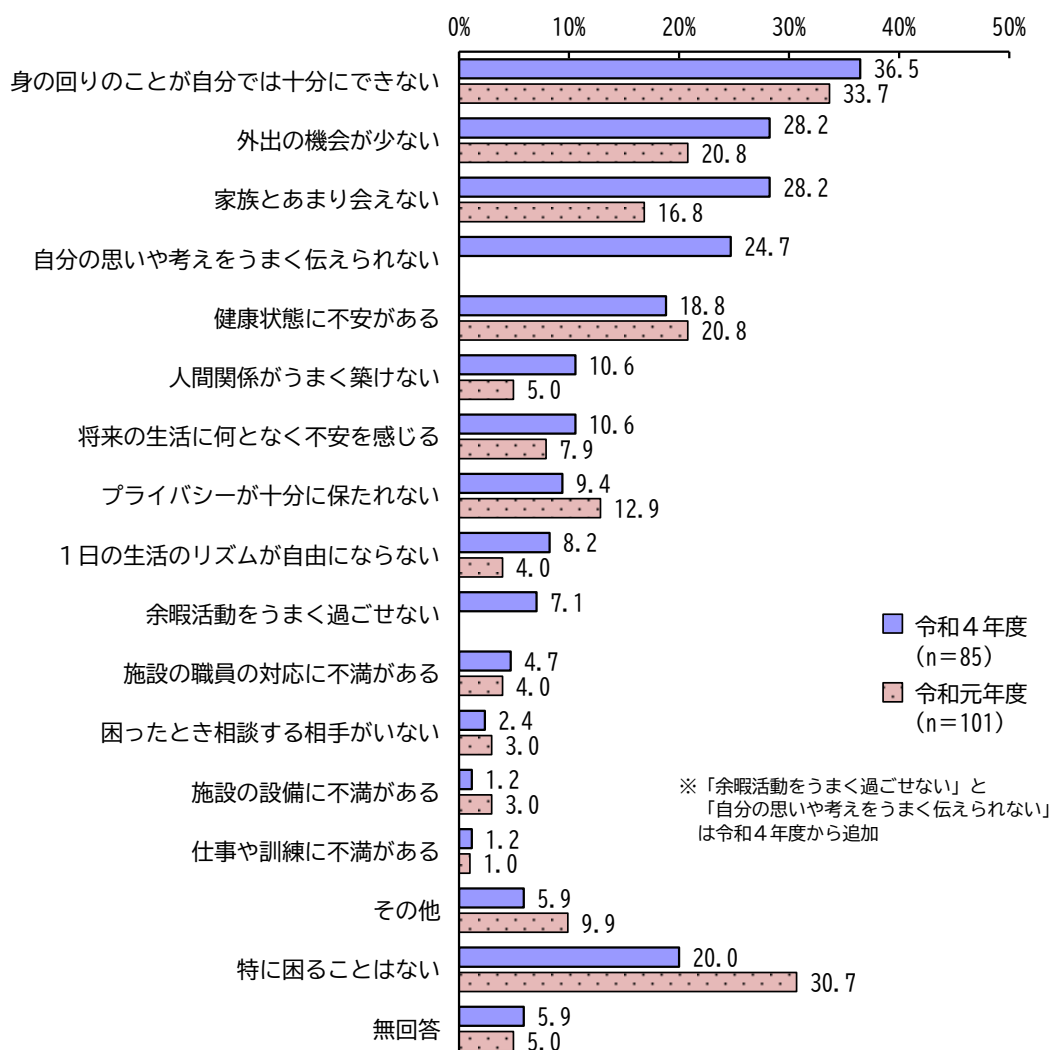
(単位:%)	n	非常に満足している	やや満足している	やや不満である	非常に不満である	わからない	無回答
全体	85	27.1	34.1	8.2	0.0	29.4	1.2
18歳以上40歳未満	6	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
40歳以上65歳未満	54	22.2	38.9	9.3	0.0	27.8	1.9
65歳以上75歳未満	12	33.3	33.3	8.3	0.0	25.0	0.0
75歳以上	9	44.4	11.1	11.1	0.0	33.3	0.0

年代別にみると、いずれの年代も「非常に満足している」か「やや満足している」が最も高くなっています。

また、「わからない」はいずれの年代でも2割半ばを超えています。

(3) 現在の生活での困りごと

問13 あなたが現在の暮らしの中で、困ることや不安に感じていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)



現在の生活での困りごとは、「身回りのことが自分では十分にできない」が 36.5%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「外出の機会が少ない」と「家族とあまり会えない」がともに 28.2%、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が 24.7%と2割を超えて続いています。

一方、「特に困ることはない」は 20.0%と2割を占めています。

令和元年度と比較すると、「家族とあまり会えない」が 11.4 ポイント、「外出の機会が少ない」が 7.4 ポイント、「人間関係がうまく築けない」が 5.6 ポイントと5ポイント以上、令和元年度より上がっています。反対に「特に困ることはない」が 10.7 ポイント下がっています。

【クロス集計】地域別

	n	身の回りのことが自分では十分にできない	健康状態に不安がある	プライバシーが十分に保たれない	1日の生活のリズムが自由にならない	施設の設備に不満がある	仕事や訓練に不満がある	外出の機会が少ない	施設の職員の対応に不満がある	人間関係がうまく築けない
(単位:%)										
全体	85	36.5	18.8	9.4	8.2	1.2	1.2	28.2	4.7	10.6
地域別										
文京区内	26	61.5	23.1	11.5	15.4	3.8	3.8	46.2	3.8	7.7
23区内(文京区を除く)	10	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	26.7	6.7	26.7	13.3	0.0	0.0	40.0	6.7	13.3
関東(東京都を除く)	16	25.0	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3
関東以外	17	23.5	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	5.9	17.6

	n	余暇活動をうまく過ごせない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない	家族とあまり会えない	将来の生活に何となく不安を感じる	その他	特に困ることはない	無回答
(単位:%)									
全体	85	7.1	2.4	24.7	28.2	10.6	5.9	20.0	5.9
地域別									
文京区内	26	15.4	3.8	30.8	46.2	15.4	7.7	7.7	3.8
23区内(文京区を除く)	10	0.0	0.0	20.0	10.0	20.0	10.0	40.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	6.7	6.7	26.7	33.3	20.0	13.3	13.3	0.0
関東(東京都を除く)	16	6.3	0.0	31.3	25.0	0.0	0.0	18.8	12.5
関東以外	17	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0	29.4	11.8

地域別にみると、「文京区内」、「23区内(文京区を除く)」、「関東以外」では、「身の回りのことが自分では十分にできない」が最も高く、特に「文京区内」では61.5%と6割を超えています。

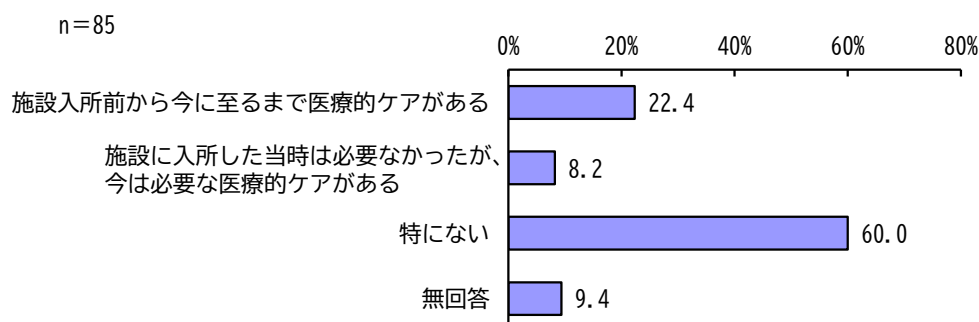
「文京区内」と「東京都(23区内を除く)」では「外出の機会が少ない」が4割以上と他の地域よりも高くなっています。

「文京区内」と「関東(東京都を除く)」では、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が3割を超えて高くなっています。

また、「文京区内」では、「家族とあまり会えない」も46.2%と4割半ばを超えて、他の地域よりも高くなっています。

(4) 医療的ケアの有無

問14 あなたが必要とする医療的ケアがありますか。(あてはまるものすべてに○)

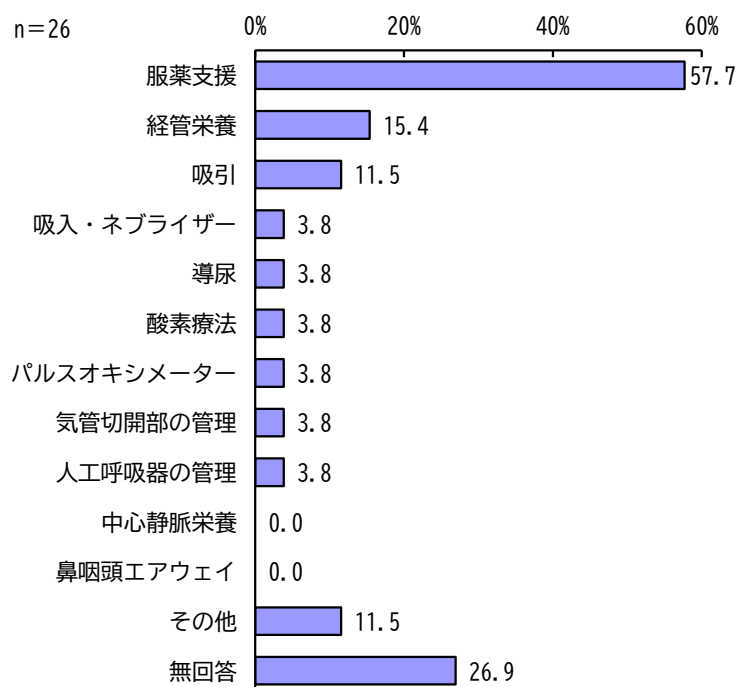


医療的ケアの有無は、「施設入所前から今に至るまで医療的ケアがある」が22.4%、「施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある」が8.2%となっており、「特になし」は60.0%と6割を占めています。

(5) 必要な医療的ケア

問 14 で「必要な医療的ケアがある」と回答された方にお聞きします。

問 15 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。(あてはまるものすべてに○)



必要とする医療的ケアは、「服薬支援」が 57.7%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「経管栄養」が 15.4%、「吸引」が 11.5%と続いています。それ以外の項目はいずれも1割を下回っています。

【クロス集計】年代別

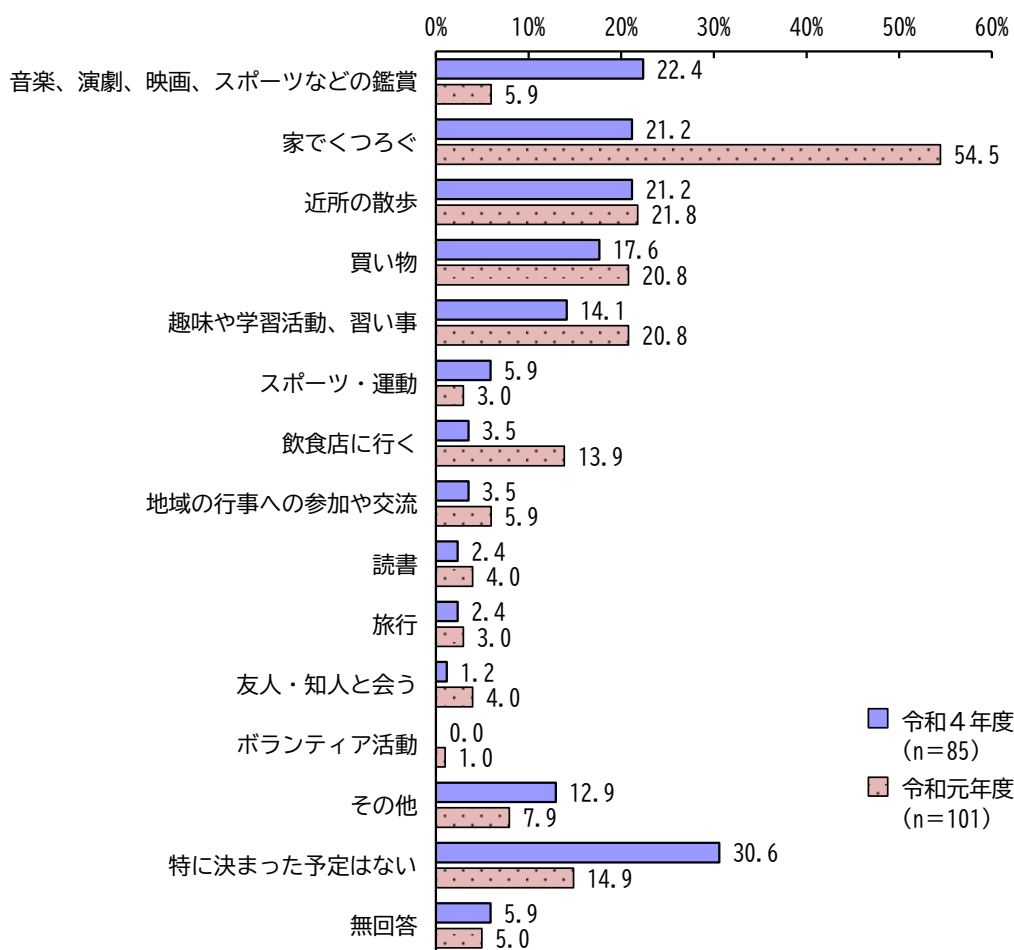
(単位:%)	n	服薬支援	吸引	吸入・ネブライザー	経管栄養	中心静脈栄養	導尿	酸素療法
全体	26	57.7	11.5	3.8	15.4	0.0	3.8	3.8
18歳以上40歳未満	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳以上65歳未満	15	53.3	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7
65歳以上75歳未満	4	75.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
75歳以上	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	鼻咽頭エアウェイ	パルスオキシメーター	気管切開部の管理	人工呼吸器の管理	その他	無回答
全体	26	0.0	3.8	3.8	3.8	11.5	26.9
18歳以上40歳未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳以上65歳未満	15	0.0	6.7	6.7	6.7	13.3	33.3
65歳以上75歳未満	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
75歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

年代別にみると、いずれの年代でも「服薬支援」が5割以上で最も高くなっています。

(6) 休日等の過ごし方

問 16 あなたは、休日など時間に余裕があるとき、主にどのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



休日等の過ごし方は、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」が 22.4%と最も高く、次いで「近所の散歩」が 21.8%、「家でくつろぐ」と「近所の散歩」がともに 21.2%と2割台が続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 30.6%と3割を占めています。

令和元年度と比較すると、「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」が 16.5 ポイント上がっていますが、「その他」と「特に決まった予定はない」を除く 12 項目中 10 項目で令和元年度より下がっており、特に「家でくつろぐ」が 33.3 ポイント、「飲食店に行く」が 10.4 ポイントと 10 ポイント以上下がっている一方、「特に決まった予定はない」は 15.7 ポイント上がっています。

【クロス集計】地域別

	n	趣味や学 習活動、習 い事	スポーツ・ 運動	ボランティ ア活動	友人・知人 と会う	音楽、演 劇、映画、 スポーツな どの鑑賞	買い物	飲食店に 行く	読書
(単位:%)									
全体	85	14.1	5.9	0.0	1.2	22.4	17.6	3.5	2.4
地域別									
文京区内	26	11.5	3.8	0.0	0.0	19.2	3.8	0.0	3.8
23区内(文京区を除く)	10	20.0	10.0	0.0	0.0	30.0	40.0	10.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	13.3	6.7	0.0	0.0	33.3	26.7	13.3	0.0
関東(東京都を除く)	16	25.0	0.0	0.0	6.3	12.5	18.8	0.0	6.3
関東以外	17	5.9	11.8	0.0	0.0	17.6	17.6	0.0	0.0

	n	旅行	家でくつ ろぐ	地域の行 事への参 加や交流	近所の散 歩	その他	特に決 まった予 定はない	無回答
(単位:%)								
全体	85	2.4	21.2	3.5	21.2	12.9	30.6	5.9
地域別								
文京区内	26	0.0	19.2	7.7	30.8	11.5	30.8	3.8
23区内(文京区を除く)	10	0.0	20.0	10.0	10.0	30.0	20.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	13.3	20.0	0.0	13.3	6.7	40.0	0.0
関東(東京都を除く)	16	0.0	31.3	0.0	25.0	6.3	31.3	6.3
関東以外	17	0.0	17.6	0.0	17.6	17.6	29.4	17.6

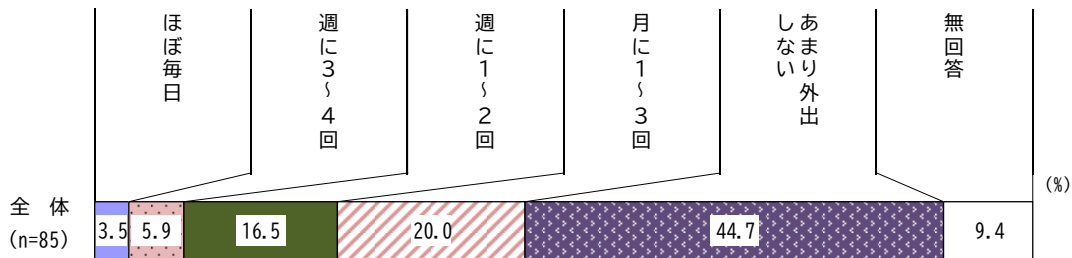
地域別にみると、「文京区内」では「近所の散歩」が30.8%と3割、「23区内(文京区を除く)」では「買い物」が40.0%と4割に達し、他の地域よりも高くなっています。

「23区内(文京区を除く)」と「東京都(23区内を除く)」では「音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞」が3割以上と高くなっています。

「関東(東京都を除く)」では、「家でくつろぐ」が31.3%と最も高くなっています。

(7) 外出の頻度

問17 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)

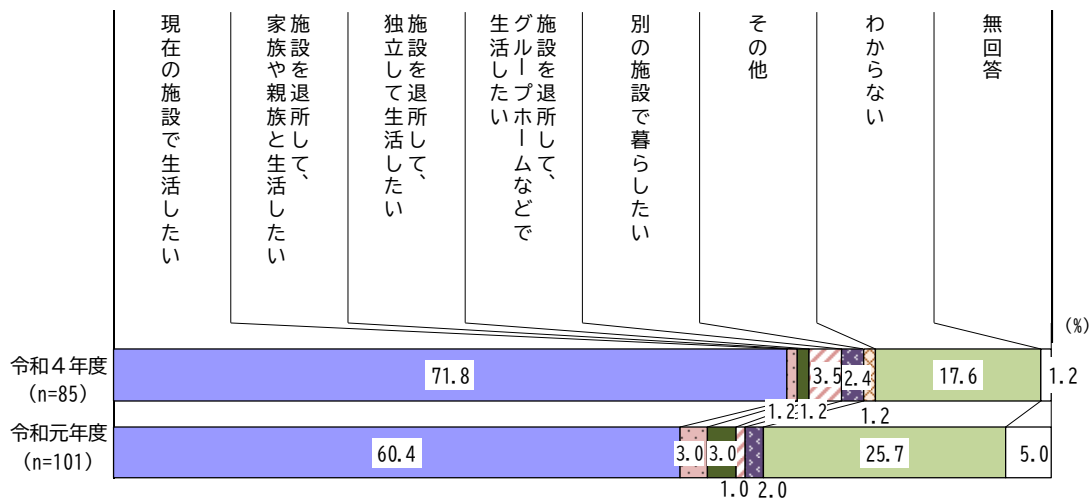


外出の頻度は、「あまり外出しない」が44.7%と4割半ばを占めて最も高く、次いで「月に1~3回」が20.0%、「週に1~2回」が16.5%と続いています。

5 今後の暮らし方について

(1) 今後希望する生活

問 18 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(〇はひとつ)



今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が71.8%と7割を超えて最も高く、次いで「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が3.5%、「別の施設で暮らしたい」が2.4%と続いています。

一方、「わからない」は17.6%と1割半ばを超えています。

令和元年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が11.4ポイント上がっており、反対に「わからない」が8.1ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別

	n	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	85	71.8	1.2	1.2	3.5	2.4	1.2	17.6	1.2
年代別									
18歳以上40歳未満	6	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0
40歳以上65歳未満	54	72.2	1.9	1.9	3.7	1.9	1.9	14.8	1.9
65歳以上75歳未満	12	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
75歳以上	9	66.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、“40歳以上65歳未満”で7割、“65歳以上75歳未満”で8割を超えています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

	n	現在の施設で生活したい	施設を退所して、家族や親族と生活したい	施設を退所して、独立して生活したい	施設を退所して、グループホームなどで生活したい	別の施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
(単位:%)									
全体	85	71.8	1.2	1.2	3.5	2.4	1.2	17.6	1.2
地域別	文京区内	26	88.5	0.0	3.8	0.0	0.0	7.7	0.0
	23区内(文京区を除く)	10	70.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
	東京都(23区内を除く)	15	53.3	0.0	0.0	13.3	6.7	6.7	20.0
	関東(東京都を除く)	16	56.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
	関東以外	17	76.5	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9
入所年数別	1年未満	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1年以上～3年未満	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	3年以上～5年未満	4	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	5年以上～10年未満	23	78.3	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	8.7
	10年以上～20年未満	10	60.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	30.0
	20年以上～30年未満	18	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1
	30年以上	20	70.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	20.0

地域別にみると、いずれの地域でも「現在の施設で生活したい」が最も高く、特に“文京区内”では88.5%と9割近くで、他の地域よりも高くなっています。

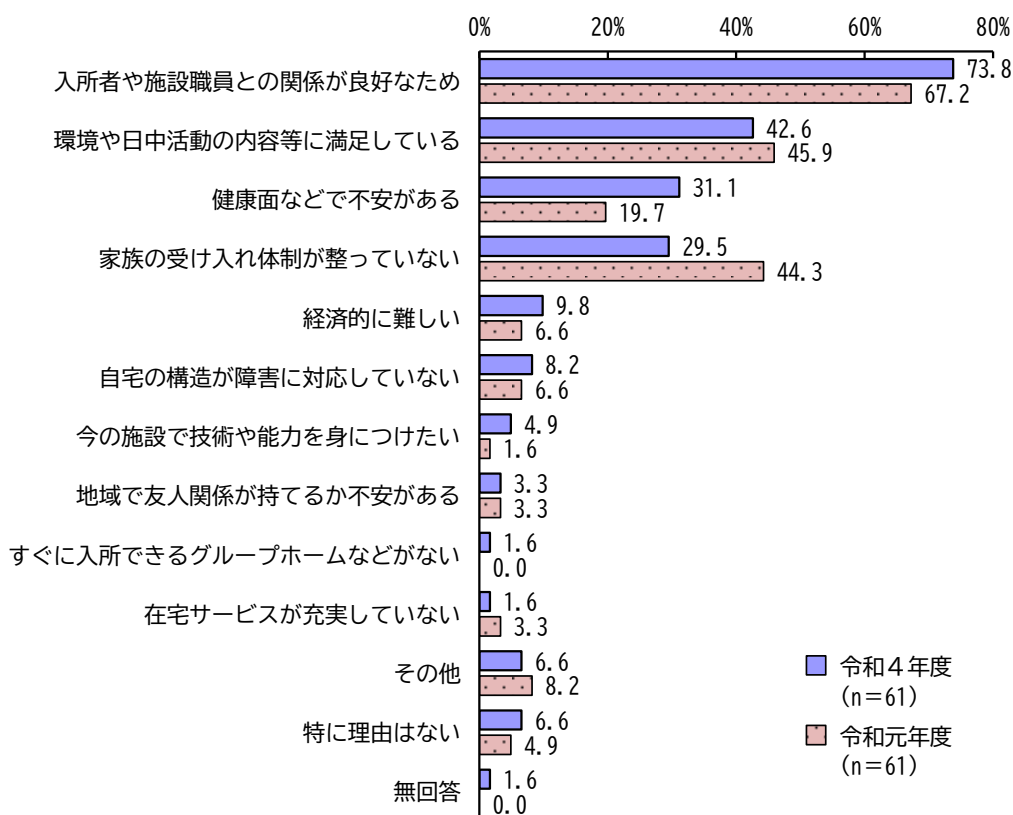
“東京都(23区内を除く)”では、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が13.3%と、他の地域よりも高くなっています。

入所年数別にみると、回答数が10件以上のいずれの入所年数でも「現在の施設で生活したい」6割以上で最も高くなっています。

(2) 現在の施設で生活し続けたい理由

問 18 で「現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。

問 18-1 現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



現在の施設で生活し続けたい理由は、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 73.8%と7割を超えて最も高く、次いで「環境や日中活動の内容等に満足している」が 42.6%、「健康面などで不安がある」が 31.1%、「家族の受け入れ体制が整っていない」が 29.5%と続いています。

一方、「特に理由はない」は 6.6%となっています。

令和元年度と比較すると、「健康面などで不安がある」が 11.4 ポイント、「入所者や施設職員との関係が良好なため」が 6.6 ポイントと 5 ポイント以上、令和元年度より上がっており、反対に「家族の受け入れ体制が整っていない」が 14.8 ポイント下がっています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

(単位:%)		n	入所者や施設職員との関係が良好なため	環境や日中活動の内容等に満足している	今の施設で技術や能力を身につけたい	すぐに入所できるグループホームなどがない	在宅サービスが充実していない	自宅の構造が障害に対応していない	健康面などで不安がある
全体	61	73.8	42.6	4.9	1.6	1.6	8.2	31.1	
地域別	文京区内	23	87.0	56.5	4.3	4.3	4.3	13.0	34.8
	23区内（文京区を除く）	7	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
	東京都（23区内を除く）	8	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0
	関東（東京都を除く）	9	77.8	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	関東以外	13	84.6	46.2	0.0	0.0	0.0	7.7	38.5
入所年数別	1年未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	1年以上～3年未満	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	2	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0
	5年以上～10年未満	18	88.9	66.7	11.1	0.0	5.6	11.1	38.9
	10年以上～20年未満	6	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	20年以上～30年未満	15	60.0	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	26.7
	30年以上	14	71.4	35.7	0.0	0.0	0.0	7.1	35.7

(単位:%)		n	経済的に難しい	家族の受け入れ体制が整っていない	地域で友人関係が持てるか不安がある	その他	特に理由はない	無回答
全体	61	9.8	29.5	3.3	6.6	6.6	1.6	
地域別	文京区内	23	17.4	30.4	4.3	0.0	4.3	0.0
	23区内（文京区を除く）	7	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
	東京都（23区内を除く）	8	0.0	25.0	0.0	37.5	12.5	0.0
	関東（東京都を除く）	9	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1
	関東以外	13	15.4	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0
入所年数別	1年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	1年以上～3年未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上～5年未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5年以上～10年未満	18	16.7	33.3	5.6	0.0	0.0	0.0
	10年以上～20年未満	6	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	20年以上～30年未満	15	6.7	26.7	0.0	13.3	13.3	0.0
	30年以上	14	7.1	35.7	7.1	7.1	0.0	7.1

地域別にみると、「東京都（23区内を除く）」を除くいずれの地域でも「入所者や施設職員との関係が良好なため」が5割を超えて最も高く、特に「文京区内」と「関東以外」では8割を超えています。

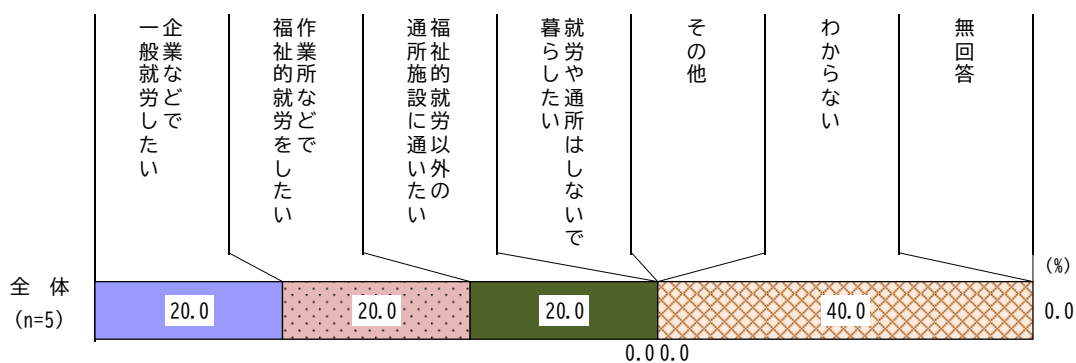
また「文京区内」と「関東以外」では、「環境や日中活動の内容等に満足している」、「健康面などで不安がある」、「家族の受け入れ体制が整っていない」が3割を超えて高くなっています。

入所年数別にみると、いずれの入所年数でも「入所者や施設職員との関係が良好なため」が5割以上で最も高くなっています。

また、回答数が10件以上の年数では、「環境や日中活動の内容等に満足している」、「健康面などで不安がある」、「家族の受け入れ体制が整っていない」が2割を超えて高くなっています。

(3) 施設退所後の暮らし方の希望

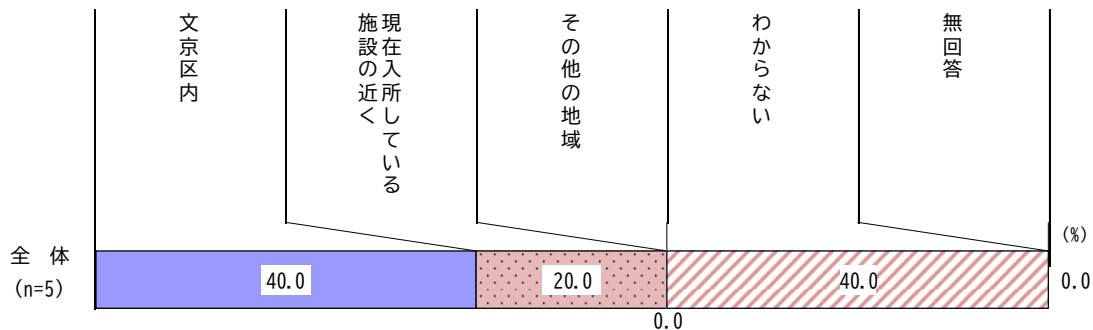
問 18 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。
 問 18-2 地域でどのような暮らし方をしたいと思いますか。(○はひとつ)



施設退所後、地域での暮らし方の希望については、「わからない」が 40.0%と 4 割を占めています。

(4) 施設退所後の居住地の希望

問 18 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。
 問 18-3 退所後はどの地域で暮らしたいと思いますか。(○はひとつ)

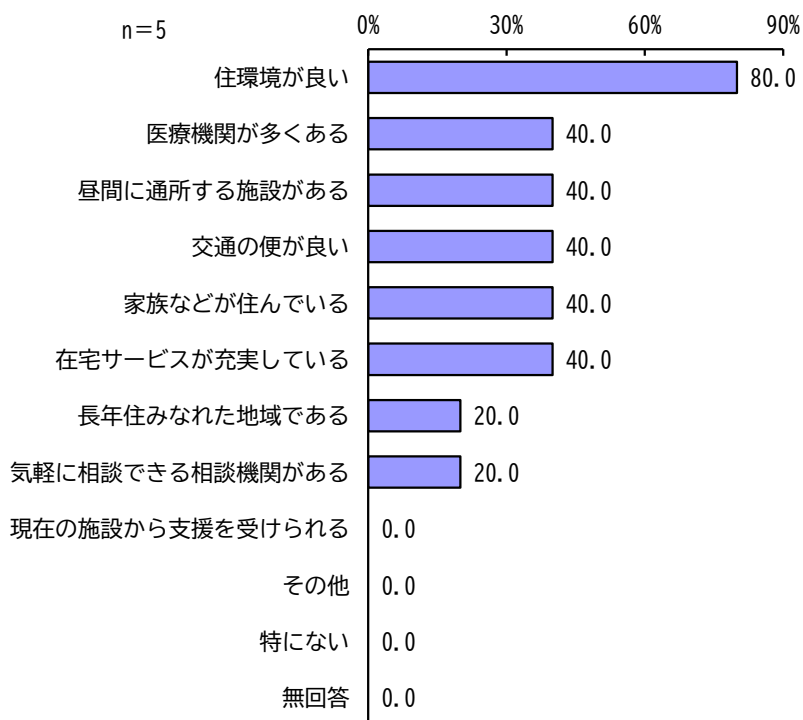


施設退所後の居住地の希望については、「文京区内」が 40.0%と 4 割を占めている一方、「わからない」も 40.0%となっています。

(5) 施設退所後に地域に望むこと

問 18 で「施設を退所したい」と回答された方にお聞きします。

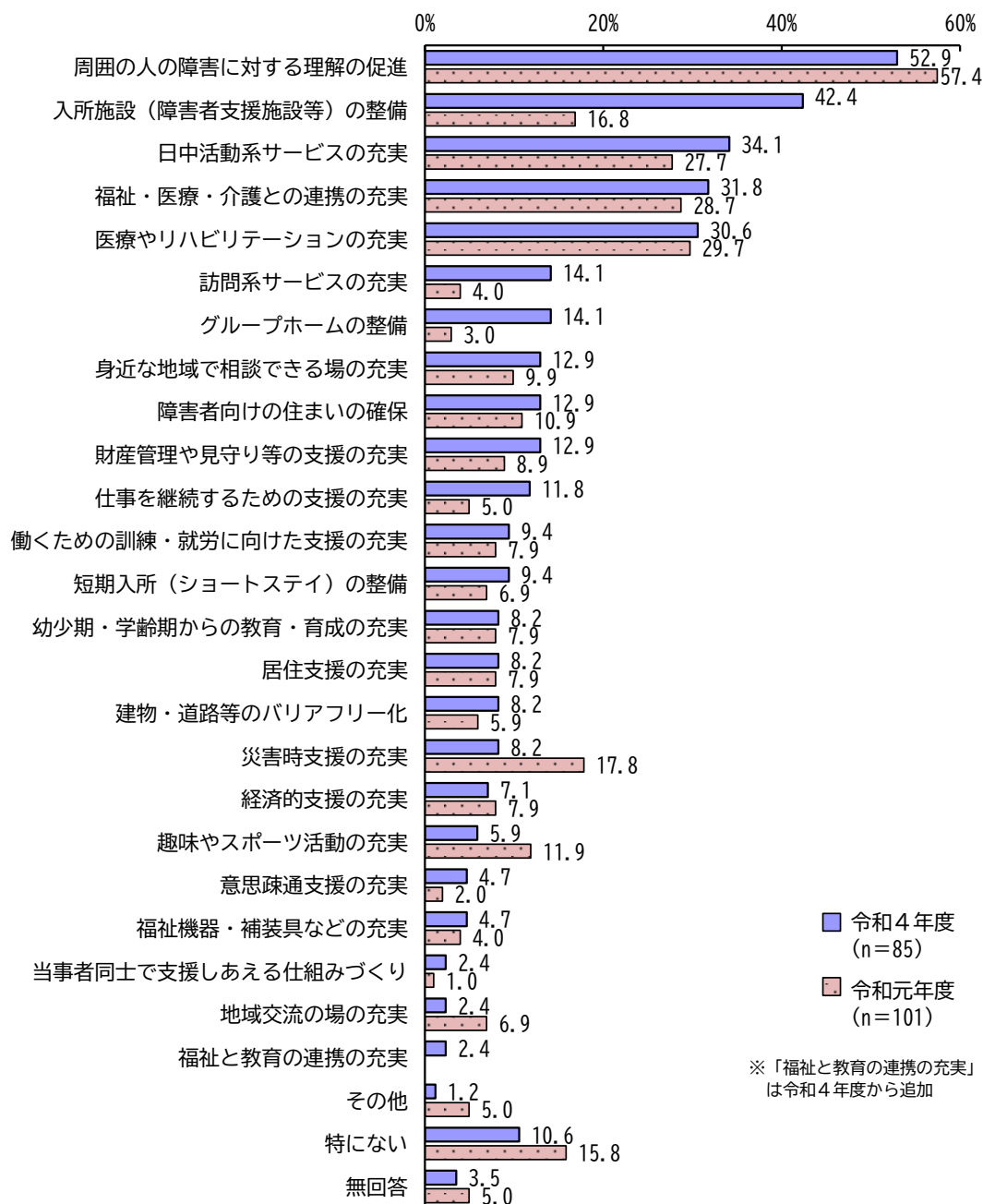
問 18-4 退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



施設退所後、居住地域に望むことは、「住環境が良い」が 80.0%と最も高く、次いで「医療機関が多くある」、「昼間に通所する施設がある」、「交通の便が良い」、「家族などが住んでいる」、「在宅サービスが充実している」がいずれも 40.0%と続いています。

(6) 地域で安心して暮らすために重要な施策

問 19 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(〇は5つまで)



地域で安心して暮らすために重要な施策は、「周囲の人の障害に対する理解の促進」が52.9%と5割を超えて最も高く、次いで「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が42.4%、「日中活動系サービスの充実」が34.1%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が31.8%、「医療やリハビリテーションの充実」が30.6%と3割を超えて続いています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除く24項目中19項目で令和元年度を上回っており、特に「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が25.6ポイント、「グループホームの整備」が11.1ポイント、「訪問系サービスの充実」が10.1ポイントと10ポイント以上上がっています。

【クロス集計】地域別

	n	周囲の人の障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
(単位:%)								
全体	85	52.9	30.6	8.2	9.4	11.8	12.9	14.1
地域別								
文京区内	26	65.4	38.5	11.5	7.7	7.7	7.7	7.7
23区内(文京区を除く)	10	40.0	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	66.7	40.0	0.0	6.7	20.0	13.3	13.3
関東(東京都を除く)	16	50.0	18.8	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8
関東以外	17	29.4	35.3	11.8	17.6	17.6	17.6	23.5

	n	日中活動系サービス(生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等)の充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設(障害者支援施設等)の整備	障害者向けの住まいの確保
(単位:%)								
全体	85	34.1	9.4	4.7	4.7	14.1	42.4	12.9
地域別								
文京区内	26	46.2	7.7	0.0	7.7	11.5	61.5	7.7
23区内(文京区を除く)	10	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	20.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	33.3	13.3	13.3	0.0	13.3	33.3	13.3
関東(東京都を除く)	16	25.0	12.5	6.3	6.3	18.8	37.5	0.0
関東以外	17	35.3	5.9	5.9	5.9	11.8	35.3	35.3

	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
(単位:%)								
全体	85	8.2	8.2	2.4	5.9	12.9	7.1	8.2
地域別								
文京区内	26	7.7	7.7	0.0	3.8	15.4	15.4	15.4
23区内(文京区を除く)	10	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	20.0	0.0	6.7	13.3	13.3	0.0	0.0
関東(東京都を除く)	16	6.3	12.5	0.0	0.0	12.5	6.3	12.5
関東以外	17	5.9	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	0.0

	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	その他	特になし	無回答
(単位:%)							
全体	85	2.4	31.8	2.4	1.2	10.6	3.5
地域別							
文京区内	26	3.8	26.9	0.0	0.0	0.0	3.8
23区内(文京区を除く)	10	0.0	30.0	0.0	0.0	40.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	6.7	33.3	13.3	0.0	0.0	6.7
関東(東京都を除く)	16	0.0	31.3	0.0	0.0	25.0	0.0
関東以外	17	0.0	35.3	0.0	5.9	5.9	5.9

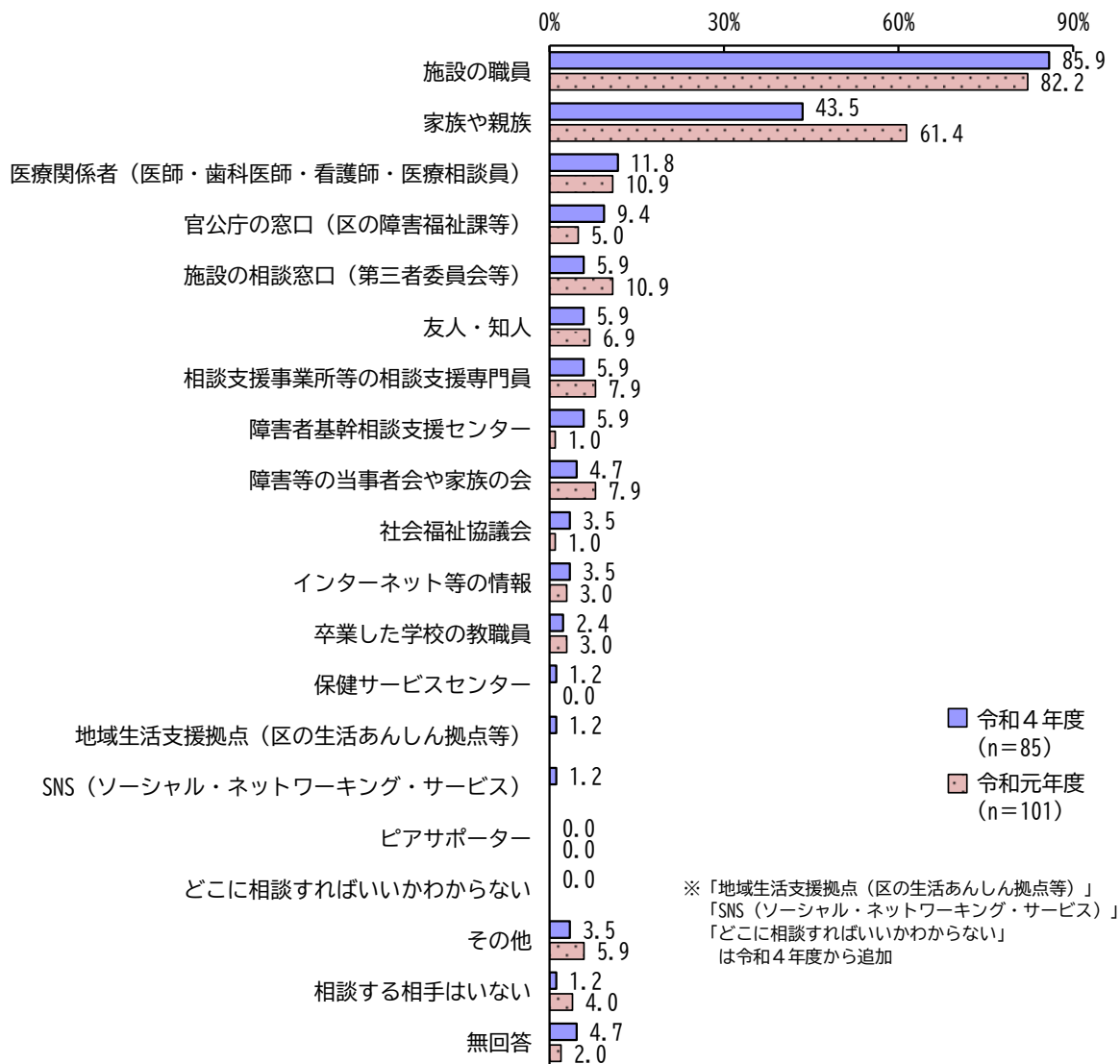
地域別にみると、“関東以外”を除くいずれの地域でも「周囲の人の障害に対する理解の促進」が4割以上で最も高く、特に“文京区内”と“東京都(23区内を除く)”では6割を超えています。

また、「福祉・医療・介護との連携の充実」はいずれの地域でも2割半ばを超えています。また、“文京区内”では、「日中活動系サービスの充実」が46.2%、「入所施設(障害者支援施設等)の整備」が61.5%と、他の地域よりも高くなっています。

6 相談や福祉の情報について

(1) 困ったときの相談相手

問 20 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



困ったときの相談相手は、「施設の職員」が 85.9%と 8割半ばで最も高く、次いで「家族や親族」が43.5%、「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が11.8%と続いており、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「相談する相手がいない」は1.2%となっています。

令和元年度と比較すると、「家族や親族」が17.9ポイント令和元年度より下がっており、「施設の相談窓口 (第三者委員会等)」も5.0ポイント下がっています。

【クロス集計】地域別・入所年数別

	n	家族や親族	施設の職員	施設の相談窓口(第三者委員会等)	友人・知人	ピアサポーター	卒業した学校の教職員	障害等の当事者会や家族の会
(単位:%)								
全体	85	43.5	85.9	5.9	5.9	0.0	2.4	4.7
地域別								
文京区内	26	73.1	76.9	3.8	15.4	0.0	3.8	7.7
23区内(文京区を除く)	10	40.0	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	33.3	80.0	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0
関東(東京都を除く)	16	31.3	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3
関東以外	17	23.5	94.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入所年数別								
1年未満	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
1年以上~3年未満	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3年以上~5年未満	4	25.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5年以上~10年未満	23	73.9	73.9	4.3	13.0	0.0	4.3	8.7
10年以上~20年未満	10	10.0	90.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
20年以上~30年未満	18	38.9	83.3	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0
30年以上	20	40.0	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0

	n	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)	官公庁の窓口(区の障害福祉課等)	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	地域生活支援拠点(区的生活あんしん拠点等)	社会福祉協議会
(単位:%)								
全体	85	5.9	11.8	9.4	1.2	5.9	1.2	3.5
地域別								
文京区内	26	0.0	19.2	15.4	3.8	7.7	3.8	3.8
23区内(文京区を除く)	10	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0
東京都(23区内を除く)	15	13.3	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7
関東(東京都を除く)	16	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
関東以外	17	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0
入所年数別								
1年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1年以上~3年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3年以上~5年未満	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
5年以上~10年未満	23	0.0	21.7	17.4	4.3	8.7	4.3	4.3
10年以上~20年未満	10	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20年以上~30年未満	18	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0	5.6
30年以上	20	5.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0

	n	インターネット等の情報	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手はいない	無回答
(単位:%)							
全体	85	3.5	1.2	0.0	3.5	1.2	4.7
地域別							
文京区内	26	7.7	0.0	0.0	3.8	0.0	3.8
23区内(文京区を除く)	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東京都(23区内を除く)	15	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7	6.7
関東(東京都を除く)	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
関東以外	17	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9
入所年数別							
1年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1年以上~3年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3年以上~5年未満	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5年以上~10年未満	23	8.7	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7
10年以上~20年未満	10	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
20年以上~30年未満	18	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6
30年以上	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0

地域別にみると、いずれの地域でも「施設の職員」が7割半ばを超えて最も高くなっています。

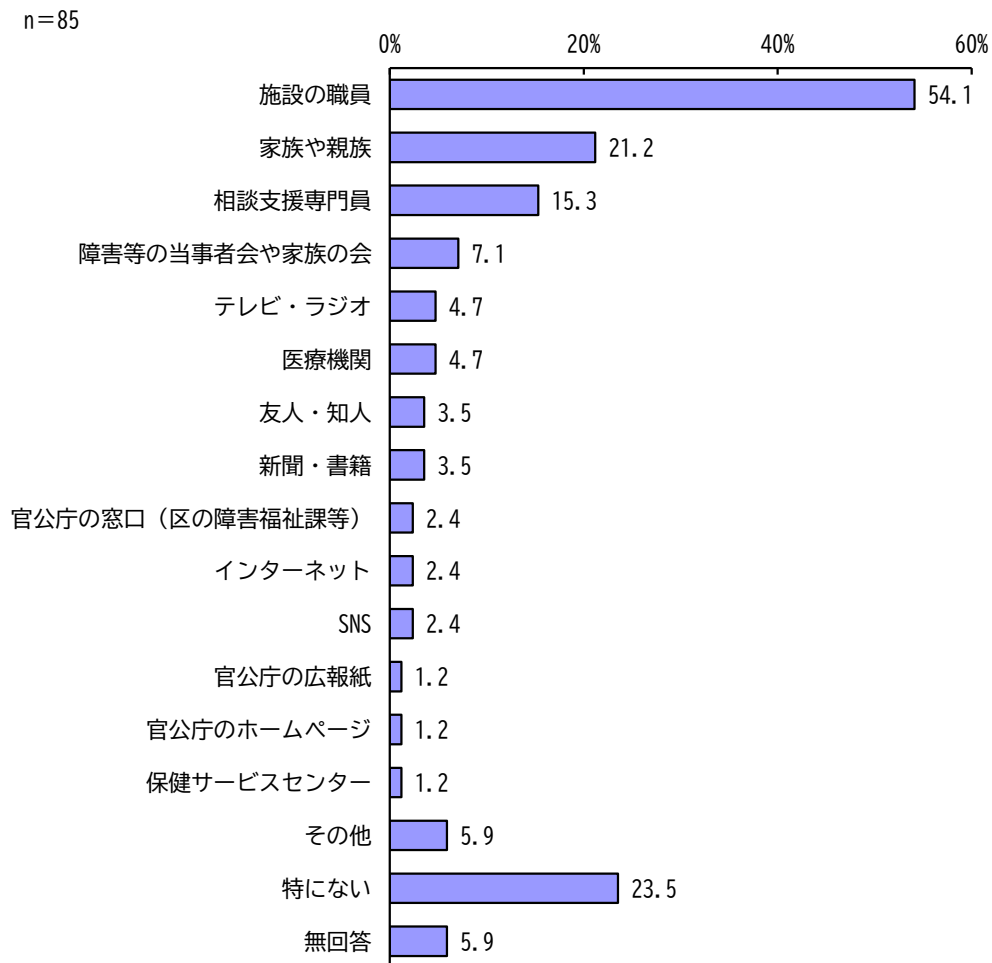
“文京区内”では「家族や親族」が73.1%と7割を超えて、他の地域よりも高くなっています。

入所年数別にみると、いずれの入所年数でも「施設の職員」が5割以上で最も高くなっています。

“5年以上~10年未満”では「家族や親族」が「施設の職員」と同じく73.9%と7割を超えて、他の年数よりも高くなっています。

(2) 福祉情報の入手先

問 21 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)



福祉情報の入手先は、「施設の職員」が 54.1%と 5 割半ば近くで最も高く、次いで「家族や親族」が 21.2%、「相談支援専門員」が 15.3%、「障害等の当事者会や家族の会」が 7.1%と続いています。一方、「特にない」は 23.5%と 2 割を超えています。

【クロス集計】年代別

	n	家族や親族	相談支援専門員	友人・知人	官公庁の広報紙	官公庁のホームページ	官公庁の窓口(区の障害福祉課等)	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット
(単位:%)										
全体	85	21.2	15.3	3.5	1.2	1.2	2.4	1.2	4.7	2.4
年代別										
18歳以上40歳未満	6	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳以上65歳未満	54	20.4	13.0	3.7	0.0	1.9	0.0	0.0	5.6	1.9
65歳以上75歳未満	12	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3
75歳以上	9	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0

	n	SNS	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	施設の職員	その他	特にない	無回答
(単位:%)									
全体	85	2.4	3.5	7.1	4.7	54.1	5.9	23.5	5.9
年代別									
18歳以上40歳未満	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0
40歳以上65歳未満	54	1.9	1.9	3.7	5.6	61.1	3.7	18.5	5.6
65歳以上75歳未満	12	8.3	16.7	8.3	8.3	33.3	16.7	25.0	16.7
75歳以上	9	0.0	0.0	11.1	0.0	55.6	0.0	33.3	0.0

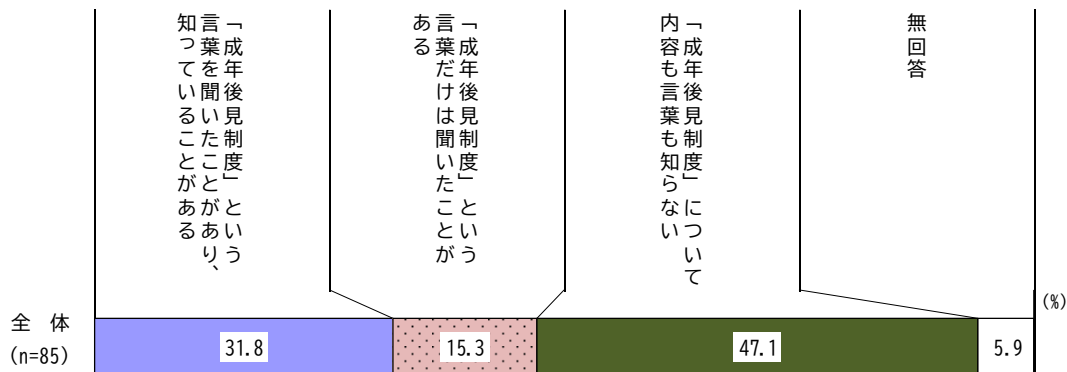
障害別にみると、“18歳以上40歳未満”を除くいずれの障害でも「施設の職員」が最も高く、特に“40歳以上65歳未満”では61.1%と6割を超えています。

また、“40歳以上65歳未満”では「家族や親族」、「65歳以上75歳未満」では「相談支援専門員」が2割を超えて高くなっています。

7 権利擁護・差別解消について

(1) 成年後見制度の認知度

問 22 成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)



成年後見制度の認知度について、「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある、知っていることがある」が 31.8%、「「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある」が 15.3%となっており、二つ合わせた『「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある』は 47.1%と 4 割半ばを超え、「「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」と同じ割合になっています。

【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある、知っていることがある	「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある	「成年後見制度」について内容も言葉も知らない	無回答
全体	85	31.8	15.3	47.1	5.9
18歳以上40歳未満	6	33.3	0.0	66.7	0.0
40歳以上65歳未満	54	25.9	13.0	53.7	7.4
65歳以上75歳未満	12	50.0	33.3	8.3	8.3
75歳以上	9	33.3	11.1	55.6	0.0

年代別にみると、“65 歳以上 75 歳未満”では、「「成年後見制度」という言葉を聞いたことがある、知っていることがある」が 50.0%と 5 割を占めて最も高くなっています。

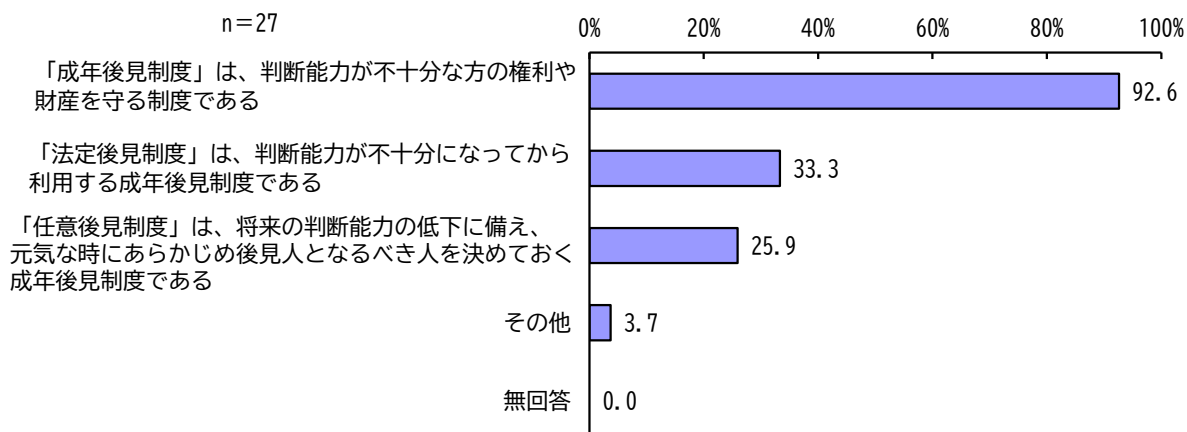
それ以外のいずれの年代でも、「「成年後見制度」について内容も言葉も知らない」が 5 割を超えて最も高くなっています。

(2) 成年後見制度について知っていること

問 22 で「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

問 22-1 成年後見制度について知っていることをお答えください。

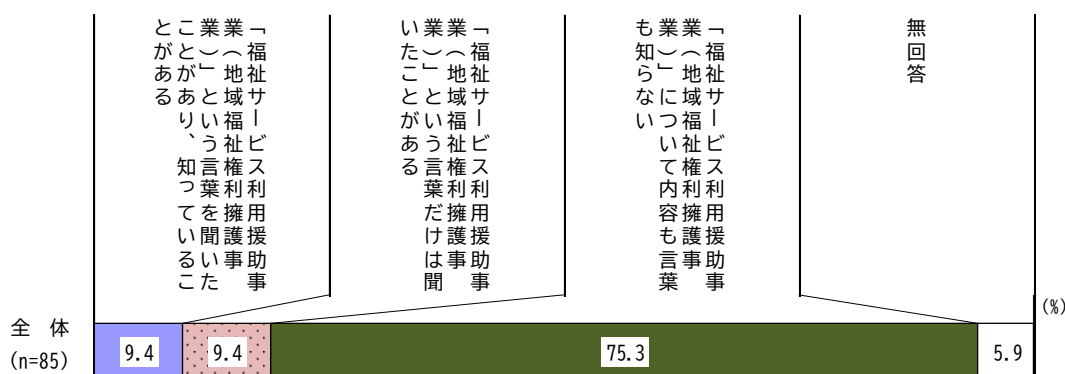
(あてはまるものすべてに○)



成年後見制度について知っていることは、「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である」が 92.6%と9割を超えて最も高く、次いで「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である」が 33.3%と、「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である」が 25.9%と続いています。

(3) 福祉サービス利用援助事業の認知度

問 23 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）という言葉について聞いたことがありますか。（○はひとつ）



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)の認知度について、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることがあると「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある」がともに 9.4% となっており、二つ合わせた『福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉を知っていることがある』は 18.8% と 2 割近くを占めています。

一方、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」は 75.3% と全体の 4 分の 3 を占めています。

【クロス集計】年代別

	n	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけを知っていることがある	「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない	無回答
(単位:%)					
全体	85	9.4	9.4	75.3	5.9
年代別					
18歳以上40歳未満	6	0.0	0.0	100.0	0.0
40歳以上65歳未満	54	11.1	9.3	72.2	7.4
65歳以上75歳未満	12	8.3	25.0	66.7	0.0
75歳以上	9	0.0	0.0	88.9	11.1

年代別にみると、いずれの年代も「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない」が 6 割半ばを超えて最も高くなっています。

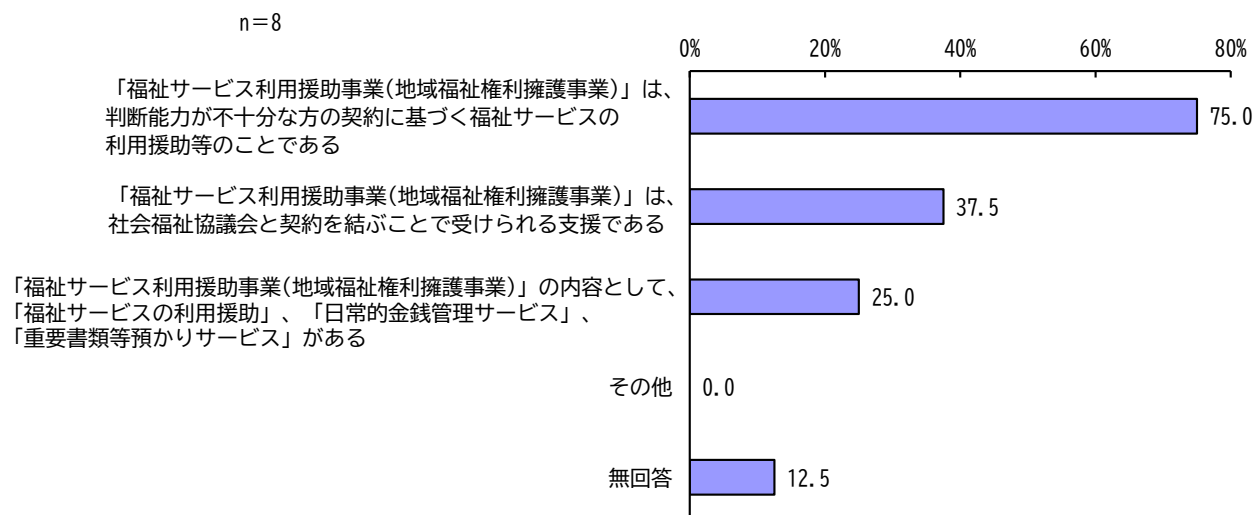
“40 歳以上 65 歳未満”では、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知っていることがある」が 1 割を超えています。

“65 歳以上 75 歳未満”では、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある」が 25.0% と 2 割半ばを占め、他の年代よりも高くなっています。

(4) 福祉サービス利用援助事業について知っていること

問 23 で「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知ったことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

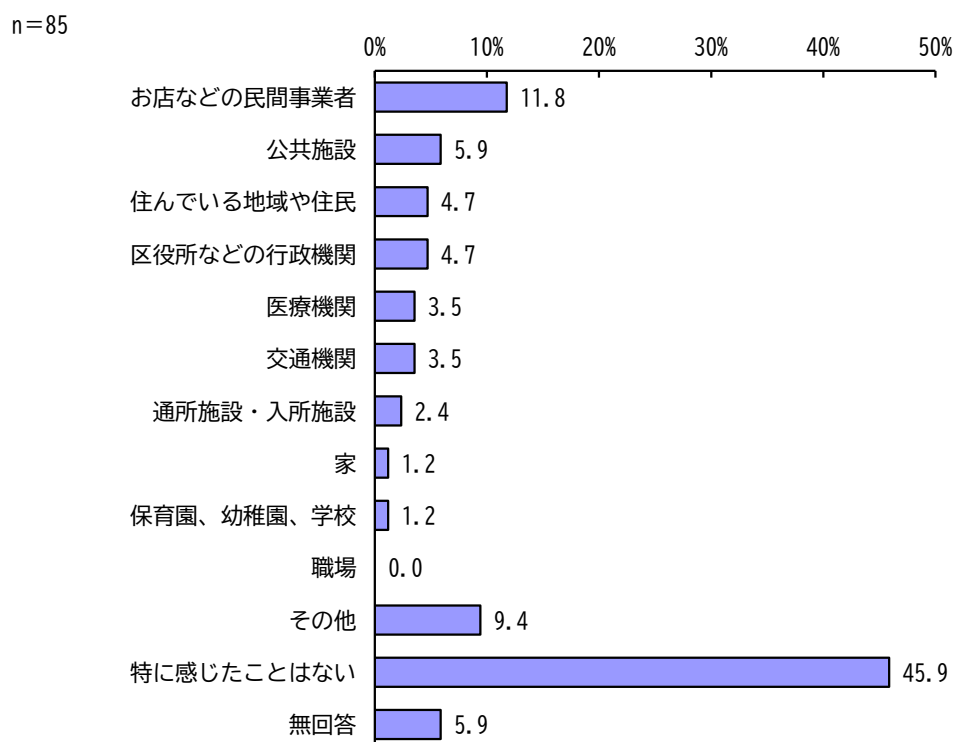
問 23-1 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることは、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである」が 75.0%と7割半ばを占めて最も高く、次いで「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である」が 37.5%、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金銭管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある」が 25.0%と続いています。

(5) 地域で差別を感じる場面

問 24 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」が 11.8% と唯一 1 割を超えて最も高く、次いで「公共施設」が 5.9%、「住んでいる地域や住民」と「区役所などの行政機関」がともに 4.7%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 45.9%と 4 割半ばを占めています。

(6) 地域に求める合理的配慮

問 25 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたらお聞かせください。(自由記入)

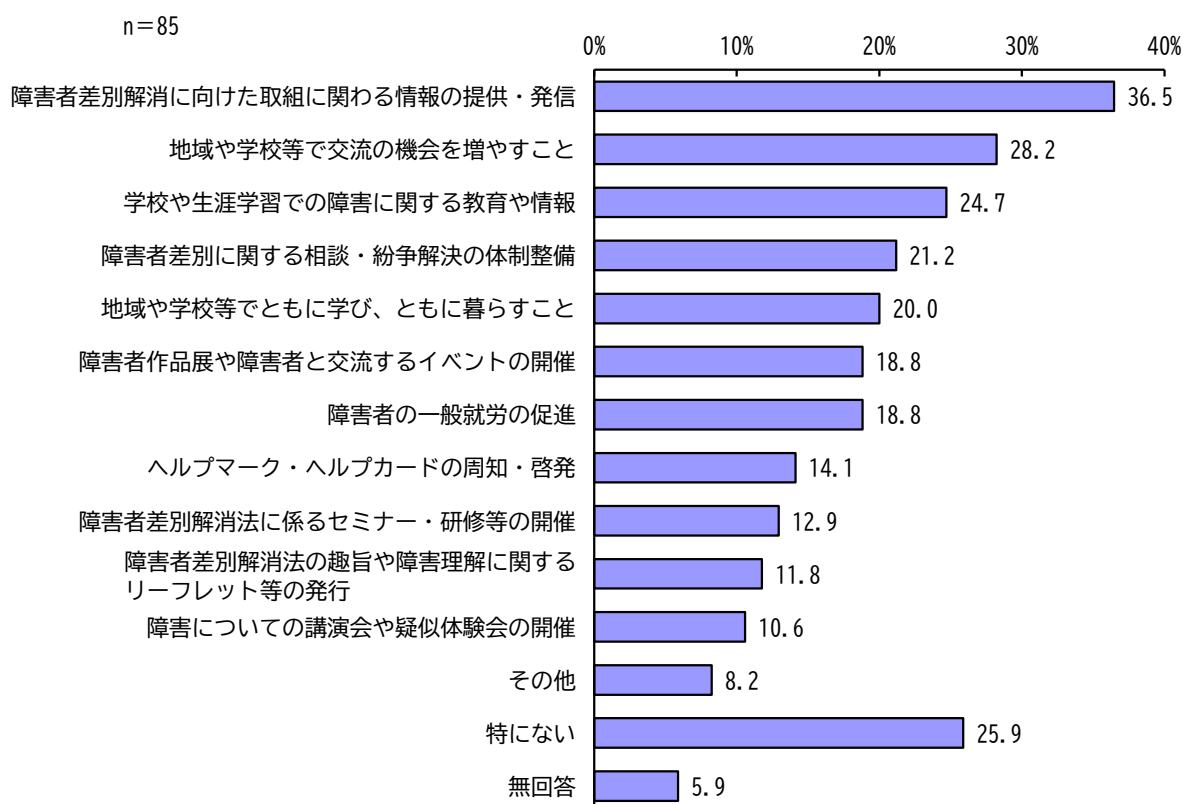
地域に求める合理的配慮についての意見は6件ありました。

意見は以下の通りです。

- ・医療について、体調不良等で掛かりたい時に、障害のある人だと伝えると断られるという経験が度々ある。医療という特性上致し方ない部分はあるながらも、受け入れられるかどうかのアセスメントをもう少ししっかり行って頂けるような仕組み作りを自治体をはじめ行政に進めてもらいたい。
- ・自署出来ない本人の代行許可。
- ・親なきあとの日常的な身上監護をしてもらいたい。
- ・このアンケートは、重度の知的障害者等、本人が理解出来ない内容ばかりなのに、代理の家族や施設職員が推測しながら回答することの是非はどうか。あくまでも本人の意思を尊重する考えが大切と思うが、コロナ禍で面会もままならない中、非常に悩みつつ本人の意思や気持ちを考えながら、周囲で普段感じた点を回答せざるを得ず、悩ましい声が出ている。
- ・地下鉄のエレベーターなど混んでいて車イスで乗れない。
- ・民間のお店（障害者用トイレがない）にせまくて入れない。
- ・車椅子でのバス利用が使用しづらい。（乗務員さんが車椅子固定に手間が掛かるのは十分理解しているが、不快な態度や顔に出されると哀しい気持ちになる）

(7) 差別解消に必要なこと

問 26 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

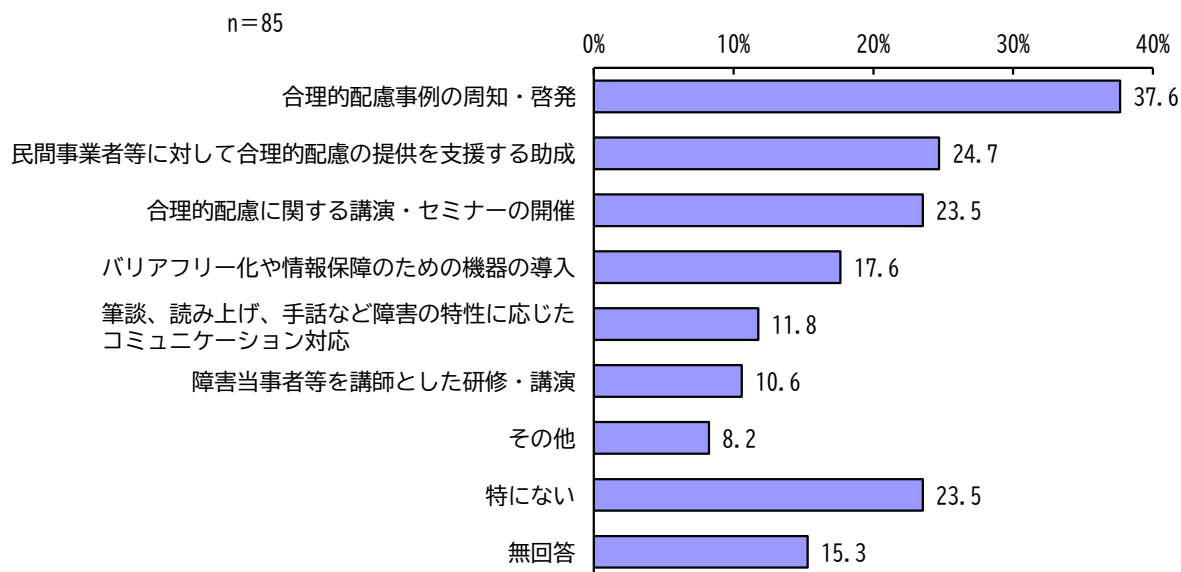


障害者の差別解消を進めていくために必要なことは、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が36.5%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が28.2%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が24.7%、「障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備」が21.2%、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が20.0%と2割以上で続いています。

一方、「特にない」は25.9%と2割半ばを占めています。

(8) 合理的配慮に必要なこと

問 27 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

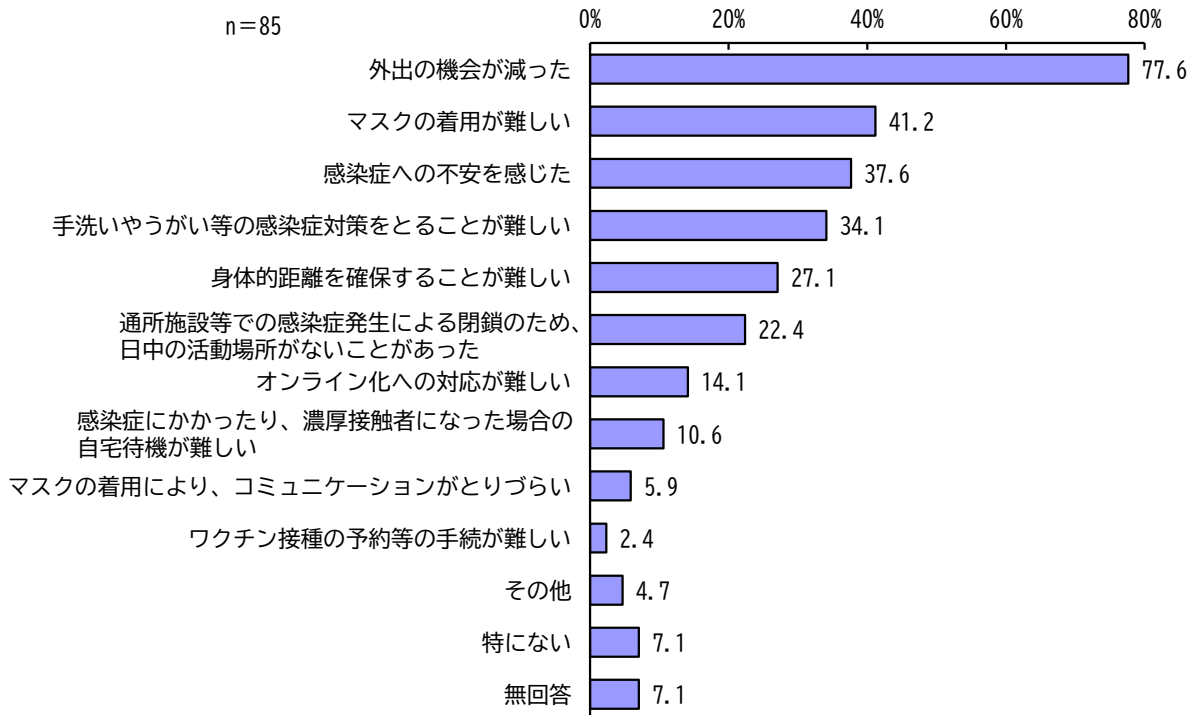


合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 37.6%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 24.7%、「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が 23.5%と2割を超えて続いています。一方、「特にない」は 23.5%と2割を超えています。

8 感染症について

(1) 感染症発生時の困りごと

問 28 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



感染症発生時の困りごとは、「外出の機会が減った」が 77.6%と 7 割半ばを超えて最も高く、次いで「マスクの着用が難しい」が 41.2%、「感染症への不安を感じた」が 37.6%、「手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい」が 34.1%と 3 割を超えて続いています。

一方、「特にない」は 7.1%となっています。

9 自由意見

問 29 区障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 10 件ありました。「福祉」についての意見が 60.0%と最も多くなっています。主な意見は以下の通りです。

	総数	福祉	情報・相談	障害理解	将来	アンケート
自由意見	10	60.0	10.0	10.0	10.0	10.0

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉（3件）

- ・あくまでも障害者自身の立場、目線で福祉施策を推進して欲しいと願っている。特に保護者、本人の高齢化に対しては切実なケースがある。親一人子一人の世帯で急に親が倒れたり、体調不良になった時の対応にも、具体的に取組んで欲しい。また、施設職員不足も深刻。職員の家賃補助等、待遇を改善すべきである。
- ・他区の施設に入っていますが、出来れば住んでいる文京区に施設があったらどんなにいいだろうと思います。病院に通院させる時も外泊しなくていいし、会いたい時もすぐ行けるし…地元で暮らしたいです。

2. 情報・相談（1件）

- ・行政機関からの発信は分かりづらく、積極的な発信が乏しいので見過ごしてしまう。区役所の窓口は担当者によってムラがあり、知りたい情報をきちんと教えて欲しい。

3. 障害理解（1件）

- ・障害者福祉の基本である「障害者権利条約」の理解が行政・社会とも不十分。障害福祉課、市民社会は「条約の心」の理解に向けた取組みが必要。行政、社会が、いっしょになって、障害者への「合理的配慮」に取り組む、実践することを要望します。

4. 将来（1件）

- ・中高等部を卒業していざ社会に出た場合の働く場所、生活の場、グループホームなどが足りないと思う。今後これらをふやして、安心出来る生活が持てるよう支援して欲しい。

5. アンケート（1件）

- ・このアンケートは知的障害者にはあてはまらない質問が多い。身体的障害と知的障害を同じ目線でのアンケートを行うにはムリがありすぎます。

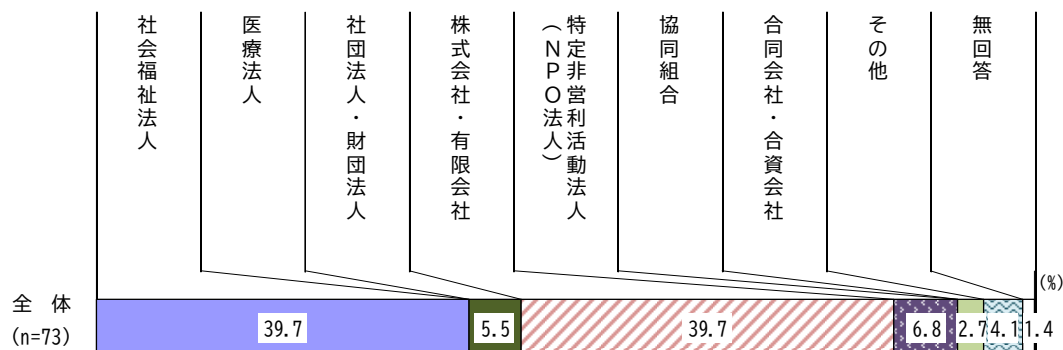
第4章

サービス事業所の方を対象にした調査

1 事業運営について

(1) 経営主体

問1 貴事業所の経営主体をお聞きます。(〇はひとつ)

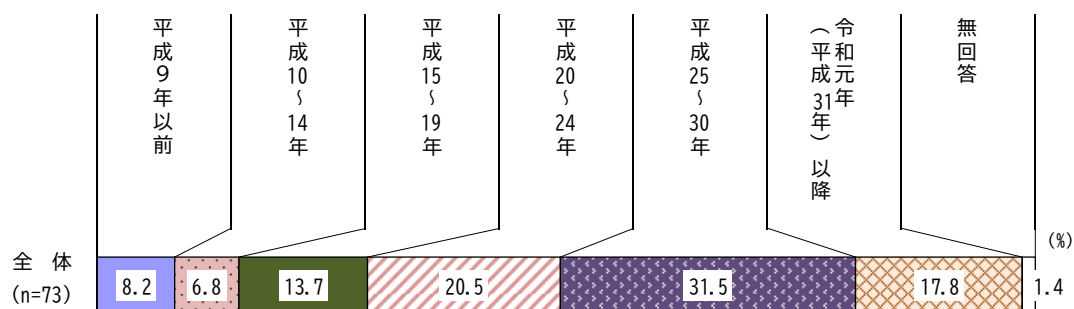


回答事業所の経営主体は、「社会福祉法人」と「株式会社・有限会社」がともに 39.7%と 4割を占めて最も高く、次いで「特定非営利活動法人 (NPO法人)」が 6.8%、「社団法人・財団法人」が 5.5%、「合同会社・合資会社」が 2.7%、「その他」が 4.1%となっています。

また、「医療法人」と「協同組合」についての回答はありませんでした。

(2) 開業年

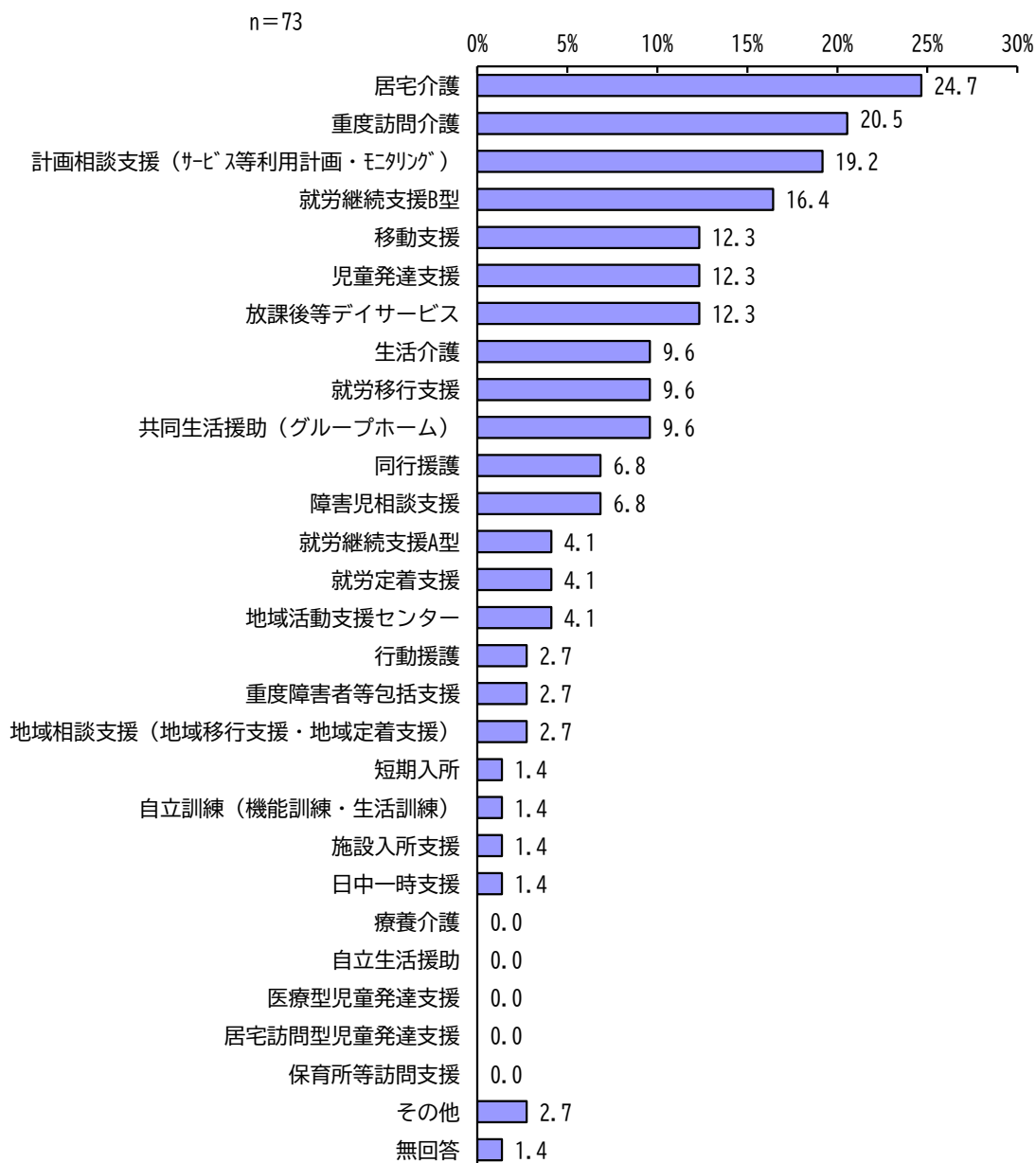
問2 貴事業所の開業年をお聞きます。



開業年は、「平成25～30年」が 31.5%と 3割を超えて最も高く、次いで「平成20～24年」が 20.5%、「令和元年 (平成31年) 以降」が 17.8%と続いています。

(3) 提供しているサービス

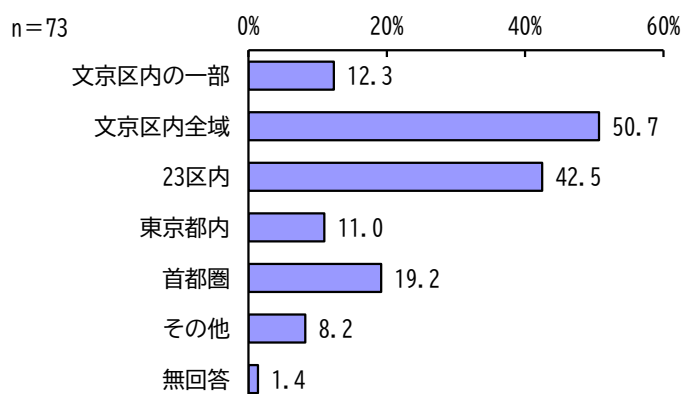
問3 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)



提供しているサービスは、「居宅介護」が 24.7%で最も高く、次いで「重度訪問介護」が 20.5%、「計画相談支援 (サービス等利用計画・モニタリング)」が 19.2%、「就労継続支援B型」が 16.4%と続いています。

(4) 事業展開エリア

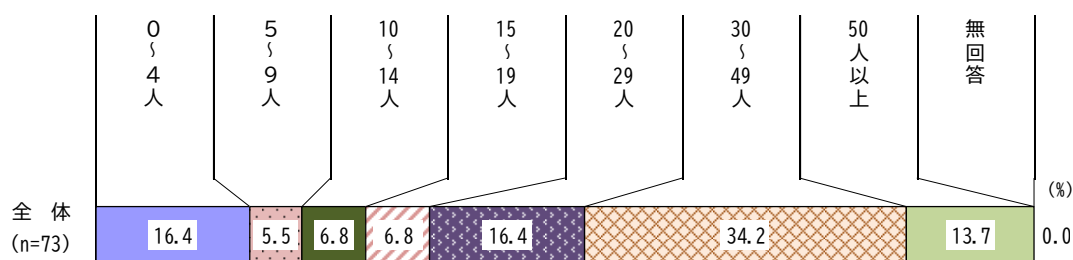
問4 貴事業所が事業を展開しているエリア（サービス利用対象者がお住まいの範囲）をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



事業展開エリアは、「文京区内全域」が 50.7%と 5 割に達し最も高く、次いで「23 区内」が 42.5%、「首都圏」が 19.2%と続いています。

(5) 利用者数

問5 貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きます。
障害別にお答えください。（令和4年10月1日時点の人数）
重複障害の方については主たる障害についてご回答ください。



サービス利用人数は、「30～49 人」が 34.2%と 3 割を超えて最も高く、次いで「0～4 人」と「20～29 人」がともに 16.4%と続いています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	0~ 4人	5~ 9人	10~ 14人	15~ 19人	20~ 29人	30~ 49人	50人 以上	無回答
全体	73	16.4	5.5	6.8	6.8	16.4	34.2	13.7	0.0
サービス体系別									
訪問系	19	36.8	0.0	5.3	5.3	15.8	21.1	15.8	0.0
日中活動系	7	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0
居住系・施設系	8	12.5	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	5.3	0.0	5.3	15.8	31.6	42.1	0.0	0.0
相談系	14	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	57.1	28.6	0.0
地域生活支援事業	12	8.3	0.0	8.3	8.3	25.0	33.3	16.7	0.0
障害児通所支援	18	11.1	0.0	5.6	0.0	11.1	44.4	27.8	0.0

サービス体系別にみると、“訪問系”では「0～4人」が36.8%、“居住系・施設系”では「5～9人」が37.5%と3割半ばを超えて最も高くなっています。

それ以外のサービスではいずれも「30～49人」が3割以上で最も高く、特に“日中活動系”は7割を超えています。

“訓練系・就労系”では「20～29人」が31.6%と唯一3割を超えています。

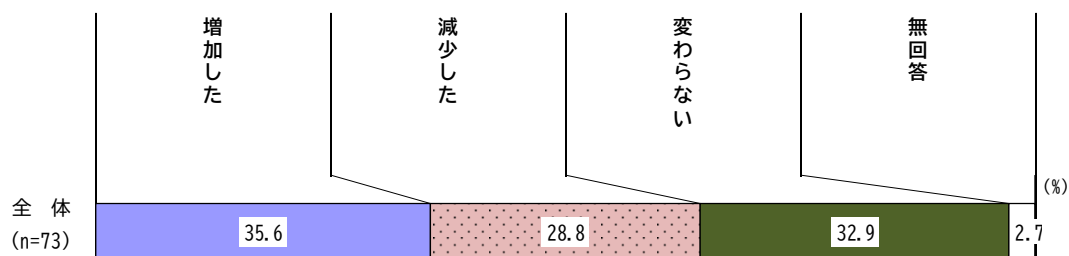
※グラフ・表に示しているサービス体系の内訳は以下の通りです。

「訪問系」	居宅介護事業所、重度訪問介護事業所、同行援護事業所、行動援護事業所、重度障害者等包括支援事業所
「日中活動系」	生活介護事業所、療養介護事業所、短期入所事業所
「居住系・施設系」	共同生活援助事業所、自立生活援助事業所、施設入所支援事業所
「訓練系・就労系」	自立訓練事業所（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所（A型、B型）、就労定着支援事業所
「相談系」	地域相談支援事業所（地域移行支援・地域定着支援）、計画相談支援事業所、障害児相談支援事業所
「地域生活支援事業」	地域活動支援センター、移動支援事業所、日中一時支援事業所
「障害児通所支援」	児童発達支援事業所、医療型児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、居宅訪問型児童発達支援事業所、保育所等訪問支援事業所

(6) 収支状況

問6 令和3年度の事業の収支状況は、令和2年度と比べどうでしたか。(○はひとつ)

【収入】



前年度と比較した収入の状況は、「増加した」が35.6%と3割半ばを占めて最も高く、次いで「変わらない」が32.9%、「減少した」が28.8%と続いています。

増加した割合(%)を回答した26事業所の平均増加率は26.6%でした。

減少した割合(%)を回答した21事業所の平均減少率は10.6%でした。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	増加した	減少した	変わらない	無回答
全体	73	35.6	28.8	32.9	2.7
経営主体別					
社会福祉法人	29	27.6	34.5	31.0	6.9
社団法人・財団法人	4	50.0	50.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	41.4	24.1	34.5	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	60.0	0.0	40.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	100.0	0.0	0.0
その他	3	33.3	0.0	66.7	0.0
サービス体系別					
訪問系	19	31.6	36.8	31.6	0.0
日中活動系	7	14.3	14.3	71.4	0.0
居住系・施設系	8	12.5	50.0	37.5	0.0
訓練系・就労系	19	26.3	26.3	47.4	0.0
相談系	14	50.0	14.3	35.7	0.0
地域生活支援事業	12	58.3	8.3	33.3	0.0
障害児通所支援	18	55.6	11.1	22.2	11.1

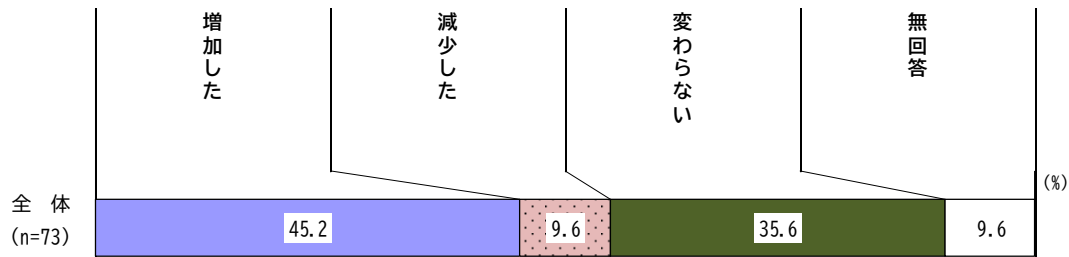
経営主体別にみると、「社会福祉法人」では、「減少した」が34.5%と3割半ば近くで最も高くなっています。

「株式会社・有限会社」では、「増加した」が41.4%と4割を超えて最も高くなっています。

サービス体系別にみると、「相談系」、「地域生活支援事業」、「障害児通所支援」では「増加した」がそれぞれ5割を超えて、他のサービスよりも高くなっています。

「訪問系」では、「減少した」が36.8%と3割半ばを超えて最も高くなっていますが、「増加した」、「変わらない」も3割台となっています。

【支出】



前年度と比較した支出の状況は、「増加した」が45.2%と4割半ばを占めて最も高く、次いで「変わらない」が35.6%、「減少した」が9.6%と続いています。

増加した割合(%)を回答した33事業所の平均増加率は20.7%でした。

減少した割合(%)を回答した7事業所の平均減少率は7.0%でした。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)		n	増加した	減少した	変わらない	無回答
全体		73	45.2	9.6	35.6	9.6
経営主体別	社会福祉法人	29	48.3	3.4	34.5	13.8
	社団法人・財団法人	4	50.0	25.0	25.0	0.0
	株式会社・有限会社	29	48.3	6.9	34.5	10.3
	特定非営利活動法人(NPO法人)	5	60.0	0.0	40.0	0.0
	合同会社・合資会社	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	3	0.0	33.3	66.7	0.0
	サービス体系別	訪問系	19	47.4	21.1	21.1
日中活動系		7	28.6	0.0	71.4	0.0
居住系・施設系		8	62.5	0.0	37.5	0.0
訓練系・就労系		19	42.1	0.0	52.6	5.3
相談系		14	35.7	7.1	50.0	7.1
地域生活支援事業		12	58.3	8.3	33.3	0.0
障害児通所支援		18	38.9	11.1	27.8	22.2

経営主体別にみると、“社会福祉法人”と“株式会社・有限会社”では、「増加した」がともに48.3%と4割半ばを超えて最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“訪問系”、“地域生活支援事業”、“障害児通所支援”では「増加した」が最も高く、特に“地域生活支援事業”で58.3%と5割半ばを超えています。

“訓練系・就労系”と“相談系”では、「変わらない」が5割を超えて最も高くなっています。

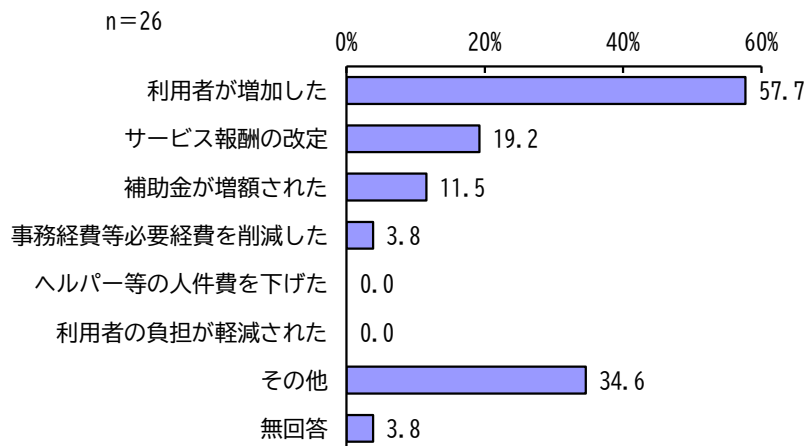
また、「減少した」は“訪問系”で21.1%と2割を超えて、他のサービスよりも高くなっています。

(7) 増減収の理由

問6の収入状況を受けてご回答ください。

問6-1 増収または減収の理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【増収の理由】



増収の理由は、「利用者が増加した」が 57.7%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が 19.2%、「補助金が増額された」が 11.5%と続いています。

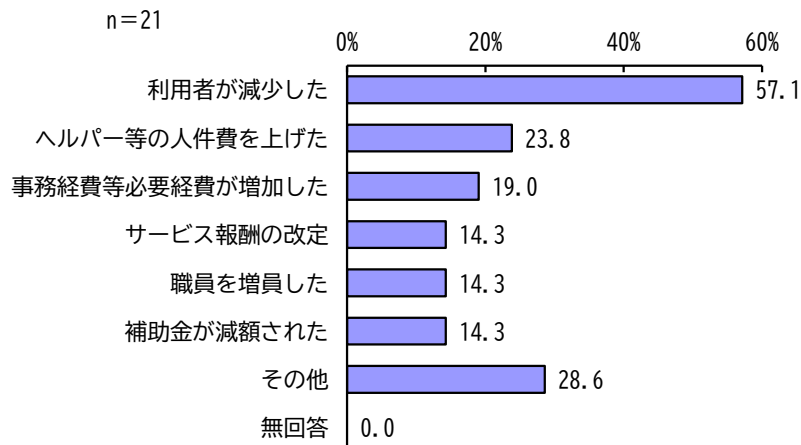
【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	サービス報酬の改定	利用者が増加した	ヘルパー等の人件費を下げた	利用者の負担が軽減された	事務経費等必要経費を削減した	補助金が増額された	その他	無回答
全体	26	19.2	57.7	0.0	0.0	3.8	11.5	34.6	3.8
経営主体別									
社会福祉法人	8	0.0	62.5	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0
社団法人・財団法人	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
株式会社・有限会社	12	25.0	66.7	0.0	0.0	8.3	8.3	33.3	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
合同会社・合資会社	0	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
サービス体系別									
訪問系	6	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
日中活動系	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
居住系・施設系	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
訓練系・就労系	5	40.0	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0
相談系	7	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0
地域生活支援事業	7	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0
障害児通所支援	10	20.0	60.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0

経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「利用者が増加した」との回答が3割を超えて最も高くなっています。

サービス体系別にみると、「その他」以外では、いずれのサービスでも「利用者が増加した」が最も高くなっています。

【減収の理由】



減収の理由は、「利用者が減少した」が 57.1%と5割半ばを超えて最も高く、次いで「ヘルパー等の人件費を上げた」が 23.8%、「事務経費等必要経費が増加した」が 19.0%と続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

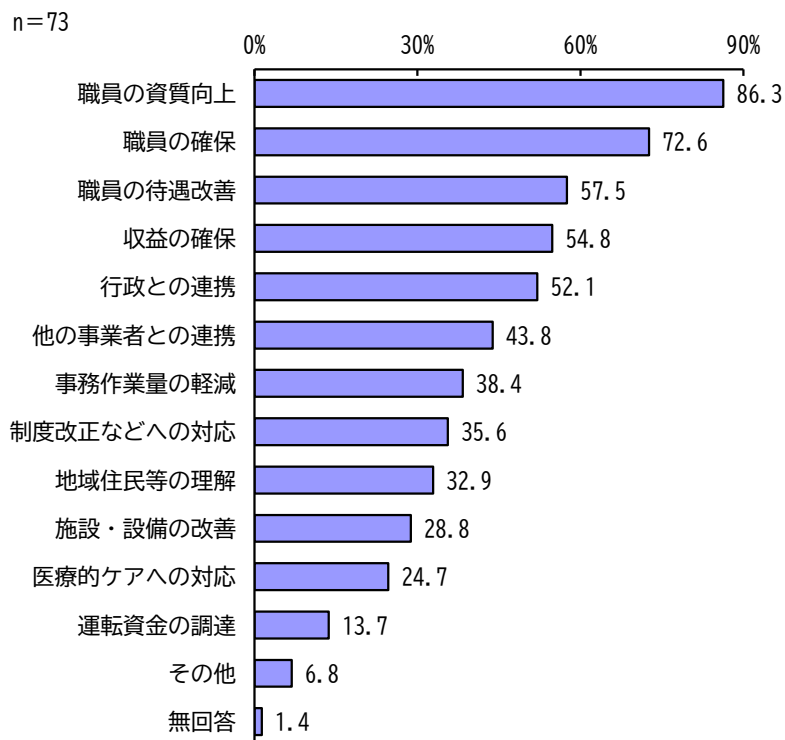
(単位:%)	n	サービス報酬の改定	利用者が減少した	ヘルパー等の人件費を上げた	職員を増員した	事務経費等必要経費が増加した	補助金が減額された	その他	無回答
全体	21	14.3	57.1	23.8	14.3	19.0	14.3	28.6	0.0
経営主体別									
社会福祉法人	10	30.0	40.0	10.0	20.0	20.0	10.0	30.0	0.0
社団法人・財団法人	2	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
株式会社・有限会社	7	0.0	71.4	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	0	-	-	-	-	-	-	-	-
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0
その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス体系別									
訪問系	7	0.0	57.1	42.9	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0
日中活動系	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
居住系・施設系	4	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
訓練系・就労系	5	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
相談系	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0
障害児通所支援	2	50.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0

経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「利用者が減少した」との回答が4割以上で最も高くなっています。

サービス体系別にみると、“日中活動系”、“居住系・施設系”、“地域生活支援事業”以外のいずれのサービスでも「利用者が減少した」が最も高くなっています。

(8) 経営で重視していること

問7 貴事業所を経営していく上で何を重視していますか。(あてはまるものすべてに○)



事業所を経営していく上で重視していることは、「職員の資質向上」が 86.3%と 8割半ばを超えて最も高く、次いで「職員の確保」が 72.6%、「職員の待遇改善」が 57.5%、「収益の確保」が 54.8%、「行政との連携」が 52.1%と 5割を超えて続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	職員の確保	職員の待遇改善	職員の資質向上	事務作業量の軽減	施設・設備の改善	制度改正などへの対応	収益の確保
全体	73	72.6	57.5	86.3	38.4	28.8	35.6	54.8
経営主体別								
社会福祉法人	29	82.8	51.7	93.1	41.4	41.4	51.7	55.2
社団法人・財団法人	4	25.0	75.0	100.0	50.0	25.0	25.0	75.0
株式会社・有限会社	29	75.9	69.0	79.3	34.5	10.3	24.1	58.6
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	40.0	40.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	0.0	50.0
その他	3	66.7	33.3	100.0	66.7	66.7	66.7	33.3
サービス体系別								
訪問系	19	84.2	57.9	68.4	47.4	15.8	21.1	52.6
日中活動系	7	85.7	42.9	100.0	42.9	57.1	71.4	71.4
居住系・施設系	8	75.0	62.5	100.0	0.0	25.0	37.5	50.0
訓練系・就労系	19	68.4	52.6	84.2	42.1	52.6	57.9	89.5
相談系	14	64.3	64.3	92.9	50.0	21.4	42.9	57.1
地域生活支援事業	12	75.0	50.0	75.0	50.0	33.3	25.0	58.3
障害児通所支援	18	66.7	61.1	94.4	27.8	22.2	33.3	33.3

(単位:%)	n	運転資金の調達	他の事業者との連携	行政との連携	地域住民等の理解	医療的ケアへの対応	その他	無回答
全体	73	13.7	43.8	52.1	32.9	24.7	6.8	1.4
経営主体別								
社会福祉法人	29	13.8	58.6	72.4	48.3	24.1	10.3	0.0
社団法人・財団法人	4	25.0	75.0	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0
株式会社・有限会社	29	10.3	31.0	31.0	10.3	24.1	0.0	3.4
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0
その他	3	0.0	66.7	66.7	100.0	33.3	0.0	0.0
サービス体系別								
訪問系	19	5.3	10.5	21.1	10.5	31.6	5.3	5.3
日中活動系	7	28.6	28.6	71.4	85.7	42.9	14.3	0.0
居住系・施設系	8	0.0	37.5	62.5	50.0	25.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	21.1	63.2	57.9	47.4	21.1	10.5	0.0
相談系	14	21.4	71.4	85.7	57.1	42.9	14.3	0.0
地域生活支援事業	12	25.0	16.7	41.7	41.7	33.3	8.3	0.0
障害児通所支援	18	16.7	44.4	44.4	22.2	16.7	11.1	0.0

経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「職員の資質向上」が最も高く、“社会福祉法人”では93.1%、“株式会社・有限会社”では79.3%となっています。

また、「職員の確保」も、“社会福祉法人”で82.8%、“株式会社・有限会社”で75.9%と、7割半ばを超えています。

サービス体系別にみると、“訪問系”と“地域生活支援事業”では、「職員の確保」が7割半ば以上で最も高く、特に“訪問系”では84.2%と8割を超えています。

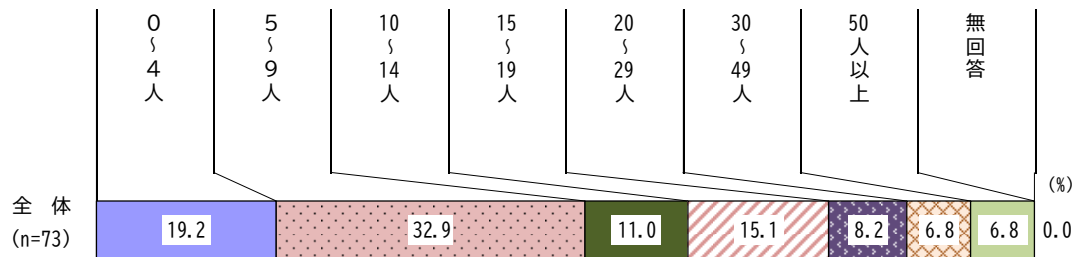
また、“訓練系・就労系”では「収益の確保」が89.5%と9割近くで最も高くなっています。

それ以外のサービスではいずれも「職員の資質向上」が最も高く、特に、回答数が10件以上の“相談系”と“障害児通所支援”では9割を超えています。

2 職員について

(1) 職員数（総数・常勤・非常勤・その他）

問8 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。
令和4年10月1日現在の職員数をお聞きします。



職員数は、「5～9人」が32.9%と3割を超えて最も高く、次いで「0～4人」が19.2%、「15～19人」が15.1%と続いています。

【職員別】

職員別	n	(単位:%)								平均 (人)
		0～4人	5～9人	10～14人	15～19人	20～29人	30～49人	50人以上	無回答	
常勤職員	73	41.1	39.7	1.4	2.7	8.2	2.7	0.0	4.1	7.8
非常勤職員	73	38.4	20.5	6.8	4.1	9.6	1.4	2.7	16.4	10.6
その他	73	9.6	4.1	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	84.9	5.6

職員別にみると、「無回答」を除くと、いずれの職員でも「0～4人」が最も高く、“常勤職員”と“非常勤職員”では4割前後を占めています。

平均人数は、“常勤職員”が7.8人、“非常勤職員”が10.6人となっています。

(2) 職員数（職種別）

問9 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。
令和4年10月1日現在の職種別職員数をお聞きします。

(単位:人)	職員総数	回答事業所数	平均職員数	1事業所での 最多職員数	1事業所での 最小職員数
生活支援員	237	30	7.9	36	1
介護職員	542	18	30.1	160	5
看護師	35	11	3.2	20	1
栄養士	13	5	2.6	9	1
理学療法士	16	3	5.3	10	1
作業療法士	10	5	2.0	4	1
職業指導員	29	16	1.8	4	1
児童指導員	71	14	5.1	22	1
保育士	28	10	2.8	8	1
相談支援専門員	45	20	2.3	5	1
事務職員	48	18	2.7	20	1
その他	150	40	3.8	13	1

職種別職員数は、「介護職員」が542人と最も多く、次いで「生活支援員」が生活支援員人、「その他」が150人と続いています。

回答事業所当たりの平均職員数は、「介護職員」が30.1人と最も多く、次いで「生活支援員」が7.9人、「理学療法士」が5.3人、「児童指導員」が5.1人と続いています。

1事業所での最多職員数は、「介護職員」が160人と最も多く、次いで「生活支援員」が36人、「児童指導員」が22人と続いています。

1事業所での最少職員数は、「介護職員」が5人と最も多くなっています。

(4) 職員数（経験年数別）

問10 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。
令和4年10月1日現在の経験年数別職員数をお聞きします。

(単位:人)	職員総数	回答事業所数	平均職員数	1事業所での 最多職員数	1事業所での 最小職員数
6か月未満	46	26	1.8	9	1
6か月以上1年未満	64	36	1.8	9	1
1年以上3年未満	209	52	4.0	33	1
3年以上5年未満	198	53	3.7	33	1
5年以上10年未満	299	58	5.2	39	1
10年以上	410	46	8.9	70	1

経験年数別職員数は、「10年以上」が410人と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が299人、「1年以上3年未満」が209人と続いています。

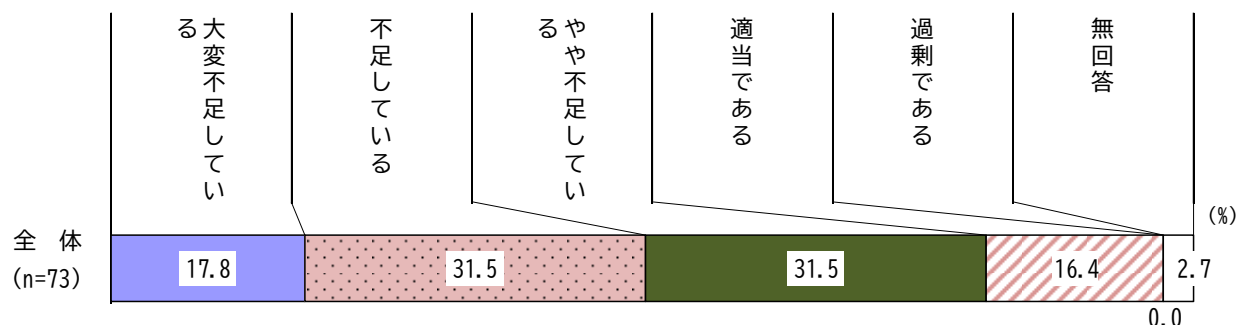
回答事業所当たりの平均職員数は、「10年以上」が8.9人と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が5.2人、「1年以上3年未満」が4.0人と続いています。

1事業所での最多職員数は、「10年以上」が70人と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が39人、「1年以上3年未満」と「3年以上5年未満」がともに33人と続いています。

1事業所での最少職員数は、いずれの経験年数の職員も1人となっています。

(5) 職員の充足状況

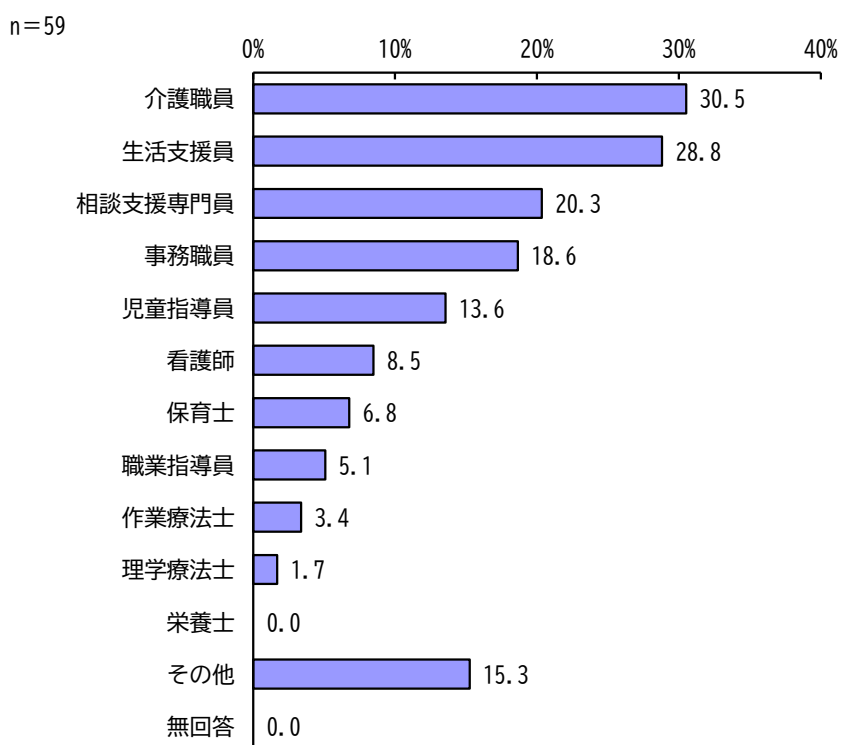
問 11 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。
業務量に対して、職員の充足状況（人手）はいかがですか。（○はひとつ）



職員の充足状況は、「不足している」と「やや不足している」がともに 31.5%と 3 割を占めており、「大変不足している」(17.8%) を合わせた『不足している』は 80.8%と 8 割を占めています。一方、「適当である」は 16.4%となっています。

(6) 不足している職員の職種

問 11 で「不足」と回答された方にお聞きします。
問 11-1 不足している職員の職種は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



不足している職員の職種は、「介護職員」が 30.5%と 3 割に達し最も高く、次いで「生活支援員」が 28.8%、「相談支援専門員」が 20.3%と 2 割台が続いています。

(7) 退職者数（総数・常勤・非常勤・その他）

問 12 職員について、令和3年度中の退職者数をお聞きします。

(単位:人)	退職総数	回答事業所数	平均退職数	1事業所での最多退職数	1事業所での最小退職数
全体	125	42	3.0	12	1
職 種 別					
常勤職員	59	29	2.0	6	1
非常勤職員	69	27	2.6	10	1
その他	7	4	2.3	1	1

令和3年度中の退職者数は、回答のあった42事業所で125人、平均退職者数は3.0人、1事業所での最多退職者数は12人となっています。

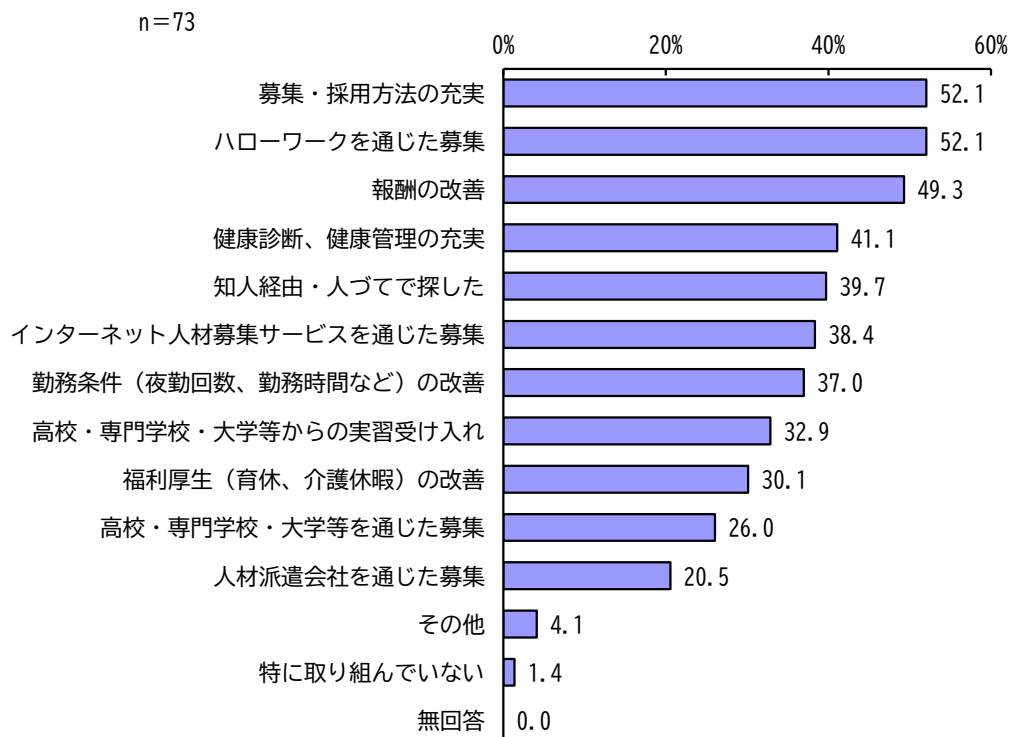
常勤職員の退職者数は、29事業所で59人、平均退職者数は2.0人、1事業所での最多退職者数は6人となっています。

非常勤職員の退職者数は、27事業所で69人、平均退職者数は2.6人、1事業所での最多退職者数は10人となっています。

(8) 人材確保・人材育成の取り組み

問 13 貴事業所では、人材確保・人材育成のための取り組みをしていますか。
(それぞれあてはまるものすべてに○)

【人材確保の取り組み】



人材確保の取り組みは、「募集・採用方法の充実」と「ハローワークを通じた募集」がともに52.1%と5割を超えて最も高く、次いで「報酬の改善」が49.3%、「健康診断、健康管理の充実」が41.1%と続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	勤務条件(夜勤回数、勤務時間などの改善)	報酬の改善	福利厚生(育休、介護休暇)の改善	健康診断、健康管理の充実	募集・採用方法の充実	高校・専門学校・大学等を通じた募集	ハローワークを通じた募集
全体	73	37.0	49.3	30.1	41.1	52.1	26.0	52.1
経営主体別								
社会福祉法人	29	34.5	41.4	34.5	58.6	65.5	44.8	72.4
社団法人・財団法人	4	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
株式会社・有限会社	29	41.4	62.1	31.0	27.6	48.3	10.3	48.3
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
合同会社・合資会社	2	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
その他	3	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7
サービス体系別								
訪問系	19	36.8	68.4	36.8	42.1	26.3	10.5	52.6
日中活動系	7	28.6	28.6	28.6	71.4	42.9	42.9	85.7
居住系・施設系	8	37.5	50.0	37.5	75.0	75.0	50.0	75.0
訓練系・就労系	19	36.8	52.6	47.4	42.1	57.9	36.8	57.9
相談系	14	42.9	35.7	28.6	35.7	57.1	50.0	50.0
地域生活支援事業	12	33.3	58.3	25.0	25.0	25.0	25.0	41.7
障害児通所支援	18	38.9	33.3	11.1	16.7	55.6	22.2	33.3

(単位:%)	n	人材派遣会社を通じた募集	インターネット人材募集サービスを通じた募集	高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ	知人経由・人づてで探した	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体	73	20.5	38.4	32.9	39.7	4.1	1.4	0.0
経営主体別								
社会福祉法人	29	24.1	27.6	58.6	44.8	3.4	0.0	0.0
社団法人・財団法人	4	25.0	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	24.1	58.6	6.9	34.5	3.4	0.0	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	0.0	20.0	20.0	60.0	20.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別								
訪問系	19	26.3	52.6	10.5	42.1	5.3	0.0	0.0
日中活動系	7	14.3	57.1	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	50.0	25.0	50.0	50.0	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	10.5	21.1	47.4	26.3	0.0	5.3	0.0
相談系	14	14.3	14.3	50.0	35.7	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	33.3	50.0	16.7	58.3	8.3	0.0	0.0
障害児通所支援	18	27.8	38.9	22.2	27.8	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では「ハローワークを通じた募集」が72.4%と7割を超えて最も高く、次いで「募集・採用方法の充実」が65.5%、「健康診断、健康管理の充実」と「高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ」がともに58.6%と5割を超えて高くなっています。

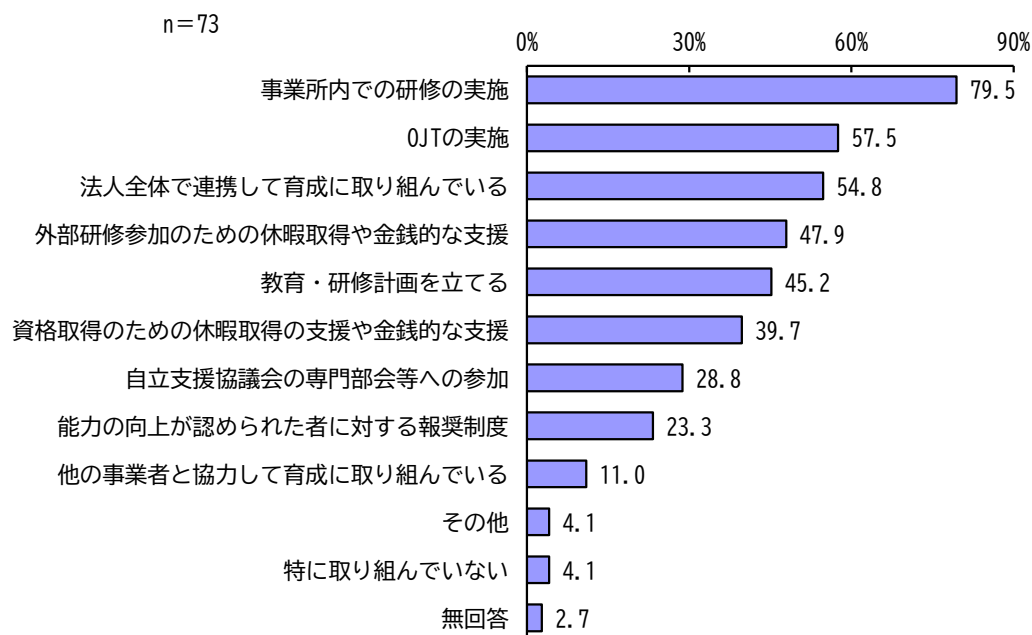
“株式会社・有限会社”では、「報酬の改善」が62.1%、「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が58.6%と5割を超えて高くなっています。

サービス体系別にみると、“訪問系”では、「報酬の改善」が68.4%と7割近くに達し、他のサービスよりも高くなっています。

“訓練系・就労系”、“相談系”、“障害児通所支援”では、「募集・採用方法の充実」が5割半ばを超えて最も高くなっています。また、“訓練系・就労系”では「ハローワークを通じた募集」も同じ割合で最も高くなっています。

“地域生活支援事業”では、「報酬の改善」と「知人経由・人づてで探した」がともに58.3%と最も高くなっています。

【人材育成の取り組み】



人材育成の取り組みは、「事業所内での研修の実施」が79.5%と約8割で最も高く、次いで「OJTの実施」が57.5%、「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」が54.8%と5割を超えて続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援	外部研修参加のための休暇取得や金銭的な支援	事業所内での研修の実施	OJTの実施	自立支援協議会の専門部会等への参加	教育・研修計画を立てる
全体	73	39.7	47.9	79.5	57.5	28.8	45.2
経営主体別							
社会福祉法人	29	17.2	55.2	86.2	69.0	44.8	55.2
社団法人・財団法人	4	25.0	75.0	100.0	50.0	50.0	25.0
株式会社・有限会社	29	62.1	41.4	69.0	58.6	13.8	41.4
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	40.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0
その他	3	33.3	33.3	100.0	33.3	66.7	66.7
サービス体系別							
訪問系	19	73.7	36.8	78.9	47.4	15.8	36.8
日中活動系	7	14.3	57.1	100.0	85.7	42.9	71.4
居住系・施設系	8	25.0	37.5	87.5	75.0	37.5	50.0
訓練系・就労系	19	31.6	52.6	84.2	78.9	26.3	68.4
相談系	14	28.6	64.3	78.6	42.9	57.1	42.9
地域生活支援事業	12	58.3	41.7	91.7	41.7	16.7	33.3
障害児通所支援	18	11.1	33.3	72.2	50.0	27.8	22.2

(単位:%)	n	能力の向上が認められた者に対する報奨制度	法人全体で連携して育成に取り組んでいる	他の事業者と協力して育成に取り組んでいる	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体	73	23.3	54.8	11.0	4.1	4.1	2.7
経営主体別							
社会福祉法人	29	13.8	75.9	17.2	3.4	0.0	3.4
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	37.9	44.8	3.4	3.4	6.9	3.4
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス体系別							
訪問系	19	26.3	42.1	5.3	5.3	0.0	0.0
日中活動系	7	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	12.5	75.0	12.5	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	26.3	73.7	15.8	0.0	5.3	0.0
相談系	14	28.6	57.1	21.4	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	16.7	50.0	16.7	8.3	0.0	0.0
障害児通所支援	18	11.1	38.9	5.6	0.0	11.1	11.1

経営主体別にみると、いずれの経営主体でも「事業所内での研修の実施」が最も高く、回答数が10件以上の“社会福祉法人”では86.2%、“株式会社・有限会社”では69.0%となっています。

また、“社会福祉法人”では、「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」が75.9%と7割半ばで高く、「OJTの実施」も69.0%と7割近くに達しています。

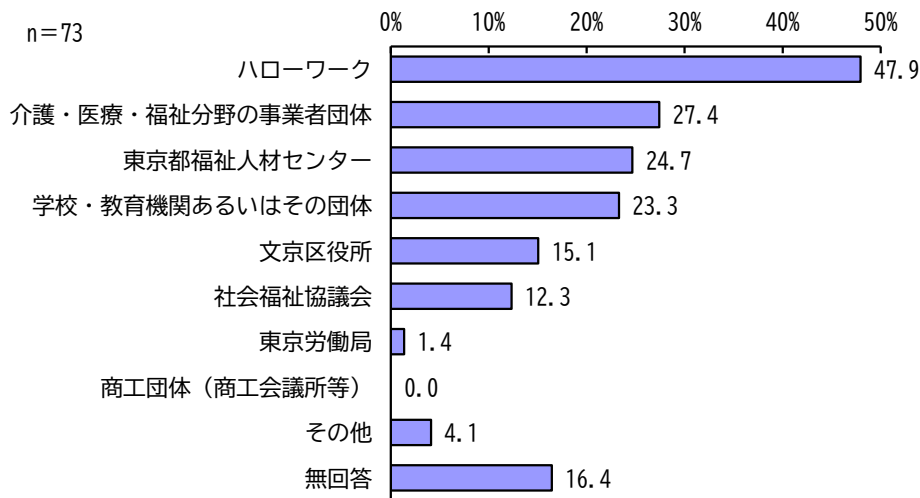
“株式会社・有限会社”では、「資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援」が62.1%、「OJTの実施」が58.6%と6割前後となっています。

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「事業所内での研修の実施」が7割を超えて最も高くなっています。

また、“訪問系”では「資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援」が、“訓練系・就労系”では「OJTの実施」と「法人全体で連携して育成に取り組んでいる」がそれぞれ7割を超えています。

(9) 人材確保や質の向上に向けた連携先

問 14 貴事業所では、人材の確保や質の向上に向けた連携先はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

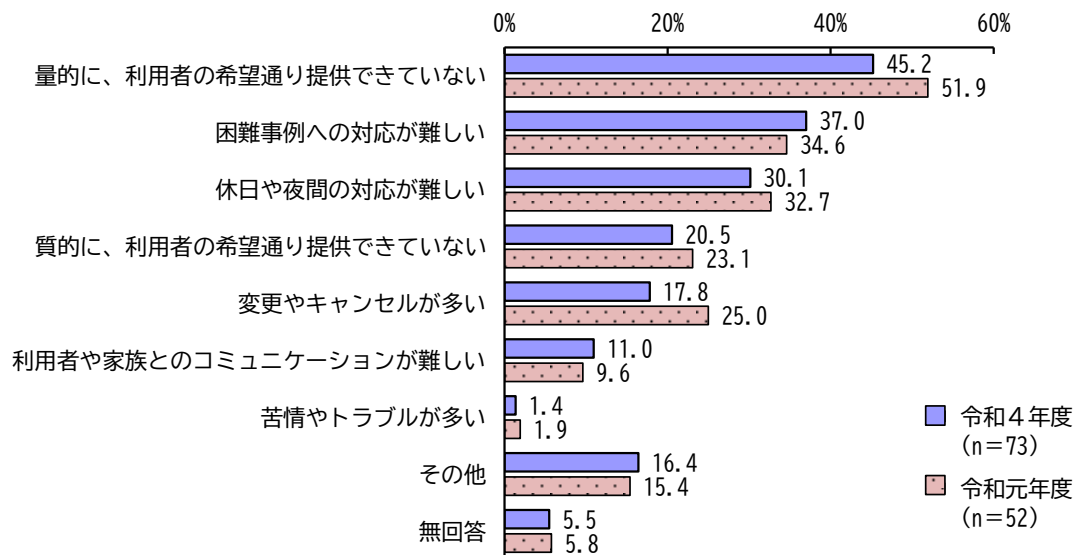


人材確保や質の向上に向けた連携先は、「ハローワーク」が 47.9%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「介護・医療・福祉分野の事業者団体」が 27.4%、「東京都福祉人材センター」が 24.7%、「学校・教育機関あるいはその団体」が 23.3%と 2 割台が続いています。

3 サービス提供について

(1) サービス提供上の課題

問 15 貴事業所でサービスを提供する上で、課題となっていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)



サービス提供上の課題は、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が 45.2%と最も高く、次いで「困難事例への対応が難しい」が 37.0%、「休日や夜間の対応が難しい」が 30.1%と 3 割以上で続いています。

令和元年度と比較すると、「困難事例への対応が難しい」と「利用者や家族とのコミュニケーションが難しい」以外の項目はいずれも令和元年度を下回っており、特に「変更やキャンセルが多い」は 7.2 ポイント、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」は 6.7 ポイント下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	量的に、利用者の希望通り提供できていない	質的に、利用者の希望通り提供できていない	利用者や家族とのコミュニケーションが難しい	困難事例への対応が難しい	休日や夜間の対応が難しい
全体	73	45.2	20.5	11.0	37.0	30.1
サービス体系別						
訪問系	19	68.4	5.3	10.5	10.5	52.6
日中活動系	7	28.6	14.3	0.0	85.7	0.0
居住系・施設系	8	12.5	12.5	25.0	37.5	50.0
訓練系・就労系	19	26.3	10.5	10.5	52.6	10.5
相談系	14	42.9	35.7	14.3	57.1	35.7
地域生活支援事業	12	66.7	0.0	0.0	16.7	58.3
障害児通所支援	18	44.4	38.9	11.1	44.4	16.7

(単位:%)	n	変更やキャンセルが多い	苦情やトラブルが多い	その他	無回答
全体	73	17.8	1.4	16.4	5.5
サービス体系別					
訪問系	19	26.3	0.0	15.8	5.3
日中活動系	7	0.0	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	0.0	12.5	12.5	12.5
訓練系・就労系	19	0.0	0.0	26.3	5.3
相談系	14	7.1	0.0	7.1	0.0
地域生活支援事業	12	33.3	0.0	16.7	0.0
障害児通所支援	18	38.9	0.0	16.7	5.6

サービス体系別にみると、“訪問系”と“地域生活支援事業”では、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が6割半ばを超えて、他のサービスよりも高くなっています。

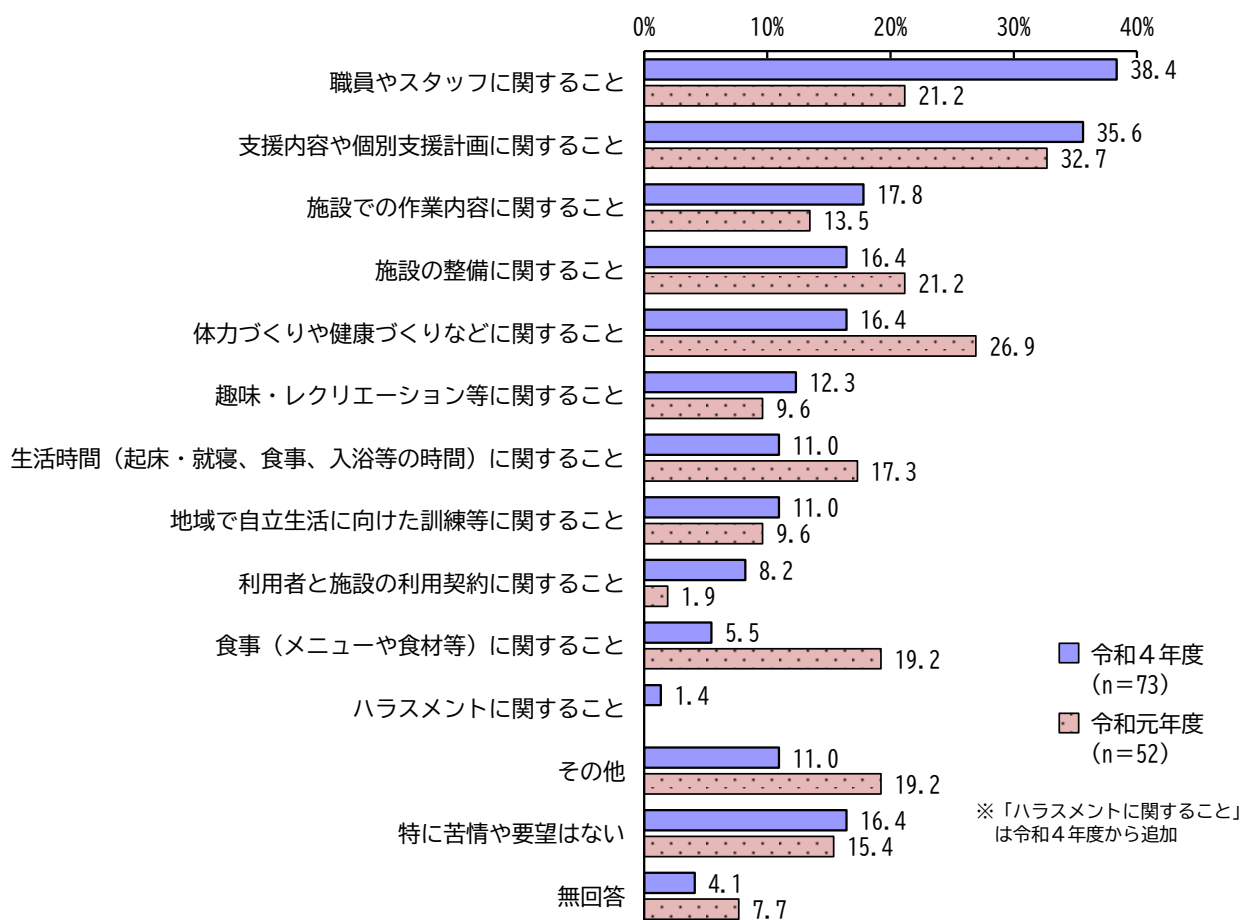
回答数が10件以上の“訓練系・就労系”と“相談系”では、「困難事例への対応が難しい」が5割を超えて最も高くなっています。

“障害児通所支援”では、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」と「困難事例への対応が難しい」がともに44.4%と最も高くなっています。

また、「量的に、利用者の希望通り提供できていない」と「困難事例への対応が難しい」は、いずれのサービスでも回答されています。

(2) サービス利用に関する相談・苦情内容

問 16 貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族の方からどのような相談や苦情を受けますことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



サービス利用に関する相談・苦情内容は、「職員やスタッフに関すること」が38.4%、「支援内容や個別支援計画に関すること」が35.6%と3割半ばを超えて高く、次いで「施設での作業内容に関すること」が17.8%、「施設の整備に関すること」と「体力づくりや健康づくりなどに関すること」がともに16.4%と続いています。

令和元年度と比較すると、「職員やスタッフに関すること」が17.2ポイント上がっています。反対に「食事（メニューや食材等）に関すること」は13.7ポイント、「体力づくりや健康づくりなどに関すること」は10.5ポイントと、令和元年度より10ポイント以上下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	支援内容や個別支援計画に関すること	職員やスタッフに関すること	施設の整備に関すること	利用者や施設の利用契約に関すること	生活時間(起床・就寝、食事、入浴等の時間)に関すること	食事(メニューや食材等)に関すること	施設での作業内容に関すること
全体	73	35.6	38.4	16.4	8.2	11.0	5.5	17.8
サービス体系別								
訪問系	19	10.5	52.6	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0
日中活動系	7	71.4	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	42.9
居住系・施設系	8	37.5	50.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5
訓練系・就労系	19	36.8	47.4	10.5	5.3	5.3	0.0	36.8
相談系	14	71.4	42.9	21.4	28.6	28.6	14.3	42.9
地域生活支援事業	12	41.7	50.0	8.3	8.3	16.7	8.3	8.3
障害児通所支援	18	50.0	22.2	27.8	16.7	22.2	11.1	16.7

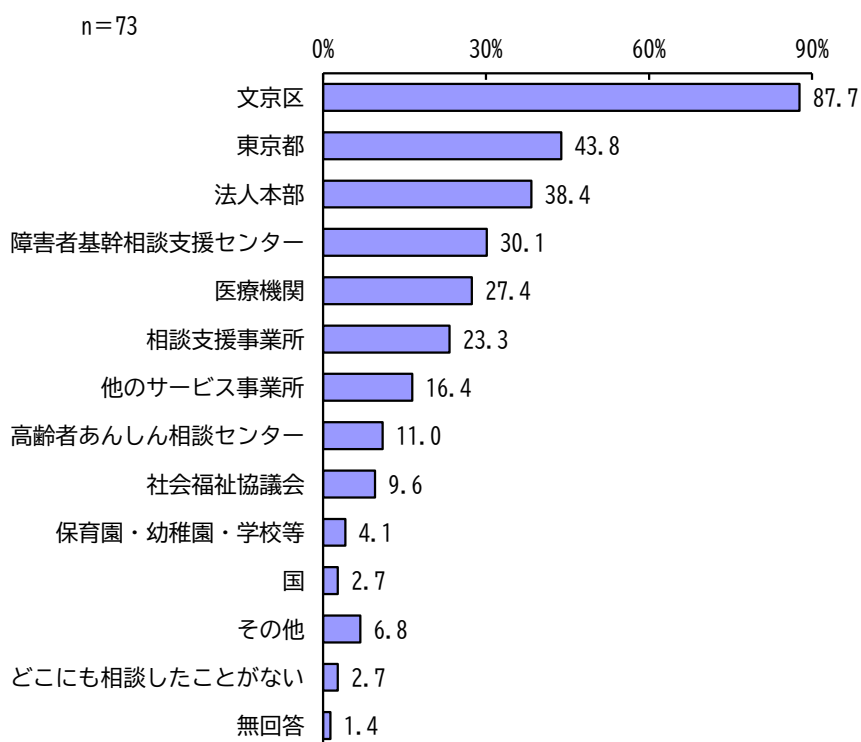
(単位:%)	n	地域で自立生活に向けた訓練等に関すること	体力づくりや健康づくりなどに関すること	趣味・レクリエーション等に関すること	ハラスメントに関すること	その他	特に苦情や要望はない	無回答
全体	73	11.0	16.4	12.3	1.4	11.0	16.4	4.1
サービス体系別								
訪問系	19	5.3	10.5	5.3	0.0	15.8	10.5	10.5
日中活動系	7	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0
訓練系・就労系	19	15.8	15.8	10.5	0.0	15.8	10.5	0.0
相談系	14	21.4	35.7	21.4	7.1	0.0	14.3	0.0
地域生活支援事業	12	8.3	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0
障害児通所支援	18	11.1	16.7	16.7	0.0	11.1	16.7	5.6

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「支援内容や個別支援計画に関すること」又は「職員やスタッフに関すること」が最も高くなっています。

“相談系”では、ほとんどの項目で他のサービスよりも高くなっています。

(3) 問題発生時の相談先

問 17 貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)



問題発生時の相談先は、「文京区」が 87.7%と 8 割半ばを超えて最も高く、次いで「東京都」が 43.8%、「法人本部」が 38.4%、「障害者基幹相談支援センター」が 30.1%と続いています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	文京区	東京都	国	相談支援事業所	障害者基幹相談支援センター	高齢者あんしん相談センター	社会福祉協議会
全体	73	87.7	43.8	2.7	23.3	30.1	11.0	9.6
訪問系	19	73.7	31.6	5.3	36.8	31.6	26.3	10.5
日中活動系	7	100.0	42.9	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0
居住系・施設系	8	100.0	75.0	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5
訓練系・就労系	19	94.7	57.9	0.0	26.3	31.6	0.0	0.0
相談系	14	92.9	28.6	0.0	7.1	64.3	14.3	21.4
地域生活支援事業	12	75.0	58.3	8.3	50.0	33.3	33.3	16.7
障害児通所支援	18	88.9	50.0	0.0	11.1	16.7	5.6	11.1

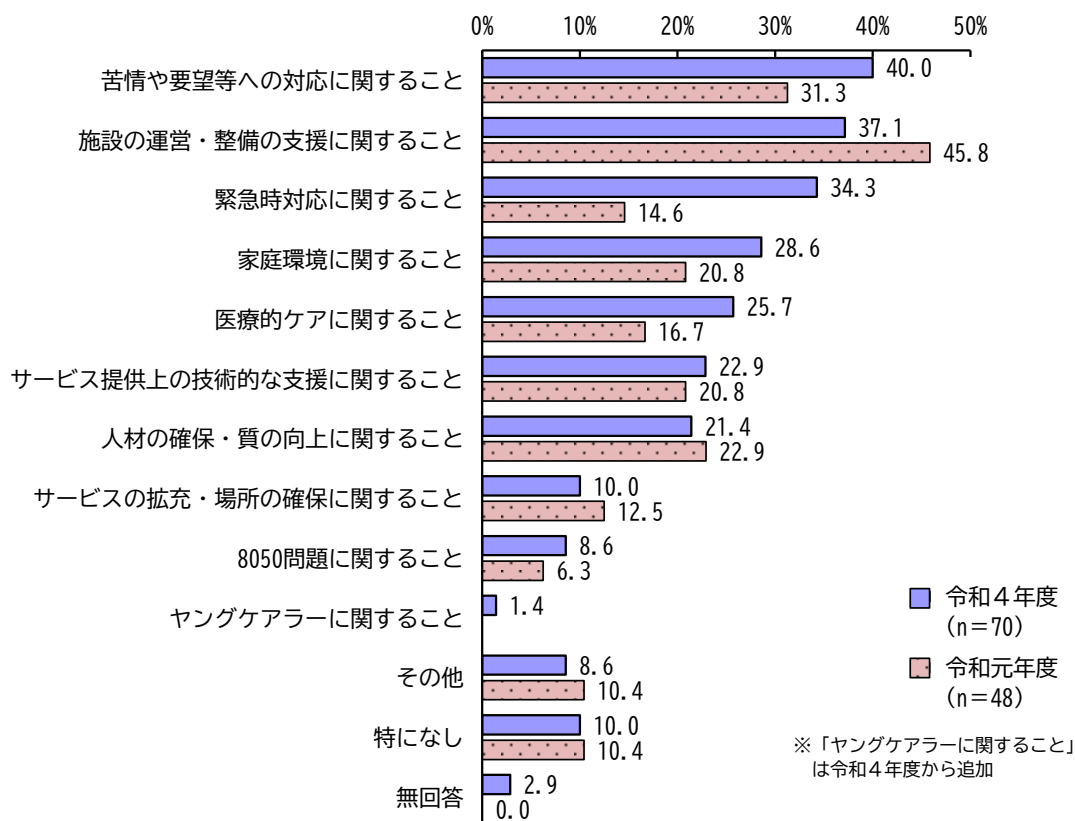
(単位:%)	n	医療機関	保育園・幼稚園・学校等	法人本部	他のサービス事業所	その他	どこにも相談したことがない	無回答
全体	73	27.4	4.1	38.4	16.4	6.8	2.7	1.4
訪問系	19	21.1	0.0	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3
日中活動系	7	0.0	0.0	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0
居住系・施設系	8	37.5	0.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	31.6	0.0	52.6	15.8	5.3	0.0	0.0
相談系	14	28.6	0.0	57.1	21.4	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	25.0	0.0	41.7	16.7	8.3	8.3	0.0
障害児通所支援	18	16.7	16.7	38.9	22.2	5.6	5.6	0.0

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「文京区」が7割半ば以上で最も高くなっています。

“相談系”では、「障害者基幹相談支援センター」が64.3%と、他のサービスよりも高くなっています。

(4) 相談内容

問 17 で「どこかに相談した」と回答された方にお聞きします。
 問 17-1 相談した内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



問題発生時の相談内容は、「苦情や要望等への対応に関すること」が 40.0%と 4割に達し最も高く、次いで「施設の運営・整備の支援に関すること」が 37.1%、「緊急時対応に関すること」が 34.3%と 3割台が続いています。

令和元年度と比較すると、「緊急時対応に関すること」が 19.7ポイント上がっており、「医療的ケアに関すること」、「苦情や要望等への対応に関すること」、「家庭環境に関すること」も 7ポイント以上上がっています。反対に「施設の運営・整備の支援に関すること」は 8.7ポイント下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	施設の運営・整備の支援に関すること	人材の確保・質の向上に関すること	サービスの拡充・場所の確保に関すること	サービスの提供上の技術的な支援に関すること	家庭環境に関すること	8050問題に関すること	医療的ケアに関すること
全体	70	37.1	21.4	10.0	22.9	28.6	8.6	25.7
サービス体系別								
訪問系	17	11.8	17.6	5.9	17.6	23.5	5.9	17.6
日中活動系	7	71.4	57.1	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3
居住系・施設系	8	62.5	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	37.5
訓練系・就労系	19	73.7	21.1	15.8	26.3	36.8	5.3	31.6
相談系	14	42.9	35.7	21.4	42.9	42.9	28.6	35.7
地域生活支援事業	11	36.4	36.4	9.1	27.3	27.3	9.1	27.3
障害児通所支援	17	23.5	11.8	5.9	11.8	29.4	5.9	23.5

(単位:%)	n	ヤングケアラーに関すること	緊急時対応に関すること	苦情や要望等への対応に関すること	その他	特になし	無回答
全体	70	1.4	34.3	40.0	8.6	10.0	2.9
サービス体系別							
訪問系	17	5.9	29.4	35.3	5.9	5.9	0.0
日中活動系	7	0.0	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	0.0	36.8	42.1	0.0	5.3	0.0
相談系	14	0.0	64.3	57.1	0.0	7.1	0.0
地域生活支援事業	11	0.0	36.4	36.4	9.1	0.0	9.1
障害児通所支援	17	0.0	23.5	29.4	17.6	23.5	11.8

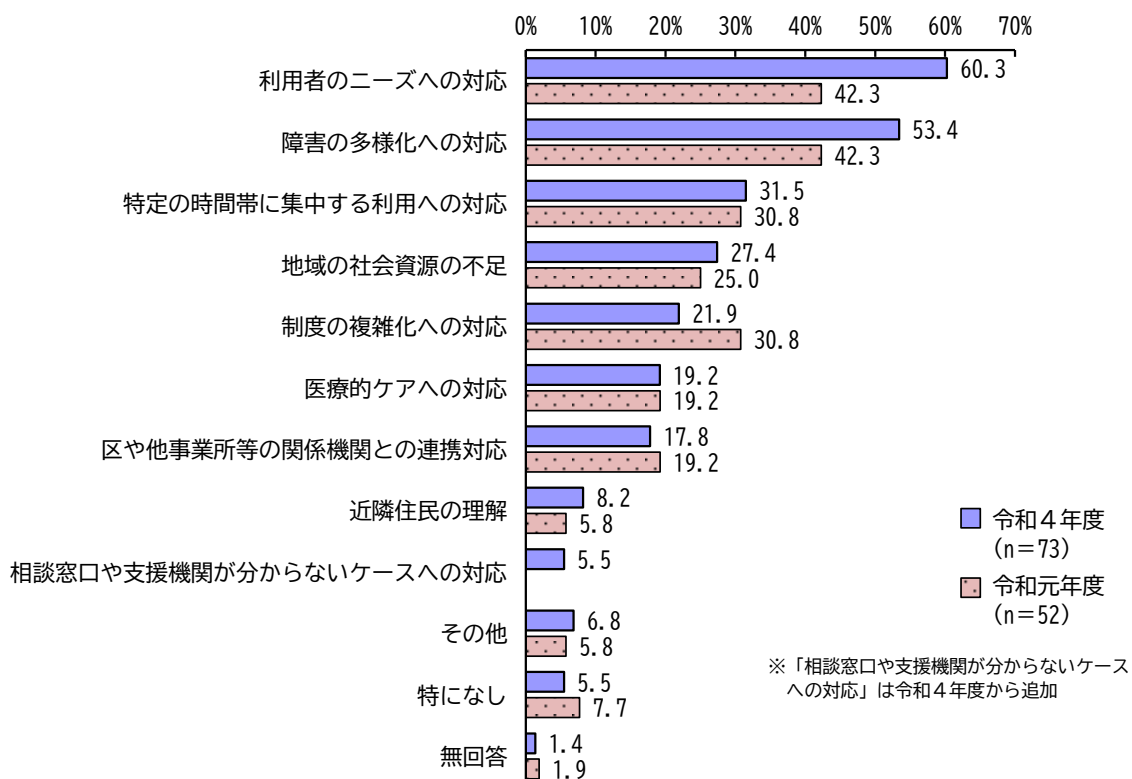
サービス体系別にみると、「訪問系」、「相談系」、「障害児通所支援」以外のサービスではいずれも「施設の運営・整備の支援に関すること」が最も高く、特に「訓練系・就労系」では73.7%と7割を超えています。

また、「緊急時対応に関すること」と「苦情や要望等への対応に関すること」は、いずれのサービスでも2割以上となっています。

「相談系」では、「緊急時対応に関すること」が64.3%と6割半ば近くで、他のサービスよりも高くなっています。

(5) 支援に関する困難

問 18 貴事業所が支援に関して困難さを感じることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)



支援に関して感じる困難は、「利用者のニーズへの対応」が 60.3%と6割に達し最も高く、次いで「障害の多様化への対応」が 53.4%、「特定の時間帯に集中する利用への対応」が 31.5%と続いています。

令和元年度と比較すると、「利用者のニーズへの対応」が18.0ポイント、「障害の多様化への対応」が11.1ポイントと令和元年度より10ポイント以上上がっています。一方、「制度の複雑化への対応」は令和元年度より8.9ポイント下がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)		n	特定の時間帯に集中する利用への対応	障害の多様化への対応	制度の複雑化への対応	医療的ケアへの対応	利用者のニーズへの対応	区や他事業所等の関係機関との連携対応
全体		73	31.5	53.4	21.9	19.2	60.3	17.8
サービス体系別	訪問系	19	57.9	36.8	15.8	26.3	63.2	15.8
	日中活動系	7	28.6	57.1	0.0	0.0	57.1	14.3
	居住系・施設系	8	25.0	50.0	12.5	37.5	37.5	0.0
	訓練系・就労系	19	10.5	68.4	21.1	5.3	63.2	10.5
	相談系	14	14.3	64.3	21.4	21.4	64.3	28.6
	地域生活支援事業	12	66.7	33.3	16.7	50.0	41.7	8.3
	障害児通所支援	18	22.2	44.4	33.3	16.7	61.1	27.8

(単位:%)		n	近隣住民の理解	地域の社会資源の不足	相談窓口や支援機関が分からないケースへの対応	その他	特になし	無回答
全体		73	8.2	27.4	5.5	6.8	5.5	1.4
サービス体系別	訪問系	19	0.0	10.5	5.3	0.0	5.3	5.3
	日中活動系	7	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0
	居住系・施設系	8	12.5	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
	訓練系・就労系	19	10.5	21.1	5.3	15.8	5.3	0.0
	相談系	14	21.4	57.1	0.0	7.1	7.1	0.0
	地域生活支援事業	12	16.7	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0
	障害児通所支援	18	5.6	44.4	11.1	16.7	0.0	0.0

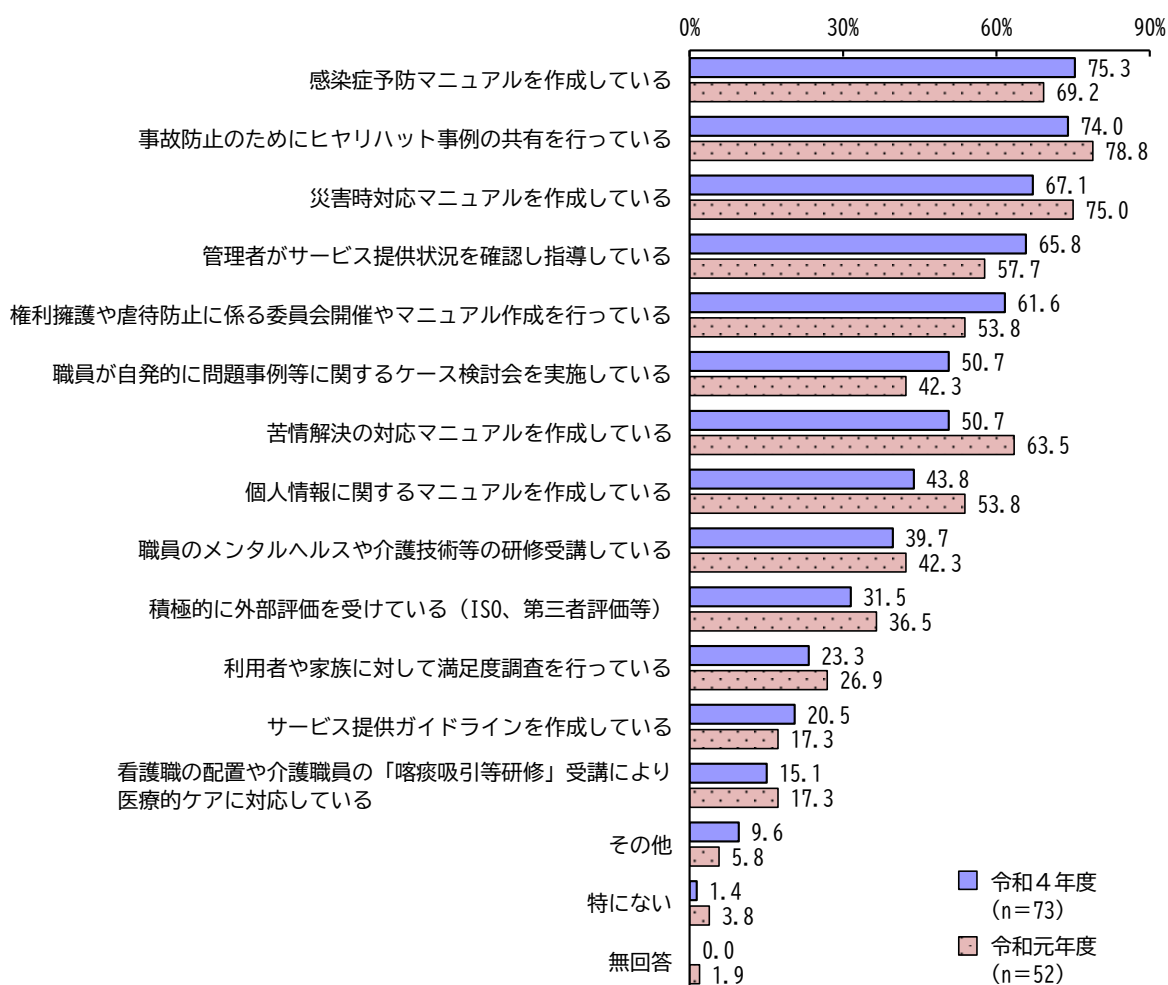
サービス体系別にみると、回答数が10件以上のサービスでは、“地域生活支援事業”を除くいずれのサービスでも、「利用者のニーズへの対応」が6割を超えています。

また、“訓練系・就労系”と“相談系”でも「障害の多様化への対応」が、“地域生活支援事業”でも「特定の時間帯に集中する利用への対応」がそれぞれ6割を超えています。

(6) サービス向上のための取り組み

問 19 貴事業所がサービス向上のために取り組んでいることはなんですか。

(あてはまるものすべてに○)



サービス向上のために取り組んでいることは、「感染症予防マニュアルを作成している」が 75.3%、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」が 74.0%と 7 割を超えており、次いで「災害時対応マニュアルを作成している」が 67.1%、「管理者がサービス提供状況を確認し指導している」が 65.8%、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」が 61.6%と 6 割台で続いています。

令和元年度と比較すると、「職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している」が 8.4 ポイント、「管理者がサービス提供状況を確認し指導している」が 8.1 ポイント、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」が 7.8 ポイント、「感染症予防マニュアルを作成している」が 6.1 ポイントと 5 ポイント以上上がっています。反対に「苦情解決の対応マニュアルを作成している」は 12.8 ポイント、「個人情報に関するマニュアルを作成している」は 10.0 ポイントと令和元年度より 10 ポイント以上下がっています。

【クロス集計】経営主体別

(単位:%)	n	職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している	管理者がサービス提供状況を確認し指導している	個人情報に関するマニュアルを作成している	積極的に外部評価を受けている(ISO、第三者評価等)
全体	73	50.7	65.8	43.8	31.5
経営主体別					
社会福祉法人	29	69.0	62.1	48.3	58.6
社団法人・財団法人	4	75.0	75.0	25.0	0.0
株式会社・有限会社	29	41.4	65.5	44.8	6.9
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	20.0	60.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	100.0	50.0	0.0
その他	3	0.0	66.7	33.3	100.0

(単位:%)	n	看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している	サービス提供ガイドラインを作成している	災害時対応マニュアルを作成している	感染症予防マニュアルを作成している
全体	73	15.1	20.5	67.1	75.3
経営主体別					
社会福祉法人	29	6.9	24.1	75.9	79.3
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	100.0	75.0
株式会社・有限会社	29	17.2	24.1	65.5	79.3
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	20.0	0.0	20.0	40.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	50.0	50.0
その他	3	66.7	0.0	66.7	100.0

(単位:%)	n	事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている	利用者や家族に対して満足度調査を行っている	苦情解決の対応マニュアルを作成している	権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている
全体	73	74.0	23.3	50.7	61.6
経営主体別					
社会福祉法人	29	75.9	20.7	62.1	75.9
社団法人・財団法人	4	75.0	25.0	50.0	75.0
株式会社・有限会社	29	79.3	31.0	51.7	51.7
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	60.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	0.0	0.0	50.0
その他	3	66.7	33.3	33.3	100.0

(単位:%)	n	職員のメンタルヘルスや介護技術等の研修受講している	その他	特になし	無回答
全体	73	39.7	9.6	1.4	0.0
経営主体別					
社会福祉法人	29	55.2	10.3	0.0	0.0
社団法人・財団法人	4	50.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	27.6	6.9	0.0	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	20.0	20.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	0.0	0.0
その他	3	33.3	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”と“株式会社・有限会社”ともに、「感染症予防マニュアルを作成している」が79.3%と8割近くで最も高くなっています。

また、“社会福祉法人”では、「災害時対応マニュアルを作成している」、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」、「権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている」がそれぞれ7割半ばを超えています。

“株式会社・有限会社”では「感染症予防マニュアルを作成している」と同じく、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」も79.3%と8割近くで最も高くなっています。

また、「管理者がサービス提供状況を確認し指導している」と「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」は、いずれの経営主体でも5割以上となっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している	管理者がサービス提供状況を確認し指導している	個人情報に関するマニュアルを作成している	積極的に外部評価を受けている(ISO、第三者評価等)
全体	73	50.7	65.8	43.8	31.5
サービス体系別					
訪問系	19	26.3	68.4	42.1	10.5
日中活動系	7	57.1	57.1	71.4	57.1
居住系・施設系	8	62.5	75.0	87.5	100.0
訓練系・就労系	19	68.4	68.4	47.4	57.9
相談系	14	57.1	64.3	42.9	28.6
地域生活支援事業	12	16.7	58.3	50.0	16.7
障害児通所支援	18	44.4	77.8	38.9	16.7

(単位:%)	n	看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している	サービス提供ガイドラインを作成している	災害時対応マニュアルを作成している	感染症予防マニュアルを作成している
全体	73	15.1	20.5	67.1	75.3
サービス体系別					
訪問系	19	36.8	26.3	52.6	73.7
日中活動系	7	28.6	42.9	85.7	100.0
居住系・施設系	8	12.5	37.5	87.5	87.5
訓練系・就労系	19	15.8	31.6	73.7	78.9
相談系	14	21.4	28.6	78.6	78.6
地域生活支援事業	12	33.3	33.3	58.3	75.0
障害児通所支援	18	11.1	16.7	72.2	72.2

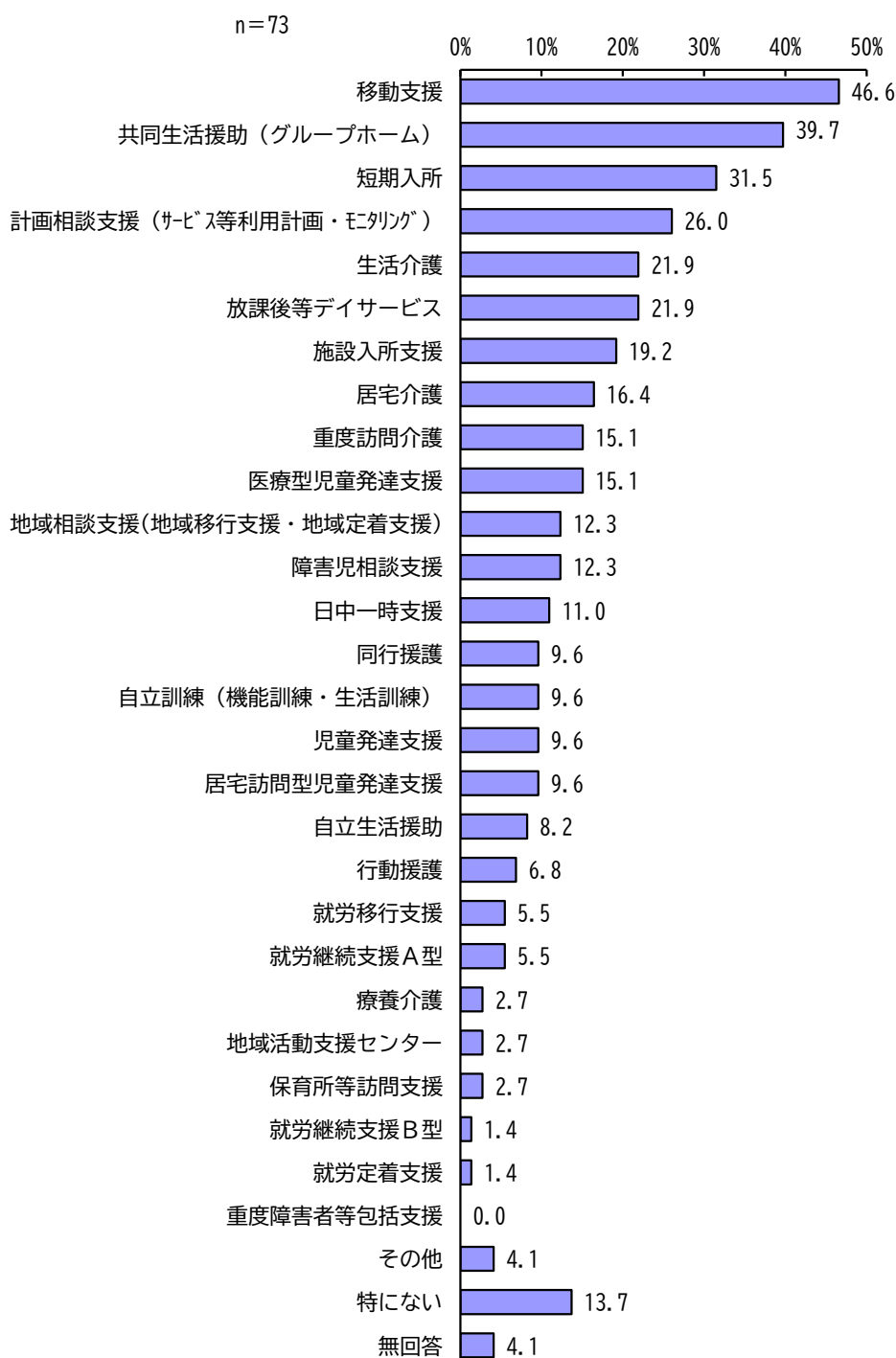
(単位:%)	n	事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている	利用者や家族に対して満足度調査を行っている	苦情解決の対応マニュアルを作成している	権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている
全体	73	74.0	23.3	50.7	61.6
サービス体系別					
訪問系	19	73.7	15.8	42.1	42.1
日中活動系	7	85.7	28.6	71.4	100.0
居住系・施設系	8	87.5	25.0	62.5	75.0
訓練系・就労系	19	73.7	21.1	78.9	78.9
相談系	14	64.3	21.4	57.1	64.3
地域生活支援事業	12	75.0	16.7	41.7	41.7
障害児通所支援	18	83.3	55.6	44.4	66.7

(単位:%)	n	職員のメンタルヘルスや介護技術等の研修受講している	その他	特になし	無回答
全体	73	39.7	9.6	1.4	0.0
サービス体系別					
訪問系	19	36.8	5.3	0.0	0.0
日中活動系	7	85.7	14.3	0.0	0.0
居住系・施設系	8	50.0	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	47.4	5.3	5.3	0.0
相談系	14	57.1	14.3	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	50.0	16.7	0.0	0.0
障害児通所支援	18	27.8	5.6	0.0	0.0

サービス体系別にみると、「管理者がサービス提供状況を確認し指導している」、「災害時対応マニュアルを作成している」、「感染症予防マニュアルを作成している」、「事故防止のためにヒヤリハット事例の共有を行っている」は、いずれのサービスでも5割以上となっています。

(7) 区に不足している障害福祉サービス等

問 20 現在、区に不足している障害福祉サービス等はなんだと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○) ※介護保険サービスは含めないでください



現在区に不足している障害福祉サービス等は、「移動支援」が 46.6%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「共同生活援助 (グループホーム)」が 39.7%、「短期入所」が 31.5%と 3 割台が続いています。

【クロス集計】経営主体別

	n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
(単位:%)									
全体	73	16.4	15.1	6.8	0.0	9.6	31.5	21.9	2.7
経営主体別									
社会福祉法人	29	13.8	17.2	3.4	0.0	10.3	55.2	44.8	3.4
社団法人・財団法人	4	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	17.2	13.8	6.9	0.0	3.4	6.9	0.0	3.4
特定非営利活動法人 (NPO法人)	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	66.7	0.0

	n	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援
(単位:%)									
全体	73	9.6	8.2	5.5	5.5	1.4	1.4	39.7	19.2
経営主体別									
社会福祉法人	29	10.3	17.2	3.4	6.9	0.0	3.4	72.4	34.5
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0
株式会社・有限会社	29	10.3	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	6.9	3.4
特定非営利活動法人 (NPO法人)	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	100.0	33.3

	n	地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング)	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
(単位:%)									
全体	73	12.3	26.0	2.7	46.6	11.0	9.6	15.1	9.6
経営主体別									
社会福祉法人	29	20.7	41.4	6.9	48.3	17.2	10.3	20.7	10.3
社団法人・財団法人	4	0.0	25.0	0.0	100.0	0.0	25.0	50.0	25.0
株式会社・有限会社	29	3.4	10.3	0.0	31.0	6.9	6.9	6.9	6.9
特定非営利活動法人 (NPO法人)	5	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3

	n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	73	21.9	2.7	12.3	4.1	13.7	4.1
経営主体別							
社会福祉法人	29	20.7	0.0	17.2	6.9	3.4	3.4
社団法人・財団法人	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	17.2	6.9	6.9	3.4	27.6	6.9
特定非営利活動法人 (NPO法人)	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「共同生活援助（グループホーム）」が72.4%と7割を超えて最も高くなっています。また、「短期入所」も5割を超えて高くなっています。

“株式会社・有限会社”では「移動支援」が31.0%と3割を超えて最も高くなっています。

また、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」と「移動支援」は、いずれの経営主体も回答しています。

【クロス集計】サービス体系別

	n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
(単位:%)									
全体	73	16.4	15.1	6.8	0.0	9.6	31.5	21.9	2.7
サービス体系別									
訪問系	19	31.6	26.3	5.3	0.0	10.5	15.8	5.3	5.3
日中活動系	7	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	71.4	57.1	0.0
居住系・施設系	8	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	12.5
訓練系・就労系	19	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	36.8	31.6	0.0
相談系	14	35.7	21.4	7.1	0.0	7.1	64.3	28.6	0.0
地域生活支援事業	12	16.7	25.0	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0
障害児通所支援	18	5.6	0.0	16.7	0.0	11.1	22.2	16.7	0.0

	n	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援
(単位:%)									
全体	73	9.6	8.2	5.5	5.5	1.4	1.4	39.7	19.2
サービス体系別									
訪問系	19	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	10.5
日中活動系	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	57.1
居住系・施設系	8	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	75.0	25.0
訓練系・就労系	19	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	57.9	21.1
相談系	14	14.3	14.3	7.1	14.3	0.0	0.0	78.6	42.9
地域生活支援事業	12	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	33.3	0.0
障害児通所支援	18	5.6	0.0	11.1	5.6	5.6	0.0	22.2	11.1

	n	地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	計画相談支援(サービス等利用計画・モニタリング)	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
(単位:%)									
全体	73	12.3	26.0	2.7	46.6	11.0	9.6	15.1	9.6
サービス体系別									
訪問系	19	5.3	15.8	0.0	42.1	0.0	0.0	0.0	0.0
日中活動系	7	0.0	28.6	0.0	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	12.5	12.5	12.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	5.3	36.8	0.0	31.6	15.8	0.0	0.0	0.0
相談系	14	35.7	42.9	7.1	57.1	21.4	14.3	42.9	28.6
地域生活支援事業	12	25.0	25.0	8.3	58.3	8.3	8.3	8.3	8.3
障害児通所支援	18	11.1	16.7	0.0	61.1	11.1	27.8	38.9	22.2

	n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	特にない	無回答
(単位:%)							
全体	73	21.9	2.7	12.3	4.1	13.7	4.1
サービス体系別							
訪問系	19	5.3	0.0	0.0	0.0	15.8	5.3
日中活動系	7	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
居住系・施設系	8	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0
訓練系・就労系	19	5.3	0.0	0.0	5.3	15.8	5.3
相談系	14	35.7	0.0	21.4	0.0	7.1	0.0
地域生活支援事業	12	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3
障害児通所支援	18	55.6	11.1	38.9	5.6	5.6	5.6

サービス体系別にみると、「訪問系」、「地域生活支援事業」、「障害児通所支援」では、「移動支援」が最も高く、それ以外のサービスでは、「共同生活援助(グループホーム)」が最も高くなっています。

(8) 今後参入を考えているサービス等

問 21 貴事業所で今後参入を考えている障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。

(あてはまるものすべてに○) ※介護保険サービスは含めないでください



今後参入を考えているサービス等は、「その他」を除くと「放課後等デイサービス」が 12.3%と 1割を超えて最も高く、次いで「共同生活援助 (グループホーム)」が 5.5%で続いています。

一方、「参加は考えていない」は 64.4%と 6割半ば近くを占めています。

【クロス集計】経営主体別

(単位:%)	n	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	重度障害者等包括支援	同行援護	短期入所	生活介護	療養介護
全体	73	1.4	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0
経営主体別									
社会福祉法人	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労定着支援	共同生活援助（グループホーム）	施設入所支援
全体	73	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0
経営主体別									
社会福祉法人	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）	地域活動支援センター	移動支援	日中一時支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援
全体	73	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
経営主体別									
社会福祉法人	29	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

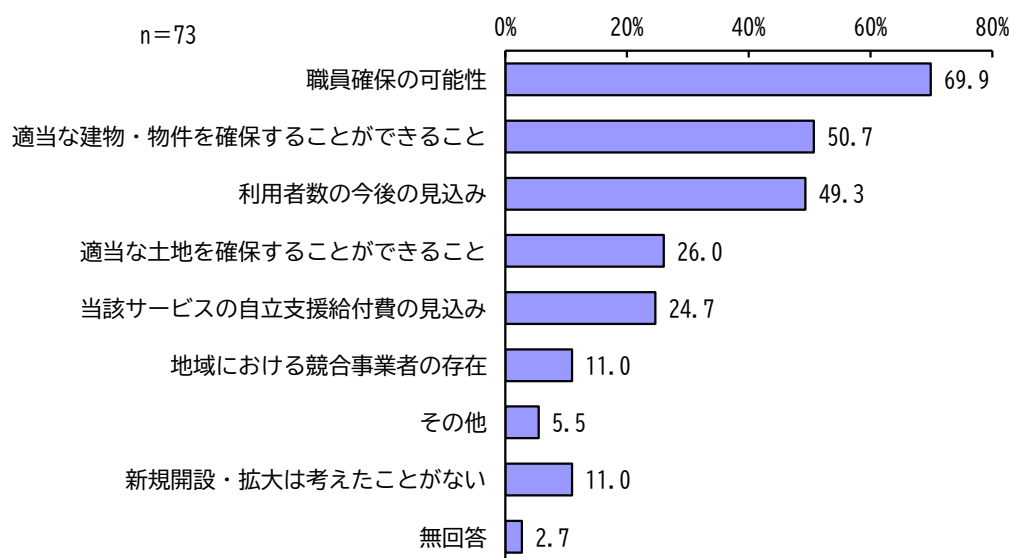
(単位:%)	n	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	障害児相談支援	その他	参入は考えていない	無回答
全体	73	12.3	0.0	0.0	6.8	64.4	5.5
経営主体別							
社会福祉法人	29	6.9	0.0	0.0	3.4	65.5	10.3
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
株式会社・有限会社	29	13.8	0.0	0.0	10.3	69.0	0.0
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0

経営主体別にみると、「参入は考えていない」は“合同会社・合資会社”以外のすべての経営主体で6割以上を占めています。

サービスについてみると“社会福祉法人”では「共同生活援助（グループホーム）」、「株式会社・有限会社」では「放課後等デイサービス」が最も高くなっています。

(9) 事業拡大・新規参入する上で重視すること

問 22 貴事業所が事業の新規開設・拡大する上で重視することはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)



事業拡大・新規参入する上で重視することは、「職員確保の可能性」が 69.9%と7割で最も高く、次いで「適当な建物・物件を確保することができること」が 50.7%、「利用者数の今後の見込み」が 49.3%と5割前後が続いています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	利用者数の今後の見込み	地域における競合事業者の存在	職員確保の可能性	適当な土地を確保することができること	適当な建物・物件を確保することができること
全体	73	49.3	11.0	69.9	26.0	50.7
経営主体別						
社会福祉法人	29	41.4	3.4	69.0	37.9	62.1
社団法人・財団法人	4	100.0	25.0	100.0	25.0	50.0
株式会社・有限会社	29	55.2	13.8	72.4	10.3	37.9
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	0.0	60.0	20.0	40.0
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0
その他	3	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7
サービス体系別						
訪問系	19	21.1	5.3	68.4	15.8	21.1
日中活動系	7	57.1	28.6	71.4	42.9	57.1
居住系・施設系	8	37.5	0.0	62.5	25.0	37.5
訓練系・就労系	19	78.9	15.8	78.9	47.4	68.4
相談系	14	50.0	7.1	71.4	35.7	64.3
地域生活支援事業	12	16.7	0.0	66.7	16.7	25.0
障害児通所支援	18	61.1	16.7	77.8	11.1	44.4

(単位:%)	n	当該サービスの自立支援給付費の見込み	その他	新規開設・拡大は考えたことがない	無回答
全体	73	24.7	5.5	11.0	2.7
経営主体別					
社会福祉法人	29	31.0	6.9	10.3	6.9
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	20.7	3.4	6.9	0.0
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	0.0	40.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	0.0	0.0
その他	3	33.3	0.0	33.3	0.0
サービス体系別					
訪問系	19	10.5	10.5	10.5	0.0
日中活動系	7	57.1	0.0	0.0	14.3
居住系・施設系	8	37.5	12.5	25.0	0.0
訓練系・就労系	19	47.4	5.3	5.3	0.0
相談系	14	42.9	7.1	7.1	0.0
地域生活支援事業	12	25.0	16.7	8.3	0.0
障害児通所支援	18	22.2	0.0	11.1	5.6

経営主体別にみると、「その他」を除くいずれの経営主体でも「職員確保の可能性」が最も高く、「社会福祉法人」では69.0%、「株式会社・有限会社」では72.4%と7割前後となっています。

また、「社会福祉法人」では「適当な建物・物件を確保することができること」が、「株式会社・有限会社」では「利用者数の今後の見込み」が5割半ばを超えています。

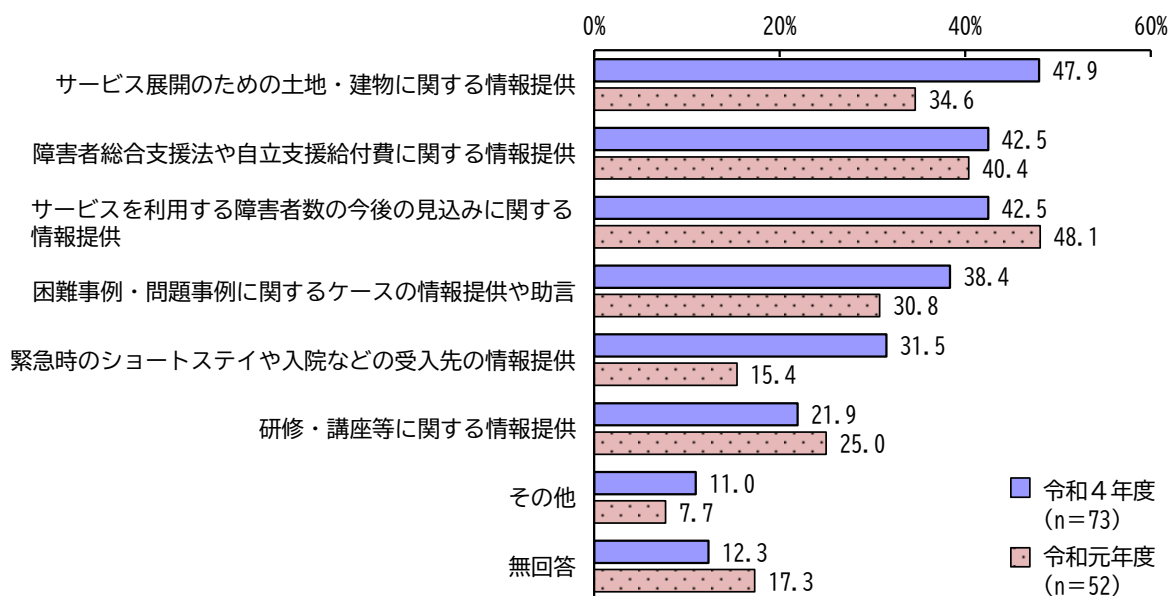
サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「職員確保の可能性」が6割を超えて最も高く、特に「訓練系・就労系」と「障害児通所支援」では7割半ばを超えています。

「訓練系・就労系」では、「利用者数の今後の見込み」も「職員確保の可能性」と同様に78.9%と最も高くなっています。

また、「訓練系・就労系」と「相談系」では、「適当な建物・物件を確保することができること」が6割を超えて、他のサービスよりも高くなっています。

(10) 新規参入に必要なこと

問 23 貴事業所が障害福祉サービスへの新規参入を進めていくために必要と思うことはなんですか。(あてはまるものすべてに○)



新規参入を進めるために必要なことは、「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」が47.9%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」と「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」がともに42.5%と4割台で続いています。

令和元年度と比較すると、「緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供」が16.1ポイント、「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」が13.3ポイント、「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」が7.6ポイント上がっており、反対に「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」が5.6ポイント下がっています。

【クロス集計】経営主体別・サービス体系別

(単位:%)	n	障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供	サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供	サービス展開のための土地・建物に関する情報提供	困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言
全体	73	42.5	42.5	47.9	38.4
経営主体別					
社会福祉法人	29	41.4	41.4	58.6	31.0
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	25.0	75.0
株式会社・有限会社	29	48.3	44.8	37.9	41.4
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	40.0	40.0	20.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	50.0	50.0
その他	3	33.3	66.7	66.7	66.7
サービス体系別					
訪問系	19	42.1	21.1	31.6	31.6
日中活動系	7	14.3	42.9	57.1	42.9
居住系・施設系	8	37.5	50.0	75.0	25.0
訓練系・就労系	19	68.4	68.4	52.6	47.4
相談系	14	28.6	35.7	42.9	57.1
地域生活支援事業	12	16.7	16.7	33.3	16.7
障害児通所支援	18	27.8	38.9	33.3	33.3

(単位:%)	n	研修・講座等に関する情報提供	緊急時のショートステイや入院などの受入先の情報提供	その他	無回答
全体	73	21.9	31.5	11.0	12.3
経営主体別					
社会福祉法人	29	20.7	37.9	17.2	17.2
社団法人・財団法人	4	0.0	100.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	24.1	24.1	3.4	6.9
特定非営利活動法人（NPO法人）	5	20.0	0.0	20.0	20.0
合同会社・合資会社	2	50.0	50.0	50.0	0.0
その他	3	33.3	0.0	0.0	33.3
サービス体系別					
訪問系	19	21.1	21.1	15.8	10.5
日中活動系	7	14.3	42.9	0.0	42.9
居住系・施設系	8	25.0	37.5	25.0	12.5
訓練系・就労系	19	31.6	26.3	5.3	15.8
相談系	14	14.3	42.9	14.3	7.1
地域生活支援事業	12	16.7	8.3	25.0	25.0
障害児通所支援	18	22.2	27.8	11.1	22.2

経営主体別にみると、“社会福祉法人”では、「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」が58.6%と6割近くで最も高く、「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」と「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」がともに41.4%と続いています。

“株式会社・有限会社”では「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」が48.3%と4割半ばを超えて最も高く、「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」、「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」も4割台となっています。

サービス体系別にみると、“訪問系”では「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」が4割を超えて最も高くなっています。

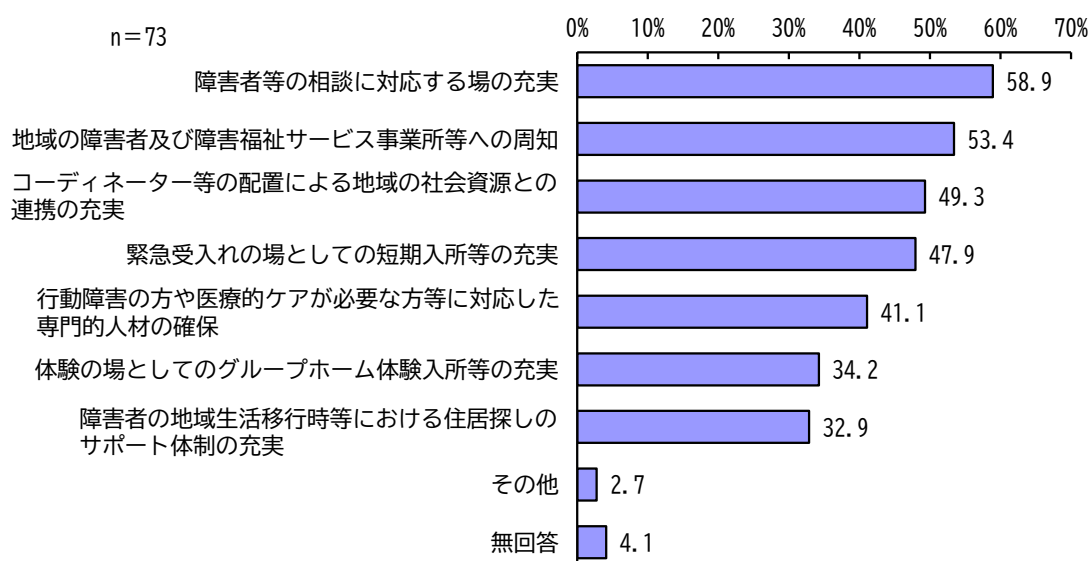
“訓練系・就労系”では、「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供」と「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」が6割半ばを超えて最も高くなっています。

“相談系”では、「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」が5割半ばを超えて最も高くなっています。

“地域生活支援事業”では「サービス展開のための土地・建物に関する情報提供」、「障害児通所支援」では「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供」がそれぞれ3割を超えて最も高くなっています。

(11) 地域生活支援拠点の機能充実に向けて必要なこと

問 24 貴事業所が地域生活支援拠点の機能の充実に向けて必要と思うことはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)



地域生活支援拠点の機能充実に向けて必要なことは、「障害者等の相談に対応する場の充実」が 58.9%、「地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知」が 53.4%と 5 割を超え、次いで「コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実」が 49.3%、「緊急受入れの場としての短期入所等の充実」が 47.9%と続いています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知	障害者等の相談に対応する場の充実	コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実	緊急受入れの場としての短期入所等の充実	体験の場としてのグループホーム体験入所等の充実
全体	73	53.4	58.9	49.3	47.9	34.2
サービス体系別						
訪問系	19	57.9	47.4	36.8	31.6	21.1
日中活動系	7	42.9	28.6	71.4	57.1	28.6
居住系・施設系	8	62.5	50.0	75.0	62.5	62.5
訓練系・就労系	19	57.9	73.7	63.2	47.4	36.8
相談系	14	42.9	42.9	64.3	85.7	64.3
地域生活支援事業	12	41.7	50.0	33.3	33.3	41.7
障害児通所支援	18	38.9	66.7	38.9	27.8	33.3

(単位:%)	n	行動障害の方や医療的ケアが必要な方等に対応した専門的人材の確保	障害者の地域生活移行時における住居探しのサポート体制の充実	その他	無回答
全体	73	41.1	32.9	2.7	4.1
サービス体系別					
訪問系	19	31.6	15.8	0.0	5.3
日中活動系	7	28.6	57.1	0.0	14.3
居住系・施設系	8	75.0	62.5	12.5	0.0
訓練系・就労系	19	42.1	47.4	0.0	5.3
相談系	14	50.0	57.1	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	41.7	41.7	0.0	8.3
障害児通所支援	18	44.4	16.7	5.6	0.0

サービス体系別にみると、“訪問系”では、「地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知」が5割半ばを超えて最も高くなっています。

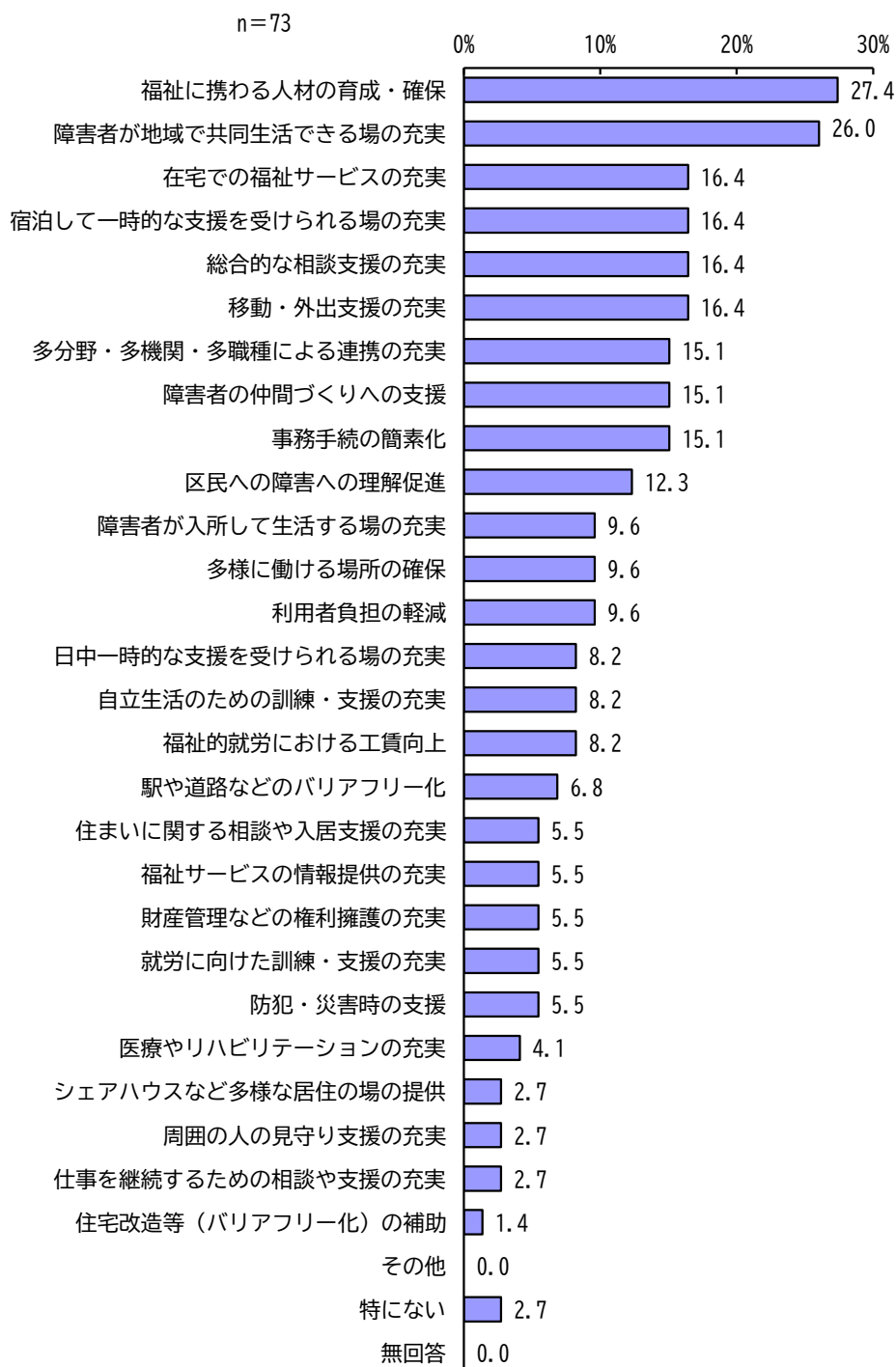
“訓練系・就労系”、“地域生活支援事業”、“障害児通所支援”では、「障害者等の相談に対応する場の充実」が最も高く、特に“訓練系・就労系”では7割を超えて、他のサービスよりも高くなっています。

“相談系”では、「緊急受入れの場としての短期入所等の充実」が8割半ばを超えて、他のサービスよりも高くなっています。

また、回答数が10件以上のサービスでは、ほとんどの項目で3割以上の回答がみられます。

(12) 今後の障害福祉施策充実に必要なこと

問 25 今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)



今後の障害福祉施策充実に向けて必要なことは、「福祉に携わる人材の育成・確保」が 27.4%と最も多く、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が 26.0%と続いています。

【クロス集計】経営主体別

(単位:%)	n	在宅での福祉サービスの充実	障害者が入所して生活する場の充実	障害者が地域で共同生活できる場の充実	日中一時的な支援を受けられる場の充実	宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実	住宅改造等(バリアフリー化)の補助	住まいに関する相談や入居支援の充実	シェアハウスなど多様な居住の場の提供
全体	73	16.4	9.6	26.0	8.2	16.4	1.4	5.5	2.7
経営主体別									
社会福祉法人	29	10.3	17.2	41.4	6.9	27.6	0.0	10.3	0.0
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	27.6	3.4	6.9	13.8	3.4	3.4	3.4	6.9
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
合同会社・合資会社	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	福祉サービスの情報提供の充実	財産管理などの権利擁護の充実	総合的な相談支援の充実	区民への障害への理解促進	周囲の人の見守り支援の充実	移動・外出支援の充実	駅や道路などのバリアフリー化	自立生活のための訓練・支援の充実
全体	73	5.5	5.5	16.4	12.3	2.7	16.4	6.8	8.2
経営主体別									
社会福祉法人	29	3.4	6.9	10.3	10.3	6.9	24.1	3.4	10.3
社団法人・財団法人	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	6.9	6.9	17.2	10.3	0.0	10.3	10.3	10.3
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	福祉的就労における工賃向上	就労に向けた訓練・支援の充実	多様に働ける場所の確保	仕事を継続するための相談や支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	福祉に携わる人材の育成・確保	多分野・多機関・多職種による連携の充実	障害者の仲間づくりへの支援
全体	73	8.2	5.5	9.6	2.7	4.1	27.4	15.1	15.1
経営主体別									
社会福祉法人	29	13.8	0.0	6.9	0.0	3.4	27.6	6.9	13.8
社団法人・財団法人	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
株式会社・有限会社	29	6.9	3.4	13.8	3.4	6.9	31.0	10.3	20.7
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
合同会社・合資会社	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(単位:%)	n	防犯・災害時の支援	事務手続の簡素化	利用者負担の軽減	その他	特にない	無回答
全体	73	5.5	15.1	9.6	0.0	2.7	0.0
経営主体別							
社会福祉法人	29	6.9	13.8	10.3	0.0	0.0	0.0
社団法人・財団法人	4	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
株式会社・有限会社	29	3.4	13.8	10.3	0.0	3.4	0.0
特定非営利活動法人(NPO法人)	5	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
合同会社・合資会社	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営主体別にみると、「社会福祉法人」では、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が41.4%と4割を超えて最も高くなっています。また、「宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実」、「移動・外出支援の充実」、「福祉に携わる人材の育成・確保」も2割を超えています。

「株式会社・有限会社」では「福祉に携わる人材の育成・確保」が31.0%と3割を超えて最も高く、「在宅での福祉サービスの充実」と「障害者の仲間づくりへの支援」も2割を超えています。

【クロス集計】 サービス体系別

(単位:%)	n	在宅での福祉サービスの充実	障害者が入所して生活する場の充実	障害者が地域で共同生活できる場の充実	日中一時的な支援を受けられる場の充実	宿泊して一時的な支援を受けられる場の充実	住宅改造等(バリアフリー化)の補助	住まいに関する相談や入居支援の充実	シェアハウスなど多様な居住の場の提供
全体	73	16.4	9.6	26.0	8.2	16.4	1.4	5.5	2.7
サービス体系別									
訪問系	19	42.1	5.3	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	10.5
日中活動系	7	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0
居住系・施設系	8	12.5	0.0	37.5	0.0	50.0	0.0	12.5	0.0
訓練系・就労系	19	15.8	15.8	26.3	10.5	10.5	0.0	5.3	0.0
相談系	14	14.3	28.6	71.4	0.0	28.6	0.0	7.1	0.0
地域生活支援事業	12	33.3	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7
障害児通所支援	18	5.6	11.1	22.2	5.6	11.1	0.0	0.0	0.0

(単位:%)	n	福祉サービスの情報提供の充実	財産管理などの権利擁護の充実	総合的な相談支援の充実	区民への障害への理解促進	周囲の人の見守り支援の充実	移動・外出支援の充実	駅や道路などのバリアフリー化	自立生活のための訓練・支援の充実
全体	73	5.5	5.5	16.4	12.3	2.7	16.4	6.8	8.2
サービス体系別									
訪問系	19	10.5	0.0	15.8	15.8	0.0	15.8	15.8	5.3
日中活動系	7	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0
居住系・施設系	8	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0
訓練系・就労系	19	0.0	15.8	5.3	10.5	0.0	10.5	5.3	10.5
相談系	14	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	8.3	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0
障害児通所支援	18	5.6	0.0	22.2	22.2	5.6	27.8	5.6	5.6

(単位:%)	n	福祉的就労における工賃向上	就労に向けた訓練・支援の充実	多様に働ける場所の確保	仕事を継続するための相談や支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	福祉に携わる人材の育成・確保	多分野・多機関・多職種による連携の充実	障害者の仲間づくりへの支援
全体	73	8.2	5.5	9.6	2.7	4.1	27.4	15.1	15.1
サービス体系別									
訪問系	19	0.0	5.3	10.5	5.3	5.3	26.3	15.8	10.5
日中活動系	7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	14.3
居住系・施設系	8	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5
訓練系・就労系	19	15.8	5.3	5.3	5.3	0.0	26.3	5.3	15.8
相談系	14	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	21.4	14.3
地域生活支援事業	12	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	41.7	0.0	16.7
障害児通所支援	18	5.6	11.1	16.7	0.0	0.0	38.9	33.3	16.7

(単位:%)	n	防犯・災害時の支援	事務手続の簡素化	利用者負担の軽減	その他	特にない	無回答
全体	73	5.5	15.1	9.6	0.0	2.7	0.0
サービス体系別							
訪問系	19	0.0	15.8	10.5	0.0	5.3	0.0
日中活動系	7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	5.3	26.3	10.5	0.0	5.3	0.0
相談系	14	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	18	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0

サービス体系別にみると、“訪問系”では、「在宅での福祉サービスの充実」が42.1%と4割を超えて最も高くなっています。

“相談系”では、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が71.4%と、他のサービスよりも高くなっています。

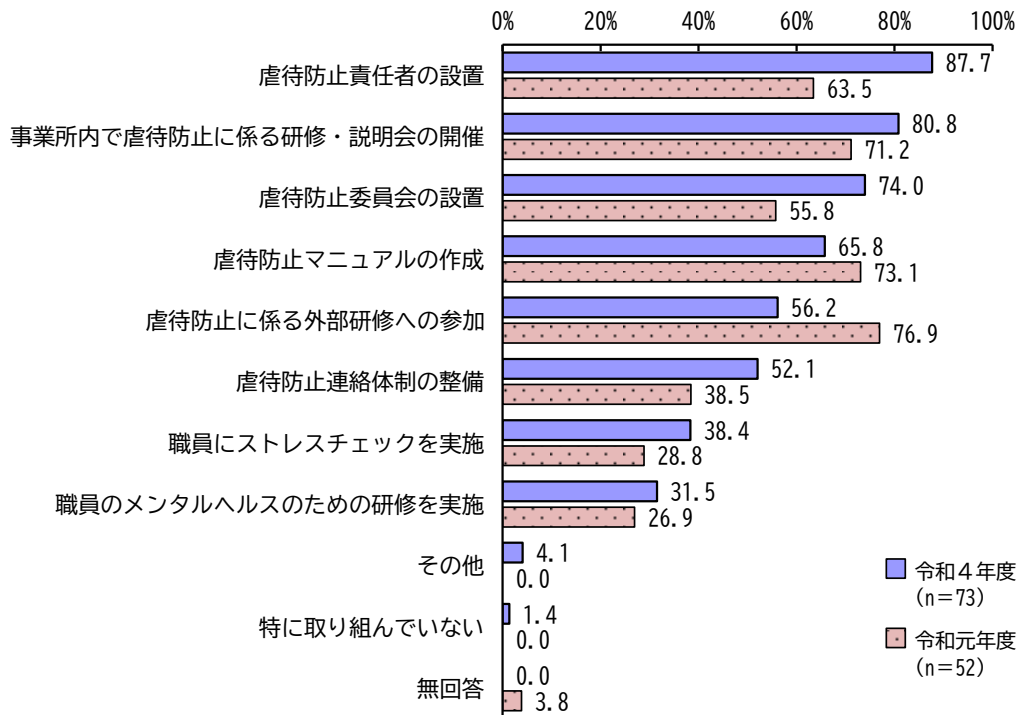
それ以外の回答数が10件以上のサービスでは、いずれも「福祉に携わる人材の育成・確保」が最も高くなっています。

“訓練系・就労系”では、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」と「事務手続の簡素化」も、「福祉に携わる人材の育成・確保」と同様に2割半ばを超えて最も高くなっています。

4 虐待防止について

(1) 虐待防止の取り組み

問 26 貴事業所では虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



虐待防止の取り組みは、「虐待防止責任者の設置」が 87.7%、「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」が 80.8%と 8割を超えて高く、次いで「虐待防止委員会の設置」が 74.0%、「虐待防止マニュアルの作成」が 65.8%と続いています。

令和元年度と比較すると、「虐待防止に係る外部研修への参加」が 20.7 ポイント、「虐待防止マニュアルの作成」が 7.3 ポイント下がっていますが、それ以外の項目はいずれも令和元年度を上回っており、特に「虐待防止責任者の設置」が 24.2 ポイント、「虐待防止委員会の設置」が 18.2 ポイント、「虐待防止連絡体制の整備」が 13.6 ポイントと、10 ポイント以上上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

	n	虐待防止責任者の設置	虐待防止委員会の設置	虐待防止に係る外部研修への参加	事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催	虐待防止マニュアルの作成	虐待防止連絡体制の整備
(単位:%)							
全体	73	87.7	74.0	56.2	80.8	65.8	52.1
サービス体系別							
訪問系	19	73.7	42.1	36.8	57.9	42.1	42.1
日中活動系	7	85.7	100.0	57.1	100.0	85.7	71.4
居住系・施設系	8	100.0	87.5	87.5	100.0	87.5	50.0
訓練系・就労系	19	84.2	84.2	63.2	94.7	73.7	52.6
相談系	14	100.0	92.9	64.3	85.7	85.7	64.3
地域生活支援事業	12	75.0	58.3	41.7	75.0	41.7	33.3
障害児通所支援	18	100.0	83.3	44.4	83.3	66.7	61.1

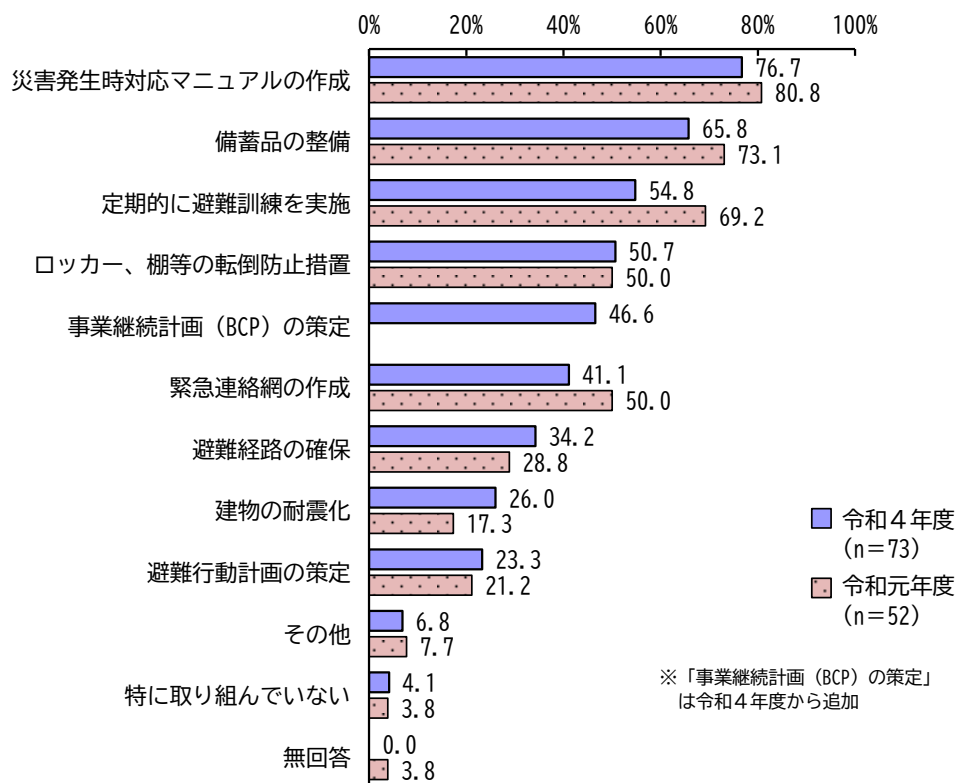
	n	職員のメンタルヘルスのための研修を実施	職員にストレスチェックを実施	その他	特に取り組んでいない	無回答
(単位:%)						
全体	73	31.5	38.4	4.1	1.4	0.0
サービス体系別						
訪問系	19	15.8	21.1	5.3	5.3	0.0
日中活動系	7	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	47.4	52.6	10.5	0.0	0.0
相談系	14	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	8.3	33.3	8.3	8.3	0.0
障害児通所支援	18	44.4	50.0	0.0	0.0	0.0

サービス体系別にみると、いずれのサービスでも「虐待防止責任者の設置」は7割以上、「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」は5割以上、「虐待防止委員会の設置」と「虐待防止マニュアルの作成」は4割以上となっています。

5 災害時の対策について

(1) 災害対策の取り組み

問 27 貴事業所では災害時の対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



災害対策の取り組みは、「災害発生時対応マニュアルの作成」が76.7%と7割半ばを超えて最も高く、次いで「備蓄品の整備」が65.8%、「定期的に避難訓練を実施」が54.8%と続いています。

令和元年度と比較すると、上位3項目は令和元年度と同じ順位となっていますが、いずれの項目も令和元年度を下回っており、「定期的に避難訓練を実施」が14.4ポイント、「備蓄品の整備」が7.3ポイント、「災害発生時対応マニュアルの作成」が4.1ポイントと、令和元年度より下がっています。

反対に、令和元年度より「建物の耐震化」が8.7ポイント、「避難経路の確保」が5.4ポイント上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	災害発生時対応マニュアルの作成	定期的に避難訓練を実施	備蓄品の整備	建物の耐震化	ロッカー、棚等の転倒防止措置	緊急連絡網の作成
全体	73	76.7	54.8	65.8	26.0	50.7	41.1
サービス体系別							
訪問系	19	63.2	10.5	52.6	10.5	26.3	36.8
日中活動系	7	71.4	100.0	85.7	14.3	71.4	42.9
居住系・施設系	8	87.5	75.0	87.5	50.0	50.0	75.0
訓練系・就労系	19	84.2	84.2	78.9	31.6	68.4	42.1
相談系	14	85.7	57.1	78.6	28.6	57.1	42.9
地域生活支援事業	12	58.3	25.0	58.3	0.0	41.7	41.7
障害児通所支援	18	94.4	66.7	61.1	38.9	77.8	44.4

(単位:%)	n	避難経路の確保	避難行動計画の策定	事業継続計画(BCP)の策定	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体	73	34.2	23.3	46.6	6.8	4.1	0.0
サービス体系別							
訪問系	19	5.3	10.5	36.8	5.3	15.8	0.0
日中活動系	7	28.6	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	62.5	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	36.8	31.6	52.6	15.8	0.0	0.0
相談系	14	28.6	21.4	71.4	7.1	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	16.7	0.0	33.3	16.7	25.0	0.0
障害児通所支援	18	55.6	33.3	44.4	0.0	0.0	0.0

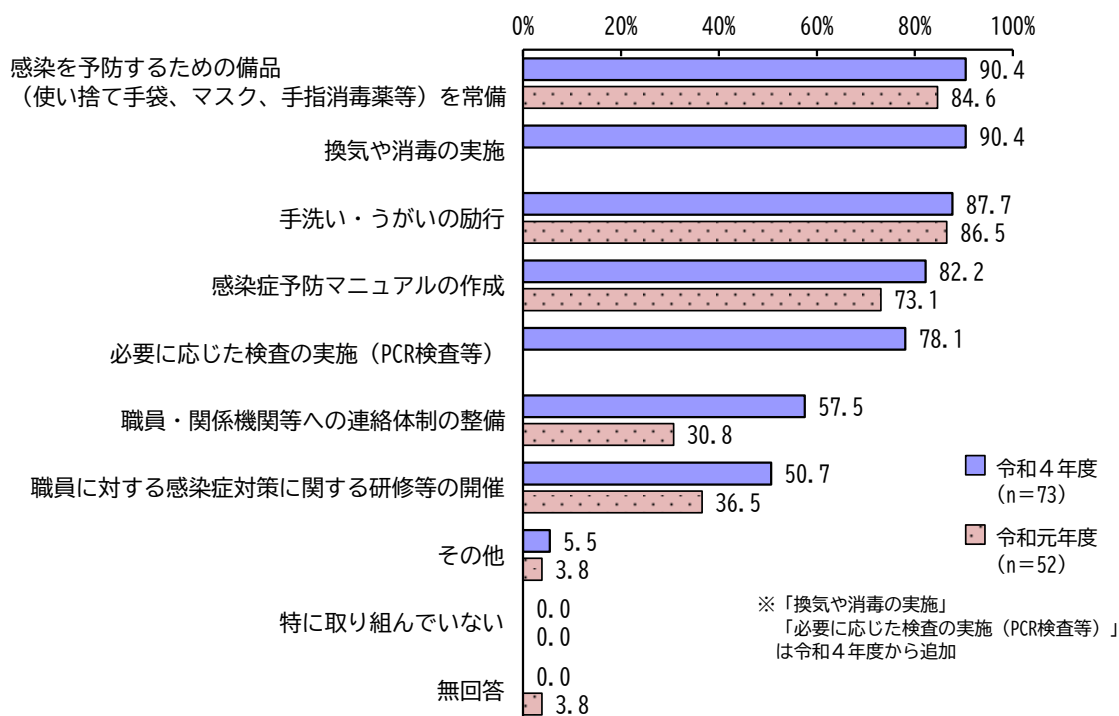
サービス体系別にみると、「災害発生時対応マニュアルの作成」と「備蓄品の整備」はいずれのサービスでも5割以上となっています。

“訓練系・就労系”では、「定期的に避難訓練を実施」、「災害発生時対応マニュアルの作成」がともに84.2%と最も高くなっています。

6 感染症対策について

(1) 感染症対策の取り組み

問 28 貴事業所では感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



感染症対策の取り組みは、「感染を予防するための備品 (使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等) を常備」と「換気や消毒の実施」がともに 90.4%と 9割に達し最も高く、次いで「手洗い・うがいの励行」が 87.7%、「感染症予防マニュアルの作成」が 82.2%と 8割台が続いています。また、「その他」を除くすべての項目で5割以上となっています。

令和元年度と比較すると、すべての項目で令和元年度を上回っており、特に「職員・関係機関等への連絡体制の整備」が 26.7 ポイント、「職員に対する感染症対策に関する研修等の開催」が 14.2 ポイントと、10 ポイント以上上がっています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	感染症予防マニュアルの作成	職員に対する感染症対策に関する研修等の開催	感染を予防するための備品(使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等)を常備	手洗い・うがいの励行	職員・関係機関等への連絡体制の整備
全体	73	82.2	50.7	90.4	87.7	57.5
サービス体系別						
訪問系	19	78.9	63.2	89.5	84.2	42.1
日中活動系	7	100.0	71.4	100.0	85.7	71.4
居住系・施設系	8	87.5	62.5	100.0	100.0	87.5
訓練系・就労系	19	84.2	42.1	89.5	84.2	73.7
相談系	14	85.7	57.1	85.7	85.7	71.4
地域生活支援事業	12	75.0	58.3	100.0	91.7	50.0
障害児通所支援	18	88.9	61.1	94.4	100.0	50.0

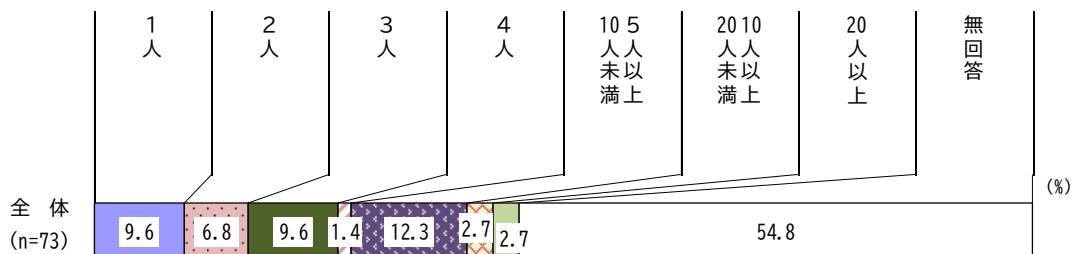
(単位:%)	n	換気や消毒の実施	必要に応じた検査の実施(PCR検査等)	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体	73	90.4	78.1	5.5	0.0	0.0
サービス体系別						
訪問系	19	84.2	73.7	0.0	0.0	0.0
日中活動系	7	100.0	85.7	0.0	0.0	0.0
居住系・施設系	8	100.0	100.0	12.5	0.0	0.0
訓練系・就労系	19	89.5	68.4	10.5	0.0	0.0
相談系	14	85.7	78.6	7.1	0.0	0.0
地域生活支援事業	12	91.7	75.0	8.3	0.0	0.0
障害児通所支援	18	100.0	94.4	0.0	0.0	0.0

サービス体系別にみると、「感染症予防マニュアルの作成」、「感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）を常備」、「換気や消毒の実施」はいずれのサービスでも7割半ばを超えています。

7 権利擁護・差別解消について

(1) 成年後見制度を利用した方が良い人数

問 29 貴事業所の利用者のうち、成年後見制度を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。



成年後見制度を利用した方が良い人数は、1事業所に「5人以上 10人未満」が12.3%と1割を占めています。また、「1人」と「3人」がともに9.6%、「2人」が6.8%と続いています。

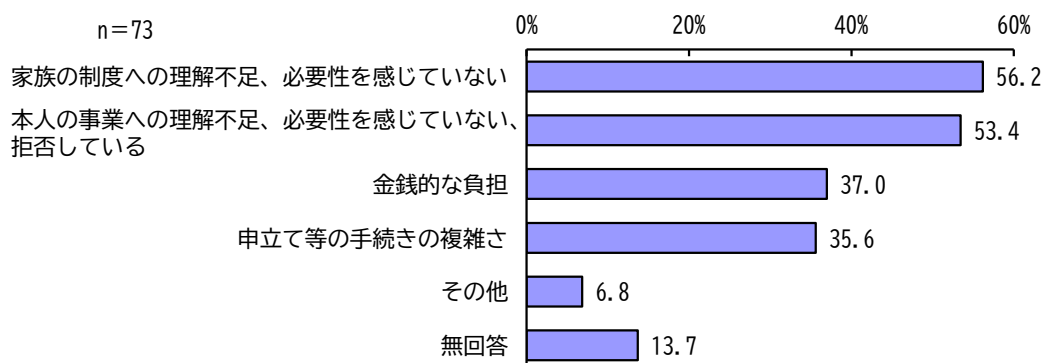
【サービス体系別】

(単位:%)	n	1人	2人	3人	4人	5人以上 10人未満	10人以上 20人未満	20人以上	不明
全体	73	9.6	6.8	9.6	1.4	12.3	2.7	2.7	54.8
サービス体系別									
訪問系	19	10.5	10.5	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	68.4
日中活動系	7	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	14.3	14.3	14.3
居住系・施設系	8	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
訓練系・就労系	19	5.3	10.5	10.5	0.0	21.1	0.0	5.3	47.4
相談系	14	14.3	7.1	7.1	7.1	28.6	0.0	14.3	21.4
地域生活支援事業	12	25.0	8.3	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0	41.7
障害児通所支援	18	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0	83.3

サービス体系別にみると、回答数が10件以上のサービスでは、“訪問系”と“地域生活支援事業”を除くすべてのサービスで「5人以上 10人未満」が最も高くなっています。

(2) 成年後見制度が利用に至らない理由

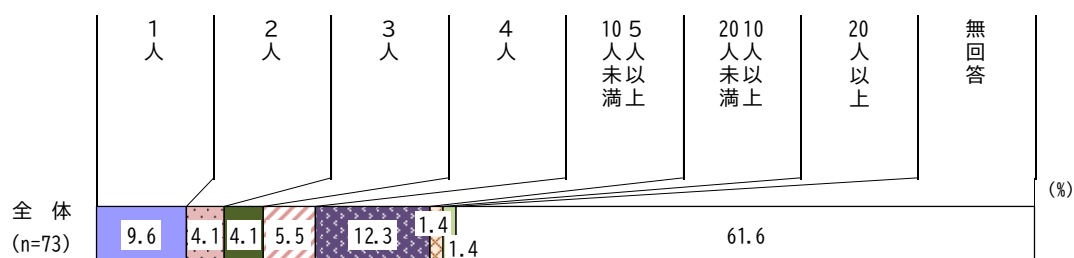
問 30 成年後見制度が利用に至らない理由はなんだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)



成年後見制度は、「家族の制度への理解不足、必要性を感じていない」が 52.1%、「本人の制度への理解不足、必要性を感じていない、拒否している」が 53.4%と5割台、次いで「金銭的な負担」が 37.0%、「申立て等の手続きの複雑さ」が 35.6%と3割半ばを超えて続いています。

(3) 福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い人数

問 31 貴事業所の利用者のうち、福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きします。



福祉サービス利用援助事業を利用した方が良い人数は、1事業所に「5人以上 10人未満」が12.3%と1割を占めています。また、「1人」が9.6%、「3人」が5.5%と続いています。

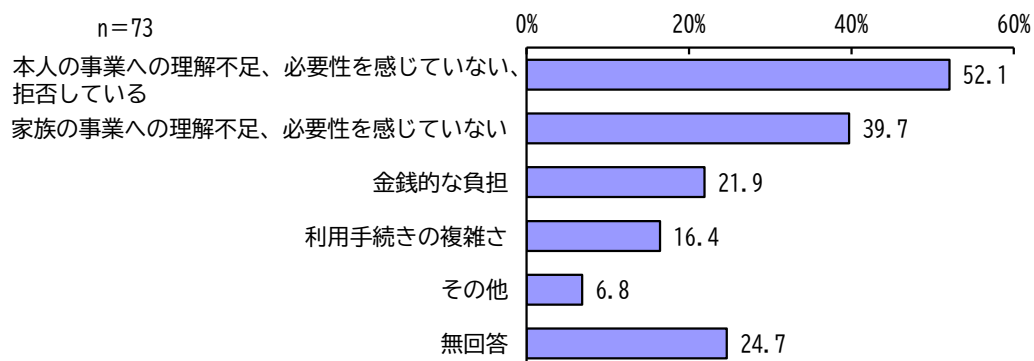
【サービス体系別】

(単位:%)	n	1人	2人	3人	4人	5人以上 10人未満	10人以上 20人未満	20人以上	不明
全体	73	9.6	4.1	4.1	5.5	12.3	1.4	1.4	61.6
サービス体系別									
訪問系	19	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	78.9
日中活動系	7	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0	14.3
居住系・施設系	8	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0
訓練系・就労系	19	10.5	10.5	10.5	0.0	15.8	0.0	0.0	52.6
相談系	14	7.1	0.0	0.0	21.4	21.4	0.0	7.1	42.9
地域生活支援事業	12	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	66.7
障害児通所支援	18	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0	77.8

サービス体系別にみると、回答数が10件以上のサービスでは、“訪問系”以外のすべてのサービスで「5人以上 10人未満」が最も高くなっています。

(4) 福祉サービス利用援助事業が利用に至らない理由

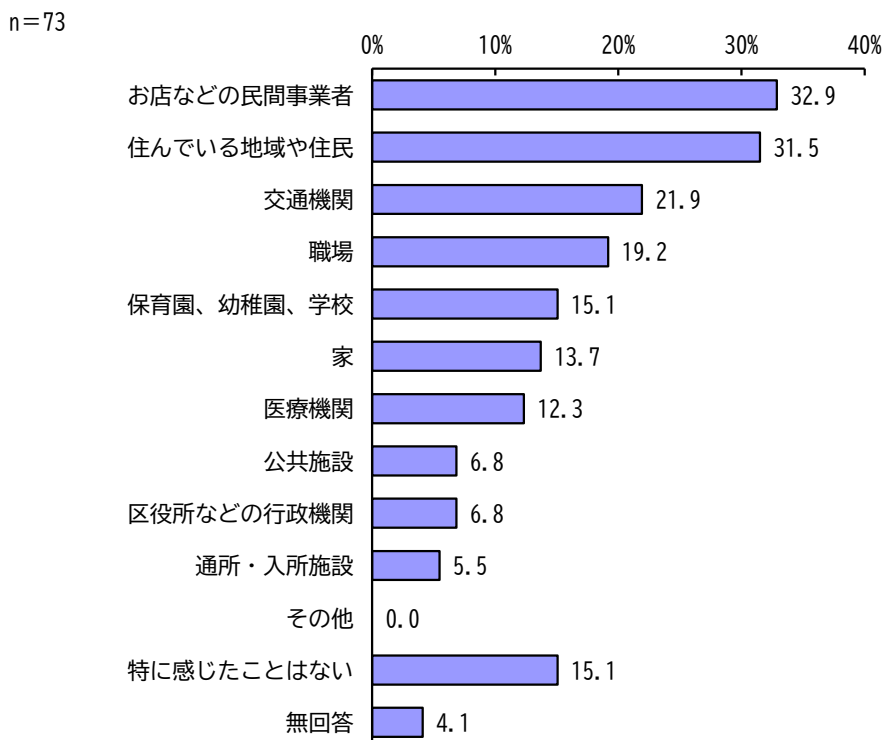
問 32 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)が利用に至らない理由はなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービス利用援助事業が利用に至らない理由は、「本人の事業への理解不足、必要性を感じていない、拒否している」が 52.1%と最も高く、次いで「家族の事業への理解不足、必要性を感じていない」が 39.7%、「金銭的な負担」が 21.9%と続いています。

(5) 地域で差別を感じる場面

問 33 地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。
(あてはまるものすべてに○)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」が 32.9%、「住んでいる地域や住民」が 31.5%と唯一 3 割を超え、次いで「交通機関」が 21.9%、「職場」が 19.2%と続いています。

一方、「特に感じたことはない」は 15.1%と 1 割半ばを占めています。

【クロス集計】サービス体系別

(単位:%)	n	家	職場	通所・入所 施設	お店などの 民間事業者	住んでいる 地域や住民	公共施設	区役所など の行政機関
全体	73	13.7	19.2	5.5	32.9	31.5	6.8	6.8
サービス体系別								
訪問系	19	26.3	15.8	5.3	31.6	36.8	0.0	0.0
日中活動系	7	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0
居住系・施設系	8	12.5	25.0	0.0	50.0	0.0	12.5	0.0
訓練系・就労系	19	10.5	21.1	15.8	31.6	36.8	10.5	10.5
相談系	14	7.1	14.3	0.0	42.9	57.1	7.1	21.4
地域生活支援事業	12	16.7	0.0	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0
障害児通所支援	18	5.6	22.2	0.0	11.1	16.7	5.6	16.7

(単位:%)	n	医療機関	交通機関	保育園、幼 稚園、学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
全体	73	12.3	21.9	15.1	0.0	15.1	4.1
サービス体系別							
訪問系	19	10.5	31.6	0.0	0.0	31.6	0.0
日中活動系	7	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3
居住系・施設系	8	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5
訓練系・就労系	19	21.1	26.3	0.0	0.0	0.0	15.8
相談系	14	14.3	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1
地域生活支援事業	12	8.3	33.3	0.0	0.0	41.7	8.3
障害児通所支援	18	11.1	11.1	55.6	0.0	11.1	5.6

サービス体系別にみると、回答数が10件以上のサービスでは、“障害児通所支援”以外のすべてのサービスで「住んでいる地域や住民」が最も高くなっています。

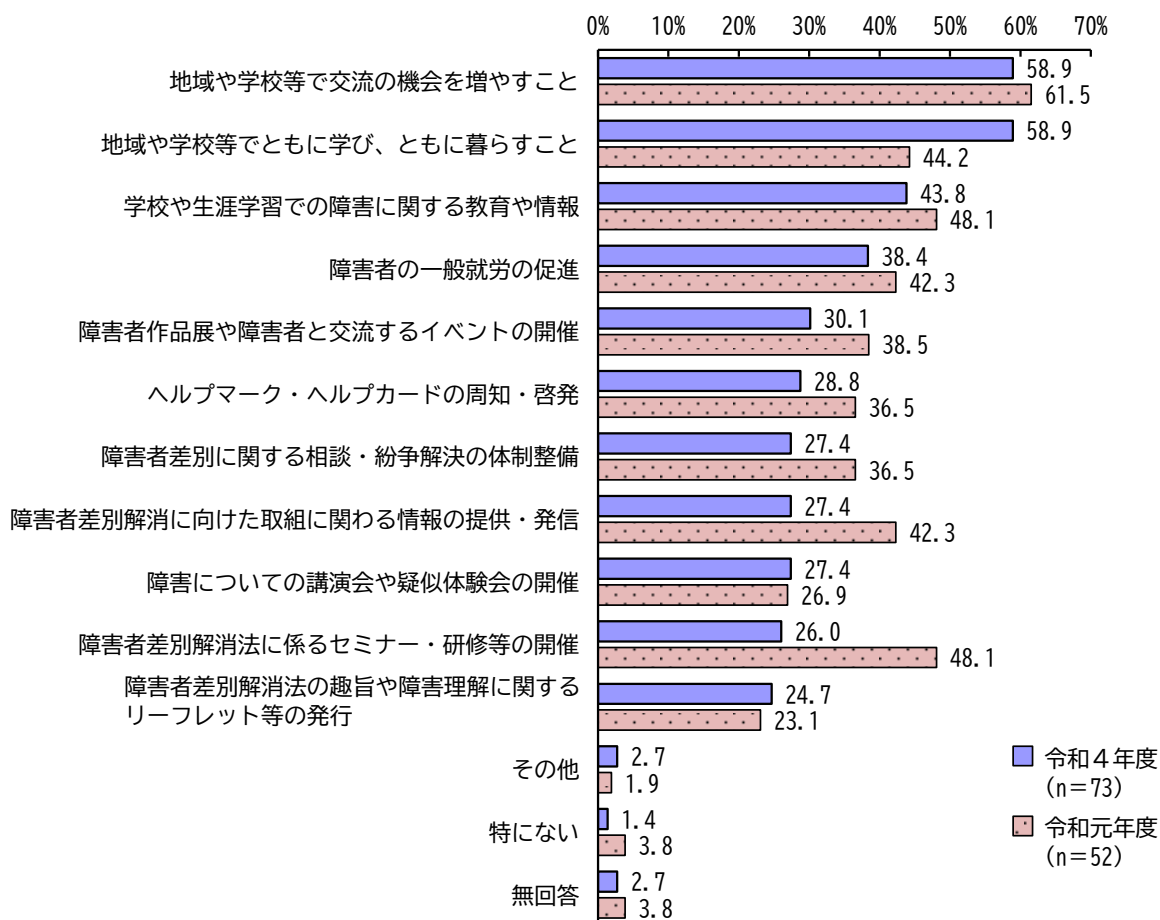
“訪問系”と“地域生活支援事業”では、「交通機関」が3割を超えて、他のサービスよりも高くなっています。

“相談系”では、「お店などの民間事業者」が4割、「住んでいる地域や住民」が5割半ばを超えて、他のサービスよりも高くなっています。

“障害児通所支援”では、「保育園、幼稚園、学校」が55.6%と5割半ばを超えて最も高くなっています。

(6) 差別解消に必要なこと

問 34 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

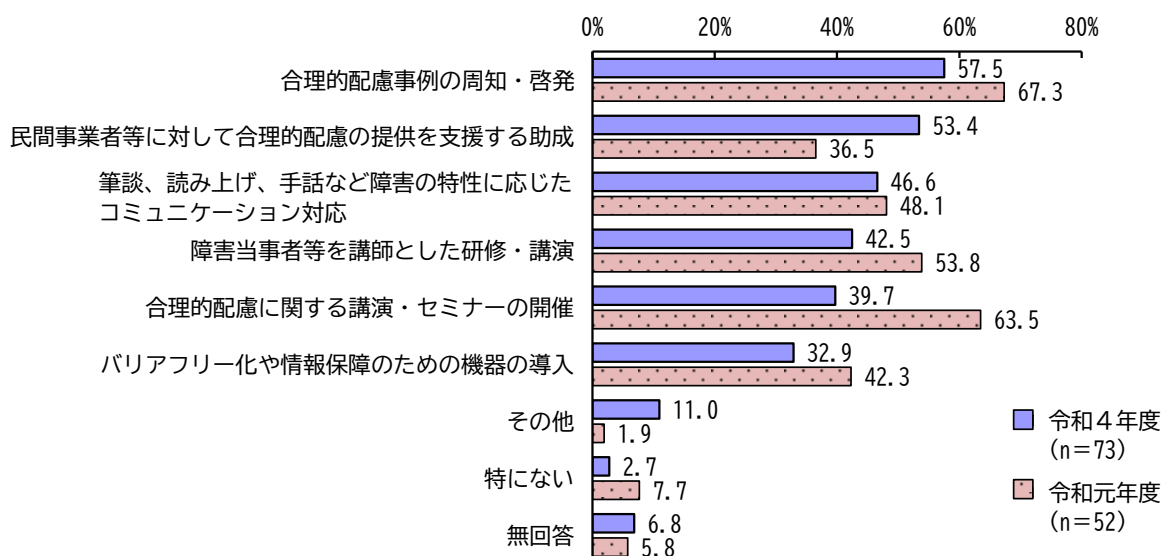


障害者への差別解消を進めていくために必要なことは、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」と「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」がともに 58.9%と 6 割近くで最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が 43.8%と続いています。

令和元年度と比較すると、「その他」と「特にない」を除く 11 項目中 8 項目で令和元年度を下回っており、特に「障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催」が 22.1 ポイント、「障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信」が 14.9 ポイントと、10 ポイント以上下がっています。反対に、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」は 14.7 ポイントと 10 ポイント以上上がっています。

(7) 合理的配慮に必要なこと

問 35 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



合理的配慮を進めていくために必要なことは、「合理的配慮事例の周知・啓発」が 57.5%、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 53.4%と唯一 5 割を超え、次いで「筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応」が 46.6%と続いています。

令和元年度と比較すると、「民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成」が 16.9 ポイント上がっていますが、「その他」を除いたそれ以外の項目はいずれも令和元年度を下回っており、特に「合理的配慮に関する講演・セミナーの開催」が 23.8 ポイント、「障害当事者等を講師とした研修・講演」がポイントと 11.3 ポイントと、10 ポイント以上下がっています。

8 自由意見

問 36 区障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 27 件ありました。「行政・制度」についての意見が 72.7%と最も多くなっています。主な意見は以下の通りです。

	総数	福祉サービス・福祉施設	補助	行政	人材確保	障害理解
自由意見	27	29.6	25.9	18.5	18.5	7.4

◆主な意見（内容は要約・省略しています）

1. 福祉サービス・福祉施設（8件）

- ・福祉避難所の増設や医療的ケアが必要な人の受け入れ体制を整えてほしい。
- ・高齢の精神障害者が入居できるグループホームができるとよいと思います。
- ・優先すべき施策に関する課題としては、計画相談支援の拡充と地域で暮らすための居住の場の確保、そのための居住支援。
- ・文京区内に障害のある方の入所施設を増やしてほしい（短期入所を含む）。

2. 補助（6件）

- ・障害福祉サービス利用時に利用負担が生じる方がいます。とくに配偶者がいて課税世帯になると、配偶者に遠慮して、利用負担が生じることでB型などのサービスを使わない・日数を減らすなどの抑制につながる当事者の方がいます。利用負担が免除されるような補助の検討をお願いします。
- ・ご主人のいる利用者や、前年度就労していて、退職後サービスを利用する方々は自己負担が発生するため、区独自の助成金制度があるとうれしいです。生活保護受給者でひとりぐらしを文京区でする場合、物件が無い事、障害を理由に断られる場合もあり、家賃補助や不動産業者への働きかけなどを行い、住みやすい区になるとうれしいです。
- ・利用者負担額の補助や説明をご本人に対してして欲しい。

3. 行政（6件）

- ・文京区は日本でもT o pレベルの支援区域だと思います。今後とも、こういったアンケート等を実施していただきながら、参考にしていただけたらと思います。
- ・障害者との共生社会を目指し、いろいろな施策を通してご協力いただき感謝しています。今後も一層のご支援をお願い致します。
- ・人間の最も生物学的にも発達著しい乳幼児期の支援の必要な子どもと保護者と、そこを支えたい民間事業所にとり、よりよい具体的支援が実施いただけることを希望します。

4. 人材確保（5件）

- ・一般的に福祉業界において就業率が悪いのは、給料が低い為と思います。地域生活支援事業給付費の値上げが必要と思います。特に身体など（移動等）の単価は安すぎると思います。ヘルパー確保においても、給与のベースアップが重要です。その為には、給付費の値上げは大切です。ご配慮、ご検討を頂ければと思います。
- ・もっと多くの方にスタッフとして参加してもらうためには、どのような活動をするべきか考えています（文京区移動支援だけでも）。
- ・やりたい人が増えるようにして欲しい。

5. 障害理解（2件）

- ・差別ではなく区別として社会が理解していけるといいのではと考えます。それは健常者も障害者もお互いに考える場所があるといいのではないのでしょうか。
- ・合理的配慮やインクルーシブは、人によってどのような支援が適しているかが違うので、その人を見立てて、その人に適した支援が判断できる人材の育成が肝要だと感じています。

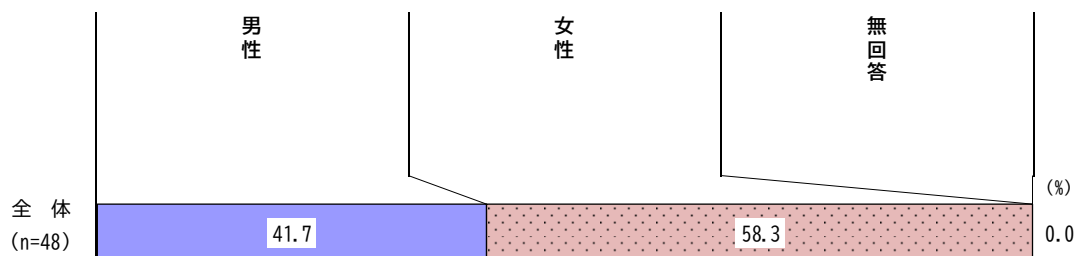
第5章

長期入院施設を対象にした 調査

1 長期入院施設を対象にした調査

(1) 入院患者の性別

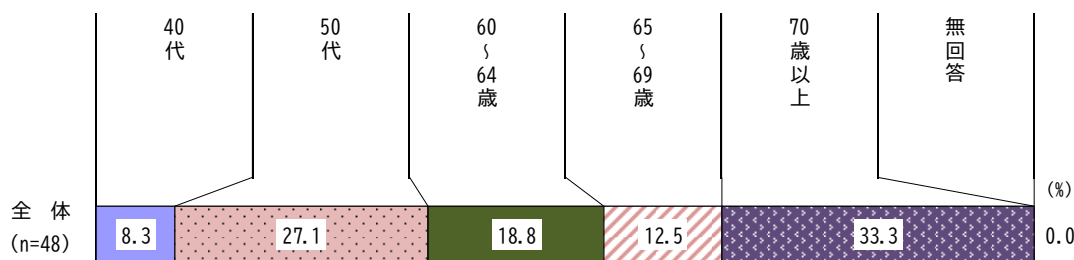
問1 性別



精神疾患で1年以上入院している患者の性別は、「女性」が58.3%、「男性」が41.7%となっています。

(2) 入院患者の年代

問2 年代



精神疾患で1年以上入院している患者の年代は、「70歳以上」が33.3%と3割を超えて最も高く、次いで「50代」が27.1%、「60～64歳」が18.8%と続いています。「10代」、「20代」、「30代」の回答はありませんでした。

(3) 病名

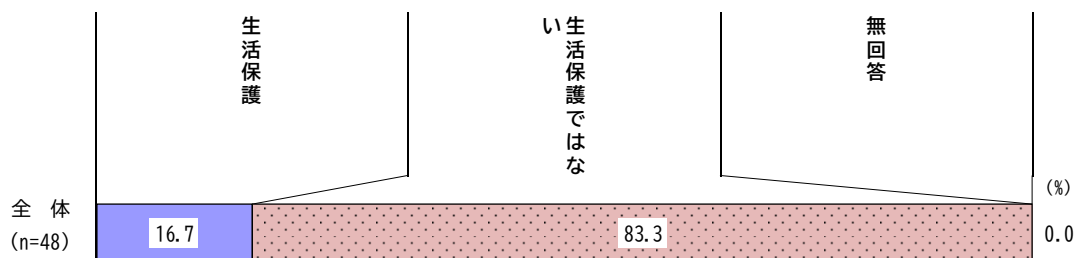
問3 病名

入院患者の病名は下表の通りです。

病名	件数	病名	件数
統合失調症	34	アルコール性認知症	1
双極性感情障害	4	認知症に重なったせん妄	1
アルコール依存症	2	精神病症状を伴う重症うつ病エピソード	1
重度MR	1	うつ病	1
認知症	1	てんかん	1

(4) 生活保護の状況

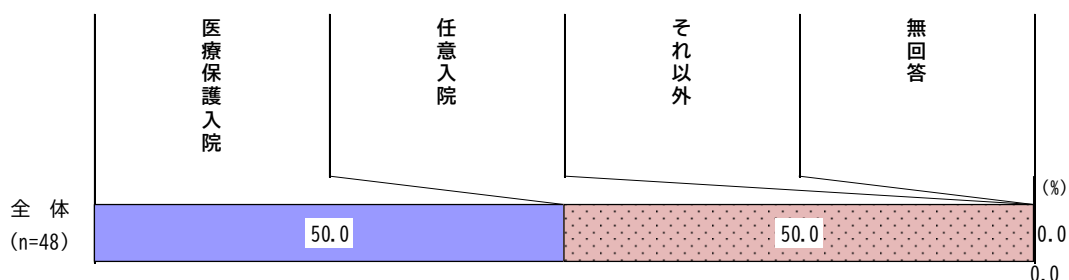
問4 生活保護の状況



入院患者の生活保護の状況は、「生活保護」が16.7%、「生活保護ではない」が83.3%となっています。

(5) 現在の入院形態

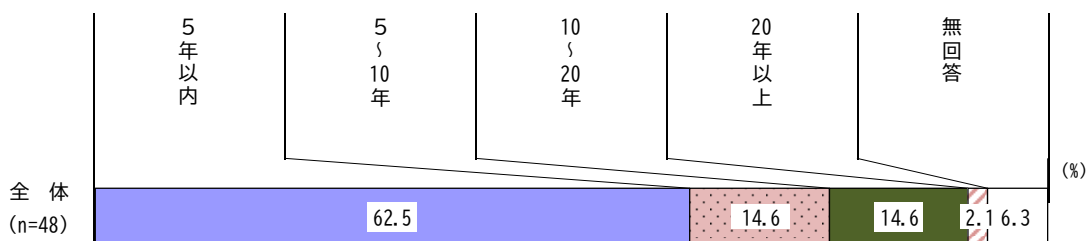
問5 現在の入院形態



入院患者の現在の入院形態は、「医療保護入院」と「任意入院」がともに50.0%となっています。

(6) 在院期間

問6 在院期間

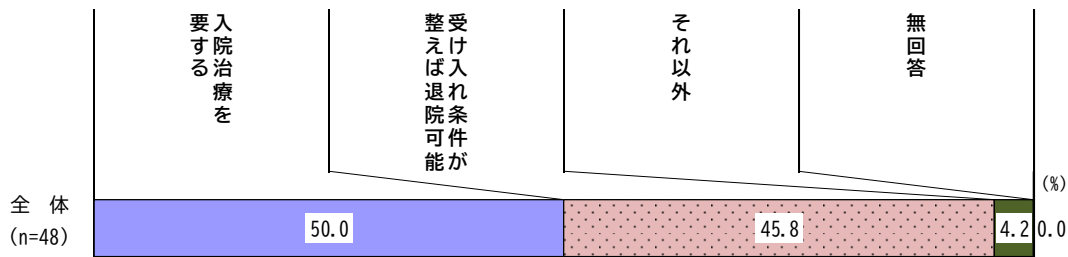


入院患者の在院期間は、「5年以内」が62.5%と6割を超えて最も高く、「5～10年」と「10～20年」がともに14.6%となっています。

また、「20年以上」については2.1%となっています。

(7) 入院の状況

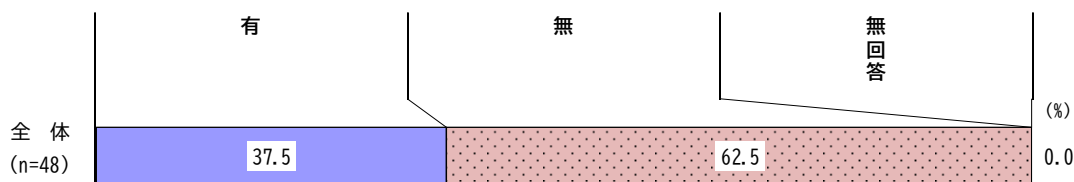
問7 入院の状況



入院患者の入院の状況は、「入院治療を要する」が50.0%と半数を占め、「受け入れ条件が整えば退院可能」が45.8%となっています。

(8) 病院から見た退院の見通し

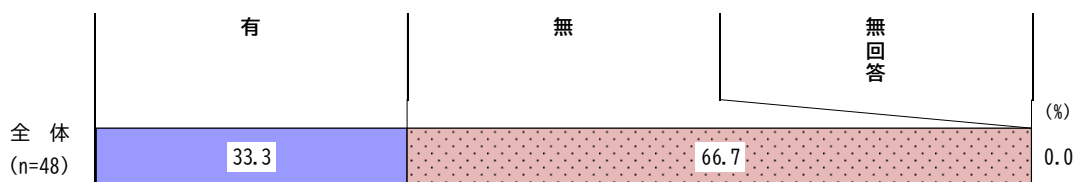
問8 病院から見た退院の見通し



病院から見た入院患者の退院の見通しは、「有」が37.5%、「無」が62.5%となっています。

(9) 退院を想定した場合の帰宅先

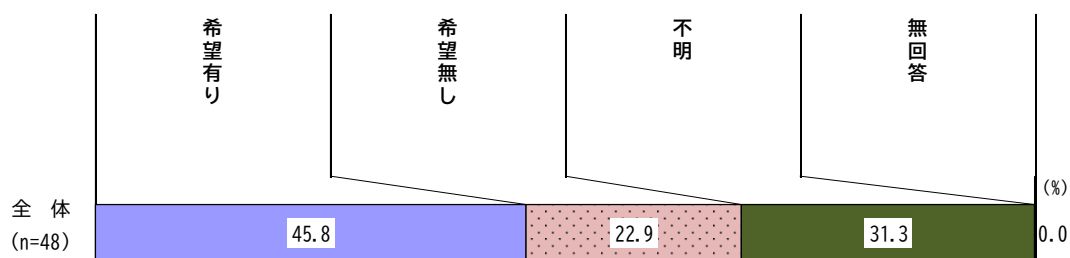
問9 退院を想定した場合の帰宅先



退院を想定した場合の帰宅先は、「有」が33.3%、「無」が66.7%となっています。

(10) 退院に向けた本人の意思

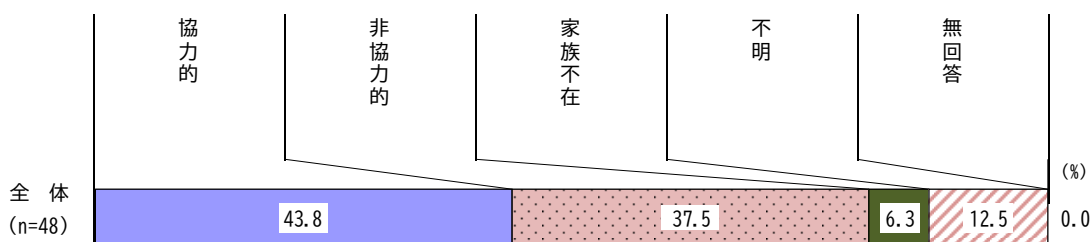
問 10 退院に向けた本人の意思



退院に向けた入院患者本人の意思は、「希望有り」が45.8%と4割半ばを占めており、「希望無し」が22.9%、「不明」が31.3%となっています。

(11) 退院に対する家族の意向

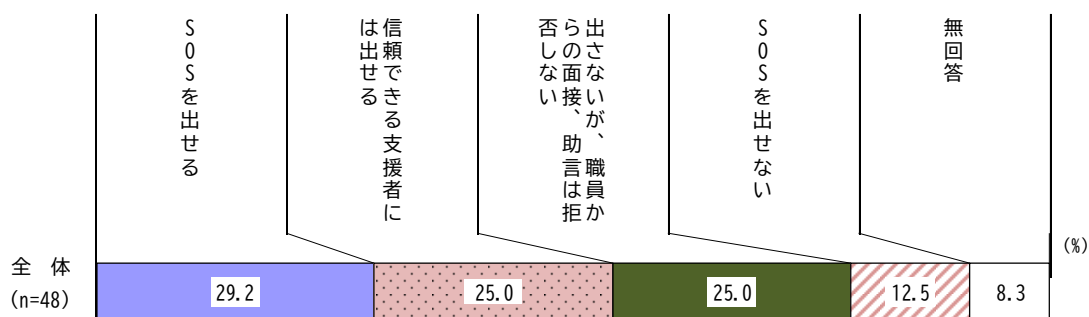
問 11 退院に対する家族の意向



入院患者の退院に対する家族の意向は、「協力的」が43.8%と4割半ばを超えていますが、「非協力的」が37.5%と3割半ばを超えています。また、「不明」が12.5%、「家族不在」が6.3%となっています。

(12) 本人の状況：SOSが出せる

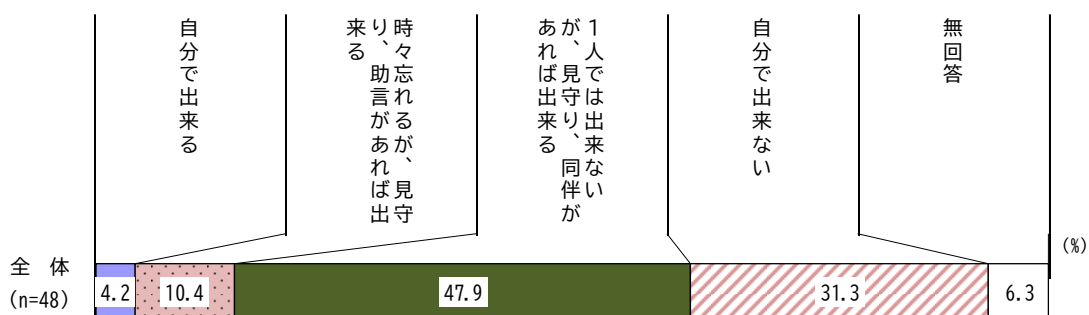
問 12 本人の状況：SOSが出せる



入院患者本人がSOSを出せる状況については、「SOSを出せる」が29.2%と最も高く、「信頼できる支援者には出せる」と「出さないが、職員からの面接、助言は拒否しない」がともに25.0%となっています。一方、「SOSを出せない」は12.5%と1割を超えています。

(13) 本人の状況：服薬・通院が出来る

問 13 本人の状況：服薬・通院が出来る



入院患者本人が服薬・通院を出来る状況については、「1人では出来ないが、見守り、同伴があれば出来る」が47.9%と4割半ばを超えて最も高く、「時々忘れるが、見守り、助言があれば出来る」が10.4%、「自分で出来る」が4.2%と続いています。一方、「自分で出来ない」は31.3%と3割を超えています。

(14) 備考（自由記載欄）

問 14 備考（自由記載欄）

自由記載は13件ありました。個々の内容については個人情報に配慮し、記載を省略します。

第6章

質的調査（インタビュー調査）

はじめに(総括)
本報告書の見方

- 1 通所施設の部
 - (1) 精神障害者施設
abeam(アビーム)
銀杏企画
エナジーハウス
精神障害者施設インタビュ調査総括と提言
 - (2) 知的(就労継続支援B型事業所)
ワークシヨップやまどり
文京区立大塚福祉作業所
ワークプレイスふんぶん
工房わかざり
就労継続支援B型事業所インタビュ調査総括と提言
 - (3) 知的(生活介護事業所)
本郷福祉センター(若駒の里)
はもと・ピア2
生活介護事業所インタビュ調査総括と提言
- 2 グループホームの部
インタビュ調査報告
ホームいちょう
文京ホームアダンダナテ
陽だまりの郷
ドリームハウスⅢ
ドリームハウスⅣ
エルムンド小石川、エルムンド千石
グループホームの部インタビュ調査総括と提言
- 3 都外施設の部
都外施設のインタビュ総括と提言

令和4年度 文京区障害者(児)実態・意向調査 質的調査の部 調査報告書

東洋大学社会学部
高山ゼミ
志村ゼミ
勝又健太
令和4年12月

はじめに（調査総括）

文京区障害者（児）実態・意向調査は3年に一度実施されている調査であり、調査の結果は、「文京（ふみのみややこ）ハートフルプラン文京区地域福祉保健計画の障害者・児計画と連動しているものである。すなわち、障害者・児計画によって動いてきた文京区の障害者、障害児に関する制度やサービスを、実態・意向調査によって評価し振り返る。そして、調査の結果を次の障害者・児計画へ反映させるといったものである。

実態・意向調査は質問紙法による量的調査と、インタビュー調査による質的な調査によって成り立ち、それは調査結果をより実態に近づけようとするものである。本調査報告書は、そのうちの質的な調査の報告である。今年度の調査は、インタビュー調査というスタイルを基本としつつ、現場に出向いた際の観察記録、コロナ禍において制限されたインタビューを補うためにインタビュー・ガイドへの回答を記載してもらったデータなどを統合、解釈することになった。そのためデータには障害のある区民の声や観察記録などが含まれているが、ゼミの学生はそれらのデータを組みなおして調査結果として取りまとめた。

実際の調査は、屋間の活動の場である通所施設、生活の基盤となるグループホーム、そして都外施設が今年度から加わった。この結果、通所施設に関して2か所、計2名の方々に話を向うことができた。主たる利用者は知的障害、精神障害のある区民であった。これらの人たちが対象になったのは、質問紙法による量的調査でとらえきれないニーズや思いを拾い上げようとしたからである。当事者の障害特性、学生の調査力量により、制限はあるものの、「そうだろう」と想像されていたことが、「やっぱり」という理解につながる結果にもなり、本報告書はそのような観点からは評価されるはずである。

本調査報告書が、次年度の障害者・児計画策定の有効なヒントになることを願っている。また調査の実施を可能にしてくださいと関係者各位に御礼申し上げます。

質的調査監修

東洋大学 高山 直樹
志村 健一
勝又 健太

本報告書の見方

■本報告書は、各章4部構成となる。

I 調査対象施設フェイシメント
施設概要、職員数、インタビュ対象者、ヒアリング担当者について記述したものである。

II K J法による相関関係図（KJ法A型図）

ヒアリング調査で聴かれた意見をK J法にて分類し、各カテゴリ間のつながりを図で表したものである。原則として、報告書の記述もこのカテゴリに倣っている。

III 文章化（KJ法B型文章化）

A型図について叙述化したものである。

IV 考察と求められる対応

分析結果をまとめ、そこから浮かび上がったニーズ等について記述する。

考察で浮かび上がったニーズに対し、必要と思われる対応策についてまとめ、具体的意見について記述する。

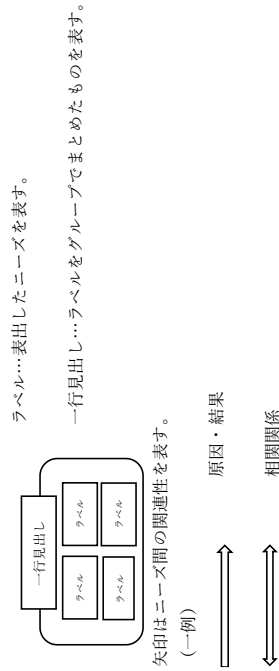
■インタビュー調査総括と提言

各章の終わりに、分析結果をもとにした事業所種別ごとのインタビュー調査の総括と提言を記述する。

通所施設の部は精神障害者通所施設、就労継続支援B型、生活介護でまとめ、

入所施設（知的障害、精神障害）はグループホームでまとめ、

■相関関係図の見方



3. KJ法B型文章化

調査を通して、利用者には2つの悪い、ニーズがあるのではないかと考えた。一つ目は、現在利用者が置かれている環境を基本的に維持したまま、生活をより良くしたいというニーズである。文京区に対して、生活面や自立面で例えば、1のグループのように飲食店やコンビニ、スーパーマーケットを増やして欲しい、一人暮らしの支援が欲しいといった要望があった。また、生活面において新型コロナウイルスの影響により、体力や体調について不安を抱えている様子が感じられた。しかし、インタビューをする中で2のグループのように利用者一人ひとりに働く場所や仕事に対する向上心があること、3のグループのように好きなことをする時間があること、相談相手がいることなど今の生活に満足している様子が強く感じられた。これらのことから、利用者は区や施設に対する要望や生活における不安はあるものの、今の生活には概ね満足しており、その生活を維持しつつ、より豊かにするための支援を求めているのではないかと考えた。

二つ目は、家族・支援者以外で話す友人や休日を共に過ごす友人が欲しいというニーズである。1及び3のグループを見ると、一人の空間が確保できるグループホームが欲しい、災害時は集団の避難所ではなく一人で落ち着ける場所が欲しい、一人で楽しめる趣味が多い、休日は一人で過ごすことが多いなど、「一人」を強調するニーズが多いことが分かった。また、家族や友人といるより一人でいることを好む利用者が多いことから、あるいは新型コロナウイルスによって一人の時間が余儀なくされていることからこれらの特性、ニーズが生じていると考えた。しかし、利用者に潜在化したニーズ、主訴に焦点を当てた時、家族以外に休日過ごす人がいない、家族・支援者以外に相談相手がない、つまり友人がいないがために一人で過ごさざるを得ない状況に陥っているのではないかと考えた。そして、対人関係が苦手や初対面の人に恐怖を感じるという観点からも友人を作りたくても作ることが難しいという想いを感じた。限られた時間でしか利用者とコミュニケーションが取れていないため、主訴がどこに隠れているのかわからない部分があるが、図の中心に位置する「なんでも話せる友人がほしい」というニーズが利用者の根底にあることがわかった。

4. 考察

利用者から出た要望としては、利用者が現在通う事業所や障害者施設など、利用できる回数や場所を増やしたいといった要望があった。緊急ショートステイの数が少ないため、地域生活移行に向けた生活体験を希望しても確保できないという声も聞かれた。

一方でインタビューを通して利用者は限られた交流関係、人間関係の中で生活している現状が分かって行動することへの不安が強まっていったことを聞き取ることができた。

さらにそのような自身の不安定な状態への不安から友人と連絡を取る機会も減り、自身の障害に理解のある相手を頼るようになっていったのではないかと考えた。また災害時についての質問をした際に、利用者から集団生活への不安が強く聞かれた。このことから、不安を解消するために1人で落ち着くことのできる環境の確保が重要と考え、空間を仕切ることが可能な設備を持つ大学を避難場所として開放することもありうるのではないかと考えた。

調査を通して利用者は自身が置かれている環境を維持したまま、より良くしたいという思いがある一方で、現状を変えていきたいがどうしたらいいのか分からないという思いがあると考える。インタビューの中で新型コロナウイルスの流行によって、事業所に通う回数、時間や事業所の関係、職員と出かける機会が減っている状態の改善の改善の声を挙がっていた。

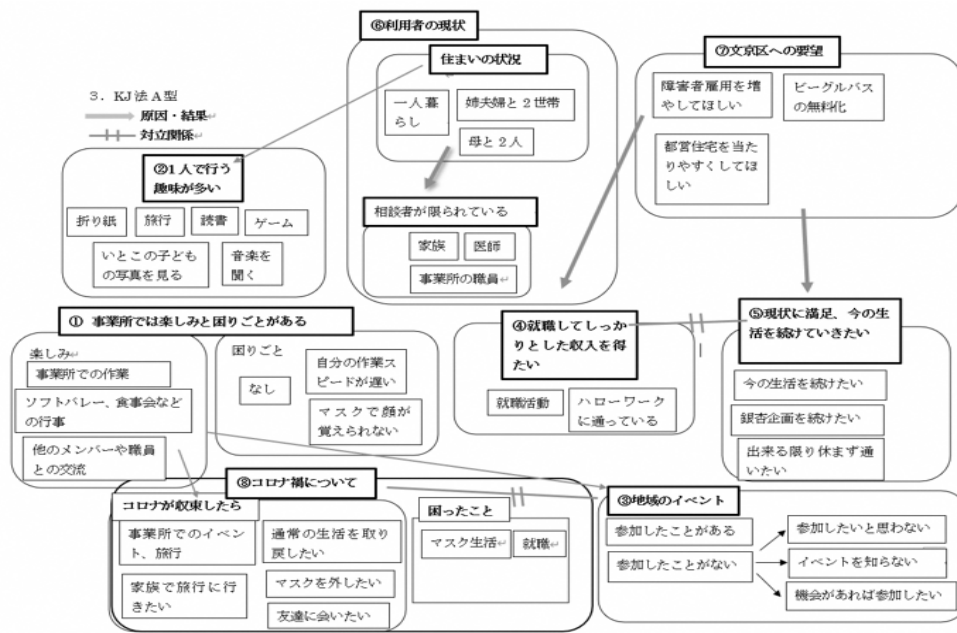
既存の繋がりには重要であるが、以前の状態に戻すのではなく、例えば事業所ではソーシャルワーカー実習の大学生を受け入れるなどの新しい関係性の構築が必要だと考える。また利用者もインタビューを行った私たち大学生に質問をし、こちらの話を積極的聞いていた。さらに過去に文京区の大学に入校したことがある利用者もいた。

提案としては既に事業所が繋がっている大学生のボランティアに活用する、事業所での外出の計画を利用者と共に立てて実際に外出するなど、環境を変化させようとするなど、利用者の現状の生活をより良いものにできないのではないかと考える。またそのような繋がりが、前述したように災害の際に大学を避難所とした際に、ボランティアの〇〇さんが通っている大学と捉えることができ、避難における利用者の安心感に繋がるのではないかと考えた。

1. 調査対象施設フェイスシート

施設種別	就労継続支援B型	
施設名	銀杏企画	
施設概要	精神障害などにより一般企業で働くことが困難な方たちへ適切なサポートを行いたいながら、軽作業を中心として働く場所を提供し、社会参加を促している。普段はDM・書籍の封入等の内職作業を行っており、時々期間限定のアルバイトや区役所内でのインタビューを行っている。その他にも昼食会・旅行企画・パレー等の行事が行われ、それらはメンバー主体で活動している。	
利用者数	通常 34人	
ヒアリングについて	調査担当者(グループメンバー) 富永拓洋 社会福祉学科3年 河津采那 宮崎桃花 上野夏実	
予備訪問	令和4年8月4日	
ヒアリング(対面)	令和4年9月22日	
対象者	8人(20~50代)	

2. KJ法A型図



3. KJ法B型文章化

今回の調査では、男性4人、女性4人の計8人にインタビューをさせていただいた。

① 事業所では楽しみと困りごとがある
利用者の事業所内での楽しみについてまとめると、「仕事が好き」、「事業所のメンバーと話すことが楽しい」と答える人が多かった。また、銀杏企画のイベントや食事を楽しいと答える人も多く、銀杏企画の利用者や職員と関わることが事業所に通う楽しさに繋がっていることがわかった。施設を利用するにあたって、困ったことがあると答えた人は1人もいなかった。事業所に対しては不満がなく通所できているのだと感じた。イベントは利用者自身で企画をして行うことが多く、大変だけれどやりがいにつながっていると答える方もいた。

② 一人で行う趣味が多い

利用者の普段の生活についてまとめた。読書、折り紙、テレビゲームと一人で行うことができる趣味をあげることが多かった。他にも旅行やスポーツなどの趣味の活動をする方もいた。コロナ禍により、外出しづらくなり、友達や家族と会うのが難しいため、一人の時間が増えたと感じる人が多かった。

③ 地域のイベント

また、地域でのイベントについて尋ねると、事業所として参加したことはあるけれど、自分から参加したことがある人はいなかった。しかし、機会があれば参加してみたいという人もいた。

④ 就職してしっかりと収入を得たい

また、コロナの影響で仕事を無くし、「就職してしっかりと収入を得たい」と答える人もいた。しかし、コロナ禍や自身の年齢など就職に対して不安を抱えているようだった。両親も高齢になってきているなど、今後は事業所に通いながらも自立したいと答える方も多かった。

⑤ 今の生活を続けていきたい

多くの方が「今の活動を続けていきたい」、「元気に暮らしたい」と答え、現在の生活を継続していきたいと考えていることが分かった。

⑥ 利用者の現状

精神科に1か月に一回、2週間に一回通っていると答える方が多かった。多くの方が現在は比較的症状が安定していると答えた。それを維持し、規則正しい生活を続けるために休まずに事業所に通い続けたいと答える人もいた。インタビューを通じて、利用者の方々は会話をすることが好きな人が多い印象を受けた。また、家族以外の相談相手がおらず、人間関係に限られていることも明らかになった。

⑦ 文京区への要望

文京区への要望として「B-グループバスを手帳ありなどで無料にしてほしい」、「送迎バスを付けてほしい」、「バスの本数を増やしてほしい」、「都営住宅の抽選を当たりやすくしてほしい」、「老人ホーム（特養）に入りやすくしてほしい」、「自立支援医療の更新期間を2年単位に延ばしてほしい」などの要望があった。特にB-グループバスを無料にして欲しいとの声が多かった。

⑧ コロナ禍について

マスクをすることにに対して嫌だと答える人が多かった。家にいる時間が増え、うつや精神障害を発症した人もいた。また、作業所では全員がマスクをしているため、顔と名前が未だに一致しないと答える人もいた。コロナが緊急したら、多くの人が家族や友達とご飯、旅行に行きたい、銀杏企画でのイベントを行いたいと答えた。

4. 考察

私たちは今回のインタビュー調査から、主に2つの課題があると考えた。まず1つ目の課題として、相談することのできる人、関わりがある人が限定されていることである。今回のインタビューではほとんどの方が相談相手として家族、職員、医師をあげており、利用者が相談できる相手が一部の人に限られていた。休日の過ごし方や趣味も一人や家族で行っている人が多く、普段の生活から家族や職員以外の人との交流があまりないのではないかと感じた。そのため、対等な友人関係や気軽に話すことのできる関係をつくっていくことが必要なのではないかと考えた。

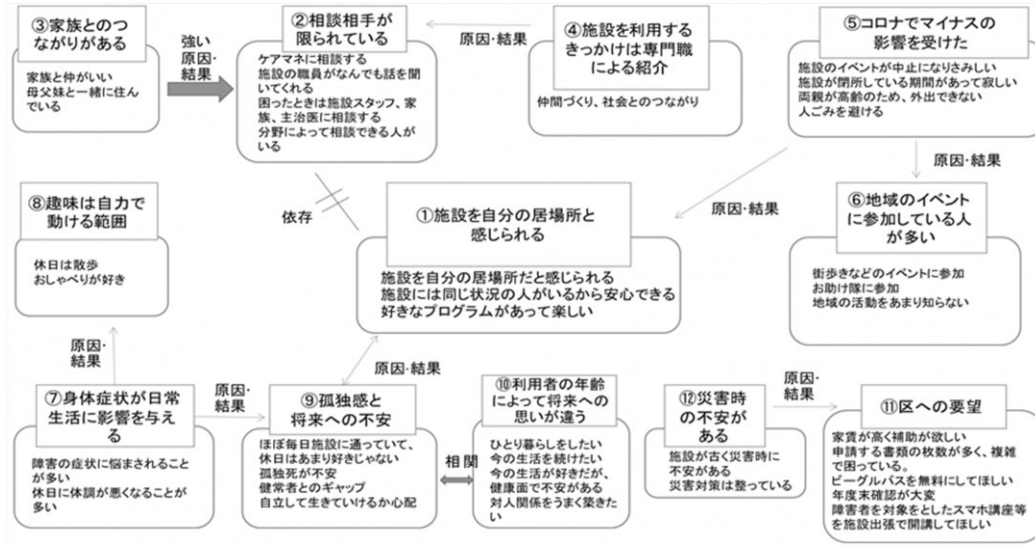
さらに、「地域のイベントに参加したことがあるか」という質問に対して、銀杏企画として参加したことはあるが、自分から参加した人は今回の対象者には1人もいなかった。参加したことがない人は、「どんなイベントがあるのか分からない」、「機会があれば参加してみたい」、「そもそも参加したくない」などといった回答があげられた。また、作業所でのイベントは楽しみで積極的に参加していても地域のイベントには参加していないという人もいた。中には参加してみたいけれど1人で勇気が出ないという回答をした人もいた。地域のイベントに興味があっても、どんな人がいるのか分からない、知らない人が多くいる場所に行くということに対して不安を抱えているのではないかと考えられる。そのため、作業所として地域のイベントに参加したり、区から作業所に参加しやすいイベントを紹介してもらうことで、地域のイベントに参加するきっかけになるのではないだろうか。そこから地域や地域住民とのつながりができれば、新たな関係や社会参加のきっかけになる

と考える。
2つ目の課題は、現在の仕事や生活を続けていきたいが、経済面や体調面から続けていくことができるか不安という点である。今後の希望する生活について質問すると、多くの方が「今の生活を続けていきたい」と回答した。そして、今の病気の症状が安定し、作業所に休まずに通うことを目標にしている方が多かった。しかし、作業所の収入だけでは、治療費や生活費を全て賄うことができないことや両親も高齢であるため、その後の生活について不安を抱えている人もいた。対象者からは、「作業所で収入は少ないにもかかわらず、利用料を私わなければいけないことが大変」といった要望もあげられた。そのため、地域での自立生活を支援していくための仕組みを施設や行政が一体となって作っていくことが必要だと考えた。また、今後の生活については、就職をして自立した生活を送っていききたいという希望を持っている方もいた。ハローワークに通うなど就職活動をしているが、コロナ禍や自分自身の年齢のこと、できることが限られているなど就職に対して様々な不安を抱えている。今回のインタビュー対象者からも「もっと障害者雇用を増やしてほしい」という声もあつた。このことから、障害者を持っていたとしてもその人にある働き方ができる企業が増えていくことや、障害者に対する理解を地域全体で深めていくことが必要なのではないかと考えた。

1. 調査対象施設フェイスシート

施設種別	地域活動支援センター
施設名	エナジーハウス
施設概要	エナジーハウスは障害者が地域で生活していくための生活全般について、ご本人、ご家族の相談に応じ、支援を行っている。1991年に開設され、喫茶「らん」の担当・バザー開催・高齢者センターでのコーラスボランティア・地域のお祭りへの出店と手伝い・オーブン夕食会などの地域との交流により、利用者の方々の地域生活支援を行っている。
利用者数	通常 37人
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー） 社会福祉学科 4年 友田大輔 社会福祉学科 4年 渡邊美歩 社会福祉学科 3年 本間里奈 社会福祉学科 3年 高木悠恵 社会福祉学科 3年 富永拓洋
予備訪問	令和4年8月16日
ヒアリング	令和4年9月26日
対象者	5人(30～70代)

2. KJ法A型図



3. KJ法B型文章化

- ①施設を自分の居場所と感じられる
施設で過ごしているときは同じ症状の人が集まるため、全員が過ごしやすいと感じていた。また、利用年数が長い人が多く、今回の聞き取りでは短い人でも8年、長い人だと30年利用していることがわかった。そのことから、施設を自分の居場所と感じ、生活のリズムに組み込まれていることが考えられる。
- ②相談相手が限られている
相談相手が主治医や家族、施設の人に限定されていることがわかった。また、施設の職員に頼りすぎている部分もあり、何かあれば何でも施設の職員に相談をしていると答えた人が半分以上いた。
- ③家族とのつながりがある
基本的に今回の調査した利用者は家族で過ごしている人がほとんどで、現在一人暮らしをしている人は一人だけだった。家族の仲も良好で、休日は家族でテレビを見たり、買い物をしたと答えている。
- ④施設を利用するきっかけは専門職からの紹介
区の職員から施設を紹介されたという人がほとんどだった。施設を利用する理由はそれぞれ様々であったが、生活のリズムを整えるためであったり、仲間作りの為に利用しているという回答があった。
- ⑤コロナでマイナスの影響を受けた
やはり、コロナによる影響で外に出ることを控えた人がほとんどだった。また、施設内でも、コロナ禍の影響で一時的閉鎖をして、その後の活動も時間を短縮し、プログラムを減らしながらも今も行っている。
- ⑥地域のイベントに参加している人が多い
地域のイベントに参加している人は多くいたが、施設のみなどで参加をしたと答えている人がほとんどで、個人的に地域イベントに参加をしたと答えている人は少なかつた。
- ⑦身体症状が日常に影響を与えている
70代の利用者は一時期、歩けなくなるほどの怪我をした。今は症状も回復してきて、施設にも通えるようになってきたが、昔より行動範囲が狭くなり、この施設に通えなくなるとはならないかと不安を感じていた。週に二回ヘルパーの方がお世話に来ていた。
- ⑧趣味は自力で動ける範囲
趣味については人それぞれで、テレビを見る、散歩、お酒などがあったが、基本的に一人で行えることが多く、友達と遊ぶなど、他人も関わる趣味はあまり出てこなかった。

⑨孤独感と将来への不安

平日は施設の仲間がいるが、休日は少し寂しいという意見や、高齢で一人暮らしをしているため、孤独感が心配という意見があった。将来への不安では、健康者とのギャップを感じていたり、夫の定年がもうすぐで、転職が心配という意見が挙げられた。

⑩利用者の年齢によって将来への思いが違う

利用者の年齢によって、挑戦したいか、安定を望むかに大きく分かれた回答になった。30代、40代の人は将来、一人暮らしをしたいや就職してみたいという意見が出た。逆に50代より上になると、今の生活に満足していて、このままの生活を続けていきたいという意見が多かった。

⑪区への要望

区への要望としては何かを申請しなければならなくなったときに書きなければならぬ書類が多く、複雑なため、簡略化してほしいという要望や、都内バスは無料化されているのなら、Bーグルバスも無料化してほしいという要望などがあった。また、現在、スマホが使えなければ大変だということから、スマホ講座を開講してほしいという要望もあった。

⑫災害時の不安がある

施設の建物古いため、災害時に崩れてくる不安があると語っていた。その一方、自宅では災害保険に入っていたり、最低限の食料、消化器を用意していたりとしつかりと準備ができていた。

全体としては、今回のKJ法A型では①のグループを中心に②～⑩までの結論に何らかの原因と結果の関係があると考えている。まず、②は利用者の方の交流が施設の中の人と、家族で完結してしまっているという意味している。そのことから、地域の人と関わりや他に頼れる友達がいらないこととわかる。その為、どうしても施設に頼り切りになってしまえば、依存してしまっている状態になっている。また、③と答えた人が多く、家族で休日、一緒に過ごすことも多いことから、②に對して、強い因果関係があることも伺える。さらに、④では区の職員からの紹介のため、他に頼れる関係の人がいないことが推測できるため、②と因果関係があると言える。

次に⑤についてである。施設では時間短縮やプログラムの減少を余儀なくされた。その為、①と考えている利用者にとって生活リズムが狂うなど少なからず影響が出ている。また、⑤の影響は⑥に因果関係を与えていると考え、⑤の影響で、地域のイベントは軒並み中止に追い込まれ、現在でも行われていないと語っている。その為、利用者も地域のイベントに参加できていない状況が続いている。次に⑦についてである。⑦については一人の利用者に焦点を当てた話であるが、動けば古着屋に行きたいと語っていることから、⑧に影響を与えていることがわかる。また、将来症状がどうなるかわからないという不安もことから⑨に影響を与えていると考え、⑨の話は⑩に類似している部分が多く、年齢により将来への思いや不安が違ってくるがわかる。また、①のことから、施設に居続けたいと強く願っている人が多く、もし施設に行けなくなると不安や孤独感があると語っていた。逆に、施設にいて同じ境遇の人がいるため安心して言っていたため、⑨と①は相互に因果関係があると考えた。最後に⑫については施設が古く、不安であるという点から⑪に関連付けられるのではないかと判断した。

4. 考察

今回、調査を行っていくなかで、エナジーハブという受け皿が地域にあることで利用者が安心して地域生活を送れていることを確認できた一方、利用者が施設しか頼れるところがないことが課題であると感じた。

理由として、相談も施設の人にほとんどしていると言っていたことに加え、施設に行けなくなるときに頼れる人がいないと話していることから、ソーシャルサポートが不足していることがわかる。この現状を変える解決策は3つあると考えている。

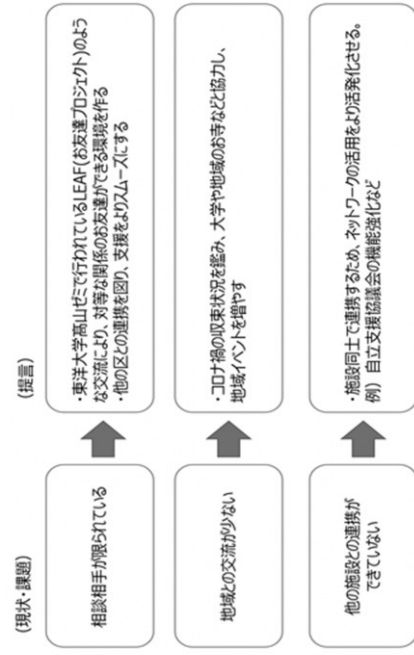
一つ目は地域と交流できる場所を増やすことである。コロナ禍以前は、施設のみならず、お祭りやイベントに参加したり、大学に行き、みんなで学食を食べにいったりと外との交流が盛んだったようだが、コロナになり、軒並みイベントが中止になり、施設プログラムの数も減り、地域交流が難しくなった。しかし、コロナ禍から二年半経ち、大学でも学園祭が開催されるなど親割が緩和されてきている。その為、地域イベントの活性化を大学などと連携して行うことにより、より地域の輪が広がり、利用者も外部とのつながりを持つことができると思われる。

二つ目は、他の区との連携した包括的な支援である。今回の調査対象者の中には、他区の利用者もいた。もし、他区に住んでいる利用者が一人暮らしをしたいや就職をしたいと考えたときに、情報をスムーズに共有し、支援へ結びつけるために、区役所との連携と他の区役所同士の連携を強化し、情報をスムーズに知らせる包括的な支援体制を整えるべきであると思う。

三つ目は、コロナ禍により、発展したオンラインの技術を活用することである。その為、利用者の方に施設でスマホ講座を行い、知識をつけてもらうことが必要ではないかと思う。

スマホ講座を行うことで、オンライン上で、いろいろなサービスを受けることもでき、地域交流の幅も広がると思われる。また、利用者がこの施設に通えなくなっても、ズーム機能などを用いることでつながりを持つことも可能であると思う。さらに、施設の老朽化が進んでいることで、利用者の人たちが、災害が来たときに少し不安という意見もあったので、安心して利用できるようにするためにも、建物の整備も行うべきではないかと思う。

精神障害者通所施設の利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



今回、精神障害者通所施設を訪問し、計28名の方からお話を伺った。お話を伺っていく中で学んだ現状と課題を分析し、共通の課題として、三つ挙げられた。

一つ目は相談相手が限られていることである。基本的には、相談相手として、家族か施設の人に相談している状況であることがわかった。しかし、そのことについては、課題であるとは一概に言えるわけではないと考えている。施設の人と信頼関係が取れていることになるので、一様に相談相手を増やす必要があるかと言われるとそうではないと思う。具体的には就職したい人や自立したいと考えている人に対して、連携してスムーズに情報が行き渡るようにするべきと考える。又、ある一つの施設では他区の利用者もいたので、他区とも連携して、支援をよりスムーズにする包括的なシステムも作るべきではないかと思う。さらに、たとえ相談相手を増やさなくても、つながり続ける友人的関係などの話し相手を作ることでも今後の支援をよりスムーズに進めるきっかけになるのではないかと思う。

二つ目は地域交流の場が少ないことである。今回、精神分野の中で違いはあったが、地域で交流できるイベントが少ない。コロナ禍により地域イベントが軒並み中止になり交流が無くなった。元々地域イベントに参加しておらず、年に二回くらい施設のイベントを行っていたと話されていた。このことから、地域交流の場を増やすために、地域イベントを活性化させる必要があると考えた。具体的には、大学などと協力して、さまざまな人たちと一緒に交流できるイベントを設け、オンラインを活用して、地域の人や大学生と関わる機会を作ることでもできるのではないかと考える。

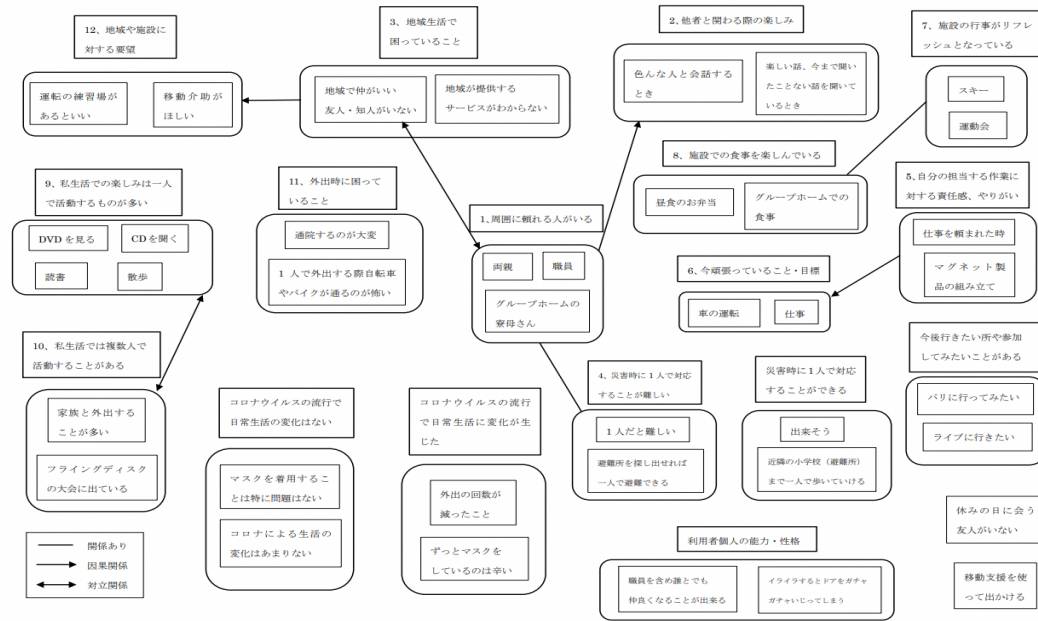
三つ目は他の施設との連携を充実させていくことである。自立支援協議会の機能強化などにより、施設同士で連携するためのネットワークの活用を活性化させていく。

(2) 知的障害者・就労継続支援 B 型

1. 調査対象施設アンケート

施設種別	多機能型事業所（就労継続支援 B 型、生活介護）
施設名	ワークシヨップやまどり
施設概要	働く場、次の就職のためのステップの場として就労の機会を提供している。一般就労に必要な知識、能力が高まった利用者に対しては一般就労に向けた支援も行っている。主な作業内容に施設外就労（公園清掃、老人ホーム清掃、寺掃除など）、受託作業（マグネット製品の組み立て、ダイレクトメール作業、のぼり旗の袋詰めなど）がある。また利用者個人の自立した日常生活、社会生活を送るための支援も行っている。
利用者数	就労継続支援 B 型 23 人、生活介護 20 人
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー） 栗原明日香 山本樹里 佐藤由佳 高崎終弥 水原百花
事前訪問	令和 4 年 7 月 28 日
ヒアリング当日	令和 4 年 9 月 3 日
対象者	8 人(20～50 代)

2. KJ 法 A 型図



3. KJ法B型文章化

今回、実際に入居者の方と会話をすることで、施設での生活や地域生活に関する様々な意見を聴くことができた。その意見の中から、特に「利用者の中から、特に「利用者の周囲に頼れる人がいるかどうか」をポイントとして全体の中心に置き、利用者の生活実態について考察した。周囲に頼れる人がいるかどうかで、交友関係の充実度や災害時の安全な避難など、利用者の生活が大きく変わると考えたからである。

1. 「周囲に頼れる人がいる」というグループは、2. 「他者と関わる際の楽しみ」のグループに影響を与えている。周囲に信頼できる友人がいることで他者との交流が増え、社会とのつながりが生まれるからである。また、3. 「地域生活で困っていること」のグループの中に「地域で仲がいい友人・知人がいる」という意見が含まれている。これは、1. 「周囲に頼れる人がいる（信頼できる友人・知人がいる）」と対立関係にあると捉えることができる。4. 「災害時に1人で対応することが難しい」といった意見のグループも、1. 「周囲に頼れる人がいる」と深く関連している。災害時の避難を1人で行うことは難しいからこそ、普段から周囲に頼れる人の存在が必要となる。

次に調査で聞き取った意見を「施設での生活」「施設外での生活」「地域生活における課題」の3つの観点からまとめた。1つ目は、施設における生活に關してまとめた。

まず、施設での作業に関する意見である。施設では、受託作業や施設外就労など、5のように、自分の担当する作業に対する責任感ややりがいを感じている人が多かった。「マグネット製品の組み立てや公園清掃の作業が楽しい」、「仕事を頼まれた時にやりがいを感じている」という意見を聞くことができた。また、6. 「今頑張っていることや目標があるか」という質問にも、作業を挙げることが多かった。自分の担当する作業に取り組むモチベーションを保っている人が比較的多く、作業への達成感或利用者の自己有用感に結びついていると考えた。次に、施設での楽しみに関する意見をまとめた。施設ではスキー旅行や運動会、ハンドベルのコンサートなど行事を開催している。その行事への参加を楽しみにしている人が多かった。施設では、7. のように定期的なイベントの開催など非日常体験が利用者のリフレッシュにより影響をもたらしていると言える。また、8. 施設での食事に楽しさを感じるといった意見もあった。弁当屋が届けてくれるお弁当を楽しみにしている。答えた人もいたことから、施設での食事は生活のメリハリを生む重要なものであると考えられる。その一方で、「施設での楽しみが食事しかない」と捉えることもできる。これは、他の利用者とのコミュニケーションなど、食事以外の面では特に楽しさを感じていないことの表れではないかと考える。

2つ目は、施設外での普段の生活に關してまとめた。まず、休日の過ごし方や趣味に関する意見についての聞き取りを行った。出た意見を9. 「私生活では一人で活動するものが多い」と10. 「私生活では複数人で活動することがある」の2グループに分類し、対立関係とした。1人で活動する趣味では、スポーツ観戦やDVD鑑賞、テレビ視聴、読書、散歩などが挙げられた。一方、複数人で活動する趣味では、家族との外出、ショッピング、フライングディスクの大会出場、海外旅行などが挙げられた。

全体的に、1人で楽しむ趣味に関する意見が多く見受けられた。また、他者と一緒に行う趣味であっても、その「他者」の大半が友人等ではなく家族であったことが特徴的である。自由時間の過ごし方や楽しみ方の種類が画一的であり、交際範囲も家族など狭い範囲に限定されてしまっていると言える。

3つ目は、地域生活に対する課題に關してまとめた。まず、地域生活で困っていることに関して聞き取った。地域で仲の良い友人・知人がいない、参加したい地域の活動やイベントがない、地域で提供しているサービスに何がわからないという意見があった。また11. 外出時の困難と

して、1人で外出する際に自転車やバイクが通ることへの恐怖感を感じるという意見もあった。一方、地域に対する要望として、「運転の練習場があると嬉しい」、「外出時ガイドヘルパーがいた方が良い」などの具体的な意見も上がった。これらのことから、家族不在で自由で安全な外出が難しい点が課題であるといえる。上はがって、今後は地域で移動支援のサービスを充実させることが必要だと考えられる。また、地域に友人や知人や知人が少ないという意見からは地域内での交友関係の希薄さが窺える。パターン化された生活の中では、施設の他の利用者や家族など固定のコミュニティのメンバー以外の接点を持ちにくく、交友関係を広げていく機会が少なく考えられる。趣味もひとりで行うものに偏っているのは、そういった要因もあるのではないかと。今後の提言として、地域住民との接点を生むようなイベントを企画したり、区内の他の施設の利用者同士で交流を持つ機会づくりをすることが必要だと考える。

4. 考察

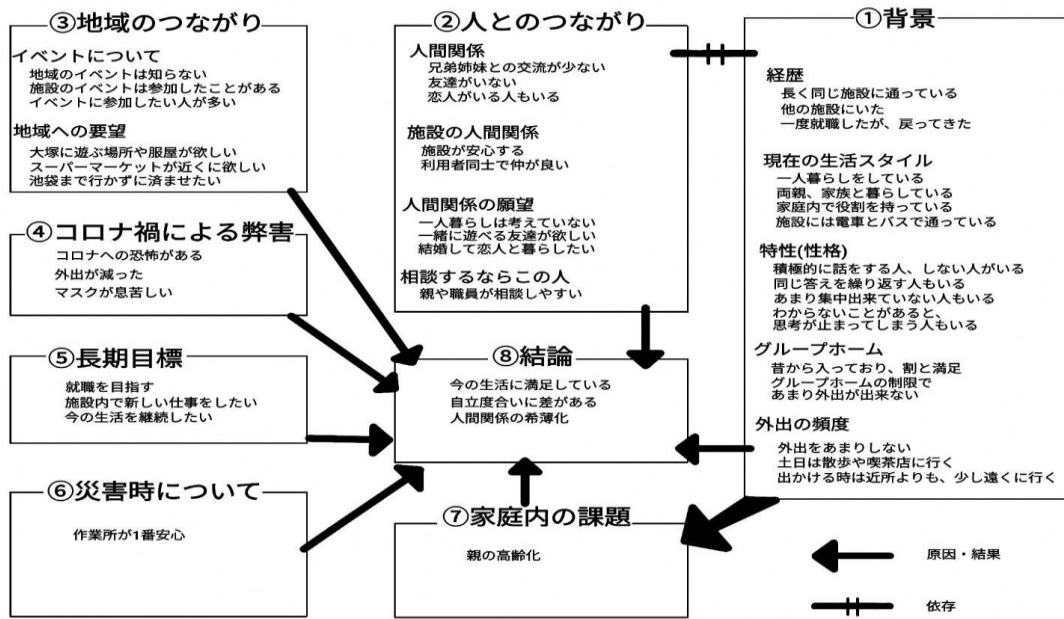
まず1つ目が『災害時に1人で行動できるかどうか』ということである。調査対象者の中には、「人と話すことが好きだから、慣れない場所（避難所など）でも生活することができた」、「指定避難所になっている近隣の小学校まで1人で歩いて行くことができる」という方もいた。しかし、「1人だと困る・不安」、「家族が一緒にでないと避難は難しい」、「慣れない場所や人の多い場所で生活できるか分からない」、「携帯は持っているけど、緊急の対応や行動を自分一人でするのは難しい」という声が多かった。

これらのことから、施設内で避難訓練を実施するのはもちろんのこと、他の施設や地域とも協働関係を構築することで、施設職員以外にも緊急時に避難行動を援助してくれる人材の確保に取り組みべきであると考えた。

2つ目は『コロナウイルスのまん延による日常生活の変化の有無』である。聞き取りを行った結果、特に不便さや困りごとを感じていないという人もいる一方、「マスクをするようになったことが大変」「地域の人と関わる時間がなくなった」、「外出の機会が減った」などの声も挙がった。話を聞いていく中で、「周りの人から言われたから仕方なく」や「それをしないと通所できない」といった受動的な理由によって手指消毒やマスク着用を実施していた印象を受けた。そのため、本人が納得してコロナ対策に取り組めるよう、分かりやすく現在の社会の状況やコロナウイルスの特徴について伝える必要があると考えた。またコロナ以前から希薄であった地域との関わりが一層希薄化してしまっている現状も看過することはできない。加えて、ワクチン接種も1つの課題であると感じた。大半の方は家族や施設職員が接種の予約をしていたことから、感染症対策と同様、意思決定のため必要な情報提供を行っていくべきであると考えた。

今回の調査において、施設利用者は個別に多くの課題を抱えていることが分かった。その中でも特に、『年齢やこれまでの生活に縛られ、新たな可能性や選択肢を見出すことができていない』ことは大きな課題であると感じている。今後も目標や希望を尋ねても、「もう、この年だからね」、「と見え見え今の生活が続けられればいいかな」など、現状維持を望む意見が多かった。言い換えると、自宅と施設における定型化された生活を繰り返していることで、新たな興味や可能性に出会う機会が少ないということになる。このことから、施設職員や家族との援助関係だけでなく、近隣住民や友人というインフォーマルな関係を増やすことで意思表出の機会を創出し、自分らしい生活の実現を支援していく必要があると考えた。

2. KJ 法 A 型図



1. 調査対象施設プロフィール

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	文京区立大塚福祉作業所
施設概要	大塚福祉作業所では一般の就労が困難な方が入所し、作業諸活動を通して就労に必要な作業知識や技能等を身につけられるよう支援を行っている。 作業内容はチラシの折り込み、本のカバー掛けである。最近はこのカバ掛けの作業が減少しているため、ほとんどの作業はチラシの折り込みになっている。
利用者数	通常 45 人
ヒアリングについて	調査担当者 (グループメンバー) 友田大輔 社会福祉学科 4 年 井岡音々 高木悠恵 椎名裕理 武藤仁美
予備訪問	令和 4 年 8 月 18 日
ヒアリング	令和 4 年 9 月 22 日
対象者	10 人 (20~60 代)

3. KJ法 B 型文章化

はじめに、今回の聞き取りから 8 つのグループに分類をした。

① 背景

背景の中には利用者の経歴や特性、現在のライフスタイル、外出の頻度、グループホームの現状が含まれている。利用者の多くは家族と一緒に生活をしている人で占めており、一人暮らしやグループホームで生活している方は少数であった。そのため、利用者の多くは外出をする際は家族と一緒にしており、頻度は各家庭の両親の年齢によって差があると考えることができた。特に利用者の両親が高齢であると身体的に外出することが難しかったため、外出の頻度が少なくなっている。また、コロナ禍によって外出の頻度が格段に減った利用者の方も多かった。利用者には通所の際には公共交通機関を利用しており、自力で通っていた。施設に通所している年数としては 10 年以上を超える期間の方も多くおり、多くの方が長期的に利用している。利用者の中には一般企業に就職をしていた方もいたが、少数であった。

② 人との繋がりが

人との繋がりにには人間関係について、相談できる人などが含まれている。利用者の多くは「友人がいない」と回答しており、友人が欲しいという声も聞かれた。一方で、家族との関係は良好である方も多かった。相談できる人は両親や施設の職員ばかりで、利用者の人間関係の希薄さが読み取れる。

③ 地域のつながり

地域のつながりには地域のイベントと地域への要望が含まれている。多くの利用者は地域のイベントについて知らないという回答だった。また、コロナ禍により、地域でのお祭りなどのイベントが中止になっているため地域のイベントに参加することができていないことも現状として挙げることができ。地域への要望としては、大塚や自宅の近くに遊べる場所や買い物ができる場所が欲しいという回答があった。この施設を利用している方は全員が文京区在住であり、施設へ徒歩で通うことができる方もいる。そのため、施設の周辺などの身近な場所に遊ぶ場所や買い物をする場所を望んでいると考えることができる。

④ コロナ禍による弊害

コロナ禍による弊害については、コロナ禍によって外出を制限されてしまったことやマスク生活に苦しきを感じているという回答が挙げられた。

⑤ 長期目標（生活）

長期目標（生活）については将来、どのような生活を送りたいかが挙げられている。一人暮らしをしたいと考えている方もいれば、一人暮らしをする際に家事や洗濯ができないからグループホームに入所をしたいと考えている方もいらした。加えて、家族と離れて暮らすことが寂しいため、これからもずっと家族と一緒に生活をしたいと考えている方もおり、人間関係が希薄化していることによって家族への依存が大きくなってきているのではないかと考えることができた。

⑥ 災害時について

災害に関しては実際に 2011 年の震災を経験している方もおり、その際の実験から家にいる時は家にとどまり、施設にいる時や帰宅する途中であれば施設にとどまることが安全であるという回答があった。実際に連絡が取れなくなってしまうこともあるため、施設にいれば安心できるということが利用者の中でも一つの安心材料と考えることができる。

⑦ 家庭内の課題

家庭内の課題については利用者の高齢化により、利用者の親の高齢化も進んでいる。そのため両親の介護をしなければならぬ利用者も出てくること大きな課題になっている。両親の状態によって外出が制限されることにつながるため、日常生活にも影響を与えていると考えることができた。

⑧ 結論

結論としては現在の生活に満足をしているが、多くの課題を抱えているということが挙げられる。特に人間関係の希薄化が分析の結果として大きな部分を占めていると考える。また、利用者の両親の高齢化に伴い、利用者の将来の生活について、計画することが必要であるとともに、利用者の生活環境の変化が近い将来に起こるのではないかと考える。

次に各グループのつながりについてである。

はじめに、①～⑦のグループはすべて⑧の結論に因果関係があると考えている。これは利用者の分析を行った際に、利用者が抱えている課題は様々な分野が複雑になっていると考察することができたためである。また、将来の生活についての視点から考えても、利用者には将来の生活を考える上で生じた課題を抱えていることも考えることができた。そのため、現在の課題も将来的な課題もすべて結論につながることをできると考えた。

次に①の背景と②の人とのつながりの関係についてである。この 2 つのグループは背景が人とのつながりに影響を与えていると考えた。背景からは、利用者の生活基盤がどのような状態であるかということ进行分析することができ。特に「家族と生活をしている」、「家族と外出をする」、「外出する頻度が少ない要因が家族の高齢化である」という点を踏まえ人と人とのつながりが希薄化していることから結び付くと考えた。また、多くの利用者は、家族や施設の職員を相談先として回答していることから、利用者は家族や職員に依存度が高いことも考えることができた。前述のように依存してしまっていることは人間関係が希薄化していることも大きな要因にあるが、家族や職員に依存してしまっていることにより現在抱えている課題や将来の生活に向けた課題についての解決が困難になるのではないかと考えた。

最後に①の背景と⑦の家庭内の課題についてである。この 2 つは背景が家庭内の課題に大きな影響を与えていると考え、強い因果関係でつながると考えることができた。前述したように利用者の人間関係の希薄化により、利用者が両親の介護を担わなければならない状態にあることや両親の高齢化が要因となって日常生活に支障が出てきている。このような状態の根底には利用者の背景が複雑に絡み合っており、影響を与えていると分析することができると考えた。強い因果関係でつながると考えた。また、家庭内の課題は早期に解決しなければならぬため、問題が困難化する前の早期発見につながる支援体制を整えられていくことが求められると考える。

4. 考察

はじめに、聞き取りを行っている中で「現在の生活に満足をしていない」という声が多く出ていたが、それは表面上だけであり、実際には課題を多く抱えているのではないかと考える。このことから、利用者は自分が抱えている課題について、自覚していない可能性が高いと考える。加えて、利用者の家族も本質的な課題について自覚していない可能性があると考えることができる。

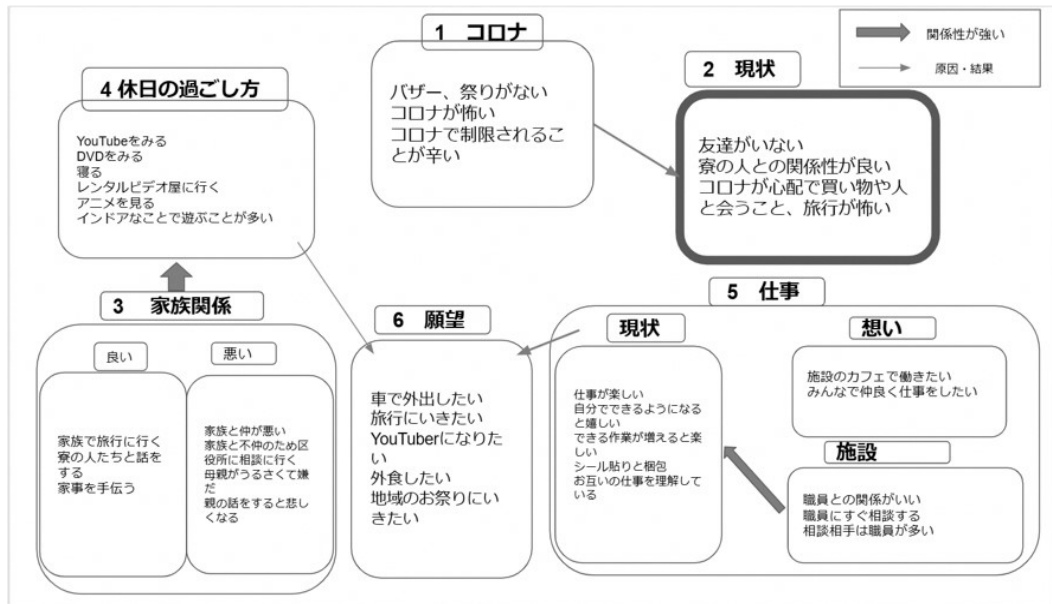
次に聞き取りの中で「友人がいない」という回答が多くあった点についてである。この点について、利用者は周囲の人と関係性を築くことができず、孤立した環境にいないか、かと思えることができた。そのため、周囲の人と関係性を築くことができる場所やイベントを開催することによってこの課題を解決することができるのではないかと考える。利用者の中には趣味がゲームの人もおり、同じ趣味を持つ人がいることによって関係性を築くことが可能になると考える。また、文京区内には大学が多く点在するため、住民に限らず、大学生などとの交流をすることにより、近い趣味を持つ人と繋がることもできるのではないかと考える。加えて、イベントの情報を知らない利用者者が多くいることからイベントの周知方法を工夫するなどし、多くの利用者に情報が届けられる体制を整える必要があると考える。

最後に、利用者が高齢であることに伴い、利用者の高齢化も進んでいる点についてである。この点については親亡き後を想像することができないことが課題になっていると考える。特に両親の高齢化が日常生活に支障を与えていることもあるため、早期に考えるべきことであると考える。この対応策としては早期に将来の生活について、事前に計画をしていくことであると考える。その際には利用者が自分らしい生活を送れるようにするための計画にしなければならぬと考える。

1. 調査対象施設プロフィール

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	ワークブレイスふんぶん
施設概要	企業等に就労することが困難な障害がある者に対して、就労の場を提供している。2015 年に開設された施設で社会福祉法人武蔵野会が経営している。複合施設である館内の環境整備業務や就労継続支援事業で運営しているカフェ業務、受注作業などの仕事を通して作業支援や自立生活に向けた支援を行っている。
利用者数	通常 10 人
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー）
予備訪問	令和 4 年 8 月 10 日 清水麻祐花
ヒアリング	令和 4 年 9 月 1 日 奥村紗貴子 渡邊樹 淀川純
対象者	9 人(10~50 代)

2. KJ法A型図



3. KJ法B型文章化

1. コロナの影響により、自分のやりたい事ができない状態が続いている。コロナの影響により、外出できないことや家族としか接点がない事から「友達がい無い」という状況が聞かれた。2. 現状では友達がい無い、出来る限り外出自粛や人との接触を恐れている。コロナの影響により、地域の交流や活動の参加に消極的になってしまった。また、行動制限されていること旅行や外食、お祭りなどやりたいことができない。友達がい無いことは作る機会もないため、地域や教育機関を通し、3. 家族や寮以外の接点を持つ重要性や4. 休日の過ごし方が問われる。次に5. 仕事について、基本的に仕事に対して前向きに楽しく取り組んでいる方が多い。難しい仕事でも職員と協力して行うなど信頼関係が構築できているように感じた。仕事に対する不満を話す利用者は少ないが、やりたい仕事を聞いてみると施設のカフェで働いてみたいという要望を聞くことができた。先述で利用者と職員の信頼関係が構築できていると述べたが、困りごとを職員に相談すると利用者が多くいることからからも信頼関係が良好だと推測できると考えた。

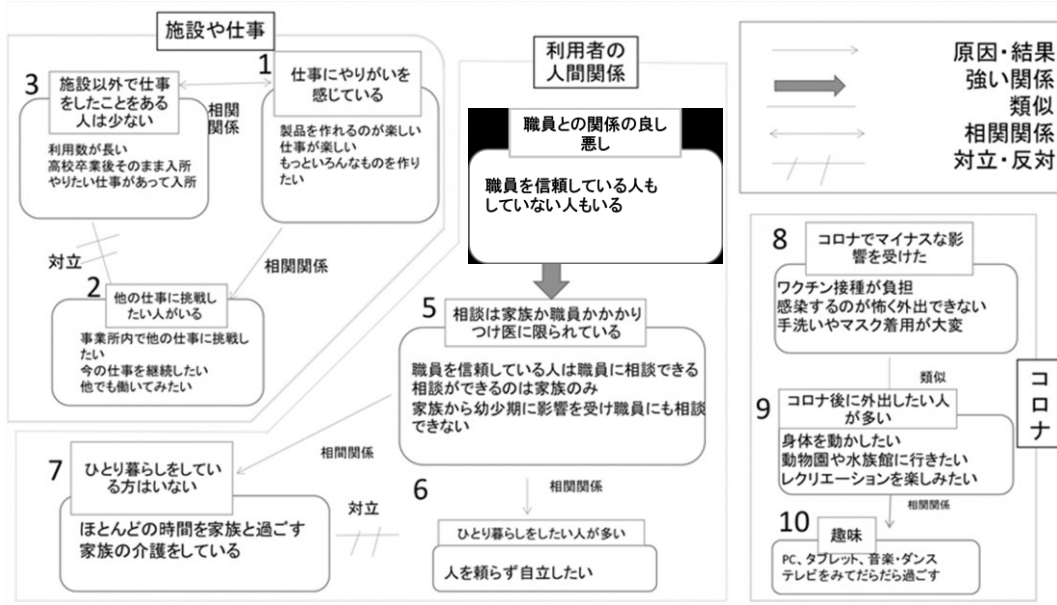
4. 考察

これらの分析をもとに、最後の6.願望に集約されたと考えた。願望は、外出をしたいという意見が多く、コロナウイルスに対して、恐怖心を抱いている印象であった。休日の過ごし方では、インドアかつ1人でできることがほとんどであった。これは、コロナウイルスの影響であると最初は考えていた。しかし、現状の部分で友達がいないという意見が多く上がった。ここが一番の問題であり、友達がいないから1人でできることをしているのではと感じた。また、外出も家族や1人でしたいという意見や相談は家族、施設職員、区役所職員などであり、友達と遊ぶ、相談すると回答した人はいなかった。印象的であったのは、18歳の男性が友達がい無いと回答した事である。特別支援学校の生徒と公立校に通う生徒との交流・活動は少なく、地域での活動・交流も参加するのみで、つながりをつくるままではできていないと推測する。行政や教育機関、住民、地元企業など、このような現状がある事の把握、そして対策が早急に必要だと考えた。

1. 調査対象施設プロフィール

施設種別	就労継続支援 B 型
施設名	社会福祉法人 工房わかざり
施設概要	知的障害者が働く場である工房とグループホームを運営している社会福祉法人である。知的障害者の方に働く場を提供し、日々の生活や作業を通して社会自立への援助を行っている。就労の形態は、職場の就労時間が短いため補助的活動がほしい等利用者の事情に合わせる事ができる。年齢、就労形態、居住地も様々だが、互いに認め協力し合い、仲間意識を育みながら、働く喜びと張り合いを持ち作業を行うことに努めている。また、高校生や希望者の実習の受け入れも行っている。 1998 年に開設され、自主製品（レザークラフト製品）、紙製品（祝儀袋、カードケース）、手芸品（さき織、刺繍小物）などに加え、レザーのサンプル貼りなどの受注作業を行っている。地域バザーや夏祭りなどが、製品の納入、販売先である。
利用者数	通常 20 人
ヒアリングについて	調査担当者（グループメンバー） 本間里奈 社会福祉学科 4 年 遠藤詩夏 谷田虹輝 渡邊樹
予備訪問	令和 4 年 8 月 18 日
ヒアリング	令和 4 年 8 月 23 日
対象者	9 人(20-70 代)

2. KJ 法 A 型図



3. 「KJ法B型文章化

私たちは、10個のグループに分けた。そして、それらを「施設や仕事に関するグループ」、「利用者の人間関係に関するグループ」、「コロナに関するグループ」の三つに分類した。

1. 「施設や仕事に関するグループ」

まず施設や仕事に関するグループには、仕事にやりがいを感じている、他の仕事に挑戦したい人がいる。施設以外で仕事をしたことがある人は少ないという三つの表札がある。仕事にやりがいを感じているという表札では、製品を作れるのが嬉しい、仕事が楽しいという利用者が多くいた。この表札に因果関係があると考えられるのが、他の仕事に挑戦したい人がいるという表札である。今の仕事を継続したい人もいたが、施設内の他の仕事に挑戦したい人も多くいた。今の仕事に楽しさややりがいを感じているからこそ、もっといろいろなことに挑戦してみたいと感じられるのだからと考えた。一方で、他の仕事に挑戦したい人の中には他の作業所で働いてみたいという声もあった。そこで対立していると考えられるのが、施設以外で仕事をしたことがある人が少ないという表札である。利用者は、高校からそのまま働き続けていたり働いている方が多いことや利用年数が長いという傾向があった。作業所で働く中で他の作業所や他の業種の仕事をしたいと思っという表札という選択肢が与えられにくい環境にあるのではないかと考えた。

2. 「利用者の人間関係に関するグループ」

次に、利用者の人間関係に関するグループには、職員との関係の良し悪し、相談は家族、職員又はかかりつけ医に限られている、ひとり暮らししたい人が多い、ひとり暮らしをしている方は少ないという四つの表札がある。施設の職員を信頼している方もいれば、そうではない方もいた。職員を信頼している方は、相談事があった際に、職員に相談する傾向があった。一方で、職員には相談しない方もいた。そのような方々は、相談事を家族にする、あるいは誰にも相談できいなといううことが判明した。誰にも相談できない人の背景には、成育歴の中でショックな出来事があり人間不信になっていた。誰にも相談できない人の背景には、人を頼らず、自立して一人暮らししたい希望を持っていった。他方で、家族との関係性が良好な方は、ほとんどの時間を家族だけで過ごしていた。

3. 「コロナに関するグループ」

最後に、コロナに関するグループには、コロナでマイナスの影響を受けた、コロナ後に外出した人が多い、趣味は在宅に多いという三つの表札がある。コロナに関するインタビュー回答から、「コロナでマイナスの影響を受けた」と「コロナ後に外出したい人が多い」という二つの表札ができた。さらに、そこから考察し、「趣味は在宅が多い」という表札を結びつけた。最初の「コロナでマイナスの影響を受けた」の中には、ワクチン接種が負担・出かかれなくなってしまう等、感染に対する不安が多く見受けられ、コロナによって心に負担がかかっていた、動物園や水族館にいきたい、そして、「コロナ後に外出したい人が多い」では、身体をうごかしたい、動物園や水族館にいきたい、レクリエーションを楽しみたいといった回答が多くあり、外出への意欲が高まっていることが分かった。そのため、この二つの表札は、コロナの影響を強く受けている、コロナが生活を変化させている、という観点から、類似していると考えた。また、数年間この状態が続いたことがきっかけとなり、外出が限られてしまっていることから、趣味も室内でできるものに限られてしまっているのではないかと、という推測から、この「コロナ後に外出したい人が多い」と「趣味は在宅が多い」の二つの表札を原因と結果として結んだ。

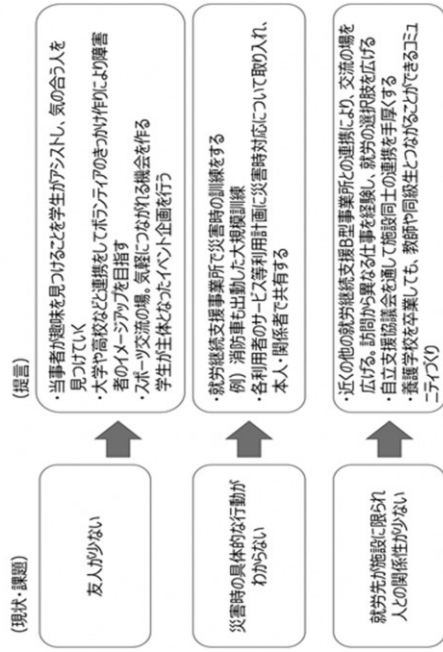
4. 考察

新型コロナウイルスのまん延によって、在宅で過ごす時間が増えたと回答した利用者が多かった。また、自分が感染者になるかもしれないという恐怖がある意見もあり、マスク着用やワクチン接種など負担に感じている方が多くいた。コロナ後には、以前レクリエーションで行っていたバスハイクの再開を希望する声も多数挙がった。コロナ禍であっても感染対策に留意しながら利用者が楽しめる活動を計画し実践できる機会が必要であると感じた。

災害に関する質問では、あらかじめ避難先を決めてある、話し合いをしているという声が挙がった。災害については特別脅威を感じている方はいなかったが、具体的にどのような被害を想定しているのか、十分でない部分がある。災害を身近に感じられる体験型の災害訓練を実施することを提案したい。

課題だと感じるのは、交流や相談先が限定されていることである。家族、施設の職員、グループホーム、ケアハウスの友人に限られていた。そこで、文京区の資源である高等学校や大学、老人クラブ等を活用したつながりがつくりを提案したい。利用者の中には、アイドル、ダンス、音楽、鉄道など様々な趣味があった。部活動やサークル、趣味の共有や近い年齢層での交流などが行えるのではないかと考えた。また、就労においても違う作業所で働いてみたいという声も挙がっていた。他の就労支援との連携を図り様々な仕事に触れ、自分のやりたい仕事は何か、自分の能力を活かせる仕事は何かについて考え、仕事を利用者自身で選択できるように機会を拡充するべきだと考える。

就労継続B型事業所の利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



私たちは就労継続支援B型事業を訪問し、計35名の方からお話を伺った。お話を伺っていく中で、現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結び付けたい。

一つ目の課題として「友達が少ない」ということが挙げられた。この課題の解決に向けた提言について三つ挙げたい。一つ目は趣味を見つけていくことを学生がアシストし、それと並行して長期にわたって友達をして繋がる人を見つけていくことである。これは利用者の多くは友人がいないことが影響し、一人で遊べることをしていないかど分析することができたため、この策を提言した。そのため、誰かと一緒に遊べる趣味を見つけていくことができれば、新たな人との繋がりが生まれ、友達を見つけていくことができると考えた。趣味を見つけていく際には地域住民によるアシスタントではなく、様々な個性を持っている大学生がアシスタントをすることによって趣味の選択肢を広げることが可能であると考えた。二つ目は大学や高校などの教育機関と連携をし、ボランティアのきっかけづくりを行うことである。多くの人々は障害者に対してのイメージが先入観に影響されており、障害者の本質的な部分の理解をすることができていないと考える。そのため、利用者と実際に交流する機会を作ることによって障害者のイメージを変えていけるようにすることができると考えた。また、教育機関と連携する理由として、高校や大学では教育の一環で学校としてボランティアに参加することが多くあるため、ボランティア先の1つとして施設を組み入れることにより可能になるのではないかと考えた。三つ目はスポーツ交流をすることである。スポーツを通して交流をすることによって気軽に交流することができると考えた。そのため、学生が主体となって企画をすることができれば、より多くの学生を集めることができ、利用者も多くの人と繋がる機会になるのではないかと考えた。

二つ目の課題として「災害時の具体的な想像ができていない」ことが挙げられた。この課題の解決に向けた提言について三つ挙げたい。一つ目は就労施設で災害時の訓練を行うことである。災害時にはどのように行動をするべきかについて想像することは難しいため、実際に体験することによって理解を深めることができるのではないかと考えた。また、より災害時の状況を理解するために学校などで行われている消防車による大掛かりな訓練を行うことも一つの手法になるのではないかと考えた。二つ目は各利用者の利用計画に災害時に関する内容を取り入れることである。今回、お話を伺った方の多くは自力で施設に通っている方が多くいた。そのため、各利用者のための災害時の避難方法などの計画が必要であると考えた。

全体の印象として、現状から変化することへの恐怖を感じられた。また、施設や家族への依存があることによって災害時の対応が厳しくなるのではないかと考えられる。

三つ目の課題として「就労先が施設しかない」「人との関係性が少ない」ことが挙げられた。この課題の解決に向けた提言について三つ挙げたい。一つ目は他の就労継続支援B型施設と連携を取ることである。これは同じ施設内だけではなく、他の施設の利用者とも交流を広げることによって選択肢が広がるため、他の仕事を体験し、本当にやりたい仕事や向いている仕事を見つけていくことが可能になるのではないかと考えた。二つ目は養護学校を卒業後も交流できるコミュニティを作ることである。これは卒業後も情報共有や関係性が終わることがない環境を作ることができると考えられる。

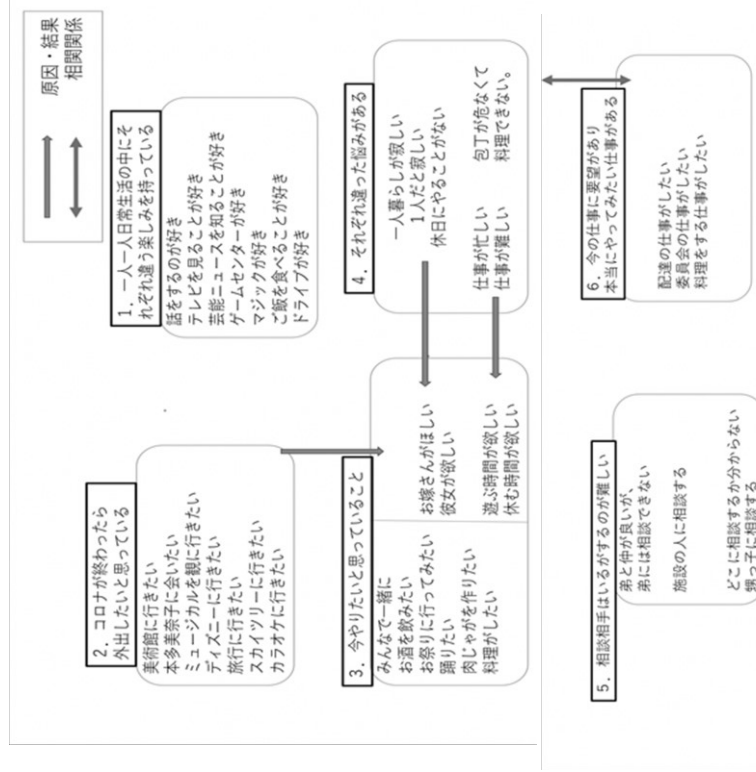
以上が就労継続支援B型事業の利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言である。

(3) 生活介護

1. 調査対象施設プロフィール

施設種別	生活介護・就労移行支援
施設名	は〜と・ピア2
施設概要	
<p>【生活介護】 個別支援計画に基づき、健康的で豊かな生活を維持していくための基本となる身体介護や生活介護、コミュニケーション援助・支援等を個々の利用者に合わせて行っている。</p> <p>【就労移行支援】 生産活動その他の活動の機会を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行っている。</p>	
利用者数	<p>【生活介護】22人 【就労移行支援】8人</p>
<p>ヒアリングについて 予備訪問 令和4年9月6日 ヒアリング 令和4年9月29日</p>	<p>調査担当者（グループメンバ） 森田侑奈 山勢結香 鈴木悠里 大図佳豊</p>
対象者：3人(40-70代)	

2. KJ法A型図



3. KJ法 B 型文章化

生活介護事業所でインタビューをした中で出てきた悩みや希望を6つのグループ分けた。

1つ目は、①一人一人日常生活の中に違う楽しみがあるというグループだ。コインゲームをしているとき、ドライブをしているとき、ご飯を食べている時という方がいた。2つ目は、コロナが終わったら外出したいと思っているというグループである。デイズニースラランドや、美術館、各観光地などへ旅行に行きたいという要望があった。2つめのグループの要望から類似する事として分かったこととして、3つ目のグループにした。それは、現在自分が出来ないことをやりたいと思っるといグループだ。お祭りやダンス、料理などをしたい。恋人が欲しい、時間が欲しいというものである。

その理由として、4つ目のグループに悩みとして、一人暮らしが寂しい、休日にやることがない、仕事が忙しいから時間が欲しい、処方薬の影響で料理をしたいがすることができないというものをまとめた。5つ目のグループは、その要望や悩みを誰かに相談することが出来ているのかという繋がりに、相談相手はいるが相談するのが難しいというグループになった。このグループでは、利用者の方々は、弟はいるが相談は出来ない。誰に相談すればいいのかわからない、施設の人や甥っ子に相談している等の回答があった。6つ目のグループは、今の仕事に要望があり、本当にやってみたい仕事があるというグループである。配達の仕事をしてみたい、委員会に入りたい。料理をする仕事をしたいたい等の仕事への要望もあった。

4. 考察

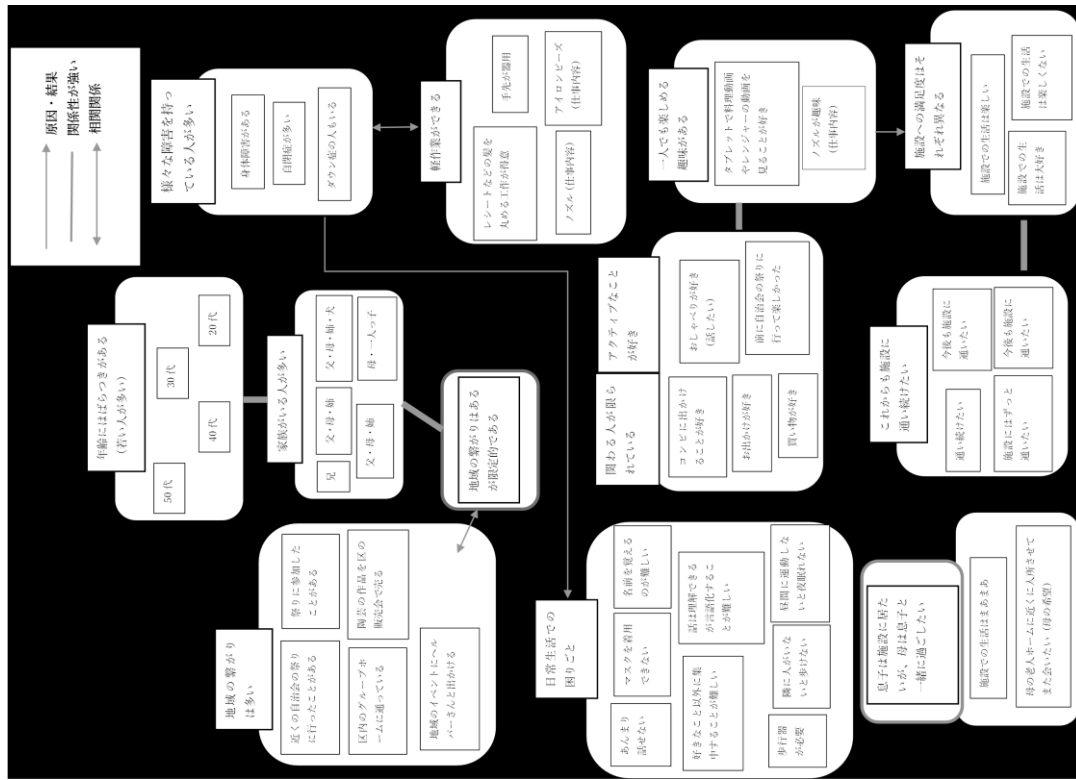
これらの調査結果から次のことを考えた。

- ・家族や施設職員以外が行う相談支援の充実
 - ・令和4年度11月現在行われている全国旅行支援施策のような、社会福祉施設の利用者向けの旅行支援(費用や補助)
 - ・作業の種類や業種を増やし、利用者が得意なものを選択出来るようにする
- の3つである。この3つが充実することにより、自己で選択出来るものの幅や、私生活の充実にも繋がると考えた。

1. 調査対象施設フェイスシート

施設種別	多機能型事業所 (生活介護・放課後等デイサービス)
施設名	文京区立本郷福祉センター 若駒の里
施設概要	
障害のある方が地域で社会生活を営むよう、通所による生活支援・作業訓練を通じて支援している施設である。太陽福祉協会が、平成16年4月1日から文京区から委託され運営している定員30名の生活介護施設事業所である。平成27年4月より法内化となった放課後等デイサービス事業との多機能型事業所として一体的に運営を行っている。	
利用者数 通常 30人	
ヒアリングについて 調査担当者(グループメンバー)	
予備訪問 令和4年9月22日	宮野こはく 保坂 桃
ヒアリング 令和4年9月22日	梶本 愛 嶋津裕太 水野華
対象者：8人(20~50代)	

2. KJ法 A 型図

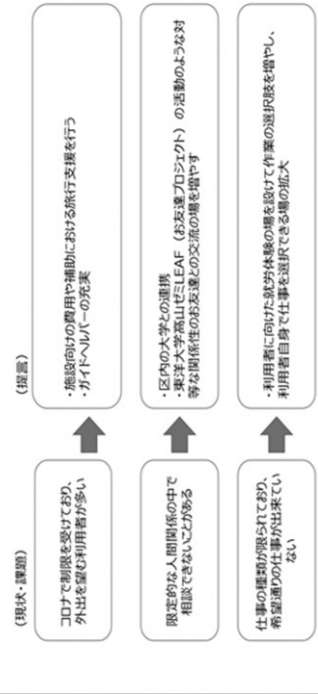


3. KJ 法 B 型文章化

重度の知的障害のある利用者が通所している。身体障害のある人もおり、車いすが必要な利用者もいる。
冒頭で説明した通り、ほとんどの利用者の方が発語による意思疎通が難しいため、私たちと職員との想像が多いが、その中でも汲み取ることができたことについては深く掘り下げて述べることにする。

1. 年齢にはばらつきがある
利用者の年齢は若い方から高齢の方まで幅広く、男女比としては男性が3分の2、女性が3分の1である。
2. 様々な障害のある人が多い
障害については知的障害のある方に加えて身体障害のある方もいた。
3. 軽作業ができる
軽作業が得意な方もいる。
4. 日常生活での困りごと
障害をもつからこそ、日常生活での困りごとに影響がある。困りごととは具体的に移動介助や代弁者の必要性が高かったり、コロナ禍ではマスクの着用や外出制限などの新しい環境の変化に対応したりすることが難しく、それらが強制的に義務付けられていることがコロナ禍での課題に挙げられる。
5. 地域の繋がりは多い
ここ数年は祭りやイベントは中止になっているが、コロナ前はそれらに積極的に参加したことがある人が多くいた。
6. 地域の繋がりはあるが限定的である／7. 家族がいる人が多い
障害者の方でも地域参加できる機会が設けられているが、その関係性は限られている。そして、その限られた関係性は家族が中心であるといえる。
8. 関わる人が限られている／9. 一人でも楽しめる趣味がある
利用者の中には外出や人との交流が好きな方がおり、その他の利用者は動画視聴や仕事をするなどの1人でも楽しむ趣味を持っていた。アクティブなことをするには家族や職員の人が必要などとして、一人でも楽しめるを得ない環境は互いに限られたコミュニケーションの中で発生していることである。
10. 施設の満足度はそれぞれ異なる
施設での生活は楽しいと感じている利用者が多く、中には体調を崩していても施設に通いたいという人もいたが、施設が楽しくないという声もあった。私たちの想像だが、施設に通うことが自分の意思とは異なるため、活動や仕事にやりがいを持って、そのような声があったのではないかと考える。また、仕事が趣味になるほど施設での活動に満足して楽しいという声もある。

生活介護事業所の利用者の生活実態に関する現状・課題とその解決に向けた提言



私たちは障害者の生活介護を訪問し、計11名の方からお話を伺った。お話を伺っていく中であった現状と課題を分析し、解決に向けた提言に結び付けた。

1つ目の課題として、コロナ前の外出の楽しい思い出が多く、「コロナ禍で出かけられない」、「旅行をしたい」という声があり、また外出が好きで、以前地域のイベントに参加した方もいたことから、外出したい利用者が多いことが挙げられた。そのため、費用や補助を行う施設向けの旅行支援を展開し、外出の機会を設けることで、コロナ前のような楽しい思い出をつくることができ、利用者の生活が豊かなものになると考へる。またそれによって、より利用者が施設に通うことが楽しいと思うきっかけになるのではないかと考へる。また、ガイドヘルパー養成講座の研修を無料にするなどして補助金を増やすことにより、区民の普及を広げたい手を増やしていくことも重要と考へる。

2つ目の課題として、施設の職員や家族といった限定的な人間関係の中で、相談相手はいるが相談するのが難しいという声があるなどの人間関係の狭さが挙げられた。そのため、現在高山ゼミを中心に活動が行われている、障害者のお友達プロジェクト「Leaf」のような学生団体との交流を図ることで、対等な関係性が生まれ、利用者にとって施設の職員や家族にはなかなかできない相談がしやすくなるのではないかと考へる。またこのような交友関係をもつことで、今まで人や社会との接点が少ない障害者が少なかつた経験や出会いの場がつけられ、その中で単なる友達づくりだけでなく、自分の将来を自分自身で決定するきっかけにもつながるのではないかと考へる。

3つ目の課題として、「希望通りの仕事ができない」、「今の作業が難しい」という声があり、利用者一人ひとりにあった仕事にたどり着いていないことが挙げられた。仕事が趣味という方もいたが、それは仕事に限られ、活動の幅が狭いため仕事に趣味にならざるを得なくなっていると推測する。そのため、利用者に向けた就労体験の場を設けて、作業の選択性を増やすことで、利用者自身が体験を通じて理想とする仕事を選択することができると考へる。またそのことが利用者の意思決定や自己決定につながり、自ら主体性をもって行動することができると考へる。これら3つの課題に対するそれぞれの解決策を実現させることで、自己で選択できるものの幅が広がって私生活が充実し、その結果、利用者の自分らしい生き方や本当の幸せをかたちづくることのできるだろう。

11. これからも施設に通い続けたい/12. 息子は施設にいたい/12. 息子は施設にいたい、母は息子と一緒に過ごしたい。それらを踏まえて今後も施設に通い続けたいという希望につながり、さらにいうとこれからも文京区に住み続けたいというニーズが浮き彫りになる。

4. 考察

この調査を通して、施設利用者が「自分らしく生きていくのか、施設に通うことがほんとうに幸せなのか」について考へた。そこから、①限定的な利用者との関係性②支援者と利用者との関係性③親戚きあとの関係性④3つの課題が浮き彫りになった。

初めに①「限定的な利用者との関係性」課題についてである。調査から利用者は様々なイベントに参加することや、外出、買い物を通して、幸福を得ていることが分かった。しかし、そこでの関係性は、家族や施設利用者同士の関係にとどまっているのが現状である。この関係性を通して得たことから、利用者には施設での生活は楽しいと回答している。私たちが考へる。そこで私たちは「ライフスタイルの変化」に焦点を当てたい。私たち健康者は様々なライフスタイルの変化がある。例えば、大学進学、社会人、結婚など様々なことである。そこで様々な人と出会い、環境の変化があることで新たな楽しさ、幸福を得ている。ここに彼ら、利用者には課題があると私たちは考へる。この変化がないために、得られていない関係性が利用者にはある。①の課題に対する、私たちが提案する一つの対応策として、他の知的障害者施設、身体障害者施設、福祉施設の一つである児童養護施設などと連携することをあげる。この新たな関係性の構築を行える環境作りを通して、調査時に感じている家族や利用者との関わりから感じる楽しさに加えて、より多くの幸せを利用者が得られると私達は考へる。

次に、②の課題についてである。私たちは現状の支援方法から、支援者と利用者との関係性に課題があると考へる。そこで、私たちは支援者と利用者との関係性を対等に築きたい。そのため、我々は福祉系学生団体との積極的な関係構築が必要であると考へる。利用者が支援者と対等な関係であると自覚したら、現在よりも近く、深い視点で支援を展開できると私たちは考へた。具体的な策として東洋大学高山ゼミで活動している「Leaf」という学外活動がそれに当てはまる。ここでは、学生と障害者施設の利用者がお友達という対等な関係性で交流する中で、利用者一人ひとりの意思決定支援を行う通称「お友達プロジェクト」という取り組みを行っている。そのような関係性での交流が、一緒に生活しては行かない、本音や悩みを、会話を通じて表出することができ、利用者が支援者と利用者との関係性では行かない、本音や悩みを、会話を通じて表出することができ、このような活動が増えれば、従来の関係性ではない、新たな関係性を構築できると私たちは考へる。

最後に③の課題についてである。本調査で、自分の老人ホームの近くの障害者施設に新しく入所させたい母親と、このまま施設に通い続けたいという息子の親子間において希望する生活のずれがあった。これについて母親は自分の息子の時間を作りながら、暮らす場所は別というものが理想の生活であった。親子でいる時間が長く続くとお互いにストレスや負担がかかるため、それは叶えることは難しいと考へる。しかし、支援者の手を借りて、同じ地域の中で交流を得ながら家族が触れ合える相互交流の機会があるとすれば、親戚きあを考えたうえでも理想的だと考へる。今回、私たちは調査を通して、このような結論を導き出した。多くの人が施設に満足しているという調査結果になっているが、私たちは敢えて3つの課題を提言し、対応にあたることで、今よりもより利用者が幸福感を得やすい環境を整えることができると考へる。

【2 グループホームの部】

グループホーム居住者（共同生活援助サポーターサービス利用者）のインタビュー調査報告

志村健一（文責）

1. はじめに

2022（令和4）年度調査におけるグループホーム居住者のインタビュー調査は、2020（令和2）年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけて、前回調査より縮小した実施となった。対象となった文京区内のグループホームは以下の通りである。

社会福祉法人銀杏企画	ホームいちよう
社会福祉法人復生あせび会	文京ホームアムダンダンテ
社会福祉法人文京槐の会	陽だまりの郷
社会福祉法人ドリームグレイ	ドリームハムハウスIII
社会福祉法人ドリームグレイ	ドリームハムハウスIV
社会福祉法人太陽福祉協会	エルムンド千石
社会福祉法人太陽福祉協会	エルムンド小石川

結果的に、調査対象であった7施設から、インタビュー調査を中心とした方法により、18名分のデータを収集し、整理、統合した。知的障がいのある利用者が11名（61%）、精神障がいのある利用者が7名（39%）となり、全体の定員を母集団とすればおよそ36%である。

コロナ禍における新たな生活様式が提唱されて2年半が経過した。障がいのある人たちの日常生活はどのような状況であるのか、また各地でさまざまな自然災害が発生している中で、グループホームではどのような備えが意識化されているのか等、学生が見て、聞いて、想像を巡らせた。その結果を概括して、個別施設の報告へつなぎ、本報告の最後に総括と提言を提示する。

2. 日常生活の様子

障がい種別に関わらず、文京区内のグループホームの居住者は、その生活に満足しているようである。その評価がどのような生活実態に基づいているのか、KJ法による図解から読み解くと、2つの方向性があると考えられる。

第一に、個別の生活を基本としつつ、集団による楽しさを共有できるという点である。コロナ禍で外出やイベントの参加が規制されているが、各自が趣味や余暇を好きなことで過ごし、また仲間と共に過ごす時間や、支援者との時間を肯定的にとらえていることからくる満足感である。グループホームの良さが、調査結果からも読み取ることができよう。

第二の方向性は、障がい特性により、例えば、知的障がいの特性である言語による意思表出や物事の説明を、グループホームでは支援者がいることでその苦手な部分を補っていることがある。また、精神障がいのある人たちは定期的に通院することが必要な人も多く、グループホームからの通院のアクセスの良さが満足度に繋がっている様子もうかがえた。

このように文京区内のグループホーム居住者は、グループホームの持つ特性と、本人のニーズをうまくマッチさせて、日常生活を安心して過ごし、満足感を得ていると考察した。このような生活が広がるようにグループホームの量的な確保が求められる。

3. 相談支援体制に関して

グループホーム居住者は、日常生活の困りごとについて世話人という身近な支援者に相談ができる。これは相談支援体制の入り口としても有効に機能しており、日常生活上の困りごとはこのレベルで解決しているようである。各グループホームは、その入り口機能のみではなく、例えば災害時における対策を講ずるなど、突発的に発生する可能性がある困りごとへの対応にも準備がされていると判断できた。

この相談支援体制は、日常生活の困りごとには対応可能であるとしても、就労に関する専門的な知識が必要とされるような相談までは、その範疇にない。そのため、そのような相談を関連施設との連携等でフォローすることが求められる。通院による医学的な相談支援もその一つとしてあげられる。グループホームを中心とした専門的な相談のネットワーク、相談の内容による適切な相談窓口へのつなぎを確認しておく必要がある。

4. 将来展望について

個別性はあるが、将来への展望は障がい特性に左右されているように見受けられた。精神障がいのある人たちは、グループホームが通過施設であり、希望の職種に就職して、一人暮らしをするなどの将来展望があり、そのことが個人の生活の目標にもなっている。それに対して、知的障がいのある人たちは、現在のグループホームでの生活に満足していることで、安心し、将来の夢や希望を具体的に描いていなくようなのである。

グループホームでの現在の生活が安定しているからこそ、将来についてじっくり考えて、将来を展望することも可能である。そのような支援をしていくことは、グループホームに空室を作り、次回利用希望者を受け入れることも可能となる。グループホームを終の棲家とせずに、地域生活の入り口として機能させることが求められていると考えた。

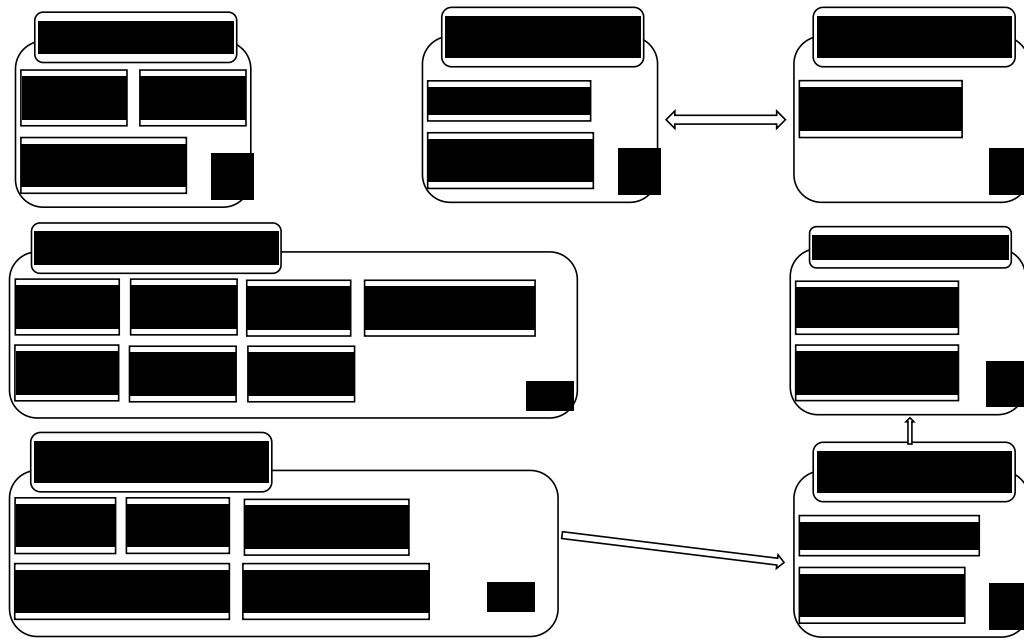
5. まとめ

前述したように今年度の調査はコロナ禍において対象者が限定され、また十分な関係性を構築した対面での調査が困難であった。不慣れたオンラインでの調査、インタビューへの書き込みによるデータ収集など、これまでの文京区の質的調査では経験したことのない方法でアプローチざるを得ない調査実施となった。しかし、学生たちはグループホームという生活の場で、より生活の実態を理解しようとする努力し、またその解釈をインタビューのデータと重ね合わせて、各グループホームでの生活を立体化させようとした。その結果、表面的なものにとどまらず、グループホーム居住者の生活実態に迫ることができたのではないかと思う。調整にご協力いただいた施設の担当者には深く感謝申し上げます。

1. 調査対象施設アセスシート

施設種別	グループホーム
施設名	ホームいちよう
施設概要	
主に精神障害のある方が自立生活を目標して生活している。ホームいちようは2001（平成13）年に開設され、グループホーム、ケアホームを運営している。	
利用者数	通常 5人
ヒアリングについて	担当者（グループメンバ）
予備訪問 令和4年8月22日	倉上華奈、山内美織
方法：対面	社会福祉学科3年 江森大智、渡辺航
ヒアリング	4年
方法：自由記載のアンケート方式へ変更	
対象者：2人	

2. KJ法A型図



3. KJ法B型文章化

私たちはグループホームで暮らす意義を大きく七つのグループに分けた。まず、一つ目は通院課題が整っているというグループだ。18歳から通院、2年前から通院、悪化しないようにとにかく休むという意見が挙がった。二つ目は施設で暮らしている中で楽しいというグループだ。台所で料理をすることが好き、テレビを見ることが好きという意見が挙がった。三つ目のグループは二つ目のグループの反対でグループホームで暮らしている中で困っていることがあるというグループだ。滞在時間に制限があるため困っているという意見が挙がった。四つ目は将来に向けての希望があるというグループだ。週30時間働きたい、色々な職種に興味がある、資格を取って働きたいという希望が挙がった。週30時間働きたいという方は施設に入所前は作業所で働いていた。五つ目は施設を出た後の暮らしへの不安があるというグループだ。グループホームから出た後は多くの方が一人暮らしをする。そのため、一人暮らしへの不安が多く挙がった。金銭管理が難しい、貯金頼りなのが不安、物価が高騰しているため物を買えないという不安が挙がった。六つ目は相談相手に関するグループだ。相談相手が周りにいないという意見が挙がった。しかし、区の職員には生活相談をしたことがあり、話を聞いてくれるという意見が挙がった。七つ目は地域でやりたいことがあるというグループだ。お祭りをしたいという意見が挙がった。また、区への希望でも集まる場所が欲しいという意見が挙がった。

4. 考察

通院に関しては、対象者が2人とも通院することが出来ている。精神障害者は薬や医師との関係が上手くいかないことや通院することが難しいことが多々ある。しかし、この施設で暮らしている対象者の方は通院が出来ているため、環境が整っていると考えられる。

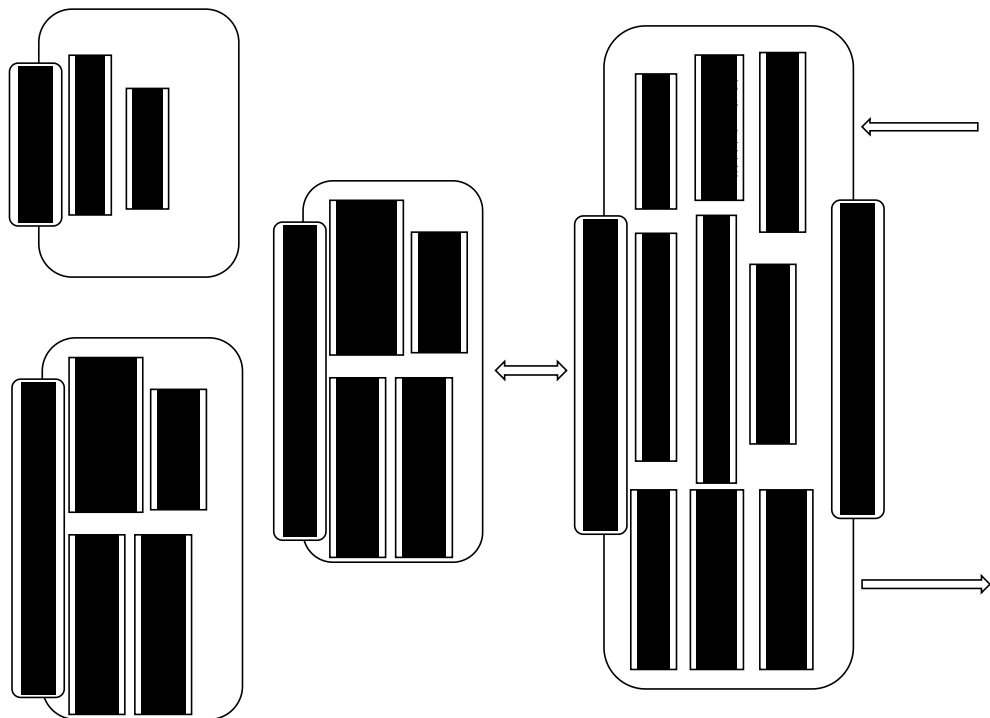
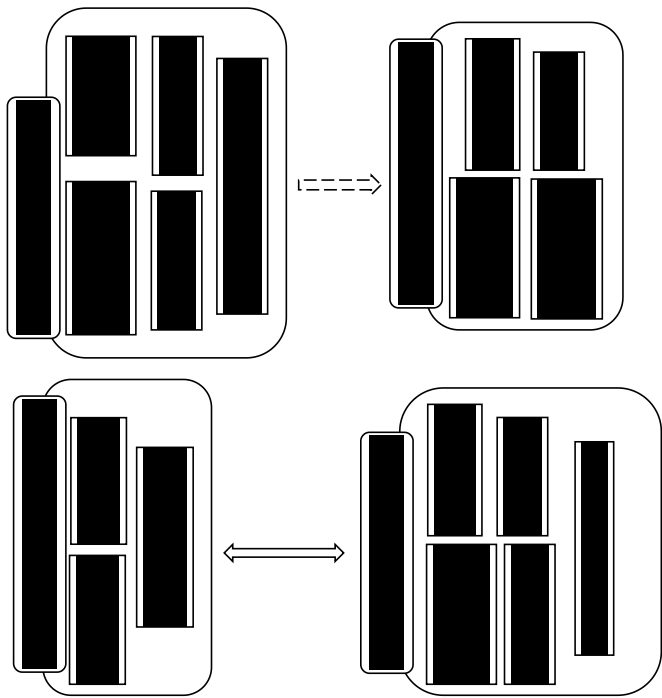
就職に関しては、どちらの対象者も意欲的である。特に週30時間働きたいと挙げた方は、施設入所前に作業所で働いていたため仕事が好きであると考えられる。

金銭管理が難しい、将来が貯金頼り、物価の高騰など金銭関係に不安があるため、一人暮らしに対して前向きになれないと考えられる。理由として、相談相手が周りに存在していないため、不安が多く上がったと考えられる。そのため、地域でのやりたい事や区への希望で人との交流の場所を強く求めたのだと考えられる。

調査対象施設プロフィール

施設種別	グループホーム
施設名	文京ホームアンダンテ
施設概要	
精神科の通院治療、服薬を継続している方で、日中は通所施設を利用していたり、就労等をしてい る方が自立した生活を安心して送ることができるように支援する障害者自立支援法に基づく共同生 活援助(グループホーム)である。	
利用者数	通常 6人(1人入院)
ヒアリングについて	調査担当者(グループメンバー) 社会福祉学科3年 笹木あさひ 平野舜也 横山菜緒 金澤幸弥
予備訪問 令和4年9月19日	
方法:オンライン	
ヒアリング 令和4年9月25日	
方法:対面	
対象者:5人	

2. KJ法A型图



3. KJ法B型文章化

利用者の日常生活としては、精神科に2週に1回に通院している方がいたり、週2回通院していたりとそれぞれであった。

施設を利用するきっかけとして、区役所や両親・保健師からの紹介が多く挙げられていた。生活が自由であり定期的に面談があることや週に1回の交流会、困り事や不安事をすぐに職員に相談できることが施設を利用してよかったことに挙げられていた。

今悩んでいることとして、ショートステイに行けないこと・地域のイベントに参加したことがない・自立後にお金のコントロールが出来るか不安であること・地図が読めないことが挙げられた。利用者は自立生活を始めるにあたって、語学や一人暮らしの勉強をしていたり、仕事をするために体力づくりをしている。将来は一般事務勤務希望やグループホーム事業設立等様々なことであった。

そして、コロナにおける影響として、友達と遊びに行けなくなったこと・フクチン稼働など複雑な手続きを難しく感じていること・旅行に行きづらいこと・マスクが足りていないことがあった。また、施設において困っていることとしては、水道に浄水器が付いていないこと・ゴミアプリが出ること・費用が何に使われているのかわからないということが挙げられていた。これらに対して、職員の対策として、施設の災害対策で1ヶ月に1回食料配布をし、毎日検温を行っている。基本的に手伝うというスタンスになってしまいうため生活力を形成する場所にするのは難しく、人件費の拡大や物件の費用更新料等を公費で賄ってほしいとの声があった。

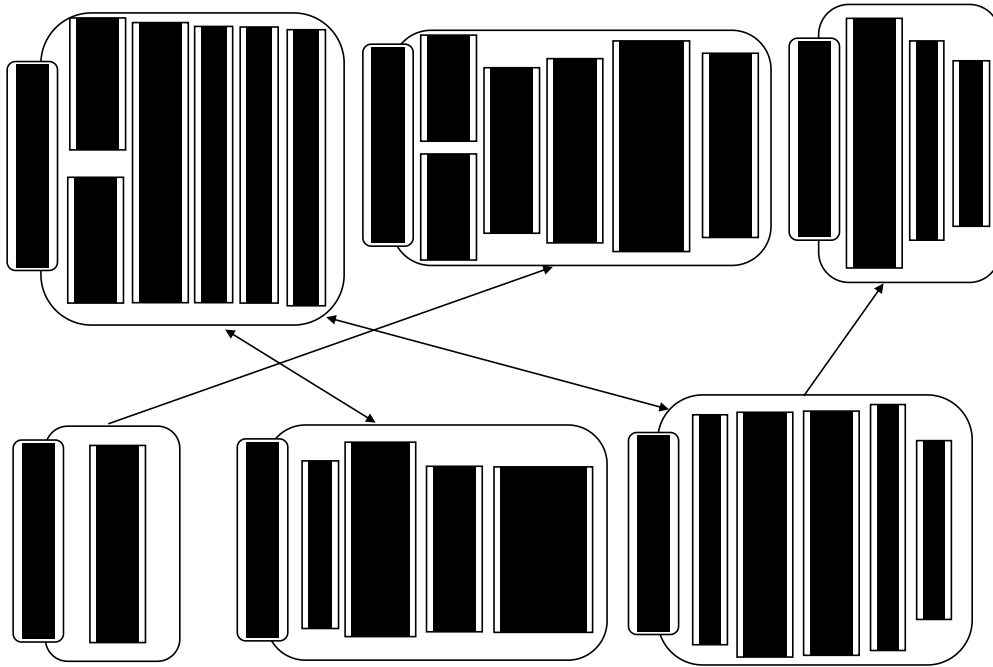
4. 考察

文京ホームアムダメンテの利用者は、今後の生活について目標や将来やりたいことなどが明確になっている人が多く、前向きであるように感じた。特に、グループホーム事業を行いたいと考えている利用者もいたことから、現在の生活の中でグループホームの存在についてありがたさや重要さを感じているのではないかと考えた。また、全利用者が不安なことやわからないことがあったときに文京ホームアムダメンテの職員に相談することができると話しており、施設での生活で困っていることが頭に浮かばないという利用者が多かったので文京ホームアムダメンテでは職員と利用者のコミュニケーションが適切に行われており、関係が構築されていると感じた。コロナウイルスによって地域、人との交流の場を失っており、今後利用者が自立する際に孤立してしまうことを防ぐということが必要であると考えた。

1. 調査対象施設フエイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	陽だまりの郷
施設概要	
2015年設立。障がい者が地域において自立して日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、入居者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じてグループホームにおいて相談、入浴、排泄または食事の介護その他の日常生活上の援助を行う施設である。	
利用者数	通常 10人
ヒアリングについて	担当者(グループメンバー)
予備訪問 令和4年8月22日	社会福祉学科3年 小笠原終也
方法: 対面	4年 藤田聖那
ヒアリング 令和4年8月26日	田上健太郎
方法: オンライン	鈴木志世
対象者: 3人	

2. KJ法A型図



3. KJ法B型文章化

私たちはグループホームに行き、利用者から聞き取りを行ったことを6つのグループに分類した。分類はグループホームで生活する中で利用者の要望を分けたものが主になっている。コロナ前の生活のグループでは以前行っていたことを聞き取ったものを挙げていく。

したいことのグループではコロナ以後で変わってしまったり生活の中で、○○がしたいといったことが多かったと感じた。家族と頻りに会っていたり多かったと感じた。

旅行が楽しかった方などは多くいらしたことが多く、旅行に行くことや、家族と会うということがあった。また、グループホーム内の生活を楽しんでいらした方も多く、職員の方との会話、また一緒に生活している利用者同士での会話が好きな方もいらした。身の回りの事のお手伝いをしていたりしているということからも職員と利用者の信頼関係が出来ているのだと実際に訪問した際にも感じた。

現在はグループホーム内で生活をしながら、地域のイベントに参加したりすることも多い。日中はお仕事をしていることが多く、シール貼りのお仕事をされている利用者の方がいらした。また、その中で他のお仕事をしてみたいという利用者のニーズがあることも分かった。

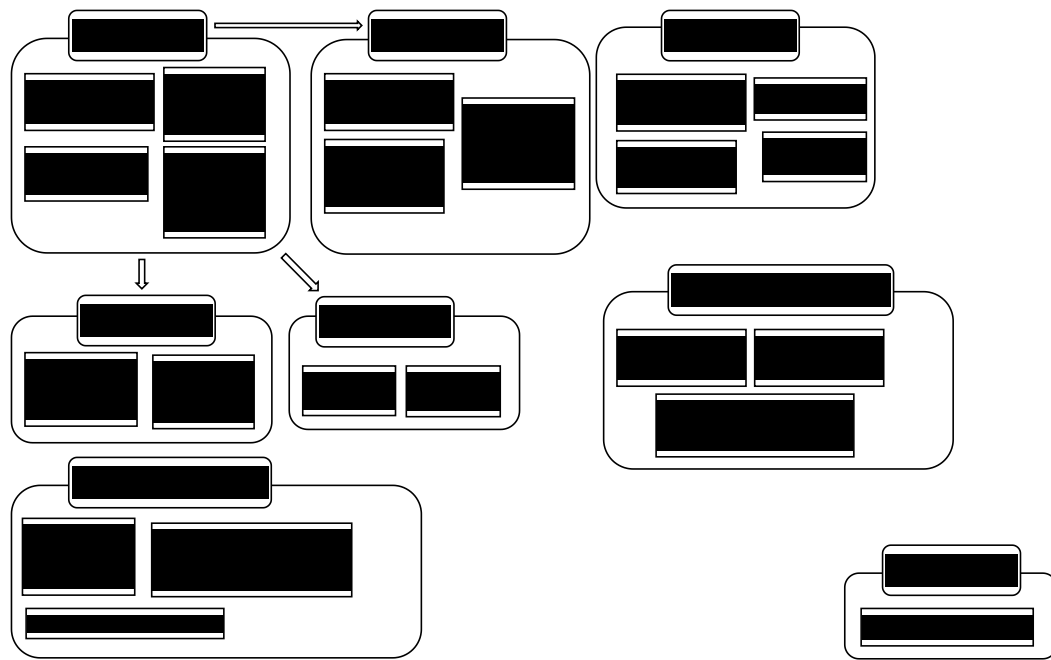
4. 考察

今回の調査から、基本的に施設や地域においての生活で困っている事や不満な事は無いと考えられる。文京区や施設の方々が、利用者の方のために尽力されている結果であると考えた。利用者の方々が今求めている事は、コロナウイルスがまん延してしまう前の普通の生活に戻る事であり、好きなことややりたいことが今の状況では厳しい状況であるからだと考えた。

1. 調査対象施設アセスメント

施設種別	グループホーム
施設名	ドリームハウスⅢ
施設概要	
24 時間支援体制で日中の活動もサポート。障害者の孤立防止、生活上の不安軽減、共同生活による身体、精神の安定等を図る。	
利用者数	通常 7 人
ヒアリングについて	担当者（グループメンバ）
予備訪問	令和 4 年 9 月 10 日
方法	対面
ヒアリング	令和 4 年 9 月 10 日
方法	対面
対象者	1 人

2. KJ 法 A 型図



1. 調査対象施設フェイスシート

施設種別	障害者グループホーム
施設名	ドリームハウスⅣ
施設概要	障害のある人が日常生活の支援を受けながら共同生活を送る社会福祉施設である。特に、ドリームハウスⅣでは仕事や日中活動での疲れを癒し、充実した共同生活を送る場作りを提供している。
利用者数	通常 6人
ヒアリングについて 予備訪問なし ヒアリング 令和4年9月10日 方法：対面	担当者（グループメンバー） 社会福祉学科3年 土屋ヒカル 小林秀深 松本卓也 田中章 4年
対象者：1人	

3. KJ法B型文章化

私たちは、グループホームでの生活について利用者本人から聞いたことをいくつかに分類した。まず1つ目に経歴についてだ。聞き取りをした利用者Aさんは以前、医療系の施設にいた。そして、医療系のカウンセラーがグループホームに問い合わせ、グループホーム入所に至った。また、通所作業所にも以前通っており、卒業した経歴もある。卒業の際に施設の職員から貰った色紙を大切に持ち歩いており、私たちにも見せてくれた。

2つ目に利用者の特性についてだ。特性のカテゴリからさらに、1楽しいこと、2好きなこと、3得意なこと、4苦手なことといった4つの分野にも分けて詳しく見ていく。まず大枠の、利用者の特性についてだ。Aさんに質問をした際、質問と回答が噛み合わないことが何回もあった。また、質問の回答が返って来ないこともあった。「区であったらいいなと思うサービスは？」といった質問などだ。また、物事に慣れることに時間がかかること、Aさん自身のベースがあることも特性だ。3つ目に好きなことだ。Aさんはアイロンビーズが好きで得意であり、やるのが楽しいそうだ。得意なことは、やはり好きや楽しいといった気持ちにも直結することがわかった。

「苦手なこと」の分野にもあるが、Aさんは物事を理解することが苦手なようだ。これは利用者の特性の際にも挙げた、ベースが固りと違ったり慣れるのに時間がかかったりすることにも関連する事項であると考えた。

そしてグループホームでのAさんの生活についてだ。Aさんは、利用者のバイタル表を進んで記入してくれているようだ。字を書くことが得意であるAさんの特性が出ている箇所であると考えた。

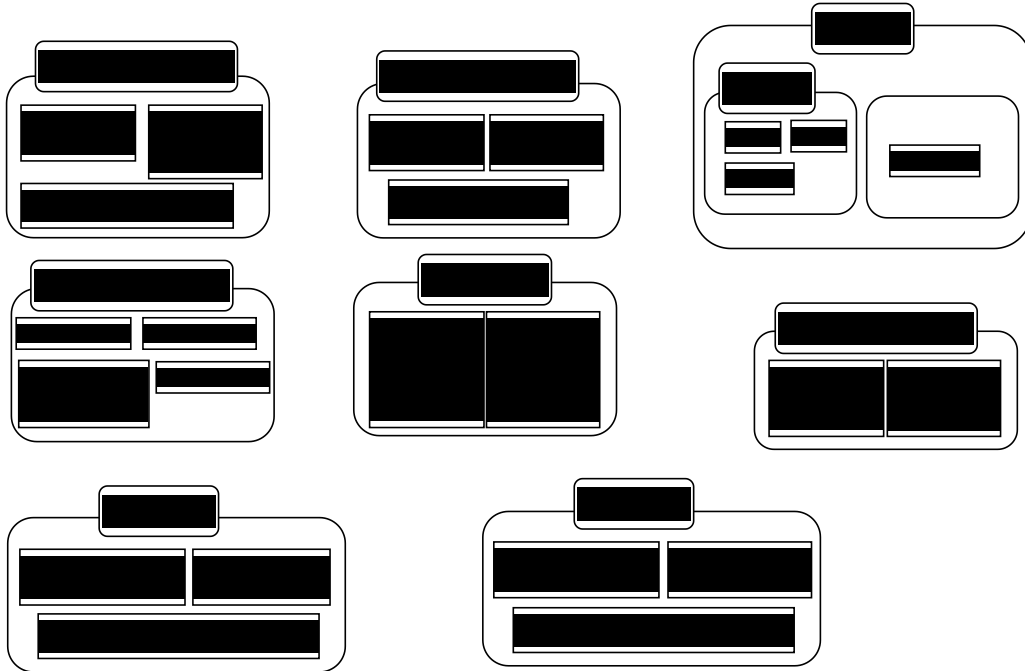
最後にAさんの考え方、思考について、今後の展望を聞いた際に、特になんかの回答だった。Aさんは今の生活を、得意なことを楽しみながら送っている結果として、このような回答なのではないかと考えた。

Aさんは、質問に対して受け答えすることがなかなか難しい人だった。しかし、スタッフの補助もあり、私たちやスタッフの予想以上に回答を得ることが出来た。好きなことや得意なことを活かして、グループホームで生活していることがわかった。

4. 考察

利用者の得意なことと則して、他の利用者のバイタル表への記入といった役割を設けることで、利用者が社会参加できる機会を確保できると考察した。質問した事項と回答が噛み合っていないことが何度もあった。しかし、職員からのアシストや見守りによって、利用者の特性を掴むことが出来た。利用者を尊重することで、利用者が過ごしやすい環境にすることができると考察した。

2. KJ 法 A 型図



3. KJ 法 B 型文章化

対象者 A さんのグループホームの生活について、8 項目に分類した。はじめに、過去現在未来の時系列ごとの項目に分け、これから現在のグループホームでの生活や将来についての項目分けへと広げた。

過去のグループは、「作業所に通っていた」、「養護学校に通っていた」の二つである。そして、現在のグループは、「小石川作業所に通っている」、「コロナの影響のため部屋で孤食になつた」、「生活に満足している」の三つである。

過去と現在の間の矢印の意味としては、人との関りを継続的につなげている点である。過去に家で趣味のグループは、「家で YouTube を見る」、「野球観戦」、「テレビを見る」、「音楽を聴く」の四つである。

また交流のグループは、「地域イベントに参加したことはない」、「小石川作業所の運動会に参加した」、「コロナ禍前はグループホーム内にてみんなで食卓を囲んでいた」の三つである。

その他、外出の機会のグループは、「テレビ局の祭りに行く」、「アイドルのコンサートに行く」、「アナウンサーに会いに行く」の三つである。

家での趣味と外出の機会の間の矢印は外出の動機は趣味である。交流と相談先の間の矢印は人との交流が増えれば相談先も増えたと考えたためである。

相談先のグループは、「区に相談したことは無い」、「困ったことは世話人によく話す」の二つである。相談と未来の関係性は未来を考えると相談は必要不可欠であるためである。

そして、人間関係のグループは、「家族のグループ」と「関係が深い人」のグループに分けた。家族との関係性は不透明だが、世話人との関係が深い。「将来についてのあまり考えなかったことではない」、「一人暮らししようとしたが寂しくてできなかった」の二つである。未来と関係性が深い人の矢印は未来について相談する上では相談相手に対して親密性が必要不可欠だからである。

人間関係の中の関係が深い人と相談先の間の矢印は A さんの悩みや相談を聞いた関係性が深い人と相談先に話をつなげられたら良いとの矢印である。

4. 考察

困ったことは世話人によく話す、と答えていたため、ドリームハウス職員との信頼関係は構築できていないかと考えた。しかし、話しづらい困りごととは言えずにいるのかもしれないと考えた。区に相談したことは無いと言っている区に相談することは A さんにとってハードルが高いのだと考えた。

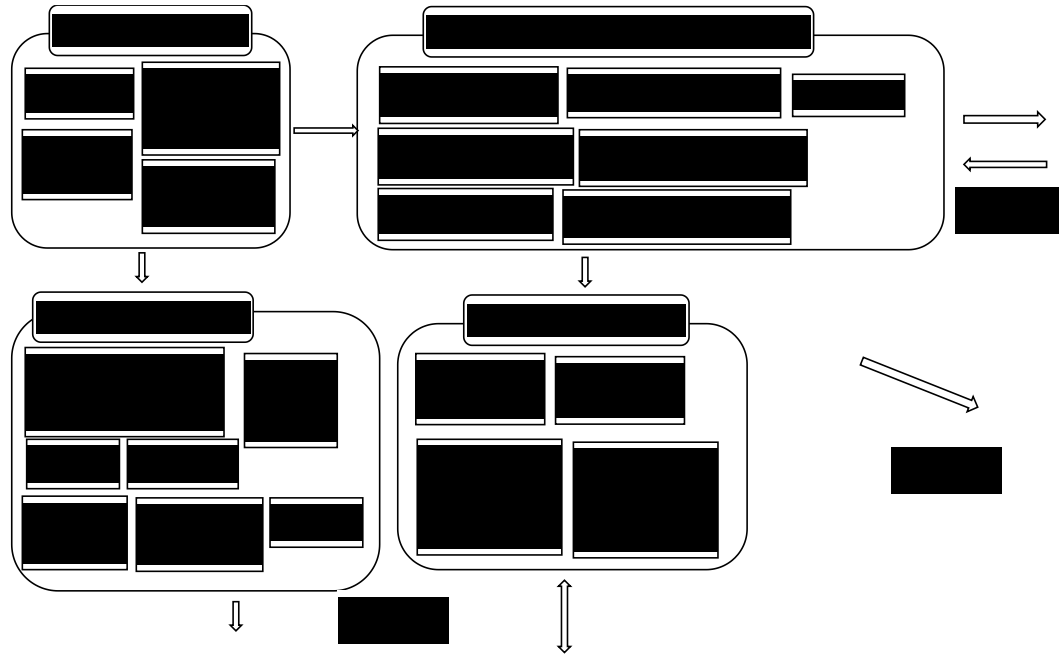
将来の生活について尋ねると、A さんの言葉が詰まり、沈黙の時間が続き、将来についてあまり考えたことが無いと言っていた。現在のドリームハウスでの生活について、特に不安や不満は感じないのではないかと考えた。しかし、本人に情報が届いていないため、選択肢を得られず、不安や不満を感じるきっかけすらないという可能性も考えられる。

また、一人暮らしを試みたことがあるが、寂しい気持ちがあり辞めた、という話から、信頼できる人の近くに住んだり、仲の良い人に訪問してもらったり、ボランティアが定期的に訪問したりすればその寂しさを解消に繋がるかと考えた。しかし、A さんの人間関係は広くないため、友人や信頼できる人を増やす必要があると考えた。その機会として、趣味や地域イベント等がある。地域イベントに参加することが無いため、今後参加すれば A さんの人間関係が広がる可能性がある。作業所のイベントには参加していることから、人との交流を拒んでいるわけではないかと思われる。趣味を通してできた友人は心の距離が近い心めつるのではないかと考える。

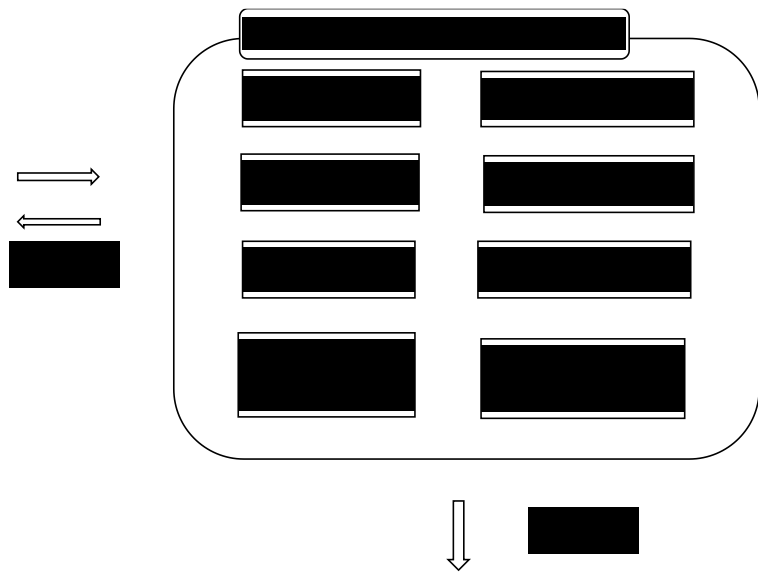
1. 調査対象施設フェイスシート

施設種別	グループホーム
施設名	エルムンド千石、エルムンド小石川
施設概要	
障害のある人が少数で世話人などから生活や健康管理面でのサポートを受けながら共同生活を営む住宅であり、エルムンド千石は、2017年、小石川は2011年に開設され、文京区の閑静な住宅街の中にある障害者のためのグループホーム(共同生活援助)である。	
利用者数	通常 小石川 7人 千石 8人
ヒアリングについて	担当者(グループメメンバー)
予備訪問	令和4年9月5日 大内彩文香、鈴木秀弥、高谷竜司
方法: オンライン	4年 高橋美羽、加藤美枝、西田真衣、高島彩輝、本橋拓馬
ヒアリング	令和4年9月26日、10月3日
方法: オンライン	
対象者: 6人	

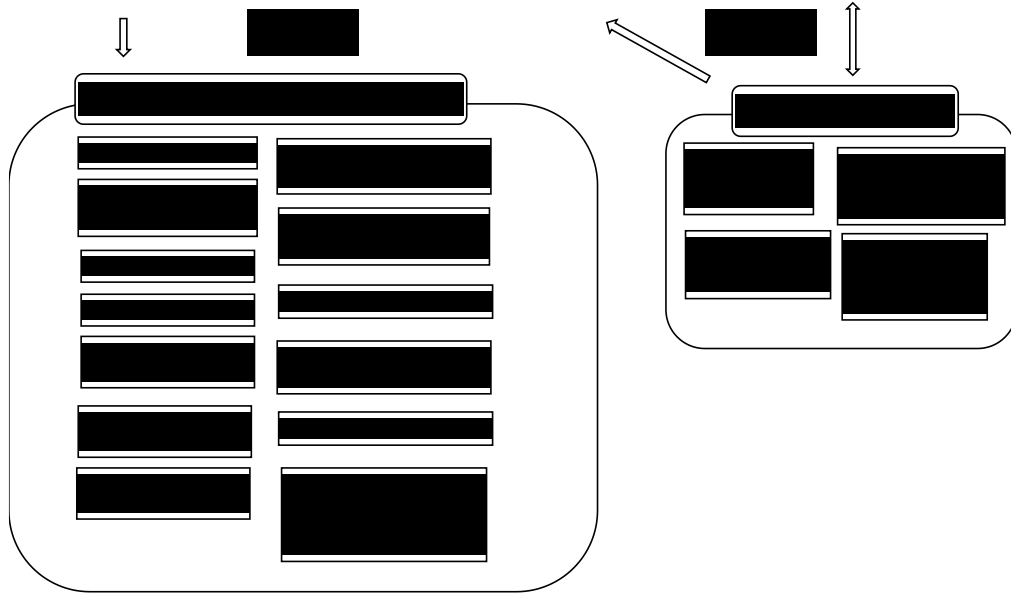
2. KJ法A型図(その1)



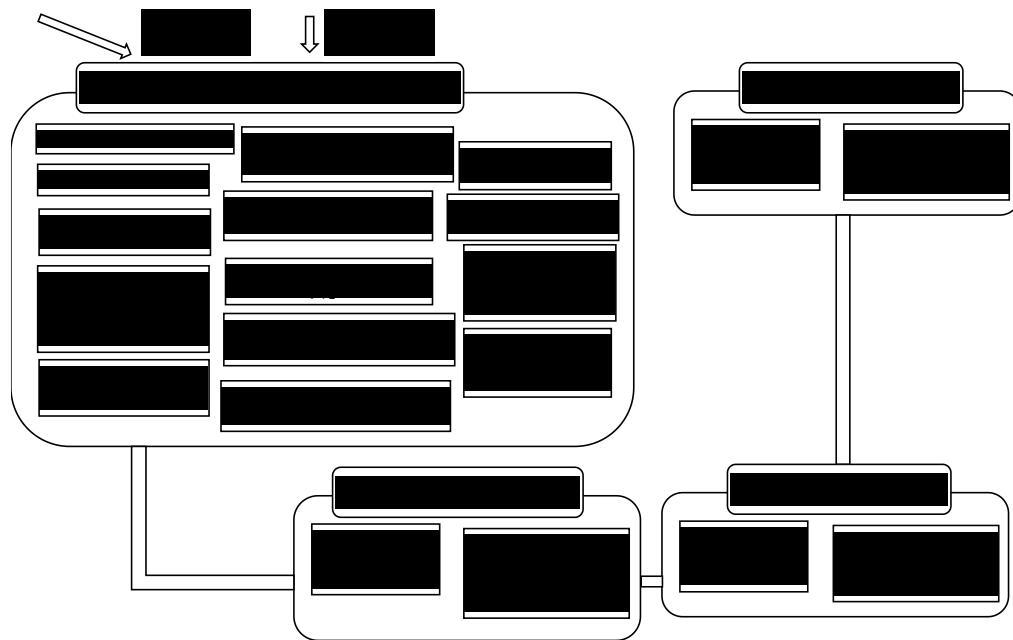
2. KJ法A型図(その2)



2. KJ法A型図(その3)



2. KJ法A型図(その4)



3. KJ法B型文章

グループホームでの暮らしと今後の希望について大きく10グループに分けた。

まず1つ目は、『グループホーム入所前の出来事について』のグループでは、「以前は短所や作業所に通っていた」などで生活ができない、「家族のトラブルがあった」、「以前は短所や作業所に通っていた」などが挙げられている。グループホーム入所前の外部との関わりについて、グループホーム入所のきっかけについてまとめた。

2つ目のグループは、『施設での暮らしに満足している』といったグループで、このグループは、「支援員と仲良くすることが楽しい」、「みんなと話ができる」、「今が幸せなので、自立生活の希望なし」といったものが挙げられた。

3つ目のグループは『自分らしい暮らしを送ることができる』というグループで、このグループは、「ジャニーズが好き」、「踊りや散歩が好き」、「携帯ゲームをすることが好き」など自身の「好き」を表出できる居場所づくりがなされているということが分かった。

4つ目のグループは『日常生活の中で不安に思っていることがある』グループで、このグループは「コロナが不安で出かけられない」、「説明が苦手」、「金銭管理がなくなってしまう」など、コロナ禍ならではの不安感や、自分の苦手なことからの不安が挙げられていた。

5つ目のグループは『今後の生活で不安なこと』についてのグループで、このグループは、「お金管理が心配である」、「コロナの感染者数が増えてしまうことへの不安」など2つ目の『日常生活の中で不安に思っていること』が今後も継続して不安であるということだけでなく、「仕事を続けて行けるか不安」、「自立に向けてのお金の面で不安」など、将来への不安も明らかになった。

6つ目のグループは5つ目のグループとつながっており、不安等を『相談できる人が欲しい』という希望のグループで、このグループは「相談は同性の方が話しやすい」、「仕事についての相談相手が欲しい」、「困った時に頼れる人がいない」などの回答が得られた。

7つ目のグループは6つ目のグループと対立関係にあり、『現在相談できる人がいる』というグループで、「職員に相談できる」、「困ったときには嘱託医に相談することができる」などが挙げられ、それぞれの利用者によって異なることがわかった。

8つ目のグループは『グループホームでの生活において求めることがある』で、このグループは、「買い物同行サービスが欲しい」、「病院に通院してくれるサービスが欲しい」、「お出かけに付き添ってくれる人が欲しい」、「作業所で取り組んでいない仕事にチャレンジしたい」、「もっと補助が欲しい」、「一階の食堂でみんなで食事したい」などの日常生活における希望だけでなく、「近所の祭りに参加したい」、「歌のイベントがあれば参加したい」、「ピアノのレッスンスーパービスが欲しい」などの娯楽面での希望も多くあった。

9つ目のグループは『文京区に対して希望することがある』のグループで、このグループは、「自然災害の際に水と食料と服が必要」、「コロナが落ち着いたら祭りに参加したい」が挙げられ、災害時への備え、娯楽面それぞれへの意見があった。

最後のグループは、『仕事を続けたい』、「一人暮らしをして自立したい」というグループで、それぞれ「これからも仕事を続けていきたい」、「一人暮らしができるようにしたい」と、前向きな回答が得られた。

4. 考察

この調査を経て、対象者のグループホームでの暮らしと今後の希望について詳しく知ることができた。多くの方が施設での暮らしに満足しており、施設における設備や環境が整っているという様子が見えた。コロナウイルスの影響によって友達やカラオケに行く、人と出かけることができないうきなどといった楽しみが制限されており、以前程の満足な暮らしを過ごすことができている一方、音楽を聴きながらの食事が楽しい、本やゲームが好き、溜まっている絵画を見ることが好きなど、施設の中で自分らしく生活をすることができていることが分かった。

施設での暮らしの希望について、イベントやお祭りに参加したいという声が多く挙がった。コロナ禍で活動が制限されていることに不満を抱えている利用者が多いことが考察できた。また買い物や通院などの日常生活の支援サービスも挙がった。利用者が施設の外でも安心して暮らせるよう、文京区や地域がより連携していくことが求められていると考えられる。相談相手の有無について、区や就労支援サービスを利用したり施設の職員に不安などを相談している利用者がある一方で、困ったときに相談できる相手がないという声も挙がった。相談相手は女性がいいという声などもあり、相談相手にも多様なニーズがあるということがわかったため、相談先の選択肢を増やすことで、利用者一人一人のニーズに合わせた相談相手を見つけていくことができると考えられる。

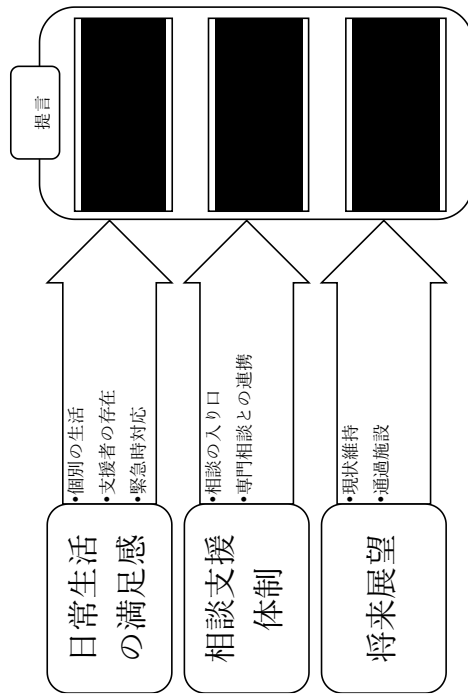
グループホーム居住者（共同生活援助サービス利用者）のインタビュ調査総括と提言

学生によるグループホーム居住者調査の結果、考察などから、インタビュ調査を総括し、今後の方向性を示唆しておきたい。

▽個別の生活、支援者の存在、緊急時対応などから、居住者は日常生活には満足感を得ている。そのような生活の満足感を得られる区内在住者を増やすには量的拡大が必要となる。

▽生活の場での困りごとが解消でき、専門的な相談へつなぐことができる。グループホームを中心とした相談ネットワークの体制を構築することで、世話人も安心感を得られる。

▽個別性はあるが、知的障がいのある居住者は現状に満足している。精神障がいのある居住者はグループホームを通過していく。障がい種別に関わらずグループホームが通過施設となれば、新たな居住者の門戸が開かれる。



【3 都外施設の部】

① U 県 Y 施設（仮称）

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和 4 年 12 月 6 日	調査担当者 東洋大学社会学部教授 高山直樹 東洋大学大学院社会学部福祉学研究所 博士後期課程 3 年 勝又健太
対象者：A さん(女性・70 代)	

1. 現状について

今の施設に入って 13 年目。文京区内 V 地区にて持ち家で家族（父・母・兄・弟）と生活しながら、区内の障害者通所施設に通っていた。父の入院をきっかけに、県外の施設に入所することになった。誰に連れられたかは覚えていないが、入所施設に行くように言われた。はじめは隣県にある入所施設に入所し、次に東京都郊外にある別の入所施設で数年生活した後、60 歳の時に現在の入所施設に来ることになった。

施設生活の中では利用者自治会の会長をしており、友達はたくさんいるので楽しい。カラオケやダンスが楽しみで、貼り絵が得意。施設生活の困っていることは、自分の好きな歌手の CD がたくさん持っているものの、CD プレーヤーを持っていないからほしい。テレビは共同スペースで何人かで見ているとのこと。また、外に洋服を買いにいきたい。以前外出の機会は一か月に一度あり、職員付き添いで買っていたが、コロナ禍のため、職員が買ってきてくれることになった。近い将来、今暮らしている施設が老朽化により新たに立て替えとなるため、一人部屋になる予定はある。

2. 自立生活・移行の希望とニーズ

文京区はとも好きな街であることを語られ、住んでいた頃の思い出として、区役所 2 階の劇場のクリスマスコンサートで歌手が来て見に行ったりして話されていた。文京区内で通っていた時の知り合いや友人、仲間や区役所職員の名前を挙げられ、「今からでも会えたら良い」と再会を望まれていた。文京区にはずっと帰れていないため、今後の移行の希望として、「文京区に帰りたい」という希望が聞かれた。この時、文京区のグループホームにて一人部屋で暮らしてみたいが、数が少ないことは知っていることや、今の施設でも友達がいなくて楽しく過ごしているため、時々文京区に戻ったり外泊したりということがしたいという声も聞かれた。文京区にはグループホームを搾りやしてほしいという強い希望が聞かれた。

3. 相談

生活の中で困ったときなど、身の回りで相談ののってくれる人について、サービス管理責任者は相談でき、信頼できると話された。しかし、病気で連絡がとれない兄のことが一番心配であることが聞かれた。また、文京区に住んでいた頃、障害者福祉課には良く相談に行っており、当時の担当者の方も良く覚えていて、当時の担当者に会いたいという声も聞かれた。

4. 地域交流

今いる施設と地域との交流はあまりない。ボランティアの人たちは来るため、一緒に貼り絵を行う。イベントは施設のお祭りがあるが、地域行事等への参加の機会に関しては聞かれなかった。

考察

1. 現状に関して、都外施設に至った経緯として、区内で福祉サービスを利用しながら暮らしていても親が病気で入院したことをきっかけに都外にある入所施設に移らざるを得ない状況を確認できた。今の施設生活には満足しているとのことだが、4 人部屋のため、気軽に好きなテレビや CD を聞くことが難しい点で、プライバシーが守られにくい環境であることがうかがえる。2. 自立生活・意向の希望とニーズについて、文京区にいた頃に出会った友人や行政職員の名前を度々話され、その後暮らしていた都外にある B 施設・C 施設にも自分と同じく文京区から移ってきた方がいたことを語られ、文京区に対してつながりや縁を強く感じられていた。

今後の方向性について、文京区が好きで帰りたいという思いはあるが、これまでの入所施設経験から、移行についての十分に考えが整理しきれない状況がうかがえた。これまでの入所施設を転々としてきた経験から、何が自分の生活にあっていくかということを探る体験の場が圧倒的に不足しているのではないかと考えられる。

また、グループホームの選択肢を知った理由として、「文京区で暮らしていた頃の友達がグループホームで暮らしているのを聞いて、自分もしてみたいと思った」と話されたことから、友人等の情的なつながりの存在が A さんの今後の生活像を考える上で影響していると考えられた。友人との情報交換・交流の場の設定や、文京区への外出や体験を積み重ねながら、今後の暮らしについて考えていく支援体制が担保されていくことが望ましい。

3. 相談では、日常的な相談（健康面や金銭面）に関して職員に話せており、良好な関係が築かれて安心できる連絡体制を支援者が作っていくことが必要と思われる。4. 地域交流に関して施設の方で目立って行われている様子が聞かれなかったが、貼り絵などの好きな活動の際にはボランティアの方と取り組んでいることから継続して行っている施設のボランティアマネージメントが行われていくことが望ましい。この際、地域住民や近隣の保育園・小学校などの社会資源との連携が行われると良いと考ええる。

② W 県 X 施設（仮称）

施設種別	障害者支援施設
ヒアリングについて 令和 4 年 12 月 15 日	調査担当者 東洋大学大学院社会学部福祉学研究所 博士後期課程 3 年 勝又健太
対象者：B さん(女性・60 代)	

1. 現状について

今の施設に入って 15 年目。文京区 Z 地区で生まれ育つ。家の持ちマンションにて、家族（父、母、祖母・祖父・兄）と生活していた。区内の障害者通所施設に通いながら文京区の自宅で過ごしていたが、43 歳の時に父が亡くなる。母が自営業で、兄も本人の介護が難しいことから、東京都郊外にある別の入所施設に移った。その後、47 歳で今の施設に来た。

文京区に住んでいた母は5年前に隣町の高齢者住宅に入った。母の希望で少しでも娘（Bさん）の近くにいきたいという希望があり、近くに住むことになった。コロナ禍でこの数年は母との面会がかなわないうが、会いたいと思う。

今の施設での生活は楽しいとのこと、チラシや新聞などに掲載されている相撲力士の名前を切り取るのが好き。現在は3人部屋で、30代の女性が同室におり、自分の娘のようにかわいがってあげている。施設を利用して困っていることはない。コロナ前は県内で外出に行ったりしていたが今はできていないことを話された。

2. 自立生活・移行の希望とニーズ

母が隣町にある高齢者住宅に移り住む5年前まで、文京区に実家があったため、施設でも文京区の一時期宅支援を毎年行っていた。その時、泊まりで行くことは何度かあったが、今は区内に実家は無い。文京区に暮らしていた頃の思い出として、家の近くで朝の6時半からカードをももらって、近所の人とラジオ体操をしていたのが思い出。実家に住んでいたころの近所の人、かかりつけの先生、障害者通所施設に通っていた頃の友達のことを語ってくたさる。

文京区への今後の意向について伺った際、本人から「文京区のZ地区に帰りたいと思う。」という声がかかれた。帰って何がしたいかについては、「家の自分の部屋でテレビが見たい」という理由であった。その後、文京区に戻れたとしたらどのような暮らしがしたいかの話でグループホームなどの話をするも、本人は「わからない」との回答だった。

3. 相談

施設担当職員の名前を出され、困ったときに相談できていることが確認できた。文京区の相談窓口としてシビックスセンターの場所は覚えていたとのこと、相談した職員の名前を挙げられ、教えてくださった。現在文京区からの連絡は障害支援区分の調査で年に数回、オンライン上のズーム等のやりとりがある程度だという。

4. 地域交流

コロナ禍で外出行事等も中止になっているが、コロナ前は施設のお祭りに地域の方の来訪があったりして、楽しみにしていた。今は来訪者が限られているが、実習生が来たりするなど楽しみ。

考察

1. 現状について、都外施設に移ってきた後、法人の支援の中で文京区への一時期宅支援を定期的に行う取り組みが行われている様子を確認できた。X施設では、都外施設対象者の方への支援として、東京に家族や受け入れ体制をふまえて、年に3回（GW、お盆、年末年始）計2週間程度の一時期帰宅支援を行っている。その際も上野駅まで本人を送って行って、迎えに来てもらうことで家族にも負担のかからないように支援しているという。

2. 自立生活の移行・生活のニーズでは、Bさんの中に文京区に戻りたいという思いはありつつも、それは「母が文京区に住んでいれば帰りたい」という意味であることが考えられる。職員からは、GHの体験の場が区内であれば希望はされると思うが、帰りたい理由として「家の自分の部屋でテレビが見たい」と言われていたことを考えると、地域移行は必ずしも文京区への移行にとどまらず、「落ち着いて過ごせる環境」も大事なのではないかとという声があった。生活経験の場自体の少なさから、実家が、

それが難しければ施設かという選択肢のみになり、GHという選択肢がそもそもイメージできないことが予想される。

現在、ご本人を支援する職員から都外施設の入居者に対する地域移行支援に対する話の中で、「長い人で数十年以上生活している人もいる中で、生まれ育った場所に帰ることを推し進めることのみが地域移行といえるのか」という疑義の声があった。現在の施設生活での関係性や、子どもをたどり親族が隣町の高齢者住宅に住まいを移されたことを考えると、今の環境から離れ、身寄りや家のない文京区への帰省が現実的かという点が課題になる。

施策の実状として東京都は都外施設の入居者が都内に戻ってくることを推奨しており、東京都の中にGHを作り、そこに都外施設からの地域移行が実現すると8分の7の建設補助金が出るが、同じように地元でGHを作ったとしても補助金が全く出ないという。区の取組に任せられているため少なからず補助金や捉え方に差はあるものの、地域移行に資する補助金が限定的であることが、受け入れ先の社会福祉法人の地域移行の推進を阻んでいる要因にもなっていることが明らかになった。Y施設でも、入所施設から地元GHに移った人もいるが、入所施設より制約は少なく「楽しい」という声も聞かれているという。

一般的に多くの人は、生活の場を自分で選択するという点で体験を増やしていきながら、選ぶ過程の中で「どこに住みたいか」を決めていくことを行っている。その選ぶ体験が圧倒的に不足しているのが今の知的障害のある人の生活の現状であり、本人の暮らしの選択肢の拡大を行える支援体制の構築は急務である。従って、都内帰還のみをもっての地域移行にとどまらないう、実状に則した本人の暮らしぶりや希望にあわせて地域移行のあり方が施策に反映され、推進役としての社会福祉法人が力をいれて地域移行支援を行える体制づくりも同時に捉えられることが望ましい。

都外施設の部 インタビュー調査の総括と提言

今回インタビューを行っていただいたAさん、Bさんの現況と考察をふまえ、下記の点の提案・提言につなげたい。

・友人や知人と関係継続・再会する場の設定

ICT (ZOOM等) を活用した文京区内の友人・知人 (行政担当職員含む) との面談・交流の時間の確保。そのため職員のICTの知識習得はもとより、PCやタブレットなどICTを活用した交流を本人が手軽に自身で友人たちと行えるための支援・環境づくりが考えられていくことも望ましい。

また、文京区の障害福祉課による訪問頻度を増やしたり、定期的な手紙やお知らせ等を送ることも本人の「文京区とのつながり」を感じさせる安心につながると思われる。

・「生活体験」の機会の拡大による意向の模索

文京区内のGHへの宿泊や外出の機会を設け、体験を積み重ねることにより、「どこで誰と暮らしたいか」について本人が選べる生活の選択肢を増やす。

・プライバシーが守られ、居場所となりうる居室環境

好きな歌手のCDを自分の部屋で流したり、好きな時間にテレビを見ることが出来るためのハーブ下の環境設定。具体的には、多床室から一人部屋等のプライバシー保護に配慮された居室環境が整備されることが、安心して生活して生活できる居場所の第一条件と考える。

- ・行政の強みを生かしたネットワーク構築
本人から一言不通な親族の居所に対する心配の声や、緊急時をはじめとした迅速な連絡体制が十分でないことが浮き彫りになっており、特に親族の居所の把握については個人情報権限に強い行政職員の強みを生かしたネットワーク構築が行われていくことが望ましい。
- ・施設完結にとどまらず自立生活の総合支援計画の必要性
関係者が一同に集まり、本人が今後の生活をどうしたいかを話し合える意思決定支援会議の開催（本人、家族、障害者福祉課、サービス提供管理者、寮長、他後見人等の専門職、知人・友人等）
- ・地域移行に資する補助金のあり方の検討
今回、X施設の一時帰宅支援の取り組みから、地域移行に対する積極的な支援を確認できたが、こうした地域移行の取り組みは社会福祉法人の努力にゆだねられており、経営面にも直結していることを同時に確認できた。社会福祉法人が入所施設から地域移行に力を入れて行える補助金のあり方について、施策の上でも含みのある捉え方の上での検討がなされていくことが望ましい。
- ・対象者の規模を広げた継続調査の必要性
今回の調査では2か所の都外施設において二人の方からインタビューを行えたが、共通して見られたのは、建物や土地に対する記憶にとどまらずそこで暮らしていた時の人との出会いや思い出を語られていたことである。何十年経ってもふさふさへの思いを大切に持ち続けながら今の生活を送られているように、都外施設で暮らされている入居者の方々の文京区への思いは百人百様である。しかし、こうした都外施設で暮らされている方が「今、どんな思いで暮らされているか」について知る上では、対象者数が圧倒的に不足していると考えられる。このため、継続した聞き取りにより当事者の「声」をくみ取り施策や支援につなげていく作業がさらに必要である。
- この際、都外施設に移って数十年が経ち、重度化・高齢化を迎えていて回答がうまく聞き出せない利用者の方もいるかもしれない。しかし意思決定支援の観点からいえば、本人がうまく答えられなかったとしてもこれまでの本人の人生をたどり関わった職員、家族、関係者の声を拾いながら、表情の変化等にも着目し、本人にとって「今後どんな暮らしが良いか」を徹底的に考え抜くことが望ましいと考える。
- 都外施設をめぐる課題においては一般的に、都内に居場所を確保することができず、また行政都合や地域経済活性化という本人不在の事由により、東京都外の施設に居住せざるを得ない状況にあったことが語られている。従って都外施設入居者の地域移行には、様々な課題があり、容易ではないが、障害を有していても一人の人間として人生を自ら選ぶことが何より大切な事である。
- 区内の受け皿やサービスの整備の必要性はこれまでも言われてきたことだが、本人の生活圏の拡大が意思決定支援につながり、都外施設の課題を発展的に解決していくための施策がさらに多角的に検討されていく必要がある。

資料編

調査票

ざいたく かの
在宅の方

くみん せいかつ かん
区民の生活のニーズに関する調査

白頭から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。
文京区では、皆様の生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。

以下のいずれかに該当する区内在住の方を対象とさせていただきます。

- ・身体障害者手帳をお持ちの18歳以上の方
(肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数)
- ・愛の手帳をお持ちの18歳以上の方(全数)
- ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳以上の方(全数)
- ・難病医療券をお持ちの18歳以上の方(全数)

この調査は在宅の方を対象としており、グループホームにお住まいの方も対象に答われます。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・児計画(令和6年度から令和8年度まで)策定の参考にさせていただきます。

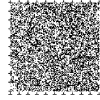
無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いたします。

れいわ ねん かつ
令和4年10月
ぶんきょうくわく なるきまわ ひろのぶ
文京区長 成澤 廣修

- ・スマートフォン等で下記QRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを
入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
- ・最初に下記の「パスワード」を入力してください。
- ・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓

↓パスワード↓



ゆうさう ぼあひ せんかく
郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

ゆうさう ぼあひ
郵送の場合

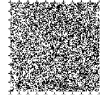
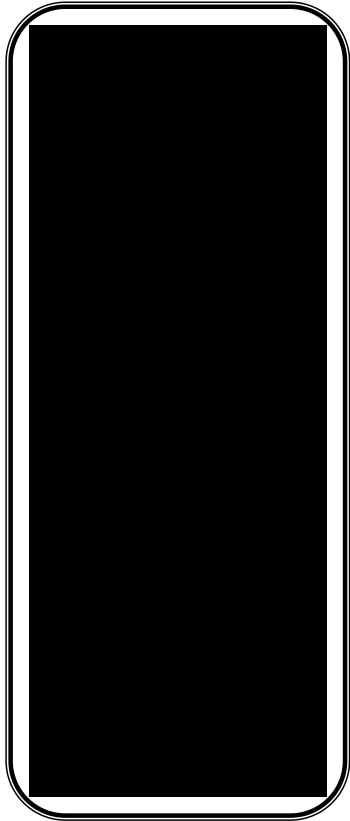
- ・令和4年10月31日(月)までに、ポストに投函してください。
- ・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。

ゆうさう ぼあひ せんかく
【記入済調査票送付先】

〒112-8555 文京区春日1-16-21
文京区役所障害福祉課障害福祉係

インターネットの場合

れいわ ねん かつ
令和4年10月31日(月)24時までに、回答を送信してください。



【回答に支援が必要な場合の問い合わせ先】

回答の際の支援を行います。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

文京区障害者基幹相談支援センター

住所：文京区小日向2-16-15 文京総合福祉センター1階
Tel 03(5940)2903、Fax 03(5940)2904

社会福祉法人文京槐の会(は〜と・ピア)

住所：文京区大塚4-21-8
Tel 03(3943)4300、Fax 03(3943)4330

社会福祉法人文京槐の会(は〜と・ピア2)

住所：文京区小石川4-4-5
Tel 03(6801)8571、Fax 03(6801)8581

本郷福祉センター(若駒の里)

住所：文京区本郷4-35-15 文京区勤労福祉会館2階
Tel 03(3823)8091、Fax 03(3823)8092

社会福祉法人武蔵野会(リアン文京)

住所：文京区小日向2-16-15
Tel 03(5940)2822、Fax 03(5940)2823

文京区立大塚福祉作業所

住所：文京区大塚4-50-1
Tel 03(3946)5601、Fax 03(3946)2667

文京区立小石川福祉作業所

住所：文京区小石川3-30-6
Tel 03(3811)1431、Fax 03(5689)4523



記入上のお願い

- 回答は、この調査票に直接書いてください。
- 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」になる場合は、()内にその内容を書いてください。
- 回答したくない質問は答えずに、次の質問に進んでください。
- この調査票には、名前を書かないでください。
- 職責に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、障害福祉課に配置している手話通訳者による対応も可能ですので、窓口にお越しの際にお声かけください。
- 視覚に障害のある方で調査票の回答にお困りの場合は、点字調査票を送付するか、直接調査員が伺って調査いたしますので、障害福祉課までご連絡ください。
(障害福祉課 電話:03-5803-1211 FAX 03-5803-1352 受付平日8:30~17:15)

ここから調査がはじまります

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人』のことです。

できるかぎりあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や介助の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(○はひとつ)

- 1 あて名ご本人
- 2 ご家族の方
- 3 その他 ()



1 ご本人について

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の満年齢をお書きください。

さい 歳

問3 あなたご本人の年収額をお聞きます。税金等を差し引く前の額でお答えください。(〇はひとつ)

- 1 収入はない
- 2 80万円未満
- 3 80万円以上～150万円未満
- 4 150万円以上～250万円未満
- 5 250万円以上～500万円未満
- 6 500万円以上～1,000万円未満
- 7 1,000万円以上

問4 あなたの主な収入の内訳をお聞きます。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 年金(障害基礎年金など)
- 2 給与・報酬(企業などに就労)
- 3 工賃(通所施設・福祉作業所などに通所)
- 4 事業収入(自営業等)
- 5 手当(障害者手当など)
- 6 生活保護費
- 7 親族の扶養または援助
- 8 その他()

問5 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 父親
- 2 母親
- 3 配偶者
- 4 子
- 5 兄弟・姉妹
- 6 祖父母
- 7 その他親族
- 8 ひとりの暮らし
- 9 グループホーム等での集団生活
- 10 その他()



2 障害と健康について

問6 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等)
- 2 音声・言語・そしゃく機能障害
- 3 視覚障害
- 4 聴覚・平衡機能障害
- 5 内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等)
- 6 知的障害
- 7 発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等) →7に〇を付けた方は問6-1へ
- 8 精神障害
- 9 高次脳機能障害
- 10 難病(特定疾病) →10に〇を付けた方は問6-2へ
- 11 その他()

→上記7・10のどちらにも当てはまらない方は、問7へ

ここからは問6で「7 発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きます。

問6-1 発達障害の診断名をお答え下さい。(あてはまるものすべてに〇)

- 1 広汎性発達障害
- 2 自閉症
- 3 注意欠陥多動性障害
- 4 アスペルガー症候群
- 5 学習障害
- 6 その他の発達障害
- 7 わからない

ここからは問6で「10 難病(特定疾病)」と回答された方にお聞きます。

問6-2 病名(東京都発行の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名)等をお答え下さい。

疾病名()



ここからは全ての方にお聞きします。

問7 あなたが持っている手帳の種類をお聞きします。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | | |
|---|---------------|------|------|------|
| 1 | 身体障害者手帳 | 1 1級 | 2 2級 | 3 3級 |
| 2 | 愛の手帳 | 4 4級 | 5 5級 | 6 6級 |
| 3 | 精神障害者保健福祉手帳 | 1 1度 | 2 2度 | 3 3度 |
| 4 | これらの手帳は持っていない | 1 1級 | 2 2級 | 3 3級 |

問8 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きします。(○はひとつ)

- | | | | |
|---|--------|----------|-----------|
| 1 | 生まれたとき | 5 30~39歳 | 9 65~69歳 |
| 2 | 0~5歳 | 6 40~49歳 | 10 70~74歳 |
| 3 | 6~17歳 | 7 50~59歳 | 11 75歳以上 |
| 4 | 18~29歳 | 8 60~64歳 | |

問9 あなたの受診状況等(歯科医療も含む)をお聞きします。(○はひとつ)

- | | | |
|---|----------------|--------------|
| 1 | 定期的に通院している | 4 現在入院している |
| 2 | 定期的な訪問診療を受けている | 5 その他() |
| 3 | 定期的な訪問看護を受けている | 6 現在は通院していない |

問10 かかりつけの医療機関をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---|--------------|-----------------|
| 1 | 区内の診療所や医院 | 5 区外の歯科医院 |
| 2 | 区内の歯科医院 | 6 区外の総合病院や大学病院 |
| 3 | 区内の総合病院や大学病院 | 7 かかりつけの医療機関はない |
| 4 | 区外の診療所や医院 | |



問11 あなたが必要とする医療的ケア*をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|-----------|--------------|-------------|
| 1 | 服薬支援 | 6 導尿 | 11 人工呼吸器の管理 |
| 2 | 吸引 | 7 酸素療法 | 12 その他 |
| 3 | 吸入・ネブライザー | 8 鼻咽喉頭エアウェイ | () |
| 4 | 経管栄養 | 9 パルスオキシメーター | 13 特に必要としない |
| 5 | 中心静脈栄養 | 10 気管切開部の管理 | |



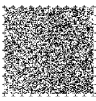
問12 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|--------------|-------------|------------------|
| 1 | 食事 | 7 室内の移動 | 14 通院、通学・通勤以外の外出 |
| 2 | 排せつ | 8 洗顔・歯磨き | 15 日常生活に必要な情報の伝達 |
| 3 | 入浴 | 9 代筆・代読 | 16 日常生活動作の見守り |
| 4 | 寝返り | 10 電話の利用・代行 | 17 薬の管理 |
| 5 | 着替え | 11 お金の管理 | 18 区役所や事業者などの手続き |
| 6 | 調理・掃除・洗濯等の家事 | 12 日常の買い物 | 19 その他() |
| | | 13 通院、通学・通勤 | 20 介助や支援は必要ない |

ここからは問12で「20 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問13 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)

- | | | | |
|---|-----|-----------|----------------|
| 1 | 父親 | 5 兄弟・姉妹 | 9 カイトヘルパー |
| 2 | 母親 | 6 祖父母 | 10 ホランティア |
| 3 | 配偶者 | 7 その他親族 | 11 グループホームの世話人 |
| 4 | 子 | 8 ホームヘルパー | 12 その他() |



ここからは問13で「1～7」の家族や親族と回答された方にお聞きします。

問13-1 あなたを主に介助・支援している人は何歳ですか。(○はひとつ)

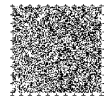
- 1 19歳以下
- 2 20～29歳
- 3 30～39歳
- 4 40～49歳
- 5 50～59歳
- 6 60～69歳
- 7 70～79歳
- 8 80歳以上

問14 主な介助者は、あなた以外の方の世話や介護をされていますか。(○はひとつ)

- 1 高齢者（両親・祖父母等）の介護
- 2 配偶者の介護
- 3 子ども（就学児・未就学児）の子育て
- 4 病気の方の介護
- 5 障害のある方の介護
- 6 その他
- 7 なし

問15 主な介助者があなたを介助・支援できなくなった場合はどうしますか。(○は3つまで)

- 1 一緒に住んでいる家族に頼む
- 2 別に住んでいる家族に頼む
- 3 居宅介護（ホームヘルプ）を利用する
- 4 短期入所（ショートステイ）を利用する
- 5 障害者施設（障害者支援施設等）に入所する
- 6 高齢者施設（老人ホーム等）に入所する
- 7 病院に入院する
- 8 グループホームに入居する
- 9 成年後見人を立てる
- 10 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）を利用する
- 11 その他
- 12 まだわからない



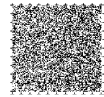
3 相談や福祉の情報について

問16 あなたには、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 健康状態に不安がある
- 2 着替えや食事などが十分にできない
- 3 家事などが十分にできない
- 4 介助者の負担が大きいの
- 5 介助者が高齢化している
- 6 外出に支障がある
- 7 住まいに支障がある
- 8 就労について困っている
- 9 緊急時の対応に不安がある
- 10 災害時の避難に不安がある
- 11 人間関係に支障がある
- 12 障害や病気に對する周囲の理解がない
- 13 困ったとき相談する相手がいらない
- 14 自分の思いや考えをうまく伝えられない
- 15 役所などの手続きが難しい
- 16 近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない
- 17 経済的に不安がある
- 18 将来に不安を感じている
- 19 日中することがない
- 20 様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない
- 21 その他
- 22 特にない

問17 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族や親族
- 2 近所の人
- 3 友人・知人
- 4 ピアサポーター
- 5 職場の上司・同僚
- 6 民生委員・児童委員
- 7 障害者の当事者会や家族の会
- 8 身体障害者相談員・知的障害者相談員
- 9 ヘルパー等福祉従事者
- 10 利用している施設の職員
- グループホームの世話人
- 11 相談支援事業所等の相談支援専門員
- 12 医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）
- 13 医療関係の相談窓口
(地域包括ケア施設相談窓口、かかりつけ医・在宅療養相談窓口、患者の声相談窓口等)
- 14 障害福祉課・予防対策課
- 15 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
- 16 保健サービスセンター
- 17 障害者基幹相談支援センター
- 18 各市区の生活あんしん拠点（地域生活支援拠点）
- 19 福祉事務所のケースワーカー
- 20 障害者就労支援センター
- 21 社会福祉協議会
- 22 高齢者あんしん相談センター
- 23 どこに相談すればいいかわからない
- 24 その他
- 25 相談する相手がいらない

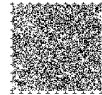


問18 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 区の広報紙(広報等)
- 2 区のホームページ
- 3 文の京・障害者福祉のてびき
- 4 区の窓口
- 5 保健サービスセンター
- 6 テレビ・ラジオ
- 7 インターネット
- 8 SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)
- 9 新聞・書籍
- 10 障害者等の当事者会や家族の会
- 11 医療機関
- 12 利用している障害福祉サービス事業所
- 13 その他()
- 14 特にない

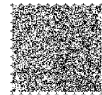
問19 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)

- 1 地域で独立して生活する
- 2 親や親族と一緒に生活する
- 3 グループホーム等の共同生活住居に入居する
- 4 区内の入所施設に(障害者支援施設等)に入所する
- 5 区外でも良いので入所施設(障害者支援施設等)に入所する
- 6 高齢者施設(老人ホーム等)で生活する
- 7 わからない



問20 あなたが地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思えますか。(○は5つまで)

- 1 障害に対する理解の促進
- 2 医療やリハビリテーションの充実
- 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
- 4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実
- 5 仕事を継続するための支援の充実
- 6 身近な地域で相談できる場の充実
- 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
- 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等)の充実
- 9 短期入所(ショートステイ)の整備
- 10 意識疎通支援(手話通訳者・要約筆記派遣)の充実
- 11 福祉機器・補装具などの充実
- 12 グループホームの整備
- 13 入所施設の整備
- 14 障害者向けの住まいの確保
- 15 居住支援の充実
- 16 建物・道路等のバリアフリー化
- 17 当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
- 18 趣味やスポーツ活動の充実
- 19 財産管理や見守り等の支援の充実
- 20 経済的支援の充実
- 21 災害時支援の充実
- 22 地域交流の場の充実
- 23 福祉・医療・介護との連携の充実
- 24 福祉と教育の連携の充実
- 25 その他()
- 26 特にない



4 福祉サービスについて

問21 障害福祉サービス等の利用状況と満足度についてお聞きします。

- A. 現在利用しているサービスに○をつけてください。
- B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(○はひとつ)
- C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(○はいくつでも)
- D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに○をつけてください。

※ 各サービスの説明について、この調査票の巻末資料(34 ページ以降)【障害福祉サービス等の内容】をご参照ください。

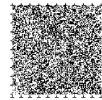
サービス名	A			B			C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満		
記入例) 1. 居宅介護	○	1	2	3	4	5	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由(下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)	今後利用したい

(1) 障害福祉サービス(訪問系)

1. 居宅介護		1	2	3	4	5
2. 重度訪問介護		1	2	3	4	5
3. 同行支援		1	2	3	4	5
4. 行動支援		1	2	3	4	5
5. 重度障害者等包括支援		1	2	3	4	5

※ 「C欄」に記入する理由はここからお選びください。

- 1 利用できる回数や日数等が少ない
- 2 利用料が高い
- 3 サービス提供事業所が少ない
- 4 利用日時が合わない
- 5 サービス内容(質)に不安を感じる
- 6 サービス提供事業所の対応が良くない
- 7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
- 8 事業所と家族の連携が取れていない
- 9 医療的ケアの対応が十分でない
- 10 その他()



サービス名	A			B			C	D
	現在利用している	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満		
記入例) 1. 生活介護	○	1	2	3	4	5	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由(下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)	今後利用したい

(2) 障害福祉サービス(日中活動系・訓練系・就労系)

1. 生活介護		1	2	3	4	5
2. 療養介護		1	2	3	4	5
3. 自立訓練(機能訓練)		1	2	3	4	5
4. 自立訓練(生活訓練)		1	2	3	4	5
5. 就労移行支援		1	2	3	4	5
6. 就労継続支援(A型)		1	2	3	4	5
7. 就労継続支援(B型)		1	2	3	4	5
8. 就労定着支援		1	2	3	4	5
9. 自立生活援助		1	2	3	4	5
10. 短期入所(ショートステイ)		1	2	3	4	5

※ 「C欄」に記入する理由はここからお選びください。

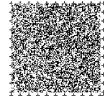
- 1 利用できる回数や日数等が少ない
- 2 利用料が高い
- 3 サービス提供事業所が少ない
- 4 利用日時が合わない
- 5 サービス内容(質)に不安を感じる
- 6 サービス提供事業所の対応が良くない
- 7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
- 8 事業所と家族の連携が取れていない
- 9 医療的ケアの対応が十分でない
- 10 その他()



A	B			C	D	
	満足	やや満足	ふつう			やや不満
現在利用している	○	1	2	3	4	5
サービス名	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由(下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)					
記入例)	1. 共同生活援助(グループホーム)					
(3)障害福祉サービス(居住系)						
1. 共同生活援助(グループホーム)	1	2	3	4	5	
2. 施設入所支援	1	2	3	4	5	

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

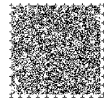
- 1 利用できる回数や日数等が少ない
- 2 利用料が高い
- 3 サービス提供事業所が少ない
- 4 利用日時が合わない
- 5 サービス内容(質)に不安を感じる
- 6 サービス提供事業所の対応が良くない
- 7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
- 8 事業所と家族の連携が取れていない
- 9 医療的ケアの対応が十分でない
- 10 その他()



A	B			C	D	
	満足	やや満足	ふつう			やや不満
現在利用している	○	1	2	3	4	5
サービス名	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由(下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)					
記入例)	1. 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)					
(4)相談支援						
1. 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	1	2	3	4	5	
2. 計画相談支援(サービス利用支援・継続サービス利用支援)	1	2	3	4	5	

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

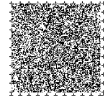
- 1 利用できる回数や日数等が少ない
- 2 利用料が高い
- 3 サービス提供事業所が少ない
- 4 利用日時が合わない
- 5 サービス内容(質)に不安を感じる
- 6 サービス提供事業所の対応が良くない
- 7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
- 8 事業所と家族の連携が取れていない
- 9 医療的ケアの対応が十分でない
- 10 その他()



サービス名	A 現在利用している			B やや満足 / やや不満 / 不満			C 日欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由 (下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)			D 今後利用したい
	満足	やや満足	ふつう	不満	やや不満	不満				
サービス名	○	1	2	3	4	5	I, 4			
(5) 地域生活支援事業										
記入例) 1. 相談支援事業		1	2	3	4	5				
1. 相談支援事業		1	2	3	4	5				
2. 移動支援事業		1	2	3	4	5				
3. 日常生活用具給付事業		1	2	3	4	5				
4. 日中短期入所事業		1	2	3	4	5				
5. 地域活動支援センター事業		1	2	3	4	5				
6. 意思疎通支援事業		1	2	3	4	5				

※【C欄】に記入する理由はここからお選びください。

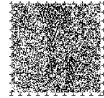
1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容(質)に不安を感じる	10 その他()



サービス名	A 現在利用している			B やや満足 / やや不満 / 不満			C 日欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由 (下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてをお選びください)			D 今後利用したい
	満足	やや満足	ふつう	不満	やや不満	不満				
サービス名	○	1	2	3	4	5	I, 4			
(6) 日常生活のサービス										
記入例) 1. 補装具費の支給等		1	2	3	4	5				
1. 補装具費の支給等		1	2	3	4	5				
2. 短期保護		1	2	3	4	5				
3. 福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成		1	2	3	4	5				
4. 緊急一時介護委託費助成		1	2	3	4	5				
(7) 就労に関する支援										
1. 障害者就労支援事業 (就労支援センター)		1	2	3	4	5				
(8) 精神障害者を対象とした支援										
1. 精神障害回復上者ケア		1	2	3	4	5				
2. 地域生活安定化支援事業		1	2	3	4	5				

※【C欄】に記入する理由はここからお選びください。

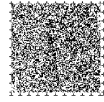
1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容(質)に不安を感じる	10 その他()



サービス名	A		B		C		D
	現在利用している	満足	やや満足	不満	「やや不満」 「不満」を選んだ理由 (下にある欄の 選択肢からあてはま るものすべてをお選び ください)	今後利用したい	
記入例) 1. 障害者就労支援事業	○	1	2	3	4	5	
(9) 難病患者を対象とした支援							
1. 難病リハビリ教室		1	2	3	4	5	
(10) その他							
1. 障害者(児)歯科診療		1	2	3	4	5	
2. 在宅療養者等歯科訪問健診 ・予防相談指導事業		1	2	3	4	5	
3. 成年後見制度支援事業		1	2	3	4	5	
4. 成年後見制度利用助成事業 (報酬助成)		1	2	3	4	5	
5. 福祉サービス利用援助事業 (地域福祉権利擁護事業)		1	2	3	4	5	

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容(質)に不安を感じる	10 その他 ()



ここからは問21にあるいずれかの障害福祉サービスで「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きます。

問22 どのようにサービス等利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)

- 1 特定相談支援事業所の相談支援専門員にサービス等利用計画の作成を依頼している
- 2 自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している
- 3 介護保険と障害福祉サービスの併給を受けているので、ケアマネージャーにケアプランの作成を依頼している

ここからはこれまでに特定相談支援事業所でサービス等利用計画を作成したことがある方にお聞きます。

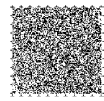
問23 サービス等利用計画を作成してどのように感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

【良かったこと】

- 1 相談支援専門員が学習に分かりやすく説明してくれた。
- 2 希望どおりのサービス等利用計画ができた
- 3 サービス等利用計画の計画内容に満足している
- 4 再び支援が必要となった場合にはサービス等利用計画を作成したい
- 5 サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
- 6 サービス等利用計画の内容が具体的に分かりやすかった
- 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった

【悪かったこと】

- 8 相談支援専門員が学習に分かりやすく説明してくれなかった。
- 9 希望どおりのサービス等利用計画ができなかった
- 10 サービス等利用計画の計画内容に不満がある
- 11 再び支援が必要となった場合でもサービス等利用計画は作成したくない
- 12 サービス等利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった
- 13 サービス等利用計画の内容が分かりにくかった
- 14 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった
- 15 その他 ()
- 16 特になし



ここからは問22で2セルフプランを作成している」に○をつけた方にお聞きます。

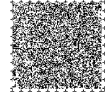
問24 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 相談支援事業所にサービス等利用計画の作成を依頼することが手間だったため
- 身近にサービス等利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため
- 障害福祉サービスを早く利用したかったため
- 家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため
- 自分でセルフプランを作成することが可能だったため
- その他 ()

40歳以上の方にお聞きます。

問25 障害福祉サービスと併用している介護保険サービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 訪問介護 (ホームヘルプ)
- 通所介護 (デイサービス)
- 短期入所 (ショートステイ)
- その他 ()
- 介護保険サービスを利用していない



5 日中活動や外出について

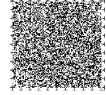
問26 あなたは、平日の日中、主にもどどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- (職場に障害を明示して) 正社員・正職員として働いている
- (職場に障害を明示せず) 正社員・正職員として働いている
- (職場に障害を明示して) 契約社員として働いている
- (職場に障害を明示せず) 契約社員として働いている
- パート・アルバイトなどで働いている
- 自営業・家業の手伝いなどで働いている
- 福祉施設・障害福祉サービス事業所等に働いている →問26-1、問26-5へ
- 大学・専門学校などに通っている
- 職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている
- ハローワーク等に通って求職活動をしている
- 自宅で家事をしている
- 育児をしている
- 休職中
- その他 ()
- 特に決まった予定はない →15に○を付けた方は問26-6へ

ここからは問26で1～7と回答された方にお聞きます。

問26-1 給与・工賃の月額をお答え下さい。(○はひとつ)

- 1 万円未満
- 1万円以上～3万円未満
- 3万円以上～5万円未満
- 5万円以上～10万円未満
- 10万円以上～15万円未満
- 15万円以上～20万円未満
- 20万円以上



ここからは問26で1～6と回答された方にお聞きします。

問26-2 仕事の内容をお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

- 1 事務の仕事
- 2 販売・接客の仕事
- 3 役所や官公庁の仕事
- 4 医療・福祉の仕事
- 5 教育関係の仕事
- 6 倉庫等の商品管理や発送の仕事
- 7 清掃の仕事
- 8 調理、食品、厨房内の仕事
- 9 店舗、バックヤードの仕事
- 10 農産物等の栽培の仕事
- 11 自宅での仕事(テレワーク)
- 12 自営業
- 13 その他
- 14 わからない

問26-3 週当たりの勤務時間をお答え下さい。(○はひとつ)

- 1 週に40時間以上
- 2 週に20時間以上～40時間未満
- 3 週に20時間未満
- 4 その他

問26-4 仕事をすす上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 賃金や待遇面で不満がある
- 2 仕事中の体調の変化に不安がある
- 3 調子が悪いときに休みが取りにくい
- 4 労働時間や日数に不満がある
- 5 通勤が大変である
- 6 職場の人間関係がうまくいかない
- 7 職場に相談できる人や援助者がいない
- 8 職場の障害理解が不足している
- 9 トイレなど職場の設備が不十分
- 10 周囲の目が気になる
- 11 自分の考えや思ったことを伝えられない
- 12 能力に感じた評価、昇進の仕組みがない
- 13 仕事の内容が合っていない
- 14 在宅勤務やオンライン化への対応が難しい
- 15 その他
- 16 特になし



ここからは問26で7 福祉施設・サービス事業所等に通っていると回答された方にお聞きします。

問26-5 福祉施設に通所する上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 サービスの内容が自分に合っていない
- 2 サービスの提供時間や日数に不満がある
- 3 工賃に不満がある
- 4 訓練や作業をすす上での配慮が不足している
- 5 他の利用者との人間関係がうまくいかない
- 6 通うのが大変である
- 7 トイレなど施設の設備が不十分
- 8 相談できる人や援助者がいない
- 9 作業中の体調の変化に不安がある
- 10 自分の考えや思ったことが伝えられない
- 11 その他
- 12 特になし

問26-6 あなたが就労や通所などをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 障害の程度や症状のため
- 2 高齢のため
- 3 職場の人間関係に不安があるため
- 4 職場の障害理解に不安があるため
- 5 職場や活動の場に通うのが困難なため
- 6 周囲から止められているため
- 7 自分に合った仕事がないため
- 8 自分に合った活動の場がないため
- 9 働く自信がないため
- 10 働く必要がないため
- 11 働く場所があるから分らない
- 12 自宅で障害福祉サービスを利用しているため
- 13 利用したい障害福祉サービスがないため
- 14 障害福祉サービスを利用する必要があるため
- 15 障害福祉サービスがあることを知らない
- 16 今の生活に満足しているため
- 17 その他
- 18 特に理由はない



ここからは全ての方にお願いします。

問27 障害者が一般就労するため希望する支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

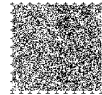
- 1 就労に向けての相談支援
- 2 就労継続に向けての相談支援
- 3 障害のある人が働く企業等の見学
- 4 企業等での体験実習
- 5 自立や社会参加を目的とした就労訓練の場
- 6 就労意欲向上のためのプログラム
- 7 求職活動の支援
- 8 自分に合った仕事を見つける支援
- 9 ビジネスマナーなどを学ぶ機会
- 10 履歴書の作成や面接への同行支援
- 11 企業等での短時間(1日2時間程度)雇用の推進
- 12 企業等における障害理解の推進
- 13 その他()
- 14 特になし

問28 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 趣味や学習活動、習い事
- 2 スポーツ・運動
- 3 ボランティア活動
- 4 友人・知人と会う
- 5 音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞
- 6 買い物
- 7 飲食店に行く
- 8 読書
- 9 旅行
- 10 家でくつろぐ
- 11 地域の行事への参加や交流
- 12 近所の散歩
- 13 その他()
- 14 特に決まった予定はない

問29 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)

- 1 ほぼ毎日
- 2 週に3~4回
- 3 週に1~2回
- 4 月に1~3回
- 5 あまり外出しない



問30 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 歩道の段差や傾斜
- 2 建物の段差や階段
- 3 バスやタクシーの利用
- 4 駅構内の移動や乗り換え
- 5 券売機の利用
- 6 トイレの利用
- 7 歩道がせまい・障害物がある
- 8 疲れたときの休息場所
- 9 自動車・自転車で危険を感じる
- 10 スマホのながら歩きに危険を感じる
- 11 駅のホームで線路への転落の危険を感じる
- 12 外出するのに支援が必要である
- 13 外出したくても介助者がいない
- 14 周囲の人の理解や配慮がない
- 15 その他()
- 16 特になし

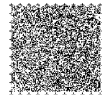
6 住まいについて

問31 あなたは、住まいに関してどのようなことで困っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 建物のバリアフリーに問題
- 2 建物の老朽化
- 3 家賃など住宅費の負担
- 4 近隣住民との人間関係
- 5 転居したいがサポートがないと難しい
- 6 周りに相談できる人がいない
- 7 入居を断られたことがある
- 8 その他()
- 9 特になし

問32 あなたは、住まいに関してどのような支援を必要としていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 住宅改修費用の貸付・助成
- 2 家具転倒防止や耐震化など災害対策
- 3 公営住宅への優先入居の拡充
- 4 民間賃貸住宅の入居支援
- 5 グループホームなどの整備
- 6 住居探しのサポート体制の整備
- 7 その他()
- 8 特になし



7 権利保護・差別解消について

問33 成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)

- 1 「成年後見制度」という言葉を知っていることがある
- 2 「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある
- 3 「成年後見制度」について内容も言葉も知らない

ここからは問33で「1 成年後見制度」という言葉を知ったことがあり、知っていることがあると回答された方にお聞きします。

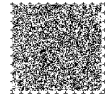
問33-1 成年後見制度について知っていることをお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

- 1 「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である
- 2 「法定後見制度」は、判断能力が不十分になったから利用する成年後見制度である
- 3 「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元気な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である
- 4 その他 ()

ここからは全ての方にお聞きします。

問34 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)

- 1 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知ったことがあり、知っていることがある
- 2 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉は聞いたことがある
- 3 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない



ここからは問34で「1 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を知ったことがあり、知っていることがあると回答された方にお聞きします。

問34-1 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

1 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のことである

2 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的金融管理サービス」、「重要書類等預かりサービス」がある

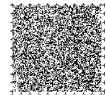
3 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結びことで受けられる支援である

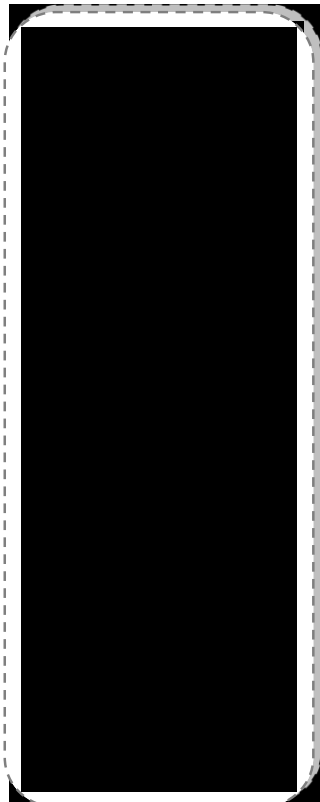
4 その他 ()

ここからは全ての方にお聞きします。

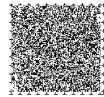
問35 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮※の不提供を感じる場面をお聞かせください。(○はひとつ)

- 1 家
- 2 職場
- 3 福祉施設・障害福祉サービス事業所
- 4 お店などの民間事業者
- 5 住んでいる地域や住民
- 6 公共施設
- 7 区役所などの行政機関
- 8 医療機関
- 9 交通機関
- 10 保育園、幼稚園、学校
- 11 その他 ()
- 12 特に感じたことはない



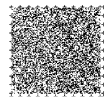
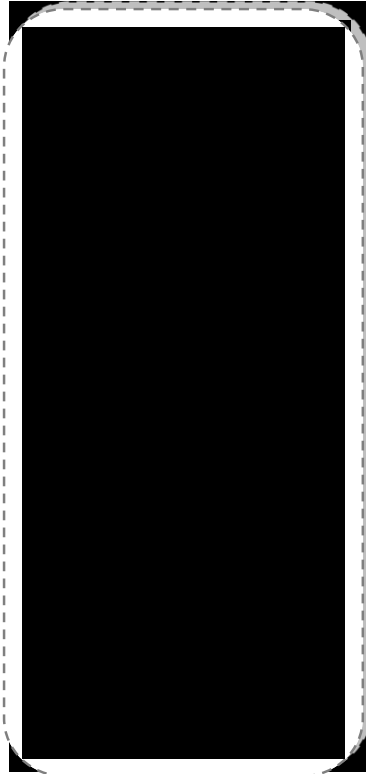


問36 あなたが、地域（行政機関、民間事業者、住民等）に求める合理的配慮
 がありましてからお聞かせください。（ご自由にお書きください。）



問37 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんでしょうか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
- 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
- 3 障害者差別解消法[※]に係るセミナー・研修等の開催
- 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
- 5 障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
- 6 地域や学校等で交流の機会を種々やすく
- 7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
- 8 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
- 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催
- 10 障害者の一般就労の促進
- 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
- 12 その他（
- 13 特になし



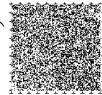
問38 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんだと思われませんか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
- 2 合理的配慮事例の周知・啓発
- 3 筆談、読み上げ、手話など障書の特性に応じたコミュニケーション対応
- 4 バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
- 5 障害当事者等を講師とした研修・講演
- 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
- 7 その他 ()
- 8 特にない

8 感染症について

問39 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 外出の機会が減った
- 2 身体的距離を確保することが難しい
- 3 感染症への不安を感じた
- 4 手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい
- 5 通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった
- 6 感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい
- 7 マスクの着用が難しい
- 8 マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい
- 9 オンライン化への対応が難しい
- 10 ワクチン接種の予約等の手続が難しい
- 11 その他 ()
- 12 特にない



9 災害対策について

問40 あなたが、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 災害の情報を知る方法がわからない
- 2 助けを求める方法がわからない
- 3 避難所の場所がわからない
- 4 近くに助けてくれる人がいない
- 5 一人では避難できない
- 6 避難所の設備が障書に配慮しているか不安
- 7 避難所で必要な支援が受けられないか不安
- 8 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい
- 9 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
- 10 医療機器の電源確保が心配
- 11 その他 ()
- 12 特にない

問41 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
- 2 非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日~1週間分)をしている
- 3 疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
- 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている
- 5 文京区の「避難行動要支援者名簿」※に登録している
- 6 家具に転倒防止器具を取り付けている
- 7 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている
- 8 区民防災組織(即会・自治会)や消防団等に参加している
- 9 地域の防災訓練や強云・セミナー等に参加している
- 10 その他 ()
- 11 特にない



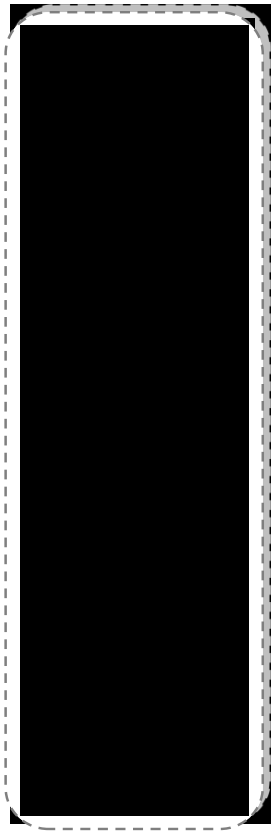
10 自由意見

問42 区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできませんが、計画策定の際の参考させていただきます。

質問は以上で終わりです。
質問力以上で終わります。

この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。

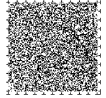


資料【障害福祉サービス等の内容(問21)】

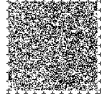
サービス名	サービスの内容
(1) 障害福祉サービス(訪問系)	
1. 在宅介護	自宅で入浴・排せつ、食事の介護、通院の介助等を行います。
2. 重度訪問介護	重い障害があり、常に介護を必要とする人に、自宅で入浴・排せつ、食事の介護、外出時における移動支援等を総合的にを行います。
3. 同行介護	視覚障害のある人に、外出時において、移動の支援等を行います。
4. 行動支援	知的障害や精神障害により、一人で行動することが難しい人に対して、移動中の介護や危険を避けるための支援を行います。
5. 重度障害者等包括支援	介護の必要性がとて高い人に、居宅介護等の複数のサービスを包括的にを行います。
(2) 障害福祉サービス(日中活動系・訓練系・就労系)	
1. 生活介護	常に介護を必要とする人に、昼間、排せつ、食事等の介護、日常生活上の支援を行います。
2. 療養介護	医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練や看護・介護を行います。
3. 自立訓練(機能訓練)	身体障害者に対して、自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能の向上のために必要な訓練を行います。
4. 自立訓練(生活訓練)	知的障害者・精神障害者に対して、自立した日常生活又は社会生活ができるよう、生活能力の向上のために必要な訓練を行います。
5. 就労移行支援	就労希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
6. 就労継続支援(A型)	企業等での就労が難しい人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
7. 就労継続支援(B型)	企業等での就労が難しい人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。
8. 就労定着支援	就労移行支援等を利用して就労した人に、就労に伴う生活上の課題に対応できるように必要な支援を行います。
9. 自立生活援助	入所施設やグループホームを利用していた人が、自宅で自立した生活を送る上で生じた問題について、訪問して必要な援助を行います。
10. 短期入所(シヨーストデイ)	自宅で介護する人が病気の癒やや休養等のために、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護等を行います。



サービス名	サービスの内容
(3)障害福祉サービス(居住系)	
1. 共同生活援助 (グループホーム)	<p>障害者の身体機能を補完・代替する補装具を製作・修理等する場合、補装具の費用を支給します。</p> <p>短期保護</p> <p>福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成</p> <p>外出が難しい人が積極的に社会参加できるように、福祉タクシー利用券の交付又は自動車の燃料費の助成を行います。</p> <p>障害者・児童を日常的に介護している家族が、一時的に介護を行うことが困難になったときに、家庭において介護を受けた場合等、その介護委託に要した費用の一部を助成します。</p>
(4)相談支援	
1. 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	<p>障害者が入院・入所・入院している障害者に対して、地域生活に移行するための支援や、自宅で単身生活する障害者の相談等に対応します。</p>
2. 計画相談支援(サービス利用支援・継続サービス利用支援)	<p>障害福祉サービス等の利用を希望する障害者について、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとに計画の検証等を行います。</p>
(5)地域生活支援事業	
1. 相談支援事業	<p>障害者の日常生活に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他各種福祉サービスの利用支援等を行います。</p>
2. 移動支援事業	<p>外出時に移動に関する支援が必要な障害者に対し、ガイドヘルパーなどによる移動の支援を行います。</p>
3. 日常生活用具給付事業	<p>重度障害者等に対し、日常生活に必要な用具や住宅改修等の給付を行います。</p>
4. 日中短期入所事業	<p>短期入所施設で、宿泊を伴わない日中に、入浴・排せつ・食事等の介護や日常生活の支援を行います。</p>
5. 地域活動支援センター	<p>障害者等に対し、創作的活動や社会との交流の機会等を提供します。</p>
6. 意思疎通支援事業	<p>手話通訳者や要約筆記等の派遣を行います。</p>



サービス名	サービスの内容
(6)日常生活のサービス	
1. 補装具費の支給等	<p>障害者の身体機能を補完・代替する補装具を製作・修理等する場合、補装具の費用を支給します。</p> <p>短期保護</p> <p>福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成</p> <p>外出が難しい人が積極的に社会参加できるように、福祉タクシー利用券の交付又は自動車の燃料費の助成を行います。</p> <p>障害者・児童を日常的に介護している家族が、一時的に介護を行うことが困難になったときに、家庭において介護を受けた場合等、その介護委託に要した費用の一部を助成します。</p>
(7)就労に関する支援	
1. 障害者就労支援センター(就労支援センター)	<p>障害者就労支援センターで、障害者の就労に向けた支援、就労定着への支援、就労に伴う生活支援等を行います。</p>
(8)精神障害者を対象とした支援	
1. 精神障害者回復向上プログラム	<p>集団生活指導などを通じて、対人関係等の課題を改善して社会復帰を自覚します。</p>
2. 地域生活安定化支援事業	<p>治療中断等による病状悪化を未然に防止するため、通院の同行や服薬見守り支援を行います。</p>
(9)難病患者を対象とした支援	
1. 難病リハビリ教室	<p>体験やレクリエーション、参加者同士の交流の機会を提供し、疾病の理解や運動機能の維持を図ります。</p>
(10)その他	
1. 障害者(児)歯科診療	<p>口腔衛生の向上を図るため、歯科治療や各種相談を行います。</p>
2. 在宅療養者等歯科訪問診療・予防相談指導事業	<p>歯科医院への通院が難しい在宅療養者等に、歯科医師や歯科衛生士が自宅に訪問し、歯科健診・予防相談指導を行い、口腔衛生の向上を図ります。</p>
3. 成年後見制度	<p>判断能力が不十分で、自分の財産や権利を守る事が難しい方に対し、支援を行います。</p>
4. 成年後見制度利用助成事業(報酬助成)	<p>成年後見制度の申立て費用や、成年後見人等への報酬を支払うことが難しい人に、必要な費用を助成します。</p>
5. 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)	<p>判断能力が不十分で利用を希望する方と社会福祉協議会が契約し、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等の支援を行います。</p>



さいみまん 18歳未満の方

くみん せいかつ かん ちようさ 区民の生活のニーズに関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。
本調査では、皆様のご生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。

以下のいずれかに該当する区内在住の方を対象とさせていただきます。

- ・身体障害者手帳をお持ちの18歳未満の方
- ・愛の手帳をお持ちの18歳未満の方
- ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの18歳未満の方
- ・難病医療券をお持ちの18歳未満の方
- ・障害児通所支援受給者証をお持ちの18歳未満の方

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・見計画(令和6年度から令和8年度まで)策定の参考にさせていただきます。

無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしく願います。

れいわ ねん かつ
令和4年10月
文京区長 成澤 廣修

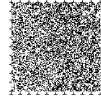


- ・スマートフォン等で下記QRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
- ・最初に下記の「パスワード」を入力してください。
- ・画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓



<https://enquete.cc/q/bunkyo763>



ゆうさう と インターネットのいずれかを選択してご回答ください。

はあらい 郵便物の場合

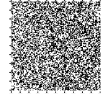
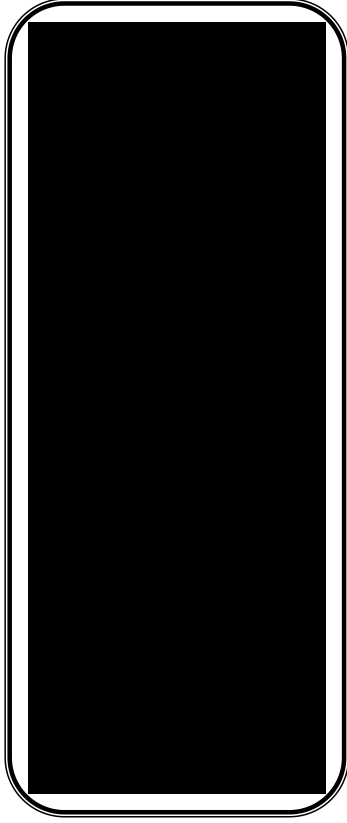
- ・令和4年10月31日(月)までに、ポストに投函してください。
- ・同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。切手を貼る必要はありません。

きんにかうきゆうかちようさゆうさうふきせき

【記入済調査票送付先】
〒112-8555 文京区春日1-16-21 文京シビックセンター9階
文京区役所障害福祉課障害福祉係

はあらい インターネットの場合

- ・令和4年10月31日(月)24時までに、回答を送信してください。



問4 あなたの同居家族をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)

- 1 父親 (ちち)
- 2 母親 (はは)
- 3 兄弟・姉妹 (あに/いもうと)
- 4 祖父母 (おじ/おば)
- 5 その他親族 (た)
- 6 その他 (そ)

2 障害と健康について

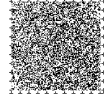
問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 肢体不自由 (上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等)
- 2 音声・言語・そしゃく機能障害
- 3 視覚障害
- 4 聴覚・平衡機能障害
- 5 内部障害 (心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等)
- 6 知的障害
- 7 発達障害 (自閉症、アスペルガー症候群等) →7に○を付けた方は問5-1へ
- 8 精神障害
- 9 高次脳機能障害
- 10 難病 (特定疾病) →10に○を付けた方は問5-2へ
- 11 その他 (そ)

ここからは問5で「7 発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きます。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

- 1 広汎性発達障害
- 2 自閉症
- 3 注意欠陥多動性障害
- 4 アスペルガー症候群
- 5 学習障害
- 6 その他の発達障害
- 7 わからない



ここからは問5で「10 難病(特定疾病)」と回答された方にお聞きます。

問5-2 病名(東京都発行政の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名)等をお答え下さい。

疾病名 ()

ここからは全ての方にお聞きます。

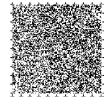
問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きます。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1 身体障害者手帳	1 1級	2 2級	3 3級
	4 4級	5 5級	6 6級
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度
	4 4度	5 5度	6 6度
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級	3 3級

4 これらの手帳は持っていない

問7 保護者の方にお聞きます。お子さんの障害や心身の不調について、最初に気づいた時期はいつですか。(○はひとつ)

- 1 生まれたとき 3 1歳 5 3歳 7 5歳 9 9~11歳
- 2 0歳 4 2歳 6 4歳 8 6~8歳 10 12歳以上



問8 保護者の方にお聞きします。お子さんの障害や心身の不調についてはじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(○はひとつ)

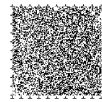
- 1 生まれまもなく知らされた
- 2 家族や周りの人が気づいた
- 3 乳幼児健診で知らされた
- 4 育児相談などで知らされた
- 5 医療機関で診察したときに知らされた
- 6 保育園、子ども園、幼稚園の教職員が気づいた
- 7 学校の教職員が気づいた
- 8 その他
- 9 わからない

問9 保護者の方にお聞きします。そのとき、誰に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族
- 2 友人
- 3 学校の教職員
- 4 保育園・子ども園、幼稚園の教職員
- 5 民生委員・児童委員
- 6 障害等の当事者会や家族の会
- 7 医療関係者(医師・看護師・医療相談員)
- 8 障害福祉課・予防対策課の窓口
- 9 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
- 10 保健サービスセンター(保健師)
- 11 障害者基幹相談支援センター
- 12 子ども家庭支援センター
- 13 教育委員会・教育センター
- 14 児童相談センター(児童相談所)
- 15 インターネット等の情報
- 16 SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)
- 17 その他
- 18 相談しなかった

問10 あなたの受診状況等(歯科医療も含む)をお聞きします。(○はひとつ)

- 1 定期的に通院している
- 2 ときどき通院している
- 3 自宅で訪問看護や住診を受けている
- 4 入院している
- 5 その他
- 6 特に治療はしていない



問11 かかりつけの医療機関をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

- 1 区内の診療所や医院
- 2 区内の歯科医院
- 3 区内の総合病院や大学病院
- 4 区外の診療所や医院
- 5 区外の歯科医院
- 6 区外の総合病院や大学病院
- 7 かかりつけの医療機関はない

問12 あなたが必要とする医療的ケア*をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

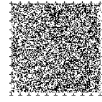
- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1 服薬支援 | 6 導尿 | 11 人工呼吸器の管理 |
| 2 吸引 | 7 酸素療法 | 12 その他 |
| 3 吸入・ネブライザー | 8 鼻咽喉アウエイ | 13 特に必要としない |
| 4 経管栄養 | 9 バルソオキシメーター | |
| 5 中心静脈栄養 | 10 気管切開部の管理 | |



ここからは問12で「13 特に必要としない」以外を回答された方にお聞きします。

問12-1 あなたやあなたの介助者のために、どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 一時的に預かるサービスの充実
- 2 移動に係る支援の充実
- 3 保育所や学校等における環境整備
- 4 経済的な支援等の充実
- 5 医療的ケアに対応できる事業所等の充実
- 6 訪問看護・訪問リハビリ等充実
- 7 相談できる体制の充実
- 8 情報提供の充実
- 9 その他



ここからは全ての方にお聞きします。

問13 あなたは、毎日の生活の中で、どのような介助や支援が必要ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------|------------------|------------------|
| 1 食事 | 6 室内の移動 | 11 日常生活に必要な意思の伝達 |
| 2 排せつ | 7 洗顔・歯磨き | 12 日常生活動作の見守り |
| 3 入浴 | 8 代筆・代読 | 13 学習の支援 |
| 4 寝返り | 9 通院、通学・通勤 | 14 その他() |
| 5 着替え | 10 通院、通学・通勤以外の外出 | 15 介助や支援は必要ない |

→15に○を付けた方は問15へ

ここからは問13で「15 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問14 あなたを主に介助・支援している人はどなたですか。(○はひとつ)

- | | | | |
|------|---------|-----------|-------|
| 1 父親 | 3 兄弟・姉妹 | 5 ホームヘルパー | 7 その他 |
| 2 母親 | 4 その他親族 | 6 ボランティア | () |

ここからは問14で「1 父親」「4 その他親族」と回答された方にお聞きします。

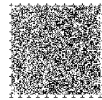
問14-1 あなたを主に介助・支援している人の年齢はいくつですか。
(○はひとつ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 19歳以下 | 3 30~39歳 | 5 50~59歳 |
| 2 20~29歳 | 4 40~49歳 | 6 60歳以上 |

ここからは問13で「15 介助や支援は必要ない」以外を回答された方にお聞きします。

問14-2 あなたを主に介助・支援している人は、あなた以外に介護や子育てをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 高齢者(両親・祖父母等)の介護 | 5 障害のある方の介護 |
| 2 配偶者の介護 | 6 その他() |
| 3 子ども(就学児・未就学児)の子育て | 7 なし |
| 4 病気の介護 | |



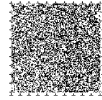
問15 保護者の方にお聞きします。どのような悩みや不安を抱えていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 介助してくれてくれる人が足りない | 11 睡眠が不足している |
| 2 何かあった時に介助を頼める人がいない | 12 精神的な負担が大きい |
| 3 ほかのかさくきょうりょくが少くない | 13 経済的な負担が大きい |
| 4 仕事との両立が難しい | 14 周囲の人や職場などの理解がない |
| 5 長期の休外出ができない | 15 きょうだい兄弟の世話が十分にできない |
| 6 介助や支援の方法がわからない | 16 子どもの就学や進路について不安がある |
| 7 自分の時間が取れず、自由がない | 17 子どもの成長や発達について不安がある |
| 8 身体的な負担が大きい | 18 その他() |
| 9 健康について不安がある | 19 特に悩みや不安はない |
| 10 体調不良でも病院に行く時間がない | |

3 相談や福祉の情報について

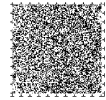
問16 あなたは、日常生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○) (保護者や支援者の方が回答する場合でも、ご本人(お子さん)の思いをご回答ください)

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 健康状態に不安がある | 9 友だちとの関係がうまくいかない |
| 2 障害のため、身の回りのことが十分できない | 10 障害や病気に對する周りの理解がない |
| 3 介助者に負担をかけている | 11 困ったとき相談する相手がない |
| 4 外出が大変である | 12 病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くにない |
| 5 住まいに不便を感じている | 13 生活にお金がかかると不安がある |
| 6 災害時の避難に不安がある | 14 将来に不安を感じている |
| 7 緊急時の対応に不安がある | 15 その他() |
| 8 学校などの先生とうまくいかない | 16 特にない |



問17 あなたや保護者の方が困ったときに相談する相手は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族や親族
- 2 近所の人
- 3 友人・知人
- 4 ピアサポーター
- 5 学校の教職員
- 6 保育園・こども園・幼稚園の教職員
- 7 民生委員・児童委員
- 8 障害等の当事者会や家族の会
- 9 身体障害者相談員・知的障害者相談員
- 10 ヘルパー等福祉従事者
- 11 児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員
- 12 相談支援事業所等の相談支援専門員
- 13 医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)
- 14 医療関係の相談窓口
(地域包括ケア歯科相談窓口、かかりつけ医・在宅療養相談窓口、患者の声相談窓口等)
- 15 障害福祉課・予防対策課
- 16 障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口
- 17 保健サービスセンター
- 18 障害者基幹相談支援センター
- 19 各地区の生活あんしん拠点(地域生活支援拠点)
- 20 子ども家庭支援センター
- 21 教育委員会・教育センター
- 22 児童相談センター(児童相談所)
- 23 文京区社会福祉協議会
- 24 どこに相談すればいいかわからない
- 25 その他
- 26 相談する相手がいない

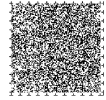


問18 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 区の広報紙(区報等)
- 2 区のホームページ
- 3 文の京・障害者福祉のてびき
- 4 区の窓口
- 5 保健サービスセンター
- 6 テレビ・ラジオ
- 7 インターネット
- 8 SNS
(ソーシャル・ネットワーク・サービス)
- 9 新聞・書籍
- 10 障害等の当事者会や家族の会
- 11 医療機関
- 12 学校の教職員
- 13 保育園・こども園・幼稚園の教職員
- 14 児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関
- 15 その他
- 16 特にない

問19 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)

- 1 地域で独立して生活する
- 2 親や親族と一緒に生活する
- 3 グループホームで生活する
- 4 入所施設(障害者支援施設等)で生活する
- 5 その他
- 6 わからない



問20 あなたが地域で安心して暮らしていただくためには、どのような施策が重要だとお考えですか。(〇は5つまで)

- 1 周囲の人の障害に対する理解の促進
- 2 医療やリハビリテーションの充実
- 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
- 4 働くための訓練・就業に向けた支援の充実
- 5 仕事を継続するための支援の充実
- 6 身近な地域で相談できる場の充実
- 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
- 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練等・就労移行支援・就労継続支援等)の充実
- 9 短期入所(ショートステイ)の整備
- 10 意思疎通支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実
- 11 福祉機器・補装具などの充実
- 12 グループホームの整備
- 13 入所施設の整備
- 14 居住支援の充実
- 15 建物・道路等のバリアフリー化
- 16 当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
- 17 趣味やスポーツ活動の充実
- 18 財産管理や見守り等の支援の充実
- 19 経済的支援の充実
- 20 災害時支援の充実
- 21 地域交流の場の充実
- 22 福祉・医療・介護との連携の充実
- 23 福祉と教育の連携の充実
- 24 その他()
- 25 特になし



4 福祉サービスについて

- 問21 障害児通所支援等の利用状況と満足度についてお聞きします。
- A. 現在利用しているサービスに〇をつけてください。
 - B. 現在利用しているサービスに満足していますか。(〇はひとつ)
 - C. サービスに不満の理由を下の欄からお選びください。(〇はいくつでも)
 - D. 現在は利用していないが、今後利用したいサービスに〇をつけてください。

※ 各サービスの説明について、この調査票の巻末資料(34ページ以降)【障害児通所支援等の内容】をご参照ください。

サービス名	A			B			C	D
	現在利用している	満足	やや満足	満足	やや満足	不満	B欄で「やや不満」「不満」を選んだ理由(下にある欄の選択肢からあはまえるものすべてをお選びください)	今後利用したい
記入例) 1. 児童発達支援	○	1	2	3	4	5	1, 4	
(1)児童福祉施設に基づくサービス								
1. 児童発達支援		1	2	3	4	5		
2. 医療型児童発達支援		1	2	3	4	5		
3. 放課後等デイサービス		1	2	3	4	5		
4. 居宅訪問型児童発達支援		1	2	3	4	5		
5. 保育所等訪問支援		1	2	3	4	5		
6. 障害児入所施設		1	2	3	4	5		

※ 『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

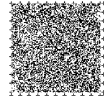
- 1 利用できる回数や日数等が少ない
- 2 利用料が高い
- 3 サービス提供事業所が少ない
- 4 利用日時が合わない
- 5 サービス内容(質)に不安を感じる
- 6 サービス提供事業所の対応が良くない
- 7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
- 8 事業所と家族の連携が取れていない
- 9 医療的ケアの対応が十分でない
- 10 その他()



A	B		C	D	
	満足	やや満足			やや不満
現在利用している	1	2	3	4	5
サービス名	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由 (下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください)			1, 4	
(2)日常生活のサービス					
記入例) 1. 補装具の支給等					
1. 補装具の支給等	1	2	3	4	5
2. 短期保護	1	2	3	4	5
3. 医療的ケア児在宅レスパイト事業	1	2	3	4	5
4. 福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	1	2	3	4	5

※『C欄』に記入する理由はこちらからお選びください。

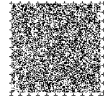
1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容(質)に不安を感じる	10 その他()



A	B		C	D	
	満足	やや満足			やや不満
現在利用している	1	2	3	4	5
サービス名	B欄で「やや不満」、「不満」を選んだ理由 (下にある欄の選択肢からあてはまるものすべてお選びください)			1, 4	
(3)障害福祉サービス					
記入例) 1. 居宅介護					
1. 居宅介護	1	2	3	4	5
2. 重度訪問介護	1	2	3	4	5
3. 同行支援	1	2	3	4	5
4. 行動援護	1	2	3	4	5
5. 重度障害者等包括支援	1	2	3	4	5
6. 短期入所(ショートステイ)	1	2	3	4	5

※『C欄』に記入する理由はこちらからお選びください。

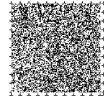
1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容(質)に不安を感じる	10 その他()



A	B		C	D
	満足	やや満足 やや不満		
現在利用している	1	2 3 ④	5	今後利用したい
サービス名				1, 4
記入例)				
1. 相談支援事業				
(4)地域生活支援事業				
1. 相談支援事業	1	2 3 4 5	5	
2. 移動支援事業	1	2 3 4 5	5	
3. 日常生活用具給付事業	1	2 3 4 5	5	
4. 日中短期入所事業	1	2 3 4 5	5	
5. 地域活動支援センター事業	1	2 3 4 5	5	

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

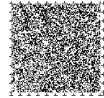
1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容（質）に不安を感じる	10 その他（ ）



A	B		C	D
	満足	やや満足 やや不満		
現在利用している	1	2 3 ④	5	今後利用したい
サービス名				1, 4
記入例)				
1. 障害児相談支援（障害児支援利用 援助・継続障害児支援利用援助）				
(5)相談支援				
1. 障害児相談支援（障害児支援利用 援助・継続障害児支援利用援助）	1	2 3 4 5	5	
2. 地域相談支援（地域移行支援・ 地域定着支援）	1	2 3 4 5	5	
3. 計画相談支援（サービス利用 支援・継続サービス利用支援）	1	2 3 4 5	5	

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1 利用できる回数や日数等が少ない	6 サービス提供事業所の対応が良くない
2 利用料が高い	7 サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3 サービス提供事業所が少ない	8 事業所と家族の連携が取れていない
4 利用日時が合わない	9 医療的ケアの対応が十分でない
5 サービス内容（質）に不安を感じる	10 その他（ ）



A		B			C	D
現在利用している		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
サービス名		1	2	3	4	5
記入例) 1. 障害者(児)歯科診療		○				
(6)その他						
1. 障害者(児)歯科診療		1	2	3	4	5
2. 在宅療養者等歯科訪問健診 ・予防相談指導事業		1	2	3	4	5

※『C欄』に記入する理由はここからお選びください。

1	利用でできる回数や日数等が少ない	6	サービス提供事業所の対応が良くない
2	利用料が高い	7	サービスの利用契約等に関する十分な説明がない
3	サービス提供事業所が少ない	8	事業所と家族の連携が取れていない
4	利用日時が合わない	9	医療的ケアの対応が十分でない
5	サービス内容(質)に不安を感じる	10	その他()



ここからは問21 にあるいずれかの障害児通所支援サービス等で「A 現在利用している」に○をつけた方にお聞きします。

問22 どのように障害児支援利用計画を作成しましたか。(○はひとつ)

- 1 障害児相談支援事業所の相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成を依頼している
- 2 自分たち家族や支援者とセルフプランを作成している

ここからはこれまでに障害児相談支援事業所で障害児支援利用計画を作成したことがある方にお聞きします。

問23 障害児支援利用計画を作成してどのように感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

【良かったこと】

- 1 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれた。
- 2 希望どおりの障害児支援利用計画ができた
- 3 障害児支援利用計画の計画内容に満足している
- 4 再び支援が必要となった場合には障害児支援利用計画を作成したい
- 5 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができた
- 6 障害児支援利用計画の内容が具体的に分かりやすかった
- 7 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確になった

【悪かったこと】

- 8 相談支援専門員が丁寧に分かりやすく説明してくれなかった。
- 9 希望どおりの障害児支援利用計画ができなかった
- 10 障害児支援利用計画の内容に不満がある
- 11 再び支援が必要となった場合でも障害児支援利用計画は作成したくない
- 12 障害児支援利用計画に沿った形でサービス提供事業所の支援を受けることができなかった
- 13 障害児支援利用計画の内容が分かりにくかった
- 14 課題解決に向けて自分が取り組むべきことが明確にならなかった
- 15 その他()
- 16 特になし



ここからは問22で「2 セルフプランを作成している」に○をつけた方にお聞きます。

問24 セルフプランとした理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 相談支援事業所に障害児支援利用計画の作成を依頼することが手間だったため
- 2 身近に障害児支援利用計画を作成する相談支援事業所が見つからなかったため
- 3 障害児通所支援等サービスを早く利用したかったため
- 4 家族等の協力を得てセルフプランを作成することが可能だったため
- 5 自分でセルフプランを作成することが可能だったため
- 6 その他()

問25 障害児通所支援等サービスを利用していない方にお聞きます。

問25 障害児通所支援等のサービスを利用しない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 サービスを利用する必要がないから
- 2 利用したいサービスがないから
- 3 家族が介助してくれから
- 4 家族以外に介助してもらうことに不安があるから
- 5 施設・サービスが空くのを待っている
- 6 緊急時に利用したい
- 7 利用料が高い
- 8 その他()
- 9 障害児通所支援等のサービスがあることを知らない



5 教育・保育について

問26 あなたが主に通園・通学などをしているところをお聞きます。

(○はひとつ)

A 小学校入学前

- 1 保育園
- 2 子ども園
- 3 幼稚園
- 4 文京区児童発達支援センター(教育センター内)
- 5 療育施設(文京区児童発達支援センター以外)
- 6 通園・通所はしていない
- 7 その他()

→Aに当てはまる方は問27、問28へ

B 学校在学中

- 8 小学校の通常の学級
- 9 小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)
- 10 小学校の特別支援学級
- 11 特別支援学校の小学部
- 12 中学校の通常の学級
- 13 中学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)
- 14 中学校の特別支援学級
- 15 特別支援学校の中学部
- 16 高等学校
- 17 特別支援学校の高等部
- 18 その他の学校()

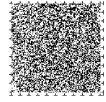
→Bに当てはまる方は問29へ

C 義務教育終了後、通学はしていない

具体的なは何をしていますか。

()

→Cに当てはまる方は問33へ



ここからは問26で「A 小学校入学前(1～7)」の中から○をつけた方の保護者の方に
お聞きします。

問27 通園生活や今後の進路等で困っていることや心配していることはあります
か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 周囲の子どもの関係が心配
- 2 先生の指導の仕方が心配
- 3 本人の成長が心配
- 4 今後の進路について迷っている
- 5 子どもの将来に不安がある
- 6 保育や教育・療育に関する情報が少ない
- 7 療育・リハビリテーションの機会が少ない
- 8 費用など経済的な負担が大きい
- 9 幼稚園・保育園と児童発達支援事業所との間の送迎が大変
- 10 その他()
- 11 特に困っていることや心配していることはない

問28 小学校はどの教育機関を希望しますか。(○はひとつ)

- 1 小学校の通常の学級
- 2 小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)
- 3 小学校の特別支援学級
- 4 特別支援学校の小学部
- 5 わからない

→問30へ進んで下さい。



ここからは問26で「B 学校在学中(8～18)」の中から○をつけた方の保護者の方に
お聞きします。

問29 通学生活等で困っていることや心配していることはあります
か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 周囲の子どもの関係が心配
- 2 先生の指導の仕方が心配
- 3 本人の成長が心配
- 4 今後の進路について迷っている
- 5 子どもの将来に不安がある
- 6 教育・療育に関する情報が少ない
- 7 療育・リハビリテーションの機会が少ない
- 8 費用など経済的な負担が大きい
- 9 学校と放課後等サービス事業所との間の送迎が大変
- 10 その他()
- 11 特に困っていることや心配していることはない

ここからは問26で「A 小学校入学前(1～7)」または「B 学校在学中(8～18)」の中
から○をつけた方の保護者の方に
お聞きします。

問30 放課後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等に
いる以外の時間は、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべて
に○)

- 6 ことほひろばに行く
- 7 児童発達支援、放課後等サービスを利用する
- 8 習い事や塾へ行く
- 9 その他()
- 10 特に決まった予定はない



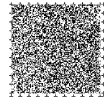
問31 放談後や長期休業中など、幼稚園や保育園、子ども園、学校等にいらっしゃる以外の時間は、どのように過ごすごことを希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 地域の同世代の子どもと遊ばせたい
- 2 育成室(学童保育)を利用したい
- 3 子どもひろばを利用したい
- 4 習い事や塾に行かせたい
- 5 ショートステイを利用したい
- 6 児童発達支援、放課後等「件」7を利用したい
- 7 その他()
- 8 特にない

ここからは問26で「B 学校在学中(8~18)」の中から、小学校(小学部)または中学校(中学部)に通っていると回答した方の保護者の方にお聞きします。

問32 中学校(中学部)卒業後はどのような進路を希望しますか。(○はひとつ)

- 1 高等学校に通う
- 2 特別支援学校の高等部に通う
- 3 専門学校・専修学校に通う
- 4 障害者向けの日中活動に通う
- 5 仕事を()
- 6 その他()
- 7 わからない



ここからは問26で「B 学校在学中(8~18)」の中から「16 高等学校」「17 特別支援学校の高等部」、または「C 義務教育を終了後、通学はしていない」と回答した方にお聞きします。

問33 以下の選択肢のうち、どのような進路を希望しますか。(○はひとつ)

※ この設問では、「ご本人の希望」と「保護者の方の希望」をそれぞれ伺います。



- ご本人の希望**
- 1 大学や短期大学へ通う
 - 2 専門学校や専修学校へ通う
 - 3 フリースクールやサポート校へ通う
 - 4 地域の身近にある学びの場へ通う
 - 5 職業訓練学校へ通う
 - 6 企業等へ就職する(一脱就労)
 - 7 自分で仕事をする(自営業など)
 - 8 就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う
 - 9 自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所へ通う
 - 10 生活介護事業所へ通う

- 11 その他()
- 12 わからない

保護者の方の希望

- 1 大学や短期大学へ通う
- 2 専門学校や専修学校へ通う
- 3 フリースクールやサポート校へ通う
- 4 地域の身近にある学びの場へ通う
- 5 職業訓練学校へ通う
- 6 企業等へ就職する(一脱就労)
- 7 自分で仕事をする(自営業など)
- 8 就労移行支援や就労継続支援の事業所へ通う
- 9 自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所へ通う
- 10 生活介護事業所へ通う
- 11 その他()
- 12 わからない



ここからは全ての方に聞きします。

問34 あなたは、休日や余裕のあるときに、どのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 趣味や学習活動
- 2 スポーツ
- 3 ボランティア活動
- 4 友人・知人と会う
- 5 音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞
- 6 買い物に行く
- 7 飲食店に行く
- 8 読書
- 9 旅行
- 10 家でくつろぐ
- 11 地域の行事への参加や交流
- 12 近所の散歩
- 13 その他
- 14 特に決まった予定はない

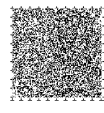
6 外出や住まいについて

問35 あなたは、どのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)

- 1 ほぼ毎日
- 2 週に3~4回
- 3 週に1~2回
- 4 月に1~3回
- 5 あまり外出しない

問36 あなたは、外出に関してどのようなことで困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 歩道の段差や傾斜
- 2 建物の段差や階段
- 3 バスやタクシーの利用
- 4 駅構内の移動や乗り換え
- 5 券売機の利用
- 6 トイレの利用
- 7 歩道がせまい・障害物がある
- 8 疲れたときの休憩場所
- 9 自動車・自転車に危険を感じる
- 10 スマホのながら歩きに危険を感じる
- 11 駅のホームで線路への転落の危険を感じる
- 12 外出するのに支援が必要である
- 13 外出しなくても介助者がいない
- 14 周囲の人の理解や配慮がない
- 15 その他
- 16 特にない



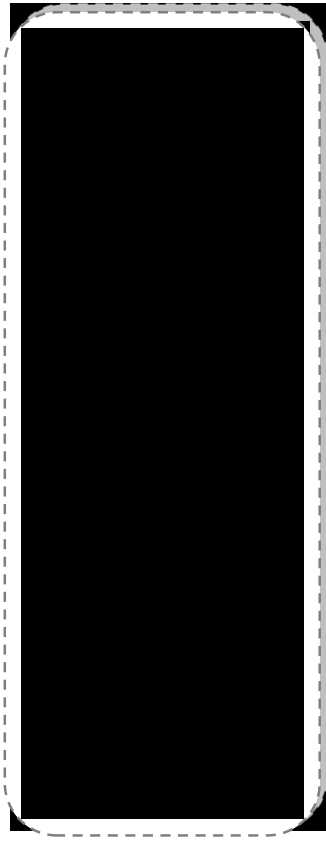
問37 住まいに関してもどのような支援を必要としていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 住宅改造費用の貸付・助成
- 2 家具転倒防止や耐震化など災害対策
- 3 公営住宅への優先入居の拡充
- 4 民間賃貸住宅の入居支援
- 5 グループホームなどの整備
- 6 住居探しのサポート体制の整備
- 7 その他
- 8 特にない

7 権利擁護・差別解消について

問38 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(○はひとつ)

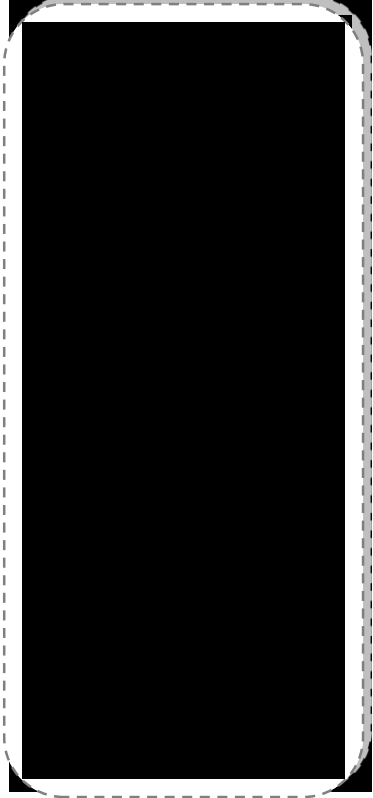
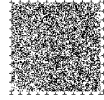
- 1 家
- 2 職場
- 3 通所施設
- 4 お店などの民間事業者
- 5 住んでいる地域や住民
- 6 公共施設
- 7 区役所などの行政機関
- 8 医療機関
- 9 交通機関
- 10 保育園、幼稚園、学校
- 11 その他
- 12 特に感じたことはない



問39 あなたが、地域（行政機関、民間事業者、住民等）に求める合理的配慮
 がありますらお聞かせください。（ご自由にお書きください。）

問40 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんだと
 思われますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
- 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
- 3 障害者差別解消法[※]に係るセミナー・研修等の開催
- 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
- 5 障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
- 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと
- 7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
- 8 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
- 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催
- 10 障害者の一般就労の促進
- 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
- 12 その他（
- 13 特にない



問41 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なこと
 はなんだとお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

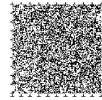
- 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
- 2 合理的配慮事例の周知・啓発
- 3 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
- 4 バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
- 5 障害当事者等を講師とした研修・講演
- 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
- 7 その他（
- 8 特にない



8 感染症について

問42 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 外出の機会が減った
- 2 身体的距離を確保することが難しい
- 3 感染症への不安を感じた
- 4 手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい
- 5 通所施設や学校等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった
- 6 感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい
- 7 マスクの着用が難しい
- 8 マスクの着用により、コミュニケーションがとりづらい
- 9 オンライン化への対応が難しい
- 10 その他()
- 11 特にない



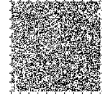
9 災害対策について

問43 あなたやご家族の方が、地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 災害の情報を知ることがわからない
- 2 助けを求め方がわからない
- 3 避難所の場所がわからない
- 4 近くに助けしてくれる人がいない
- 5 一人では避難できない
- 6 避難所の設備が障害に配慮しているか不安
- 7 避難所で必要な支援が受けられるか不安
- 8 避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい
- 9 薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
- 10 医療機器の電源確保が心配
- 11 その他()
- 12 特にない

問44 あなたやご家族の方は、災害に対してどのような備えをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
- 2 非常持ち出し品の用意、非常食等の備蓄(3日~1週間)をしている
- 3 疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
- 4 近所の人や知人等に、災害が発生したときの助けをお願いしている
- 5 文京区の「避難行動要支援者名簿」**に登録している
- 6 家具に転倒防止器具を取り付けている
- 7 住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている
- 8 区民防災組織(町会・自治会)や消防団等に参加している
- 9 地域の防災訓練や勉強会・セミナー等に参加している
- 10 その他()
- 11 特にない

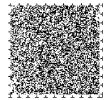


10 自由意見

問45 区の障害児（者）施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

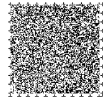
※ お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできませんが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。
 この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
 次のページ以降は、問21に関する資料となります。

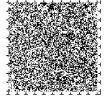


資料【障害児通所支援等サービスの内容(問21)】

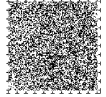
サービス名	サービスの内容
(1)児童福祉法に基づくサービス	
1. 児童発達支援	日常生活の基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行います。
2. 医療型児童発達支援	上肢、下肢又は体幹の機能に障害のある児童に、児童発達支援及び治療を行います。
3. 放課後等デイサービス	小学校から中学、高校までの学校に通う障害児を対象に、生活能力の向上のために必要な訓練、その他必要な支援を行います。
4. 居宅訪問型児童発達支援	外出することが難しい重度の児童の居宅を訪問し、日常生活の基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行います。
5. 居宅等訪問支援	保育所等に通う障害児に、その施設を訪問し、集団生活への適応のため等の専門的な支援を行います。
6. 障害児入所施設	入所施設に入所する児童に対して、保護、日常生活の指導、知識技能の付与等を行います。
(2)日常生活のサービス	
1. 補装具等の支給等	障害者（児）の身体機能を補完・代替する補装具を製作・修理等する際、補装具費を支給します。
2. 短期保護	常時介護を必要とする障害者・児の家族が、疾病・事故・冠婚葬祭等の理由で介護が困難なとき、家族に代わって保護を行います。
3. 医療的ケア在宅レスパイト事業	医療的ケア児の健康保持や、介護する同居の保護者等の介護負担の軽減を図るため、自宅に看護師等を派遣し、医療的ケア等を行います。
4. 福祉タクシー利用券・自動車燃料費助成	外出が難しい人が積極的に社会参加できるように、福祉タクシー利用券の交付又は自動車等の燃料費の助成を行います。



サービス名	サービスの内容
(3) 障害福祉サービス	
1. 居宅介護	自宅で入浴・排せつ・食事の介護、通院の介助等を行います。
2. 重度訪問介護	重い障害があり、常に介護を必要とする人に、自宅で入浴・排せつ、食事の介護、外出時における移動支援等を総合的にを行います。
3. 同行支援	視覚障害のある人に、外出時において、移動の支援等を行います。
4. 行動支援	知的障害や精神障害により、一人で行動することが難しい人に対して、移動中の介護や危険を避けるための支援を行います。
5. 重度障害者等包括支援	介護の必要性がとて高い方に、居宅介護等の複数のサービスを包括的に提供を行います。
6. 短期入所（ショートステイ）	自宅で介護する人が病気の場や休養等のために、短期間、夜間も含め施設で入浴・排せつ、食事の介護等を行います。
(4) 地域生活支援事業	
1. 相談支援事業	障害者（児）の日常生活に関する相談に際し、必要な情報の提供及び助言その他各種福祉サービスの利用支援等を行います。
2. 移動支援事業	外出時に移動に関する支援が必要な障害者に対し、ガイドヘルパーなどによる移動の支援を行います。
3. 日常生活用具給付事業	重度障害者等に対し、日常生活に必要な用具や住宅改修等の給付を行います。
4. 日中短期入所事業	短期入所施設で、宿泊を伴わない日中に、入浴・排せつ、食事等の介護や日常生活の支援を行います。
5. 地域活動支援センター	障害者等に対し、創作的活動や社会との交流の機会等を提供します。



サービス名	サービスの内容
(5) 相談支援	
1. 障害児相談支援（障害児支援） 利用援助・継続障害児支援 利用援助）	障害児に関する様々な相談に際し、必要な情報の提供や各機関との連絡調整などを行うとともに、障害児の通所サービスの内容を定めた障害児支援利用計画等の作成を行います。
2. 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	施設や病院に入所・入院している障害者等に対して、地域生活に移行するための支援や、居宅で単身生活する障害者の相談等に対応します。
3. 計画相談支援（サービス利用支援・継続サービス利用支援）	障害福祉サービス等の利用を希望する障害者について、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとに計画の検証等を行います。
(6) その他	
1. 障害者（児）歯科診療	口腔衛生の向上を図るため、歯科治療や各種相談を行います。
2. 在宅療養者等歯科訪問診療 ・予防相談指導事業	歯科医院への通院が難しい在宅療養者等に、歯科医師や歯科衛生士が自宅に訪問し、歯科健診・予防相談指導を行い、口腔衛生の向上を図ります。



施設に入所している方

区民の生活のニーズに関する調査

日頃から、文京区の福祉行政にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

文京区では、皆様の生活実態や意向を把握して、福祉施策を計画的に進めていくための基礎資料とするために、調査を実施します。この調査は、身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方の中から、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方を対象者とさせていただきます。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計・分析して、報告書として発行するとともに文京区公式ホームページでもお知らせします。調査の結果については障害者・見計画（令和6年度から令和8年度まで）策定の参考にさせていただきます。

無記名アンケートの方式でご回答いただきますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになることはありません。この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年10月
文京区長 成澤 廣修

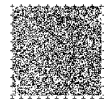


- スマートフォン等で下記QRコードを読み取っていただくか、パソコンの場合はURLを入力し、インターネット上のアンケートフォームにアクセスしてください。
- 最初に下記の「パスワード」を入力してください。
- 画面の指示に従い、アンケートフォームに回答を選択・入力し、送信してください。

↓QRコード、URL↓



<https://enquete.cc/q/bunkyo831>



郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

郵送の場合

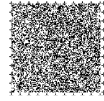
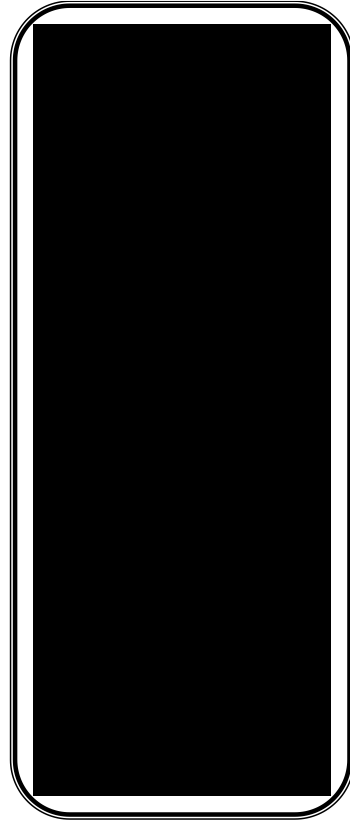
- 令和4年10月31日(月)までに、ポストに投函してください。
- 同封の「返信用封筒」に、回答を書き入れたこの調査票を入れて、ポストに投函してください。切手を貼る必要はありません。

【記入済調査票送付先】

〒112-8555 文京区春日1-16-21
文京区役所障害福祉課障言福祉係

インターネットの場合

- 令和4年10月31日(月)24時までに、回答を送信してください。



【回答に支援が必要な場合の問い合わせ先】

回答の際の支援を行います。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

文京区障害者基幹相談支援センター
住所：文京区小日向2-16-15 文京総合福祉センター1階
Tel 03(5940)2903、Fax 03(5940)2904

社会福祉法人文京福祉の会(は～と・ピア)
住所：文京区大塚4-21-8
Tel 03(3943)4300、Fax 03(3943)4330

社会福祉法人文京福祉の会(は～と・ピア2)
住所：文京区小石川4-4-5
Tel 03(6801)8571、Fax 03(6801)8581

本郷福祉センター(若駒の里)
住所：文京区本郷4-35-15 文京区勤労福祉会館2階
Tel 03(3823)8091、Fax 03(3823)8092

社会福祉法人武蔵野会(リアン文京)
住所：文京区小日向2-16-15
Tel 03(5940)2822、Fax 03(5940)2823

文京区立大塚福祉作業所
住所：文京区大塚4-50-1
Tel 03(3946)5601、Fax 03(3946)2667

文京区立小石川福祉作業所
住所：文京区小石川3-30-6
Tel 03(3811)1431、Fax 03(5689)4523



記入上のお願い

- 回答は、この調査票に直接書いてください。
- 質問によっては、一部の方のみに回答していただくものもあります。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」になる場合は、()内にその内容を書いてください。
- 回答したくない質問は答えずに、次の質問に進んでください。
- この調査票には、名前を書かないでください。

ここから調査がはじまります

この調査票で、「あなた」とあるのは、『あて名ご本人』のことです。

できるかぎりあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、ご家族や施設の職員の方が、あて名ご本人の立場で、現在の状況で回答してください。

問1 この調査票に回答していただく方はどなたですか。(○はひとつ)

- 1 あて名ご本人
- 2 ご家族の方
- 3 施設の職員
- 4 その他 ()

1 ご本人について

問2 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の満年齢をお書きください。

歳



問3 あなたご本人の年 収額をお聞きます。税金等を差し引く前の額でお答えください。(○はひとつ)

- 1 収入はない
- 2 80万円未満
- 3 80万円以上～150万円未満
- 4 150万円以上～250万円未満
- 5 250万円以上～500万円未満
- 6 500万円以上～1,000万円未満
- 7 1,000万円以上

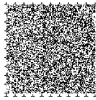
問4 あなたご本人の主な収入の内訳をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)

- 1 年金(障害基礎年金など)
- 2 工賃(通所施設・福祉作業所などに通所)
- 3 生活保護費
- 4 親族の扶養または援助
- 5 その他()

2 障害の状況について

問5 あなたには、次の障害等がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等)
- 2 音声・言語・そしゃく機能障害
- 3 視覚障害
- 4 聴覚・平衡機能障害
- 5 内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等)
- 6 知的障害
- 7 発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等) →7に○を付けた方は問5-1へ
- 8 精神障害
- 9 高次脳機能障害
- 10 難病(特定疾病) →10に○を付けた方は問5-2へ
- 11 その他()



→上記7・10のどちらにも当てはまらない方は、問6へ



ここからは問5で「7 発達障害(自閉症、アスペルガー症候群等)」と回答された方にお聞きます。

問5-1 発達障害の診断名をお答え下さい。

- 1 広汎性発達障害
- 2 自閉症
- 3 注意欠陥多動性障害
- 4 アスペルガー症候群
- 5 学習障害
- 6 その他の発達障害
- 7 わからない

ここからは問5で「10 難病(特定疾病)」と回答された方にお聞きます。

問5-2 病名(東京都発行政の難病医療費等助成制度の医療券もしくは診断書に記載されている病名)等をお答え下さい。

疾病名()

ここからは全ての方に聞きます。

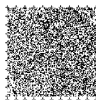
問6 あなたが持っている手帳の種類をお聞きます。手帳をお持ちの方は、等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1 身体障害者手帳	1 1級	2 2級	3 3級
	4 4級	5 5級	6 6級
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度 4 4度
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級	3 3級

4 これらの手帳は持っていない

問7 あなたの障害や心身の不調について、あなたやご家族の方などが最初に気づいた時期をお聞きます。(○はひとつ)

- 1 生まれたとき
- 2 0～5歳
- 3 6～17歳
- 4 18～29歳
- 5 30～39歳
- 6 40～49歳
- 7 50～59歳
- 8 60～64歳
- 9 65～69歳
- 10 70～74歳
- 11 75歳以上



3 施設入所について

問8 あなたが現在入所している施設のある地域をお聞きます。

(○はひとつ)

- 1 文京区内
- 2 23区内(文京区を除く)
- 3 東京都(23区内を除く)
- 4 関東(東京都を除く)
- 5 中部
- 6 東京都(23区内を除く)
- 7 近畿
- 8 四国
- 9 その他

問9 あなたが現在の施設に入所してからの年数をお聞きます。

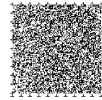
(○はひとつ)

- 1 1年未満
- 2 1年以上～3年未満
- 3 3年以上～5年未満
- 4 5年以上～10年未満
- 5 10年以上～20年未満
- 6 20年以上～30年未満
- 7 30年以上
- 8 わからない

問10 あなたが現在の施設に入所することに決めた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族から自立するため
- 2 リハビリや生活面の訓練を受けるため
- 3 生活が保障され安心感があるため
- 4 家族による介助が難しくなったため
- 5 常時介助が必要のため
- 6 医療的なケアが必要のため
- 7 住まいに支障があったため
- 8 在宅サービスが不十分のため
- 9 収入が不十分だったため
- 10 家族などに勧められたため
- 11 他施設などに勧められたため
- 12 その他
- 13 わからない



4 施設での生活について

問11 あなたが一時、出身世帯(施設に入る前に住んでいた家)に帰るときなどに困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

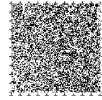
- 1 帰る手段がない、または移動が難しい
- 2 帰るときに介助者がいない
- 3 交通費などにお金がかかると感じる
- 4 出身世帯の建物や障壁に馴染めない
- 5 出身世帯では十分な介助が受けられない
- 6 帰ったとき一人で行くことが多い
- 7 家族や親族がいない
- 8 緊急の場合が不安である
- 9 その他
- 10 特に困ることはない

問12 あなたは、施設での生活に満足していますか。(○はひとつ)

- 1 非常に満足している
- 2 やや満足している
- 3 やや不満である
- 4 非常に不満である
- 5 わからない

問13 あなたが現在の暮らしの中で、困ることや不安に感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 身の回りのことが自分で十分にはできない
- 2 健康状態に不安がある
- 3 プライバシーが十分に保たれない
- 4 1日の生活のリズムが自由にならない
- 5 施設の設備に不満がある
- 6 仕事や訓練に不満がある
- 7 外出の機会が少くない
- 8 施設の職員の対応に不満がある
- 9 人間関係がうまく築けない
- 10 余暇活動をうまく過ごせない
- 11 困ったとき相談する相手がいない
- 12 自分の思いや考えをうまく伝えられない
- 13 家族とあまり会えない
- 14 将来の生活に何となく不安を感じる
- 15 その他
- 16 特に困ることはない



問14 あなたが必要とする医療的ケア※がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 施設入所前から今に至るまで医療的ケアがある
- 2 施設に入所した当時は必要なかったが、今は必要な医療的ケアがある
- 3 特にない

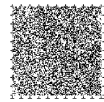


→上記1・2に○をつけた方は、問15へ
→問16へ

ここからは問14で「必要な医療的ケアがある(1～2)」と回答された方にお聞きします。

問15 あなたが必要とする医療的ケアをお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1 服薬支援 | 6 導尿 | 11 人工呼吸器の管理 |
| 2 吸引 | 7 酸素療法 | 12 その他 |
| 3 吸入・ネブライザー | 8 鼻咽喉エアウェイ | () |
| 4 経管栄養 | 9 ハルスオキシメーター | |
| 5 中心静脈栄養 | 10 気管切開部の管理 | |



ここからは全ての方にお聞きします。

問16 あなたは、休日など時間に余裕があるとき、主にどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------------|-----------|-----------------|
| 1 趣味や学習活動、習い事 | 6 買い物 | 11 地域の行事への参加や交流 |
| 2 スポーツ・運動 | 7 飲食店に行く | 12 近所の散歩 |
| 3 ボランティア活動 | 8 読書 | 13 その他 |
| 4 友人・知人と会う | 9 旅行 | () |
| 5 音楽、演劇、映画、スポーツなどの鑑賞 | 10 家でくつろぐ | 14 特に決まった予定はない |

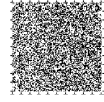
問17 あなたはどのくらいの頻度で外出していますか。(○はひとつ)

- | | | |
|----------|----------|------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 週に1～2回 | 5 あまり外出しない |
| 2 週に3～4回 | 4 月に1～3回 | |

5 今後の暮らし方について

問18 あなたは今後、どのような生活を希望しますか。(○はひとつ)

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 現在の施設で生活したい | →1に○を付けた方は問18-1へ |
| 2 施設を退所して、家族や親族と生活したい | } |
| 3 施設を退所して、独立して生活したい | |
| 4 施設を退所して、グループホームなどで生活したい | } |
| 5 別の施設で暮らしたい | |
| 6 その他() | |
| 7 わからない | |



ここからは問18で「現在の施設で生活したい」と回答された方にお聞きします。

- 問18-1 現在の施設での生活を続けたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)
- 1 入所者や施設職員との関係が良好なため
 - 2 環境や日中活動の内容等に満足している
 - 3 今の施設で技術や能力を身につけたい
 - 4 すぐに入所できるグループホームなどが無い
 - 5 在宅サービスが充実していない
 - 6 自宅の構造が障害に配慮していない
 - 7 健康面などで不安がある
 - 8 経済的に難しい
 - 9 家族の受け入れ体制が整っていない
 - 10 地域で友人関係が持てることが不安がある
 - 11 その他
 - 12 特に理由はない

ここからは問18で「施設を退所したい(2~4)」と回答された方にお聞きします。

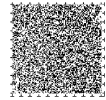
- 問18-2 地域でどのような暮らし方をしたいと思えますか。(○はひとつ)
- 1 企業などで一般就労したい
 - 2 作業所などで福祉的就労をしたい
 - 3 福祉的就労以外の通所施設に通いたい
 - 4 就労や通所はしないで暮らしたい
 - 5 その他
 - 6 わからない

問18-3 退所後はどの地域で暮らしたいと思えますか。(○はひとつ)

- 1 文京区内
- 2 現在入所している施設の近く
- 3 その他の地域
- 4 わからない

問18-4 退所後に暮らす地域にのぞむことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 医療機関が多くある
- 2 風軽に相談できる相談機関がある
- 3 屋間に通所する施設がある
- 4 住環境が良い
- 5 家族などが住んでいる
- 6 在宅サービスが充実している
- 7 現在の施設から支援を受けられる
- 8 交通の便が良い
- 9 在宅サービスが充実している
- 10 その他
- 11 特にない



ここからは全ての方にお願いします。

問19 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(○は5つまで)

- 1 高齢の人の障害に対する理解の促進
- 2 医療やリハビリテーションの充実
- 3 幼少期・学齢期からの教育・育成の充実
- 4 働くための訓練・就労に向けた支援の充実
- 5 仕事を継続するための支援の充実
- 6 身近な地域で相談できる場の充実
- 7 訪問系サービス(居宅介護・重度訪問介護・同行援護等)の充実
- 8 日中活動系サービス(生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援等)の充実
- 9 短期入所(ショートステイ)の整備
- 10 養老施設支援(手話通訳者・要約筆記者派遣)の充実
- 11 福祉機器・補装具などの充実
- 12 グループホームの整備
- 13 入所施設(障害者支援施設等)の整備
- 14 障害者向けの住まいの確保
- 15 居住支援の充実
- 16 建物・道路等のバリアフリー化
- 17 当事者同士で支援しあえる仕組みづくり
- 18 趣味やスポーツ活動の充実
- 19 財産管理や見守り等の支援の充実
- 20 経済的支援の充実
- 21 災害時支援の充実
- 22 地域交流の場の充実
- 23 福祉・医療・介護との連携の充実
- 24 福祉と教育の連携の充実
- 25 その他
- 26 特にない



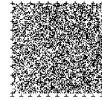
6 相談や福祉の情報について

問20 あなたが困ったときに相談する相手は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族や親族
- 2 施設の職員
- 3 施設の相談窓口(第三者委員会等)
- 4 友人・知人
- 5 ピアサポーター
- 6 卒業した学校の教職員
- 7 障害等の当事者会や家族の会
- 8 相談支援事業所等の相談支援専門員
- 9 医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)
- 10 官公庁の窓口(区の障害福祉課等)
- 11 保健サービスセンター
- 12 障害者基幹相談支援センター
- 13 地域生活支援拠点
- 14 社会福祉協議会
- 15 インターネット等の情報
- 16 SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)
- 17 どこに相談すればいいかわからない
- 18 その他
- 19 相談する相手はいない

問21 あなたは、福祉に関する情報を、主にどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族や親族
- 2 相談支援専門員
- 3 友人・知人
- 4 官公庁の広報紙
- 5 官公庁のホームページ
- 6 官公庁の窓口(区の障害福祉課等)
- 7 保健サービスセンター
- 8 テレビ・ラジオ
- 9 インターネット
- 10 SNS
- 11 新聞・書籍
- 12 障害等の当事者会や家族の会
- 13 医療機関
- 14 施設の職員
- 15 その他
- 16 特にない



7 権利擁護・差別解消について

問22 成年後見制度という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)

- 1 「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
- 2 「成年後見制度」という言葉だけは聞いたことがある
- 3 「成年後見制度」について内容も言葉も知らない

ここからは問21で「成年後見制度」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがあると回答された方にお聞きします。

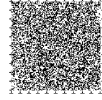
問22-1 成年後見制度について知っていることをお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

- 1 「成年後見制度」は、判断能力が不十分な方の権利や財産を守る制度である
- 2 「法定後見制度」は、判断能力が不十分になってから利用する成年後見制度である
- 3 「任意後見制度」は、将来の判断能力の低下に備え、元氣な時にあらかじめ後見人となるべき人を決めておく成年後見制度である
- 4 その他

ここからは全ての方にお願いします。

問23 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)という言葉について聞いたことがありますか。(○はひとつ)

- 1 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある
- 2 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉だけは聞いたことがある
- 3 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」について内容も言葉も知らない



ここからは問23で「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」という言葉を聞いたことがあり、知っていることがある」と回答された方にお聞きします。

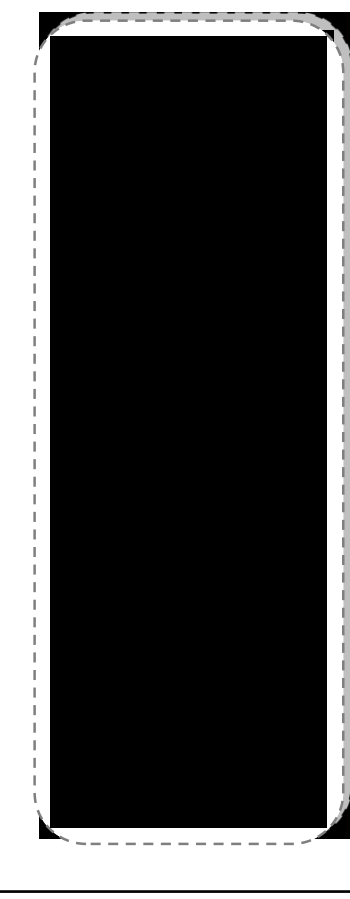
問23-1 福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)について知っていることをお答え下さい。(あてはまるものすべてに○)

- 1 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、判断能力が不十分な方の契約に基づく福祉サービスの利用援助等のごことである
- 2 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」の内容として、「福祉サービスの利用援助」、「日常的な金銭管理サービス」、「重要書類等類かりのサービス」がある
- 3 「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」は、社会福祉協議会と契約を結ぶことで受けられる支援である
- 4 その他 ()

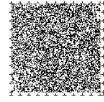
ここからは全ての方にお聞きします。

問24 あなたが、地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(○はひとつ)

- 1 家
- 2 職場
- 3 通所施設・入所施設
- 4 お店などの民間事業者
- 5 住んでいる地域や住民
- 6 公共施設
- 7 区役所などの行政機関
- 8 医療機関
- 9 交通機関
- 10 保育園、幼稚園、学校
- 11 その他 ()
- 12 特に感じたことはない

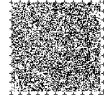


問25 あなたが、地域(行政機関、民間事業者、住民等)に求める合理的配慮がありましたが、ご自由にお書きください。



問26 被害者の差別解消を進めていくために必要なことはなだと思われ
か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 被害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
- 2 被害者差別解消に向けた取組に関する情報の提供・発信
- 3 被害者差別解消法[※]に係るセミナー・研修等の開催
- 4 被害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
- 5 被害者作品展や障害者交流のイベントの開催
- 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと
- 7 地域や学校等とともに学び、ともに暮らすこと
- 8 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
- 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催
- 10 障害者の一般就労の促進
- 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
- 12 その他()
- 13 特にない



問27 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なこと
はなだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
- 2 合理的配慮事例の周知・啓発
- 3 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対応
- 4 バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
- 5 障害当事者等を講師とした研修・講演
- 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
- 7 その他()
- 8 特にない

8 感染症について

問28 新型コロナウイルス感染症が発生し感染拡大したときに困ったことや不安に思ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 外出の機会が減った
- 2 身体的距離を確保することが難しい
- 3 感染症への不安を感じた
- 4 手洗いやうがい等の感染症対策をとることが難しい
- 5 通所施設等での感染症発生による閉鎖のため、日中の活動場所がないことがあった
- 6 感染症にかかったり、濃厚接触者になった場合の自宅待機が難しい
- 7 マスクの着用が難しい
- 8 マスクの着用により、コミュニケーションがとりにくい
- 9 オンライン化への対応が難しい
- 10 ワクチン接種の予約等の手続きが難しい
- 11 その他()
- 12 特にない



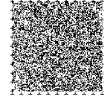
9 自由意見

問26 区の障害者福祉施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※ お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできませんが、計画策定の際の参考させていただきます。

質問は以上で終わりです。

この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。



1 事業運営について

問1 貴事業所の経営主体をお聞きます。(○はひとつ)

- 1 社会福祉法人
- 2 医療法人
- 3 社団法人・財団法人
- 4 株式会社・有限会社
- 5 特定非営利活動法人(NPO法人)
- 6 協同組合
- 7 合同会社・合資会社
- 8 その他()

問2 貴事業所の開業年をお聞きます。

昭和・平成・令和 年(西暦) 年

問3 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きます。(あてはまるものすべてに○)

※ 介護保険サービスは含めなくてください。

- 1 居宅介護
- 2 重度訪問介護
- 3 行動援護
- 4 重度障害者等包括支援
- 5 同行援護
- 6 短期入所
- 7 生活介護
- 8 療養介護
- 9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)
- 10 自立生活援助
- 11 就労移行支援
- 12 就労継続支援A型
- 13 就労継続支援B型
- 14 就労定着支援
- 15 共同生活援助(グループホーム)
- 16 施設入所支援
- 17 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)
- 18 計画相談支援(サビ入等利用計画・モニタリング)
- 19 地域活動支援センター
- 20 移動支援
- 21 日中一時支援
- 22 児童発達支援
- 23 医療型児童発達支援
- 24 居宅訪問型児童発達支援
- 25 放課後等デイサービス
- 26 保育所等訪問支援
- 27 障害児相談支援
- 28 その他()

問4 貴事業所が事業を展開しているエリア(サービス利用対象者がお住まいの範囲)をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 文京区内の一部(地域)
- 2 文京区内全域
- 3 23区内(地域)
- 4 東京都内(地域)
- 5 首都圏(地域)
- 6 その他()

問5 貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きます。障害別にお答えください。(令和4年10月1日時点の人数) **重複障害の方については主たる障害についてご回答ください。**

障害の種類	人数
身体障害	人
知的障害	人
精神障害(発達障害を含まない)	人
発達障害	人
雑病	人

問6 令和3年度の事業の収支状況は、令和2年度と比べてどうでしたか。(○はひとつ)

- 【収入】
- 1 増加した()%
 - 2 減少した()%
 - 3 変わらない
- 【支出】
- 1 増加した()%
 - 2 減少した()%
 - 3 変わらない

問6-1 問6の収入状況を受けてご回答ください。

増収または減収の理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【増収の理由】

- 1 サービス報酬の改定
- 2 利用者が増加した
- 3 ヘルパー等の人件費を下げた
- 4 利用者の負担が軽減された
- 5 事務経費等必要経費を削減した
- 6 補助金が増額された
- 7 その他 ()

【減収の理由】

- 1 サービス報酬の改定
- 2 利用者が減少した
- 3 ヘルパー等の人件費を上げた
- 4 職員を増員した
- 5 事務経費等必要経費が増加した
- 6 補助金が減額された
- 7 その他 ()

問7 貴事業所を運営していく上で何を重視していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 職員の確保
- 2 職員の待遇改善
- 3 職員の資質向上
- 4 事務作業量の軽減
- 5 施設・設備の改善
- 6 制度改正などへの対応
- 7 収益の確保
- 8 運転資金の調達
- 9 他の事業者との連携
- 10 行政との連携
- 11 地域住民等の理解
- 12 医療的ケアへの対応
- 13 その他 ()

2 職員について

問8 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。

令和4年10月1日現在の職員数をお聞きします。

【職員数】

人数	
総数	人
内訳	〔常勤職員〕
	〔非常勤職員〕
	〔その他〕

問9 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。

令和4年10月1日現在の職種別職員数をお聞きします。

【職種別職員数】

- 1 生活支援員 () 人
- 2 介護職員 () 人
- 3 看護師 () 人
- 4 栄養士 () 人
- 5 理学療法士 () 人
- 6 作業療法士 () 人
- 7 職業指導員 () 人
- 8 児童指導員 () 人
- 9 保育士 () 人
- 10 相談支援専門員 () 人
- 11 事務職員 () 人
- 12 その他 () 人

問10 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。

令和4年10月1日現在の経験年数別職員数をお聞きします。

【職種別職員数】

- 1 6か月未満 () 人
- 2 6か月以上1年未満 () 人
- 3 1年以上3年未満 () 人
- 4 3年以上5年未満 () 人
- 5 5年以上10年未満 () 人
- 6 10年以上 () 人

問11 貴運営法人及び貴事業所にお聞きします。

業務量に対して、職員の充足状況(人手)はいかがですか。
(○はひとつ)

- 1 大変不足している
- 2 不足している
- 3 やや不足している
- 4 適当である
- 5 過剰である

ここからは問11で「不足している(1~3)」と回答された方にお聞きします。

問11-1 不足している職員の職種は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 生活支援員
- 2 介護職員
- 3 看護師
- 4 栄養士
- 5 理学療法士
- 6 作業療法士
- 7 職業指導員
- 8 児童指導員
- 9 保育士
- 10 相談支援専門員
- 11 事務職員
- 12 その他 ()

ここからは全ての方にお聞きします。

問 12 職員について、令和3年度中の退職者数をお聞きします。

【退職者数】

人数		
総数	人	
内訳	〔常勤職員〕	人
	〔非常勤職員〕	人
	〔その他〕	人

※1 運営法人の採用者であり、当該事業所に配属又は異動により転出した者を除く。
 ※2 1年未満の有期雇用契約により、採用又は退職した者を除く。

問 13 貴事業所では、人材確保・人材育成のための取り組みをしておりますか。
 (それぞれにあてはまるものすべてに○)

【人材確保の取り組み】

- 勤務条件(夜勤回数、勤務時間など)の改善
- 報酬の改善
- 福利厚生(育休、介護休暇)の改善
- 健康診断、健康管理の充実
- 募集・採用方法の充実
- 高校・専門学校・大学等を通じた募集
- ハローワークを通じた募集
- 人材派遣会社を通じた募集
- インターネット人材募集サービスを通じた募集
- 高校・専門学校・大学等からの実習受け入れ
- 知人経由・人づてで探した
- その他()
- 特に取り組んでいない

【人材育成の取り組み】

- 資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援
- 外部研修参加のための休暇取得や金銭的な支援
- 事業所内での研修の実施
- OJTの実施
- 自立支援協議会の専門部会等への参加
- 教育・研修計画を立てる
- 能力の向上が認められた者に対する報奨制度
- 法人全体で連携して育成に取り組んでいる
- 他の事業者と協力して育成に取り組んでいる
- その他()
- 特に取り組んでいない

問 14 貴事業所では、人材の確保や質の向上に向けた連携先はありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

- 介護・医療・福祉分野の事業者団体
- 東京都福祉人材センター
- ハローワーク
- 社会福祉協議会
- 学校・教育機関あるいはその団体
- 商工団体(商工会議所等)
- 東京労働局
- 文京区役所
- その他()

3 サービス提供について

問 15 貴事業所でサービスを提供する上で、課題となっていることは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

- 量的に、利用者の希望通り提供できていない
- 質的に、利用者の希望通り提供できていない
- 利用者や家族とのコミュニケーションが難しい
- 困難事例への対応が難しい
- 休日や夜間の対応が難しい
- 変更やキャンセルが多い
- 苦情やトラブルが多い
- その他()

問 16 貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族の方からどのような相談や苦情を受けられますか。(あてはまるものすべてに○)

- 支援内容や個別支援計画に関すること
- 職員やスタッフに関すること
- 施設の整備に関すること
- 利用者や施設の利用契約に関すること
- 生活時間(起床・就寝、食事、入浴等の時間)に関すること
- 食事(メニューや食材等)に関すること
- 施設での作業内容に関すること
- 地域で自立生活に向けた訓練等に関すること
- 体力づくりや健康づくりなどに関すること
- 趣味・レクリエーション等に関すること
- ハラスメントに関すること
- その他()
- 特に苦情や要望はない

問 17 貴事業所で何か問題が生じたときの相談先はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 文京区
- 2 東京都
- 3 国
- 4 相談支援事業所
- 5 障害者基幹相談支援センター
- 6 高齢者あんしん相談センター
- 7 社会福祉協議会
- 8 医療機関
- 9 保育園・幼稚園・学校等
- 10 法人本部
- 11 他のサービス事業所
- 12 その他 ()
- 13 どこにも相談したことがない

ここからは問 17 でどこかに相談した(1～12)と回答された方にお聞きします。

問 17-1 相談した内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 施設の運営・整備の支援に関すること
- 2 人材の確保・質の向上に関すること
- 3 サービスの拡充・場所の確保に関すること
- 4 サービス提供上の技術的な支援に関すること
- 5 家庭環境に関すること
- 6 8050 問題に関すること
- 7 医療的ケアに関すること
- 8 ヤングケアラーに関すること
- 9 緊急時対応に関すること
- 10 サービス提供上の技術的な支援に関すること
- 11 その他 ()
- 12 特になし

ここからは全ての方にお聞きします。

問 18 貴事業所が支援に関して困難さを感じることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 特定の時間帯に集中する利用への対応
- 2 障害の多様化への対応
- 3 制度の複雑化への対応
- 4 医療的ケアへの対応
- 5 利用者のニーズへの対応
- 6 区や他事業所等の関係機関との連携対応
- 7 近隣住民の理解
- 8 地域の社会資源の不足
- 9 相談窓口や支援機関が分からないケースへの対応
(具体的な内容：)
- 10 その他 ()
- 11 特になし

問 19 貴事業所がサービス向上のために取り組んでいることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 職員が自発的に問題事例等に関するケース検討会を実施している
- 2 管理者がサービス提供状況を確認し指導している
- 3 個人情報に関するマニュアルを作成している
- 4 積極的に外部評価を受けている (ISO、第三者評価等)
- 5 看護職の配置や介護職員の「喀痰吸引等研修」受講により医療的ケアに対応している
- 6 サービス提供ガイドラインを作成している
- 7 災害時対応マニュアルを作成している
- 8 感染症予防マニュアルを作成している
- 9 事故防止のためにビヤリハット事例の共有を行っている
- 10 利用者や家族に対して満足度調査を行っている
- 11 苦情解決の対応マニュアルを作成している
- 12 権利擁護や虐待防止に係る委員会開催やマニュアル作成を行っている
- 13 職員のメンタルヘルスや介護技術等の研修受講している
- 14 その他 ()
- 15 特になし

問 20 現在、区に不足している障害福祉サービス等はなんだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ※ 介護保険サービスは含めないでください。
- 1 居宅介護
 - 2 重度訪問介護
 - 3 行動援護
 - 4 重度障害者等包括支援
 - 5 同行援護
 - 6 短期入所
 - 7 生活介護
 - 8 療養介護
 - 9 自立訓練 (機能訓練・生活訓練)
 - 10 自立生活援助
 - 11 就労移行支援
 - 12 就労継続支援 A 型
 - 13 就労継続支援 B 型
 - 14 就労定着支援
 - 15 共同生活援助 (グループホーム)
 - 16 施設入所支援
 - 17 地域相談支援 (地域移行支援・地域定着支援)
 - 18 計画相談支援 (サービス等利用計画・Eメール)
 - 19 地域活動支援センター
 - 20 移動支援
 - 21 日中一時支援
 - 22 児童発達支援
 - 23 医療型児童発達支援
 - 24 居宅訪問型児童発達支援
 - 25 放課後等デイサービス
 - 26 保育所等訪問支援
 - 27 障害児相談支援
 - 28 その他 ()
 - 29 特になし

問 21 貴事業所で今後参入を考えている障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等をお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

※ 介護保険サービスは含まないでください。

- 1 居宅介護
- 2 重度訪問介護
- 3 行動援護
- 4 重度障害者等包括支援
- 5 同行援護
- 6 短期入所
- 7 生活介護
- 8 療養介護
- 9 自立訓練(機能訓練・生活訓練)
- 10 自立生活援助
- 11 就労移行支援
- 12 就労継続支援A型
- 13 就労継続支援B型
- 14 就労定着支援
- 15 共同生活援助(グループホーム)
- 16 施設入所支援
- 17 地域相談支援(地域移行支援・地域定着支援)
- 18 計画相談支援(ホビ等利用計画・モビカッ)
- 19 地域活動支援センター
- 20 移動支援
- 21 日中一時支援
- 22 児童発達支援
- 23 医療型児童発達支援
- 24 居宅訪問型児童発達支援
- 25 放課後等デイサービス
- 26 保育所等訪問支援
- 27 障害児相談支援
- 28 その他()
- 29 参入は考えていない

問 22 貴事業所が事業の新規開設・拡大する上で重視することはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 利用者数の今後の見込み
- 2 地域における競合事業者の存在
- 3 職責確保の可能性
- 4 適当な土地を確保することができること
- 5 適当な建物・物件を確保することができること
- 6 当該サービスの自立支援給付費の見込み
- 7 その他()
- 8 新規開設・拡大は考えたことがない

問 23 貴事業所が障害福祉サービスへの新規参入を進めていくために必要と思うことはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報提供
- 2 サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報提供
- 3 サービス展開のための土地・建物に関する情報提供
- 4 困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言
- 5 研修・講座等に関する情報提供
- 6 緊急時のシヨートステイや入院などの受入先の情報提供
- 7 その他()

問 24 貴事業所が地域生活支援拠点の機能の充実に向けて必要と思うことはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 地域の障害者及び障害福祉サービス事業所等への周知
- 2 障害者等の相談に対応する場の充実
- 3 コーディネーター等の配置による地域の社会資源との連携の充実
- 4 緊急受入れの場としての短期入所等の充実
- 5 体験の場としてのグループホーム体験入所等の充実
- 6 行動障害の方や医療的ケアが必要な方等に対応した専門的人材の確保
- 7 障害者の地域生活移行時における住居探しのサポート体制の充実
- 8 その他()



問 25 今後の障害福祉施策の充実に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 在宅での福祉サービスの充実
- 2 障害者が入所して生活する場の充実
- 3 障害者が地域で共同生活できる場の充実
- 4 日中一時的な支援を受けられる場の充実
- 5 徳泊して一時的な支援を受けられる場の充実
- 6 住宅改造等(バリアフリー化)の補助
- 7 住まいに関する相談や入居支援の充実
- 8 シェアハウスなど多様な居住の場の提供
- 9 福祉サービスの情報提供の充実
- 10 財産管理などの権利擁護の充実
- 11 総合的な相談支援の充実
- 12 区民への障害への理解促進
- 13 周囲の人の見守り支援の充実
- 14 移動・外出支援の充実
- 15 駅や道路などのバリアフリー化
- 16 自立生活のための訓練・支援の充実
- 17 福祉的就労における工賃向上
- 18 就労に向けた訓練・支援の充実
- 19 多様に働ける場所の確保
- 20 仕事を継続するための相談や支援の充実
- 21 医療やリハビリテーションの充実
- 22 福祉に携わる人材の育成・確保
- 23 多分野・多機関・多職種による連携の充実
- 24 障害者の仲間づくりへの支援
- 25 防犯・災害時の支援
- 26 事務手続の簡素化
- 27 利用者負担の軽減
- 28 その他()
- 29 特にない

4 虐待防止について

問 26 貴事業所では虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 虐待防止責任者の設置
- 2 虐待防止委員会の設置
- 3 虐待防止に係る外部研修への参加
- 4 事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催
- 5 虐待防止マニュアルの作成
- 6 虐待防止連絡体制の整備
- 7 職員のマニュアルヘルスのための研修を実施
- 8 職員にストレスチェックを実施
- 9 その他 ()
- 10 特に取り組んでいない

5 災害時の対策について

問 27 貴事業所では災害時の対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 災害発生時対応マニュアルの作成
- 2 定期的に避難訓練を実施
- 3 備蓄品の整備
- 4 建物の耐震化
- 5 ロッカー、棚等の転倒防止措置
- 6 緊急連絡網の作成
- 7 避難経路の悪保
- 8 避難行動計画の策定
- 9 事業継続計画 (BCP) の策定
- 10 その他 ()
- 11 特に取り組んでいない

6 感染症対策について

問 28 貴事業所では感染症対策についてどのような取り組みをしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 感染症予防マニュアルの作成
- 2 職員に対する感染症対策に関する研修等の開催
- 3 感染を予防するための備品 (使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等) を常備
- 4 手洗い・うがいの励行
- 5 職員・関係機関等への連絡体制の整備
- 6 換気や消毒の実施
- 7 必要に応じた検査の実施 (PCR 検査等)
- 8 その他 ()
- 9 特に取り組んでいない

7 権利擁護・差別解消について

問 29 貴事業所の利用者のうち、成年後見制度を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きます。

人 数
人

問 30 成年後見制度が利用に至らない理由はなんだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 本人の制度への理解不足、必要性を感じていない、拒否している
- 2 家族の制度への理解不足、必要性を感じていない
- 3 金銭的な負担
- 4 申立て等の手続きの複雑さ
- 5 その他 ()

問 31 貴事業所の利用者のうち、福祉サービス利用援助事業 (地域福祉権利擁護事業) を利用した方が良いと思われる方の人数をお聞きます。

人 数
人

問 32 福祉サービス利用援助事業 (地域福祉権利擁護事業) が利用に至らない理由はなんだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 本人の事業への理解不足、必要性を感じていない、拒否している
- 2 家族の事業への理解不足、必要性を感じていない
- 3 金銭的な負担
- 4 利用手続きの複雑さ
- 5 その他 ()

問33 地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家
- 2 職場
- 3 通所・入所施設
- 4 お店などの民間事業者
- 5 住んでいる地域や住民
- 6 公共施設
- 7 区役所などの行政機関
- 8 医療機関
- 9 交通機関
- 10 保育園、幼稚園、学校
- 11 その他()
- 12 特に感じたことはない

問34 障害者の差別解消を進めていくために必要なことはなんでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 障害者差別に関する相談・紛争解決の体制整備
- 2 障害者差別解消に向けた取組に関わる情報の提供・発信
- 3 障害者差別解消法に係るセミナー・研修等の開催
- 4 障害者差別解消法の趣旨や障害理解に関するリーフレット等の発行
- 5 障害者作品展や障害者と交流するイベントの開催
- 6 地域や学校等で交流の機会を増やすこと
- 7 地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと
- 8 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報
- 9 障害についての講演会や疑似体験会の開催
- 10 障害者の一般就労の促進
- 11 ヘルプマーク・ヘルプカードの周知・啓発
- 12 その他()
- 13 特にない

問35 社会的障壁の除去に向けて、合理的配慮を進めていくために必要なことはなんでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 合理的配慮に関する講演・セミナーの開催
- 2 合理的配慮事例の周知・啓発
- 3 筆談、読み上げ、手話など障害の特性に応じたコミュニケーション対称
- 4 バリアフリー化や情報保障のための機器の導入
- 5 障害当事者等を講師とした研修・講演
- 6 民間事業者等に対して合理的配慮の提供を支援する助成
- 7 その他()
- 8 特にない

8 自由意見

問36 区の障害者施策に関して、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※ お書きいただいたご意見・ご要望に、個別にお答えすることはできませんが、計画策定の際の参考にさせていただきます。

質問は以上で終わりです。
この度は調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

文京区 長期入院患者様の状況調査票

令和4年10月1日現在、貴病院に精神科疾患で1年以上入院している患者で、文京区に住民票のある方または入院前住所が文京区の患者様について、回答をお願いします。
 ※直近の実績（令和4年6月30日等）の方が把握しやすい場合は、任意の直近日日現在でも構いません。

医療機関名		記載者		14										
住所		病床数		13										
連絡先番号		メールアドレス		12										
1		2		3										
3		4		5										
6		7		8										
9		10		11										
12		13		14										
No	性別	年代	病名	生活保護の状況	現在の入院形態	在院期間	入院の状況	病院から見た退院の見通し	退院を想定した場合の帰宅先	退院に向けた本人の意思	退院に対する家族の意向	本人の状況SOSが出せる	本人の状況服薬、通院が出来る	備考 (自由記載欄)
	1 男性 2 女性 3 30代 4 40代 5 50代 6 60～64歳 7 65～69歳 8 70歳以上	1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60～64歳 7 65～69歳 8 70歳以上	病名 記入式	1 生活保護ではない 2 生活保護 3 生活保護 4 生活保護 5 生活保護 6 生活保護 7 生活保護 8 生活保護	1 医療保護入院 2 任意入院 3 その他	令和4年10月1日時点の入院期間	1 入院治療を要する 2 受け入れ条件が整えば退院可能 3 その他	1 有 2 無	1 有 2 無	1 希望有り 2 希望無し 3 不明	1 協力的 2 非協力的 3 家族不在 4 不明	1 SOSを出せる 2 信頼できる支援者には出せる 3 出さないが、職員からの面談、助言は拒否しない 4 SOSを出せない	1 自分で出来る 2 時々忘れか、見守り、助言があれば出来る 3 1人では出来ないが、見守り、同伴があれば出来る 4 自分で出来ない	
例	1	4	統合失調症	2		3年4月	2	1	1	1	3	1	2	
1						年								
2						年								
3						年								
4						年								
7						年								
6						年								
7						年								
8						年								
9						年								
10						年								

Q1 貴院には、地域移行を主に行っている職種の人、または地域移行に取り組み部署はありますか。

職種名	部署名
-----	-----

Q2 貴院に入院している文京区の方に、当区で実施している取り組みを説明しに伺ってもよろしいですか。どちらかに○をお付けください。

可能	不可(理由)
----	--------

Q3 訪問する場合は窓口はどちらになりますか。

部署名	担当者
-----	-----

ご協力いただき、ありがとうございます。
 令和4年10月31日(月)までに、同封の返信用封筒にこの調査票を入れて、ポストに投函してください。
 切手を貼る必要はありません。

文京区障害者(児)実態・意向調査報告書

令和5年3月

印刷物番号：EE0322057

有償頒布価格 960 円

編集・発行 文京区 福祉部障害福祉課
〒112-8555 東京都文京区春日1-16-21
電話 03-3812-7111 (代表)

調 査 株式会社アイアールエス